



神奈川県
政策局政策部
情報公開広聴課

令和7年度 県民ニーズ調査

基本調査……………令和7年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査……………令和8年2月公表

テーマ「食の安全・安心」「食・食育」

「かながわの農林水産業」「かながわの水源地域」

「地域社会との関わり」「地域活動」「治安対策」

「地震対策の取組み」「自転車ヘルメットの着用」

「スポーツ」「ともに生きる社会かながわ」

「受動喫煙」「肝炎対策」

第2回課題調査……………令和8年3月公表

テーマ「かながわの文化芸術」「伝統的工芸品」

「2027年国際園芸博覧会」「脱炭素・環境」

「生物多様性」「『未病改善』の取組み」

「かながわ救急相談センター（#7119）」

「循環器病対策」「依存症に対する意識」「かながわの人権」

「配偶者等からの暴力」「犯罪被害者等への支援」

「生活に不安や課題がある人への支援」

「インクルーシブ教育」「かながわの広報」

県民ニーズ調査の概要

1 調査の目的

県民の意識・価値観などの変化や多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を県の施策に反映するために意識調査を行う。併せて、調査を通じ、県民の県政に対する理解と関心を深める。

2 調査内容

県民の生活や意識の変化等を把握するための「基本調査」を継続して実施した。また、県政の直面する重要課題や県民生活に関する中・長期的な課題をテーマに「課題調査」を実施した。

(1) 基本調査

- ア くらし全般について
- イ 生活意識
- ウ くらしの満足度
- エ 県行政への要望

(2) 第1回課題調査

- | | |
|--------------|-----------------|
| ア 食の安全・安心 | ク 地震対策の取組み |
| イ 食・食育 | ケ 自転車ヘルメットの着用 |
| ウ かながわの農林水産業 | コ スポーツ |
| エ かながわの水源地域 | サ とともに生きる社会かながわ |
| オ 地域社会との関わり | シ 受動喫煙 |
| カ 地域活動 | ス 肝炎対策 |
| キ 治安対策 | |

(3) 第2回課題調査

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| ア かながわの文化芸術 | ケ 依存症に対する意識 |
| イ 伝統的工芸品 | コ かながわの人権 |
| ウ 2027年国際園芸博覧会 | サ 配偶者等からの暴力 |
| エ 脱炭素・環境 | シ 犯罪被害者等への支援 |
| オ 生物多様性 | ス 生活に不安や課題がある人への支援 |
| カ 「未病改善」の取組み | セ インクルーシブ教育 |
| キ かながわ救急相談センター(#7119) | ソ かながわの広報 |
| ク 循環器病対策 | |

3 調査設計

- | | |
|------------|--|
| (1) 調査地域 | 神奈川県全域 |
| (2) 調査対象 | 県内在住の満 18 歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 「基本調査」4,000 標本、「課題調査」各 4,000 標本 |
| (4) 標本抽出方法 | 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 |
| (5) 調査回数 | 3 回（基本調査 年間 1 回、課題調査 年間 2 回） |
| (6) 調査時期 | 基本調査 7～8 月
第 1 回課題調査 9 月
第 2 回課題調査 10～11 月 |

4 調査方法

- (1) 郵送による調査票の配布
- (2) 郵送回答とインターネット回答の併用

目 次

基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	1
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	9
第Ⅲ部 調査結果の詳細	19
第1章 暮らし全般について	
1 生活総合満足度	
2 暮らし向きの変化	
3 今後の暮らし向きの見通し	
4 地域の住みよさ	
5 定住意向	
第2章 生活意識	
第3章 暮らしの満足度	
1 重要度	
2 満足度	
第4章 県行政への要望	
第Ⅳ部 県政への自由意見	87
第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	91
暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）	
暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）	
県行政への要望－過去との比較（図表C）	
第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	115

目次

第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	129
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	137
第Ⅲ部 調査結果の詳細	149
第1章 食の安全・安心	151
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第2章 食・食育	157
1 「食育」への関心	
2 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか	
3 朝食を同居の方と食べる頻度	
4 夕食を同居の方と食べる頻度	
5 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
6 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
第3章 かながわの農林水産業	169
1 県の農業に期待する役割	
2 「地産地消」の取組みの重要度	
3 「かながわブランド」の認知度	
4 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け	
第4章 かながわの水源地域	177
1 県内のダム湖（ダム）の認知度	
2 水源地域で参加したい活動	
3 「やまなみ五湖」に関する情報収集手段	
第5章 地域社会との関わり	183

1	地域社会との関わりを大切にする意識	
第6章	地域活動	185
1	地域活動情報の入手手段	
2	地域活動への参加意欲	
3	地域活動に参加したいと思わない理由	
4	参加してみたい地域活動	
第7章	治安対策	193
1	不安に感じる犯罪	
2	防犯や交通安全の情報について得やすい方法	
3	犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの	
第8章	地震対策の取組み	199
1	大きな地震に備えた対策	
第9章	自転車ヘルメットの着用	201
1	自転車ヘルメットの着用に関する意識	
2	ヘルメットを着用するよう常に気をつけていない理由	
第10章	スポーツ	205
1	体力への自信の有無	
2	1年間のスポーツ実施日数	
3	習慣として続けられる運動の時間	
4	スポーツ推進に係る取組みの認知度	
第11章	ともに生きる社会かながわ	213
1	共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度	
2	「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度	
3	障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方	
4	障がいのある人は日ごろの生活の中で困りごとや不自由さを感じていると思うか	
5	障がい者への差別・偏見の有無	
6	「ヘルプマーク」の認知度	
7	希望する手話の学習方法	
第12章	受動喫煙	227
1	受動喫煙による健康への影響	
2	たばこの健康被害や受動喫煙防止に関して教わる時期	
3	受動喫煙を防ぐために、県に期待すること	
第13章	肝炎対策	233
1	ウイルス性肝炎の認知度	
2	「肝炎ウイルス検査」の受検状況	
3	検査結果の把握状況	

目次

第2回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	257
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	265
第Ⅲ部 調査結果の詳細	279
第1章 かながわの文化芸術	281
1 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数	
2 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル	
3 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル	
第2章 伝統的工芸品	287
1 県の伝統的工芸品の認知度	
2 伝統的工芸品のイメージ	
3 伝統的工芸品への購買意欲	
4 伝統的工芸品を購入する目的	
第3章 2027年国際園芸博覧会	295
1 GREEN×EXPO 2027の認知度	
2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ	
3 GREEN×EXPO 2027に期待すること	
第4章 脱炭素・環境	301
1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み	
2 脱炭素を意識した取組み	
3 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向	
4 「気候変動への適応」への関心	
第5章 生物多様性	309
1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度	
2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること	

3	周辺地域の自然環境の変化	
第6章	「未病改善」の取組み	315
1	「未病（ME－BYO）」の認知度	
2	過去1年間の「未病改善」の取組状況	
3	「未病改善」の取組みに必要なだと思うもの	
4	「フレイル」の認知度	
第7章	かながわ救急相談センター（＃7119）	323
1	かながわ救急相談センター（＃7119）の認知度	
第8章	循環器病対策	325
1	脳卒中の主な初期症状の認知度	
2	脳卒中への適切な対応の認知度	
3	心臓病の再発防止対策の認知度	
第9章	依存症に対する意識	331
1	依存症について、あてはまると思うこと	
2	依存症に関する相談場所として知っているもの	
3	相談できる場所を知ったきっかけ	
第10章	かながわの人権	337
1	基本的人権が尊重されている社会か	
2	普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題	
3	人権課題を解消するために力を入れるべき取組み	
第11章	配偶者等からの暴力	343
1	配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと	
第12章	犯罪被害者等への支援	345
1	犯罪被害者等の相談窓口として知っているもの	
2	身近に現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか	
3	犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み	
第13章	生活に不安や課題がある人への支援	351
1	誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度	
2	ひとり親家庭への支援状況	
3	日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況	
第14章	インクルーシブ教育	357
1	県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度	
2	現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか	
3	すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向	
第15章	かながわの広報	363
1	県の広報の達成度	
2	県の広報媒体の認知度	
3	県政情報の入手先	

基本調査

第 I 部 調査の概要

1 調査の目的

生活の各分野における県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 暮らし全般について（生活総合満足度、暮らし向きの変化、今後の暮らし向きの見通し、地域の住みよさ、定住意向）
- (2) 生活意識
- (3) 暮らしの満足度（身近な生活に関する 38 項目についての重要度及び満足度）
- (4) 県行政への要望

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 4,000 標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和 7 年 7 月 18 日（金）～ 8 月 12 日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社 CCNグループ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標 本 数	4,000 標本
有効回収数	1,627 標本 〔 郵送回答 : 963 件 〕 〔 インターネット回答 : 664 件 〕
有効回収率	40.7%

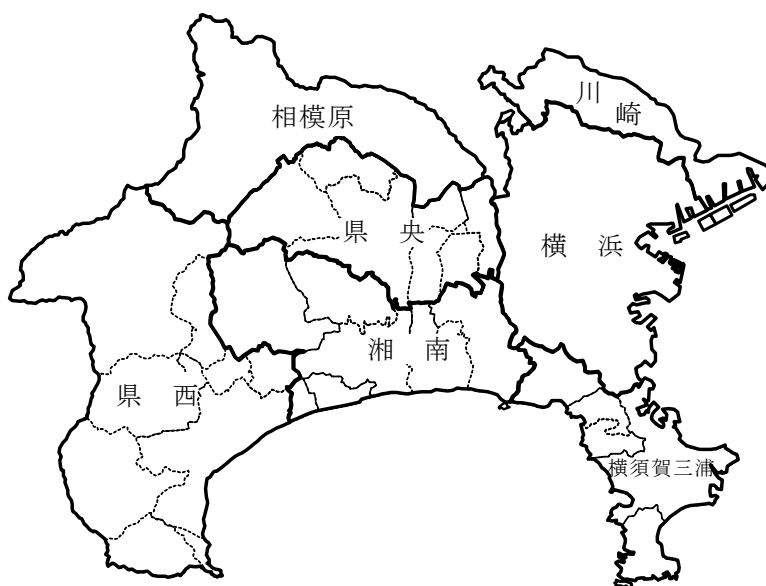
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,620	617	38.1%
川崎	川崎市	660	237	35.9%
相模原	相模原市	300	107	35.7%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	300	144	48.0%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	380	150	39.5%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	580	235	40.5%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	160	73	45.6%
無 回 答			64	
全 体		4,000	1,627	40.7%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和6年1月1日現在の推計値）により、4,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,156,795人 81地点 1,620標本	-	-	3,156,795人 81地点 1,620標本
川 崎	1,283,024人 33地点 660標本	-	-	1,283,024人 33地点 660標本
相模原	607,446人 15地点 300標本	-	-	607,446人 15地点 300標本
横須賀三浦	-	557,093人 14地点 280標本	25,917人 1地点 20標本	583,010人 15地点 300標本
県 央	-	689,893人 18地点 360標本	36,552人 1地点 20標本	726,445人 19地点 380標本
湘 南	-	1,017,415人 26地点 520標本	91,084人 3地点 60標本	1,108,499人 29地点 580標本
県 西	-	193,400人 5地点 100標本	90,880人 3地点 60標本	284,280人 8地点 160標本
人口計	5,047,265人	2,457,801人	244,433人	7,749,499人
地点数計	129地点	63地点	8地点	200地点
標本数計	2,580標本	1,260標本	160標本	4,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和6年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している。）また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,627	± 2.10	± 2.80	± 3.21	± 3.44	± 3.51
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,627 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.44 以内（真の値は、56.56%～63.44%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 627) (%)

横浜	37.9
川崎	14.6
相模原	6.6
横須賀三浦	8.9
県央	9.2
湘南	14.4
県西	4.5

(無回答 3.9)

(2) 性別 (n=1, 627) (%)

男性	44.7
女性	49.7

(無回答 5.6)

(3) 年齢 (n=1, 627) (%)

18～19歳	0.2
20～29歳	4.9
30～39歳	11.1
40～49歳	18.4
50～59歳	22.9
60～69歳	17.9
70～74歳	7.5
75歳以上	12.8

(無回答 4.2)

(4) 65歳以上の同居者の有無

(n=1, 627) (%)

いる	41.8
いない	51.9

(無回答 6.3)

(5) 子どもの状況(複数回答) (n=1, 627) (%)

小学校入学前	7.1
小学校在学中	10.9
中学校在学中	7.6
高校在学中	7.0
短大、専門学校等在学中	1.0
大学、大学院等在学中	6.9
学校教育終了[未婚]	21.8
学校教育終了[既婚]	22.4
その他	3.1
子どもはいない	30.0

(無回答 4.9)

(6) インターネットの利用状況

(n=1, 627) (%)

よく利用する	69.0
ときどき利用する	14.0
あまり利用しない	5.5
利用しない	7.3

(無回答 4.2)

(7) 職業区分

(n=1, 627) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	4.9
	家族従業者	1.3
勤め・内職	勤め(フルタイム)	41.7
	勤め(パートタイム)	15.4
	内職	0.1
主婦・主夫(勤めていない)		12.5
学生		1.0
無職		14.5
その他		1.8

(無回答 6.7)

(7-1) 有職者の職業内容

(n=1, 032) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.3
	商工サービス業	4.5
	自由業	4.7
勤め・内職	経営・管理職	7.9
	専門・技術職	21.9
	事務職	24.6
	教育職	5.3
	技能・労務職	10.6
	販売・サービス職	18.1

(無回答 2.1)

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

調査結果のポイント

1. 昨年の今頃と比較した現在のくらし向きについて、
《悪くなった》は6.0ポイント増の45.7% (P12 図表1-2)
〔 《よくなった》は3.6ポイント減の9.2%
「変わらない」は4.1ポイント減の40.8% 〕
2. くらし向きが《悪くなった》理由について、
「日常の生活費が増えたため」が4年連続で第1位
(P13 図表1-3)
3. 県行政への要望について、
「治安対策」が5.8ポイント増の55.6%で第1位
(P18 図表4)

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
※令和7年度(n=1,627)、令和6年度(n=1,206)
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。
例：「たいへん満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせたものを《満足している》と表現している。
また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

1 暮らし全般(問1から問5)

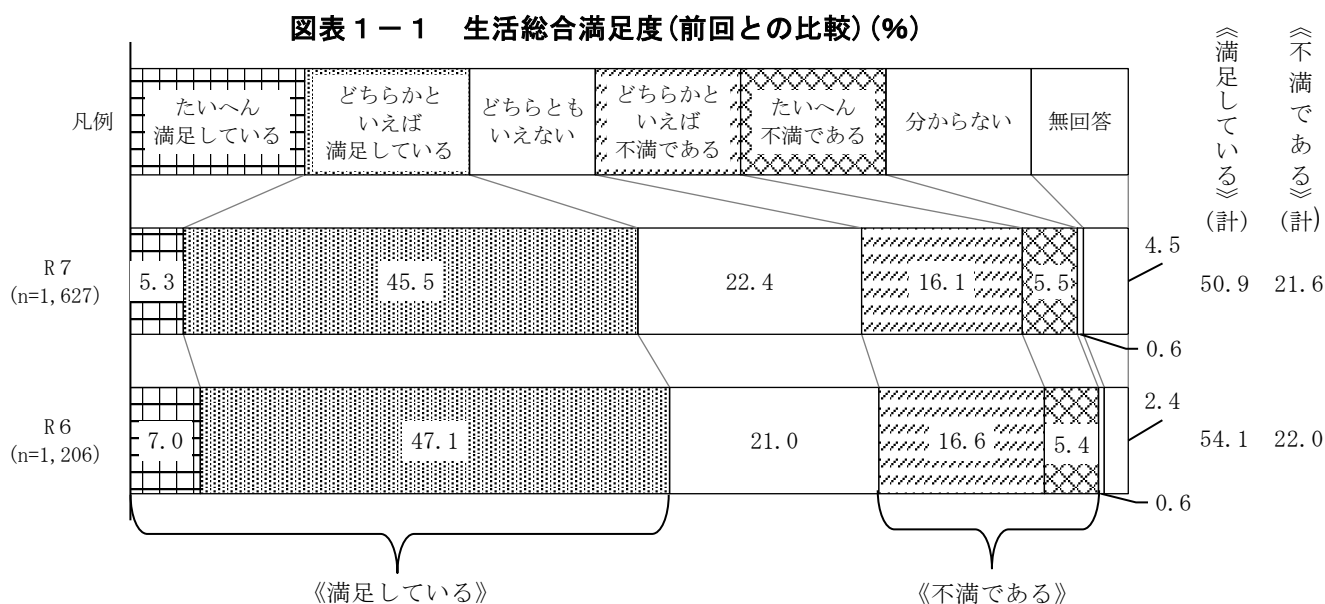
▼生活総合満足度

現在の生活全般について、どの程度満足しているか尋ねた。

「たいへん満足している」(5.3%)と「どちらかといえば満足している」(45.5%)を合わせた《満足している》は50.9%で、前回より3.2ポイント減(54.1%→50.9%)となった。

一方、「たいへん不満である」(5.5%)と「どちらかといえば不満である」(16.1%)を合わせた《不満である》は21.6%で、前回より0.4ポイント減(22.0%→21.6%)となった。

[図表1-1]



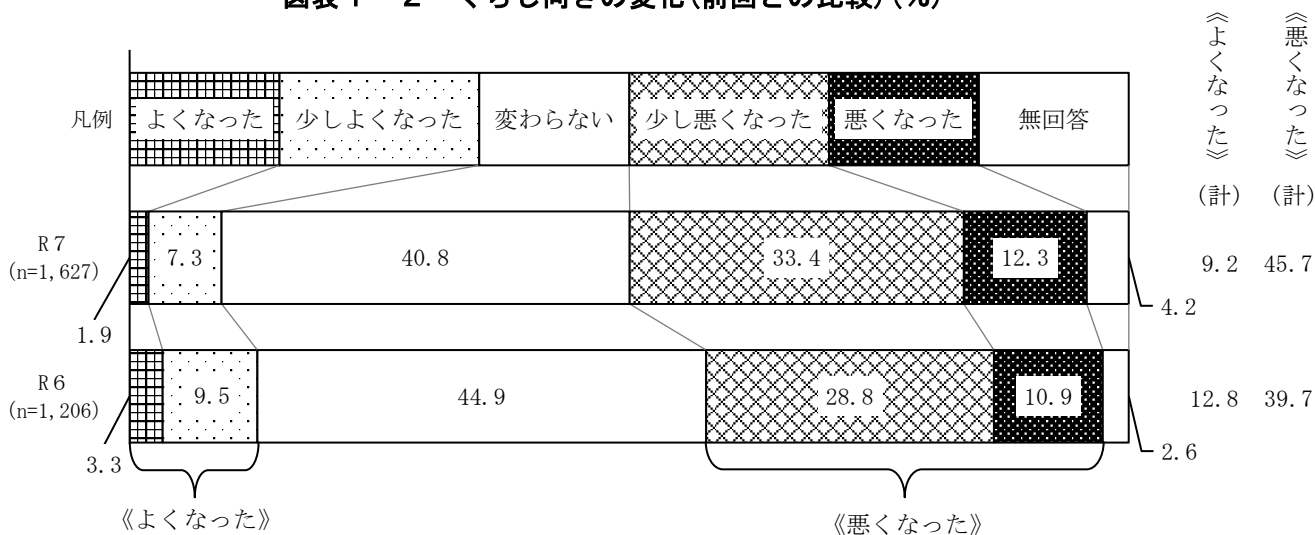
▼暮らし向きの変化

昨年の今頃と比較した現在の暮らし向きについて尋ねた。

「よくなった」(1.9%)と「少しよくなった」(7.3%)を合わせた《よくなった》は9.2%で、前回より3.6ポイント減(12.8%→9.2%)となった。

一方、「悪くなった」(12.3%)と「少し悪くなった」(33.4%)を合わせた《悪くなった》は45.7%で、前回より6.0ポイント増(39.7%→45.7%)となった。 [図表1-2]

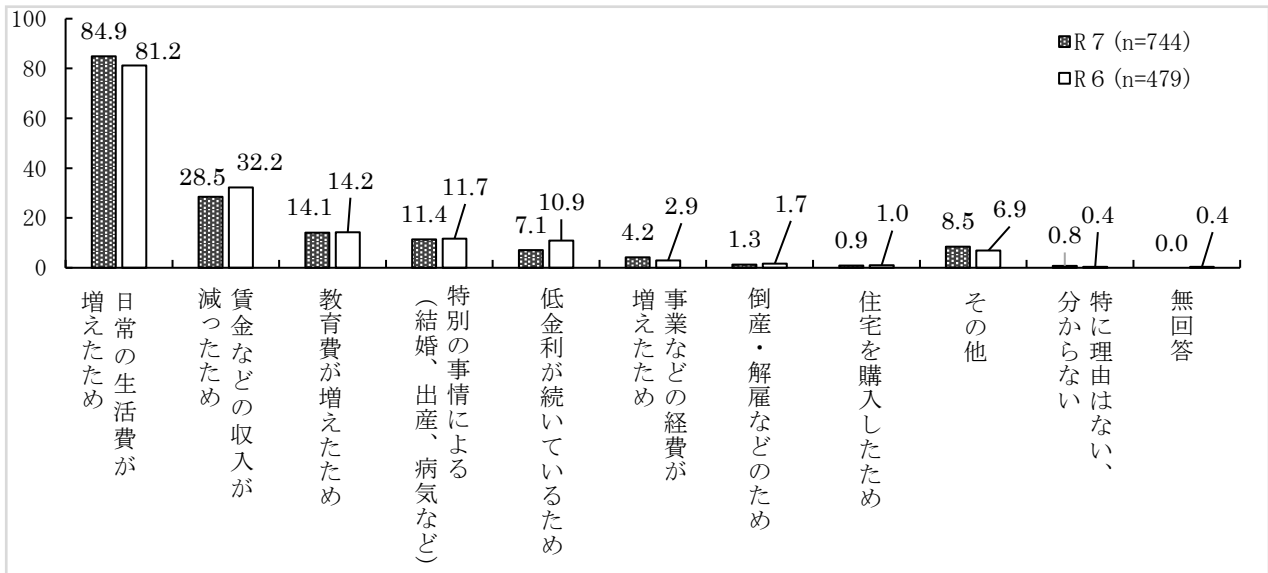
図表1-2 暮らし向きの変化(前回との比較)(%)



くらし向きが《悪くなった》と答えた744人にその理由を複数回答で尋ねたところ、「日常の生活費が増えたため」が84.9%と、前回より3.7ポイント増(81.2%→84.9%)で最も多く、次いで「賃金などの収入が減ったため」が28.5%であった。

前回と比較して増減幅が最も大きかったのは、「低金利が続いているため」で3.8ポイント減(10.9%→7.1%)となった。〔図表1-3〕

図表1-3 くらし向きが悪くなった理由(前回との比較)(複数回答)(%)



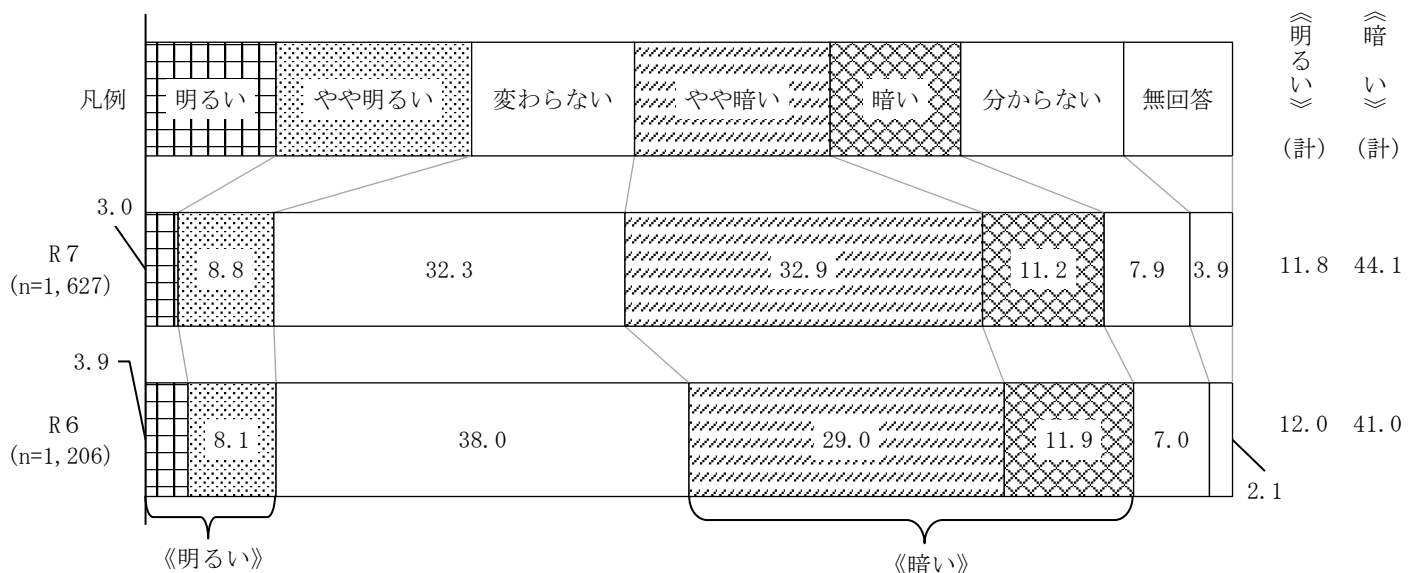
▼今後のくらし向きの見通し

今後のくらし向きの見通しを尋ねた。

「明るい」(3.0%)と「やや明るい」(8.8%)を合わせた《明るい》は11.8%で、前回より0.2ポイント減(12.0%→11.8%)となった。

一方、「暗い」(11.2%)と「やや暗い」(32.9%)を合わせた《暗い》は44.1%で、前回より3.1ポイント増(41.0%→44.1%)となった。〔図表1-4〕

図表1-4 今後のくらし向きの見通し(前回との比較)(%)



▼地域の住みよさ

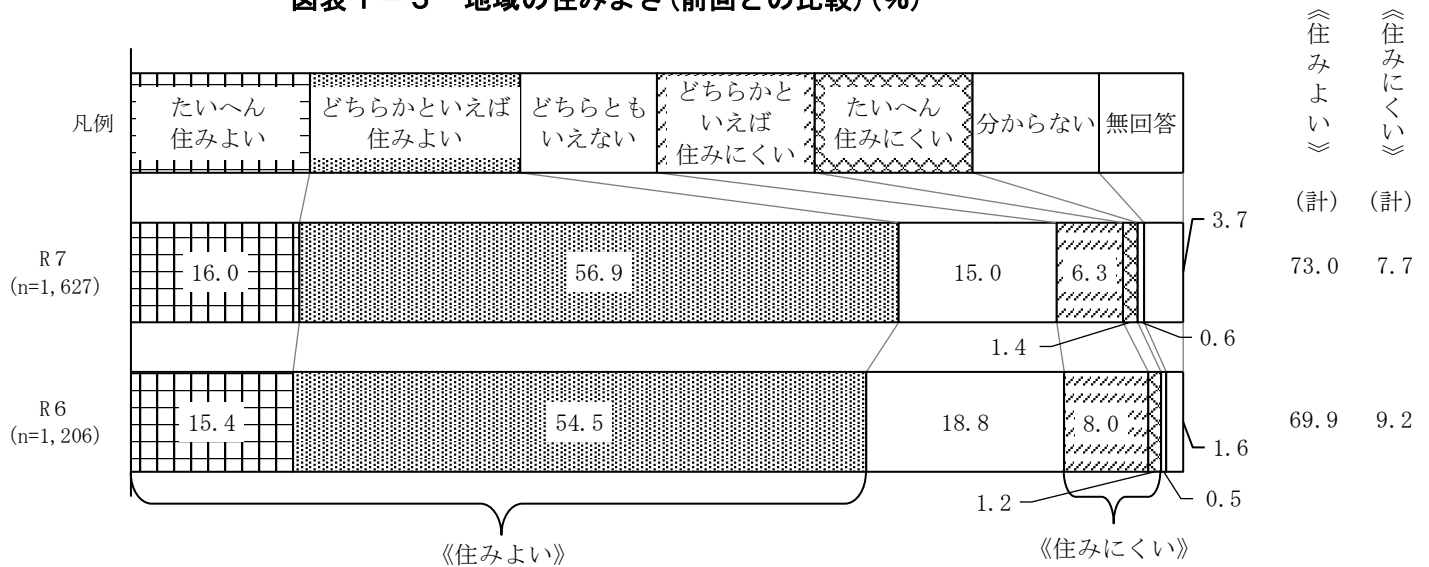
現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねた。

「たいへん住みよい」(16.0%)と「どちらかといえば住みよい」(56.9%)を合わせた《住みよい》は73.0%で、前回より3.1ポイント増(69.9%→73.0%)となった。

一方、「たいへん住みにくい」(1.4%)と「どちらかといえば住みにくい」(6.3%)を合わせた《住みにくい》は7.7%で、前回より1.5ポイント減(9.2%→7.7%)となった。

[図表1-5]

図表1-5 地域の住みよさ(前回との比較)(%)

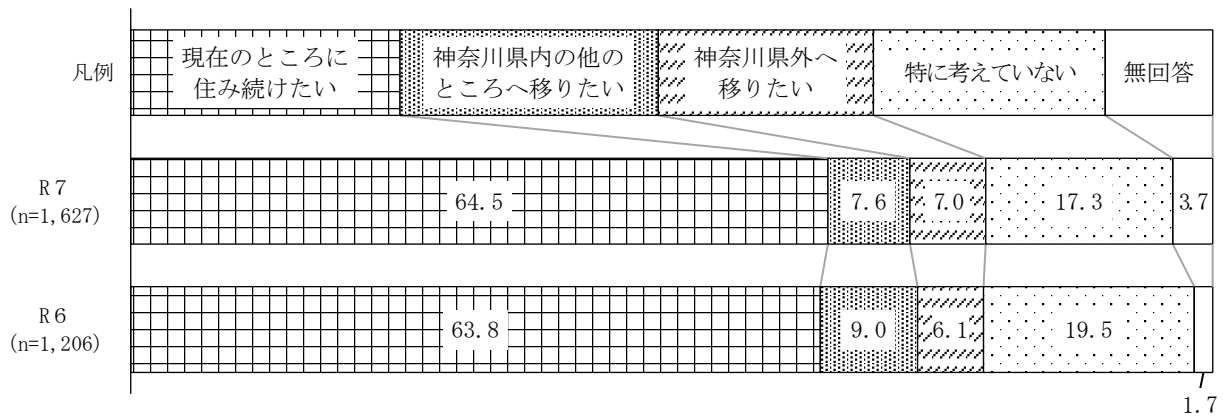


▼定住意向

今後も現在のところに住み続けたいか尋ねたところ、「現在のところに住み続けたい」が64.5%で最も多く、「神奈川県外へ移りたい」は7.0%で最も少なかった。

前回と比較すると、「現在のところに住み続けたい」は0.7ポイント増(63.8%→64.5%)となり、「神奈川県外へ移りたい」は0.9ポイント増(6.1%→7.0%)となった。[図表1-6]

図表1-6 定住意向(前回との比較)(%)



2 生活意識(問6)

県民の様々な生活意識や態度を把握するために、30の項目を提示して「そう思う」と「そう思わない」で尋ねた。

「そう思う」と「そう思わない」の上位5項目の結果を表にすると、〔図表2〕のとおりとなった。

前回と比較すると、「そう思う」では、「育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が、0.1ポイント増(89.8%→89.9%)で、前回に続いて第1位となった。

一方、「そう思わない」では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が、2.2ポイント増(86.6%→88.8%)で、前回に続いて第1位となった。

図表2 「そう思う」、「そう思わない」の上位5項目 (n=1,627)

順位	「そう思う」 ()内は令和6年度の結果(n=1,206)	順位	「そう思わない」 ()内は令和6年度の結果(n=1,206)
1	育児は社会的にも重要であり、 もっと評価されるべきだ 89.9% (1位89.8%)	1	夫は外で働き、妻は家庭を守るべ きだ 88.8% (1位86.6%)
2	食べ物を無駄にしないよう食べ 残しや買いすぎなどに気をつけ ている 89.5% (新規)	2	今後10年くらいの中に、一人ひと りの人権が尊重され、差別がない 地域社会になっている 81.3% (2位82.4%)
3	神奈川県は、歴史や文化、自然 など、地域ごとに特色があり魅 力的な県だ 86.2% (3位84.6%)	3	公益活動を行うNPOなどに寄附 をしてみたい 75.4% (6位72.7%)
4	ゴミを出すにあたって、分別や リサイクルを意識する、できる だけゴミを減らすなど、環境の ことを考えた生活を心がけてい る 85.8% (2位89.1%)	4	子ども・若者が自分自身の価値や 存在感を実感できる世の中になっ ている 71.1% (7位72.0%)
5	県産木材を使うことにより森林 の手入れが進み、身近な森林を 守ることにつながるなら、積極 的に使いたい 83.6% (4位82.9%)	5	今後10年くらいの中に、外国人に とって暮らしやすい地域社会に なっている 66.9% (11位64.4%)

3 暮らしの満足度(問7)

身近な生活に関する38項目について、それぞれの「重要度」及び「満足度」を尋ねた。

なお、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》、「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせたものを《満たされている》、「ほとんど満たされていない」と「あまり満たされていない」を合わせたものを《満たされていない》と表している。

▼生活重要度

《重要である》の上位10項目の結果を表にすると、〔図表3-1〕のとおりとなった。

前回と比較すると、《重要である》では、「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」が、前回に続いて第1位(95.4%)となった。

図表3-1 《重要である》の上位10項目 (n=1,627)

順位	《重要である》 ()内は令和6年度の結果(n=1,206)	
1	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること	95.4% (1位94.9%)
2	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること	94.7% (2位94.5%)
3	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	93.5% (4位92.3%)
4	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること	93.4% (5位91.6%)
5	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと	91.7% (3位93.8%)
6	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	91.6% (7位89.4%)
7	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること	90.0% (6位90.1%)
8	安全で安心な消費生活が送れること	89.9% (7位89.4%)
9	いじめや差別がなく、人権が尊重されていること	85.1% (9位85.7%)
10	住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること	84.3% (11位82.2%)

▼生活満足度

《満たされている》と《満たされていない》の上位5項目の結果を表にすると、〔図表3-2〕のとおりとなった。

前回と比較すると、《満たされている》では、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」が0.5ポイント減(51.1%→50.6%)したものの、前回に続いて第1位となった。

一方、《満たされていない》では、「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が1.6ポイント増(39.2%→40.8%)で、前回に続いて第1位となった。

図表3-2 《満たされている》、《満たされていない》の上位5項目 (n=1,627)

順位	《満たされている》 ()内は令和6年度の結果(n=1,206)	順位	《満たされていない》 ()内は令和6年度の結果(n=1,206)
1	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと 50.6% (1位51.1%)	1	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること 40.8% (1位39.2%)
2	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること 47.8% (2位48.3%)	2	道路の渋滞がないなど、自動車ですべての県内各地へスムーズに移動できること 33.7% (2位34.5%)
3	身近に親しめるみどりや水辺があること 47.4% (3位47.8%)	3	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること 31.8% (3位34.1%)
4	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること 45.4% (4位45.2%)	4	太陽光発電の設置や再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること 30.6% (6位30.3%)
5	安心して利用できる公園が整備されていること 40.3% (5位41.4%)	5	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること 30.4% (4位31.6%)

4 県行政への要望(問8)

県行政を進めていくうえで力を入れて取り組んでほしい分野について、30項目を挙げて尋ねたところ、上位10項目は〔図表4〕のとおりとなった。

前回と比較すると、「治安対策」は5.8ポイントの増(49.8%→55.6%)で、前回の第2位から第1位となった。また、上位10項目の中で前回と比較して増減幅が最も大きかったのも、「治安対策」となった。

図表4 県行政への要望 上位10項目(複数回答) (n=1,627)

順位	力を入れて取り組んでほしい分野 ()内は令和6年度の結果(n=1,206)
1	治安対策 55.6% (2位49.8%)
2	防災対策 51.5% (1位51.6%)
3	医療体制の整備 36.0% (3位36.6%)
4	高齢者の福祉対策 31.8% (4位33.5%)
5	子育て支援 30.9% (5位32.3%)
6	地球温暖化の防止 19.6% (8位20.1%)
7	学校教育の充実 18.9% (7位20.7%)
8	道路やまちなみの整備 18.6% (9位18.5%)
9	公共交通の利便性を高める 17.9% (6位23.0%)
10	交通安全対策 16.9% (10位18.1%)

第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 暮らし全般について【問1～問5】

1 生活総合満足度【問1】

【全体の状況】

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(5.3%)と「どちらかといえば満足している」(45.5%)を合わせた《満足している》は50.9%であった。

一方、「たいへん不満である」(5.5%)と「どちらかといえば不満である」(16.1%)を合わせた《不満である》は21.6%で、《満足している》が《不満である》を29.3ポイント上回った。

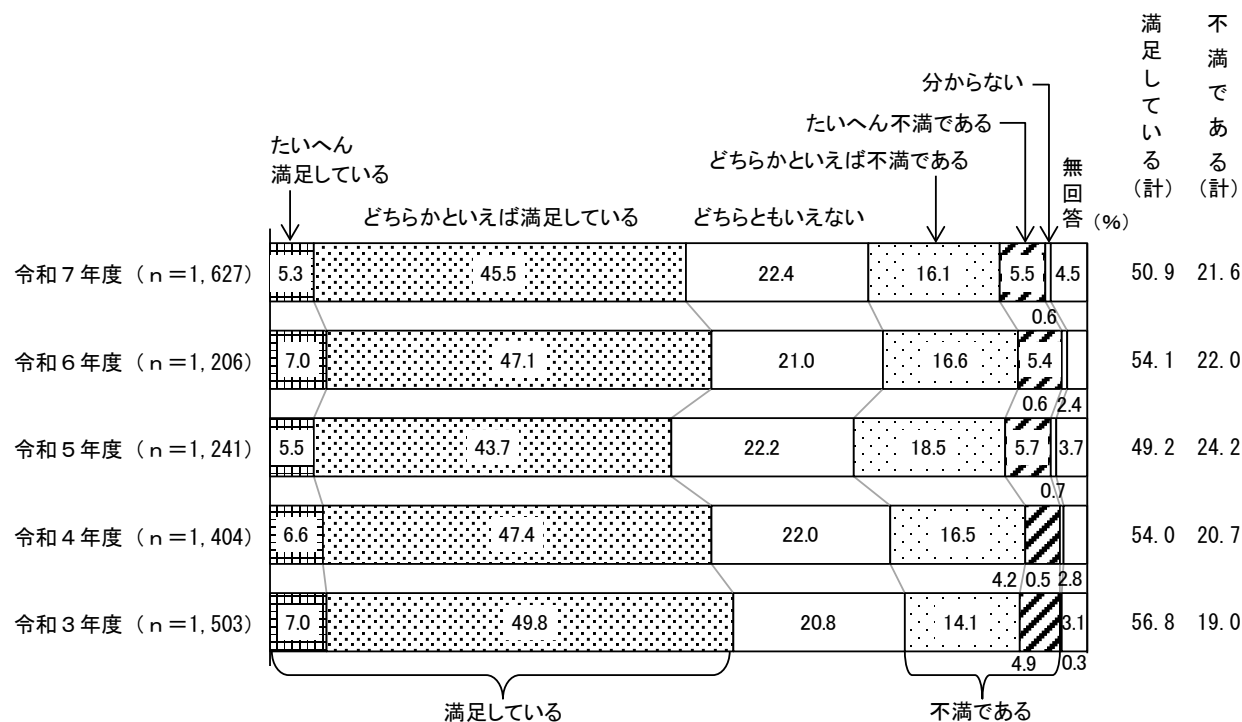
また、「どちらともいえない」は、22.4%であった。(図表1-1-1)

【過去との比較】

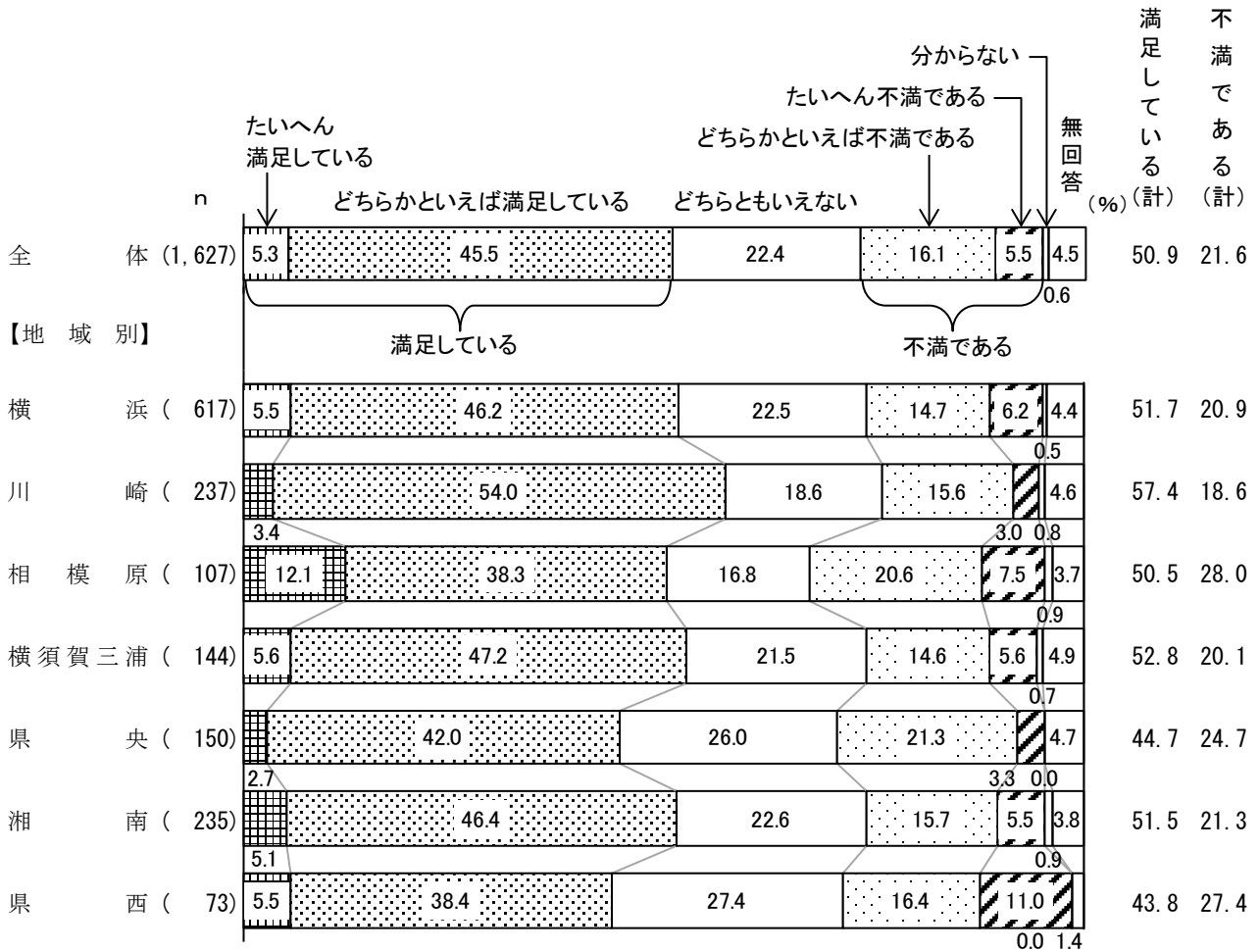
過去の調査と比較すると、《満足している》では、令和6年度は令和5年度と比べて4.9ポイント増(49.2%→54.1%)で、令和7年度は令和6年度と比べて3.2ポイント減(54.1%→50.9%)となった。

一方、《不満である》では、令和6年度は令和5年度と比べて2.2ポイント減(24.2%→22.0%)で、令和7年度は令和6年度と比べて0.4ポイント減(22.0%→21.6%)となった。(図表1-1-1)

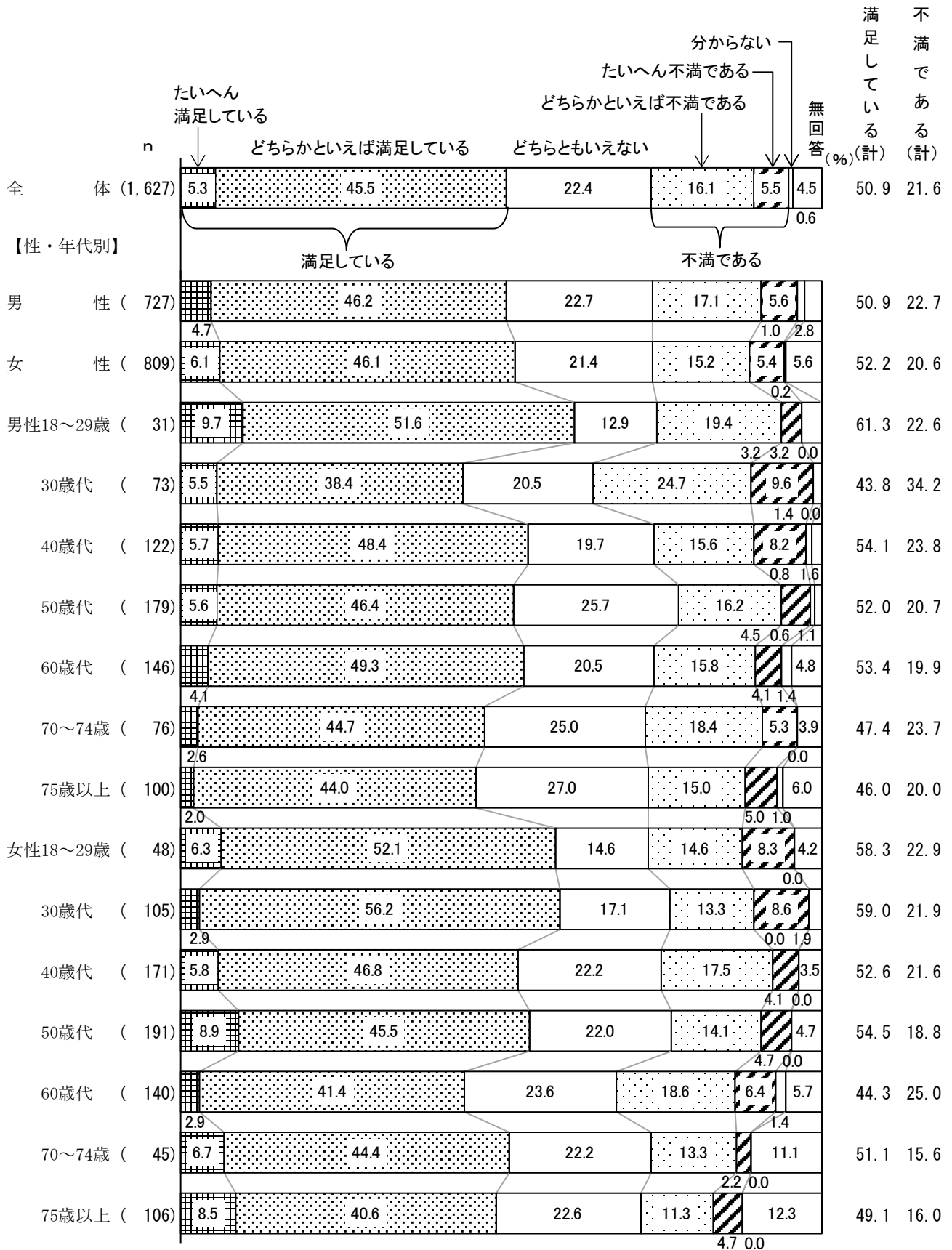
図表1-1-1 生活総合満足度—過去との比較



図表1-1-2 生活総合満足度—地域別



図表1-1-3 生活総合満足度—性・年代別



2 暮らし向きの変化【問2～問2-1】

【全体の状況】

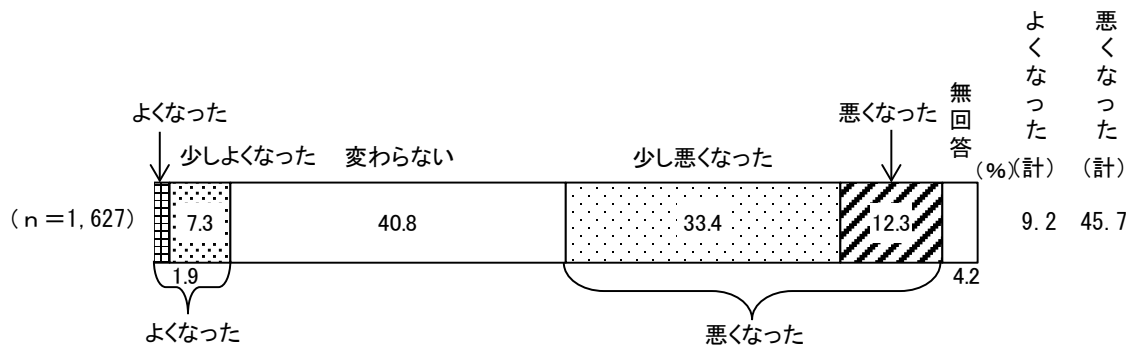
昨年の今頃と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(1.9%)と「少しよくなった」(7.3%)を合わせた《よくなった》は9.2%であった。

一方、「悪くなった」(12.3%)と「少し悪くなった」(33.4%)を合わせた《悪くなった》は45.7%で、《悪くなった》が《よくなった》を36.5ポイント上回った。

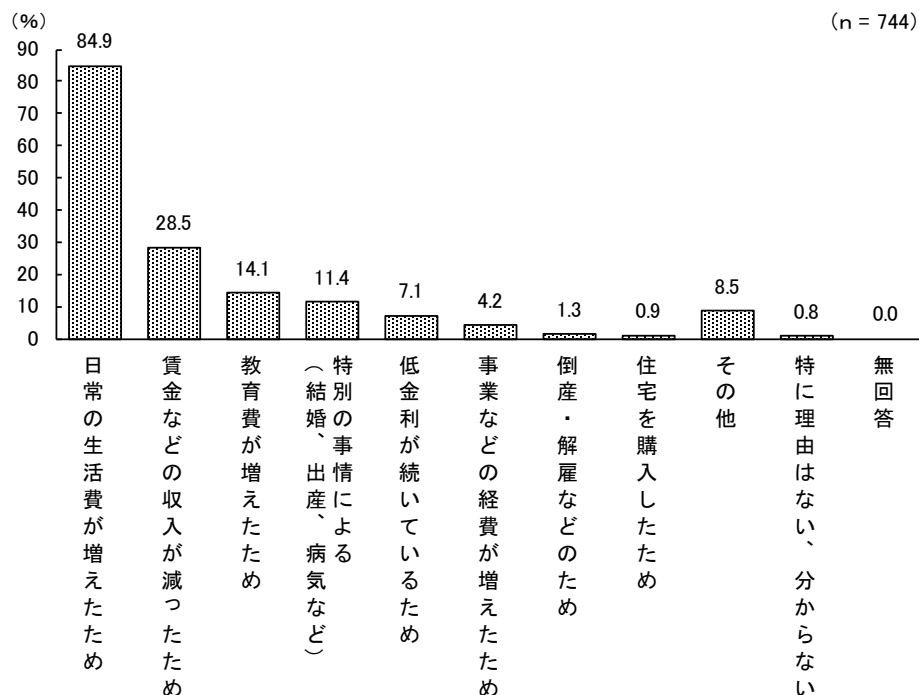
また、「変わらない」は、40.8%であった。(図表1-2-1)

暮らし向きが《悪くなった》と回答した744人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「日常生活費が増えたため」が84.9%で最も多く、次いで「賃金などの収入が減ったため」が28.5%であった。(図表1-2-2)

図表1-2-1 暮らし向きの変化



図表1-2-2 暮らし向きが悪くなった理由(複数回答)

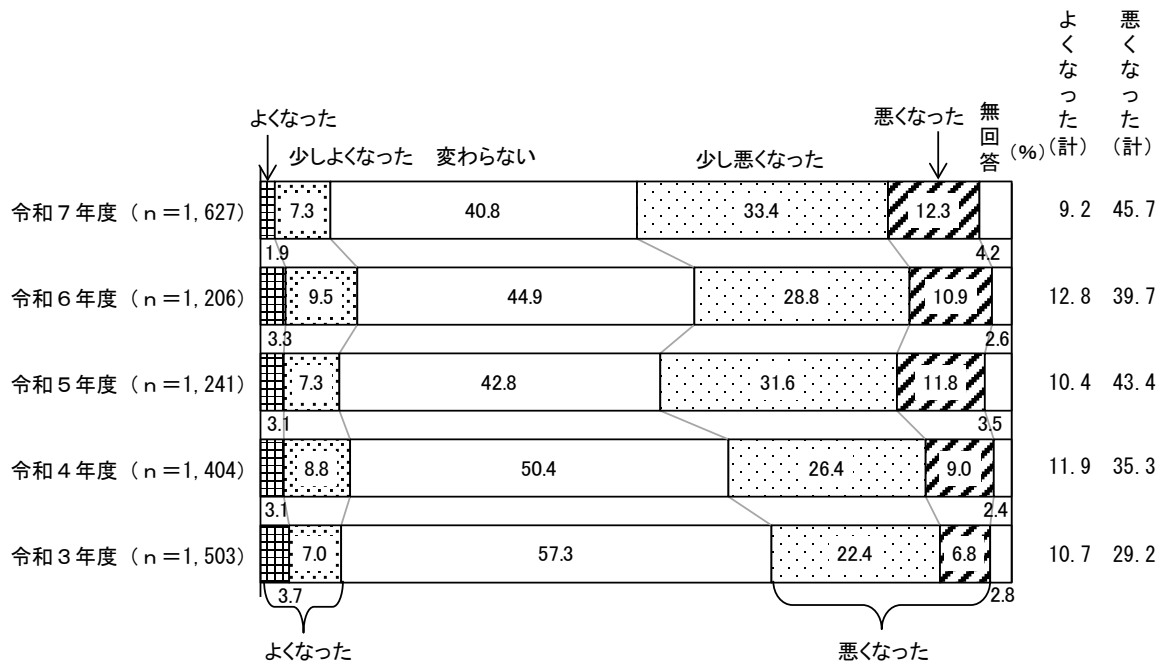


【過去との比較】

くらし向きの変化を過去の調査と比較すると、《よくなった》は、令和6年度は令和5年度と比べて2.4ポイント増（10.4%→12.8%）で、令和7年度は令和6年度と比べて3.6ポイント減（12.8%→9.2%）となった。

一方、《悪くなった》は、令和6年度は令和5年度と比べて3.7ポイント減（43.4%→39.7%）で、令和7年度は令和6年度と比べて6.0ポイント増（39.7%→45.7%）となった。（図表1-2-3）

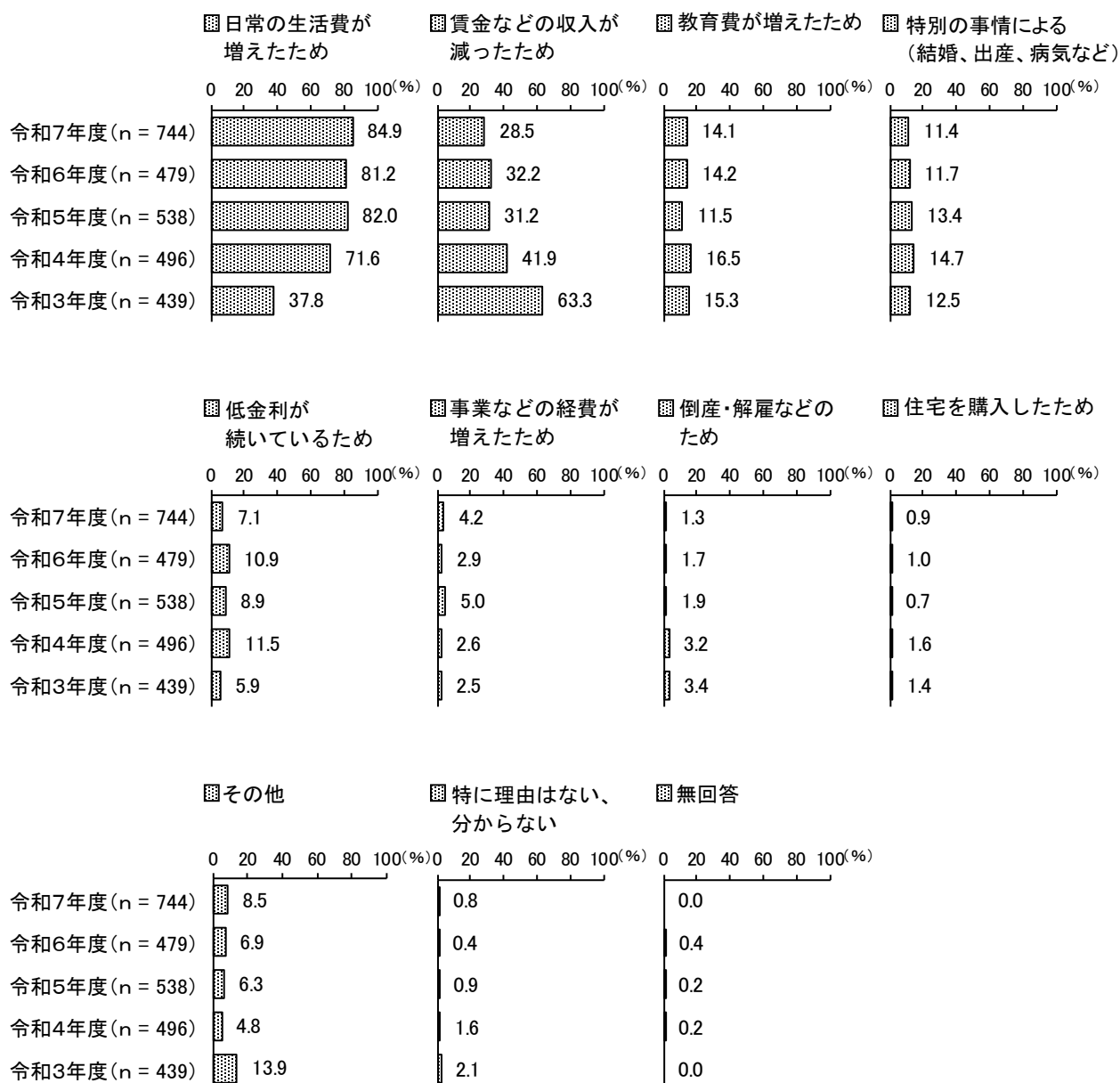
図表1-2-3 くらし向きの変化—過去との比較



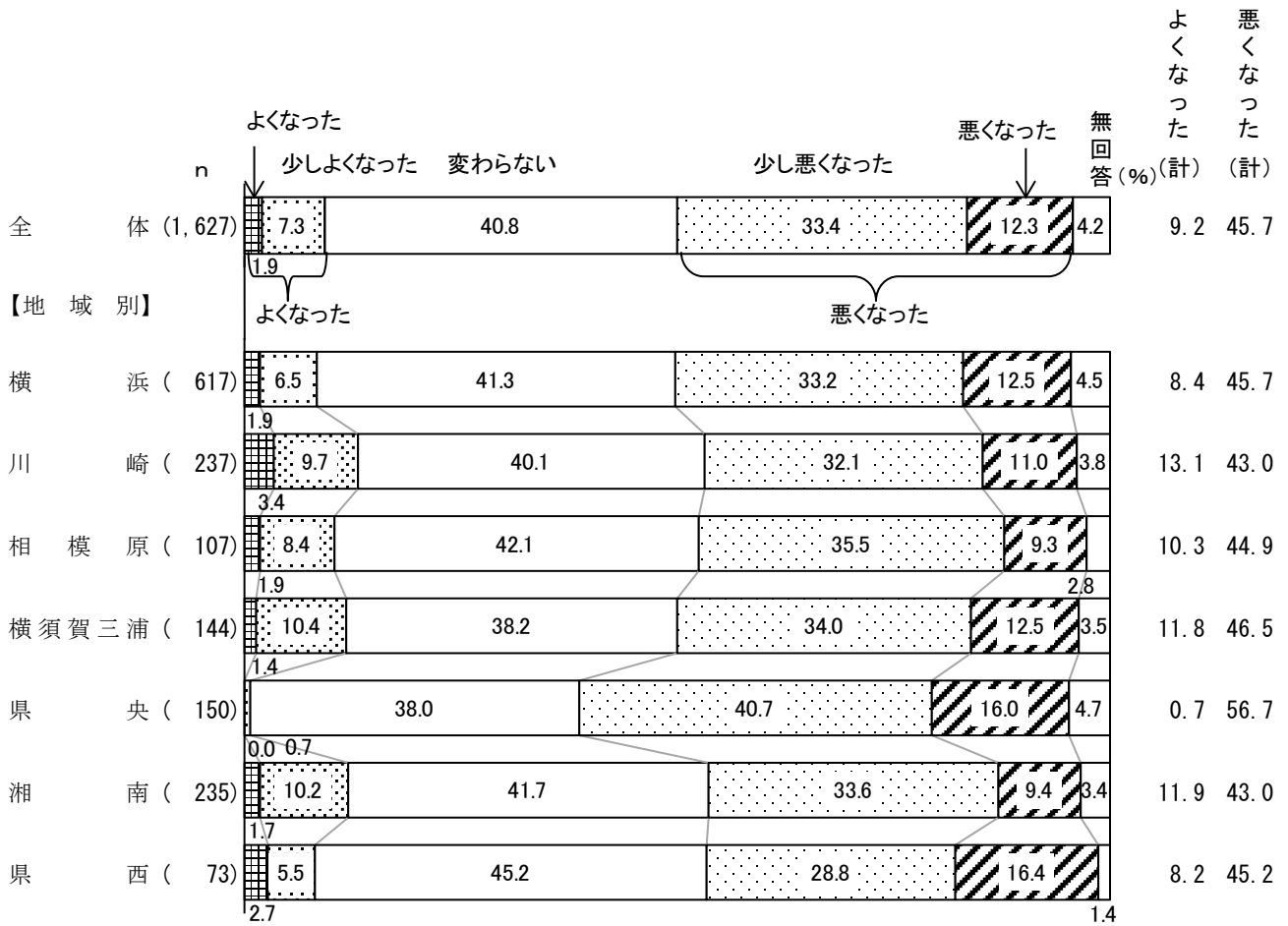
くらし向きが《悪くなった》理由を過去の調査と比較すると、「日常の生活費が増えたため」は、令和6年度と比べて3.7ポイント増（81.2%→84.9%）となり、最も増加した項目であった。

一方、「低金利が続いているため」は、令和6年度と比べて3.8ポイント減（10.9%→7.1%）となり、最も減少した項目であった。（図表1-2-4）

図表1-2-4 くらし向きが悪くなった理由（複数回答）－過去との比較



図表1-2-5 暮らし向きの変化—地域別

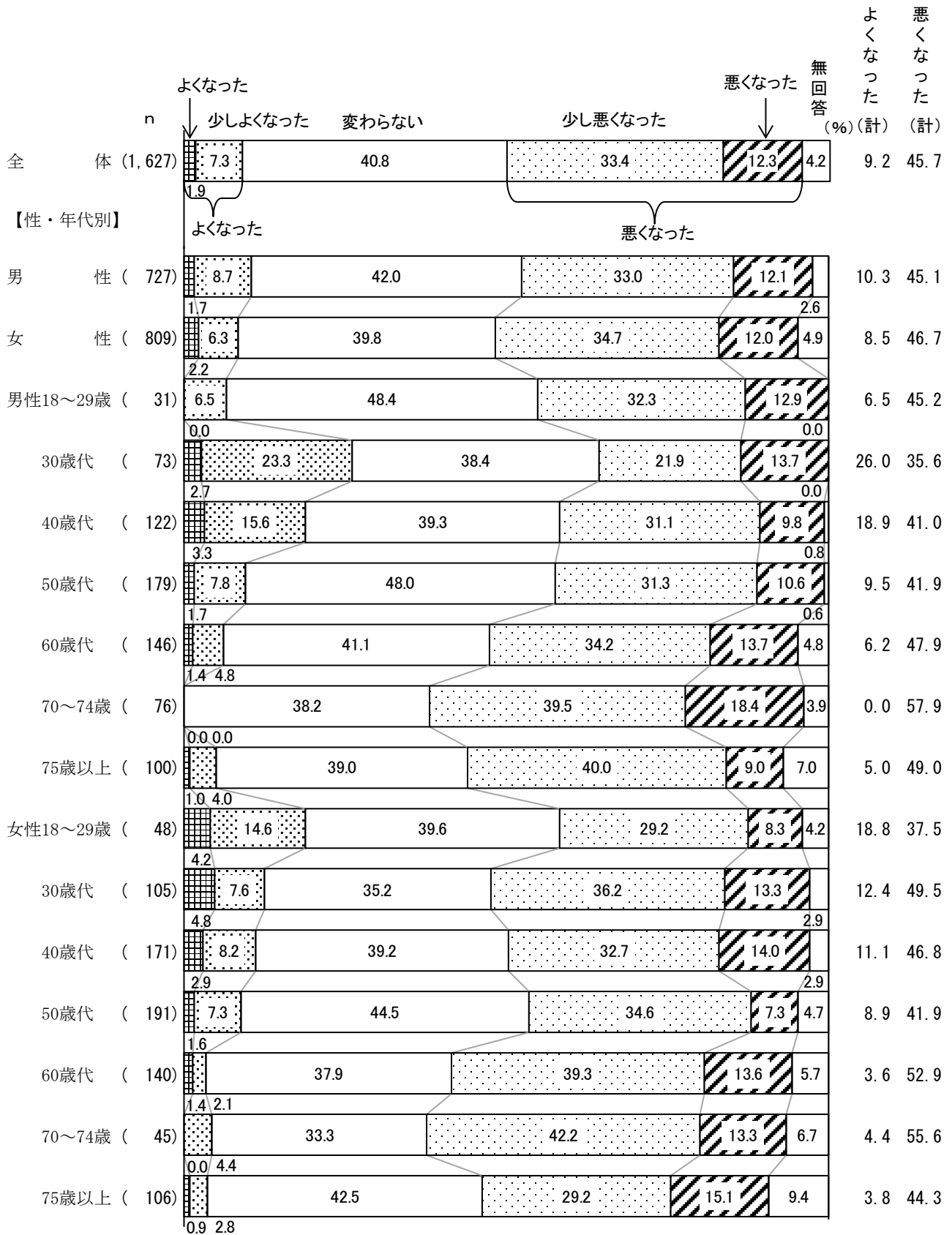


図表1-2-6 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－地域別

(%)

	n	日常生活費が増えたため	賃金などの収入が減ったため	教育費が増えたため	産、特別の事情による（結婚、出産、病気など）	低金利が続いているため	事業などの経費が増えたため	倒産・解雇などのため	住宅を購入したため	その他	特に理由はない、分からない	無回答
全 体	744	84.9	28.5	14.1	11.4	7.1	4.2	1.3	0.9	8.5	0.8	-
【地 域 別】												
横 浜	282	85.5	31.2	11.3	13.5	7.8	5.7	1.4	1.4	8.2	0.4	-
川 崎	102	90.2	24.5	18.6	8.8	4.9	3.9	2.0	-	8.8	-	-
相 模 原	48	89.6	27.1	12.5	10.4	8.3	4.2	-	-	10.4	2.1	-
横須賀三浦	67	86.6	22.4	22.4	11.9	6.0	1.5	-	1.5	7.5	3.0	-
県 央	85	83.5	30.6	14.1	8.2	2.4	4.7	1.2	-	10.6	-	-
湘 南	101	80.2	25.7	13.9	13.9	10.9	1.0	2.0	1.0	5.0	1.0	-
県 西	33	78.8	33.3	9.1	9.1	12.1	3.0	3.0	-	9.1	3.0	-

図表1-2-7 暮らし向きの変化—性・年代別



図表1-2-8 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－性・年代別

(%)

	n	日常の生活費が増えたため	賃金などの収入が減ったため	教育費が増えたため	産、特別の事情による（結婚、出産、病気など）	低金利が続いているため	事業などの経費が増えたため	倒産・解雇などのため	住宅を購入したため	その他	特に理由はない、分からない	無回答
全 体	744	84.9	28.5	14.1	11.4	7.1	4.2	1.3	0.9	8.5	0.8	-
【性・年代別】												
男 性	328	84.1	31.7	12.2	9.5	7.6	5.5	1.8	0.9	8.8	1.5	-
女 性	378	86.5	25.7	16.4	13.5	6.9	2.9	1.1	0.5	7.4	0.3	-
男性 18～29歳	14	71.4	21.4	7.1	14.3	-	-	-	-	21.4	14.3	-
30歳代	26	88.5	26.9	30.8	3.8	-	7.7	-	3.8	11.5	-	-
40歳代	50	88.0	32.0	22.0	8.0	6.0	6.0	6.0	4.0	10.0	-	-
50歳代	75	82.7	28.0	24.0	8.0	5.3	8.0	4.0	-	6.7	-	-
60歳代	70	82.9	44.3	2.9	11.4	11.4	8.6	-	-	7.1	1.4	-
70～74歳	44	93.2	36.4	-	4.5	13.6	-	-	-	6.8	2.3	-
75歳以上	49	77.6	20.4	-	16.3	8.2	2.0	-	-	10.2	2.0	-
女性 18～29歳	18	88.9	33.3	5.6	11.1	5.6	-	-	-	-	-	-
30歳代	52	86.5	34.6	17.3	17.3	3.8	3.8	1.9	1.9	9.6	-	-
40歳代	80	85.0	21.3	40.0	8.8	2.5	1.3	1.3	-	13.8	-	-
50歳代	80	85.0	30.0	25.0	15.0	6.3	2.5	1.3	1.3	2.5	1.3	-
60歳代	74	89.2	29.7	-	14.9	6.8	2.7	-	-	6.8	-	-
70～74歳	25	88.0	16.0	-	12.0	12.0	12.0	-	-	4.0	-	-
75歳以上	47	85.1	10.6	-	14.9	14.9	2.1	2.1	-	6.4	-	-

3 今後の暮らし向きの見通し【問3】

【全体の状況】

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(3.0%)と「やや明るい」(8.8%)を合わせた《明るい》は11.8%であった。

一方、「暗い」(11.2%)と「やや暗い」(32.9%)を合わせた《暗い》は44.1%となり、《暗い》が《明るい》を32.3ポイント上回った。

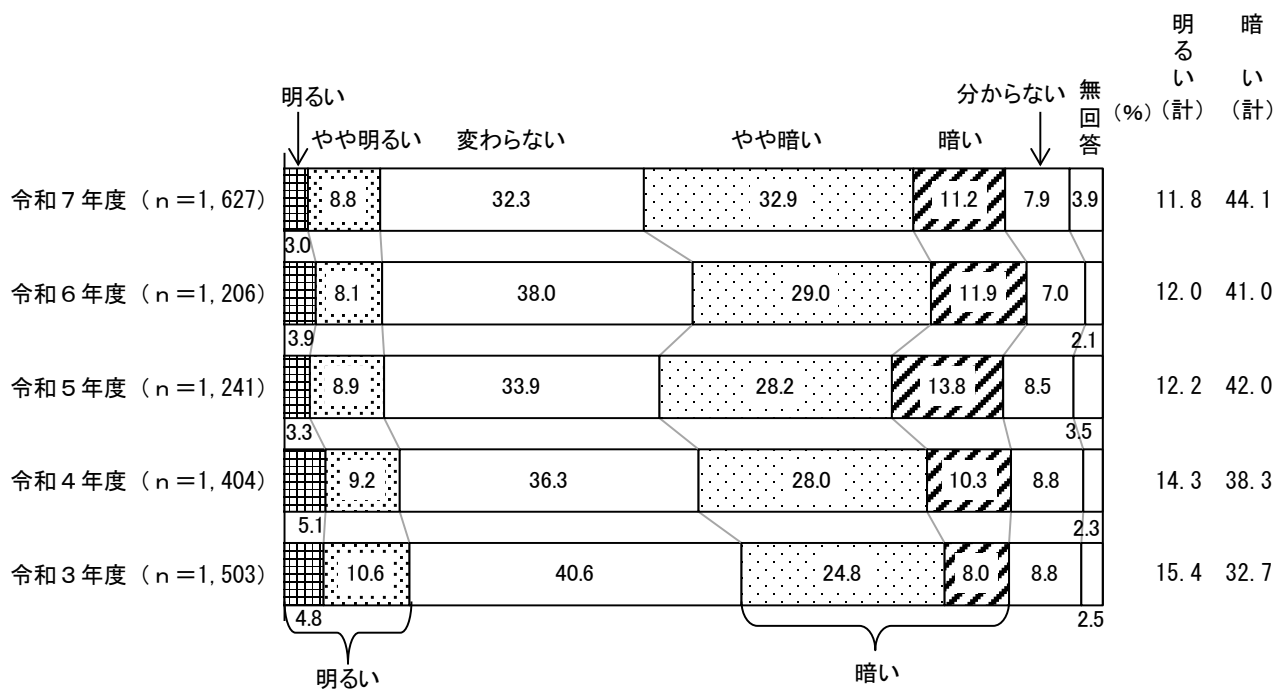
また、「変わらない」は、32.3%であった。(図表1-3-1)

【過去との比較】

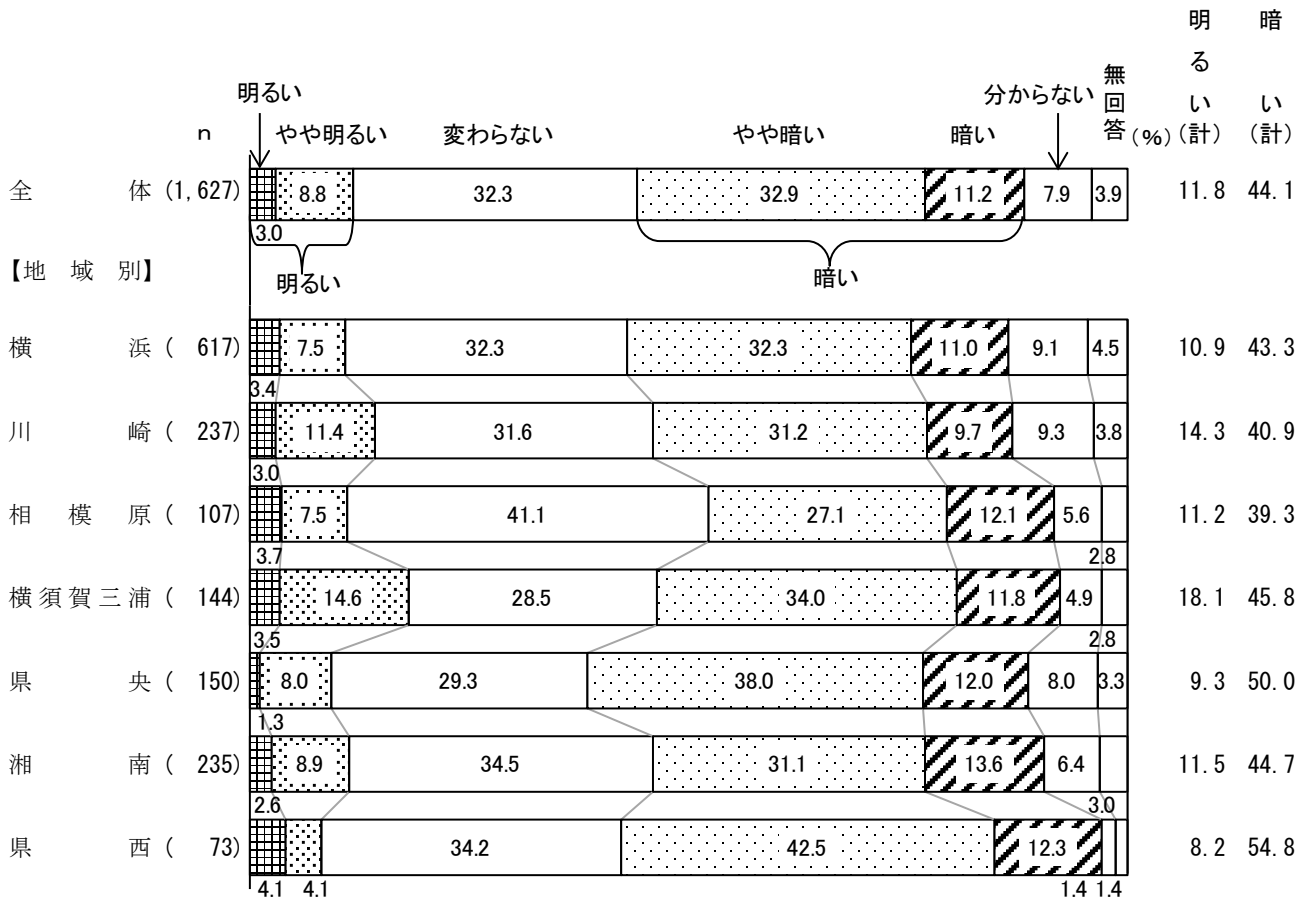
過去の調査と比較すると、《明るい》は、令和6年度は令和5年度と比べて0.2ポイント減(12.2%→12.0%)で、令和7年度は令和6年度と比べて0.2ポイント減(12.0%→11.8%)となった。

一方、《暗い》は、令和6年度は令和5年度と比べて1.0ポイント減(42.0%→41.0%)で、令和7年度は令和6年度と比べて3.1ポイント増(41.0%→44.1%)となった。(図表1-3-1)

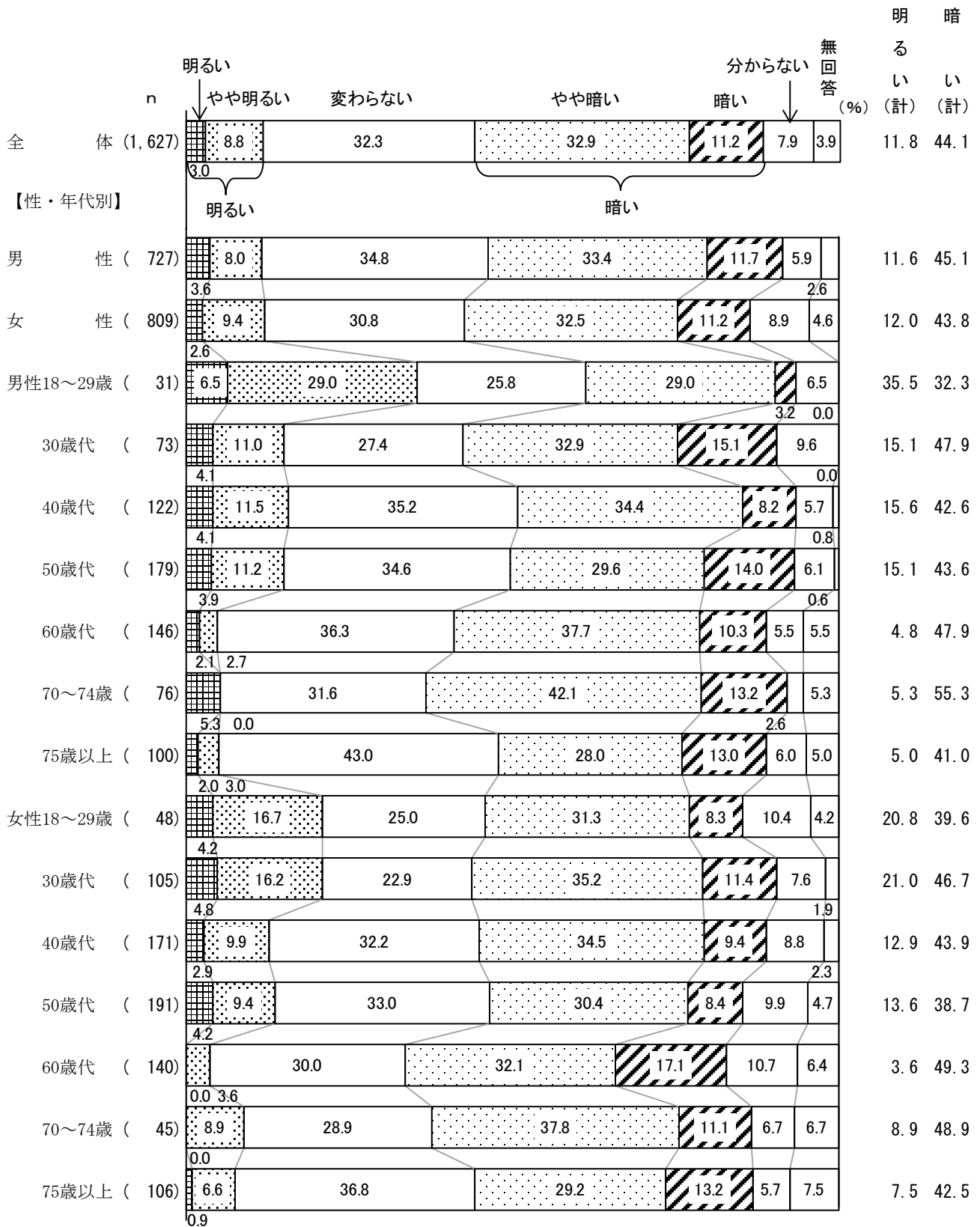
図表1-3-1 今後の暮らし向きの見通し—過去との比較



図表1-3-2 今後の暮らし向きの見通し—地域別



図表1-3-3 今後の暮らし向きの見通し－性・年代別



4 地域の住みよさ【問4】

【全体の状況】

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(16.0%)と「どちらかといえば住みよい」(56.9%)を合わせた《住みよい》は73.0%であった。

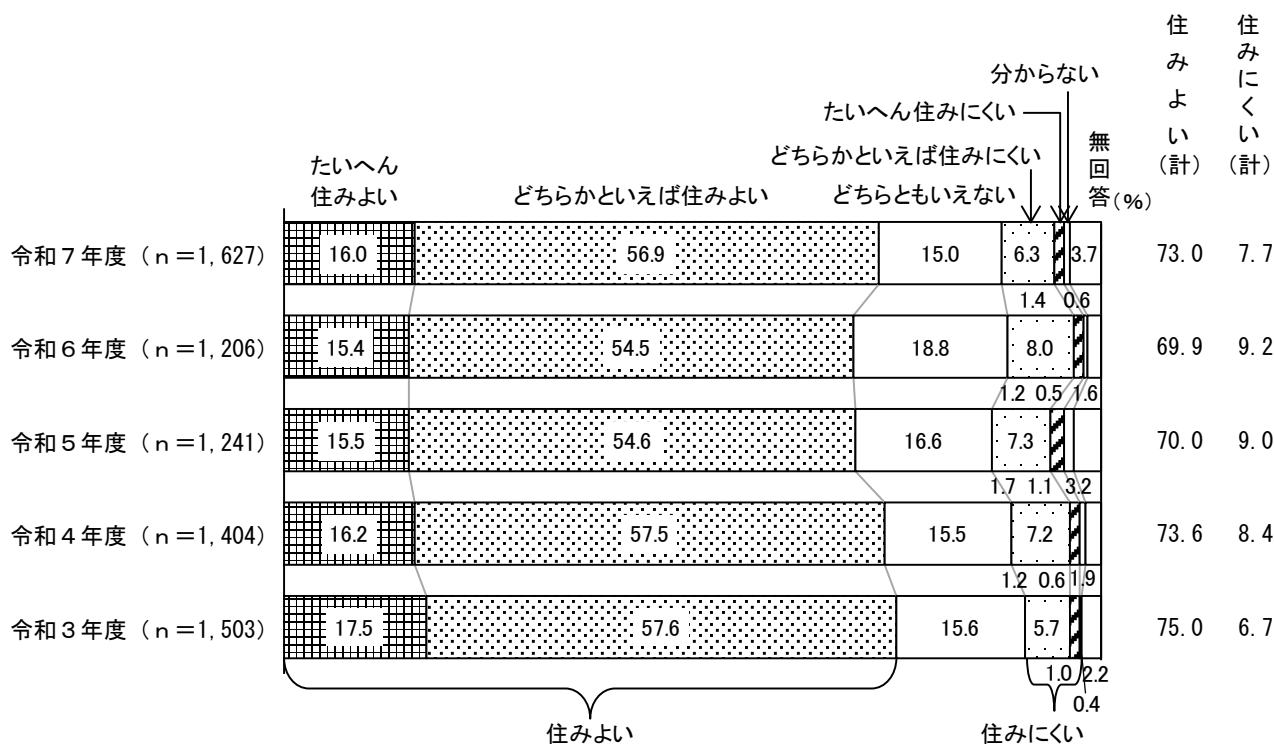
一方、「たいへん住みにくい」(1.4%)と「どちらかといえば住みにくい」(6.3%)を合わせた《住みにくい》は7.7%で、《住みよい》が《住みにくい》を65.3ポイント上回った。(図表1-4-1)

【過去との比較】

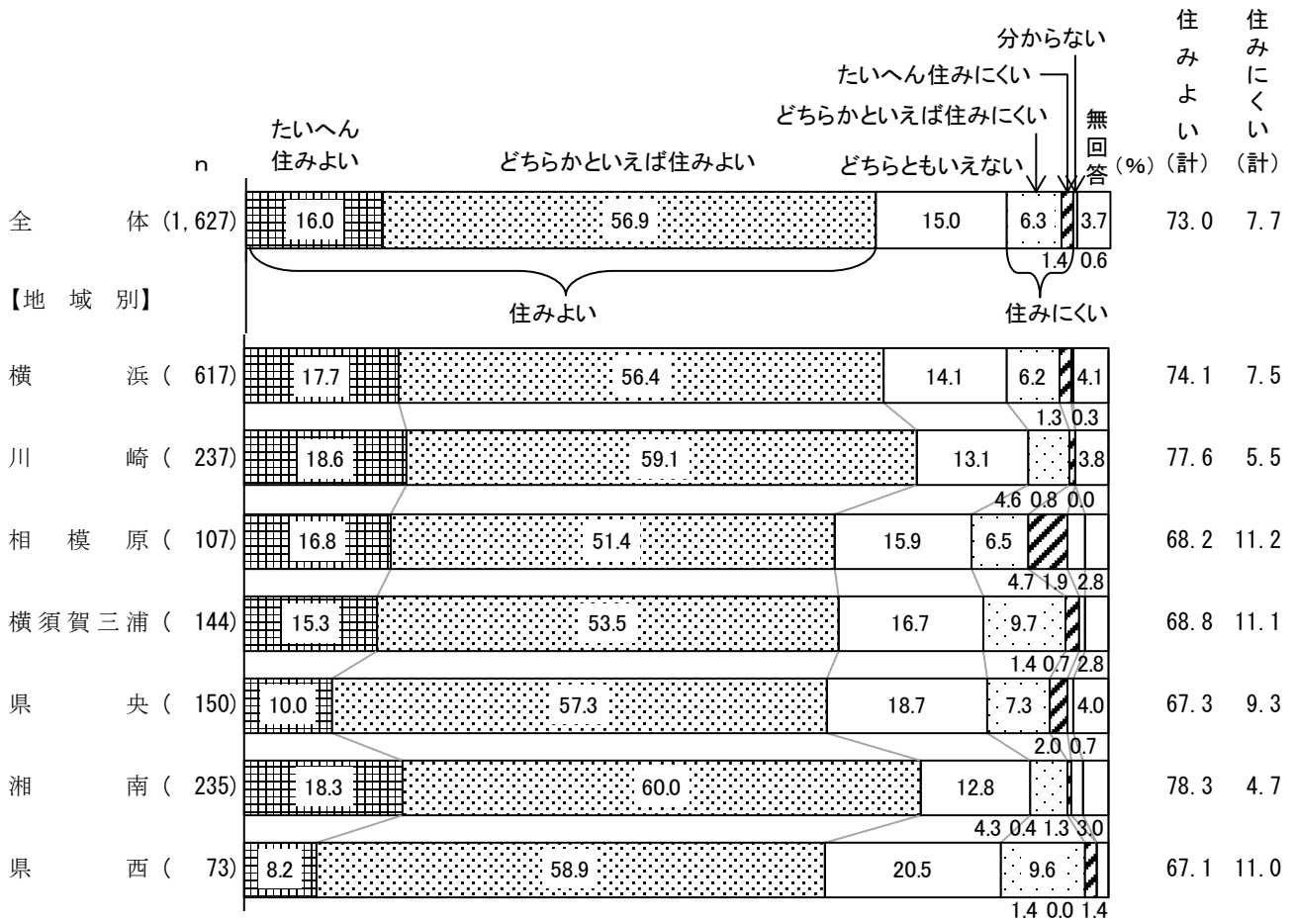
過去の調査と比較すると、《住みよい》は、令和6年度は令和5年度と比べて0.1ポイント減(70.0%→69.9%)で、令和7年度は令和6年度と比べて3.1ポイント増(69.9%→73.0%)となった。

一方、《住みにくい》は、令和6年度は令和5年度と比べて0.2ポイント増(9.0%→9.2%)で、令和7年度は令和6年度と比べて1.5ポイント減(9.2%→7.7%)となった。(図表1-4-1)

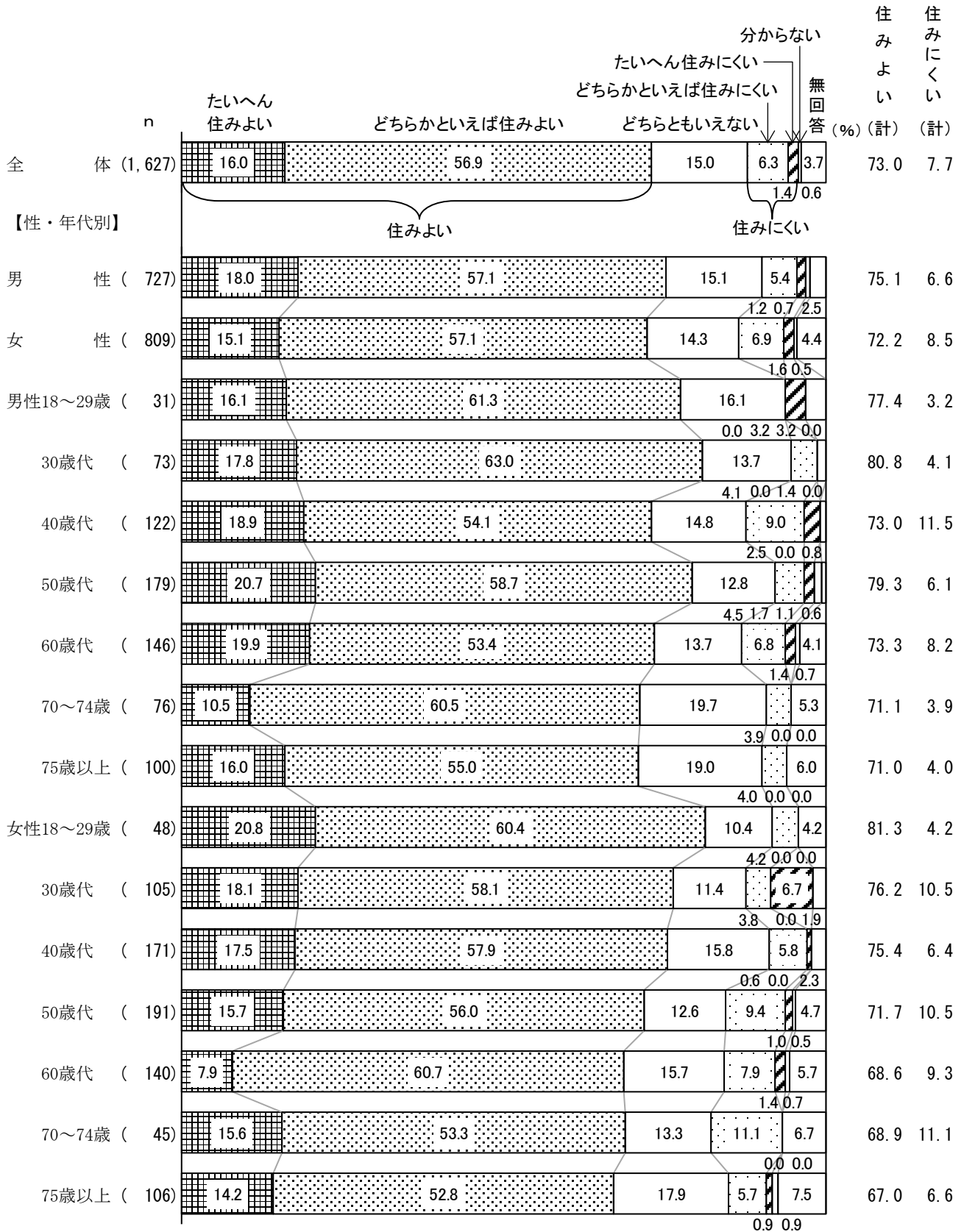
図表1-4-1 地域の住みよさー過去との比較



図表1-4-2 地域の住みよさ—地域別



図表1-4-3 地域の住みよさ—性・年代別



5 定住意向【問5】

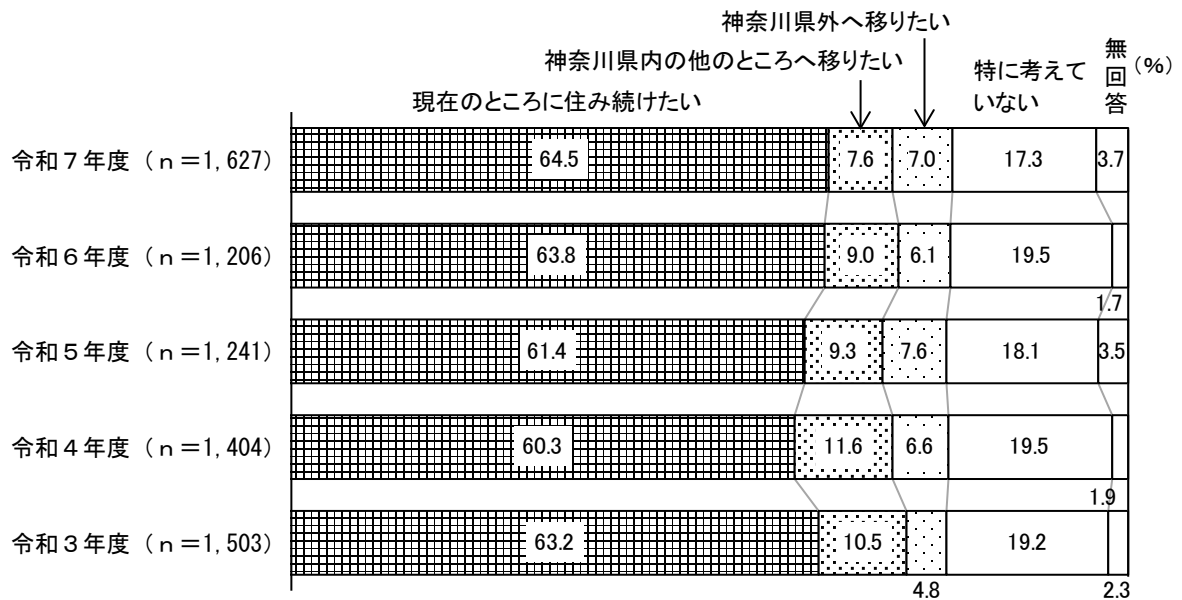
【全体の状況】

今後も現在のところに住み続けたいか尋ねたところ、「現在のところに住み続けたい」が64.5%で最も多かった。また、「神奈川県外へ移りたい」は、7.0%であった。（図表1-5-1）

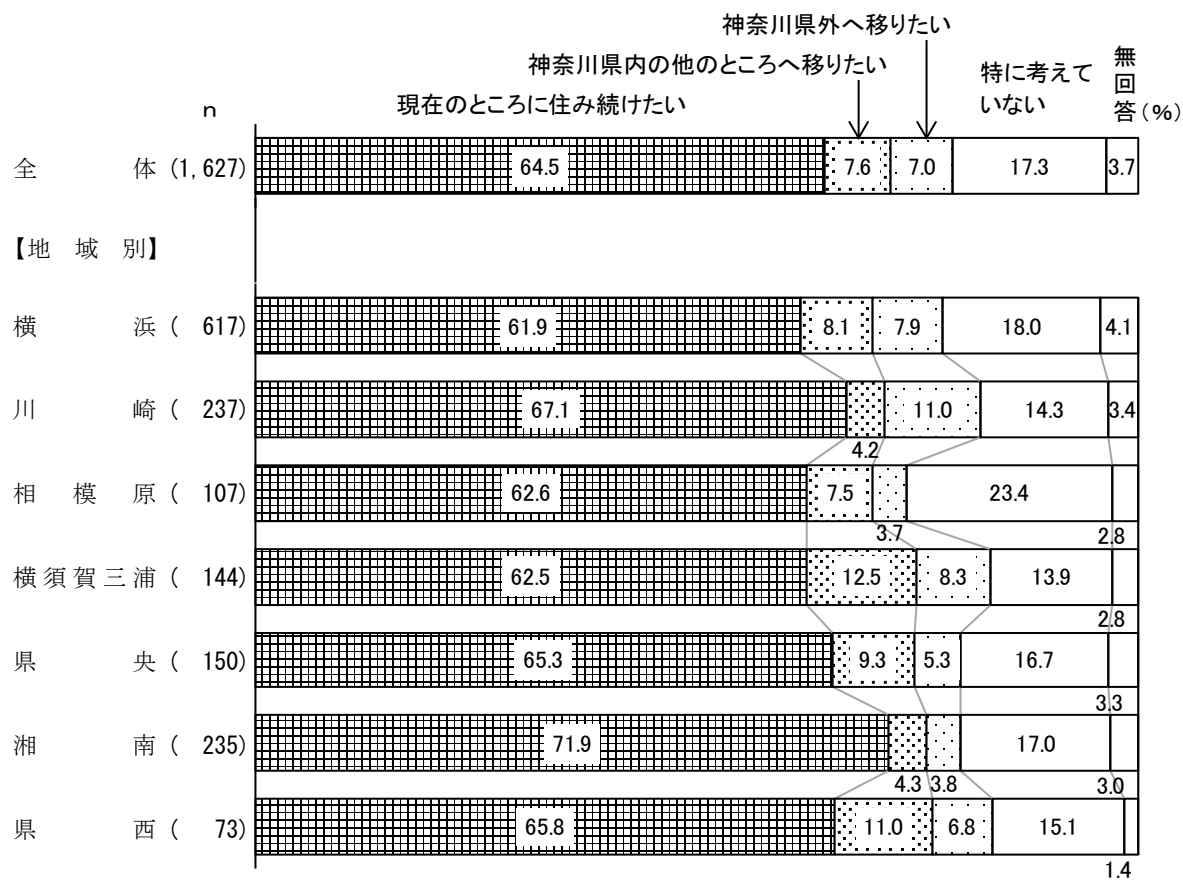
【過去との比較】

過去の調査と比較すると、「現在のところに住み続けたい」は、令和6年度は令和5年度と比べて2.4ポイント増（61.4%→63.8%）で、令和7年度は令和6年度と比べて0.7ポイント増（63.8%→64.5%）となった。（図表1-5-1）

図表1-5-1 定住意向－過去との比較

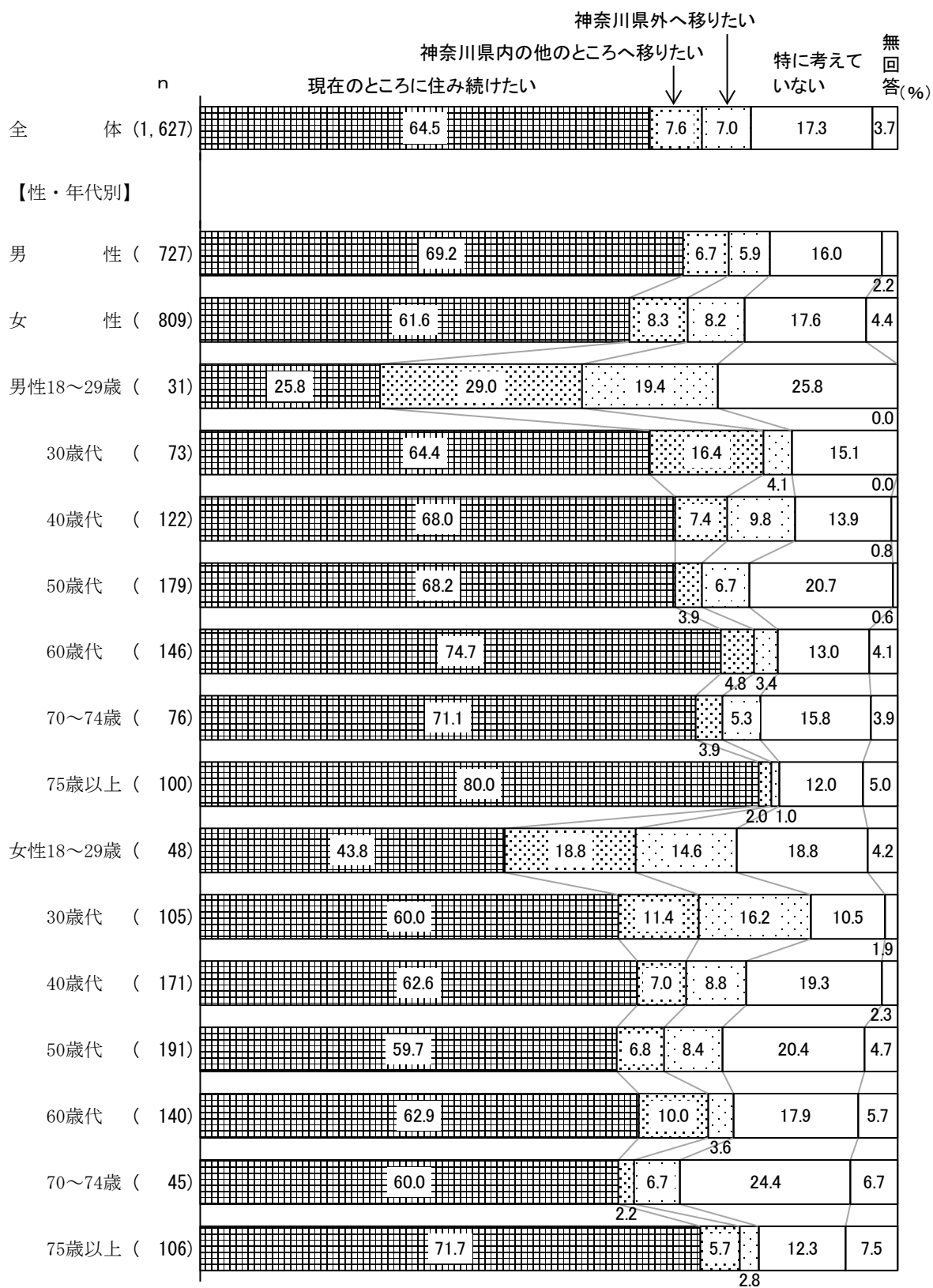


図表1-5-2 定住意向—地域別



1.4

図表1-5-3 定住意向—性・年代別



第2章 生活意識【問6】

【全体の状況】

県民の様々な生活意識を把握するために、30項目を提示して「そう思う」と「そう思わない」で尋ねた。

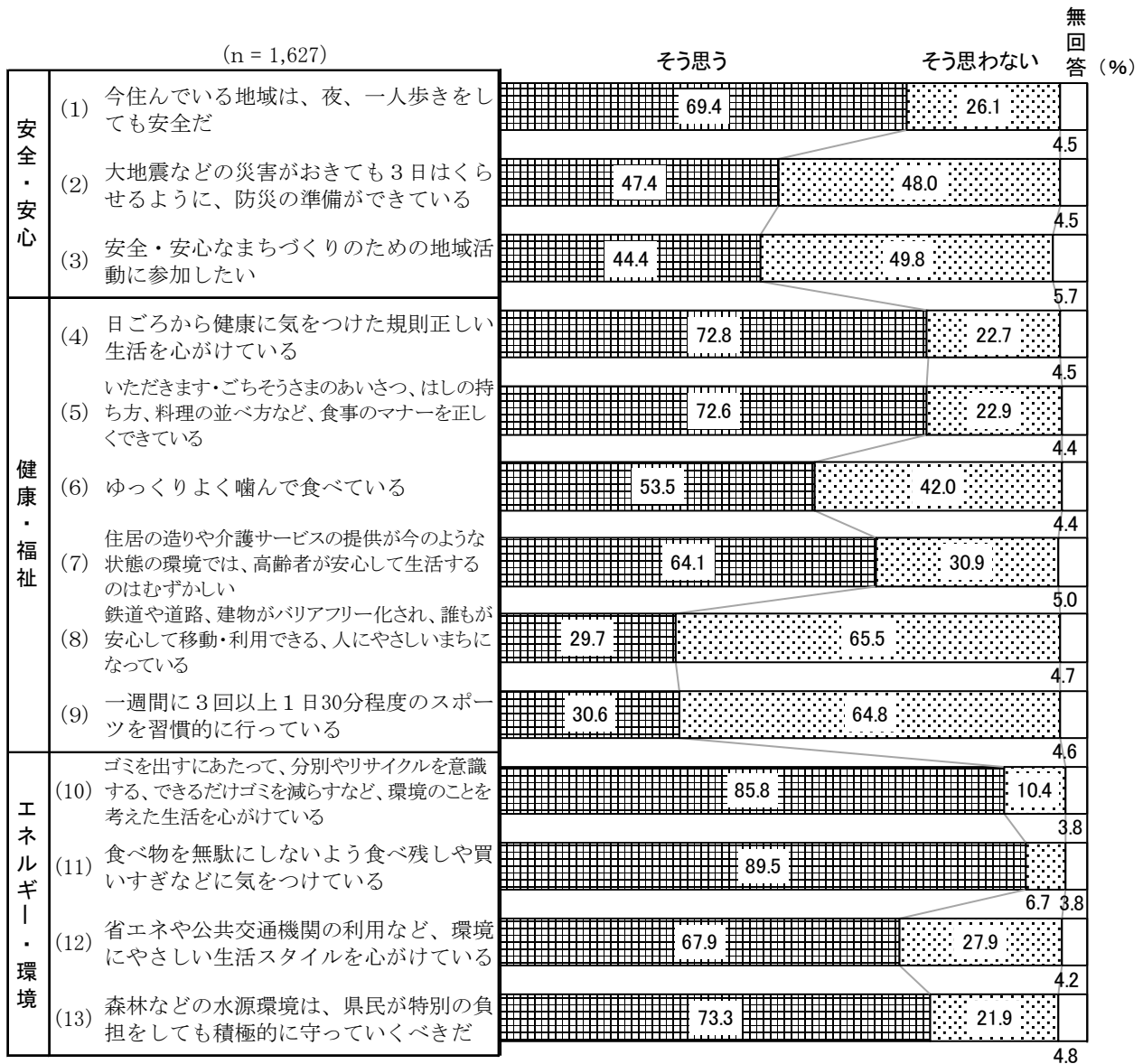
「そう思う」では、「(22)育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が89.9%で最も多く、次いで「(11)食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけている」が89.5%であった。

以下、「(27)神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ」(86.2%)、「(10)ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを意識する、できるだけゴミを減らすなど、環境のことを考えた生活を心がけている」(85.8%)、「(26)県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい」(83.6%)が続いた。

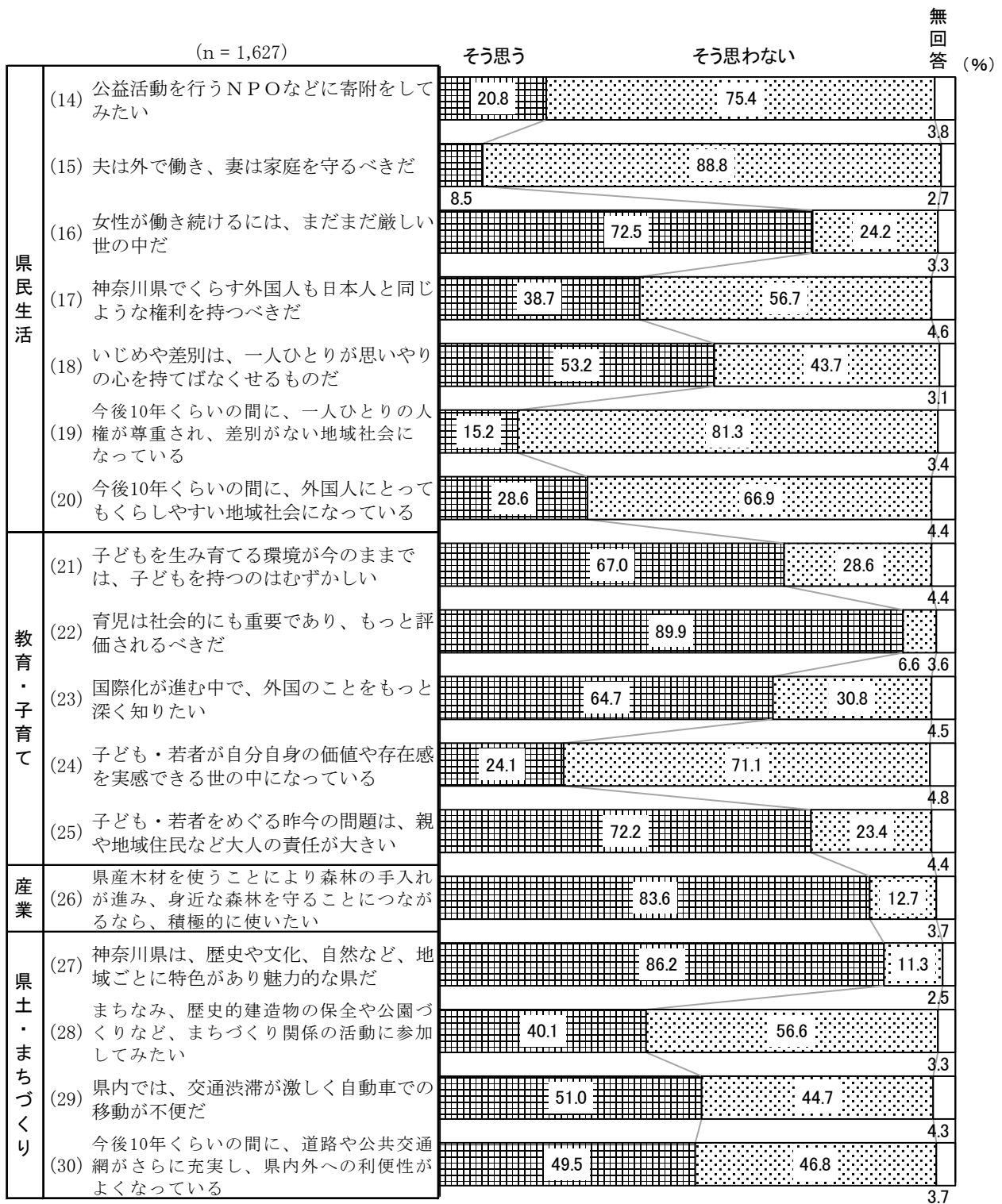
「そう思わない」では、「(15)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が88.8%で最も多かった。

(図表2)

図表2 生活意識



図表2 生活意識（つづき）



【過去との比較】

「そう思う」の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回調査と同様に「(22)育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第1位、新規項目の「(11)食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけている」が第2位、「(27)神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ」が前回調査と同様に第3位となった。(図表2(1))

図表2(1) 生活意識「そう思う」の上位10項目—過去との比較

	令和3年度 (n = 1,503)	令和4年度 (n = 1,404)	令和5年度 (n = 1,241)	令和6年度 (n = 1,206)	令和7年度 (n = 1,627)
1位	環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている (93.5%)	環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている (93.7%)	ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを意識する、できるだけゴミを減らすなど、環境のことを考えた生活を心がけている (89.4%)	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (89.8%)	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (89.9%)
2位	介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (92.2%)	介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (92.3%)	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (86.4%)	ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを意識する、できるだけゴミを減らすなど、環境のことを考えた生活を心がけている (89.1%)	食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけている (89.5%)
3位	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (91.0%)	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (90.7%)	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (83.7%)	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (84.6%)	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (86.2%)
4位	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (84.8%)	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (86.8%)	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (82.1%)	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (82.9%)	ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを意識する、できるだけゴミを減らすなど、環境のことを考えた生活を心がけている (85.8%)
5位	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (83.6%)	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (86.4%)	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (77.3%)	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (77.1%)	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (83.6%)
6位	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (76.4%)	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (78.6%)	日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている (75.0%)	日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている (76.5%)	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (73.3%)
7位	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (74.7%)	県内には、世界に発信できる魅力ある観光資源がある (74.3%)	県内には、世界に発信できる魅力ある観光資源がある (74.5%)	子ども・若者をめぐる昨今問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい (71.6%)	日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている (72.8%)
8位	日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている (73.4%)	日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている (74.1%)	若者の「ひきこもり」など、青少年が自分自身の価値や存在感を実感しにくい世の中になっている (72.4%)	省エネや公共交通機関の利用など、環境にやさしい生活スタイルを心がけている (71.5%)	いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など、食事のマナーを正しくできている (72.6%)
9位	住居の造りや介護サービスの提供が今のような状態では、高齢者が安心して生活するのは難しい (71.3%)	若者の「ひきこもり」など、青少年が自分自身の価値や存在感を実感しにくい世の中になっている (73.8%)	省エネや公共交通機関の利用など、環境にやさしい生活スタイルを心がけている (72.1%)	今住んでいる地域は、夜、一人歩きしても安全だ	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (72.5%)
10位	国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい (71.3%)	国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい (73.2%)	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (70.4%)	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (69.3%)	子ども・若者をめぐる昨今問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい (72.2%)

※「環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」、「介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」は令和5年度より削除
 「ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを意識する、できるだけゴミを減らすなど、環境のことを考えた生活を心がけている」、「省エネや公共交通機関の利用など、環境にやさしい生活スタイルを心がけている」は令和5年度より追加
 「県内には、世界に発信できる魅力ある観光資源がある」、「若者の『ひきこもり』など、青少年が自分自身の価値や存在感を実感しにくい世の中になっている」は令和6年度より削除
 「子ども・若者をめぐる昨今問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい」は令和6年度より追加
 「いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など、食事のマナーを正しくできている」、「食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけている」は令和7年度より追加

「そう思わない」の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回調査と同様に「(15)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が第1位、「(19)今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている」が第2位、前回調査で第6位の「(14)公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい」が第3位となった。(図表2(2))

図表2(2) 生活意識「そう思わない」の上位10項目—過去との比較

	令和3年度 (n = 1,503)	令和4年度 (n = 1,404)	令和5年度 (n = 1,241)	令和6年度 (n = 1,206)	令和7年度 (n = 1,627)
1位	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ (86.1%)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ (88.0%)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ (87.7%)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ (86.6%)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ (88.8%)
2位	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている (80.7%)	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている (81.6%)	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている (80.9%)	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている (82.4%)	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている (81.3%)
3位	今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている (79.5%)	今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている (81.5%)	今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている (79.9%)	今後10年くらいの間に、地域の大人が、子ども・若者の健やかな成長に責任を持つようになっている (79.6%)	公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい (75.4%)
4位	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている (76.5%)	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている (75.9%)	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている (76.6%)	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている (77.8%)	子ども・若者が自分自身の価値や存在感を実感できる世の中になっている (71.1%)
5位	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている (75.2%)	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている (75.5%)	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている (74.6%)	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている (75.0%)	今後10年くらいの間に、外国人にとって暮らしやすい地域社会になっている (66.9%)
6位	公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい (70.6%)	公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい (71.9%)	公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい (73.9%)	公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい (72.7%)	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている (65.5%)
7位	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている (69.1%)	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている (69.5%)	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている (68.3%)	子ども・若者が自分自身の価値や存在感を実感できる世の中になっている (72.0%)	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている (64.8%)
8位	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている (68.2%)	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている (67.8%)	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもりなどの子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている (66.1%)	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている (69.7%)	神奈川県でくらす外国人も日本人と同じような権利を持つべきだ (56.7%)
9位	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもりなどの子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている (67.3%)	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもりなどの子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている (67.6%)	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている (63.7%)	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもりなどの子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている (67.0%)	まちなみ、歴史的建造物の保全や公園づくりなど、まちづくり関係の活動に参加してみたい (56.6%)
10位	今後10年くらいの間に、外国人にとって暮らしやすい地域社会になっている (65.0%)	今後10年くらいの間に、外国人にとって暮らしやすい地域社会になっている (64.0%)	今後10年くらいの間に、外国人にとって暮らしやすい地域社会になっている (63.6%)	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている (66.2%)	安全・安心なまちづくりのための地域活動に参加したい (49.8%)

※ 「今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている」は令和6年度より削除

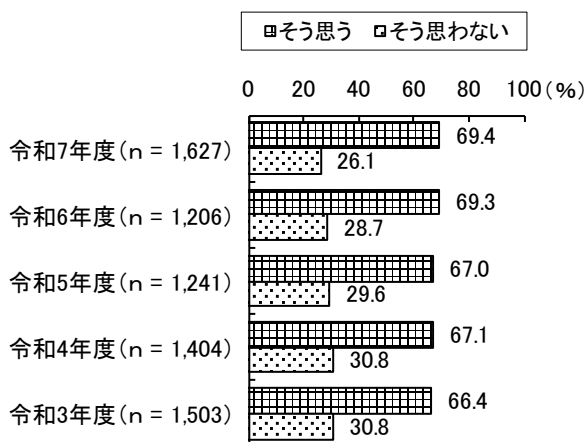
「今後10年くらいの間に、地域の大人が、子ども・若者の健やかな成長に責任を持つようになっている」、

「子ども・若者が自分自身の価値や存在感を実感できる世の中になっている」は令和6年度より追加

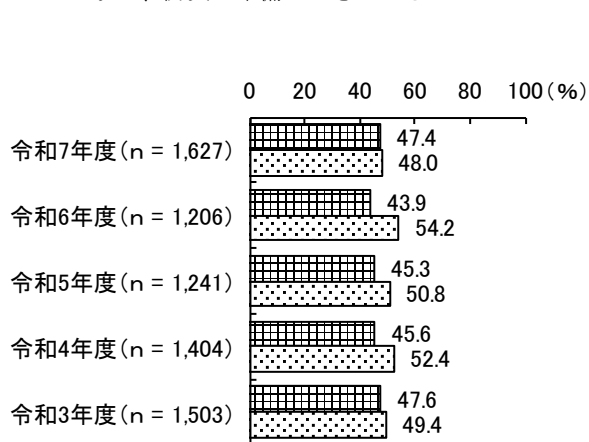
「教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている」、「今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもりなどの子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている」、「今後10年くらいの間に、地域の大人が、子ども・若者の健やかな成長に責任を持つようになっている」、「今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている」は令和7年度より削除

図表 2 (3) 生活意識（過去との比較）

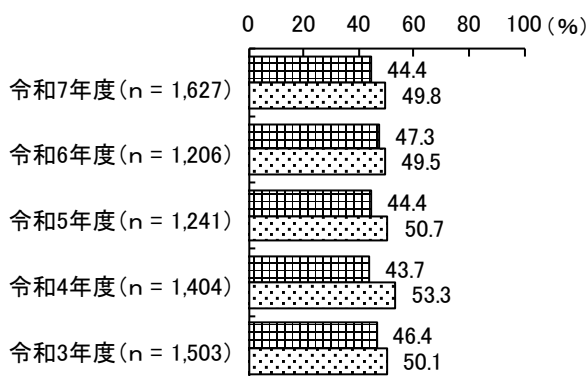
(1) 今住んでいる地域は、夜、一人歩きをしても安全だ



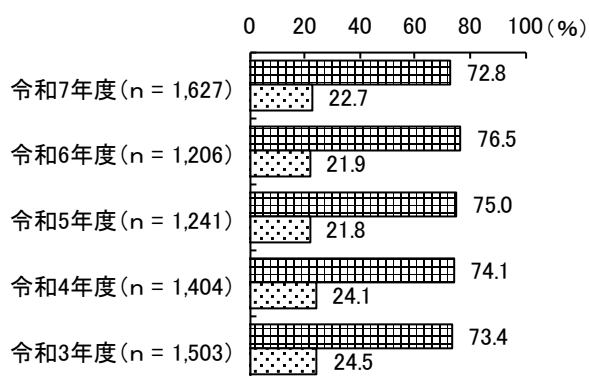
(2) 大地震などの災害がおきても3日はくらせるように、防災の準備ができている



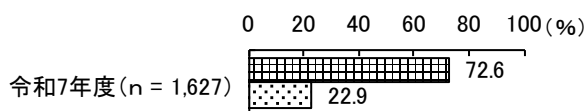
(3) 安全・安心なまちづくりのための地域活動に参加したい



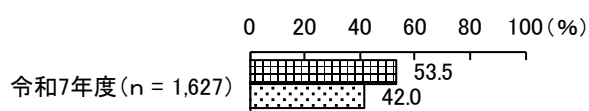
(4) 日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている



(5) いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など、食事のマナーを正しくできている



(6) ゆっくりよく噛んで食べている

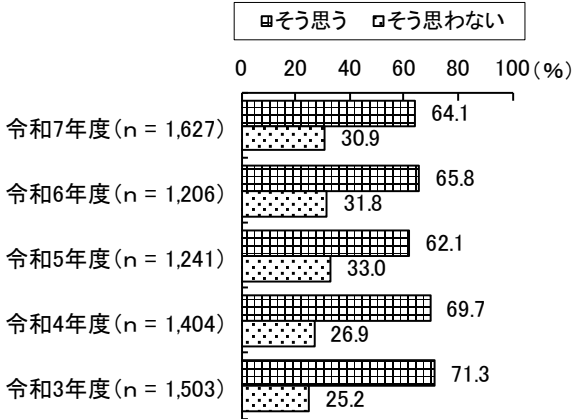


(注) 令和7年度から追加された項目である

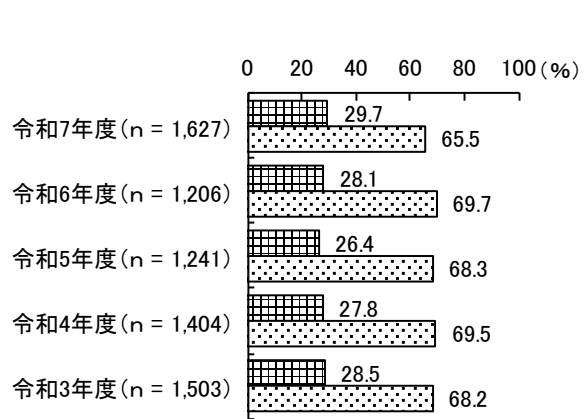
(注) 令和7年度から追加された項目である

図表 2 (3) 生活意識 (過去との比較) (つづき)

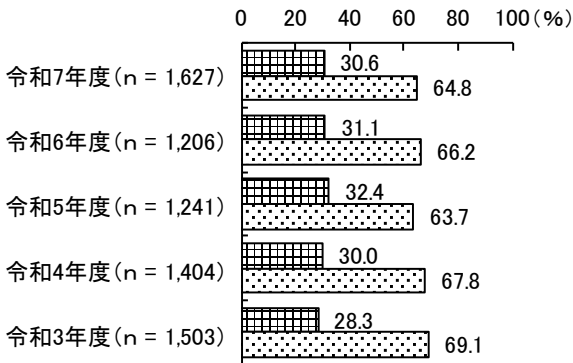
(7) 住居の造りや介護サービスの提供が
今のような状態の環境では、
高齢者が安心して生活するのはむずかしい



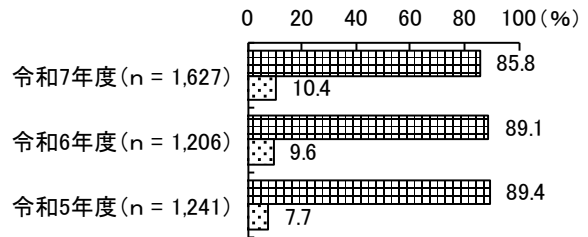
(8) 鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、
誰もが安心して移動・利用できる、
人にやさしいまちになっている



(9) 一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを
習慣的に行っている

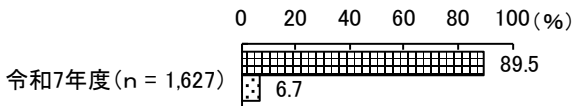


(10) ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを
意識する、できるだけゴミを減らすなど、
環境のことを考えた生活を心がけている



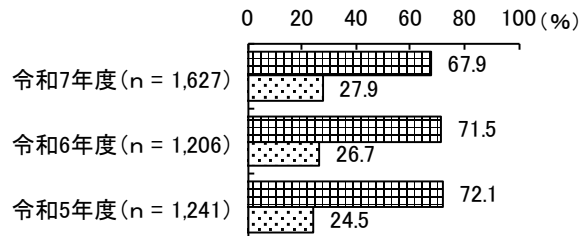
(注) 令和5年度から追加された項目である

(11) 食べ物を無駄にしないよう食べ残しや
買いすぎなどに気をつけている



(注) 令和7年度から追加された項目である

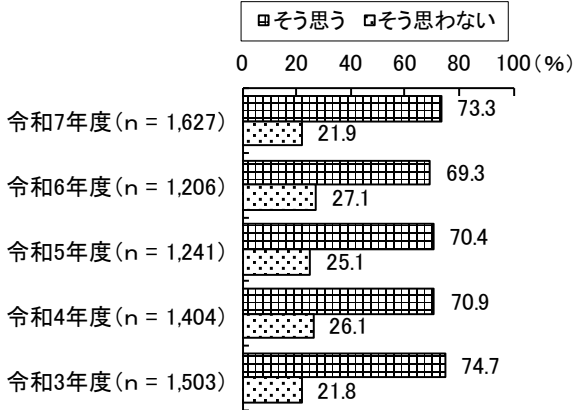
(12) 省エネや公共交通機関の利用など、
環境にやさしい生活スタイルを心がけている



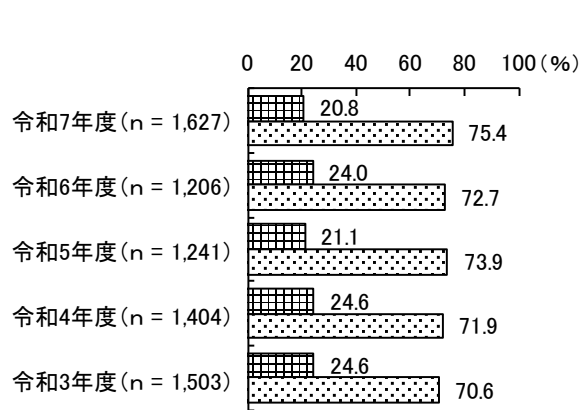
(注) 令和5年度から追加された項目である

図表 2 (3) 生活意識 (過去との比較) (つづき)

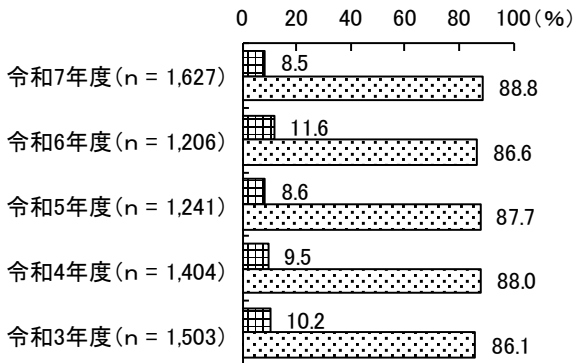
(13) 森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ



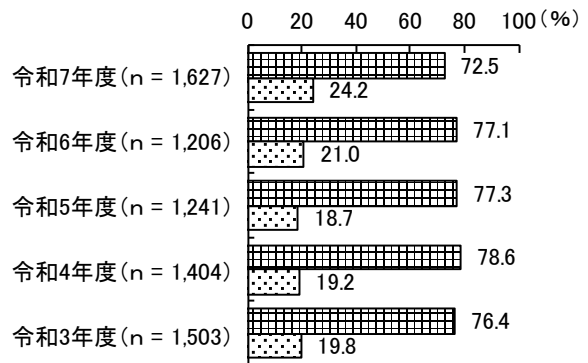
(14) 公益活動を行うNPOなどに寄附してみたい



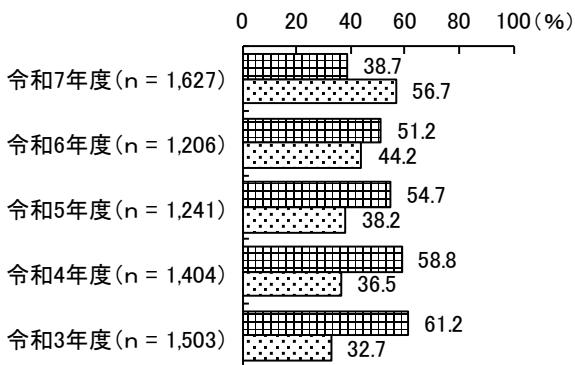
(15) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



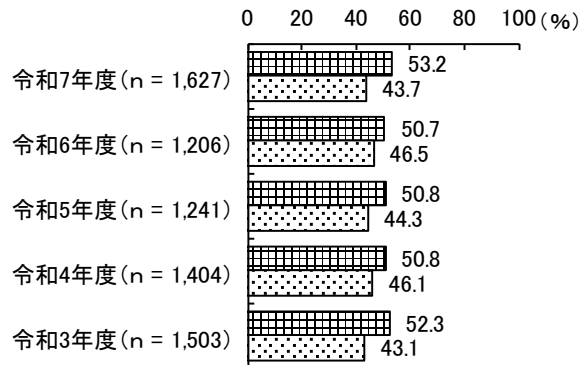
(16) 女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ



(17) 神奈川県でくらす外国人も日本人と同じような権利を持つべきだ

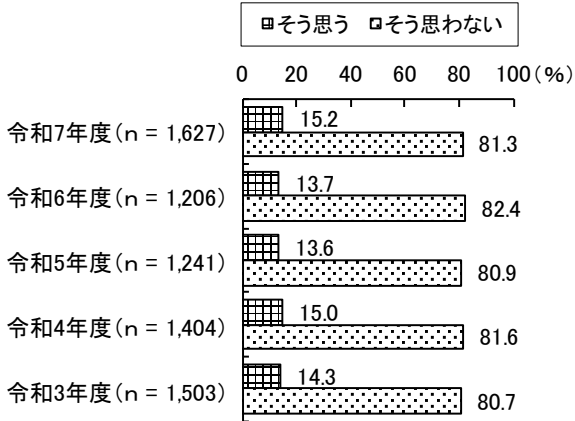


(18) いじめや差別は、一人ひとりが思いやりの心を持ってばなくせるものだ

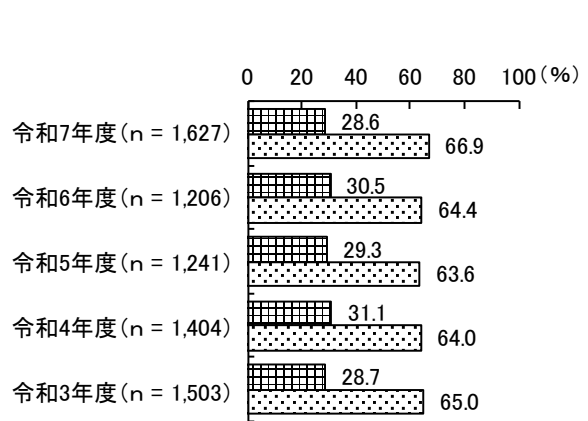


図表 2 (3) 生活意識 (過去との比較) (つづき)

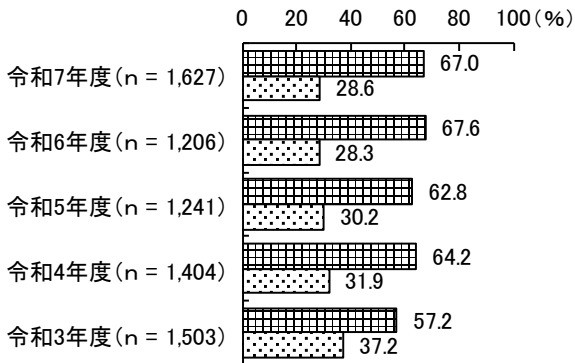
(19) 今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている



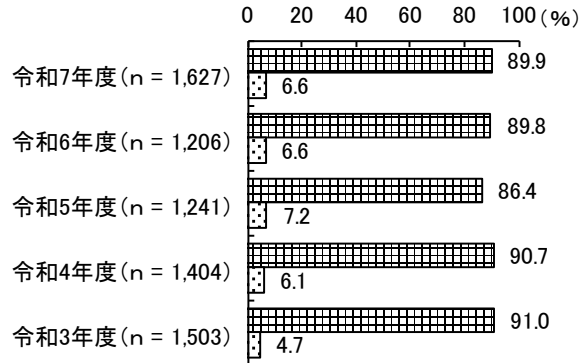
(20) 今後10年くらいの間に、外国人にとってもくらしやすい地域社会になっている



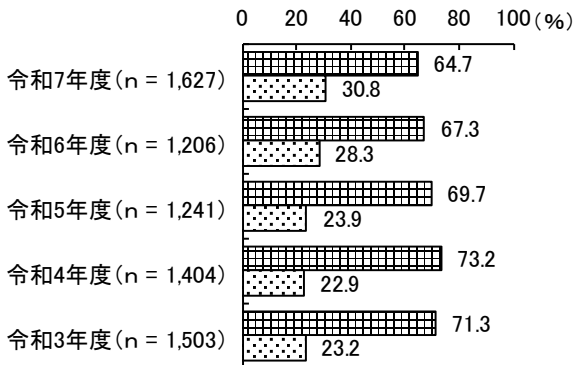
(21) 子どもを生み育てる環境が今のままでは、子どもを持つのはむずかしい



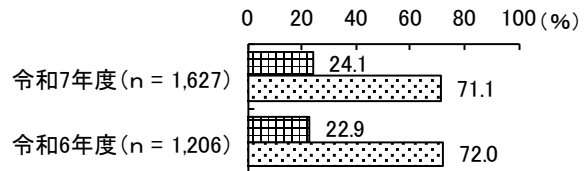
(22) 育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ



(23) 国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい



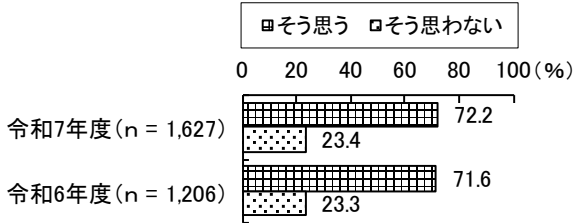
(24) 子ども・若者が自分自身の価値や存在感を実感できる世の中になっている



(注) 令和6年度から追加された項目である

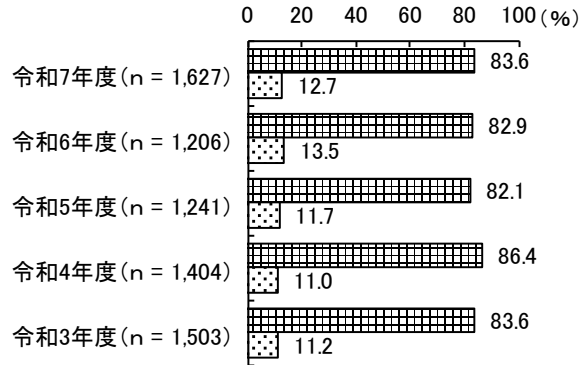
図表 2 (3) 生活意識（過去との比較）（つづき）

(25) 子ども・若者をめぐる昨今の問題は、
親や地域住民など大人の責任が大きい

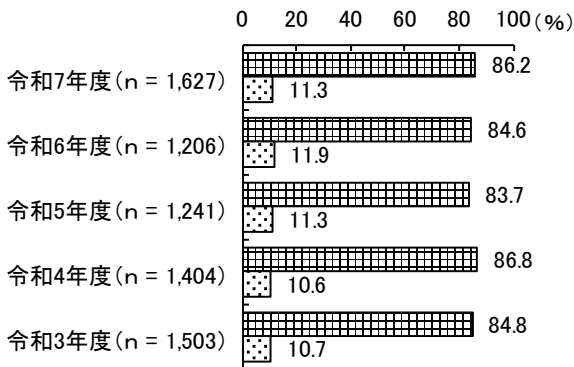


(注) 令和6年度から追加された項目である

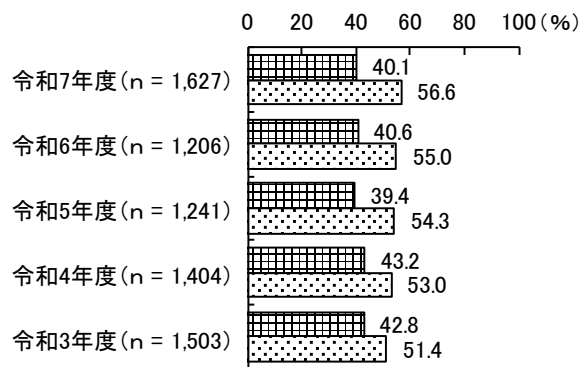
(26) 県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、
身近な森林を守ることにつながるなら、
積極的に使いたい



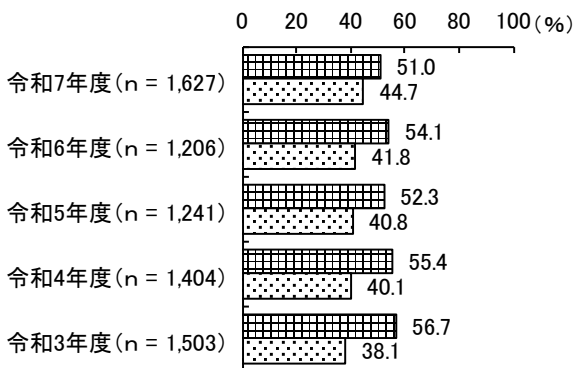
(27) 神奈川県は、歴史や文化、自然など、
地域ごとに特色があり魅力的な県だ



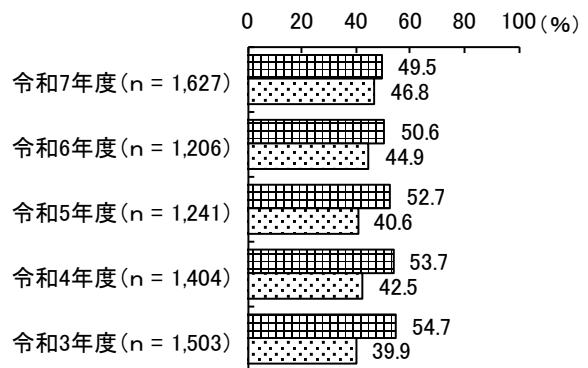
(28) まちなみ、歴史的建造物の保全や
公園づくりなど、まちづくり関係の活動に
参加してみたい



(29) 県内では、交通渋滞が激しく
自動車での移動が不便だ



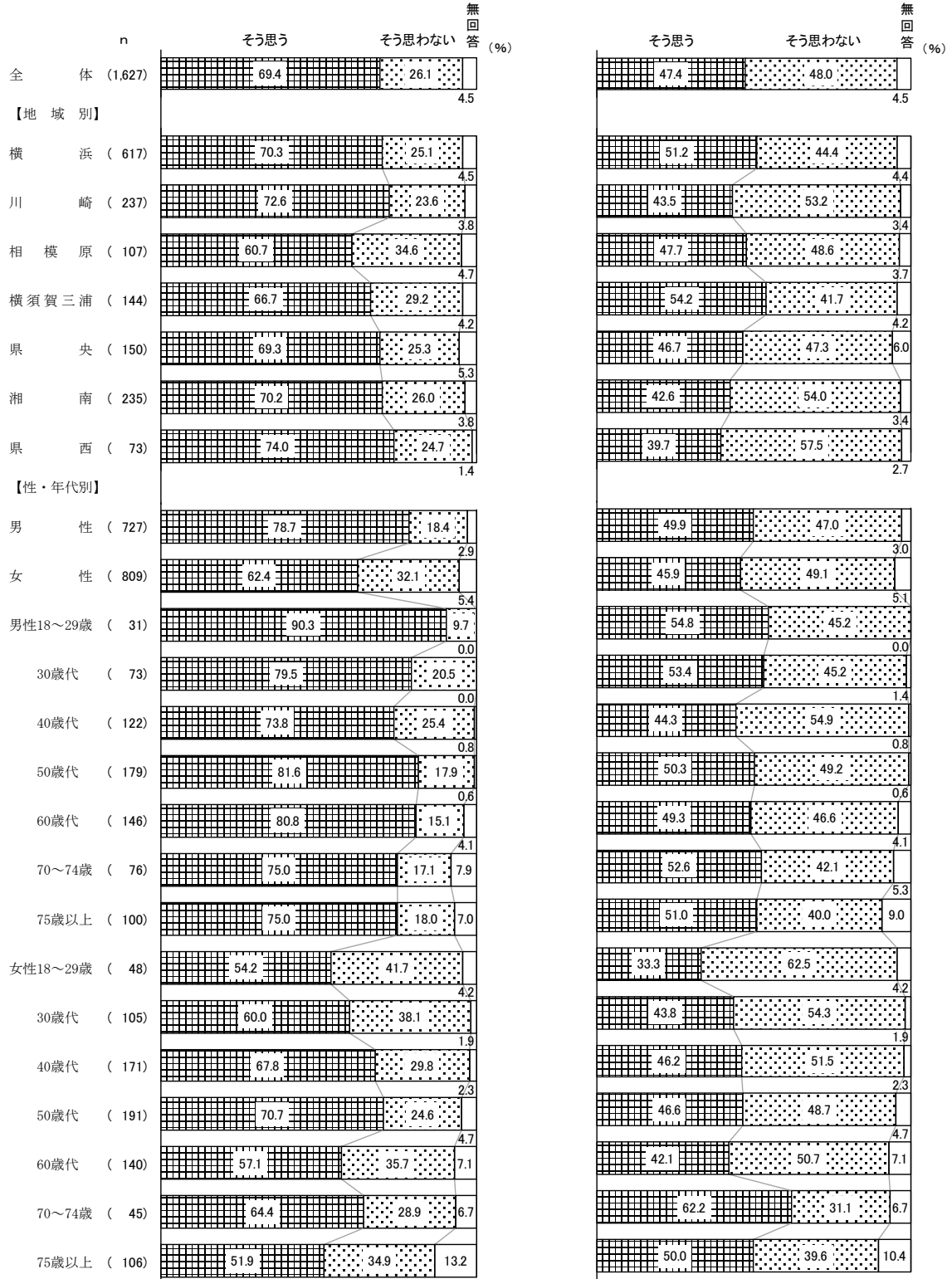
(30) 今後10年くらいの間、道路や公共交通網が
さらに充実し、県内外への利便性がよくなっ
ている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別)

(1) 今住んでいる地域は、夜、一人歩きをしても安全だ

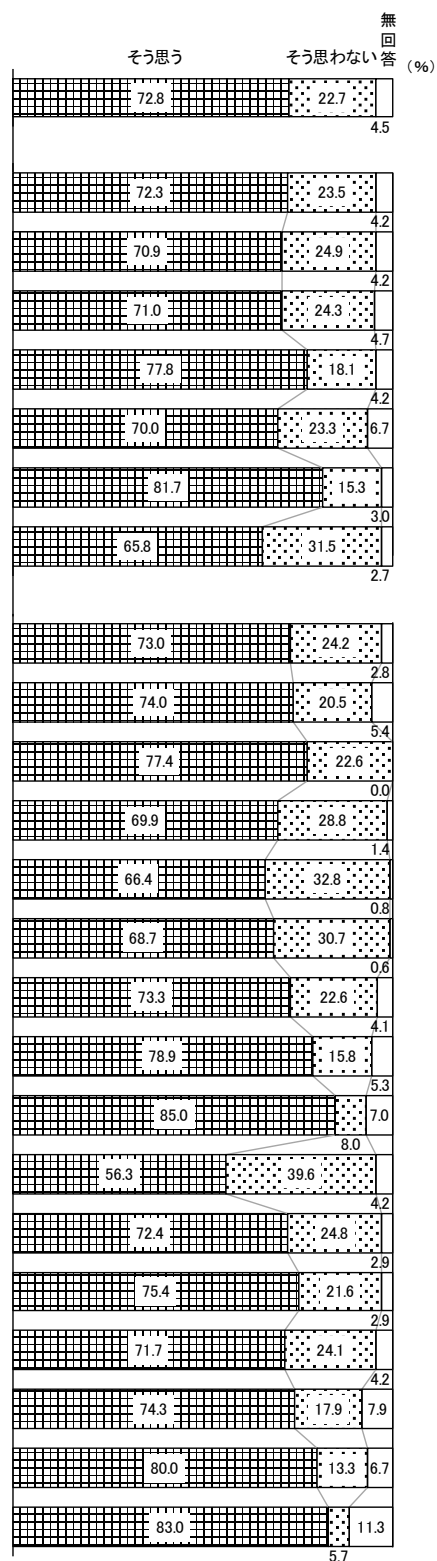
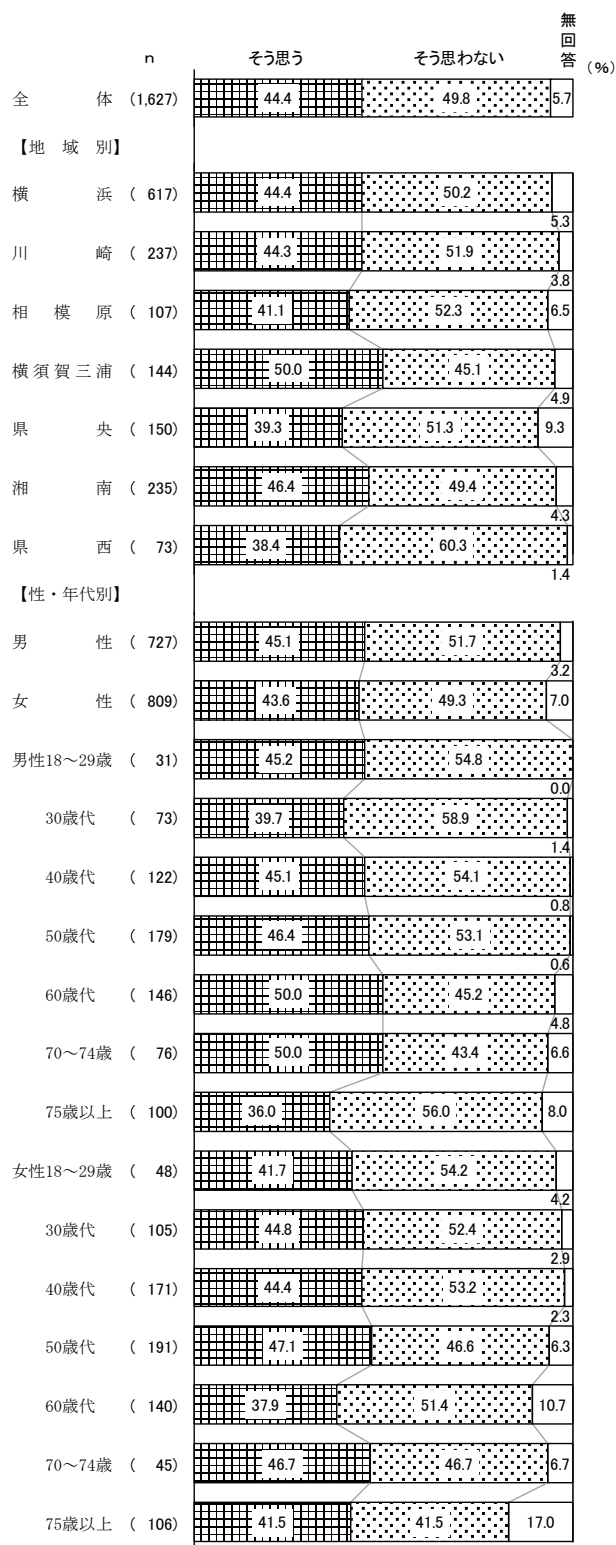
(2) 大地震などの災害がおきても3日はくらせるように、防災の準備ができている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(3) 安全・安心なまちづくりのための地域活動に参加したい

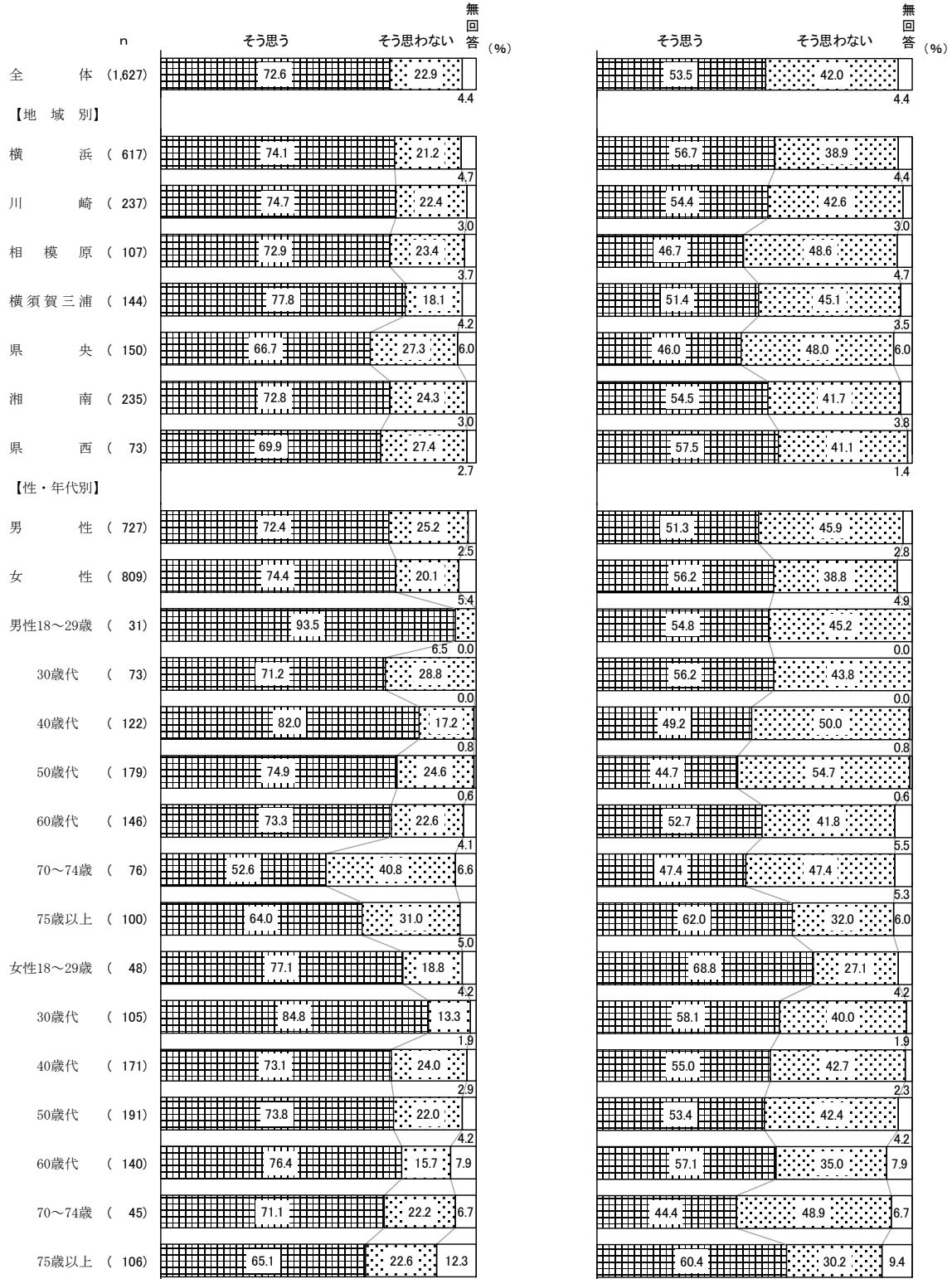
(4) 日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(5) いただきます・ごちそうさまのあいさつ、
はしの持ち方、料理の並べ方など、
食事のマナーを正しくできている

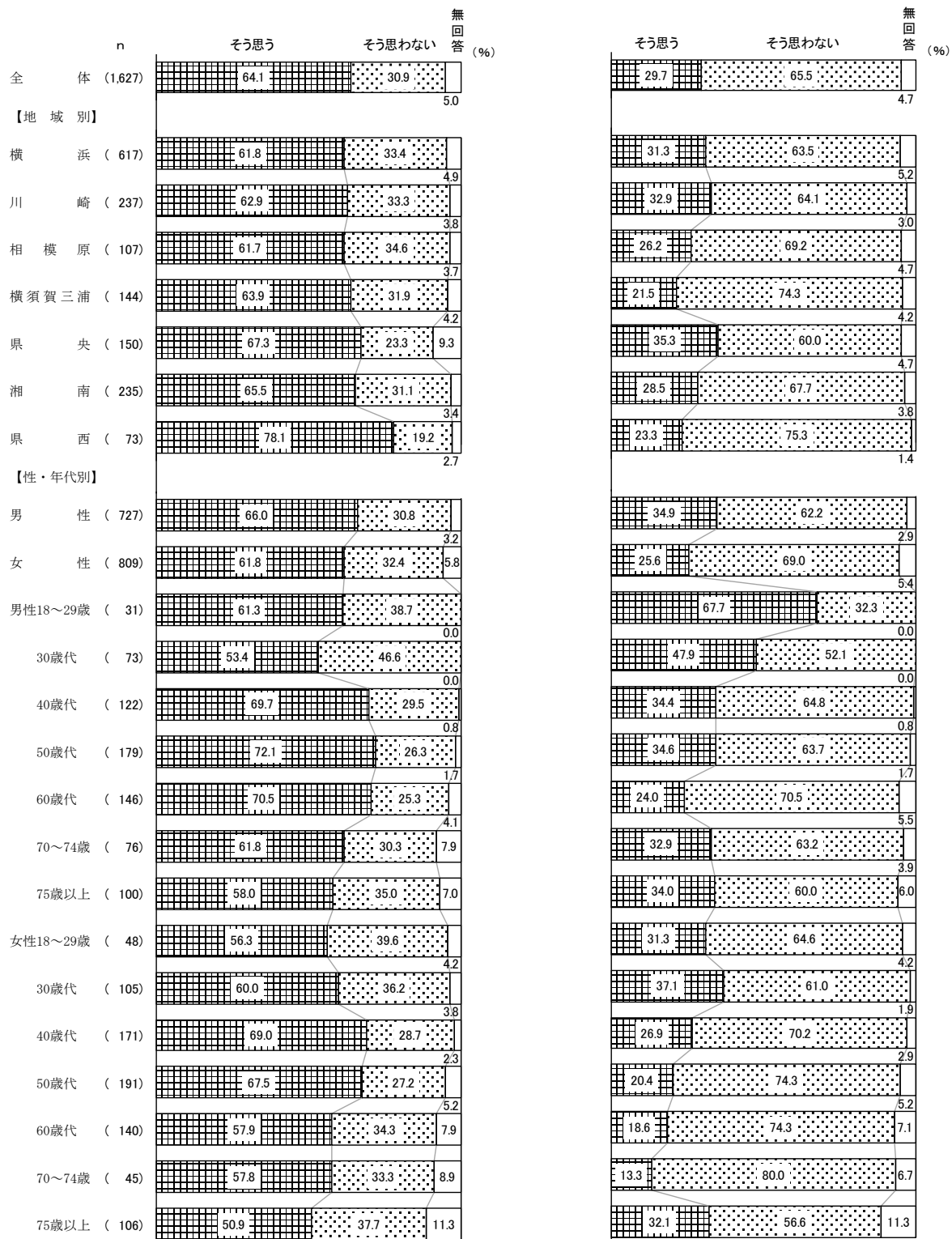
(6) ゆっくりよく噛んで食べている



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(7) 住居の造りや介護サービスの提供が
今のような状態の環境では、高齢者が
安心して生活するのはむずかしい

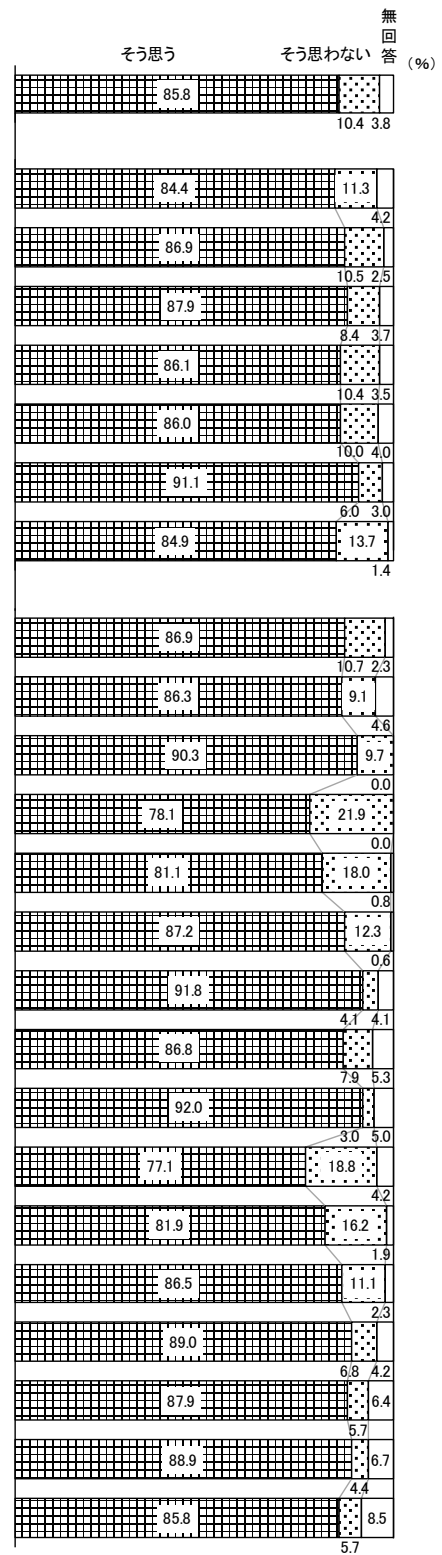
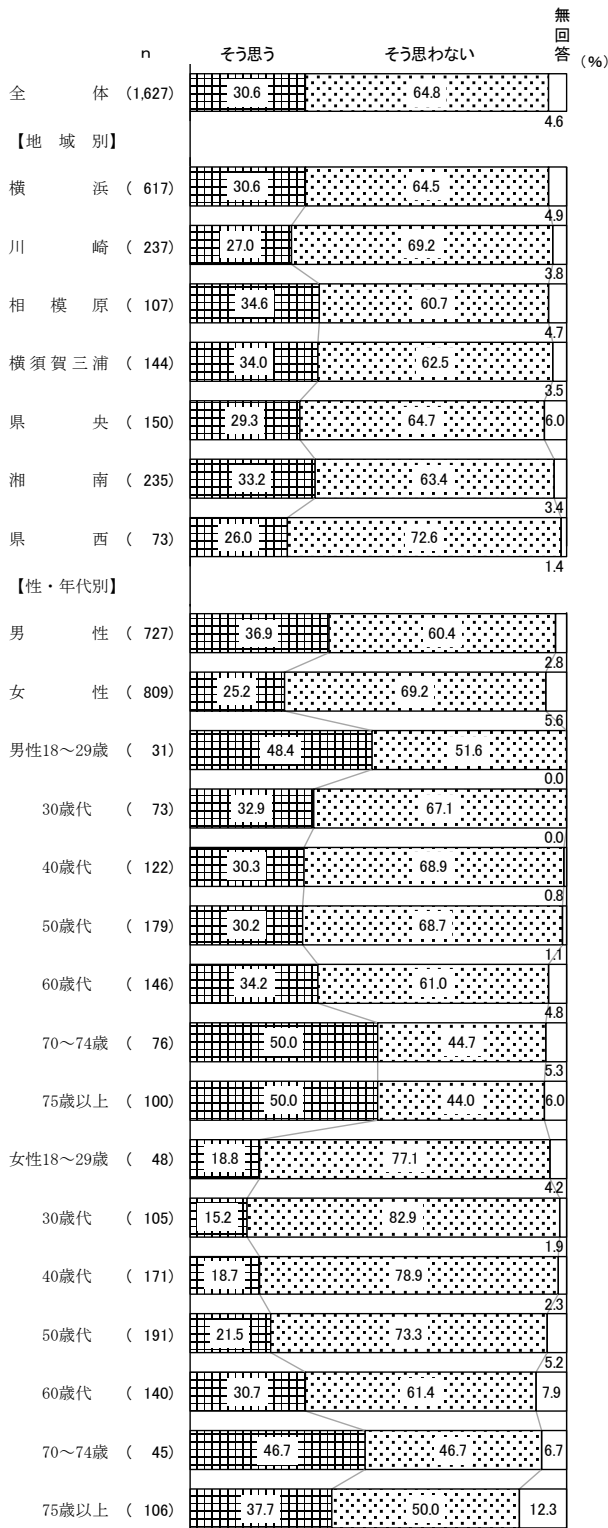
(8) 鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、
誰もが安心して移動・利用できる、人に
やさしいまちになっている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(9) 一週間に3回以上1日30分程度の
スポーツを習慣的に行っている

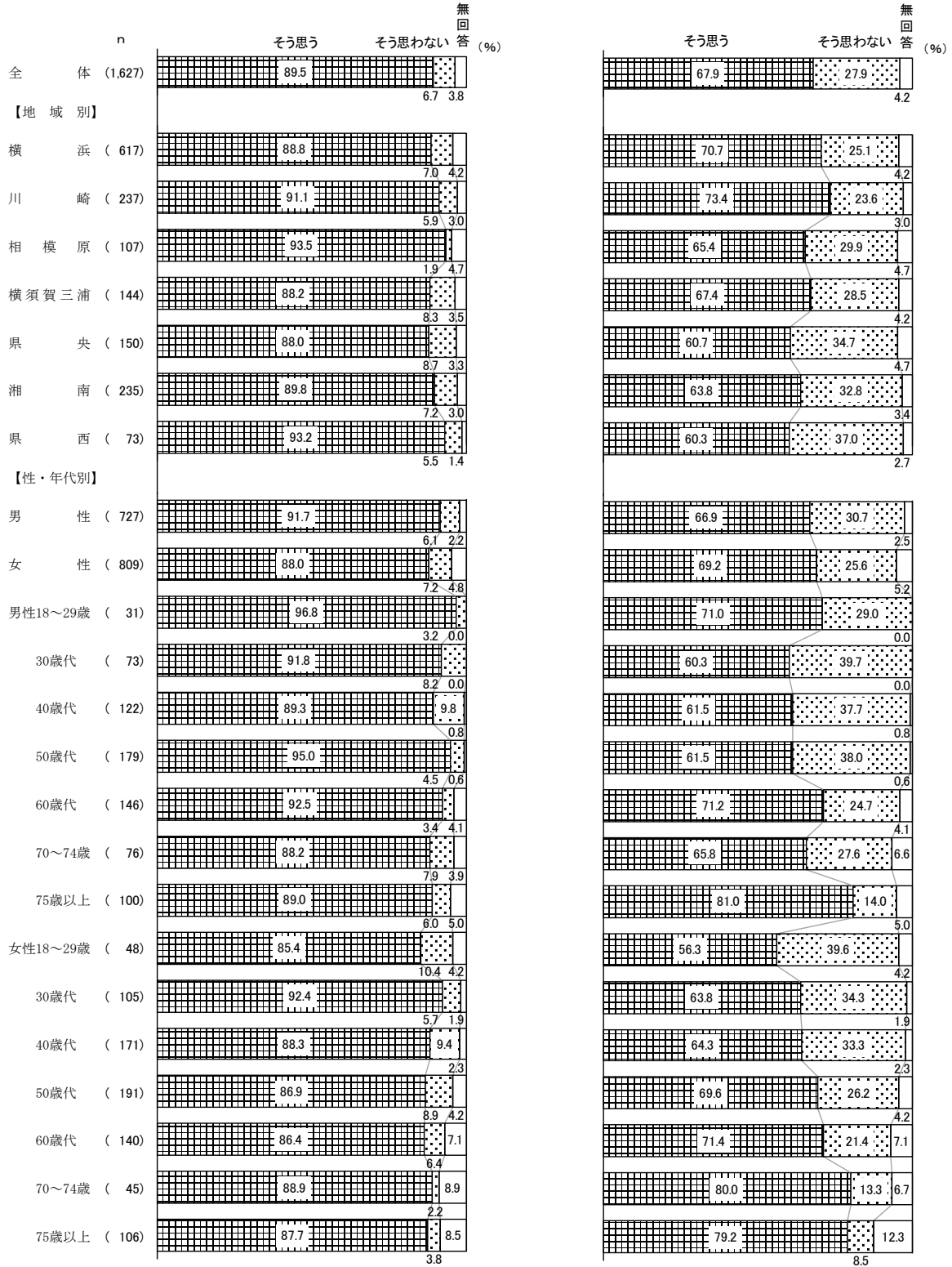
(10) ゴミを出すにあたって、分別や
リサイクルを意識する、できるだけ
ゴミを減らすなど、環境のことを考えた
生活を心がけている



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(11) 食べ物を無駄にしないよう食べ残しや
買いすぎなどに気をつけている

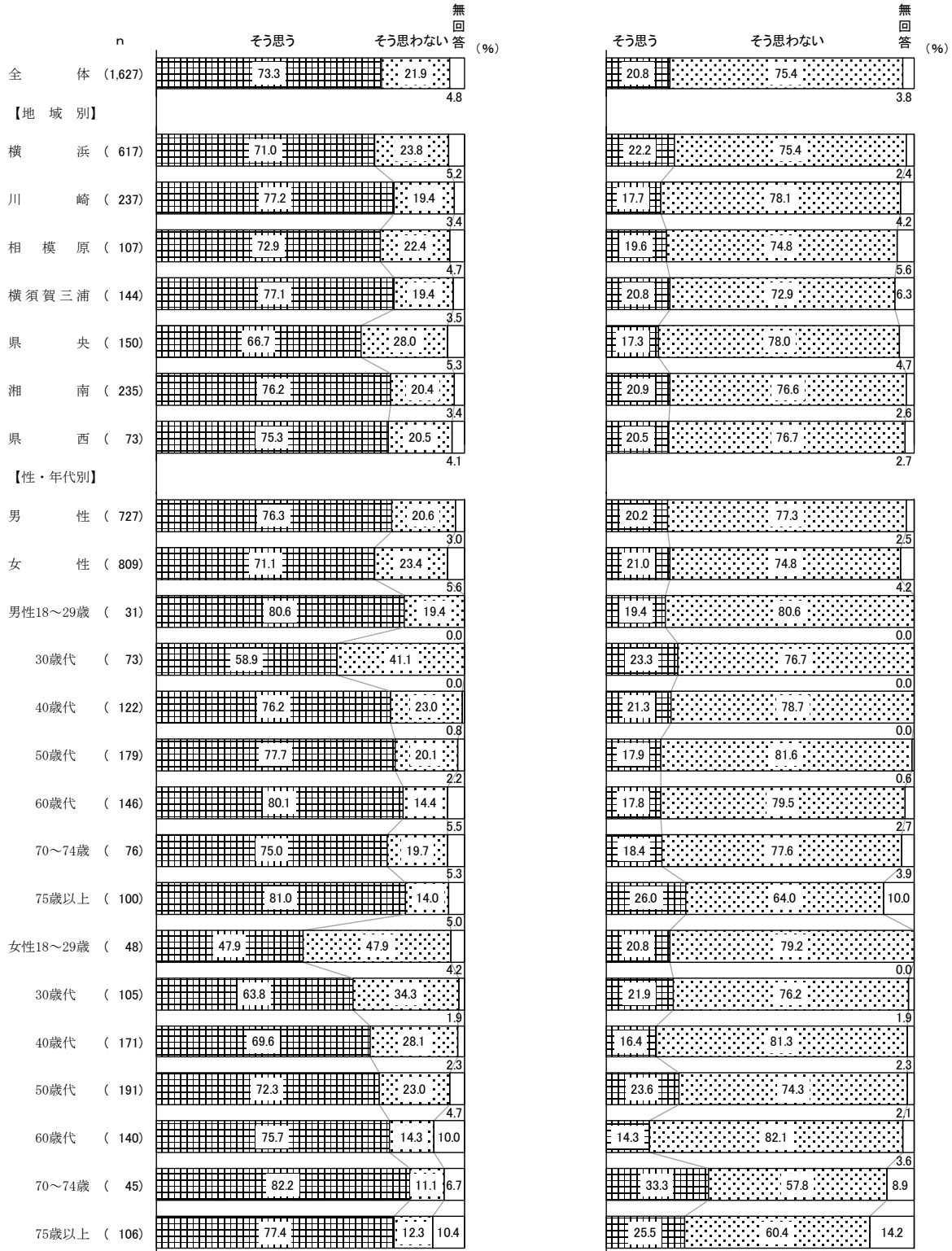
(12) 省エネや公共交通機関の利用など、環境に
やさしい生活スタイルを心がけている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(13) 森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ

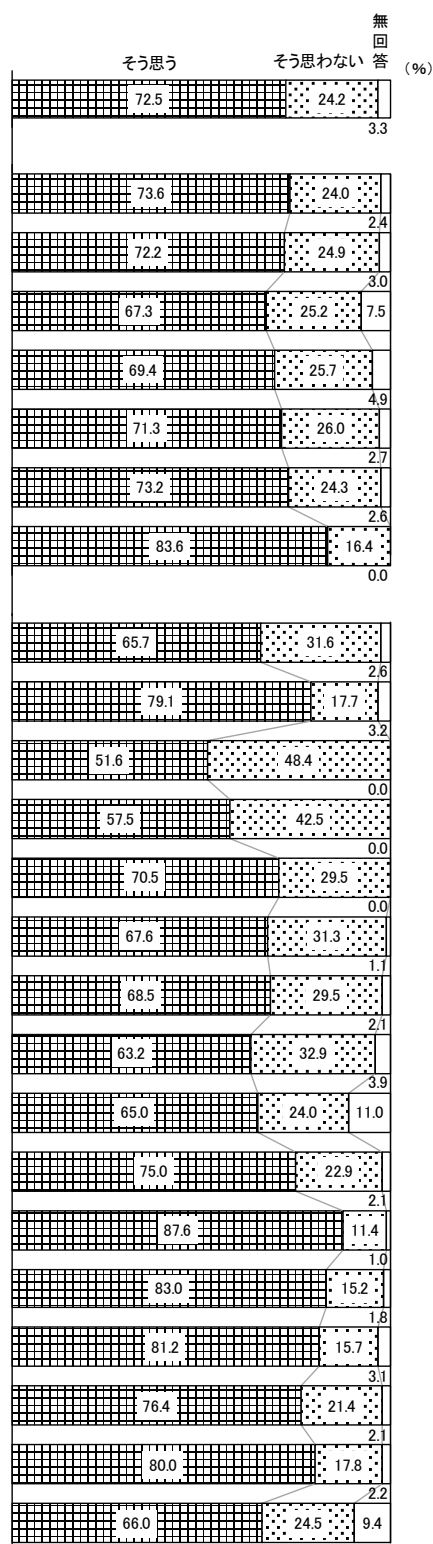
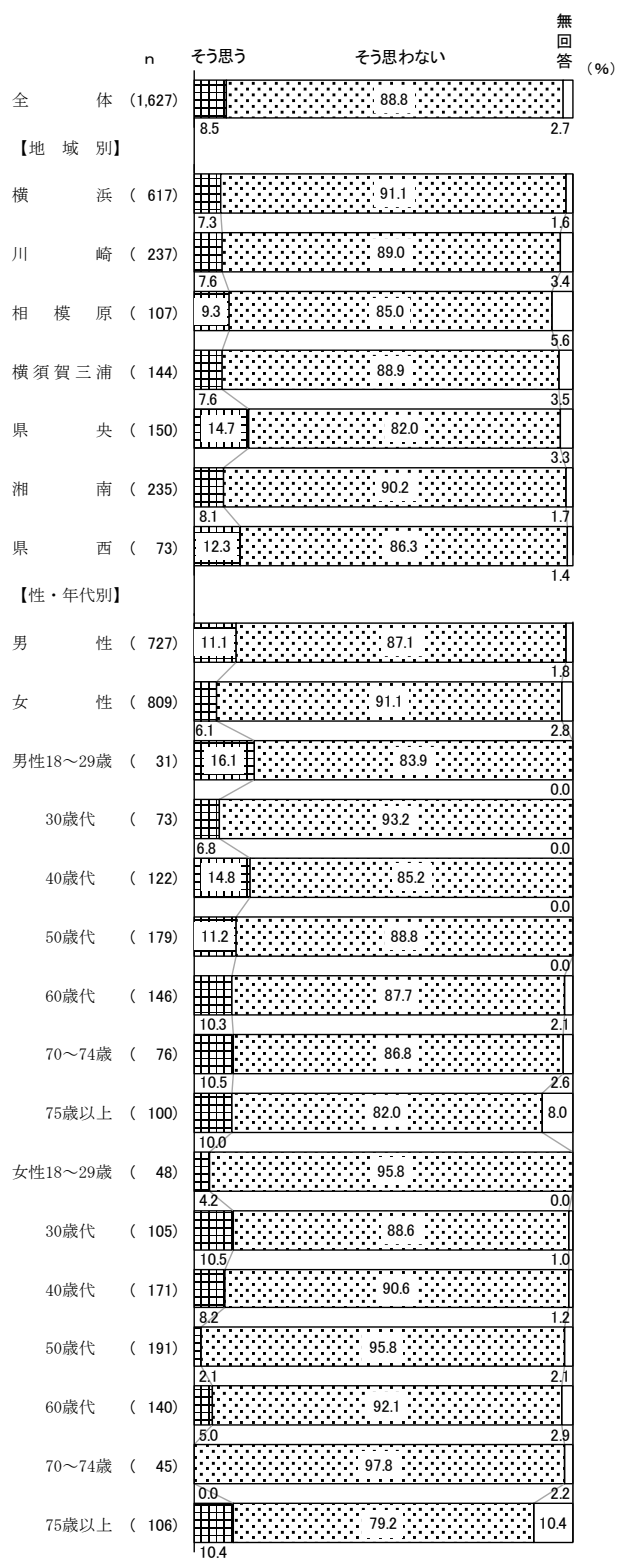
(14) 公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(15) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

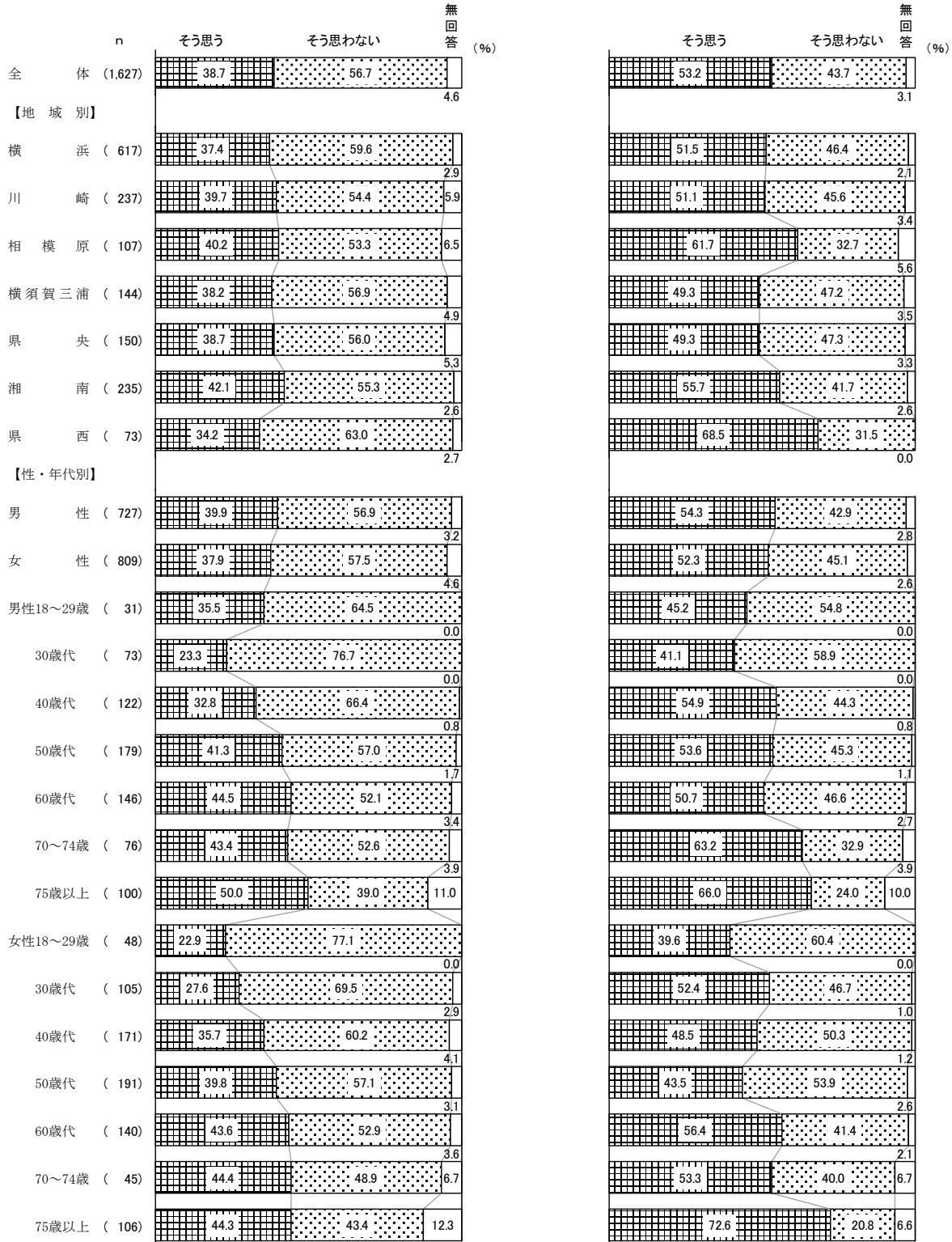
(16) 女性が働き続けるには、まだまだ
厳しい世の中だ



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(17) 神奈川県でくらす外国人も日本人と同じような権利を持つべきだ

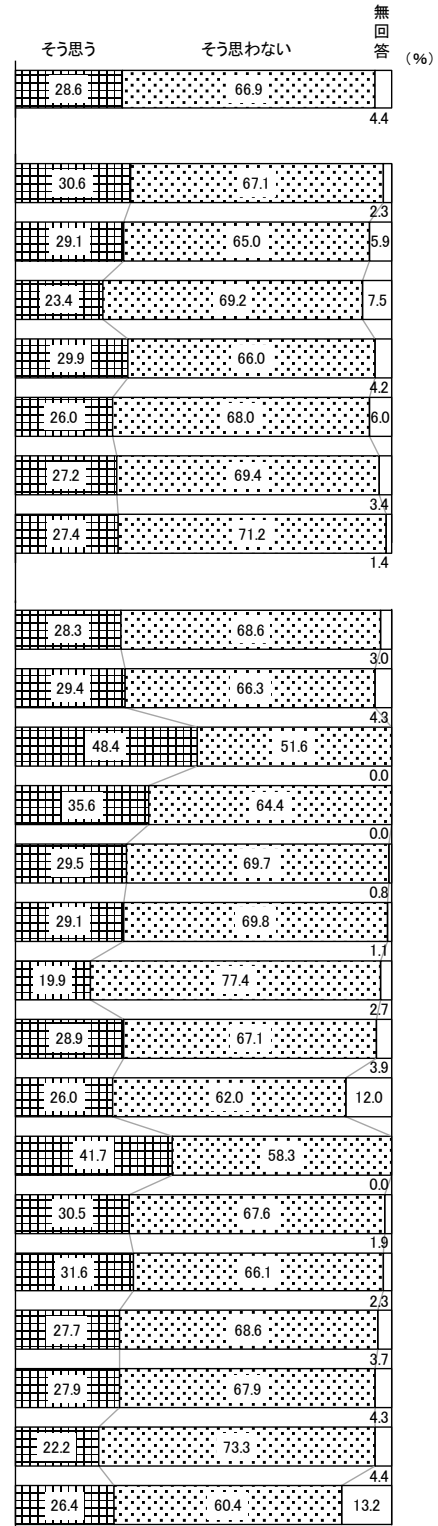
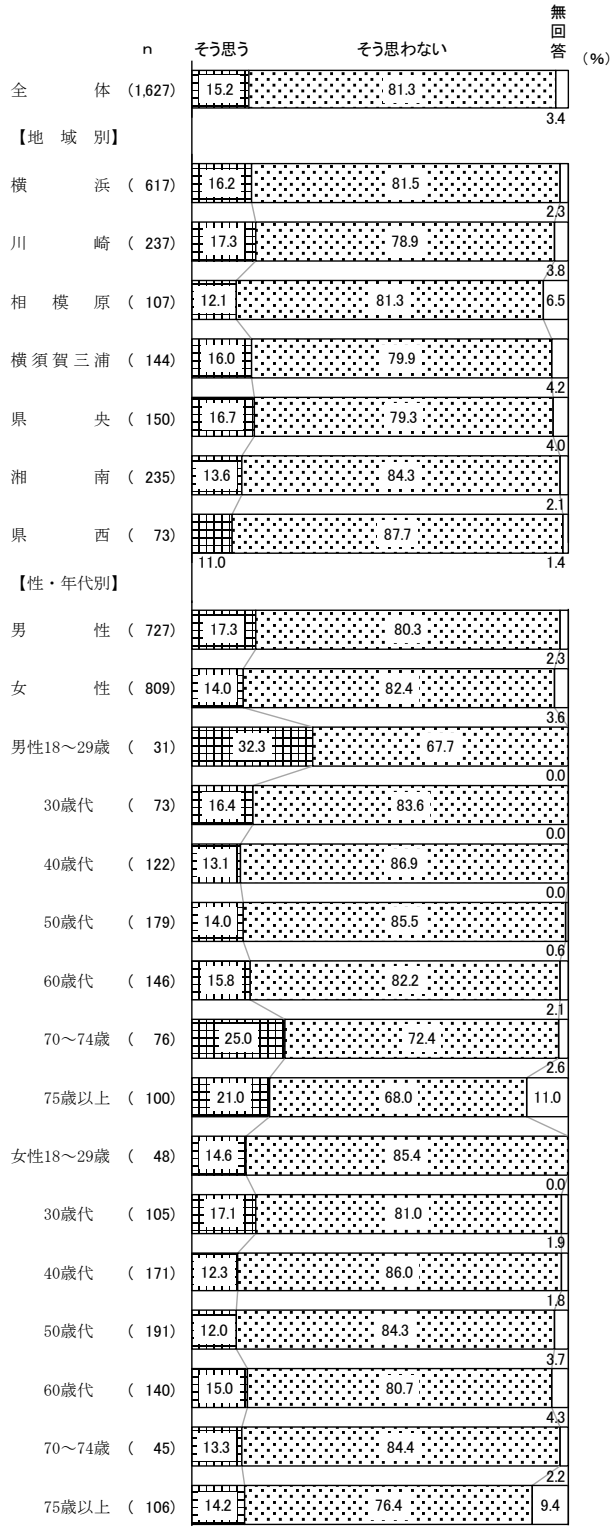
(18) いじめや差別は、一人ひとりが思いやりの心を持ってばなくせるものだ



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(19) 今後 10 年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている

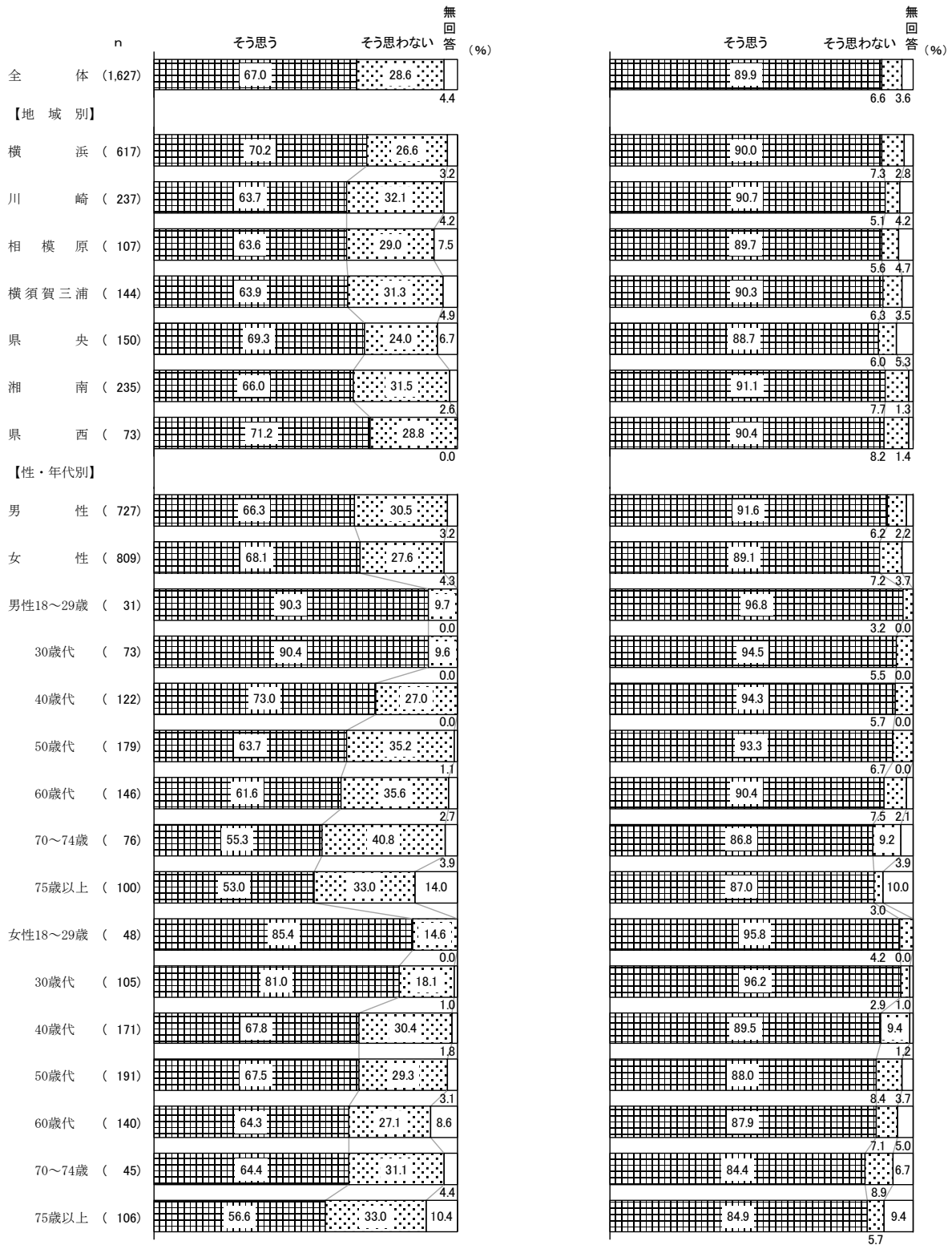
(20) 今後 10 年くらいの間に、外国人にとってもくらしやすい地域社会になっている



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(21) 子どもを生み育てる環境が今のままでは、
子どもを持つのはむずかしい

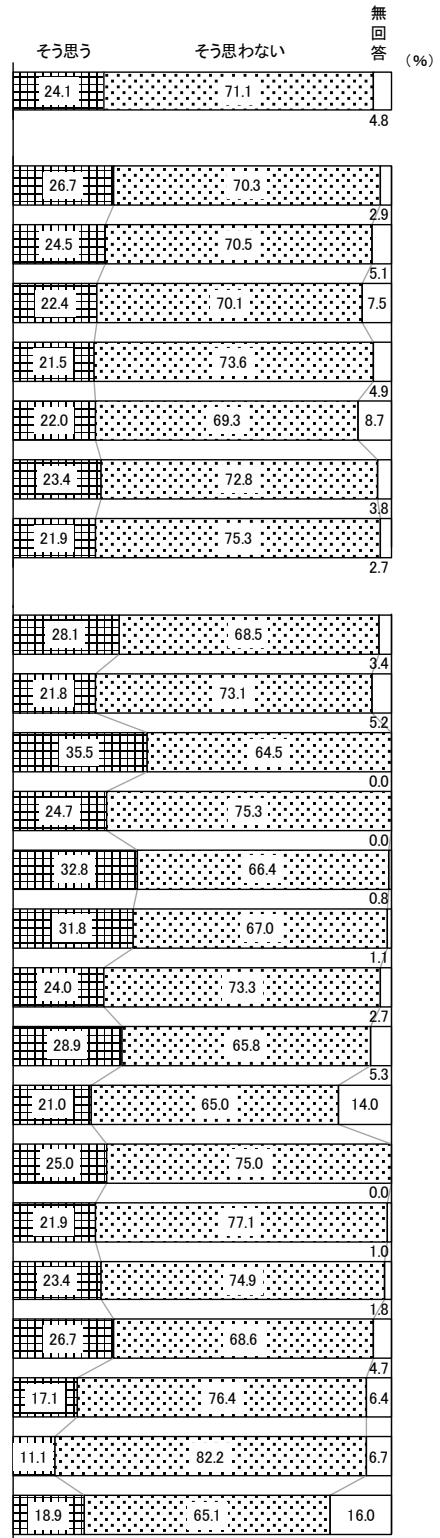
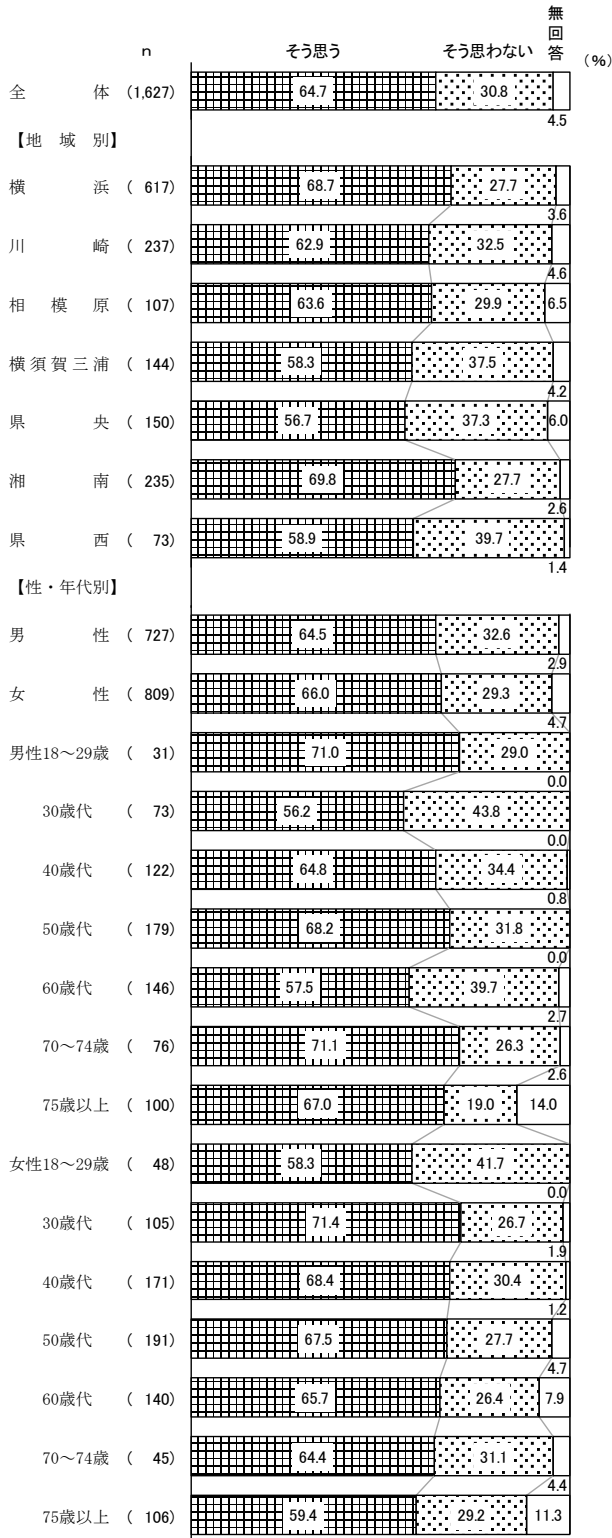
(22) 育児は社会的にも重要であり、もっと
評価されるべきだ



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(23) 国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい

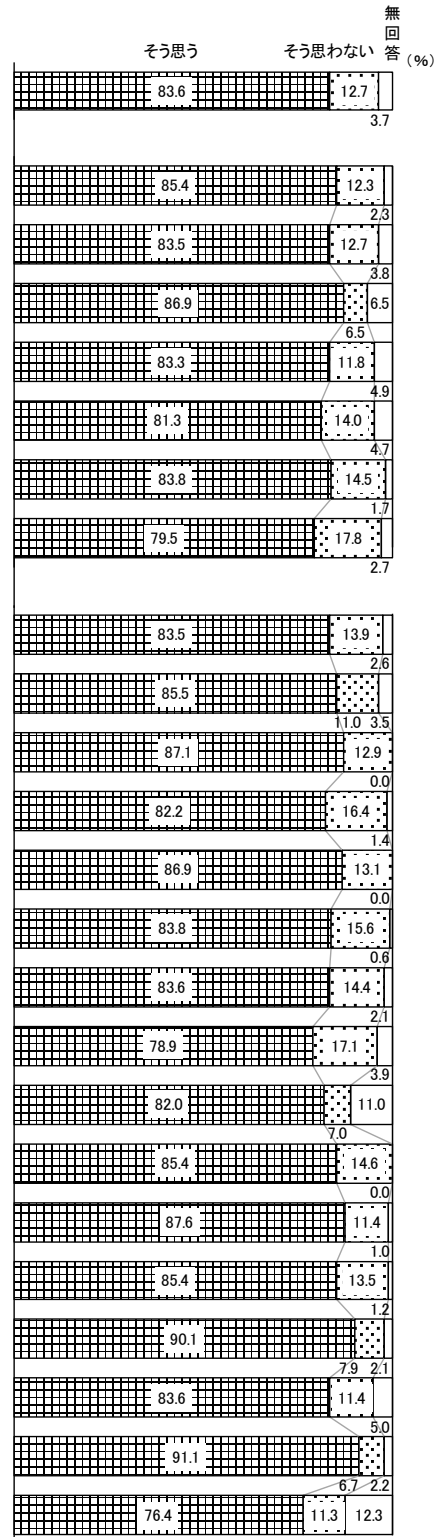
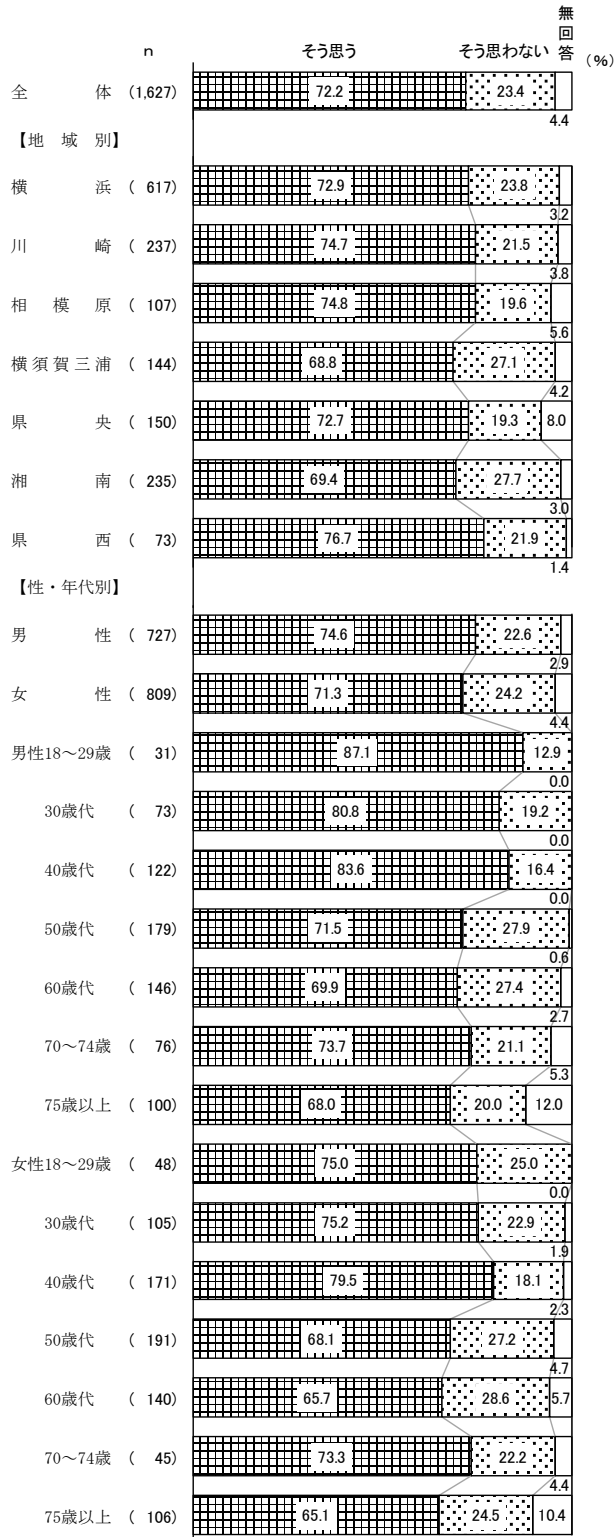
(24) 子ども・若者が自分自身の価値や存在感を実感できる世の中になっている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(25) 子ども・若者をめぐる昨今の問題は、
親や地域住民など大人の責任が大きい

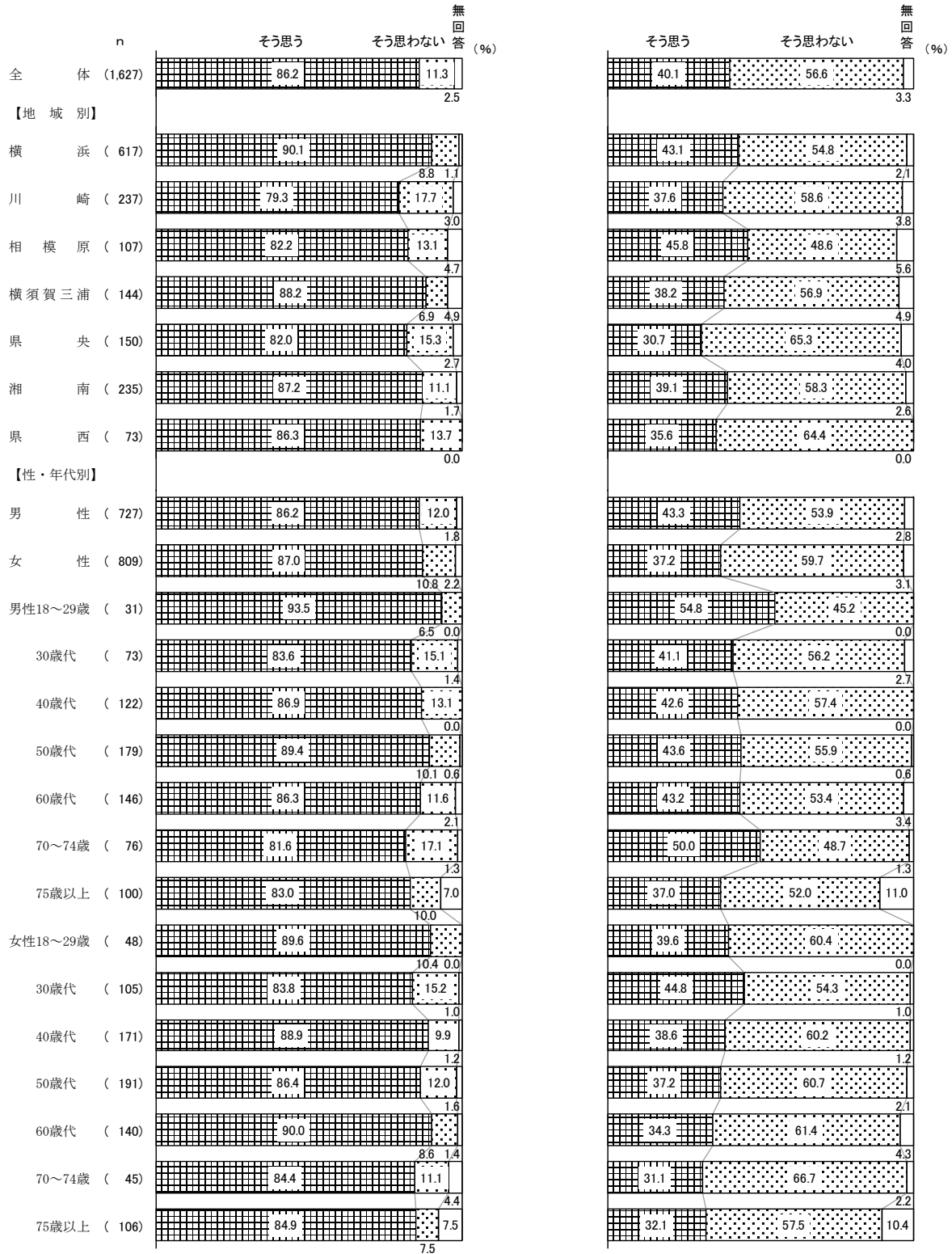
(26) 県産木材を使うことにより森林の
手入れが進み、身近な森林を守ることに
つながるなら、積極的に使いたい



図表2(4) 生活意識（地域別、性・年代別）（つづき）

(27) 神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ

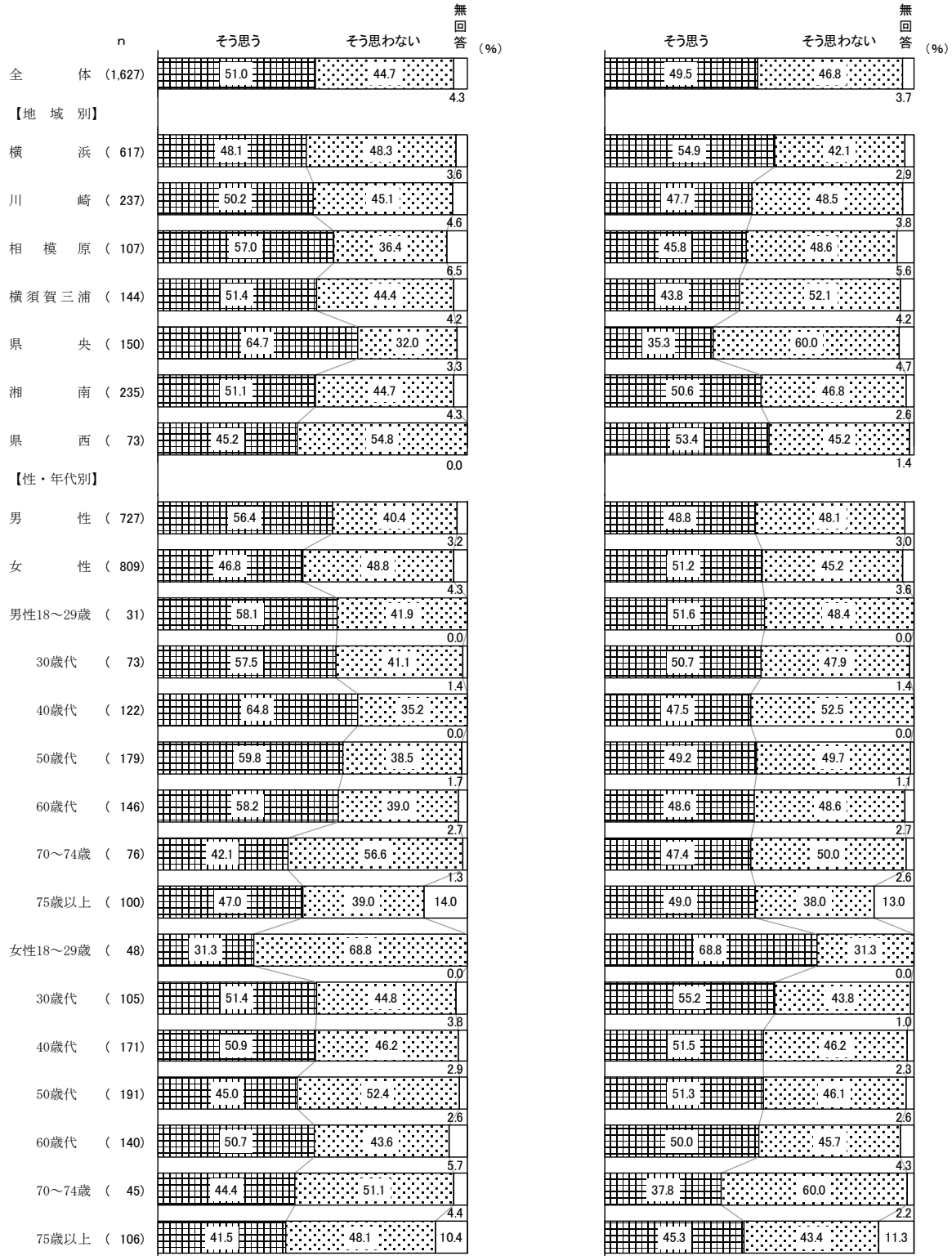
(28) まちなみ、歴史的建造物の保全や公園づくりなど、まちづくり関係の活動に参加してみたい



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(29) 県内では、交通渋滞が激しく自動車での移動が不便だ

(30) 今後 10 年くらいの間に、道路や公共交通網がさらに充実し、県内外への利便性がよくなっている



第3章 暮らしの満足度【問7】

1 重要度【問7】

身近な生活に関する38項目について、どの程度重要だと感じているかを尋ねた。項目ごとに重要度を「非常に重要である」から「まったく重要ではない」までの5段階で回答してもらった。

なお、回答選択肢は、「非常に重要である」「かなり重要である」「どちらともいえない」「さほど重要でない」「まったく重要ではない」の5区分に「分からない」を加えた6区分とした。

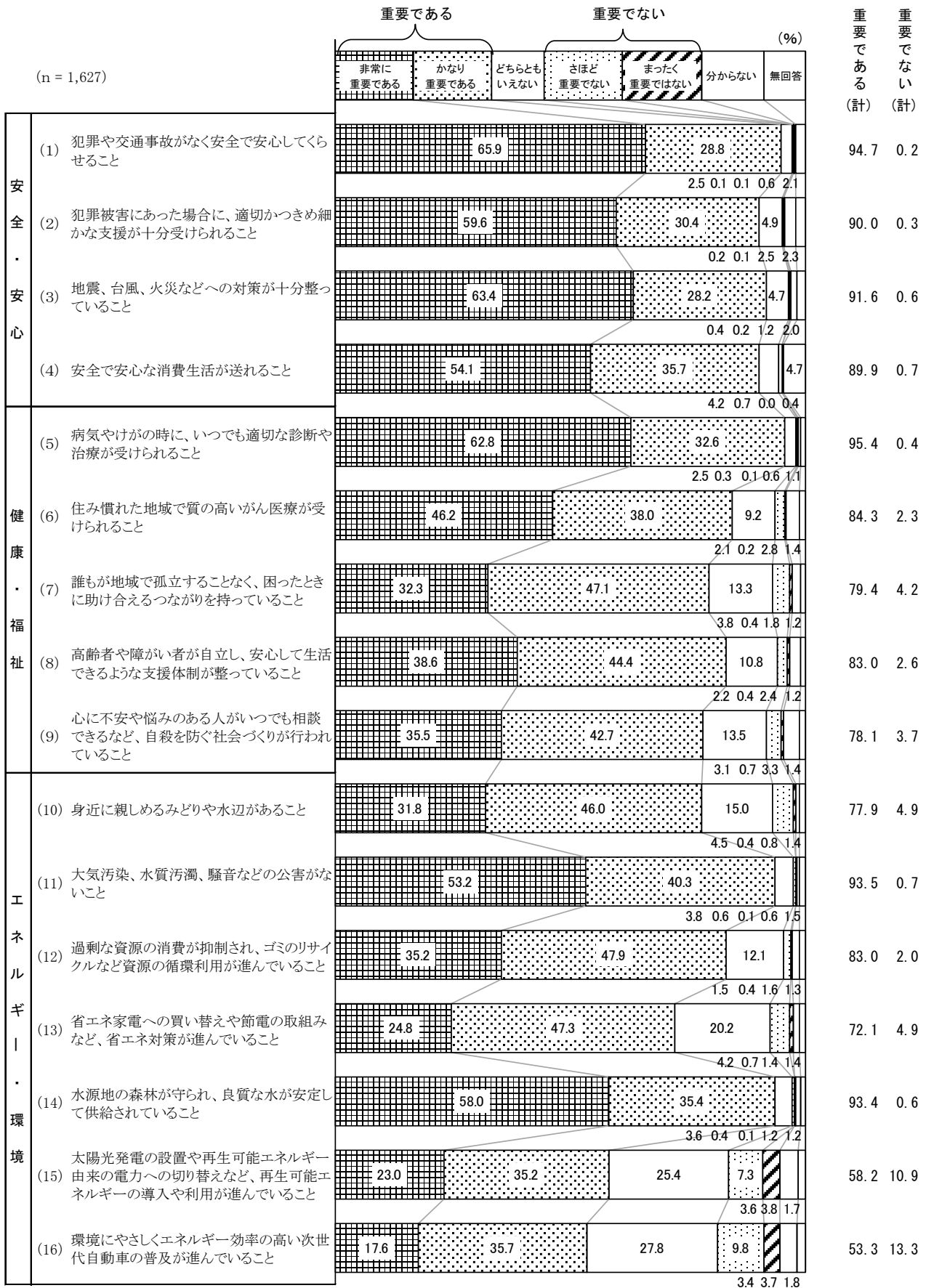
【全体の状況】

項目別の重要度の回答状況は、図表3-1-1に示すとおりである。

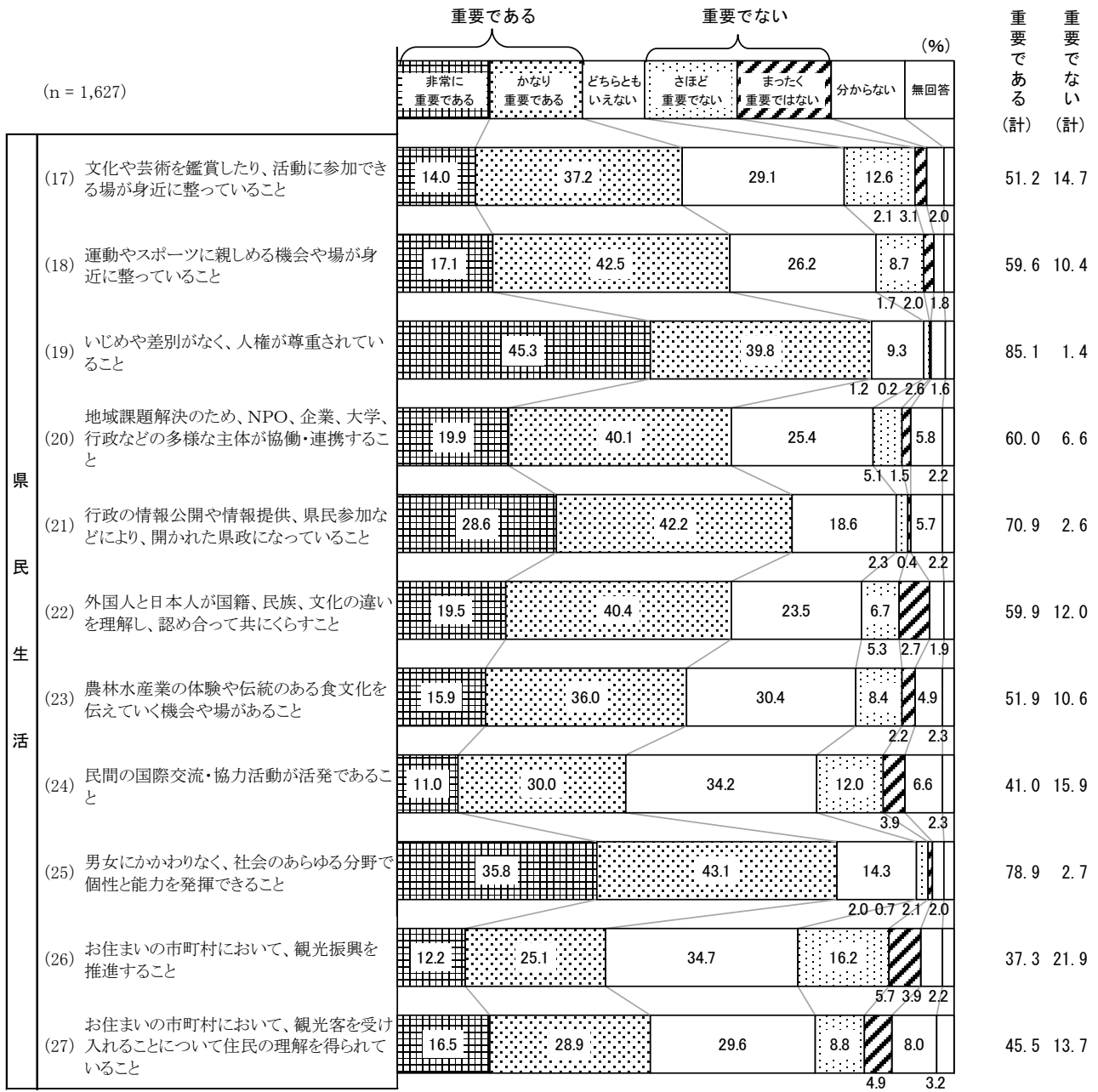
「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせた《重要である》と「さほど重要でない」と「まったく重要ではない」を合わせた《重要でない》を比較すると、すべての項目で《重要である》が《重要でない》を上回った。

《重要である》をみると、「(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」が95.4%で最も多く、「(1) 犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること」(94.7%)、「(11) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと」(93.5%)が続いた。(図表3-1-1)

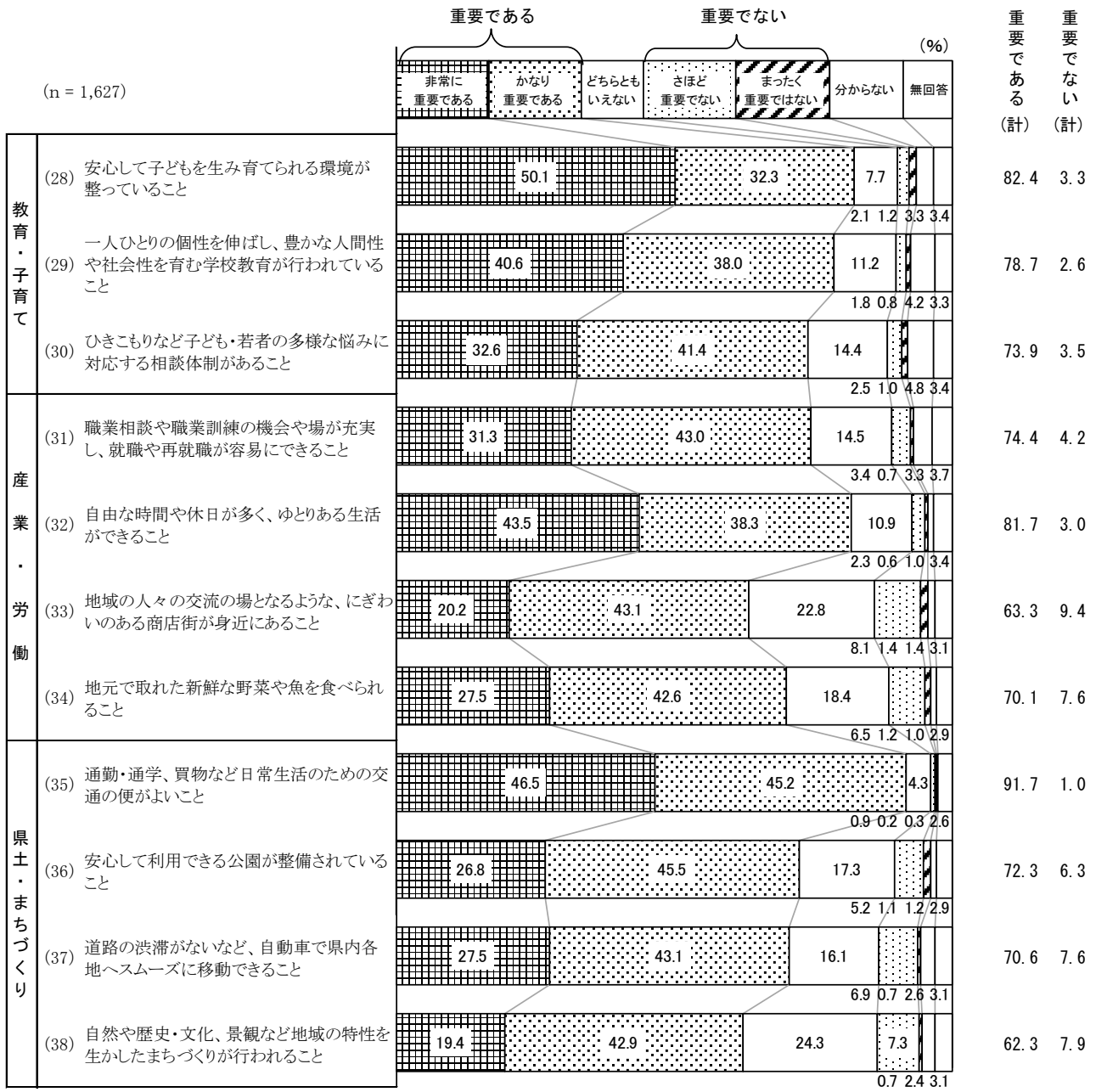
図表3-1-1 重要度



図表3-1-1 重要度（つづき）



図表3-1-1 重要度（つづき）



【過去との比較】

《重要である》の上位10項目について過去の調査と比較すると、順位において多少の変動はあるが上位9項目は前回調査と同じ項目となった。(図表3-1-2)

図表3-1-2 重要度《重要である》の上位10項目－過去との比較

	令和3年度(n = 1,503)	令和4年度(n = 1,404)	令和5年度(n = 1,241)	令和6年度(n = 1,206)	令和7年度(n = 1,627)
1位	病气やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(95.2%)	病气やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(94.4%)	病气やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(94.4%)	病气やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(94.9%)	病气やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(95.4%)
2位	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること(94.3%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること(92.7%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること(94.5%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること(94.7%)
3位	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(92.0%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(91.7%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(93.8%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(93.5%)
4位	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(92.7%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(91.5%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(90.4%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(92.3%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(93.4%)
5位	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(90.6%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(91.0%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(90.0%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(91.6%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(91.7%)
6位	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(90.1%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(90.4%)	安全で安心な消費生活が送れること(88.4%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること(90.1%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(91.6%)
7位	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること(87.9%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること(90.3%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(87.5%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること(90.0%)
8位	住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること(85.4%)	いじめや差別がなく、人権が尊重されていること(84.9%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること(86.8%)	安全で安心な消費生活が送れること(89.4%)	安全で安心な消費生活が送れること(89.9%)
9位	いじめや差別がなく、人権が尊重されていること(85.2%)	住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること(83.0%)	いじめや差別がなく、人権が尊重されていること(83.1%)	いじめや差別がなく、人権が尊重されていること(85.7%)	いじめや差別がなく、人権が尊重されていること(85.1%)
10位	ゴミの分別やリサイクルが進んでいること(84.3%)	安心して子どもを子育てられる環境が整っていること(82.4%)	住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること(82.4%)	安心して子どもを子育てられる環境が整っていること(82.3%)	住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること(84.3%)

※「ゴミの分別やリサイクルが進んでいること」は令和5年度より削除

「安全で安心な消費生活が送れること」は令和5年度より追加

※各項目の過去との比較については、図表A(93~102ページ)を参照

図表3-1-3 重要度《重要である》の上位項目－地域別

※図表中の丸数字は、その地域における順位を表す。

(番号) 項目	(5)	(1)	(11)	(14)	(35)	(3)	(2)	(4)
	地域	な病 診気 断や やけ 治が 療の が時 受け ら い つ て も 適 切	し犯 て罪 くや ら交 せ通 る事 故が なく 安 全 で 安 心	公大 害気 が汚 ない染 、水 質汚 濁、 騒音 など の	が水 安源 定地 して 森林 給が さ守 られ てれ 、良 質な 水	た通 勤勤 の・ 交通 学、 の買 便物 がな よど 日常 生活 の	十地 分震 整、 つ台 つ風 て、 火火 災災 など への 対 策 が	るつ こと き め 細 かな 支 援 が 十 分 に 、 適 切 か
全体 (n=1,627)	① 95.4	② 94.7	③ 93.5	④ 93.4	⑤ 91.7	⑥ 91.6	⑦ 90.0	⑧ 89.9
横浜 (n= 617)	① 95.9	② 95.6	④ 93.4	③ 93.5	④ 93.4			
川崎 (n= 237)	① 94.5	① 94.5	③ 93.2	④ 92.8	④ 92.8			
相模原 (n= 107)	① 95.3	② 94.4	④ 93.5		④ 93.5	② 94.4		
横須賀三浦 (n= 144)	① 95.1	① 95.1	① 95.1	④ 93.1				⑤ 91.7
県央 (n= 150)	① 94.7	④ 92.0	② 93.3	③ 92.7		⑤ 90.0	⑤ 90.0	
湘南 (n= 235)	① 96.2	③ 95.3	④ 94.5	① 96.2		⑤ 93.6		
県西 (n= 73)	② 95.9	① 98.6	③ 93.2	③ 93.2		③ 93.2	③ 93.2	

※各項目の地域別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査 : <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

図表3-1-4 重要度《重要である》の上位項目－性・年代別

※図表中の丸数字は、その性・年代における順位を表す。

(番号) 項目	(5)	(1)	(11)	(14)	(35)	(3)	(2)	(4)	(19)	(8)	(12)	(32)	(7)	(29)	
	な病 診気 断や けが の治 療が 受け られ るこ と適 切	して 犯罪 や交 通事 故が なく 安全 で安 心	公大 害汚 染、 水質 汚濁 、騒 音な どの	が水 源地 の森 林が 守ら れ、 良質 な水	た通 勤・ 通学 、買 物な ど日 常生 活の	地震 、台 風、 火災 など への 対策 が	る犯 罪被 害に あつ た場 合に 、適 切か られ るか	と安全 で安 心な 消費 生活 が送 れる こ	さい じめ や差 別が なく 、人 権が 尊重	整っ て生 活で きる よう な支 援体 制が	高齡 者や 障が い者 が自 立し 、安 心	用が 進ん でい るこ と資 源の 循環 利、 ゴ	過剰 な資 源の 消費 が抑 制さ れ、	ある 自由 な時 間や 休日 が多 く、 ゆと り	誰も が地 域で 孤立 する こと なく 、
性・年代 上段：順位 下段：(%)															
全 体 (n=1,627)	① 95.4	② 94.7	③ 93.5	④ 93.4	⑤ 91.7	⑥ 91.6	⑦ 90.0	⑧ 89.9	⑨ 85.1	⑩ 83.0	⑪ 83.0	⑬ 81.7	⑮ 79.4	⑰ 78.7	
男 性 (n= 727)	① 95.6	② 95.5	③ 93.7	④ 93.5	⑤ 91.7										
女 性 (n= 809)	① 95.6	② 95.1	④ 93.6	③ 93.8		⑤ 92.8									
男性18～29歳 (n= 31)	① 100.0		① 100.0		③ 96.8	③ 96.8	③ 96.8								
30歳代 (n= 73)		② 93.2	③ 91.8	③ 91.8	① 97.3	③ 91.8	③ 91.8								
40歳代 (n= 122)	① 97.5	① 97.5	⑤ 95.1			③ 96.7		④ 95.9							
50歳代 (n= 179)	③ 95.0	① 97.2	⑤ 91.6		② 95.5	④ 94.4	⑤ 91.6	⑤ 91.6							
60歳代 (n= 146)	③ 94.5	② 95.9	④ 93.8	① 97.3				⑤ 91.1							
70～74歳 (n= 76)	① 100.0	② 97.4	⑤ 92.1	② 97.4		⑤ 92.1					④ 93.4				
75歳以上 (n= 100)	② 95.0	④ 90.0	① 96.0	② 95.0				⑤ 88.0		⑤ 88.0					
女性18～29歳 (n= 48)	① 100.0	① 100.0		④ 97.9	① 100.0	④ 97.9	④ 97.9		④ 97.9			④ 97.9		④ 97.9	
30歳代 (n= 105)	① 99.0	① 99.0	④ 97.1			③ 98.1						④ 97.1			
40歳代 (n= 171)	① 97.7	② 97.1	③ 96.5			④ 94.7	⑤ 94.2								
50歳代 (n= 191)	② 96.3	① 96.9	④ 94.2	④ 94.2				③ 95.8							
60歳代 (n= 140)	① 97.9	② 97.1	⑤ 93.6	③ 96.4		④ 95.7	⑤ 93.6								
70～74歳 (n= 45)			③ 88.9	② 93.3	① 95.6	③ 88.9					③ 88.9				
75歳以上 (n= 106)	② 86.8		④ 84.9	③ 85.8	① 89.6								④ 84.9		

※各項目の性・年代別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

2 満足度【問7】

「重要度」で尋ねた項目と同じ38項目について、どの程度満たされていると感じているかを尋ねた。項目ごとに「十分満たされている」から「ほとんど満たされていない」までの5段階で回答してもらった。

なお、回答選択肢は「十分満たされている」「かなり満たされている」「どちらともいえない」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」の5区分に「分からない」を加えた6区分とした。

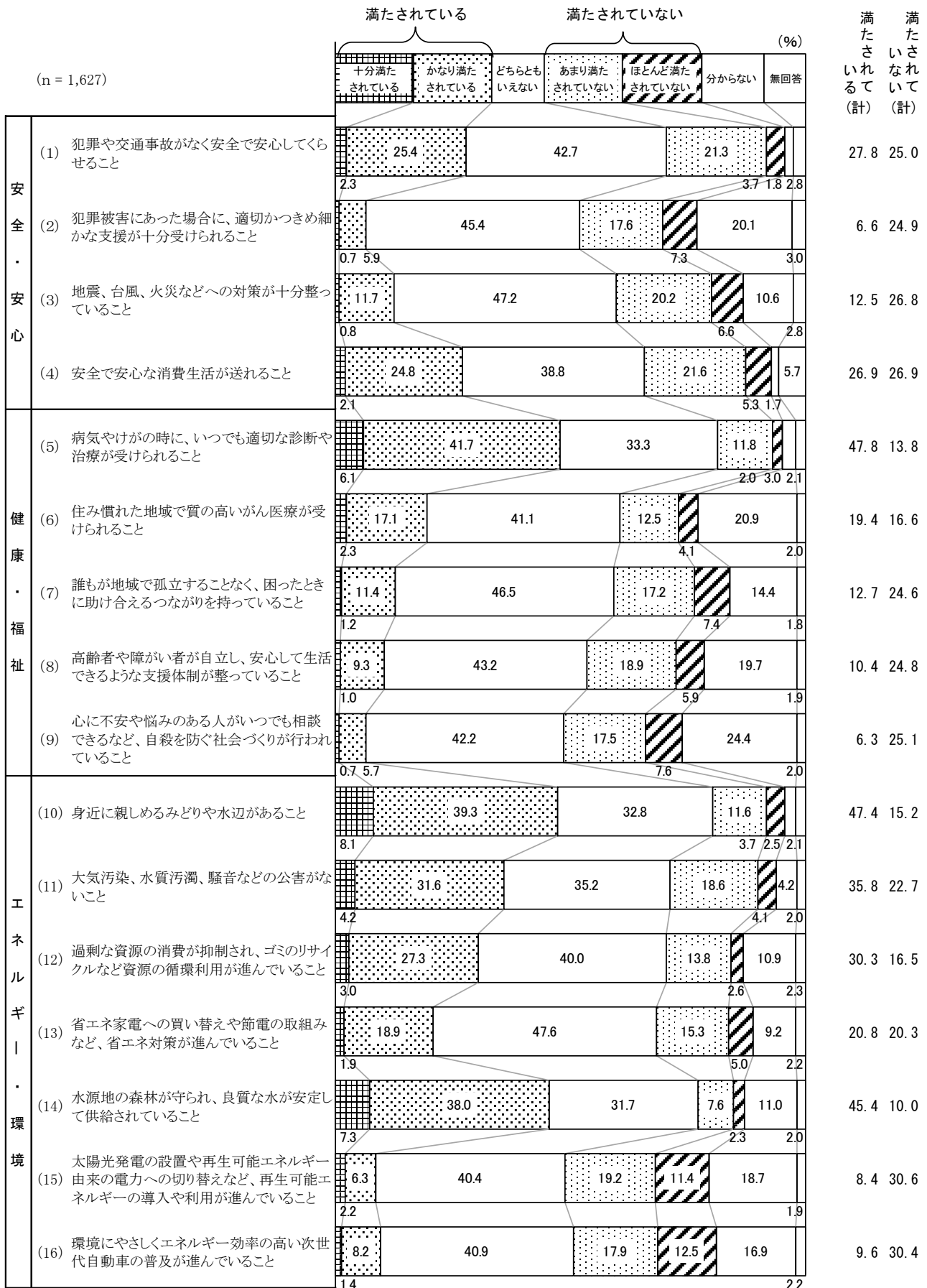
【全体の状況】

項目別の満足度の回答状況は、図表3-2-1に示すとおりである。

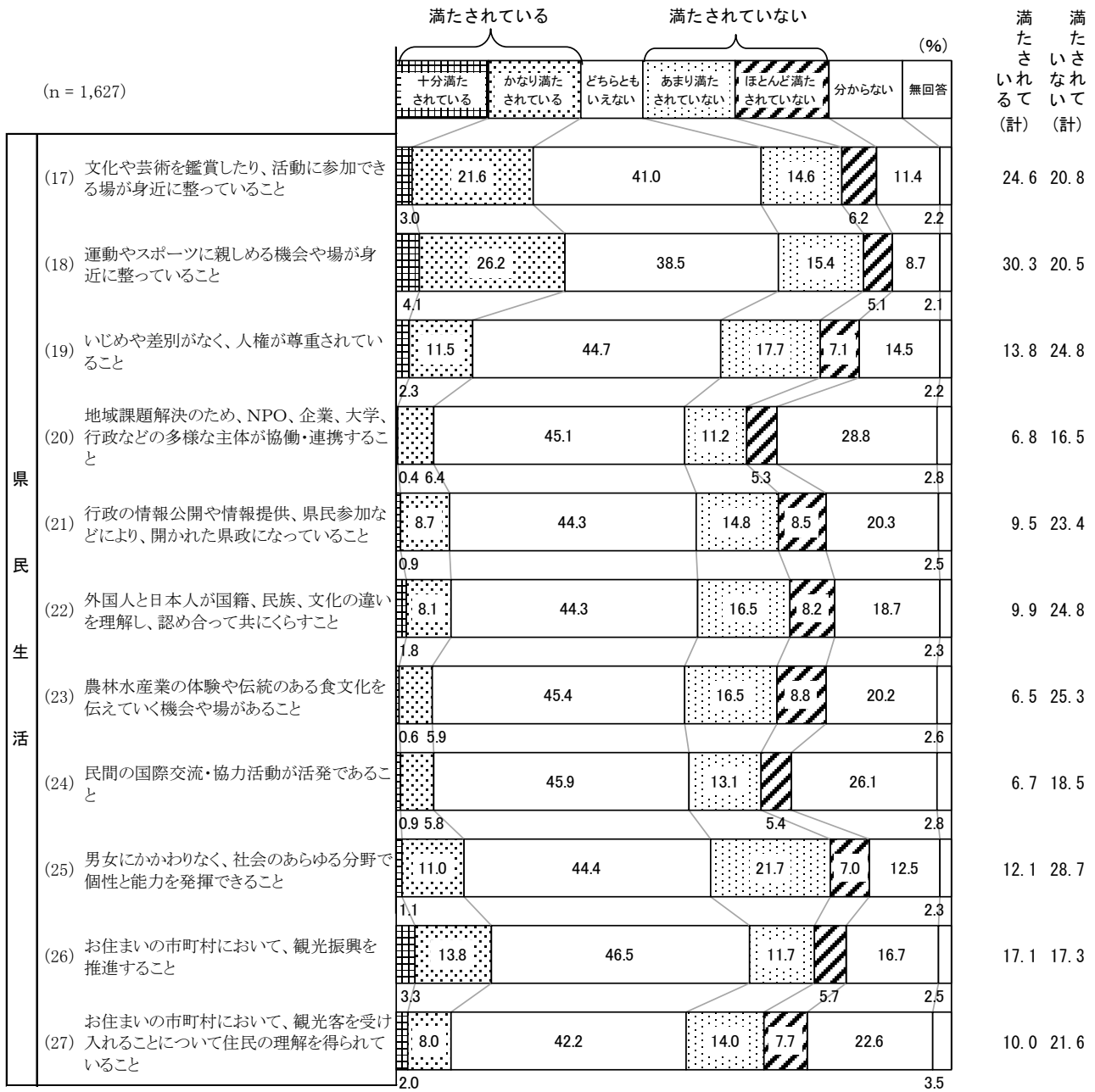
「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた《満たされている》は、「(35) 通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」が50.6%で最も多く、「(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」(47.8%)、「(10) 身近に親しめるみどりや水辺があること」(47.4%)が続いた。

「ほとんど満たされていない」と「あまり満たされていない」を合わせた《満たされていない》は、「(33) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が40.8%で最も多く、「(37) 道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること」(33.7%)、「(32) 自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること」(31.8%)が続いた。(図表3-2-1)

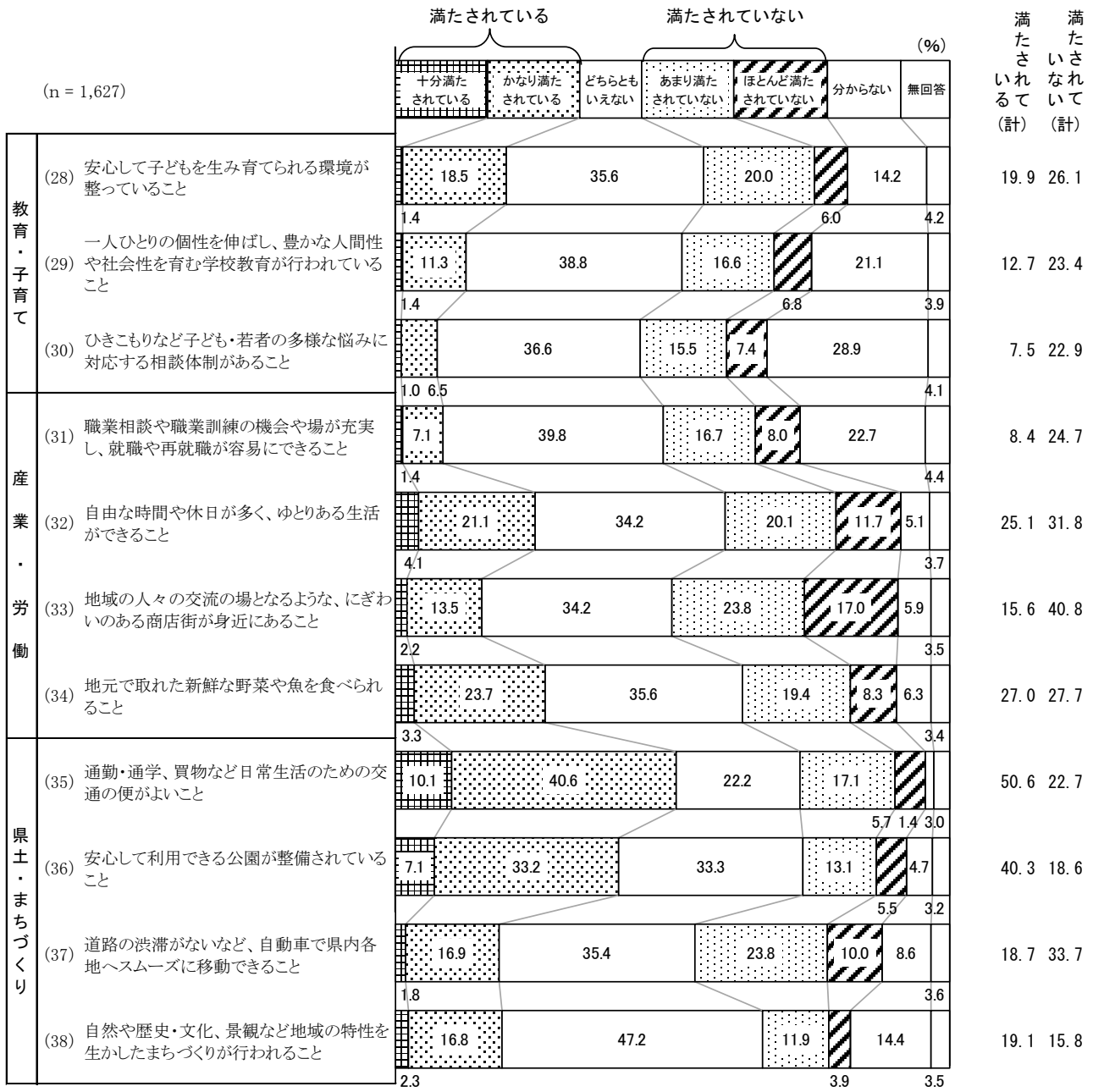
図表3-2-1 満足度



図表3-2-1 満足度（つづき）



図表3-2-1 満足度（つづき）



【過去との比較】

《満たされている》の上位10項目について過去の調査と比較すると、順位において多少の変動はあるが上位9項目は前回調査と同じ項目となった。(図表3-2-2)

図表3-2-2 満足度《満たされている》の上位10項目－過去との比較

	令和3年度 (n = 1,503)	令和4年度 (n = 1,404)	令和5年度 (n = 1,241)	令和6年度 (n = 1,206)	令和7年度 (n = 1,627)
1位	ゴミの分別やリサイクルが進んでいること (52.2%)	ゴミの分別やリサイクルが進んでいること	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (50.4%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (51.1%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (50.6%)
2位	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (49.2%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (50.6%)	身近に親しめるみどりや水辺があること (48.2%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (48.3%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (47.8%)
3位	身近に親しめるみどりや水辺があること (47.4%)	身近に親しめるみどりや水辺があること (47.3%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (46.2%)	身近に親しめるみどりや水辺があること (47.8%)	身近に親しめるみどりや水辺があること (47.4%)
4位	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (43.8%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (47.0%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (45.0%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (45.2%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (45.4%)
5位	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (43.4%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (43.7%)	安心して利用できる公園が整備されていること (37.8%)	安心して利用できる公園が整備されていること (41.4%)	安心して利用できる公園が整備されていること (40.3%)
6位	安心して利用できる公園が整備されていること (36.8%)	安心して利用できる公園が整備されていること (38.2%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと (32.2%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと (37.2%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと (35.8%)
7位	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと (30.3%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと (33.4%)	安全で安心な消費生活が送れること (28.6%)	過剰な資源の消費が抑制され、ゴミのリサイクルなど資源の循環利用が進んでいること (32.1%)	過剰な資源の消費が抑制され、ゴミのリサイクルなど資源の循環利用が進んでいること
8位	地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること (29.1%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること (29.0%)	過剰な資源の消費が抑制され、ゴミのリサイクルなど資源の循環利用が進んでいること (27.6%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること (30.3%)	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること (30.3%)
9位	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること (28.1%)	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること (28.1%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること (26.6%)	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること (29.1%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること (27.8%)
10位	犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること (26.8%)	地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること (27.9%)	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること (25.8%)	安全で安心な消費生活が送れること (28.4%)	地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること (27.0%)

※ 「ゴミの分別やリサイクルが進んでいること」は令和5年度より削除

「安全で安心な消費生活が送れること」、「過剰な資源の消費が抑制され、ゴミのリサイクルなど資源の循環利用が進んでいること」は令和5年度より追加

※各項目の過去との比較については、図表B (103～112 ページ) を参照

《満たされていない》の上位10項目について過去の調査と比較すると、順位において多少の変動はあるが上位9項目は前回調査と同じ項目となった。(図表3-2-3)

図表3-2-3 満足度《満たされていない》の上位10項目－過去との比較

	令和3年度 (n = 1,503)	令和4年度 (n = 1,404)	令和5年度 (n = 1,241)	令和6年度 (n = 1,206)	令和7年度 (n = 1,627)
1位	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(43.2%)	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(44.4%)	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(40.5%)	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(39.2%)	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(40.8%)
2位	道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること(38.2%)	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(35.5%)	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(35.0%)	道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること(34.5%)	道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること(33.7%)
3位	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(36.2%)	道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること(34.3%)	太陽光発電の設置や再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること(34.9%)	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(34.1%)	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(31.8%)
4位	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること(33.8%)	太陽光発電など再生可能エネルギーの普及が進んでいること(33.5%)	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(34.6%)	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること(31.6%)	太陽光発電の設置や再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること(30.6%)
5位	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(32.4%)	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(33.3%)	道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(30.5%)	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること(30.4%)
6位	太陽光発電など再生可能エネルギーの普及が進んでいること(32.3%)	高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること(32.6%)	太陽光発電の設置や再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること(30.3%)	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(28.7%)
7位	高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること(31.9%)	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること(32.8%)	高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること(29.0%)	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(28.9%)	地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること(27.7%)
8位	安心して子どもを子育てられる環境が整っていること(30.0%)	安心して子どもを子育てられる環境が整っていること(31.9%)	心に不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること	安心して子どもを子育てられる環境が整っていること(28.4%)	安全で安心な消費生活が送れること(26.9%)
9位	一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育む学校教育が行われていること(29.5%)	一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育む学校教育が行われていること(29.4%)	誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりを持っていること(28.8%)	地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること(27.8%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(26.8%)
10位	職業相談や職業訓練の機会や場が充実し、就職や再就職が容易にできること(29.3%)	高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること(28.3%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(28.3%)	心に不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること 一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育む学校教育が行われていること(26.5%)	安心して子どもを子育てられる環境が整っていること(26.1%)

※「高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること」は令和5年度より削除

※「太陽光発電の設置や再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること」は令和5年度より追加

※各項目の過去との比較については、図表B(103～112ページ)を参照

図表3-2-4 満足度《満たされている》の上位項目－地域別

※図表中の丸数字は、その地域における順位を表す。

(番号) 項目 地域 上段：順位 下段：(%)	(35)	(5)	(10)	(14)	(36)	(11)	(12)	(34)
	い生活 この・ た通 め学 の、 交買 通物 のな 便ど が日 よ常	らも病 れ適 る切 こな と診 と断 や時 治に 療、 が い 受 つ け で	辺身 が近 あに る親 こし とめ る み ど り や 水	て質水 いる源 るな地 こがの と安森 と定林 しが て守 供ら 給れ さ、 れ良	整安 備心 さし て利 用で きる とる 公園 が	な大 ど気 の汚 公害 が ない こと 騒音	る資 れ、 過 剰な 資源 の 循環 利 用が 進 ん で い ど さ	魚地 を元 食で べ取 られ れた 新鮮 な 野菜 や
全体 (n=1,627)	① 50.6	② 47.8	③ 47.4	④ 45.4	⑤ 40.3	⑥ 35.8	⑦ 30.3	⑩ 27.0
横浜 (n= 617)	① 57.5	② 49.1	③ 45.7	⑤ 45.2	④ 45.4			
川崎 (n= 237)	① 63.7	② 50.6	⑤ 36.3	④ 37.1	③ 38.8			
相模原 (n= 107)	⑤ 43.0	② 47.7	④ 43.9	① 50.5	② 47.7			
横須賀三浦 (n= 144)		② 47.9	① 56.3	④ 38.2		⑤ 35.4		③ 45.1
県央 (n= 150)	② 46.7	⑤ 36.7	① 50.0	③ 44.0	④ 43.3			
湘南 (n= 235)	④ 42.6	③ 50.2	① 55.3	② 53.6	⑤ 40.9			⑤ 40.9
県西 (n= 73)		④ 43.8	② 57.5	① 61.6		③ 46.6	⑤ 41.1	

※各項目の地域別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査 : <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

図表3-2-5 満足度《満たされていない》の上位項目—地域別

※図表中の丸数字は、その地域における順位を表す。

項目 地域 上段：順位 下段：(%)	(33)	(37)	(32)	(15)	(16)	(25)	(34)	(4)	(3)	(28)	(31)	(21)	(35)
	とにぎわいの人々の交流の場となるよう、	各地へのスムーズに移動できること	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	太陽光発電の設置や再生可能エネルギーの電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること	分野で個性と能力を発揮できること	地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること	安全で安心な消費生活が送れること	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	安心して子どもを生育てられる環境が整っていること	し、職業相談や再就職訓練の機会や場が充実すること	行政の情報公開や情報提供、県民参加などにより、開かれた県政になっ	通勤・通学、買物など日常生活のため
全体 (n=1,627)	① 40.8	② 33.7	③ 31.8	④ 30.6	⑤ 30.4	⑥ 28.7	⑦ 27.7	⑧ 26.9	⑨ 26.8	⑩ 26.1	⑬ 24.7	⑳ 23.4	㉓ 22.7
横浜 (n= 617)	① 38.1	③ 30.3	② 32.7			④ 30.0	⑤ 29.8						
川崎 (n= 237)	① 40.9	④ 31.2	③ 31.6	⑤ 29.5			② 34.6						
相模原 (n= 107)	① 50.5	⑤ 37.4	③ 40.2				② 41.1			④ 38.3			
横須賀三浦 (n= 144)	② 41.0	① 43.8	④ 31.9	④ 31.9	④ 31.9	④ 31.9							③ 35.4
県央 (n= 150)	① 42.7	② 38.7		④ 32.7	③ 36.0			④ 32.7					
湘南 (n= 235)	① 41.7	② 38.7		④ 36.2	③ 37.9				⑤ 29.8				
県西 (n= 73)	① 47.9		② 39.7	④ 32.9		④ 32.9					③ 37.0	④ 32.9	④ 32.9

※各項目の地域別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査 : <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

図表3-2-6 満足度《満たされている》の上位項目－性・年代別

※図表中の丸数字は、その性・年代における順位を表す。

(番号) 項目 性・年代 上段：順位 下段：(%)	(35)	(5)	(10)	(14)	(36)	(11)	(12)	(18)	(1)	
		の通 た勤 め・ の通 学、 通 の買 便物 がな よど い日 常と 生活	と切 な気 診や 断け やが 治の 療時 が受 けい らつ れも こ適	あ身 る近 こに と親 しめ るみ どり や水 辺が	と水 が源 地安 定の 森林 が守 られ て良 質な	さ安 れ心 てし て利 用で きる 公園 が整 備	の大 気汚 染、 水質 汚濁、 騒音 など	環ゴ 利用 が進 んで いる こと	過剰 な資 源の 消費 が抑 制さ れ、 資源 の循	や運 場が やス ポ― に整 つて いる こと
全 体 (n=1,627)	① 50.6	② 47.8	③ 47.4	④ 45.4	⑤ 40.3	⑥ 35.8	⑦ 30.3	⑦ 30.3	⑨ 27.8	
男 性 (n= 727)	① 51.6	② 48.3	③ 46.6	④ 44.7	⑤ 41.0					
女 性 (n= 809)	① 50.6	③ 48.2	② 48.3	④ 47.1	⑤ 40.5					
男性18～29歳 (n= 31)	② 58.1	① 61.3	③ 54.8			③ 54.8			③ 54.8	
30歳代 (n= 73)	② 53.4	① 56.2	④ 47.9	③ 49.3				⑤ 45.2		
40歳代 (n= 122)	③ 43.4	① 45.9	① 45.9	⑤ 41.0	③ 43.4					
50歳代 (n= 179)	① 52.5	③ 40.2	② 48.6	④ 38.0	⑤ 36.9	⑤ 36.9				
60歳代 (n= 146)	① 55.5	② 46.6	③ 43.8	③ 43.8	⑤ 37.7					
70～74歳 (n= 76)	① 52.6	① 52.6	④ 48.7	③ 51.3	⑤ 42.1					
75歳以上 (n= 100)	③ 50.0	① 55.0	⑤ 43.0	② 54.0	④ 47.0					
女性18～29歳 (n= 48)	① 62.5	① 62.5	③ 47.9	③ 47.9				③ 47.9		
30歳代 (n= 105)	③ 51.4	① 55.2	② 54.3		④ 45.7	⑤ 41.9				
40歳代 (n= 171)	① 56.1	③ 47.4	② 52.0	⑤ 44.4	④ 46.2					
50歳代 (n= 191)	① 48.2	① 48.2	④ 46.1	③ 47.6	⑤ 39.3					
60歳代 (n= 140)	③ 42.9	③ 42.9	① 47.9	② 47.1		⑤ 40.0				
70～74歳 (n= 45)	③ 42.2	④ 35.6	② 46.7	① 53.3				⑤ 33.3		
75歳以上 (n= 106)	② 52.8	③ 49.1	④ 43.4	① 54.7		⑤ 41.5	⑤ 41.5			

※各項目の性・年代別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査： <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

図表3-2-7 満足度《満たされていない》の上位項目－性・年代別

※図表中の丸数字は、その性・年代における順位を表す。

項目	(33)	(37)	(32)	(15)	(16)	(25)	(34)	(4)	(3)	(28)	(23)	(9)	(2)	(8)	(19)	(22)	(31)	(7)	(21)	(29)	(30)	(11)	(35)	(27)	(18)	(24)
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖
全 体 (n=1,627)	40.8	33.7	31.8	30.6	30.4	28.7	27.7	26.9	26.8	26.1	25.3	25.1	24.9	24.8	24.8	24.8	24.7	24.6	23.4	23.4	22.9	22.7	22.7	21.6	20.5	18.5
男 性 (n= 727)	39.3	39.2		33.1	33.4														27.9							
女 性 (n= 899)	42.3	29.7	35.1			30.2		28.6																		
男性18～29歳 (n= 31)	35.5	45.2		35.5	35.5	35.5				41.9	35.5				35.5		35.5		35.5	35.5				41.9	35.5	38.7
30歳代 (n= 73)	38.4	41.1	34.2			30.1										31.5									30.1	
40歳代 (n= 122)	45.9	49.2	34.4				34.4			35.2						34.4										
50歳代 (n= 179)	41.9	41.9	31.3	30.2	29.1																					
60歳代 (n= 146)	39.0	41.8		40.4	40.4		31.5						31.5													
70～74歳 (n= 76)	38.2			50.0	39.5										38.2				40.8							
75歳以上 (n= 100)	30.0			31.0	33.0	28.0		28.0																		
女性18～29歳 (n= 48)	50.0		56.3							52.1				41.7									41.7			
30歳代 (n= 105)	39.0		57.1			35.2	35.2	40.0		51.4																
40歳代 (n= 171)	48.0	31.0	45.0			34.5		29.8																		
50歳代 (n= 191)	40.3	30.9		30.4	31.4				29.3																	
60歳代 (n= 140)	45.7	30.0		29.3				28.6					30.0					28.6						28.6		
70～74歳 (n= 45)				48.9	40.0	42.2								46.7		42.2										
75歳以上 (n= 106)	34.0						25.5				24.5	25.5														23.6

※各項目の性・年代別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査： <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

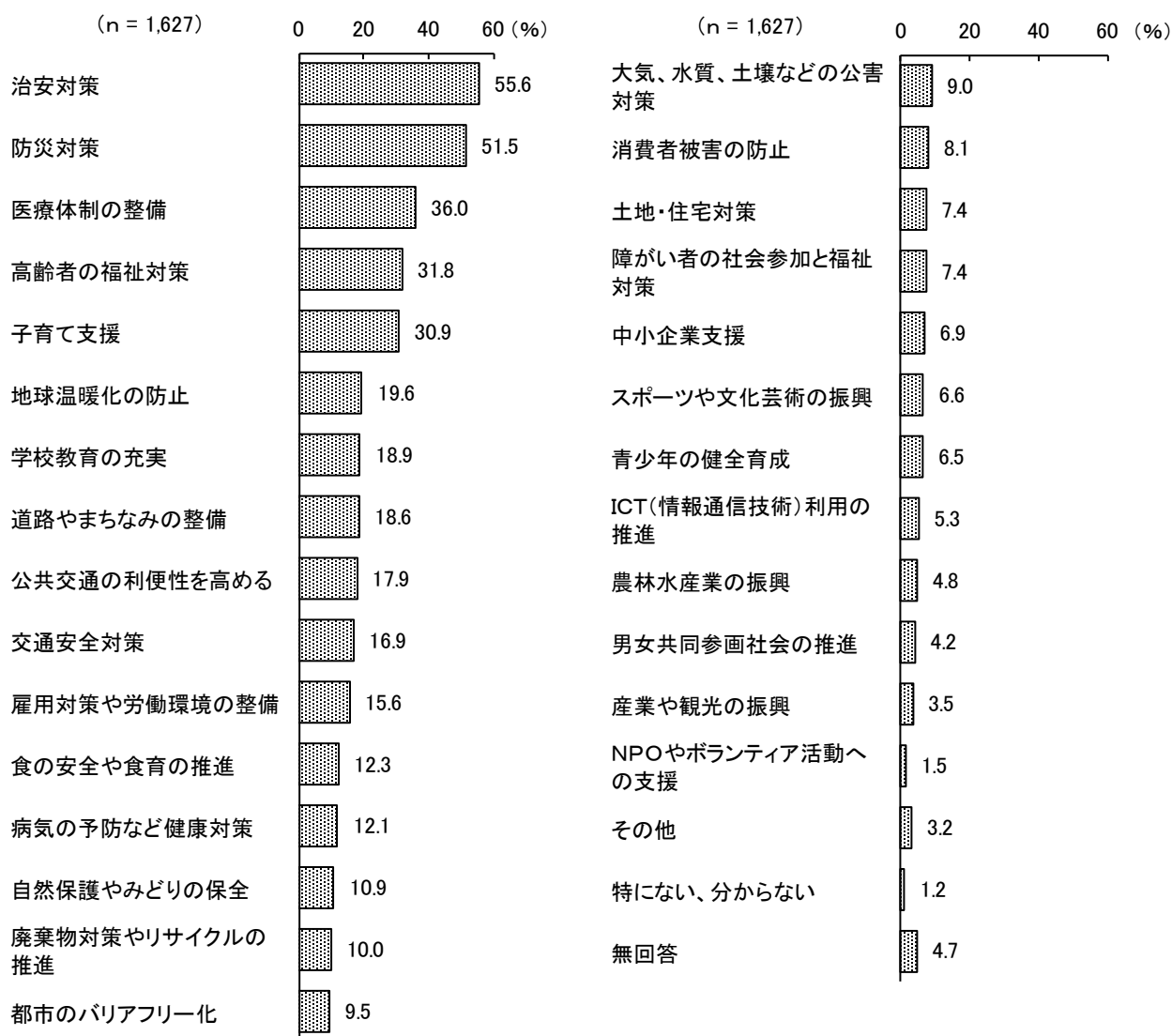
第4章 県行政への要望【問8】

県行政を進めていくうえで力を入れて取り組んでほしい分野

【全体の状況】

神奈川県行政を進めていくうえで、力を入れて取り組んでほしい分野について30項目を挙げて複数回答（5つまで選択可）で尋ねたところ、上位5項目は、第1位「治安対策」（55.6%）、第2位「防災対策」（51.5%）、第3位「医療体制の整備」（36.0%）、第4位「高齢者の福祉対策」（31.8%）、第5位「子育て支援」（30.9%）となった。（図表4-1）

図表4-1 県行政への要望（複数回答）



【過去との比較】

過去の調査と比較すると、前回調査で第2位であった「治安対策」が第1位となり、第1位であった「防災対策」が第2位となった。上位5項目は、令和3年度以降同じ項目となった。(図表4-2)

図表4-2 県行政への要望（上位10項目）（複数回答）－過去との比較



※各選択肢の過去との比較については、図表C（113ページ）を参照

図表4-3 県行政への要望（上位項目）（複数回答）－地域別

※図表中の丸数字は、その地域における順位を表す。

選択肢 地域 上段：順位 下段：(%)	治安 対策	防災 対策	医療 体制 の 整備	高齢 者の 福祉 対策	子育て 支援	学校 教育 の 充実
全 体 (n=1,627)	① 55.6	② 51.5	③ 36.0	④ 31.8	⑤ 30.9	⑦ 18.9
横 浜 (n= 617)	① 60.6	② 53.5	③ 37.3	④ 33.7	⑤ 32.9	
川 崎 (n= 237)	① 62.0	② 56.5	④ 34.2		③ 38.8	⑤ 26.2
相模原 (n= 107)	① 59.8	② 47.7	③ 44.9	⑤ 31.8	④ 38.3	
横須賀三浦 (n= 144)	② 50.7	① 61.8	③ 34.0	④ 31.3	⑤ 29.2	
県 央 (n= 150)	① 58.0	② 49.3	③ 38.7	④ 36.7	⑤ 28.0	
湘 南 (n= 235)	② 50.6	① 51.9	④ 37.0	③ 37.9	⑤ 26.0	
県 西 (n= 73)	① 52.1	② 49.3	③ 42.5	④ 38.4	⑤ 30.1	

※各選択肢の地域別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

図表4-4 県行政への要望（上位項目）（複数回答）－性・年代別

※図表中の丸数字は、その性・年代における順位を表す。

選択肢 性・年代 上段：順位 下段：(%)	治安 対策	防災 対策	医療 体制の 整備	高齢者 の福祉 対策	子育て 支援	地球温 暖化の 防止	学校教 育の充 実	道路や まちな みの整 備	公共交 通の利 便性を 高め	雇用 対策や 労働環 境の 整備	食の安 全や食 育の推 進
全体 (n=1,627)	① 55.6	② 51.5	③ 36.0	④ 31.8	⑤ 30.9	⑥ 19.6	⑦ 18.9	⑧ 18.6	⑨ 17.9	⑩ 15.6	⑪ 12.3
男性 (n= 727)	① 58.3	② 51.0	③ 36.9	④ 31.1	⑤ 30.0						
女性 (n= 809)	① 57.2	② 56.0	③ 37.8	④ 35.1	⑤ 34.2						
男性18～29歳 (n= 31)	① 51.6		⑤ 25.8		② 41.9		④ 32.3		③ 35.5		
30歳代 (n= 73)	① 64.4	③ 46.6	④ 28.8		② 50.7						⑤ 24.7
40歳代 (n= 122)	① 61.5	③ 48.4	⑤ 30.3		② 50.0		④ 32.0				
50歳代 (n= 179)	① 58.1	② 52.0	③ 38.5	④ 27.4				⑤ 26.3	⑤ 26.3		
60歳代 (n= 146)	① 59.6	① 59.6	③ 40.4	③ 40.4		⑤ 25.3					
70～74歳 (n= 76)	① 55.3	② 53.9	④ 36.8	② 53.9		⑤ 21.1		⑤ 21.1			
75歳以上 (n= 100)	① 53.0	③ 50.0	④ 46.0	② 52.0		⑤ 34.0					
女性18～29歳 (n= 48)	② 68.8	③ 54.2			① 72.9		④ 25.0			⑤ 22.9	
30歳代 (n= 105)	② 65.7	③ 48.6	⑤ 29.5		① 66.7		④ 39.0				
40歳代 (n= 171)	① 54.4	② 53.2	⑤ 37.4		③ 44.4		④ 40.9				
50歳代 (n= 191)	② 59.7	① 61.3	③ 40.8	④ 38.2	⑤ 26.2						
60歳代 (n= 140)	② 51.4	① 56.4	④ 47.1	③ 50.7		⑤ 27.1					
70～74歳 (n= 45)	① 60.0	① 60.0	④ 40.0	③ 57.8		⑤ 37.8					
75歳以上 (n= 106)	③ 49.1	② 55.7	⑤ 37.7	① 57.5		④ 40.6					

※各選択肢の性・年代別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査 : <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

第IV部 県政への自由意見

県政についての自由意見

質問の最後に、県政についての意見や提案などを、内容の分野を選択したうえで自由に記述してもらったところ、回答者1,627人のうち、24.4%に相当する397人から多岐にわたる意見（488件）が寄せられた。

- （１）安全・安心 …79件
- （２）健康・福祉 …51件
- （３）エネルギー・環境 …19件
- （４）スポーツ・国際文化・観光 …18件
- （５）教育・子育て …110件
- （６）産業・労働 …24件
- （７）県土・まちづくり …63件
- （８）県政一般 …32件
- （９）その他 …68件

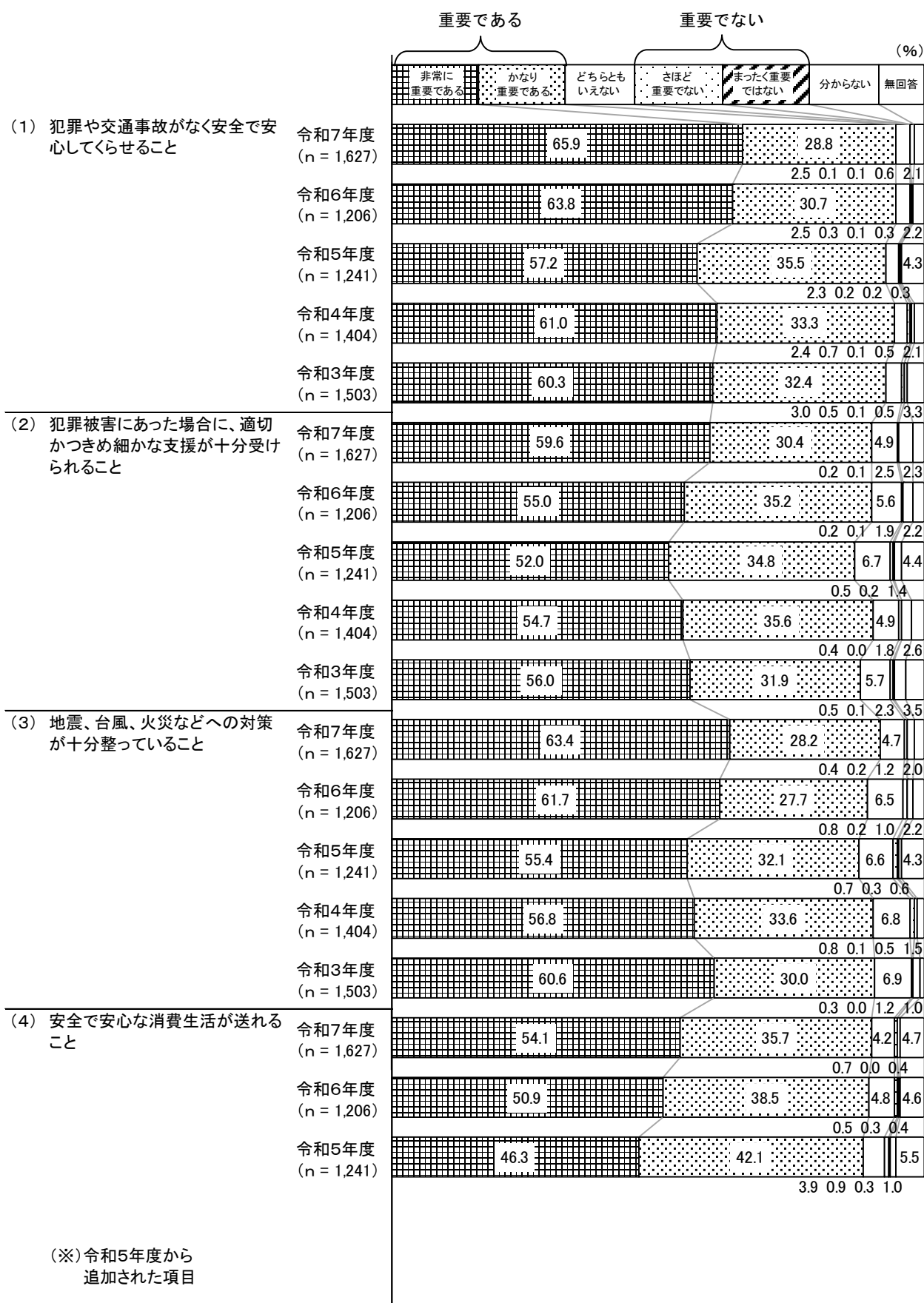
※ 上記のほか、内容の分野を選択せずに意見の記載があったものが24件あった。

第V部 グラフ

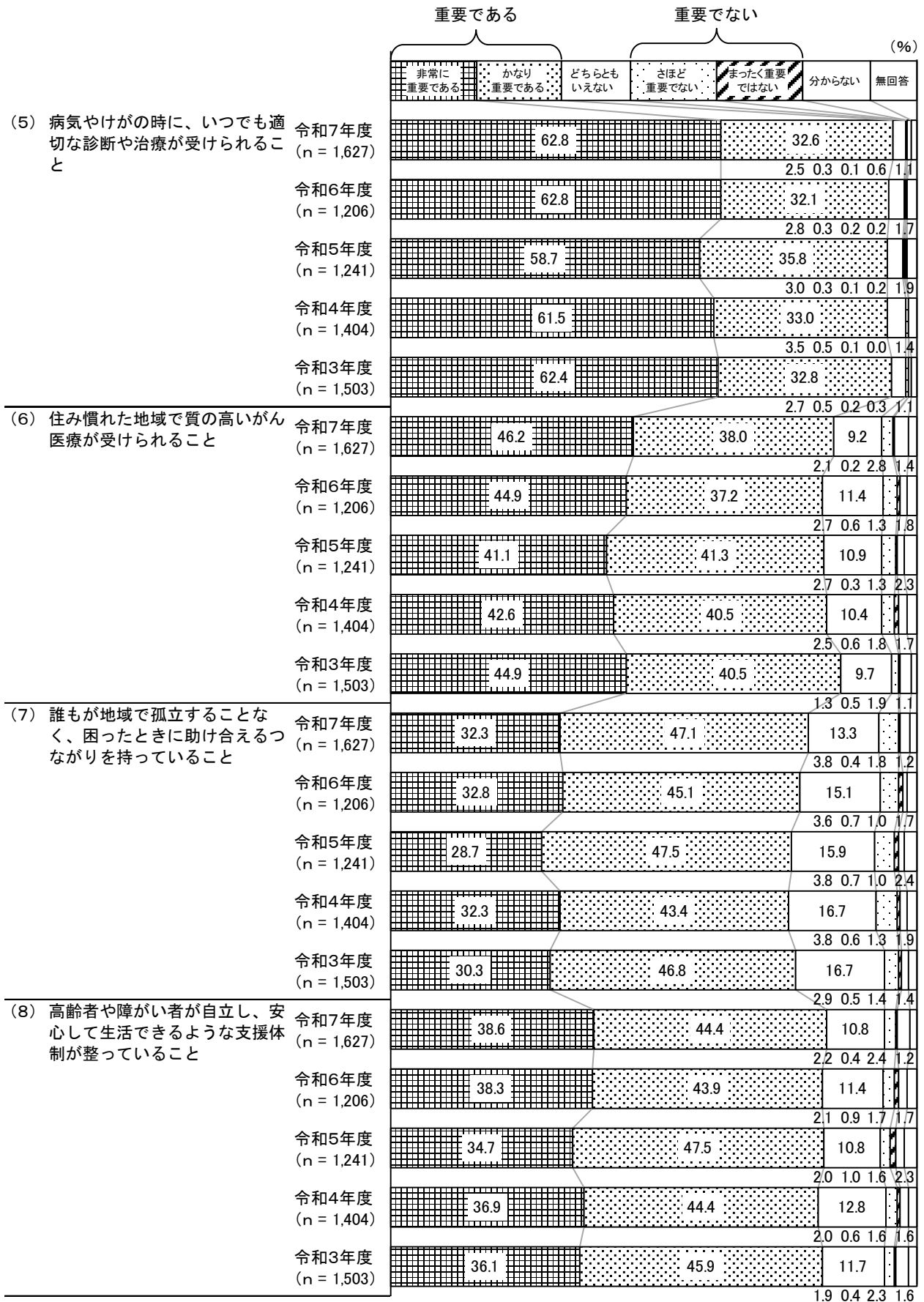
(くらしの満足度、県行政への要望)

※ 地域、性・年代別の集計表については県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。
(県民ニーズ調査：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較



図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）

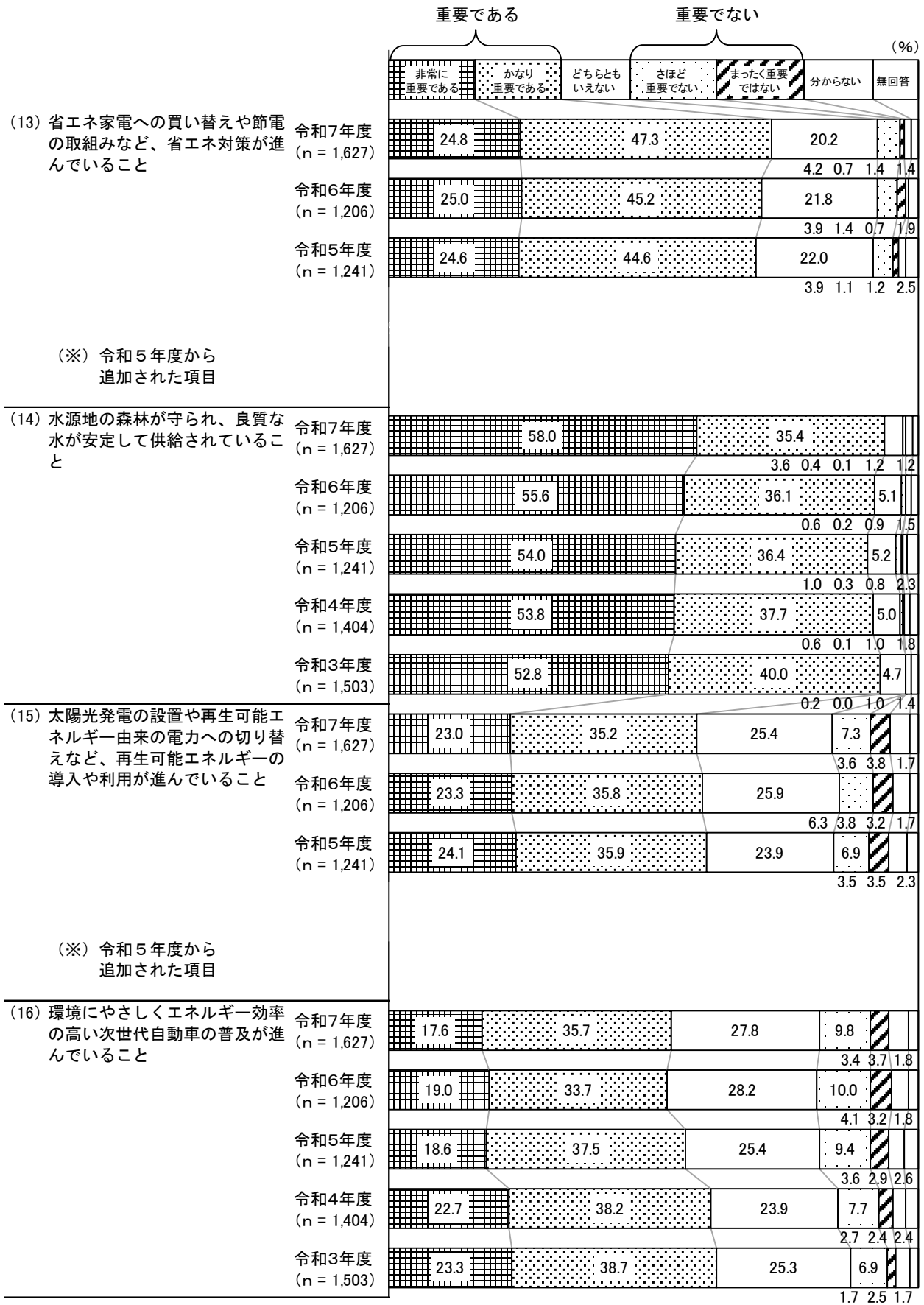


図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）

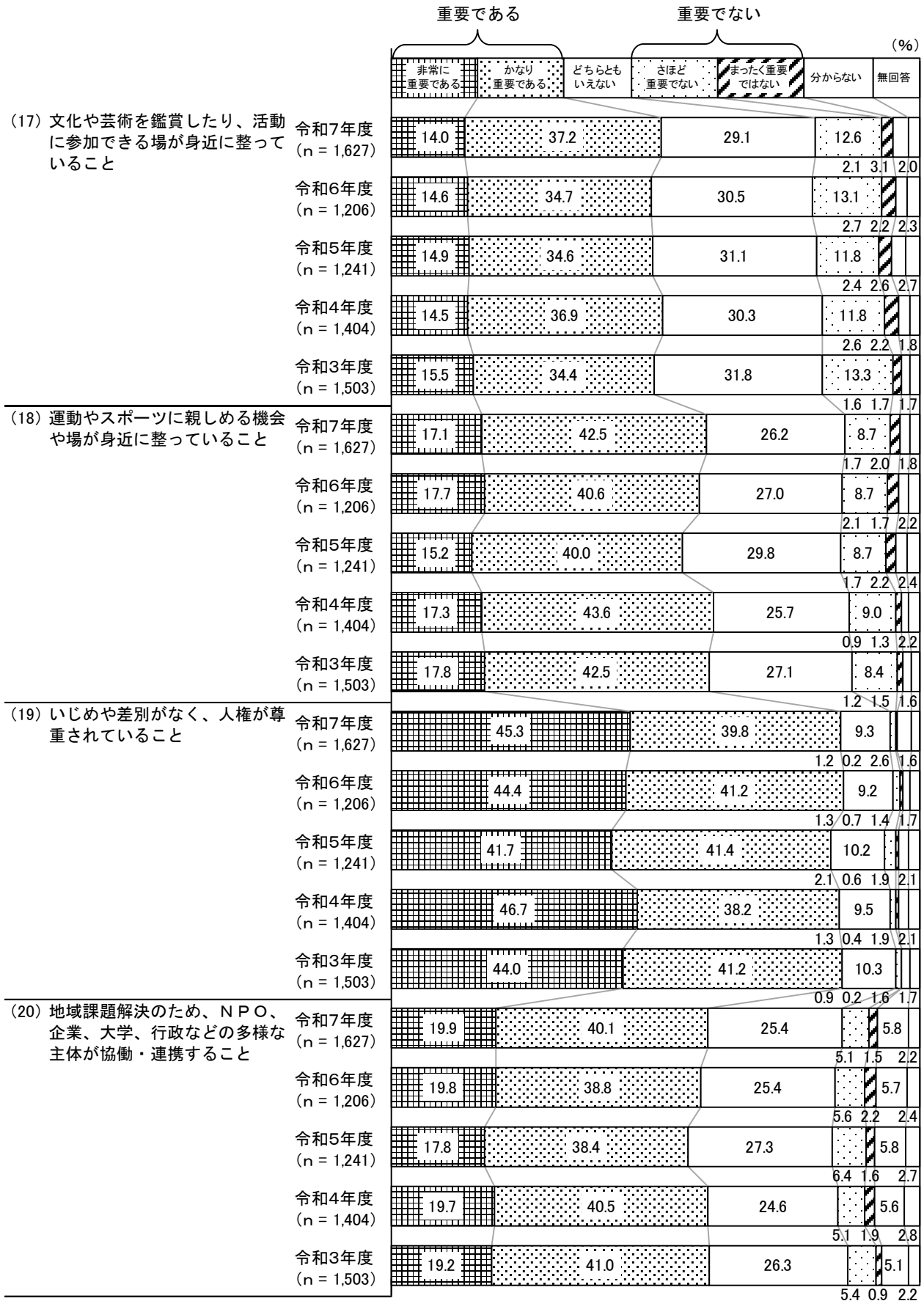
		重要である					重要でない			分からない	無回答	
		非常に重要である		どちらともいえない		さほど重要でない		まったく重要ではない				
		非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない						
(9) 心に不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること	令和7年度 (n = 1,627)	35.5		42.7		13.5		3.1	0.7	3.3	1.4	
	令和6年度 (n = 1,206)	35.1		41.0		14.6		4.2	0.6	2.7	1.8	
	令和5年度 (n = 1,241)	32.2		41.9		16.1		3.5	1.5	2.4	2.4	
	令和4年度 (n = 1,404)	33.0		41.9		15.1		4.8	0.9	2.4	1.9	
	令和3年度 (n = 1,503)	31.7		44.0		15.6		3.7	0.7	2.4	1.7	
(10) 身近に親しめるみどりや水辺があること	令和7年度 (n = 1,627)	31.8		46.0		15.0		4.5	0.4	0.8	1.4	
	令和6年度 (n = 1,206)	31.8		46.2		14.6		4.7	0.5	0.6	1.7	
	令和5年度 (n = 1,241)	28.9		49.3		14.0		3.9	1.0	0.8	2.1	
	令和4年度 (n = 1,404)	31.5		47.6		13.2		4.7	0.8	0.5	1.6	
	令和3年度 (n = 1,503)	32.1		47.5		14.0		3.9	0.5	0.6	1.3	
(11) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	令和7年度 (n = 1,627)	53.2		40.3				3.8	0.6	0.1	0.6	1.5
	令和6年度 (n = 1,206)	52.0		40.3				1.0	0.1	0.1	1.8	
	令和5年度 (n = 1,241)	48.8		42.9		4.8		0.6	0.4	0.3	2.1	
	令和4年度 (n = 1,404)	51.6		40.4		5.2		0.6	0.1	0.5	1.6	
	令和3年度 (n = 1,503)	50.8		41.9		5.1		0.3	0.1	0.7	1.3	
(12) 過剰な資源の消費が抑制され、ゴミのリサイクルなど資源の循環利用が進んでいること	令和7年度 (n = 1,627)	35.2		47.9		12.1		1.5	0.4	1.6	1.3	
	令和6年度 (n = 1,206)	33.4		47.0		13.7		2.2	0.8	1.2	1.6	
	令和5年度 (n = 1,241)	31.5		48.8		12.7		2.2	1.0	1.5	2.3	

(※) 令和5年度から追加された項目

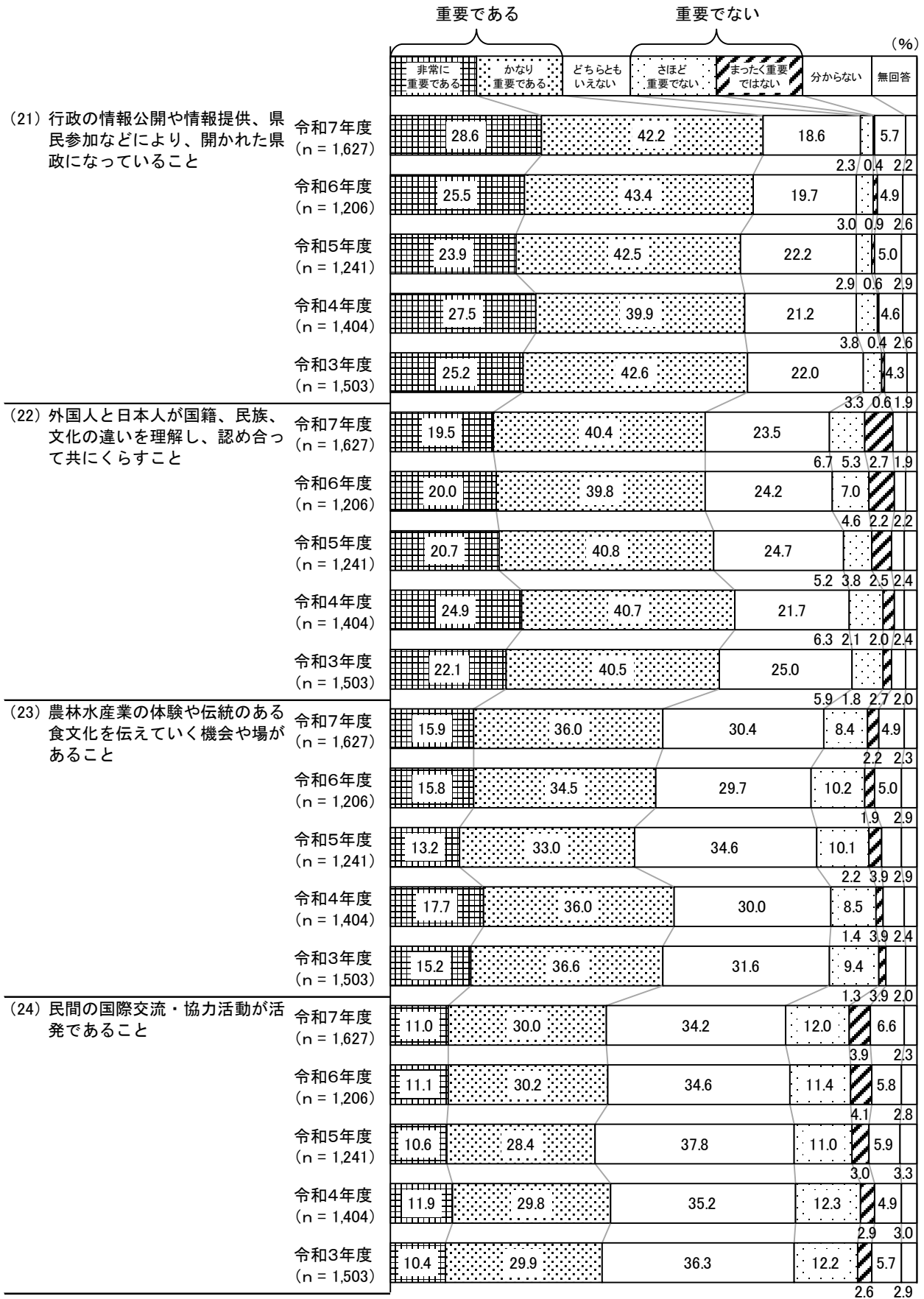
図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）



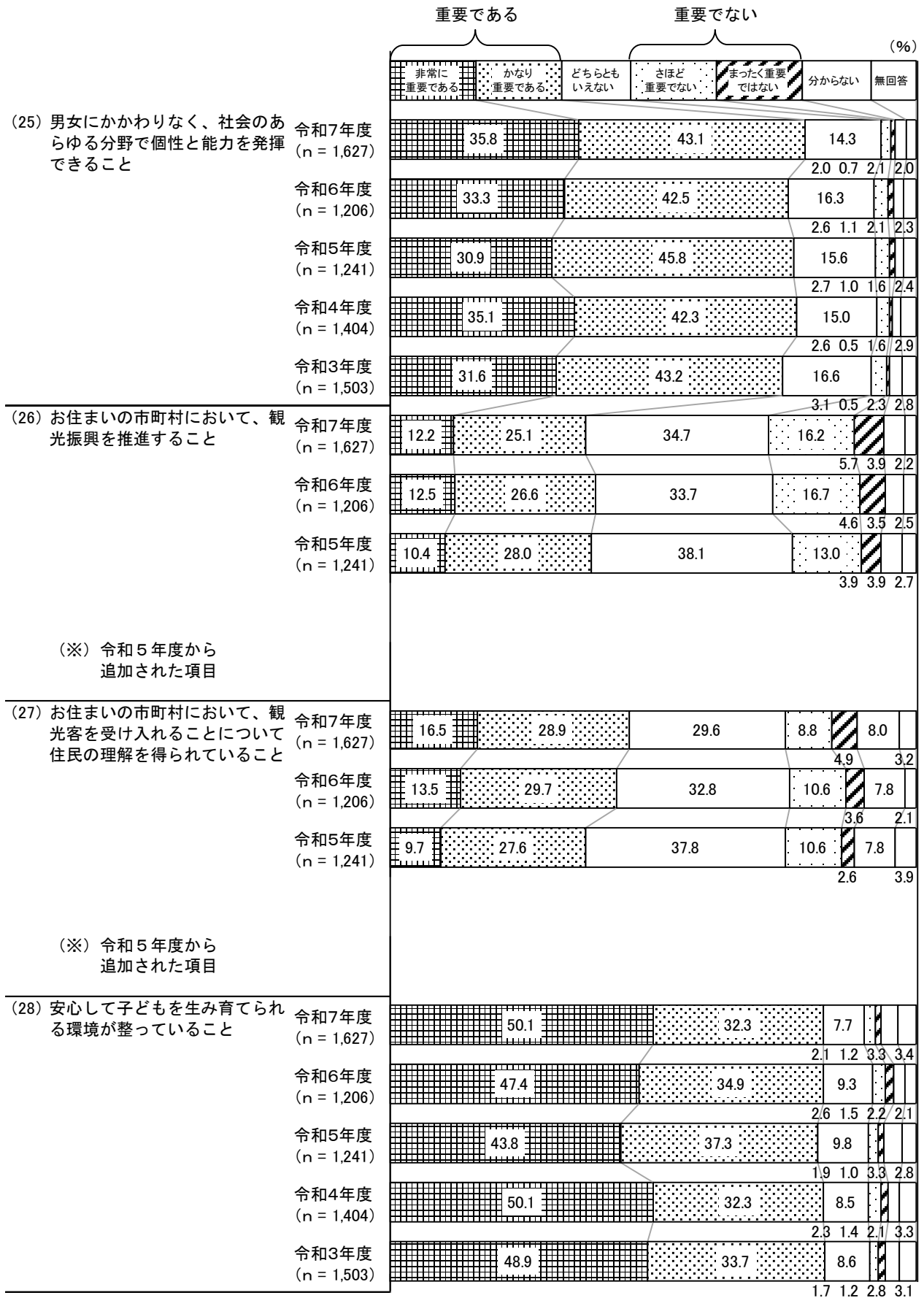
図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）



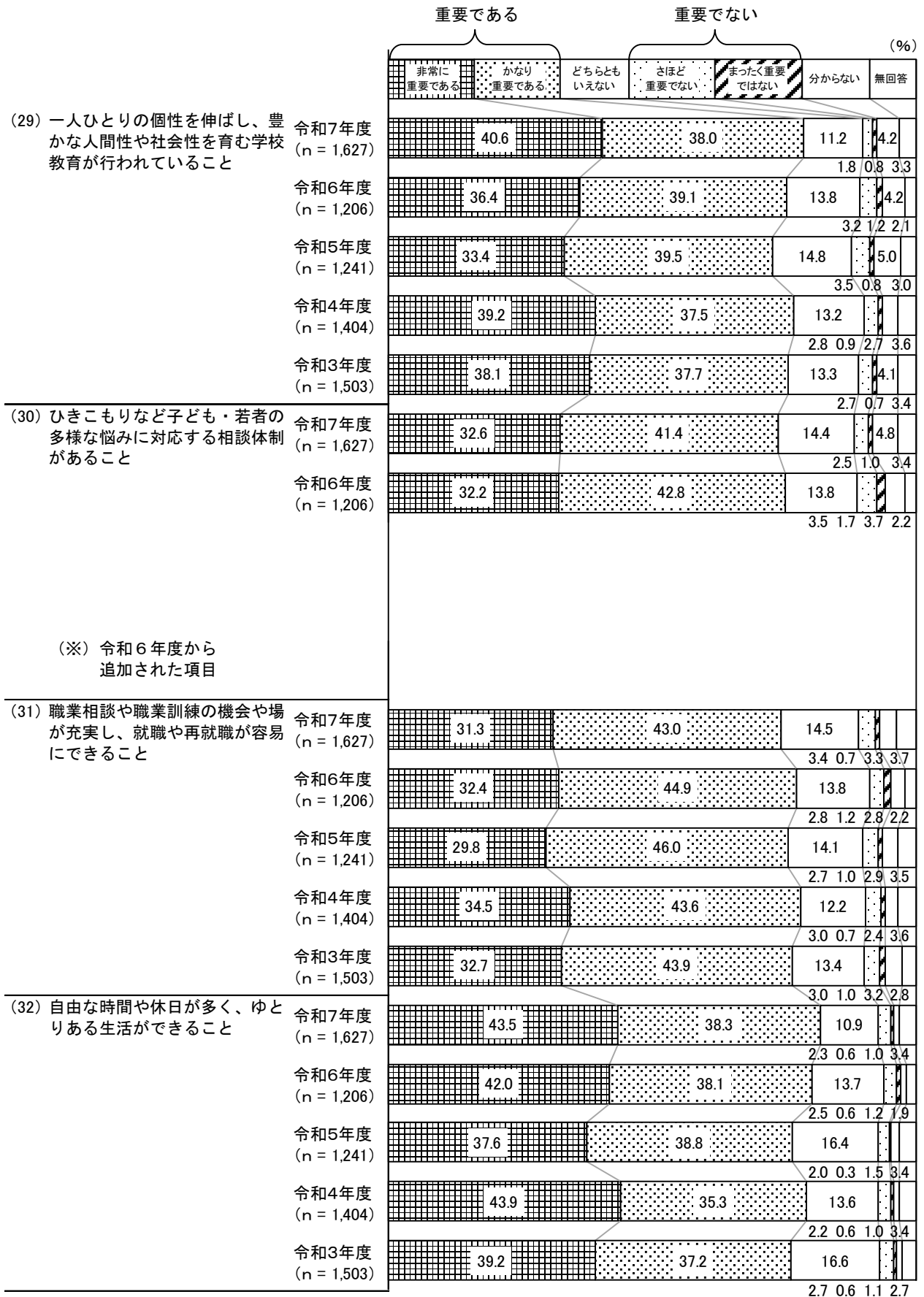
図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）



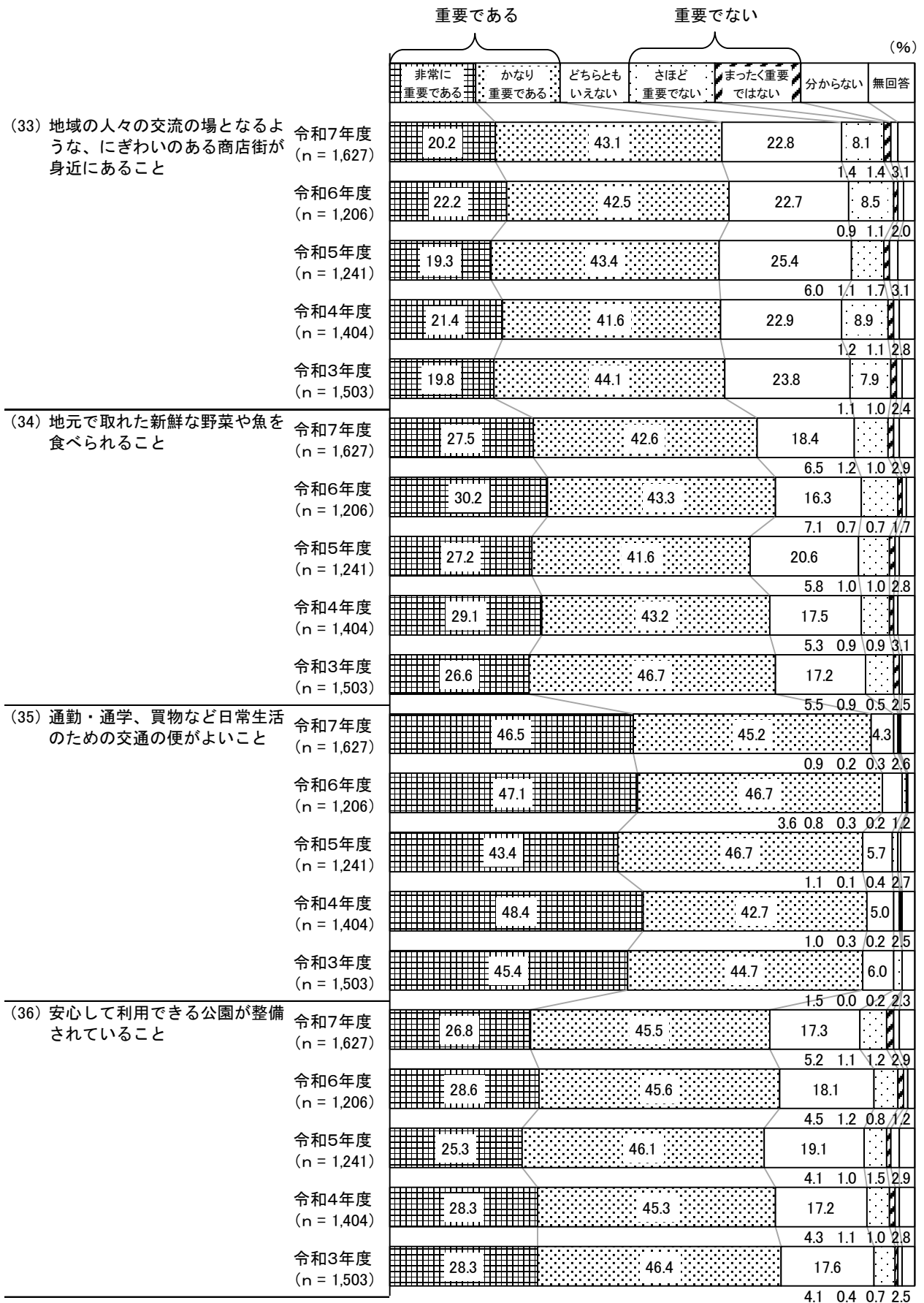
図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）



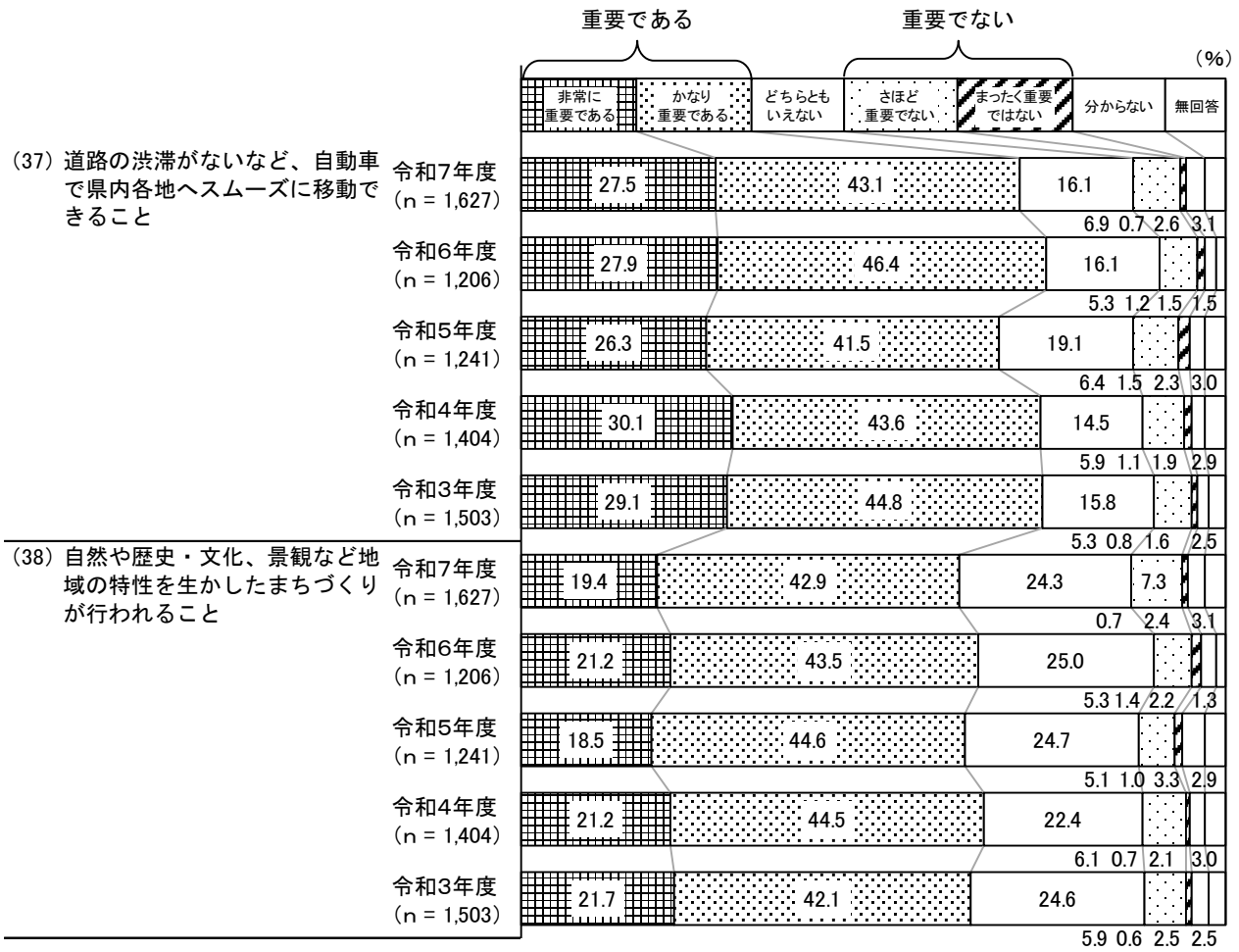
図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）



図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）



図表A 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（つづき）



図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較

		満たされている		満たされていない					(%)
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答	
(1) 犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること	令和7年度 (n = 1,627)	25.4		42.7		21.3			
		2.3				3.7	1.8	2.8	
	令和6年度 (n = 1,206)	27.7		40.1		21.0			
		2.6				3.4	2.2	3.1	
	令和5年度 (n = 1,241)	23.7		40.1		22.0			5.0
		2.9				4.1	2.2		
令和4年度 (n = 1,404)	27.1		40.8		21.2				
	1.9				3.1	2.4	3.6		
令和3年度 (n = 1,503)	25.0		40.4		21.9			4.7	
	1.9				3.4	2.8			
(2) 犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること	令和7年度 (n = 1,627)		45.4		17.6	7.3		20.1	
		0.7	5.9						3.0
	令和6年度 (n = 1,206)	7.0		45.4		18.2		18.7	
		1.3				5.8		3.5	
	令和5年度 (n = 1,241)		44.8		17.2	7.7		17.7	5.1
		1.2	6.3						
令和4年度 (n = 1,404)		45.7		17.2	7.1		18.9		
	1.1	6.2						3.8	
令和3年度 (n = 1,503)		43.4		17.9	8.0		18.6	4.8	
	1.3	6.1							
(3) 地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	令和7年度 (n = 1,627)	11.7		47.2		20.2		10.6	
		0.8				6.6		2.8	
	令和6年度 (n = 1,206)	11.4		44.4		24.0		8.8	
		1.6				6.6		3.2	
	令和5年度 (n = 1,241)	12.2		44.7		21.4		8.6	4.5
		1.6				6.8			
令和4年度 (n = 1,404)	14.8		46.4		22.4		8.0		
	0.9				4.8		2.6		
令和3年度 (n = 1,503)	13.8		47.2		23.0		7.6		
	1.1				5.1		2.3		
(4) 安全で安心な消費生活が送れること	令和7年度 (n = 1,627)	24.8		38.8		21.6		5.7	
		2.1				5.3		1.7	
	令和6年度 (n = 1,206)	25.5		38.9		19.3		5.5	
		2.9				5.1		2.8	
	令和5年度 (n = 1,241)	25.2		35.1		20.1		7.0	
	3.4				5.7		3.5		

(※) 令和5年度から追加された項目

図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）

		満たされている					満たされていない			分らない	無回答
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない					
(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること	令和7年度 (n = 1,627)	41.7				33.3			11.8		
	令和6年度 (n = 1,206)	42.0				31.6			12.7		
	令和5年度 (n = 1,241)	39.8				32.7			12.9		
	令和4年度 (n = 1,404)	40.9				30.8			13.3		
	令和3年度 (n = 1,503)	39.2				35.3			13.2		
(6) 住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること	令和7年度 (n = 1,627)	17.1		41.1		12.5			20.9		
	令和6年度 (n = 1,206)	17.2		41.4		12.2			20.1		
	令和5年度 (n = 1,241)	15.8		41.5		13.5			18.9		
	令和4年度 (n = 1,404)	15.6		40.2		11.5			22.2		
	令和3年度 (n = 1,503)	15.8		42.6		12.6			19.1		
(7) 誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりを持っていること	令和7年度 (n = 1,627)	11.4		46.5		17.2		7.4	14.4		
	令和6年度 (n = 1,206)	11.6		46.9		17.7		7.4	12.8		
	令和5年度 (n = 1,241)	10.1		45.9		20.4		8.4	10.8		
	令和4年度 (n = 1,404)	11.1		43.7		20.3		7.9	12.4		
	令和3年度 (n = 1,503)	9.6		46.6		19.3		9.0	11.9		
(8) 高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること	令和7年度 (n = 1,627)	9.3		43.2		18.9			19.7		
	令和6年度 (n = 1,206)	10.4		43.2		18.2			18.2		
	令和5年度 (n = 1,241)	7.7		42.5		20.1		8.9	16.8		
	令和4年度 (n = 1,404)	8.5		41.1		20.9		7.4	18.4		
	令和3年度 (n = 1,503)	8.7		41.8		20.8		7.4	18.4		

図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）

	満たされている		満たされていない			分からない	無回答	（%）
	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない			
	0.7	5.7						
(9) 心に不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること	令和7年度 (n = 1,627)	42.2	17.5	7.6	24.4		2.0	
	令和6年度 (n = 1,206)	44.1	18.0	8.5	20.2		2.9	
	令和5年度 (n = 1,241)	44.0	19.2	9.7	18.9		2.9	
	令和4年度 (n = 1,404)	41.7	19.4	8.8	20.4		3.1	
	令和3年度 (n = 1,503)	42.9	19.0	9.4	19.8		2.3	
		0.4	6.3					
(10) 身近に親しめるみどりや水辺があること	令和7年度 (n = 1,627)	8.1	39.3	32.8	11.6		3.7	
	令和6年度 (n = 1,206)	6.4	41.4	32.2	11.9		2.5	
	令和5年度 (n = 1,241)	6.0	42.1	28.9	13.0		2.1	
	令和4年度 (n = 1,404)	7.6	39.7	29.3	13.0		3.0	
	令和3年度 (n = 1,503)	7.3	40.2	30.5	14.2		3.0	
					5.1	2.4	3.0	
(11) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	令和7年度 (n = 1,627)	4.2	31.6	35.2	18.6		4.1	
	令和6年度 (n = 1,206)	3.6	33.7	34.2	16.6		1.9	
	令和5年度 (n = 1,241)	3.9	28.2	38.4	17.8		2.0	
	令和4年度 (n = 1,404)	3.7	29.7	34.0	20.0		3.8	
	令和3年度 (n = 1,503)	3.3	27.1	35.1	22.0		2.8	
					6.1	3.8	2.6	
(12) 過剰な資源の消費が抑制され、ゴミのリサイクルなど資源の循環利用が進んでいること	令和7年度 (n = 1,627)	3.0	27.3	40.0	13.8		6.3	
	令和6年度 (n = 1,206)	3.2	28.9	41.7	11.8		2.3	
	令和5年度 (n = 1,241)	2.5	25.1	44.8	13.1		2.7	
					2.6	8.1	3.3	

(※) 令和5年度から追加された項目

図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）

		満たされている		満たされていない			分からない	無回答
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない		
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)		
(13) 省エネ家電への買い替えや節電の取組みなど、省エネ対策が進んでいること	令和7年度 (n = 1,627)	18.9	47.6	15.3	9.2	1.9	5.0	2.2
	令和6年度 (n = 1,206)	19.0	46.8	15.4	8.5	2.7	4.6	3.0
	令和5年度 (n = 1,241)	17.4	47.9	17.6	6.2	1.9	5.6	3.3
(※) 令和5年度から追加された項目								
(14) 水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること	令和7年度 (n = 1,627)	7.3	38.0	31.7	7.6	11.0	2.3	2.0
	令和6年度 (n = 1,206)	8.1	37.1	33.2	6.3	10.7	2.0	2.7
	令和5年度 (n = 1,241)	6.1	40.0	33.0	7.7	7.9	2.4	2.9
	令和4年度 (n = 1,404)	7.1	36.6	31.9	8.8	11.0	2.1	2.6
	令和3年度 (n = 1,503)	6.9	36.6	34.5	7.9	10.0	1.9	2.3
(15) 太陽光発電の設置や再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること	令和7年度 (n = 1,627)	2.2	40.4	19.2	11.4	18.7	6.3	1.9
	令和6年度 (n = 1,206)	2.2	43.6	19.1	11.3	15.9	5.3	2.7
	令和5年度 (n = 1,241)	1.4	39.9	21.0	13.9	15.1	5.2	3.5
(※) 令和5年度から追加された項目								
(16) 環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること	令和7年度 (n = 1,627)	8.2	40.9	17.9	12.5	16.9	1.4	2.2
	令和6年度 (n = 1,206)	7.5	41.9	19.2	12.4	14.6	1.9	2.6
	令和5年度 (n = 1,241)	1.4	42.5	17.3	15.2	13.2	6.8	3.5
	令和4年度 (n = 1,404)	7.8	39.0	19.8	13.0	16.6	0.9	2.9
	令和3年度 (n = 1,503)	7.3	38.8	22.2	11.6	16.6	1.1	2.4

図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）

		満たされている					満たされていない			無回答
		十分満たされている		どちらとも いえない	ほとんど満たされていない		分からない			
		十分満た されている	かなり満た されている		あまり満た されていない	ほとんど満た されていない				
									(%)	
(17) 文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること	令和7年度 (n = 1,627)	21.6		41.0		14.6	6.2	11.4		
		3.0						2.2		
	令和6年度 (n = 1,206)	20.6		41.6		16.7	5.1	9.6		
		3.2						3.2		
	令和5年度 (n = 1,241)	20.5		41.1		17.2	7.3	9.2		
		1.6						3.1		
令和4年度 (n = 1,404)	19.0		43.2		16.0	6.3	9.6			
	2.8						3.1			
令和3年度 (n = 1,503)	17.7		44.6		16.9	7.1	9.0			
	2.5						2.2			
(18) 運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること	令和7年度 (n = 1,627)	26.2		38.5		15.4	5.1	8.7		
		4.1						2.1		
	令和6年度 (n = 1,206)	25.1		38.7		16.5	5.3	7.6		
		4.0						2.7		
	令和5年度 (n = 1,241)	23.1		41.3		15.9	6.3	7.8		
		2.7						2.9		
令和4年度 (n = 1,404)	24.1		38.9		16.5	6.0	7.5			
	3.9						3.1			
令和3年度 (n = 1,503)	24.9		39.3		18.1	6.1	6.2			
	3.2						2.2			
(19) いじめや差別がなく、人権が尊重されていること	令和7年度 (n = 1,627)	11.5		44.7		17.7	7.1	14.5		
		2.3						2.2		
	令和6年度 (n = 1,206)	13.5		44.9		18.8	6.1	12.2		
		1.9						2.7		
	令和5年度 (n = 1,241)	9.9		43.9		19.3	8.3	13.2		
		2.1						3.2		
令和4年度 (n = 1,404)	10.3		45.3		19.7	8.0	12.0			
	1.4						3.3			
令和3年度 (n = 1,503)	9.2		45.0		19.4	8.4	14.2			
	1.5						2.3			
(20) 地域課題解決のため、NPO、企業、大学、行政などの多様な主体が協働・連携すること	令和7年度 (n = 1,627)	0.4	6.4	45.1		11.2	5.3	28.8		
								2.8		
	令和6年度 (n = 1,206)	1.1	6.4	46.7		12.4	4.6	25.8		
								3.1		
	令和5年度 (n = 1,241)	0.4	4.3	48.3		13.5	5.3	24.7		
								3.5		
令和4年度 (n = 1,404)	0.7	4.6	45.2		13.5	4.8	27.0	4.3		
令和3年度 (n = 1,503)	0.8	5.5	46.1		13.4	5.9	25.3	3.0		

図表B くらしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）

		満たされている		満たされていない				
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答
(21) 行政の情報公開や情報提供、県民参加などにより、開かれた県政になっていること	令和7年度 (n = 1,627)	8.7	44.3	14.8	8.5	20.3		
		0.9						2.5
	令和6年度 (n = 1,206)	8.0	45.0	16.3	8.6	17.9		
		0.9						3.3
	令和5年度 (n = 1,241)	6.5	45.8	16.1	9.3	18.0		
		0.9						3.5
(22) 外国人と日本人が国籍、民族、文化の違いを理解し、認め合っ て共にくらすこと	令和7年度 (n = 1,627)	8.1	44.3	16.5	8.2	18.7		
		1.8						2.3
	令和6年度 (n = 1,206)	7.2	47.3	17.0	5.1	18.3		
		1.9						3.1
	令和5年度 (n = 1,241)	6.8	49.1	15.6	6.8	17.2		
		1.2						3.1
(23) 農林水産業の体験や伝統のある食文化を伝えていく機会や場があること	令和7年度 (n = 1,627)	8.5	47.9	16.3	6.6	16.0		
		1.4						3.4
	令和6年度 (n = 1,206)	7.1	47.8	16.4	7.1	18.0		
		0.9						2.7
	令和5年度 (n = 1,241)	6.4	45.4	16.5	8.8	20.2		
		0.6						2.6
(24) 民間の国際交流・協力活動が活発であること	令和7年度 (n = 1,627)	7.2	45.9	14.8	7.0	21.7		
		0.9						3.1
	令和6年度 (n = 1,206)	6.5	46.0	16.1	8.5	19.7		
		0.8						3.6
	令和5年度 (n = 1,241)	5.2	46.1	15.4	7.9	20.0		
		0.7						3.4
(24) 民間の国際交流・協力活動が活発であること	令和7年度 (n = 1,627)	6.5	46.1	17.0	7.2	19.8		
		0.8						2.7
	令和6年度 (n = 1,206)	6.4	45.9	13.1	5.4	26.1		
		0.9						2.8
	令和5年度 (n = 1,241)	5.8	46.6	12.9	5.6	25.0		
		1.1						3.2
(24) 民間の国際交流・協力活動が活発であること	令和4年度 (n = 1,404)	5.6	47.1	13.5	6.0	23.1		
		1.2						3.9
	令和4年度 (n = 1,404)	5.0	47.2	13.1	5.6	24.5		
		0.9						4.3
	令和3年度 (n = 1,503)	4.4	47.3	12.4	6.0	23.8		
		0.8						4.1

図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）

	年次 (n)	満たされている		満たされていない			分からない	無回答
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない		
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)		
(25) 男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること	令和7年度 (n = 1,627)	11.0	44.4	21.7	7.0	12.5		
		1.1				2.3		
	令和6年度 (n = 1,206)	10.0	44.6	21.1	7.8	11.9		
		1.7				3.0		
	令和5年度 (n = 1,241)	7.2	43.5	24.8	9.8	10.4		
	1.0				3.3			
(26) お住まいの市町村において、観光振興を推進すること	令和7年度 (n = 1,627)	13.8	46.5	11.7	16.7			
		3.3		5.7		2.5		
	令和6年度 (n = 1,206)	13.2	45.9	11.0	18.6			
		2.7		5.7		2.9		
	令和5年度 (n = 1,241)	13.5	48.2	11.4	15.9			
	1.9		6.0		3.1			
(※) 令和5年度から追加された項目								
(27) お住まいの市町村において、観光客を受け入れることについて住民の理解を得られていること	令和7年度 (n = 1,627)	8.0	42.2	14.0	7.7	22.6		
		2.0				3.5		
	令和6年度 (n = 1,206)	8.8	46.2	12.5	22.3			
		1.3		5.7		3.2		
	令和5年度 (n = 1,241)	8.9	48.1	11.1	21.5	4.7		
	1.3		4.4					
(※) 令和5年度から追加された項目								
(28) 安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること	令和7年度 (n = 1,627)	18.5	35.6	20.0	14.2	4.2		
		1.4		6.0				
	令和6年度 (n = 1,206)	18.2	36.7	21.6	12.3			
		1.7		6.7		2.7		
	令和5年度 (n = 1,241)	14.8	39.5	19.4	7.3	13.6		
	1.7				3.6			
(28) 安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること	令和4年度 (n = 1,404)	14.7	35.6	21.9	10.0	11.9	4.4	
		1.5						
	令和3年度 (n = 1,503)	16.1	36.1	21.7	8.3	12.4	4.0	
		1.4						

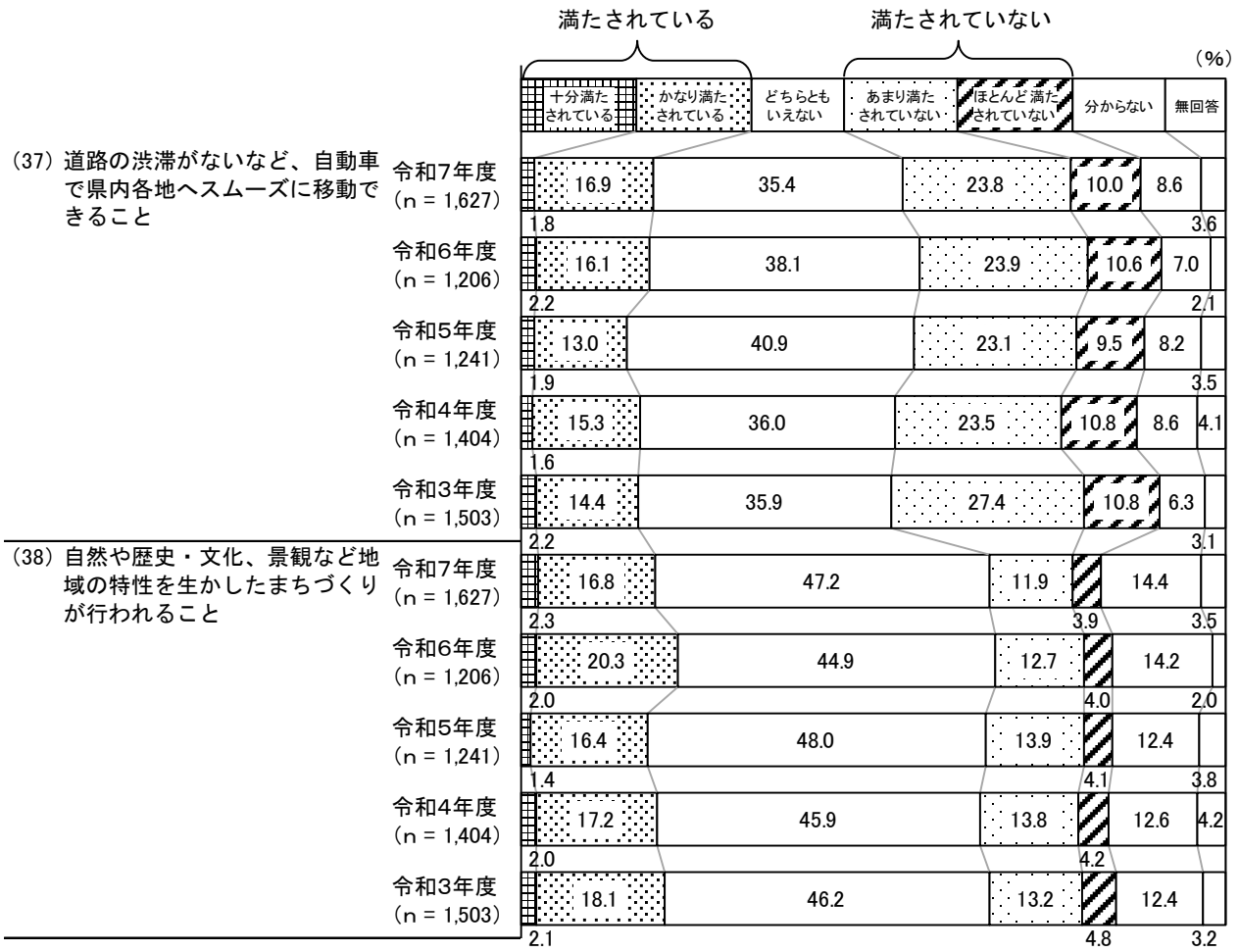
図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）

		満たされている				満たされていない		分からない	無回答	（%）	
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらともいえない	あまり満たされていない				ほとんど満たされていない
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない					
(29) 一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育む学校教育が行われていること	令和7年度 (n = 1,627)	11.3	38.8	16.6	21.1	1.4	6.8	3.9			
	令和6年度 (n = 1,206)	8.1	39.0	17.1	9.4	1.6	6.8	3.0			
	令和5年度 (n = 1,241)	0.8	39.9	18.0	8.0	0.8	6.8	3.8			
	令和4年度 (n = 1,404)	0.9	38.9	20.2	9.2	0.9	6.2	4.5			
	令和3年度 (n = 1,503)	0.9	38.7	19.0	10.5	0.9	6.5	4.5			
(30) ひきこもりなど子ども・若者の多様な悩みに対応する相談体制があること	令和7年度 (n = 1,627)	1.0	36.6	15.5	7.4	1.0	6.5	4.1			
	令和6年度 (n = 1,206)	1.1	36.6	17.1	7.2	1.1	5.0	3.0			
(※) 令和6年度から追加された項目											
(31) 職業相談や職業訓練の機会や場が充実し、就職や再就職が容易にできること	令和7年度 (n = 1,627)	7.1	39.8	16.7	8.0	1.4	8.0	4.4			
	令和6年度 (n = 1,206)	0.8	42.3	16.2	7.5	0.8	5.9	3.5			
	令和5年度 (n = 1,241)	1.0	39.2	18.3	8.5	1.0	6.4	4.4			
	令和4年度 (n = 1,404)	1.5	40.2	17.9	9.5	1.5	5.8	4.6			
	令和3年度 (n = 1,503)	0.6	37.5	19.6	9.7	0.6	5.8	4.2			
(32) 自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	令和7年度 (n = 1,627)	21.1	34.2	20.1	11.7	4.1	5.1	3.7			
	令和6年度 (n = 1,206)	18.7	34.1	20.4	13.7	4.1	6.2	2.8			
	令和5年度 (n = 1,241)	17.3	34.2	22.2	12.7	3.0	6.4	4.2			
	令和4年度 (n = 1,404)	18.2	33.0	20.4	15.0	3.1	6.0	4.3			
	令和3年度 (n = 1,503)	18.0	32.9	21.9	14.3	3.3	5.5	4.0			

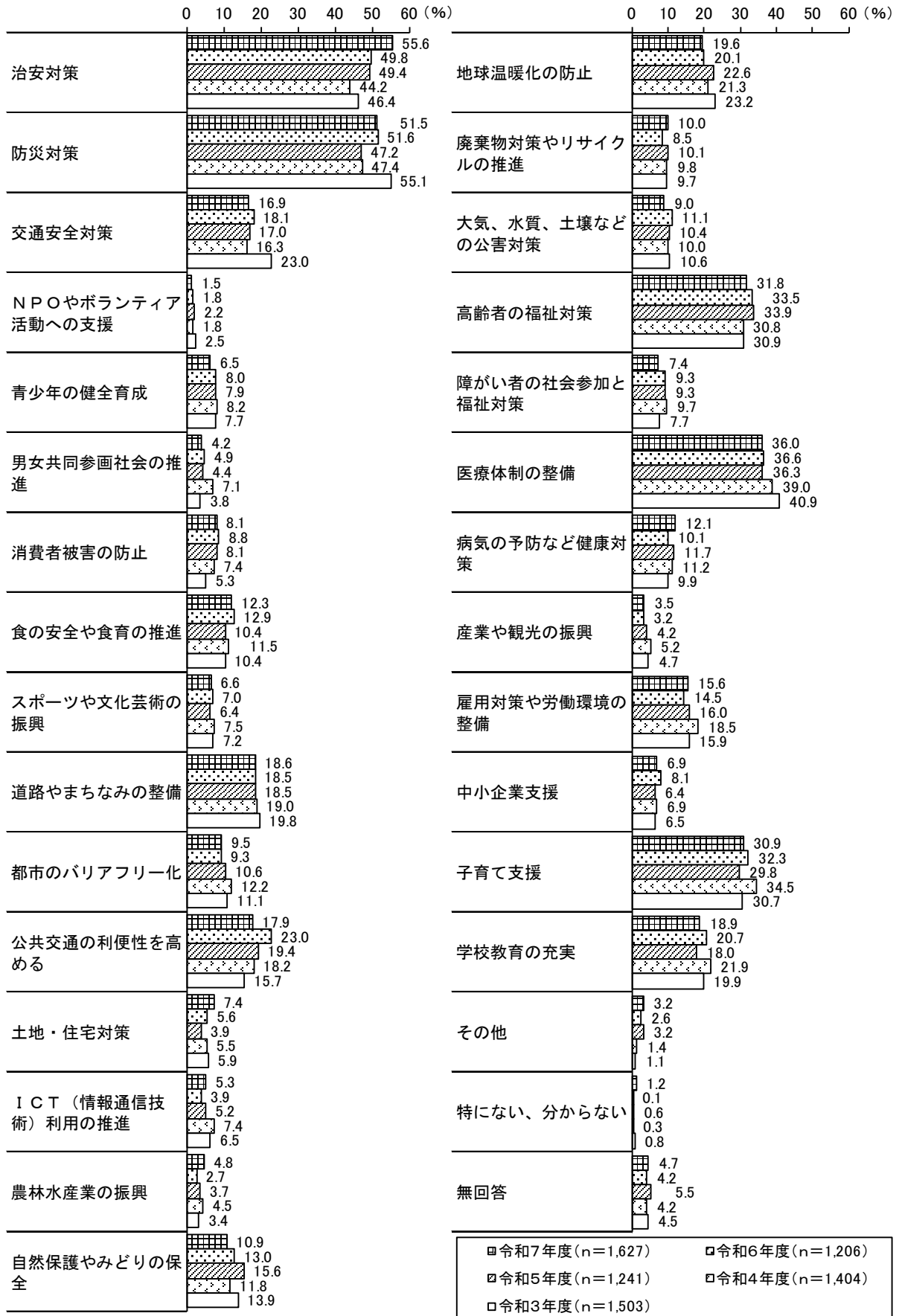
図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）

		満たされている		満たされていない				
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
(33) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること	令和7年度 (n = 1,627)	13.5	34.2	23.8	17.0	5.9		
		2.2				3.5		
	令和6年度 (n = 1,206)	15.3	33.4	22.2	17.0	6.5		
		2.9				2.7		
	令和5年度 (n = 1,241)	13.1	34.3	23.9	16.6	6.5		
		1.7				3.8		
(34) 地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること	令和7年度 (n = 1,627)	23.7	35.6	19.4	8.3	6.3		
		3.3				3.4		
	令和6年度 (n = 1,206)	24.3	36.4	18.7	9.1	5.3		
		3.6				2.7		
	令和5年度 (n = 1,241)	21.6	39.6	19.3	7.2	5.9		
		2.7				3.8		
(35) 通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと	令和7年度 (n = 1,627)	10.1	40.6	22.2	17.1			
						5.7	1.4	3.0
	令和6年度 (n = 1,206)	9.2	41.9	23.1	17.7			
						5.2	1.1	1.9
	令和5年度 (n = 1,241)	9.6	40.9	24.2	15.1			
						5.7	1.3	3.3
(36) 安心して利用できる公園が整備されていること	令和7年度 (n = 1,627)	7.1	33.2	33.3	13.1			
						5.9	0.5	3.1
	令和6年度 (n = 1,206)		34.9	33.3	12.6			
						5.5		3.2
	令和5年度 (n = 1,241)		31.8	34.6	13.6			
						5.0		2.1
(36) 安心して利用できる公園が整備されていること	令和4年度 (n = 1,404)		31.4	31.4	15.7			
						5.4		3.5
	令和3年度 (n = 1,503)		30.0	32.7	16.4			
						6.3		3.8
		6.8				6.4		3.1

図表B 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（つづき）



図表C 県行政への要望（複数回答）－過去との比較



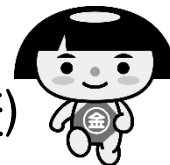
第Ⅵ部 調査票と単純集計結果

調査期間 令和7年7月18日～8月12日
標本設計数 4,000 有効回収数(率) 1,627 (40.7%)
* 「n」は、質問に対する回答者の総数を表す。
「-」は、回答者が皆無であることを示す。
※ 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、
合計が100%にならないことがある。

令和7年度(2025年)

神奈川県『県民ニーズ調査』(基本調査)

— 県民の生活と県政についての意識調査 —



神奈川県PRキャラクター
かながわキンタロウ

折り目

折り目

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

◆ 記入上の留意事項

- 1 この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- 2 この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- 3 お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- 4 ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 5 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入いただいた調査票は、同封の**返送用封筒**に入れ、
8月12日(火)までにご投函ください。
(切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です)



※インターネットからもご回答いただけます！
(左記二次元コードから回答画面へ)

折り目

折り目

インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

【お問い合わせ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ お問い合わせフォーム



二次元コードから送信

※8月12日まで受付

○ 電話 (045)210-3672

※ 受付時間 月～金 8:30～17:15

(12:00～13:00を除く／土日祝日は閉庁)

くらし全般について

問1 あなたは、現在の生活にどの程度満足していますか。(○は1つ) (n=1,627) (%)

1 たいへん満足している	5.3	4 どちらかといえば不満である	16.1
2 どちらかといえば満足している	45.5	5 たいへん不満である	5.5
3 どちらともいえない	22.4	6 分からない	0.6
(無回答 4.5)			

問2 現在のくらし向きは、昨年の今頃と比べていかがですか。(○は1つ) (n=1,627) (%)

1 よくなった	1.9	4 少し悪くなった	33.4	問2-1に お答えください ↓
2 少しよくなった	7.3	5 悪くなった	12.3	
3 変わらない	40.8	(無回答 4.2)		

【問2で「4 少し悪くなった」「5 悪くなった」とお答えの方に】

問2-1 悪くなった理由としてどのようなことがあげられますか。(○はいくつでも) (n=744) (%)

1 賃金などの収入が減ったため	28.5	6 住宅を購入したため	0.9
2 倒産・解雇などのため	1.3	7 低金利が続いているため	7.1
3 事業などの経費が増えたため	4.2	8 特別の事情による(結婚、出産、病気など)	11.4
4 日常の生活費が増えたため	84.9	9 その他	8.5
5 教育費が増えたため	14.1	10 特に理由はない、分からない	0.8
(無回答 -)			

【全員の方がお答えください】

問3 これからのあなたのくらし向きの見通しはいかがですか。(○は1つ) (n=1,627) (%)

1 明るい	3.0	4 やや暗い	32.9
2 やや明るい	8.8	5 暗い	11.2
3 変わらない	32.3	6 分からない	7.9
(無回答 3.9)			

問4 あなたは、現在お住まいの地域をどの程度住みよいと思いますか。(○は1つ) (n=1,627) (%)

1 たいへん住みよい	16.0	4 どちらかといえば住みにくい	6.3
2 どちらかといえば住みよい	56.9	5 たいへん住みにくい	1.4
3 どちらともいえない	15.0	6 分からない	0.6
(無回答 3.7)			

問5 あなたは、今後も現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ) (n=1,627) (%)

1 現在のところに住み続けたい	64.5	3 神奈川県外へ移りたい	7.0
2 神奈川県内の他のところへ移りたい	7.6	4 特に考えていない	17.3
(無回答 3.7)			

生活意識

問6 あなたは次にあげることがらについてどのように思いますか。

「そう思う」「そう思わない」のどちらかに○をつけてください。(○は1つ)
(n=1,627) (%)

	そう 思う	そう 思わ ない	無 回 答
回答例→	①	2	
【安全・安心】			
(1) 今住んでいる地域は、夜、一人歩きをしても安全だ	69.4	26.1	4.5
(2) 大地震などの災害がおきても3日はくらせるように、防災の準備ができている	47.4	48.0	4.5
(3) 安全・安心なまちづくりのための地域活動に参加したい	44.4	49.8	5.7
【健康・福祉】			
(4) 日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている	72.8	22.7	4.5
(5) いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など、食事のマナーを正しくできている	72.6	22.9	4.4
(6) ゆっくりよく噛んで食べている	53.5	42.0	4.4
(7) 住居の造りや介護サービスの提供が今のような状態の環境では、高齢者が安心して生活するのはむずかしい	64.1	30.9	5.0
(8) 鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている	29.7	65.5	4.7
(9) 一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている	30.6	64.8	4.6
【エネルギー・環境】			
(10) ゴミを出すにあたって、分別やリサイクルを意識する、できるだけゴミを減らすなど、環境のことを考えた生活を心がけている	85.8	10.4	3.8
(11) 食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけている	89.5	6.7	3.8
(12) 省エネや公共交通機関の利用など、環境にやさしい生活スタイルを心がけている	67.9	27.9	4.2
(13) 森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ	73.3	21.9	4.8

「そう思う」「そう思わない」のどちらかに○をつけてください。(○は1つ)
(n=1,627) (%)

そう 思う	そう 思わ ない	無 回 答
----------	----------------	-------------

【県民生活】			
(14) 公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい	20.8	75.4	3.8
(15) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	8.5	88.8	2.7
(16) 女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ	72.5	24.2	3.3
(17) 神奈川県でくらす外国人も日本人と同じような権利を持つべきだ	38.7	56.7	4.6
(18) いじめや差別は、一人ひとりが思いやりの心を持てばなくせるものだ	53.2	43.7	3.1
(19) 今後10年くらいの中に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている	15.2	81.3	3.4
(20) 今後10年くらいの中に、外国人にとってもくらしやすい地域社会になっている	28.6	66.9	4.4
【教育・子育て】			
(21) 子どもを生き育てる環境が今のままでは、子どもを持つのはむずかしい	67.0	28.6	4.4
(22) 育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ	89.9	6.6	3.6
(23) 国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい	64.7	30.8	4.5
(24) 子ども・若者が自分自身の価値や存在感を実感できる世の中になっている	24.1	71.1	4.8
(25) 子ども・若者をめぐる昨今の問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい	72.2	23.4	4.4
【産業】			
(26) 県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい	83.6	12.7	3.7

「そう思う」「そう思わない」のどちらかに○をつけてください。(○は1つ)
(n=1,627) (%)

そう
思う

そう
思わ
ない

無
回
答

【県土・まちづくり】

(27) 神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ	86.2	11.3	2.5
(28) まちなみ、歴史的建造物の保全や公園づくりなど、まちづくり関係の活動に参加してみたい	40.1	56.6	3.3
(29) 県内では、交通渋滞が激しく自動車での移動が不便だ	51.0	44.7	4.3
(30) 今後10年くらいの間、道路や公共交通網がさらに充実し、県内外への利便性がよくなっている	49.5	46.8	3.7

くらしの満足度

問7 あなたは次にあげることがらについて、どのくらい重要だと思いますか。また、現在、どの程度満たされていると思いますか。それぞれあてはまるところに1つずつ○をつけてください。

(n=1,627) (%)

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

	重要度						満足度							
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	分からない	無回答	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答
回答例→	1	②	3	4	5	6		1	2	3	④	5	6	

【安全・安心】

(1) 犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること	65.9	28.8	2.5	0.1	0.1	0.6	2.1	2.3	25.4	42.7	21.3	3.7	1.8	2.8
(2) 犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること	59.6	30.4	4.9	0.2	0.1	2.5	2.3	0.7	5.9	45.4	17.6	7.3	20.1	3.0
(3) 地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	63.4	28.2	4.7	0.4	0.2	1.2	2.0	0.8	11.7	47.2	20.2	6.6	10.6	2.8

(n=1,627) (%)

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

	重要度							満足度						
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	分からない	無回答	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答
(4) 安全で安心な消費生活が送れること	54.1	35.7	4.2	0.7	-	0.4	4.7	2.1	24.8	38.8	21.6	5.3	1.7	5.7
【健康・福祉】														
(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること	62.8	32.6	2.5	0.3	0.1	0.6	1.1	6.1	41.7	33.3	11.8	2.0	3.0	2.1
(6) 住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること	46.2	38.0	9.2	2.1	0.2	2.8	1.4	2.3	17.1	41.1	12.5	4.1	20.9	2.0
(7) 誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりを持っていること	32.3	47.1	13.3	3.8	0.4	1.8	1.2	1.2	11.4	46.5	17.2	7.4	14.4	1.8
(8) 高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること	38.6	44.4	10.8	2.2	0.4	2.4	1.2	1.0	9.3	43.2	18.9	5.9	19.7	1.9
(9) 心に不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること	35.5	42.7	13.5	3.1	0.7	3.3	1.4	0.7	5.7	42.2	17.5	7.6	24.4	2.0
【エネルギー・環境】														
(10) 身近に親しめるみどりや水辺があること	31.8	46.0	15.0	4.5	0.4	0.8	1.4	8.1	39.3	32.8	11.6	3.7	2.5	2.1
(11) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	53.2	40.3	3.8	0.6	0.1	0.6	1.5	4.2	31.6	35.2	18.6	4.1	4.2	2.0
(12) 過剰な資源の消費が抑制され、ゴミのリサイクルなど資源の循環利用が進んでいること	35.2	47.9	12.1	1.5	0.4	1.6	1.3	3.0	27.3	40.0	13.8	2.6	10.9	2.3
(13) 省エネ家電への買い替えや節電の取組みなど、省エネ対策が進んでいること	24.8	47.3	20.2	4.2	0.7	1.4	1.4	1.9	18.9	47.6	15.3	5.0	9.2	2.2
(14) 水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること	58.0	35.4	3.6	0.4	0.1	1.2	1.2	7.3	38.0	31.7	7.6	2.3	11.0	2.0

(n=1,627) (%)

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

	重要度							満足度						
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	分からない	無回答	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答
(15) 太陽光発電の設置や再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど、再生可能エネルギーの導入や利用が進んでいること	23.0	35.2	25.4	7.3	3.6	3.8	1.7	2.2	6.3	40.4	19.2	11.4	18.7	1.9
(16) 環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること	17.6	35.7	27.8	9.8	3.4	3.7	1.8	1.4	8.2	40.9	17.9	12.5	16.9	2.2
【県民生活】														
(17) 文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること	14.0	37.2	29.1	12.6	2.1	3.1	2.0	3.0	21.6	41.0	14.6	6.2	11.4	2.2
(18) 運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること	17.1	42.5	26.2	8.7	1.7	2.0	1.8	4.1	26.2	38.5	15.4	5.1	8.7	2.1
(19) いじめや差別がなく、人権が尊重されていること	45.3	39.8	9.3	1.2	0.2	2.6	1.6	2.3	11.5	44.7	17.7	7.1	14.5	2.2
(20) 地域課題解決のため、NPO、企業、大学、行政などの多様な主体が協働・連携すること	19.9	40.1	25.4	5.1	1.5	5.8	2.2	0.4	6.4	45.1	11.2	5.3	28.8	2.8
(21) 行政の情報公開や情報提供、県民参加などにより、開かれた県政になっていること	28.6	42.2	18.6	2.3	0.4	5.7	2.2	0.9	8.7	44.3	14.8	8.5	20.3	2.5
(22) 外国人と日本人が国籍、民族、文化の違いを理解し、認め合って共にくらすこと	19.5	40.4	23.5	6.7	5.3	2.7	1.9	1.8	8.1	44.3	16.5	8.2	18.7	2.3
(23) 農林水産業の体験や伝統のある食文化を伝えていく機会や場があること	15.9	36.0	30.4	8.4	2.2	4.9	2.3	0.6	5.9	45.4	16.5	8.8	20.2	2.6
(24) 民間の国際交流・協力活動が活発であること	11.0	30.0	34.2	12.0	3.9	6.6	2.3	0.9	5.8	45.9	13.1	5.4	26.1	2.8
(25) 男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を発揮できること	35.8	43.1	14.3	2.0	0.7	2.1	2.0	1.1	11.0	44.4	21.7	7.0	12.5	2.3
(26) お住まいの市町村において、観光振興を推進すること	12.2	25.1	34.7	16.2	5.7	3.9	2.2	3.3	13.8	46.5	11.7	5.7	16.7	2.5

(n=1,627) (%)

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

	重要度						満足度							
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	分からない	無回答	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答
(27) お住まいの市町村において、観光客を受け入れることについて住民の理解を得られていること	16.5	28.9	29.6	8.8	4.9	8.0	3.2	2.0	8.0	42.2	14.0	7.7	22.6	3.5
【教育・子育て】														
(28) 安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること	50.1	32.3	7.7	2.1	1.2	3.3	3.4	1.4	18.5	35.6	20.0	6.0	14.2	4.2
(29) 一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育む学校教育が行われていること	40.6	38.0	11.2	1.8	0.8	4.2	3.3	1.4	11.3	38.8	16.6	6.8	21.1	3.9
(30) ひきこもりなど子ども・若者の多様な悩みに対応する相談体制があること	32.6	41.4	14.4	2.5	1.0	4.8	3.4	1.0	6.5	36.6	15.5	7.4	28.9	4.1
【産業・労働】														
(31) 職業相談や職業訓練の機会や場が充実し、就職や再就職が容易にできること	31.3	43.0	14.5	3.4	0.7	3.3	3.7	1.4	7.1	39.8	16.7	8.0	22.7	4.4
(32) 自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	43.5	38.3	10.9	2.3	0.6	1.0	3.4	4.1	21.1	34.2	20.1	11.7	5.1	3.7
(33) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること	20.2	43.1	22.8	8.1	1.4	1.4	3.1	2.2	13.5	34.2	23.8	17.0	5.9	3.5
(34) 地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること	27.5	42.6	18.4	6.5	1.2	1.0	2.9	3.3	23.7	35.6	19.4	8.3	6.3	3.4

(n=1,627) (%)

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

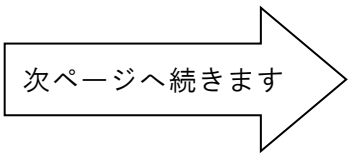
満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

重要度							満足度						
非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	分からない	無回答	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	分からない	無回答

【県土・まちづくり】

(35) 通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと	46.5	45.2	4.3	0.9	0.2	0.3	2.6	10.1	40.6	22.2	17.1	5.7	1.4	3.0
(36) 安心して利用できる公園が整備されていること	26.8	45.5	17.3	5.2	1.1	1.2	2.9	7.1	33.2	33.3	13.1	5.5	4.7	3.2
(37) 道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること	27.5	43.1	16.1	6.9	0.7	2.6	3.1	1.8	16.9	35.4	23.8	10.0	8.6	3.6
(38) 自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われること	19.4	42.9	24.3	7.3	0.7	2.4	3.1	2.3	16.8	47.2	11.9	3.9	14.4	3.5



県行政への要望

問8 神奈川県を行政を進めていくうえで、力を入れて取り組んでほしい分野は何ですか。次の中から特に取り組んでほしい分野を5つまで選んでください。(〇は5つまで) (n=1,627) (%)

1 治安対策	55.6	16 自然保護やみどりの保全	10.9
2 防災対策	51.5	17 地球温暖化の防止	19.6
3 交通安全対策	16.9	18 廃棄物対策やリサイクルの推進	10.0
4 NPOやボランティア活動への支援	1.5	19 大気、水質、土壌などの公害対策	9.0
5 青少年の健全育成	6.5	20 高齢者の福祉対策	31.8
6 男女共同参画社会の推進	4.2	21 障がい者の社会参加と福祉対策	7.4
7 消費者被害の防止	8.1	22 医療体制の整備	36.0
8 食の安全や食育の推進	12.3	23 病気の予防など健康対策	12.1
9 スポーツや文化芸術の振興	6.6	24 産業や観光の振興	3.5
10 道路やまちなみの整備	18.6	25 雇用対策や労働環境の整備	15.6
11 都市のバリアフリー化	9.5	26 中小企業支援	6.9
12 公共交通の利便性を高める	17.9	27 子育て支援	30.9
13 土地・住宅対策	7.4	28 学校教育の充実	18.9
14 ICT(情報通信技術)利用の推進	5.3	29 その他	3.2
15 農林水産業の振興	4.8	30 特にない、分からない	1.2
(無回答 4.7)			

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,627) (%)

1 横浜(横浜市)	37.9
2 川崎(川崎市)	14.6
3 相模原(相模原市)	6.6
4 横須賀三浦(横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	8.9
5 県央(厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	9.2
6 湘南(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	14.4
7 県西(小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	4.5
(無回答 3.9)	

F2 差し支えなければ、あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,627) (%)

1 男性	44.7	2 女性	49.7	(無回答 5.6)
------	------	------	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2025年8月1日時点) (n=1,627) (%)

1 18～19歳	0.2	5 35～39歳	6.5	9 55～59歳	10.7	13 75～79歳	8.1
2 20～24歳	1.9	6 40～44歳	8.0	10 60～64歳	9.5	14 80歳以上	4.7
3 25～29歳	3.0	7 45～49歳	10.4	11 65～69歳	8.4		
4 30～34歳	4.5	8 50～54歳	12.2	12 70～74歳	7.5		(無回答 4.2)

F 4 お宅には65歳以上の方がいらっしゃいますか。ご自身も含めてお答えください。(n=1,627) (%)

1 いる	41.8	2 いない	51.9	(無回答 6.3)
------	------	-------	------	-----------

F 5 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。)(n=1,627) (%)

1 小学校入学前	7.1	5 短大、専門学校等在学中	1.0	9 その他	3.1
2 小学校在学中	10.9	6 大学、大学院等在学中	6.9	10 子どもはいない	30.0
3 中学校在学中	7.6	7 学校教育終了〔未婚〕	21.8		
4 高校在学中	7.0	8 学校教育終了〔既婚〕	22.4		(無回答 4.9)

F 6 あなたはインターネットを利用しますか。(n=1,627) (%)

1 よく利用する	69.0	3 あまり利用しない	5.5
2 ときどき利用する	14.0	4 利用しない	7.3
			(無回答 4.2)

F 7 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。(n=1,627) (%) (n=1,032) (%)

1 自営業主	4.9	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業	0.3
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.3		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	4.5
3 勤め (フルタイム)	41.7	エ～ケから 1つ選んで ください。	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	4.7
4 勤め (パートタイム)	15.4		エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	7.9
5 内職	0.1		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	21.9
6 主婦・主夫(勤めていない)	12.5		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	24.6
7 学生	1.0		キ 教育職(教諭、保育士など)	5.3
8 無職	14.5		ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	10.6
9 その他	1.8		ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	18.1
	(無回答 6.7)			(無回答 2.1)

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、8月12日（火）までにご投函ください。（切手は不要です。）

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

県政についてのご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望する内容の番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------|------------|
| 1 安全・安心 | 6 産業・労働 |
| 2 健康・福祉 | 7 県土・まちづくり |
| 3 エネルギー・環境 | 8 県政一般 |
| 4 スポーツ・国際文化・観光 | 9 その他 |
| 5 教育・子育て | |

下記にその内容をご記載ください。

397人（24.4%）から自由意見が寄せられました。

第1回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 食の安全・安心
- (2) 食・食育
- (3) かながわの農林水産業
- (4) かながわの水源地域
- (5) 地域社会との関わり
- (6) 地域活動
- (7) 治安対策
- (8) 地震対策の取組み
- (9) 自転車ヘルメットの着用
- (10) スポーツ
- (11) ともに生きる社会かながわ
- (12) 受動喫煙
- (13) 肝炎対策

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 4,000 標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和 7 年 9 月 5 日（金）～9 月 30 日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社 CCNグループ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標 本 数	4,000 標本
有効回収数	1,905 標本 〔 郵送回答 : 1,078 件 〕 〔 インターネット回答 : 827 件 〕
有効回収率	47.6%

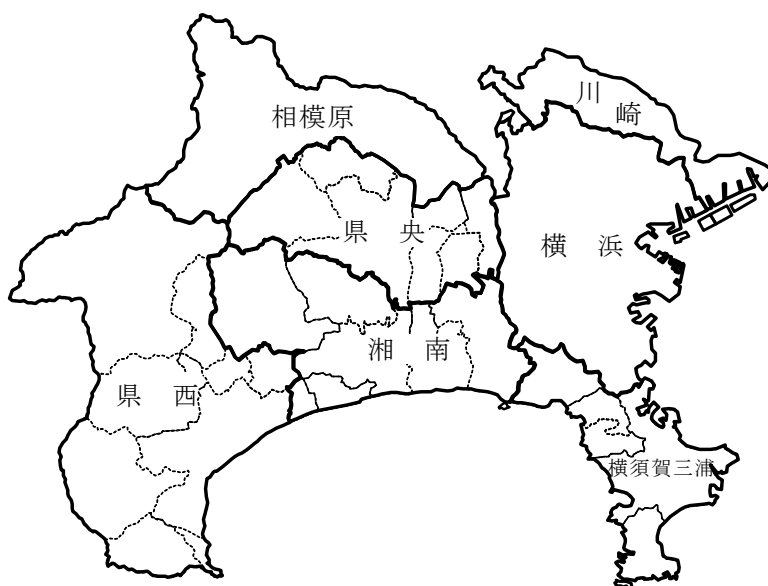
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,620	736	45.4%
川崎	川崎市	660	324	49.1%
相模原	相模原市	300	133	44.3%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	300	127	42.3%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	380	213	56.1%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	580	275	47.4%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	160	73	45.6%
無 回 答			24	
全 体		4,000	1,905	47.6%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和6年1月1日現在の推計値）により、4,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,156,795人 81地点 1,620標本	-	-	3,156,795人 81地点 1,620標本
川 崎	1,283,024人 33地点 660標本	-	-	1,283,024人 33地点 660標本
相模原	607,446人 15地点 300標本	-	-	607,446人 15地点 300標本
横須賀三浦	-	557,093人 14地点 280標本	25,917人 1地点 20標本	583,010人 15地点 300標本
県 央	-	689,893人 18地点 360標本	36,552人 1地点 20標本	726,445人 19地点 380標本
湘 南	-	1,017,415人 26地点 520標本	91,084人 3地点 60標本	1,108,499人 29地点 580標本
県 西	-	193,400人 5地点 100標本	90,880人 3地点 60標本	284,280人 8地点 160標本
人口計	5,047,265人	2,457,801人	244,433人	7,749,499人
地点数計	129地点	63地点	8地点	200地点
標本数計	2,580標本	1,260標本	160標本	4,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和6年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している。）また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数（ n ）、および回答比率（ P ）ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（ P ） 回答者数（ n ）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,905	± 1.94	± 2.59	± 2.97	± 3.17	± 3.24
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（ n ）が 1,905 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.17 以内（真の値は、56.83%～63.17%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 905) (%)

横浜	38.6
川崎	17.0
相模原	7.0
横須賀三浦	6.7
県央	11.2
湘南	14.4
県西	3.8

(無回答 1.3)

(2) 性別 (n=1, 905) (%)

男性	43.4
女性	53.4

(無回答 3.1)

(3) 年齢 (n=1, 905) (%)

18～29歳	5.1
30～39歳	11.3
40～49歳	17.8
50～59歳	22.7
60～69歳	18.5
70～74歳	7.6
75歳以上	12.0

(無回答 4.8)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 905) (%)

小学校入学前	6.8
小学校在学中	10.4
中学校在学中	7.1
高校在学中	6.5
短大、専門学校等在学中	0.8
大学、大学院等在学中	8.3
学校教育終了[未婚]	22.3
学校教育終了[既婚]	22.5
その他	2.7
子どもはいない	30.6

(無回答 5.5)

(5) 家族形態 (n=1, 905) (%)

一人暮らし (単身世帯)	16.1
夫婦のみ (1世代世帯)	27.8
親と子の世帯 (2世代世帯)	43.4
祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.6
その他の世帯	4.1

(無回答 5.0)

(6) 職業区分 (n=1, 905) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	5.0
	家族従業者	1.2
勤め・内職	勤め (フルタイム)	40.9
	勤め (パートタイム)	15.2
	内職	0.2
主婦・主夫 (勤めていない)		13.2
学生		0.9
無職		14.4
その他		2.4

(無回答 6.7)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=1, 191) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.4
	商工サービス業	4.4
	自由業	4.5
勤め・内職	経営・管理職	7.1
	専門・技術職	23.9
	事務職	24.5
	教育職	4.9
	技能・労務職	9.2
	販売・サービス職	18.3

(無回答 2.8)

第 1 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率（％）の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100％にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率（％）の合計が100％を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問3で「持っていると思う」と「ある程度持っていると思う」を合わせたものを《持っていると思う》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

1 食の安全・安心（問1～問3）

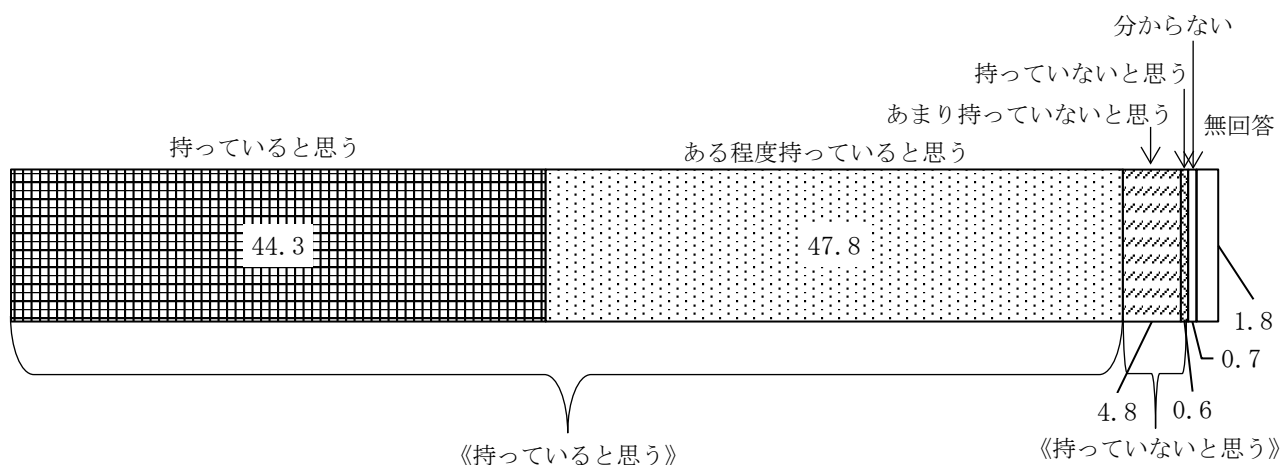
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるために必要な知識などについて調査しました。

▼食品を安全に食べるために必要な知識（問3）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（44.3％）と「ある程度持っていると思う」（47.8％）を合わせた《持っていると思う》は92.1％であった。

一方、「持っていないと思う」（0.6％）と「あまり持っていないと思う」（4.8％）を合わせた《持っていないと思う》は5.4％であった。〔図表1〕

図表1 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,905）（％）



2 食・食育（問4～問7）

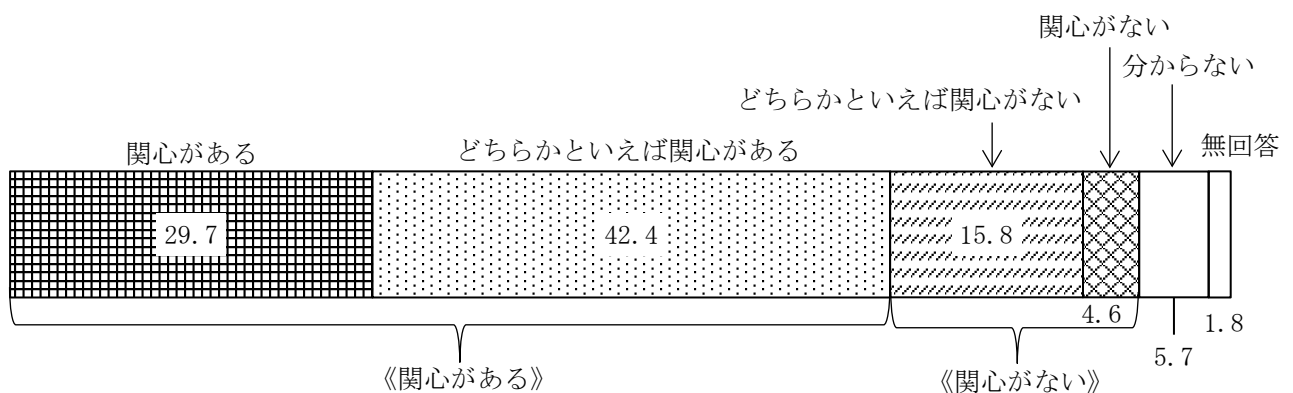
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

▼「食育」への関心（問4）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（29.7%）と「どちらかといえば関心がある」（42.4%）を合わせた《関心がある》は72.1%であった。

一方、「関心がない」（4.6%）と「どちらかといえば関心がない」（15.8%）を合わせた《関心がない》は20.4%であった。〔図表2〕

図表2 「食育」への関心（n=1,905）（%）



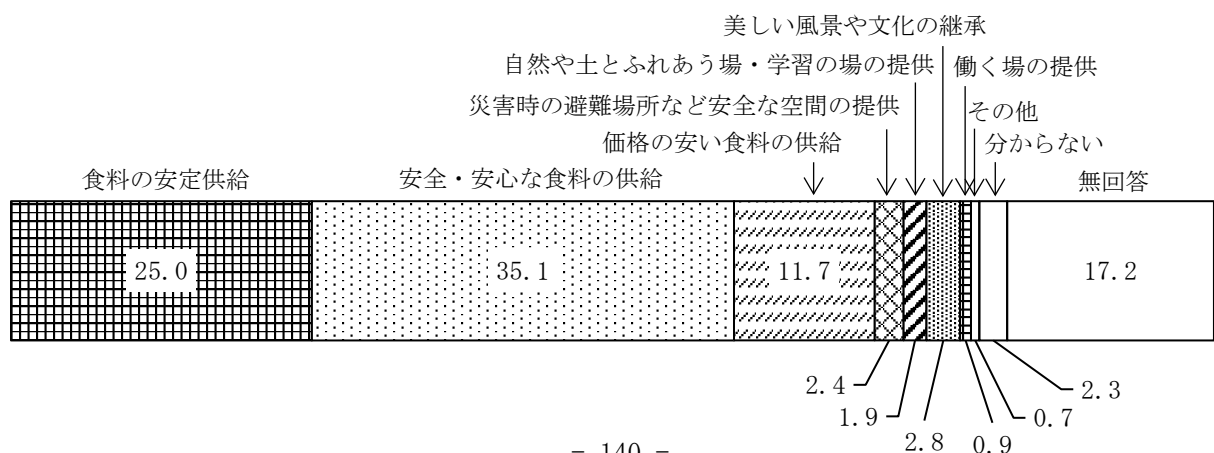
3 かながわの農林水産業（問8～問11）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、県の農業に期待する役割などについて調査しました。

▼県の農業に期待する役割（問8）

県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が35.1%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が25.0%であった。〔図表3〕

図表3 県の農業に期待する役割（n=1,905）（%）



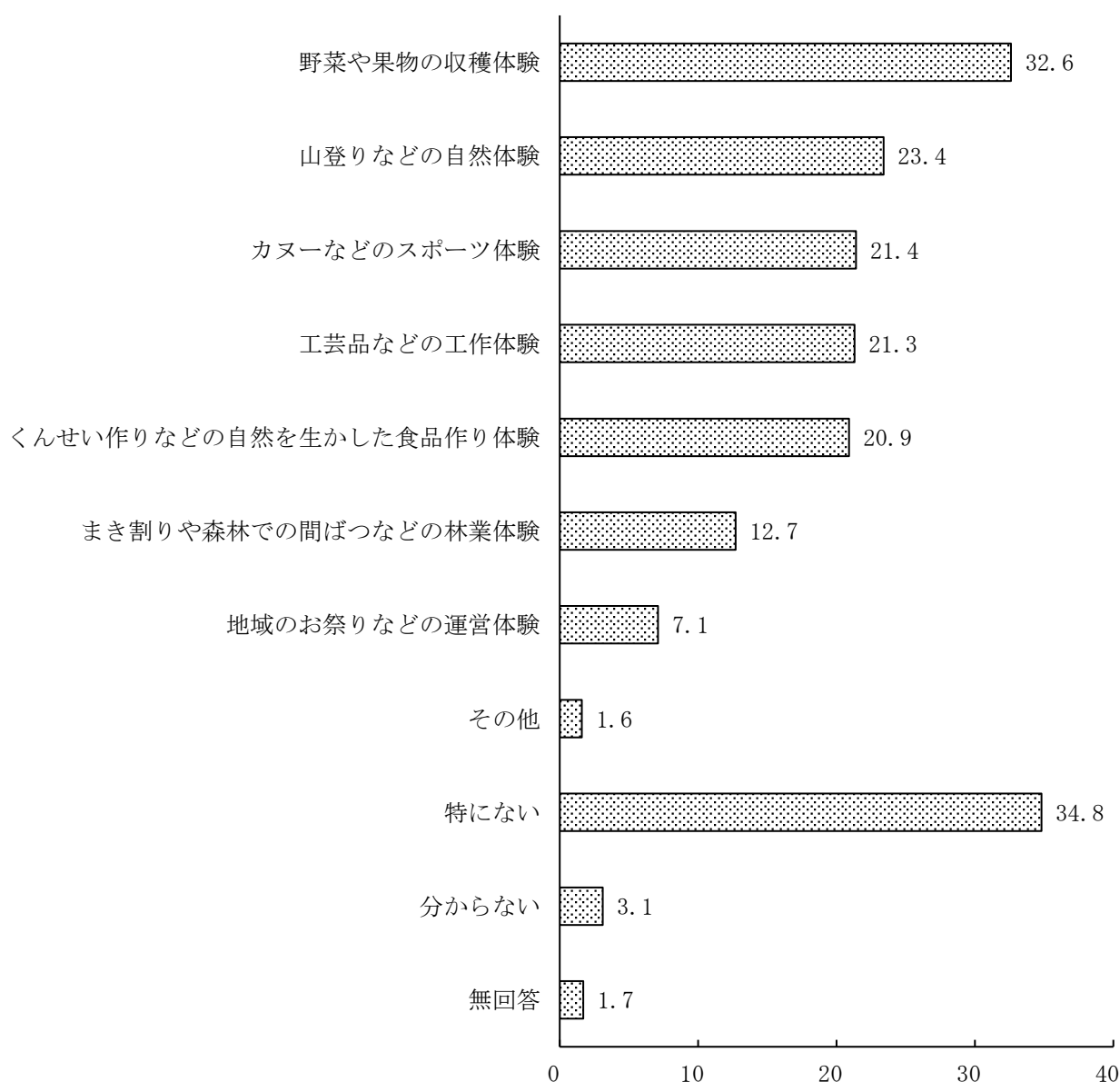
4 かながわの水源地域（問 12～問 14）

県では、水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、水源地域における交流を通じて、水源地域の活性化と水源環境の理解促進に取り組んでいます。今回、水源地域で参加したい活動などについて調査しました。

▼水源地域で参加したい活動（問 13）

水源地域で参加したい活動はあるか複数回答で尋ねたところ、「野菜や果物の収穫体験」が 32.6%で最も多く、次いで「山登りなどの自然体験」が 23.4%であった。[図表 4]

図表 4 水源地域で参加したい活動（複数回答）（n=1,905）（%）



5 地域社会との関わり（問15）

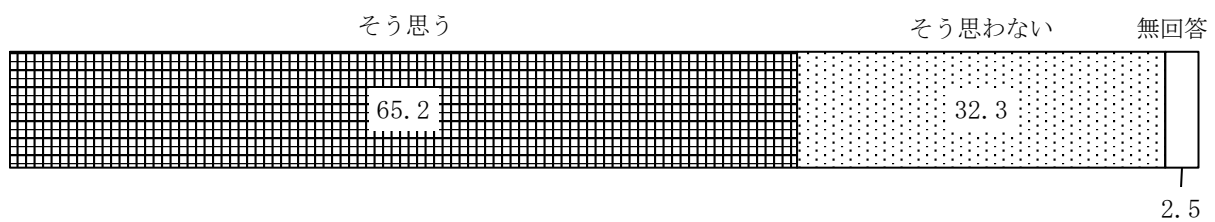
県では、人生100歳時代におけるコミュニティ再生・活性化に向けた取組みを推進しています。今回、地域社会との関わりを大切にしている意識について調査しました。

▼地域社会との関わりを大切にしている意識（問15）

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が65.2%であった。

一方、「そう思わない」が32.3%であった。〔図表5〕

図表5 地域社会との関わりを大切にしている意識（n=1,905）（%）



6 地域活動（問16～問18）

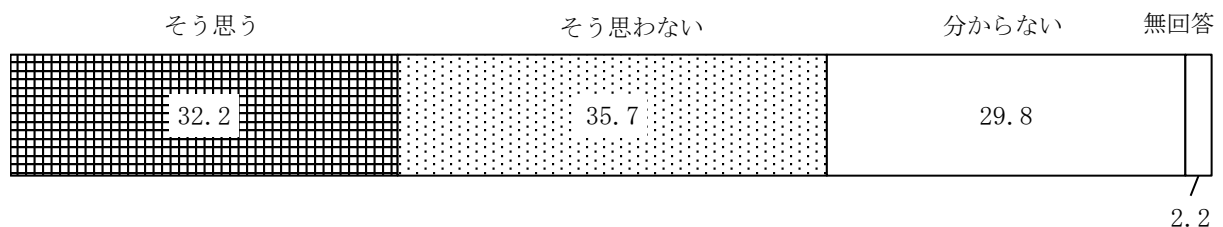
県では、急速な高齢化と子育て世帯や若者の流出による、地域コミュニティの活力低下などの住生活に係る課題解決に向けて、「多世代居住のまちづくり」などの施策を推進しています。今回、地域住民の意向を確認するため、地域活動への参加意欲などについて調査しました。

▼地域活動への参加意欲（問17）

地域活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「そう思う」が32.2%であった。

一方、「そう思わない」が35.7%であった。〔図表6〕

図表6 地域活動への参加意欲（n=1,905）（%）



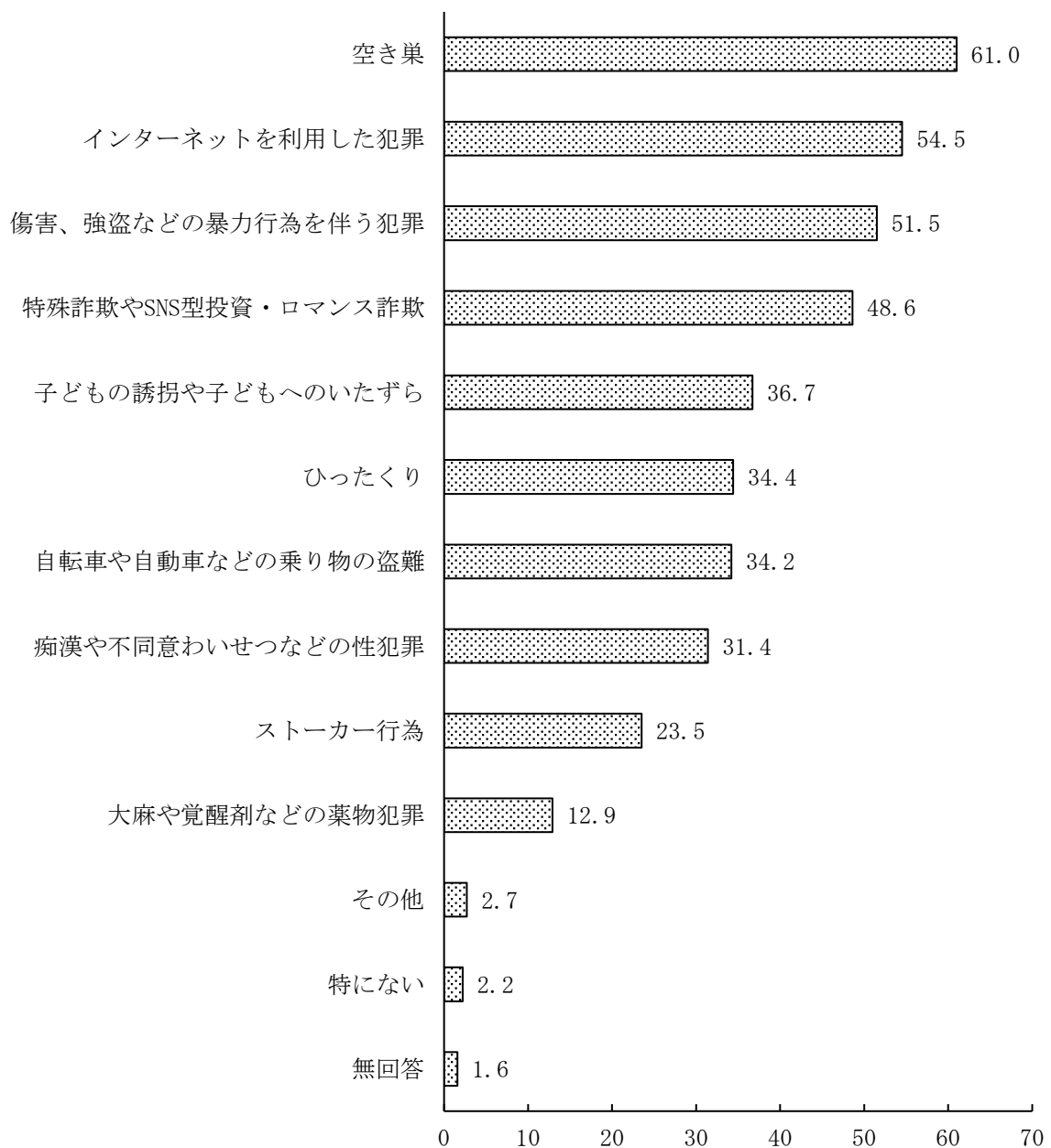
7 治安対策（問 19～問 21）

県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心してくださる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

▼不安を感じる犯罪（問 19）

不安を感じる身近な犯罪について複数回答で尋ねたところ、「空き巣」が 61.0%で最も多く、次いで「インターネットを利用した犯罪」が 54.5%であった。〔図表 7〕

図表 7 不安を感じる犯罪（複数回答）（n=1,905）（%）



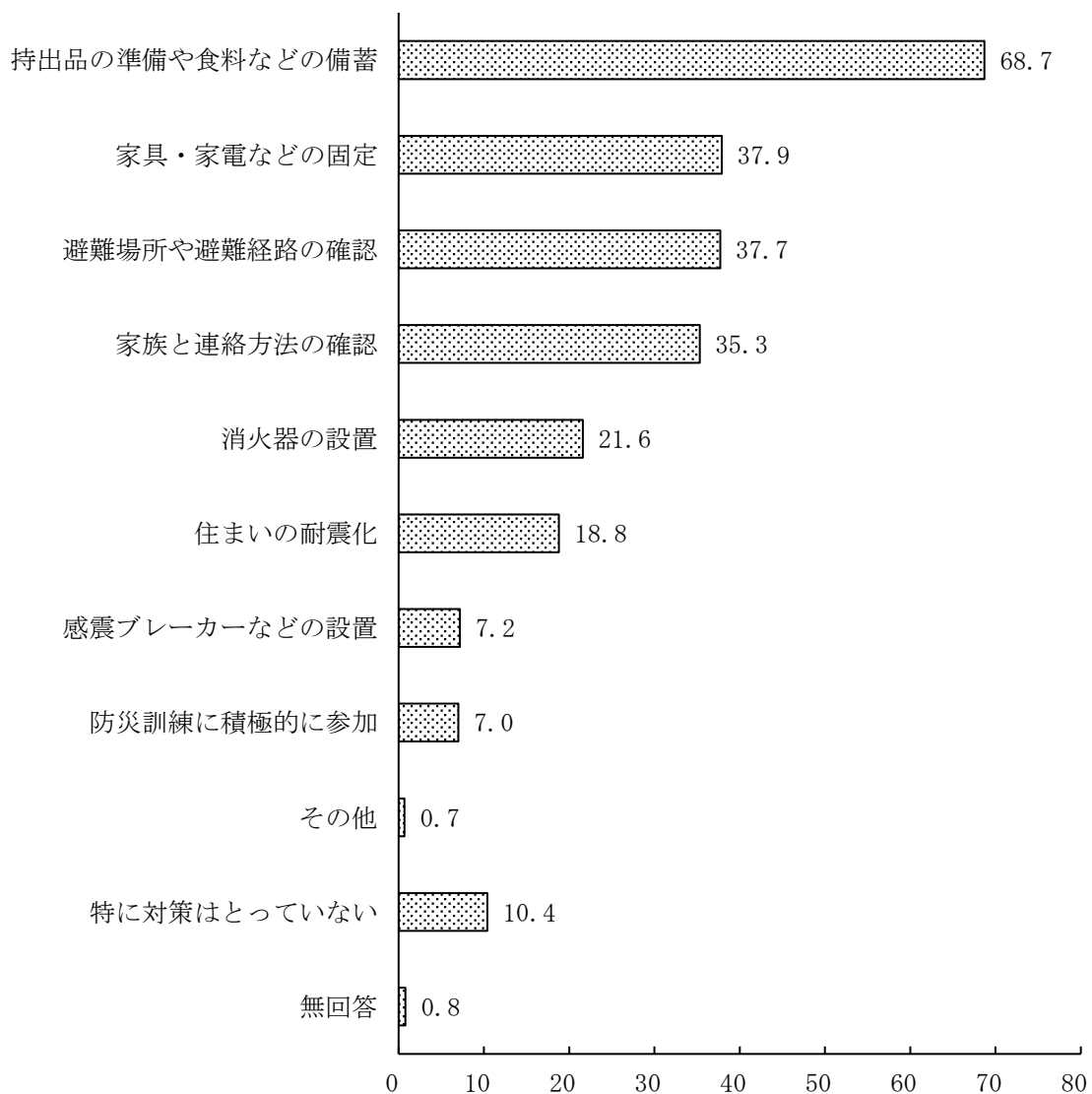
8 地震対策の取組み（問 22）

県では、「誰一人取り残さない」防災を目指して戦略的に取り組むためのアクションプランである「神奈川県地震防災戦略」を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、大きな地震に備えて家でとっている対策について調査しました。

▼大きな地震に備えて家でとっている対策（問 22）

大きな地震に備えて家でどのような対策をとっているかを複数回答で尋ねたところ、「持出品の準備や食料などの備蓄」が68.7%で最も多く、次いで「家具・家電などの固定」が37.9%であった。[図表 8]

図表 8 大きな地震に備えて家でとっている対策（複数回答）（n=1,905）（%）



9 自転車ヘルメットの着用（問 23）

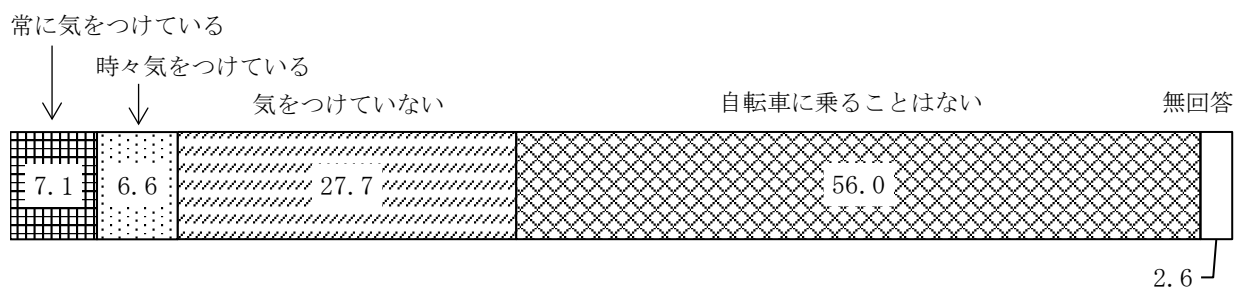
県では、「神奈川県交通安全計画」に基づき、交通事故のない安全で安心してらせる社会を目指して、交通安全対策を推進しています。今回、自転車ヘルメットの着用に関する意識について調査しました。

▼自転車ヘルメットの着用に関する意識（問 23）

自転車に乗るときは、ヘルメットを着用するよう気をつけているか尋ねたところ、「常に気をつけている」が7.1%、「時々気をつけている」が6.6%であった。

一方、「気をつけていない」が27.7%であった。[図表 9]

図表 9 自転車ヘルメットの着用に関する意識（n=1,905）（%）



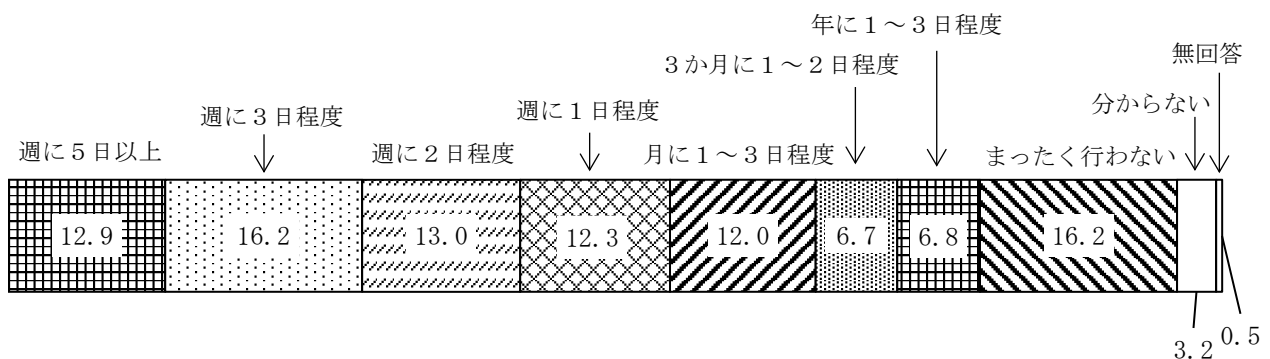
10 スポーツ（問 24～問 27）

県では、「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

▼1年間のスポーツ実施日数（問 25）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度」と「まったく行わない」が16.2%と同じ割合で最も多く、次いで「週に2日程度」が13.0%であった。[図表 10]

図表 10 1年間のスポーツ実施日数（n=1,905）（%）



11 ともに生きる社会かながわ（問 28～34）

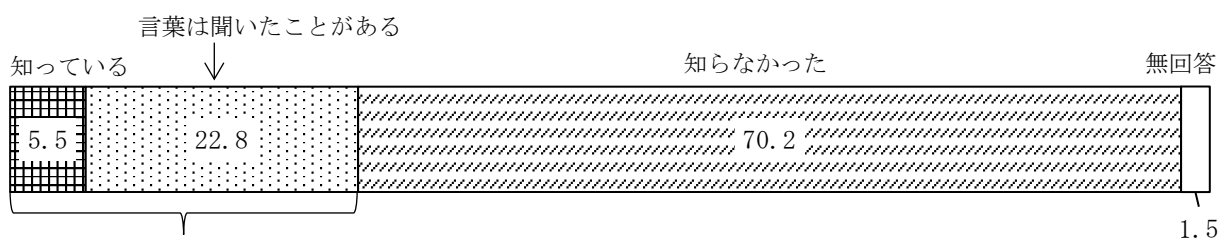
平成 28 年 7 月に県立の障害者支援施設である「津久井やまゆり園」で発生した事件が二度と繰り返されないよう、県は、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進しています。今回、「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度などについて調査しました。

▼「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（問 29）

「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」（5.5%）と「言葉は聞いたことがある」（22.8%）を合わせた《「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度》は 28.3% であった。

一方、「知らなかった」が 70.2% であった。〔図表 11〕

図表 11 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（n=1,905）（%）



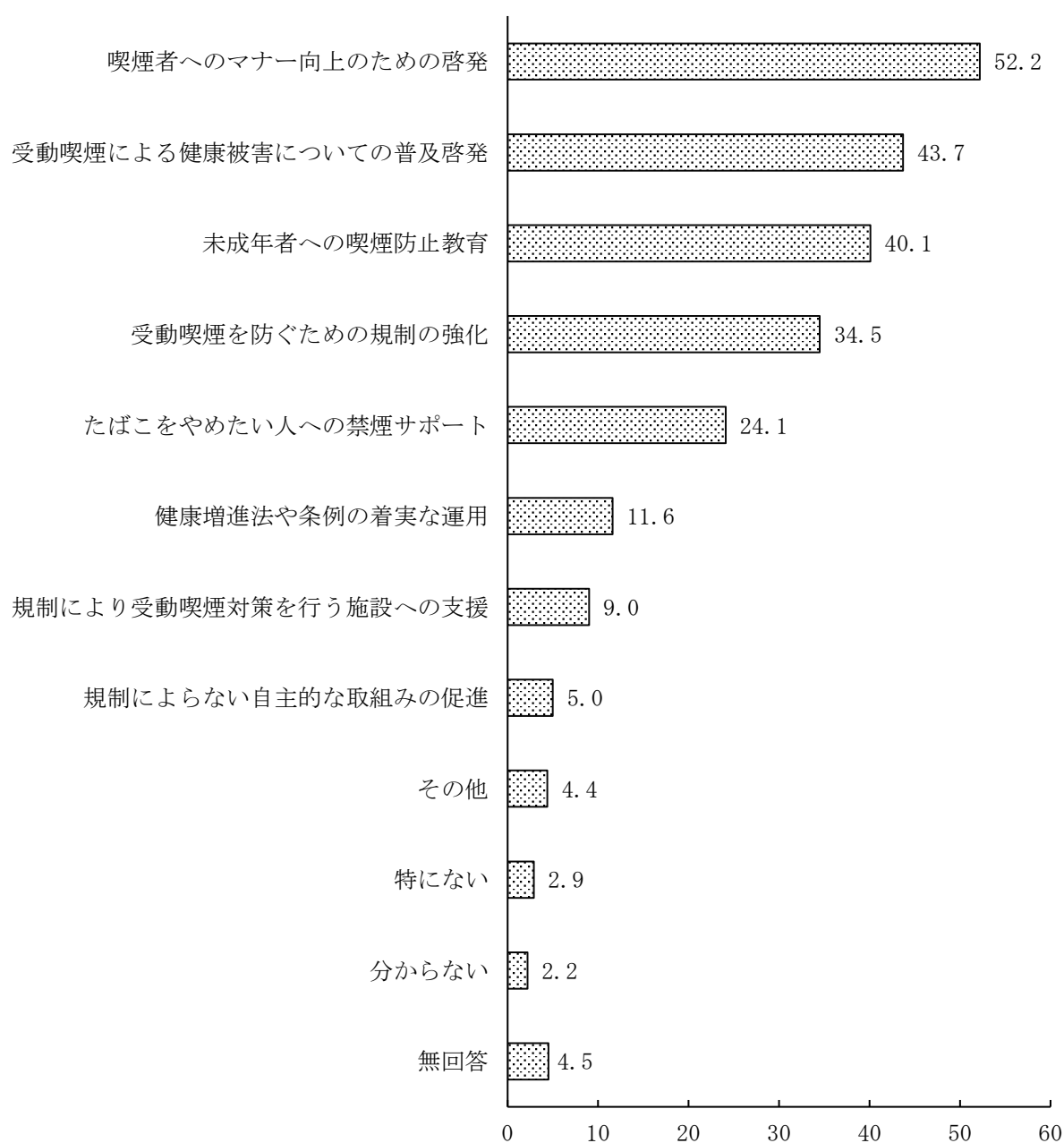
12 受動喫煙（問 35～37）

県では、健康増進法や神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例に基づき、生活習慣病などを発症するリスクの減少を目指して、望まない受動喫煙の機会を減らす環境づくりに取り組んでいます。今回、受動喫煙を防ぐために、県に期待することなどについて調査しました。

▼受動喫煙を防ぐために、県に期待すること（問 37）

受動喫煙を防ぐために、県にどのようなことを期待するか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「喫煙者へのマナー向上のための啓発」が 52.2%で最も多く、次いで「受動喫煙による健康被害についての普及啓発」が 43.7%であった。〔図表 12〕

図表 12 受動喫煙を防ぐために、県に期待すること（複数回答）（n=1,905）（%）



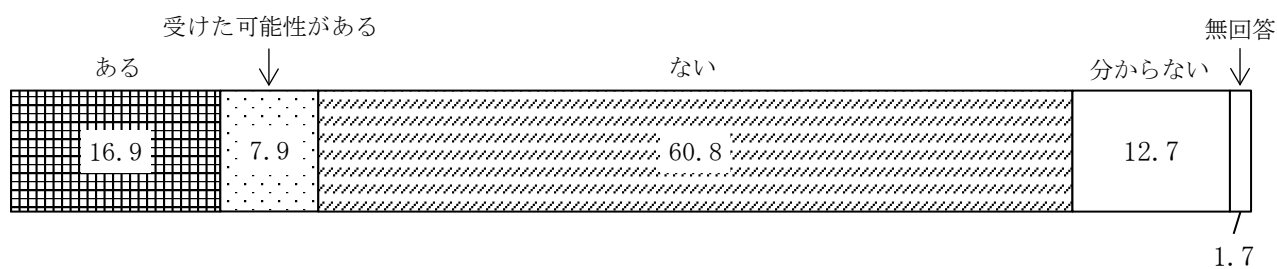
13 肝炎対策（問 38～問 39）

県では、「神奈川県肝炎対策推進計画」を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 39）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 16.9%であった。一方、「ない」が 60.8%であった。〔図表 13〕

図表 13 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,905）（%）



第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

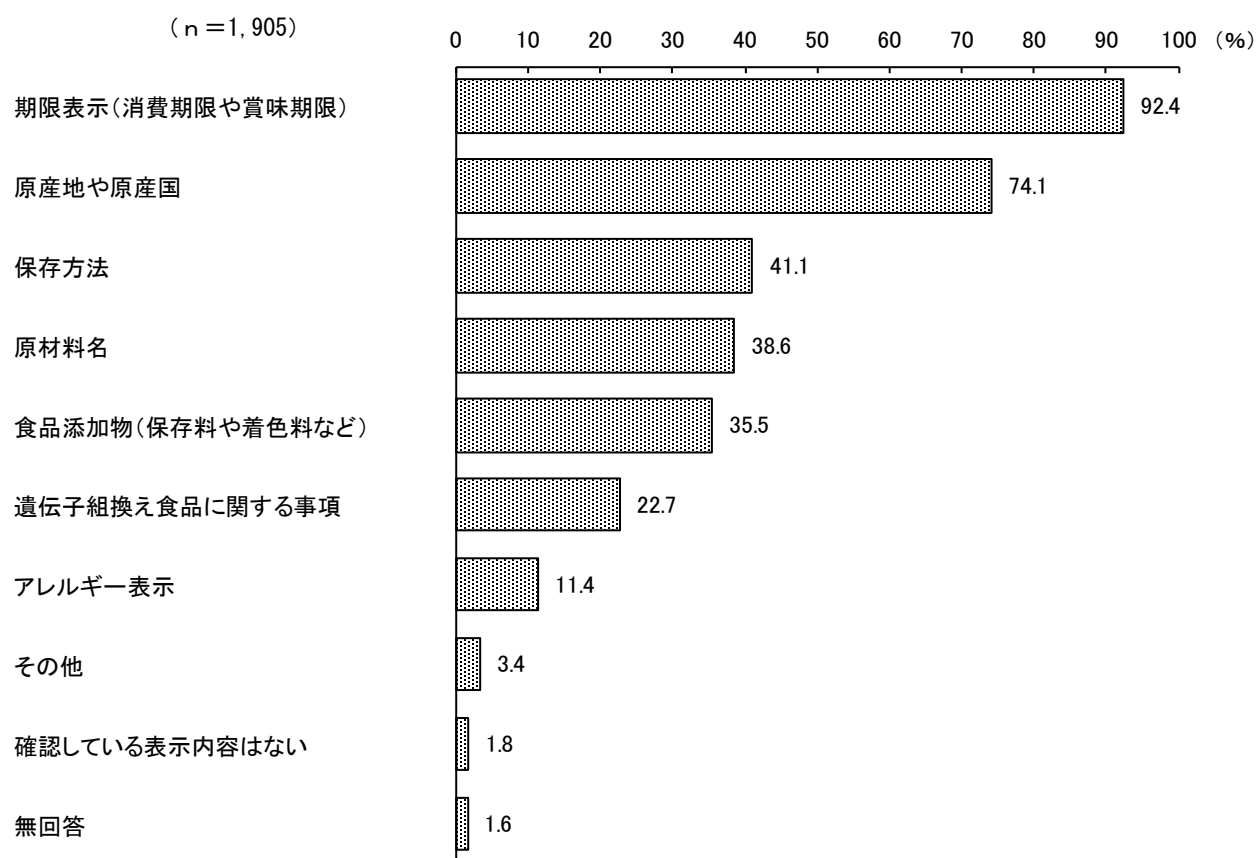
第1章 食の安全・安心【問1～問3】

1 食品を購入する際に確認している表示内容【問1】

【全体の状況】

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示（消費期限や賞味期限）」が92.4%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が74.1%であった。（図表1-1-1）

図表1-1-1 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）



図表1-1-2 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

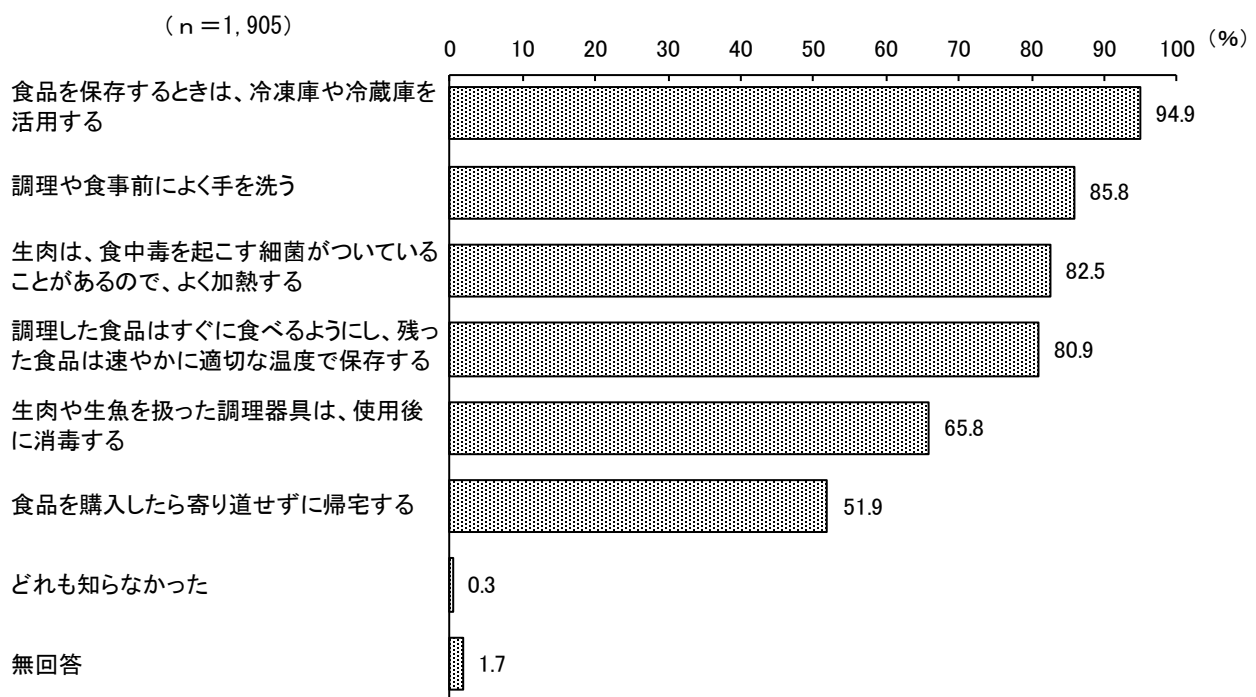
	n	期限表示 (消費期限や賞味期限)	原産地や原産国	保存方法	原材料名	食品添加物 (保存料や着色料など)	遺伝子組換え食品に関する事項	アレルギー表示	その他	確認している表示内容はない	無回答
全体	1,905	92.4	74.1	41.1	38.6	35.5	22.7	11.4	3.4	1.8	1.6
【地域別】											
横浜	736	91.8	74.5	40.8	40.8	36.1	26.2	13.0	4.2	1.9	1.9
川崎	324	91.7	75.9	41.7	39.2	40.1	25.3	11.1	2.8	0.9	1.2
相模原	133	91.7	75.9	38.3	33.8	33.8	21.1	9.0	2.3	3.8	1.5
横須賀三浦	127	95.3	76.4	42.5	42.5	37.8	14.2	13.4	3.1	1.6	0.8
県央	213	94.4	73.7	47.9	33.3	31.9	19.2	12.2	2.8	0.9	1.9
湘南	275	93.1	70.2	33.5	34.5	29.5	17.1	7.3	3.3	2.2	1.1
県西	73	93.2	74.0	52.1	49.3	41.1	28.8	13.7	2.7	1.4	-
【性・年代別】											
男性	827	91.4	66.7	37.5	30.5	29.6	16.0	9.4	4.2	2.8	1.3
女性	1,018	93.6	80.6	43.8	45.5	40.1	28.1	13.1	2.8	0.9	1.7
男性18～29歳	45	91.1	57.8	28.9	17.8	11.1	4.4	11.1	4.4	4.4	-
30歳代	91	85.7	62.6	30.8	30.8	28.6	12.1	12.1	3.3	6.6	-
40歳代	127	91.3	68.5	28.3	36.2	30.7	18.9	8.7	6.3	2.4	-
50歳代	183	91.3	62.8	32.2	29.0	30.1	24.0	7.1	3.8	3.8	1.1
60歳代	167	94.0	70.1	37.1	32.9	29.3	19.8	9.0	5.4	0.6	2.4
70～74歳	72	94.4	75.0	50.0	23.6	30.6	8.3	13.9	2.8	2.8	1.4
75歳以上	105	92.4	65.7	49.5	31.4	33.3	8.6	9.5	1.0	1.9	1.9
女性18～29歳	53	98.1	41.5	22.6	24.5	17.0	5.7	7.5	5.7	-	-
30歳代	117	93.2	81.2	38.5	47.0	44.4	23.9	12.0	2.6	0.9	1.7
40歳代	201	94.0	81.6	35.8	48.8	40.8	33.3	13.9	3.0	0.5	1.5
50歳代	238	92.4	84.5	42.4	43.7	35.3	30.3	9.7	2.9	-	1.7
60歳代	175	95.4	82.3	54.9	46.3	34.9	27.4	12.0	-	2.3	1.1
70～74歳	72	95.8	87.5	56.9	48.6	54.2	33.3	19.4	5.6	-	1.4
75歳以上	121	92.6	84.3	55.4	47.1	54.5	28.1	20.7	3.3	1.7	0.8

2 食中毒を予防する上で重要なこと【問2】

【全体の状況】

食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が94.9%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が85.8%であった。（図表1-2-1）

図表1-2-1 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）



図表1-2-2 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)										
	n	冷食 品を 保存 する とき は、 冷凍 庫や	調理 や食 事前 によ く手 を洗 う	熱い 生肉 は、 食中 毒を 起す こと が ある ので、 細菌 が加 つ	調理 した 食品 は速 く食 べよ う	調理 した 食品 は速 く食 べよ う	調理 した 食品 は速 く食 べよ う	調理 した 食品 は速 く食 べよ う	調理 した 食品 は速 く食 べよ う	調理 した 食品 は速 く食 べよ う
全 体	1,905	94.9	85.8	82.5	80.9	65.8	51.9	0.3	1.7	
【地 域 別】										
横 浜	736	94.2	86.1	82.3	79.8	66.8	51.6	0.3	2.0	
川 崎	324	96.3	87.0	84.0	83.0	64.5	50.0	-	1.5	
相 模 原	133	94.7	83.5	82.7	75.2	66.2	53.4	-	2.3	
横 須 賀 三 浦	127	96.1	91.3	80.3	85.0	72.4	52.0	-	0.8	
県 央	213	95.8	82.6	82.6	80.3	64.8	50.7	0.5	1.9	
湘 南	275	94.9	83.6	80.4	82.2	62.2	56.7	0.4	1.1	
県 西	73	97.3	93.2	90.4	89.0	64.4	46.6	-	-	
【性・年代別】										
男 性	827	95.2	79.2	75.1	76.2	58.6	44.1	0.5	1.6	
女 性	1,018	95.0	91.2	88.6	85.1	71.2	58.0	-	1.8	
男性 18～29歳	45	100.0	88.9	82.2	82.2	73.3	35.6	-	-	
30 歳 代	91	90.1	85.7	81.3	76.9	69.2	49.5	2.2	-	
40 歳 代	127	95.3	85.8	85.0	81.1	66.1	49.6	-	-	
50 歳 代	183	95.1	79.2	78.1	76.0	55.7	44.3	1.1	1.1	
60 歳 代	167	96.4	74.9	71.9	74.9	59.9	44.3	-	3.0	
70～74歳	72	97.2	76.4	68.1	81.9	50.0	48.6	-	1.4	
75歳以上	105	96.2	71.4	60.0	70.5	43.8	34.3	-	1.9	
女性 18～29歳	53	96.2	81.1	90.6	84.9	71.7	49.1	-	-	
30 歳 代	117	94.9	94.0	89.7	84.6	76.9	66.7	-	1.7	
40 歳 代	201	96.0	90.0	92.5	86.1	74.6	65.2	-	1.5	
50 歳 代	238	96.2	92.9	87.4	84.0	66.4	54.6	-	1.7	
60 歳 代	175	94.3	94.3	91.4	84.6	76.6	56.6	-	1.1	
70～74歳	72	94.4	90.3	87.5	93.1	66.7	61.1	-	1.4	
75歳以上	121	97.5	90.1	83.5	86.0	68.6	51.2	-	0.8	

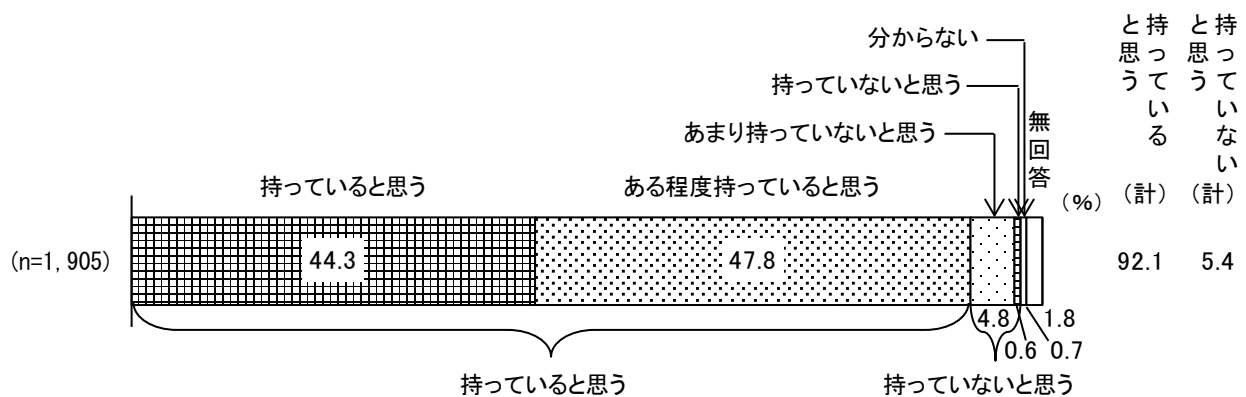
3 食品を安全に食べるために必要な知識【問3】

【全体の状況】

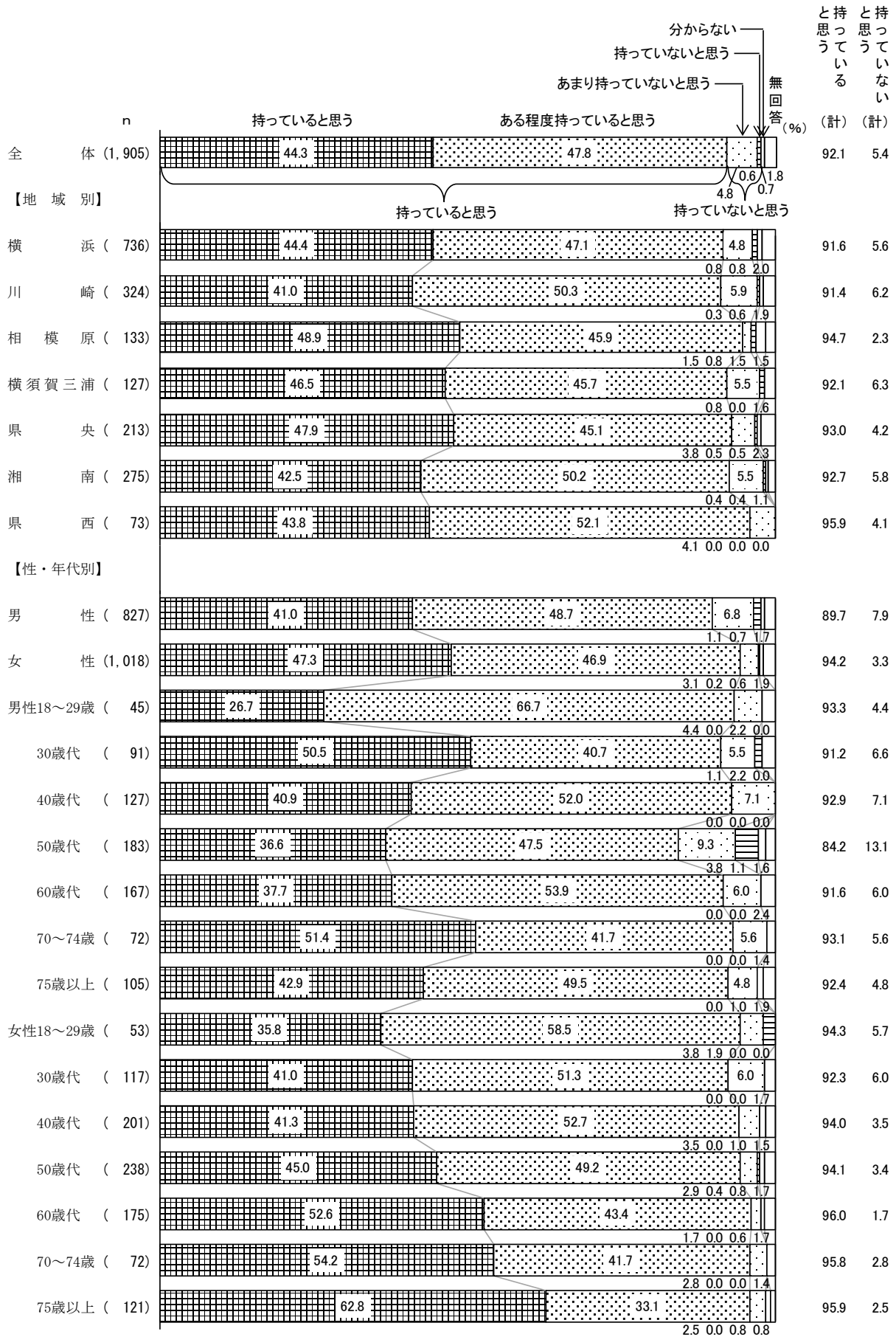
食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（44.3%）と「ある程度持っていると思う」（47.8%）を合わせた《持っていると思う》は92.1%であった。

一方、「持っていないと思う」（0.6%）と「あまり持っていないと思う」（4.8%）を合わせた《持っていないと思う》は5.4%であった。（図表1-3-1）

図表1-3-1 食品を安全に食べるために必要な知識



図表1-3-2 食品を安全に食べるために必要な知識—地域別、性・年代別



第2章 食・食育【問4～問7】

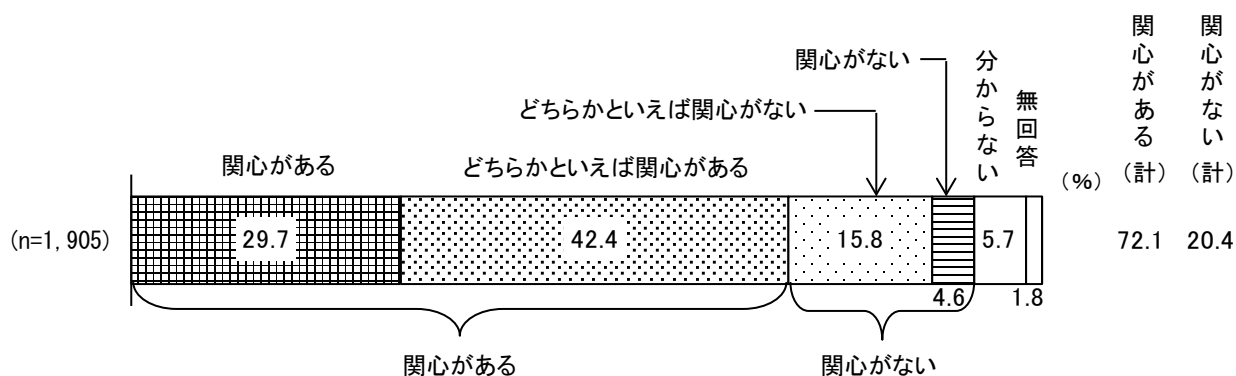
1 「食育」への関心【問4】

【全体の状況】

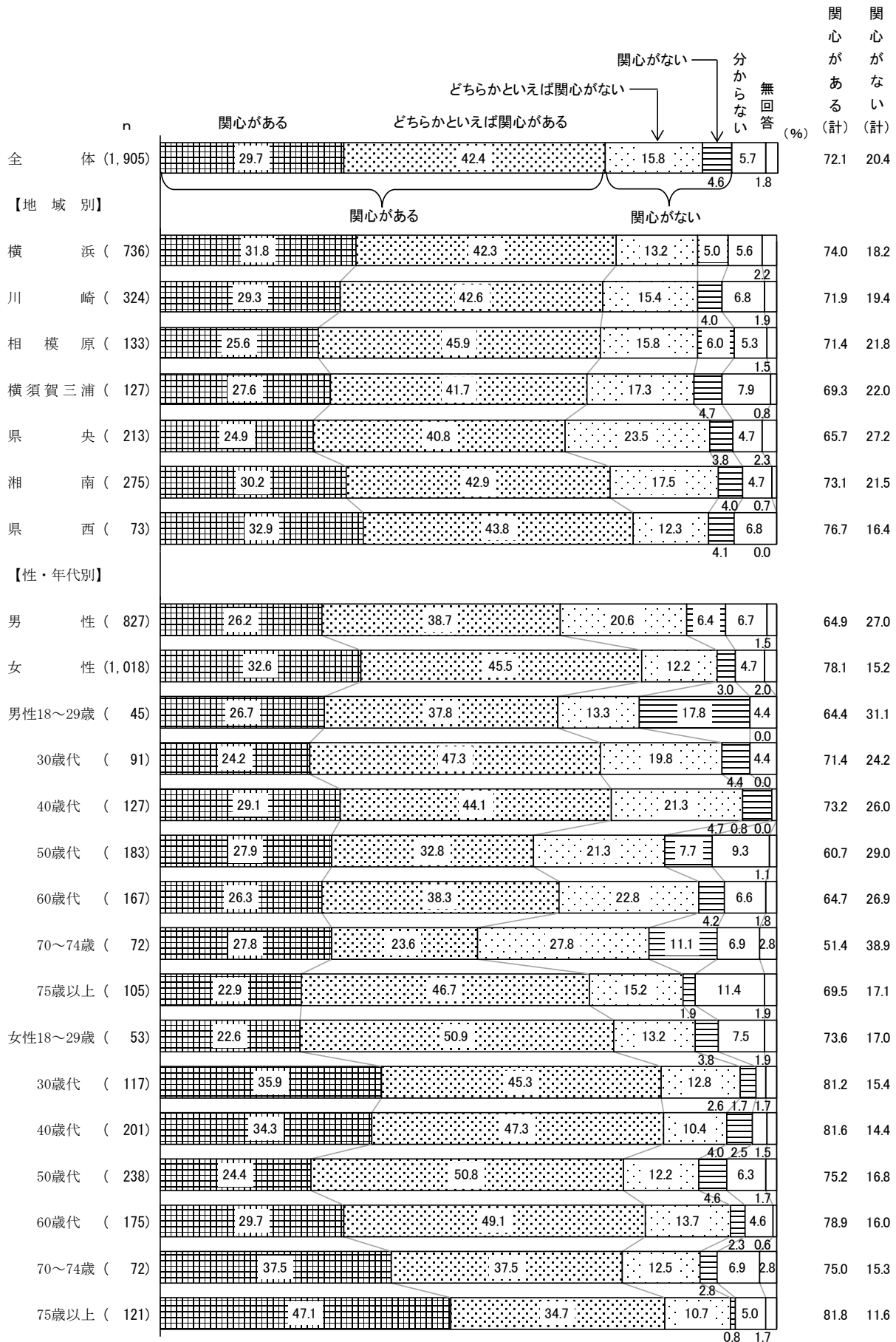
「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(29.7%)と「どちらかといえば関心がある」(42.4%)を合わせた《関心がある》は72.1%であった。

一方、「関心がない」(4.6%)と「どちらかといえば関心がない」(15.8%)を合わせた《関心がない》は20.4%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 「食育」への関心



図表2-1-2 「食育」への関心—地域別、性・年代別



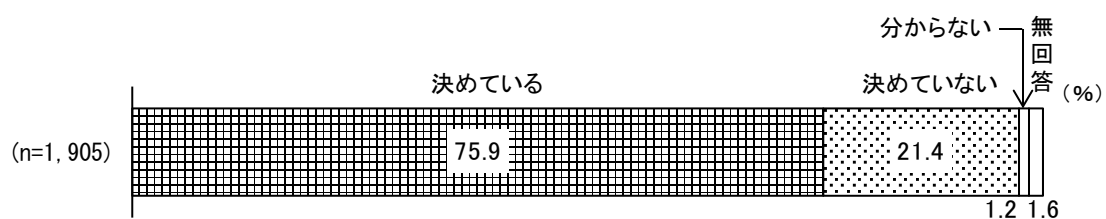
2 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか【問5】

【全体の状況】

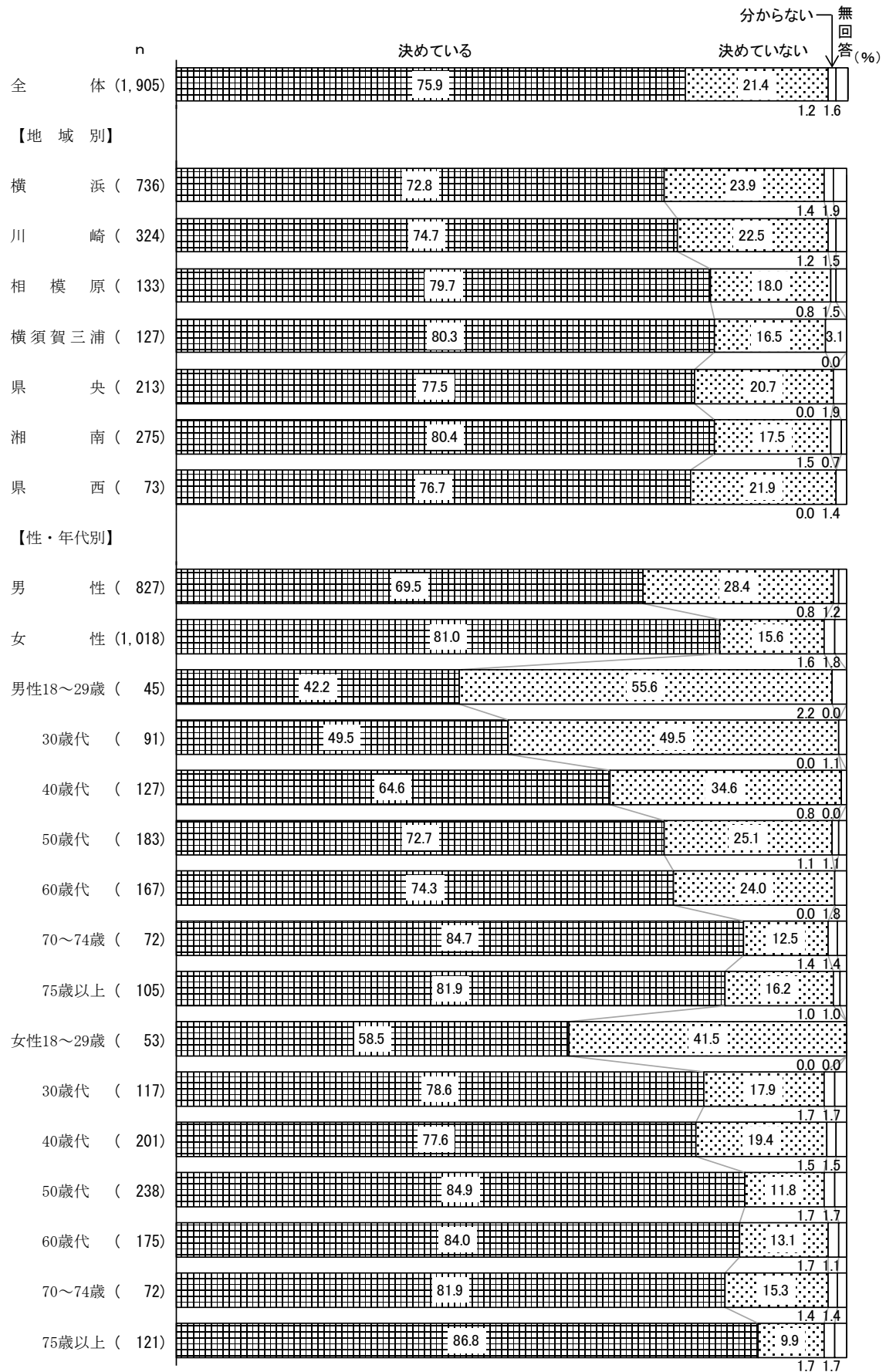
歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか尋ねたところ、「決めている」が75.9%であった。

一方、「決めていない」は、21.4%であった。(図表2-2-1)

図表2-2-1 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか



図表2-2-2 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか—地域別、性・年代別

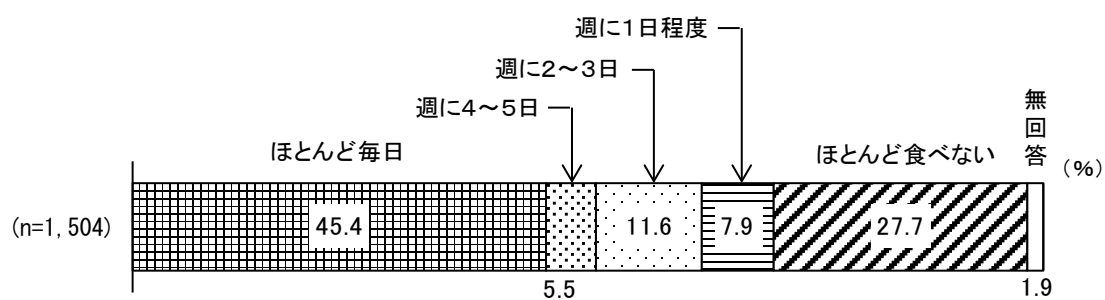


3 朝食を同居の方と食べる頻度【問6-1】

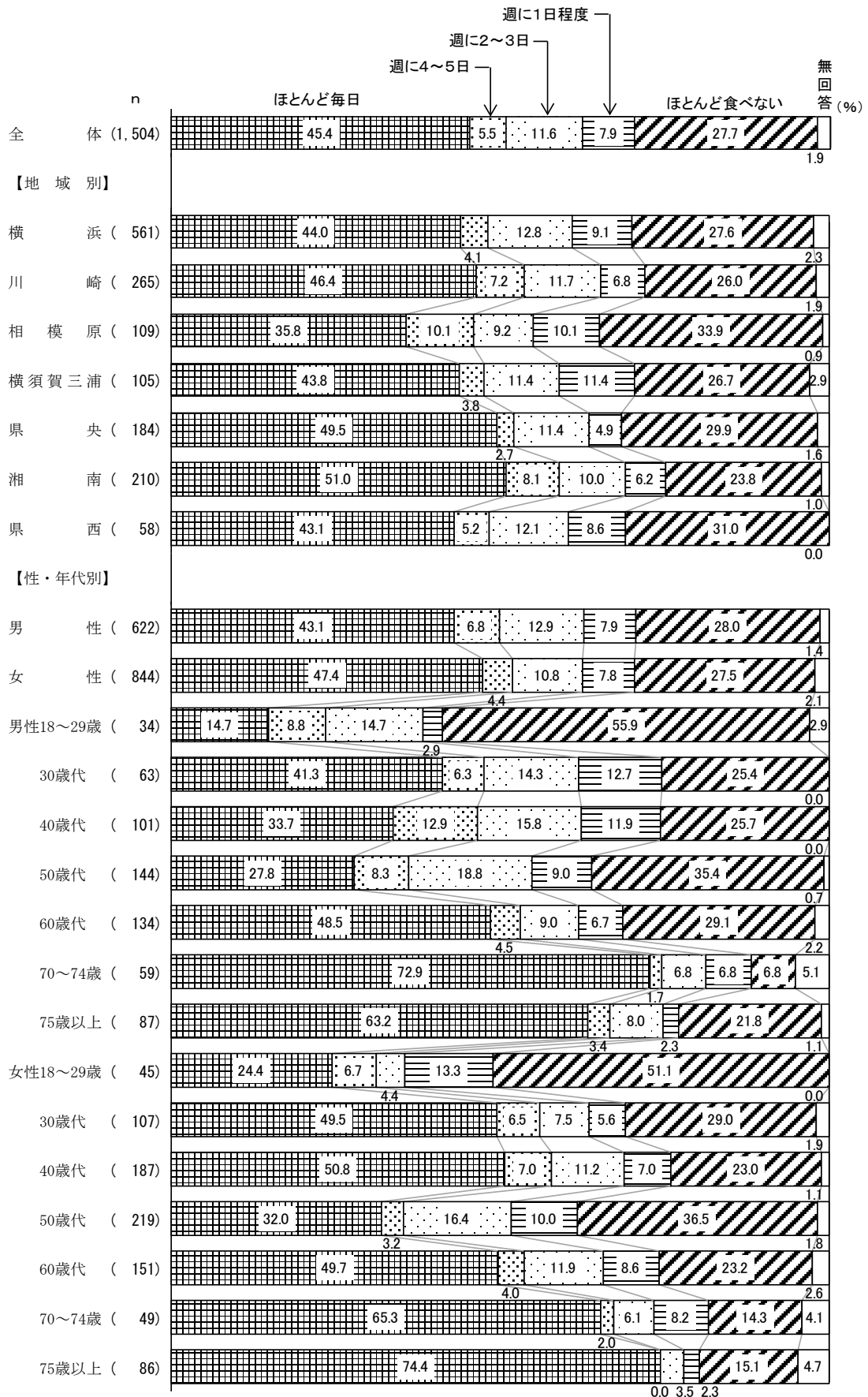
【全体の状況】

複数人でお住まいの1,504人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が45.4%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が27.7%であった。(図表2-3-1)

図表2-3-1 朝食を同居の方と食べる頻度



図表2-3-2 朝食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

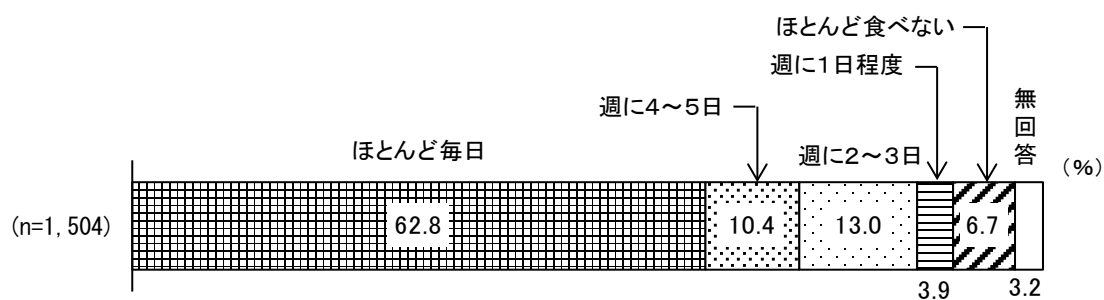


4 夕食を同居の方と食べる頻度【問6-2】

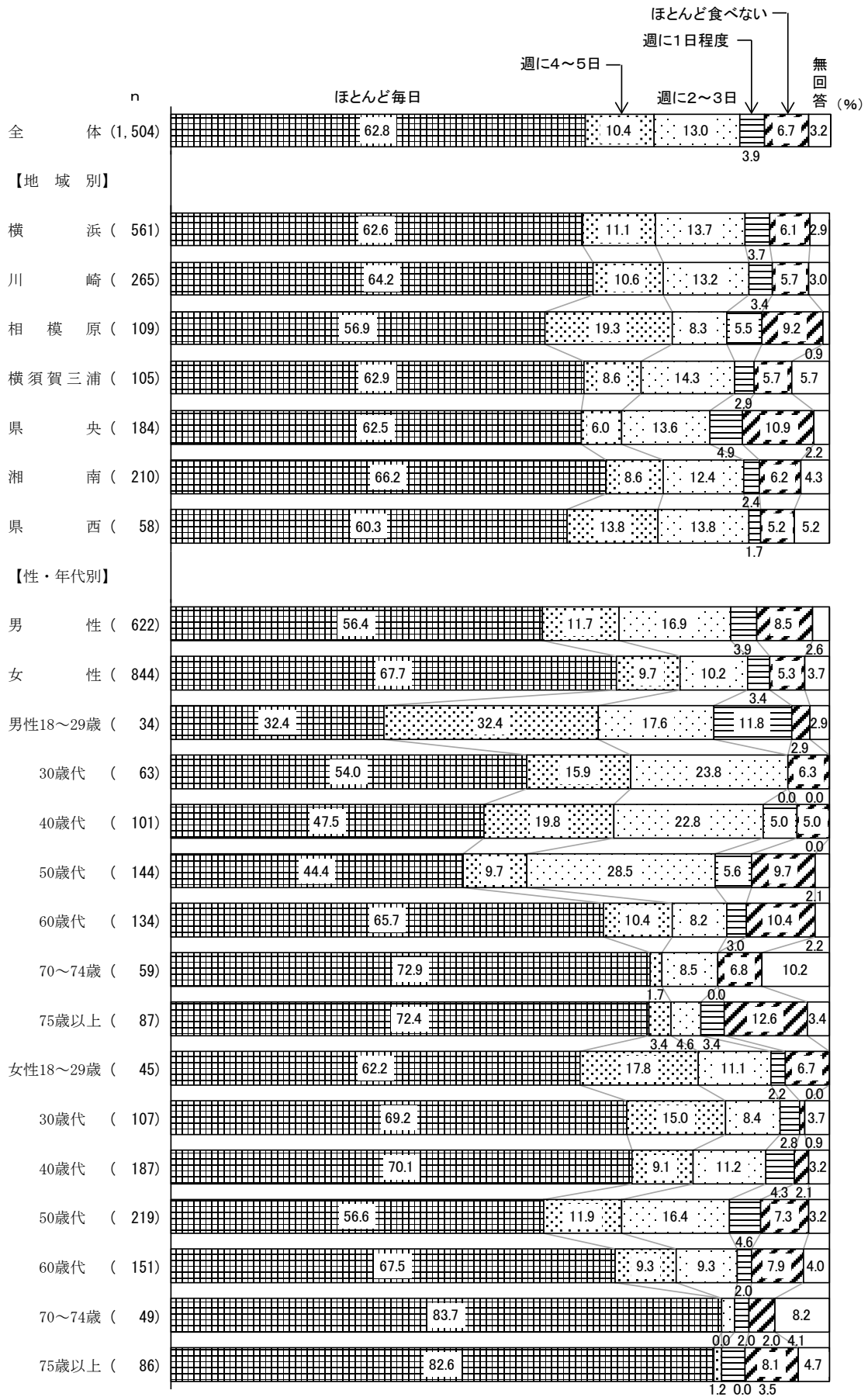
【全体の状況】

複数人でお住まいの1,504人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が62.8%で最も多く、次いで「週に2～3日」が13.0%であった。(図表2-4-1)

図表2-4-1 夕食を同居の方と食べる頻度



図表2-4-2 夕食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

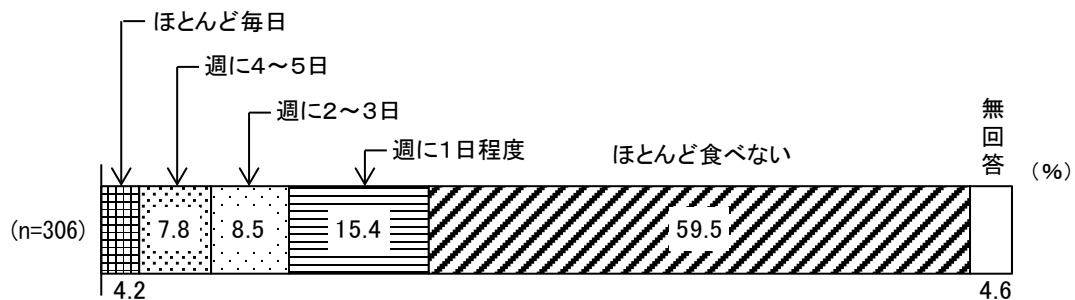


5 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問7-1】

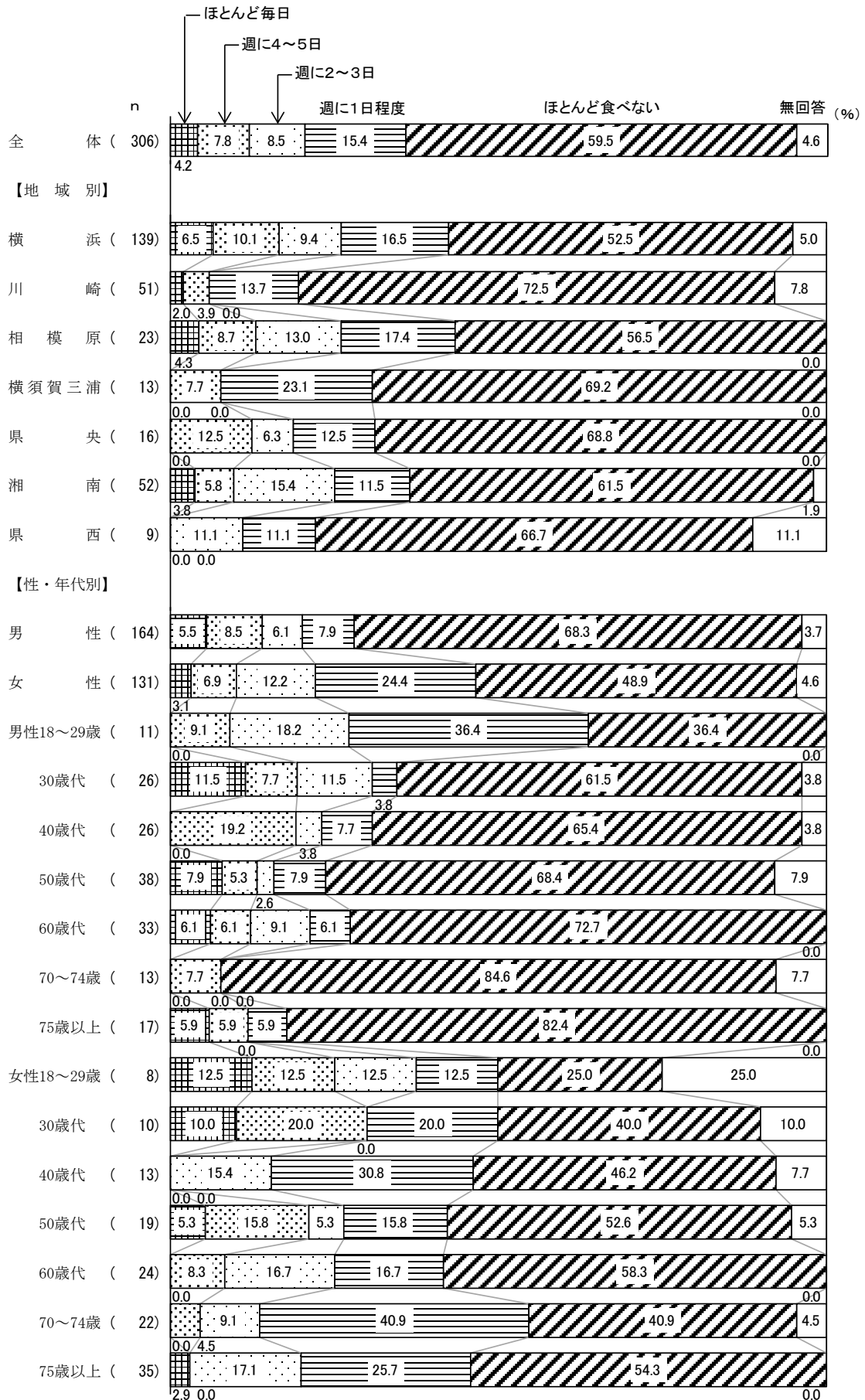
【全体の状況】

一人暮らしの306人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が59.5%で最も多く、次いで「週に1日程度」が15.4%であった。(図表2-5-1)

図表2-5-1 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表2-5-2 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別

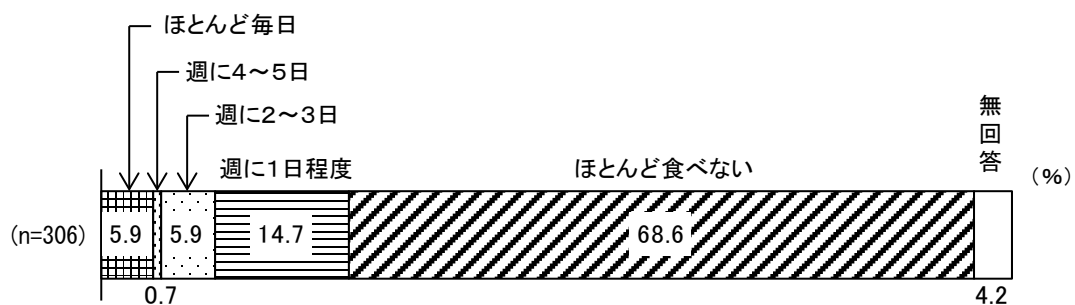


6 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問7-2】

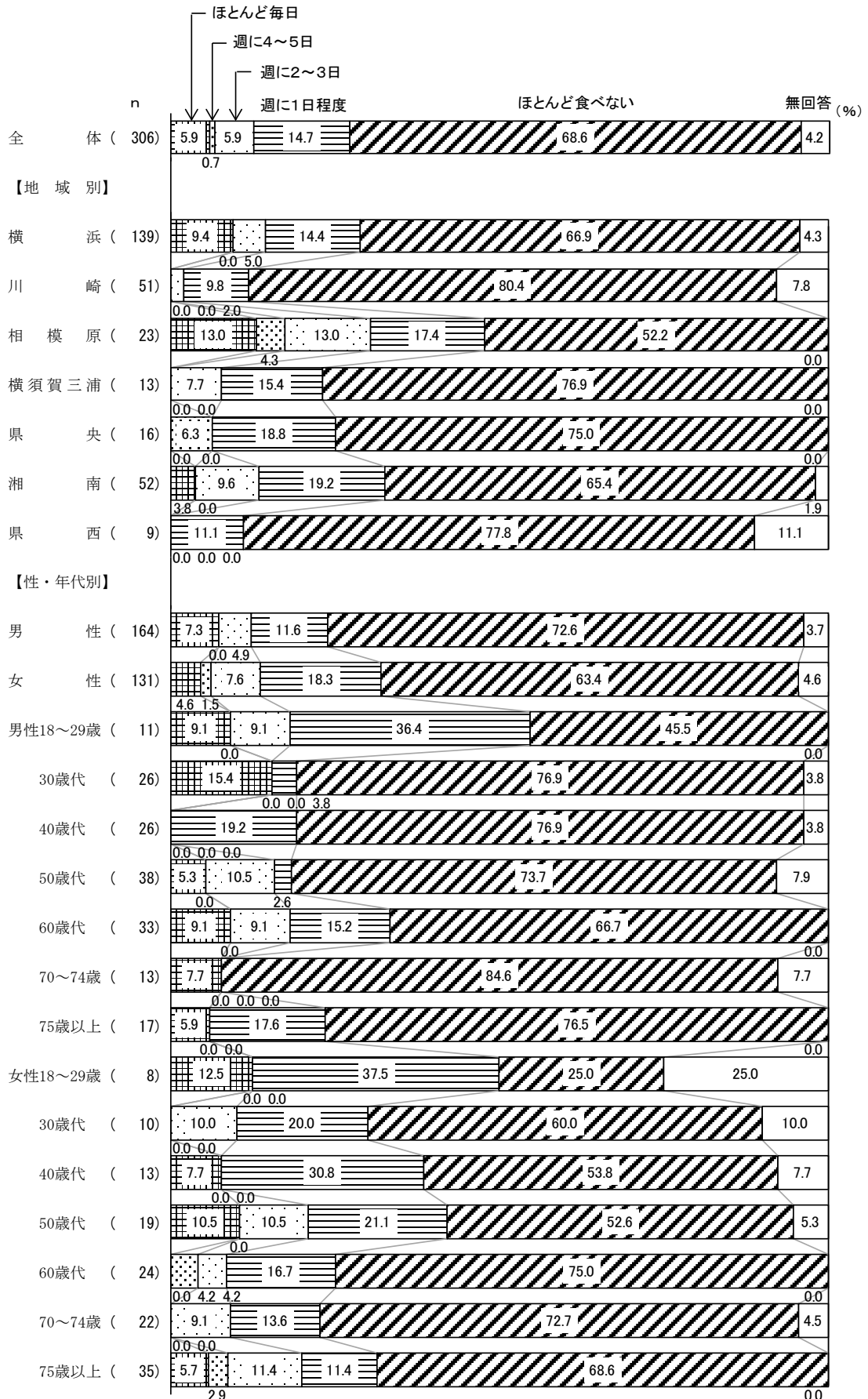
【全体の状況】

一人暮らしの306人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が68.6%で最も多く、次いで「週に1日程度」が14.7%であった。(図表2-6-1)

図表2-6-1 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表2-6-2 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別



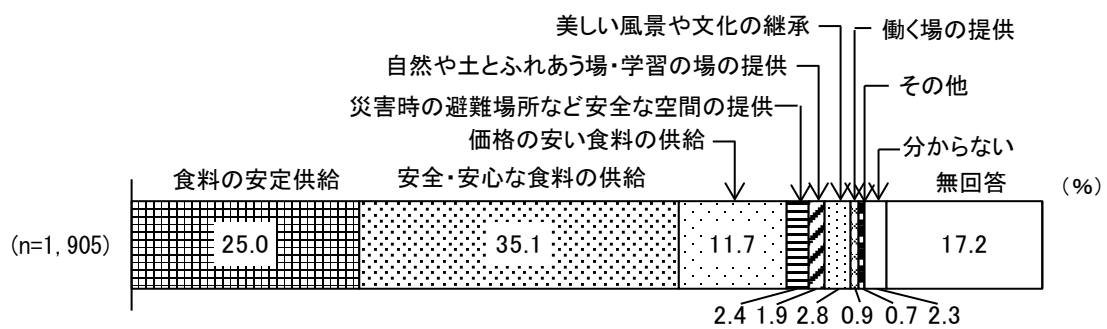
第3章 かながわの農林水産業【問8～問11】

1 県の農業に期待する役割【問8】

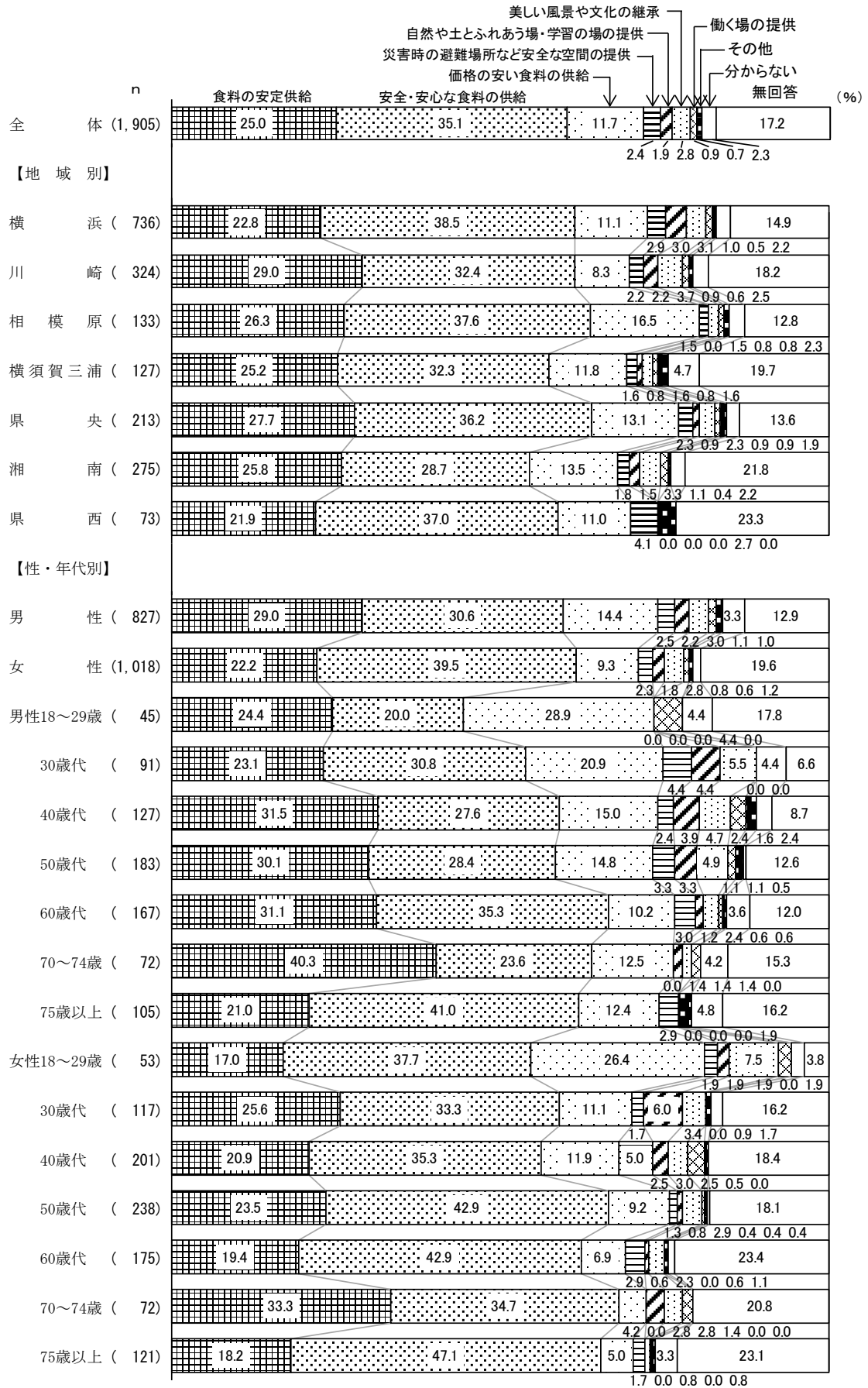
【全体の状況】

県の農業に特にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が35.1%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が25.0%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 県の農業に期待する役割



図表3-1-2 県の農業に期待する役割—地域別、性・年代別



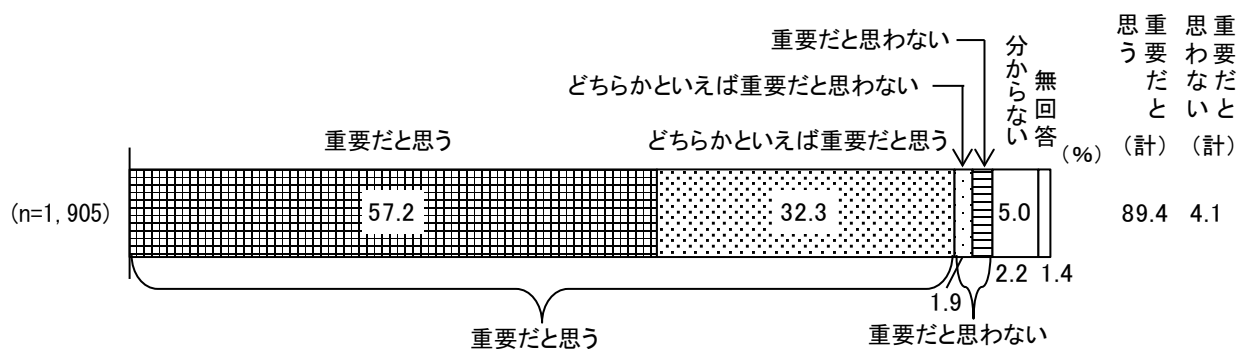
2 「地産地消」の取組みの重要度【問9】

【全体の状況】

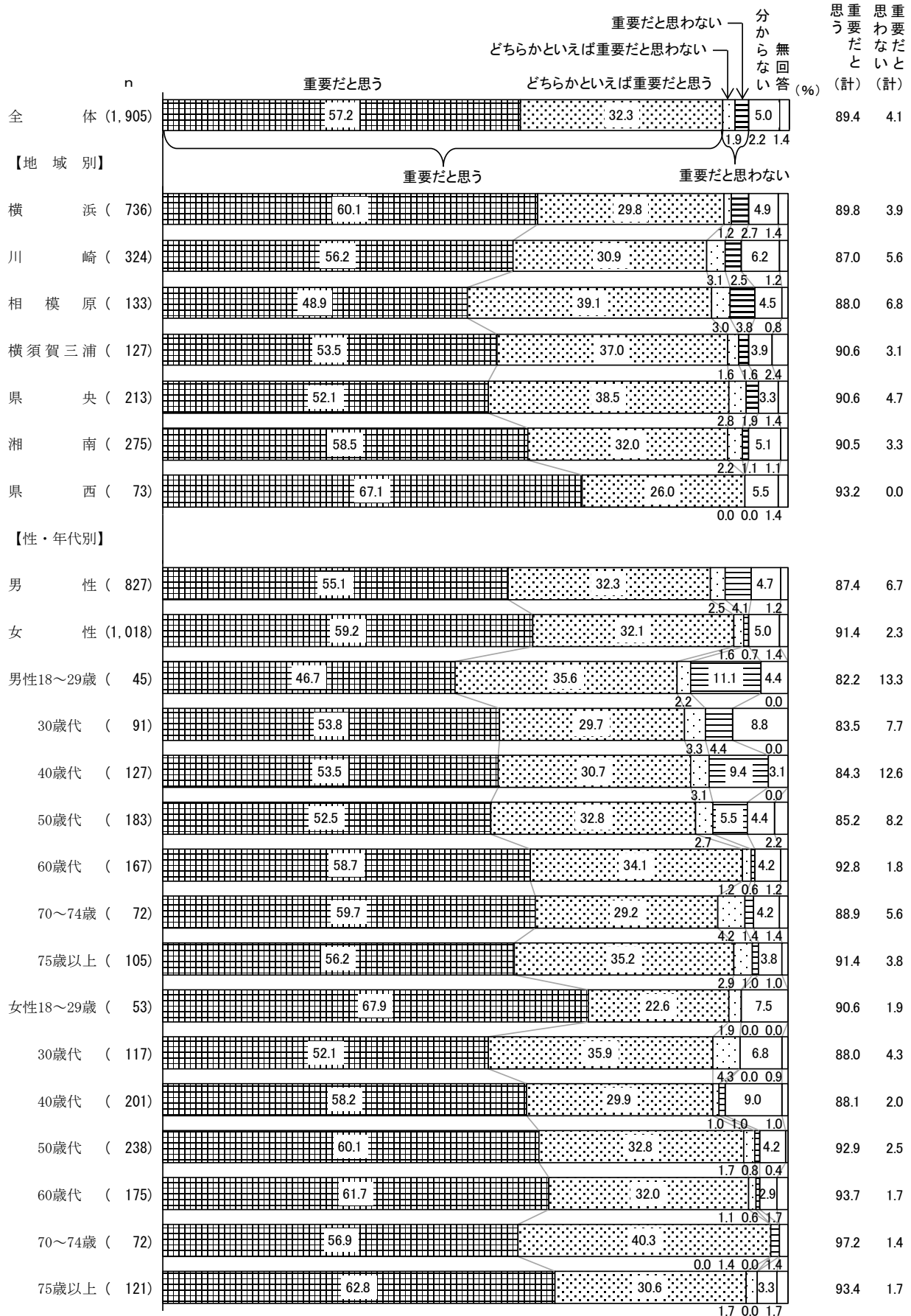
県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組みを重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(57.2%)と「どちらかといえば重要だと思う」(32.3%)を合わせた《重要だと思う》は89.4%であった。

一方、「重要だと思わない」(2.2%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(1.9%)を合わせた《重要だと思わない》は4.1%であった。(図表3-2-1)

図表3-2-1 「地産地消」の取組みの重要度



図表3-2-2 「地産地消」の取組みの重要度—地域別、性・年代別



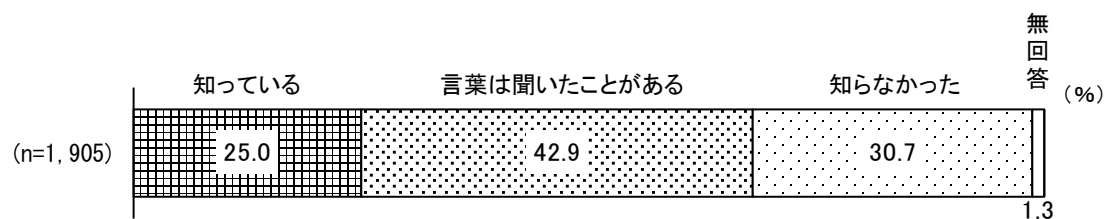
3 「かながわブランド」の認知度【問10】

【全体の状況】

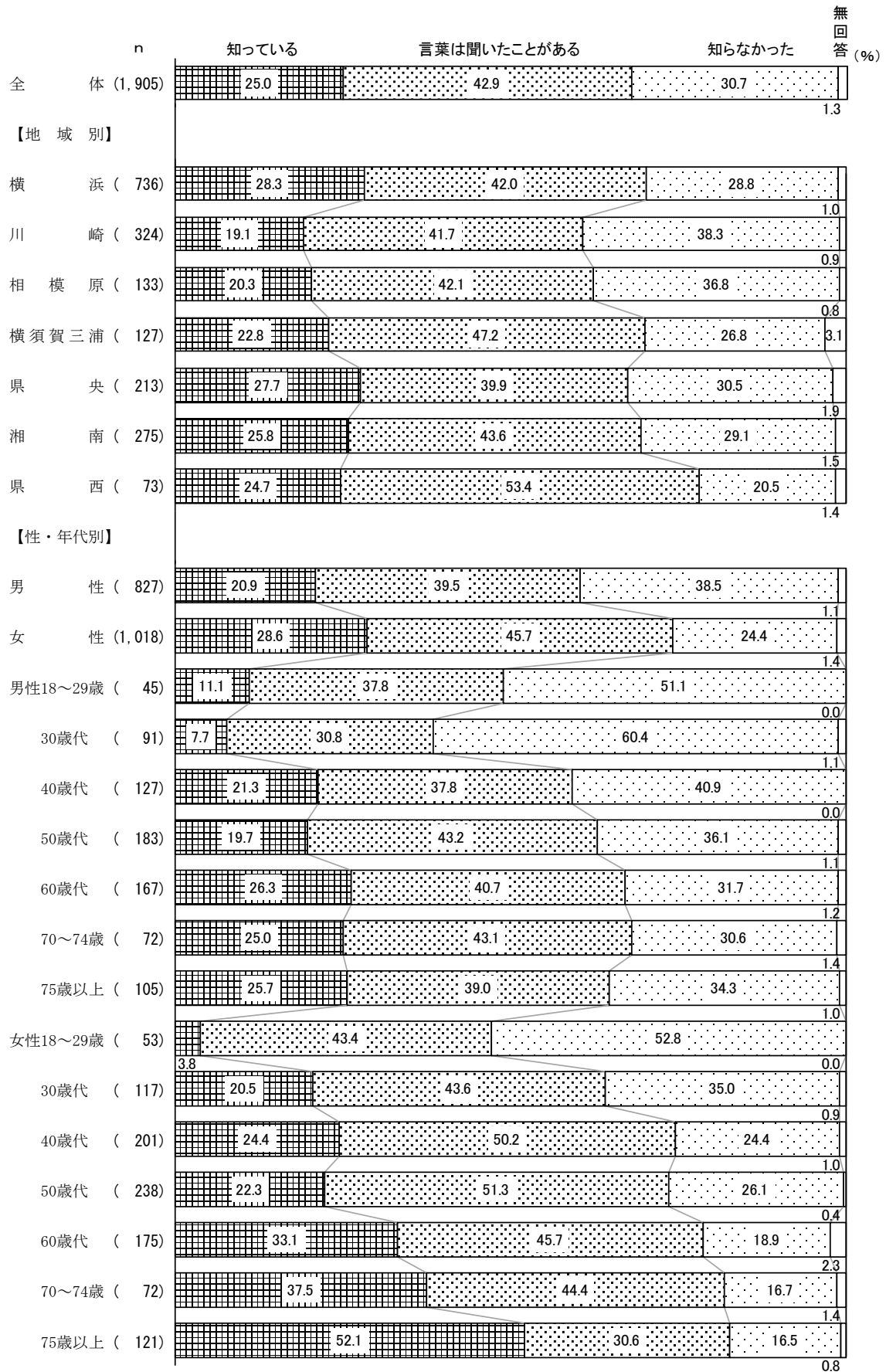
「かながわブランド」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が25.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が42.9%であった。

一方、「知らなかった」は、30.7%であった。(図表 3-3-1)

図表3-3-1 「かながわブランド」の認知度



図表3-3-2 「かながわブランド」の認知度—地域別、性・年代別



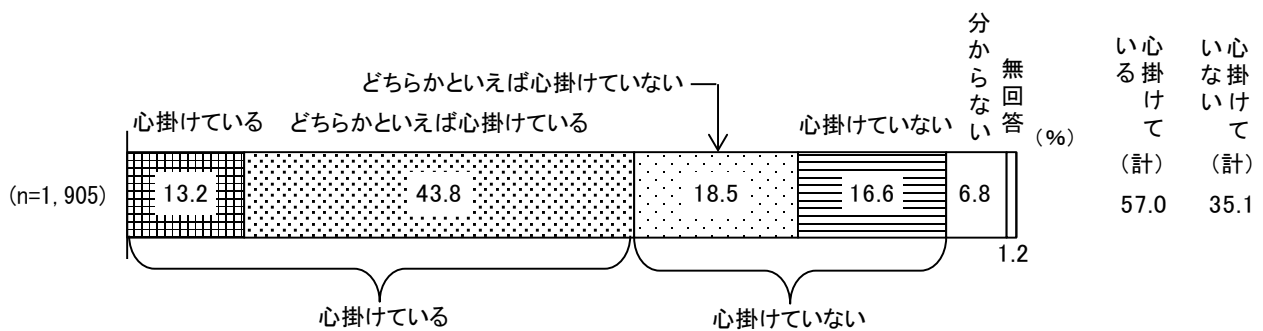
4 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け【問11】

【全体の状況】

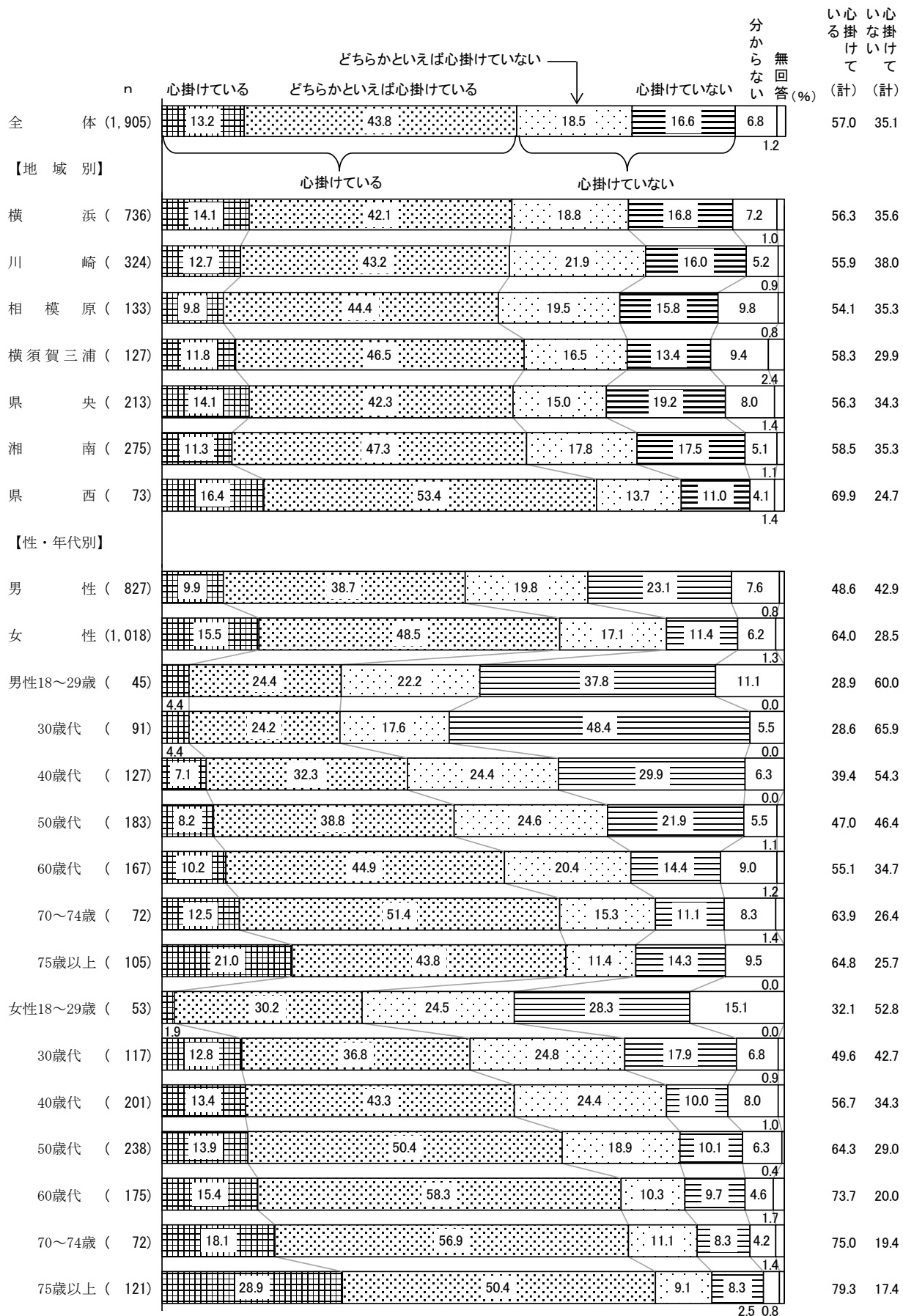
環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶよう心掛けているか尋ねたところ、「心掛けている」(13.2%)と「どちらかといえば心掛けている」(43.8%)を合わせた《心掛けている》は57.0%であった。

一方、「心掛けていない」(16.6%)と「どちらかといえば心掛けていない」(18.5%)を合わせた《心掛けていない》は35.1%であった。(図表3-4-1)

図表3-4-1 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け



図表3-4-2 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け—地域別、性・年代別



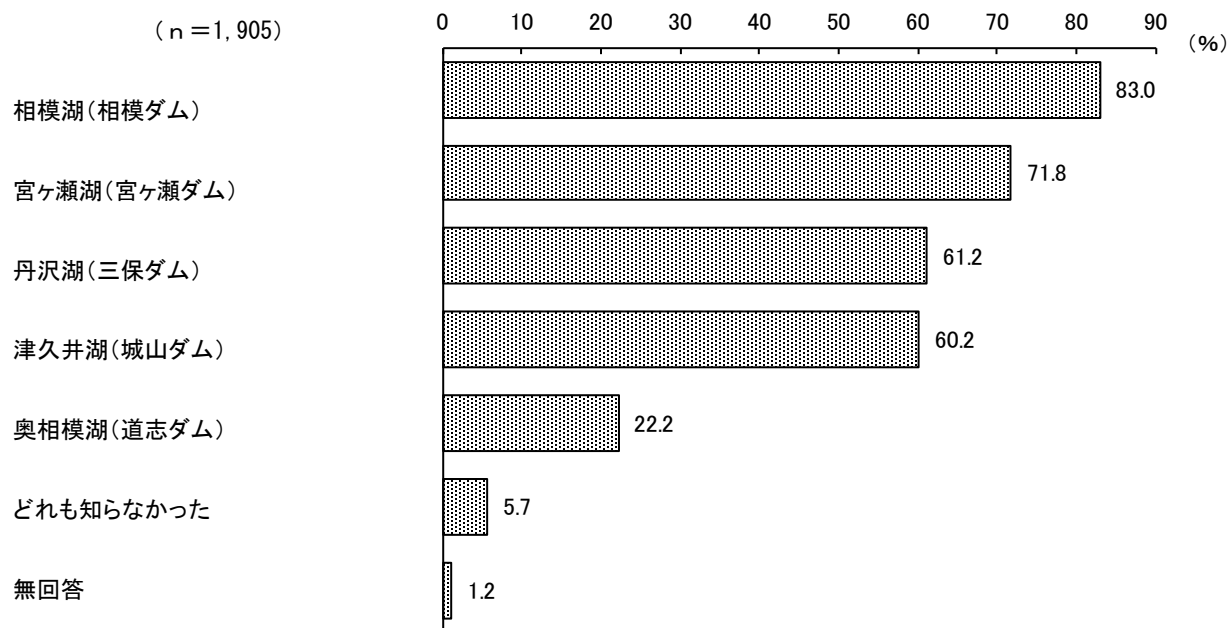
第4章 かながわの水源地域【問12～問14】

1 県内のダム湖（ダム）の認知度【問12】

【全体の状況】

県にある各ダム湖（ダム）を知っているかについて複数回答で尋ねたところ、「相模湖（相模ダム）」が83.0%で最も多く、次いで「宮ヶ瀬湖（宮ヶ瀬ダム）」が71.8%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 県内のダム湖（ダム）の認知度（複数回答）



図表4-1-2 県内のダム湖（ダム）の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

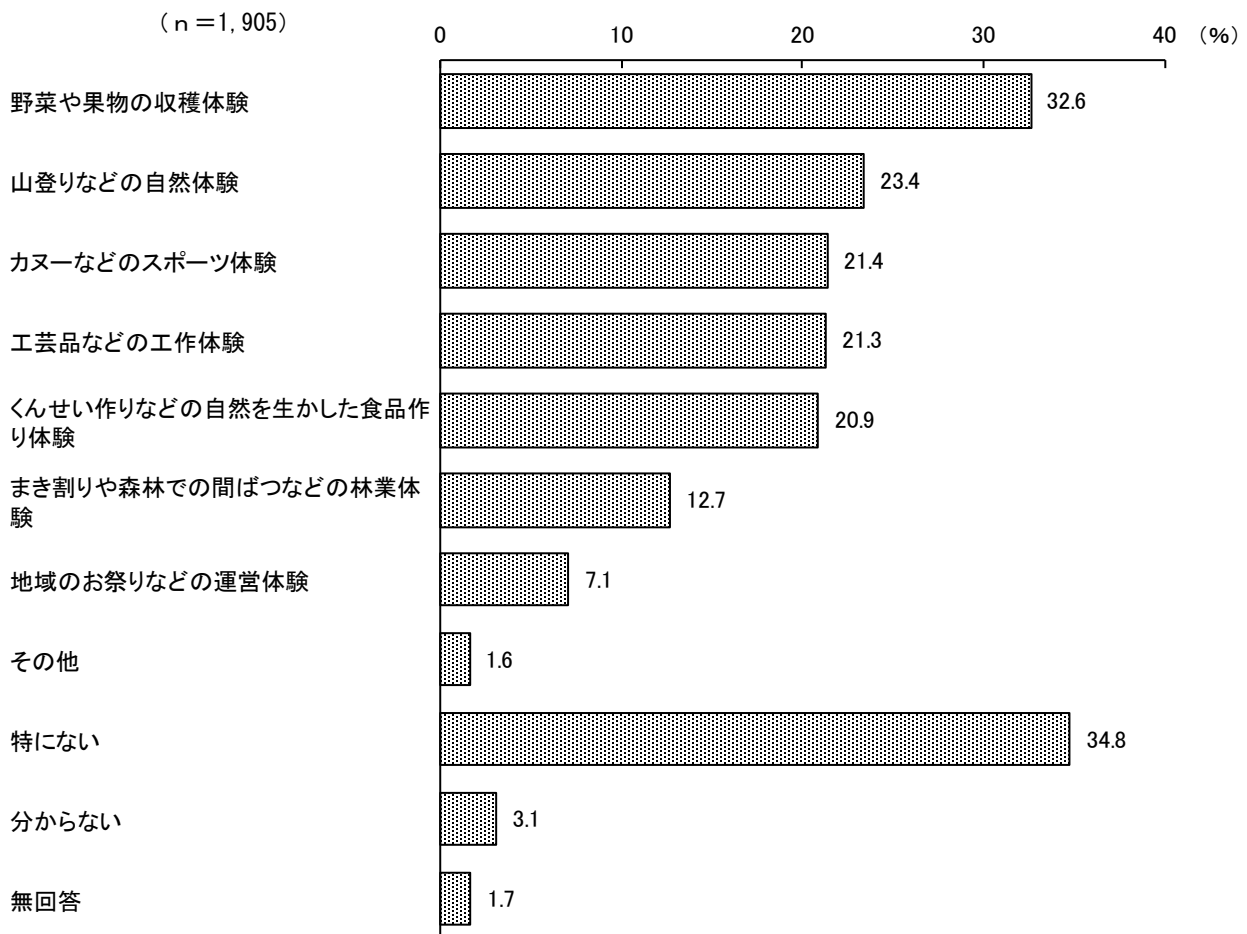
	n	相模湖 （相模ダム）	宮ヶ瀬湖 （宮ヶ瀬ダム）	丹沢湖 （三保ダム）	津久井湖 （城山ダム）	奥相模湖 （道志ダム）	どれも 知らなかつた	無 回 答
全 体	1,905	83.0	71.8	61.2	60.2	22.2	5.7	1.2
【地 域 別】								
横 浜	736	82.7	64.8	58.6	53.9	24.3	7.1	0.8
川 崎	324	79.6	52.2	56.2	52.8	16.0	10.8	0.6
相 模 原	133	92.5	92.5	53.4	88.7	36.1	0.8	0.8
横 須 賀 三 浦	127	78.0	69.3	63.0	57.5	16.5	7.1	2.4
県 央	213	86.9	93.9	62.9	73.7	24.9	0.5	1.4
湘 南	275	84.0	86.2	66.5	64.7	20.0	2.9	1.8
県 西	73	78.1	78.1	93.2	54.8	16.4	2.7	1.4
【性・年代別】								
男 性	827	85.1	69.8	62.4	64.8	26.8	6.4	0.8
女 性	1,018	81.4	73.0	59.5	56.8	18.9	5.2	1.3
男性 18～29歳	45	66.7	53.3	24.4	22.2	11.1	24.4	-
30 歳 代	91	76.9	42.9	39.6	33.0	15.4	16.5	-
40 歳 代	127	81.1	69.3	58.3	46.5	25.2	6.3	-
50 歳 代	183	85.2	72.7	69.4	68.3	30.1	5.5	1.1
60 歳 代	167	92.2	78.4	73.1	84.4	31.1	3.0	1.8
70～74歳	72	94.4	73.6	68.1	80.6	23.6	1.4	1.4
75歳以上	105	87.6	73.3	65.7	83.8	33.3	1.9	-
女性 18～29歳	53	67.9	60.4	24.5	22.6	13.2	15.1	-
30 歳 代	117	79.5	64.1	41.0	33.3	10.3	11.1	0.9
40 歳 代	201	76.1	66.7	60.2	42.8	16.9	6.0	1.0
50 歳 代	238	81.1	77.3	63.9	62.6	21.8	2.5	0.4
60 歳 代	175	85.7	74.3	65.1	70.3	26.9	4.6	1.7
70～74歳	72	93.1	84.7	66.7	72.2	15.3	-	-
75歳以上	121	87.6	82.6	71.1	81.0	20.7	3.3	2.5

2 水源地域で参加したい活動【問13】

【全体の状況】

水源地域で参加したい活動はあるか複数回答で尋ねたところ、「野菜や果物の収穫体験」が32.6%で最も多く、次いで「山登りなどの自然体験」が23.4%であった。（図表4-2-1）

図表4-2-1 水源地域で参加したい活動（複数回答）



図表4-2-2 水源地域で参加したい活動（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

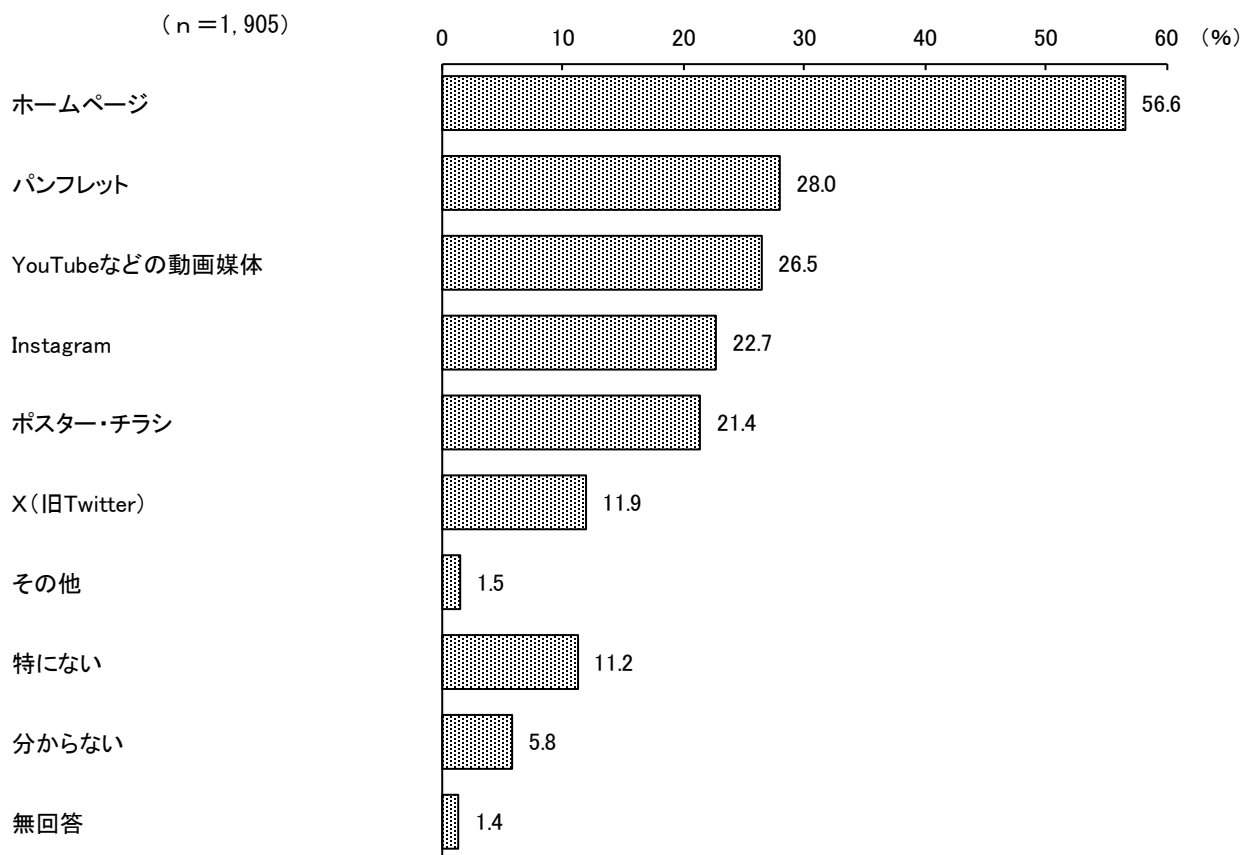
	n	野菜や果物の収穫体験	山登りなどの自然体験	カーンなどのスポーツ体験	工芸品などの工作体験	くんせい作りなどの自然を生かした食品作り体験	林業体験	まき割りや森林での間ばつなどの	地域のお祭りなどの運営体験	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,905	32.6	23.4	21.4	21.3	20.9	12.7	7.1	1.6	34.8	3.1	1.7	
【地域別】													
横浜	736	32.3	23.6	22.6	21.6	20.5	12.8	7.2	1.9	32.6	3.7	1.4	
川崎	324	37.7	31.2	26.5	23.8	24.1	14.2	7.7	1.5	30.9	2.8	1.2	
相模原	133	33.1	22.6	22.6	18.0	21.8	12.8	10.5	-	36.8	2.3	1.5	
横須賀三浦	127	25.2	20.5	23.6	19.7	22.8	15.0	3.9	3.1	35.4	3.1	3.9	
県央	213	32.9	18.3	13.6	23.0	20.7	11.3	4.7	1.4	36.6	3.3	1.4	
湘南	275	32.0	22.2	16.7	17.5	18.2	11.6	6.9	1.5	40.0	3.3	1.8	
県西	73	27.4	19.2	23.3	26.0	20.5	9.6	11.0	-	39.7	-	2.7	
【性・年代別】													
男性	827	24.2	26.0	20.7	15.4	16.8	13.2	6.7	2.5	39.3	3.3	1.3	
女性	1,018	39.9	21.5	21.8	26.0	24.6	12.0	7.6	0.9	31.3	3.0	1.9	
男性18～29歳	45	33.3	24.4	28.9	22.2	22.2	11.1	13.3	2.2	31.1	4.4	-	
30歳代	91	26.4	27.5	35.2	18.7	26.4	15.4	13.2	2.2	33.0	6.6	-	
40歳代	127	36.2	32.3	33.9	22.8	24.4	19.7	10.2	4.7	26.0	1.6	0.8	
50歳代	183	23.5	29.0	23.0	15.3	19.1	14.2	6.6	2.2	35.0	2.7	1.1	
60歳代	167	18.0	27.5	16.2	14.4	12.0	13.2	1.8	3.0	40.7	2.4	1.8	
70～74歳	72	27.8	19.4	9.7	8.3	11.1	12.5	5.6	1.4	55.6	1.4	1.4	
75歳以上	105	14.3	17.1	5.7	11.4	6.7	5.7	3.8	-	54.3	5.7	2.9	
女性18～29歳	53	41.5	20.8	49.1	34.0	20.8	13.2	17.0	-	15.1	5.7	1.9	
30歳代	117	56.4	32.5	38.5	37.6	35.0	22.2	13.7	3.4	15.4	1.7	0.9	
40歳代	201	56.2	30.3	33.3	32.8	36.8	19.9	10.9	0.5	19.4	1.0	1.0	
50歳代	238	37.0	24.8	22.7	26.5	23.1	12.2	4.6	-	31.1	3.4	0.4	
60歳代	175	28.6	17.1	9.7	21.1	20.6	9.7	5.7	1.1	37.1	4.0	2.9	
70～74歳	72	27.8	11.1	1.4	16.7	12.5	1.4	2.8	1.4	54.2	4.2	1.4	
75歳以上	121	25.6	5.8	4.1	14.0	13.2	1.7	5.0	0.8	49.6	4.1	4.1	

3 「やまなみ五湖」に関する情報収集手段【問14】

【全体の状況】

「やまなみ五湖」に関する観光やグルメなどの情報収集をする場合、どの手段を利用したいかを複数回答で尋ねたところ、「ホームページ」が56.6%で最も多く、次いで「パンフレット」が28.0%であった。（図表4-3-1）

図表4-3-1 「やまなみ五湖」に関する情報収集手段（複数回答）



図表4-3-2 「やまなみ五湖」に関する情報収集手段（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	ホームページ	パンフレット	YouTubeなどの動画媒体	Instagram	ポスター・チラシ	X（旧Twitter）	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,905	56.6	28.0	26.5	22.7	21.4	11.9	1.5	11.2	5.8	1.4
【地域別】											
横浜	736	58.4	27.2	27.6	22.1	19.4	11.8	1.5	10.5	6.0	1.1
川崎	324	60.2	24.7	28.4	27.2	21.9	14.5	0.9	9.9	4.6	0.6
相模原	133	54.9	32.3	32.3	29.3	25.6	11.3	0.8	12.0	3.8	0.8
横須賀三浦	127	55.9	26.8	26.0	22.8	17.3	11.0	1.6	13.4	5.5	3.1
県央	213	56.3	36.6	23.0	17.8	28.6	10.8	0.9	13.1	4.2	1.4
湘南	275	50.2	24.7	21.5	16.7	18.5	11.3	2.2	12.7	9.1	1.8
県西	73	58.9	32.9	27.4	32.9	31.5	9.6	2.7	8.2	2.7	2.7
【性・年代別】											
男性	827	55.9	25.3	29.7	15.7	17.4	12.2	1.5	13.7	6.4	1.1
女性	1,018	57.6	30.7	23.9	28.5	25.1	11.9	1.5	9.2	5.0	1.4
男性18～29歳	45	44.4	6.7	35.6	24.4	4.4	22.2	-	20.0	13.3	-
30歳代	91	51.6	11.0	37.4	24.2	7.7	22.0	-	18.7	6.6	-
40歳代	127	55.9	28.3	36.2	19.7	23.6	21.3	0.8	11.8	4.7	-
50歳代	183	69.9	16.4	32.2	21.3	12.0	16.9	2.7	7.7	4.9	1.1
60歳代	167	67.7	26.3	26.9	13.2	15.0	4.8	1.2	10.8	4.2	1.8
70～74歳	72	54.2	36.1	26.4	5.6	25.0	2.8	2.8	15.3	5.6	1.4
75歳以上	105	27.6	44.8	17.1	1.9	27.6	1.0	1.0	21.0	10.5	1.0
女性18～29歳	53	49.1	17.0	24.5	47.2	15.1	35.8	1.9	11.3	11.3	-
30歳代	117	65.0	21.4	35.0	63.2	21.4	23.1	1.7	3.4	3.4	0.9
40歳代	201	66.2	22.9	26.9	40.8	18.4	13.4	1.0	6.0	5.5	1.0
50歳代	238	63.0	26.1	29.0	30.3	17.2	15.5	1.3	8.0	5.0	0.4
60歳代	175	58.9	36.0	21.7	14.3	28.0	4.6	2.9	8.0	4.6	1.7
70～74歳	72	52.8	54.2	15.3	5.6	41.7	-	-	13.9	5.6	-
75歳以上	121	31.4	48.8	11.6	1.7	45.5	1.7	-	19.8	4.1	2.5

第5章 地域社会との関わり【問15】

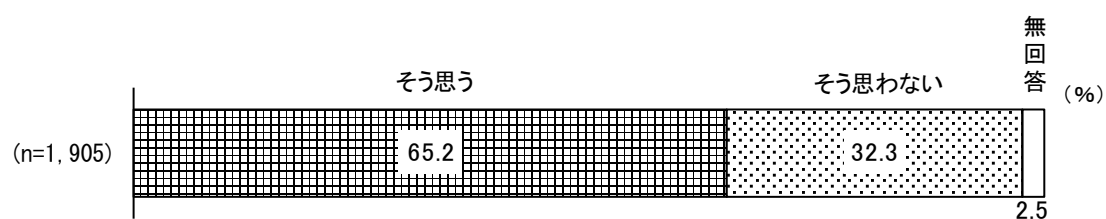
1 地域社会との関わりを大切にする意識【問15】

【全体の状況】

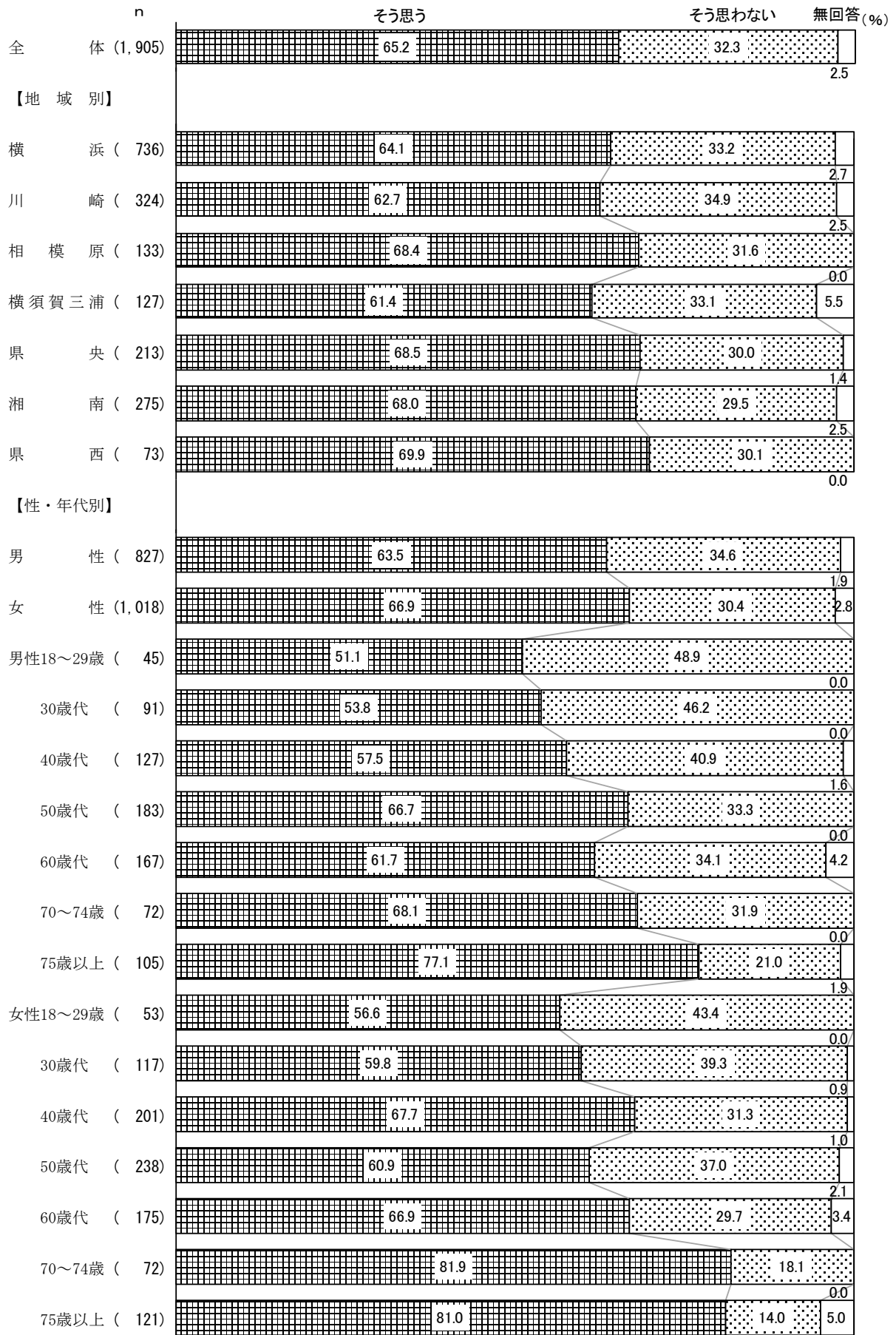
長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が65.2%であった。

一方、「そう思わない」が32.3%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 地域社会との関わりを大切にする意識



図表5-1-2 地域社会との関わりを大切にする意識－地域別、性・年代別



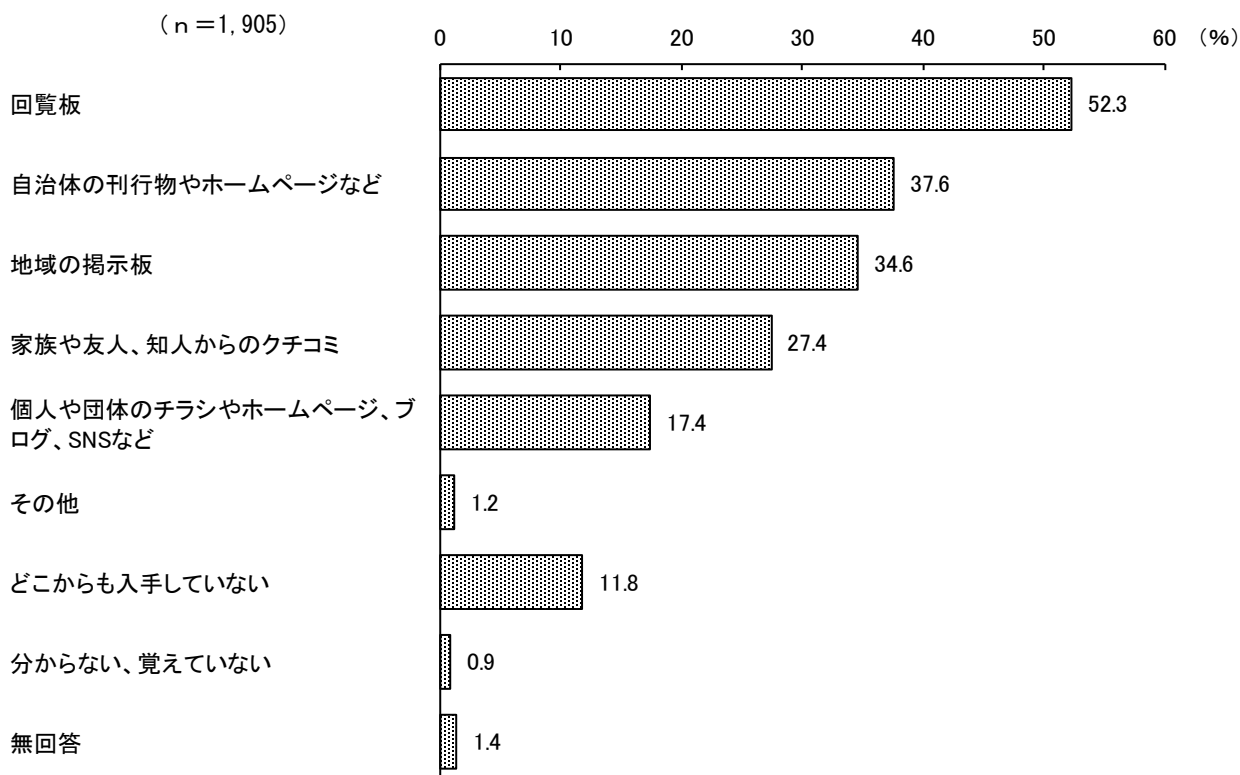
第6章 地域活動【問16～問18】

1 地域活動情報の入手手段【問16】

【全体の状況】

地域活動の情報をどこで入手しているかを複数回答で尋ねたところ、「回覧板」が52.3%で最も多く、次いで「自治体の刊行物やホームページなど」が37.6%であった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 地域活動情報の入手手段（複数回答）



図表6-1-2 地域活動情報の入手手段（複数回答）－地域別、性・年代別

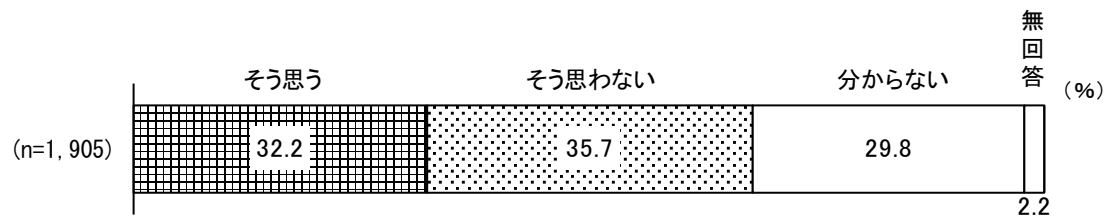
(%)										
	n	回覧板	自治体の刊行物やホームページなど	地域の掲示板	家族や友人、知人からのクチコミ	個人や団体のチラシやホームページ、ブログ、SNSなど	その他	どこからも入手していない	分からない、覚えていない	無回答
全 体	1,905	52.3	37.6	34.6	27.4	17.4	1.2	11.8	0.9	1.4
【地 域 別】										
横 浜	736	48.6	33.4	39.1	24.7	15.4	1.4	13.0	1.2	1.5
川 崎	324	38.3	36.7	39.5	28.1	19.4	0.3	15.4	0.3	0.9
相 模 原	133	63.9	27.1	23.3	29.3	11.3	-	13.5	1.5	-
横 須 賀 三 浦	127	58.3	47.2	50.4	29.1	21.3	3.1	4.7	0.8	2.4
県 央	213	53.5	47.4	28.2	31.0	19.7	1.4	8.0	1.9	1.4
湘 南	275	63.6	41.8	24.4	26.9	18.9	1.5	9.5	-	1.8
県 西	73	71.2	47.9	19.2	39.7	17.8	-	9.6	-	-
【性・年代別】										
男 性	827	51.9	35.6	31.8	21.6	15.7	0.8	13.9	0.8	1.3
女 性	1,018	53.1	39.7	37.2	32.4	18.8	1.4	9.6	0.8	1.4
男性18～29歳	45	13.3	8.9	24.4	26.7	15.6	-	40.0	2.2	-
30歳代	91	30.8	23.1	19.8	20.9	18.7	-	27.5	1.1	1.1
40歳代	127	40.2	26.0	32.3	22.8	21.3	-	15.7	-	1.6
50歳代	183	54.1	34.4	32.8	24.6	16.4	-	12.0	1.1	-
60歳代	167	58.7	41.3	31.1	19.2	13.2	3.0	7.2	1.2	2.4
70～74歳	72	62.5	45.8	30.6	18.1	18.1	-	12.5	-	-
75歳以上	105	74.3	54.3	44.8	22.9	8.6	-	6.7	-	-
女性18～29歳	53	22.6	18.9	30.2	24.5	17.0	1.9	32.1	1.9	-
30歳代	117	38.5	25.6	44.4	38.5	28.2	0.9	16.2	-	0.9
40歳代	201	47.8	37.8	35.3	37.3	27.4	3.0	9.0	2.5	0.5
50歳代	238	50.4	38.7	34.0	28.6	16.8	1.3	10.9	0.4	1.3
60歳代	175	56.6	46.9	37.7	27.4	13.1	1.1	6.3	-	1.1
70～74歳	72	72.2	52.8	40.3	44.4	11.1	-	2.8	-	1.4
75歳以上	121	76.0	50.4	45.5	33.9	13.2	0.8	4.1	0.8	1.7

2 地域活動への参加意欲【問17】

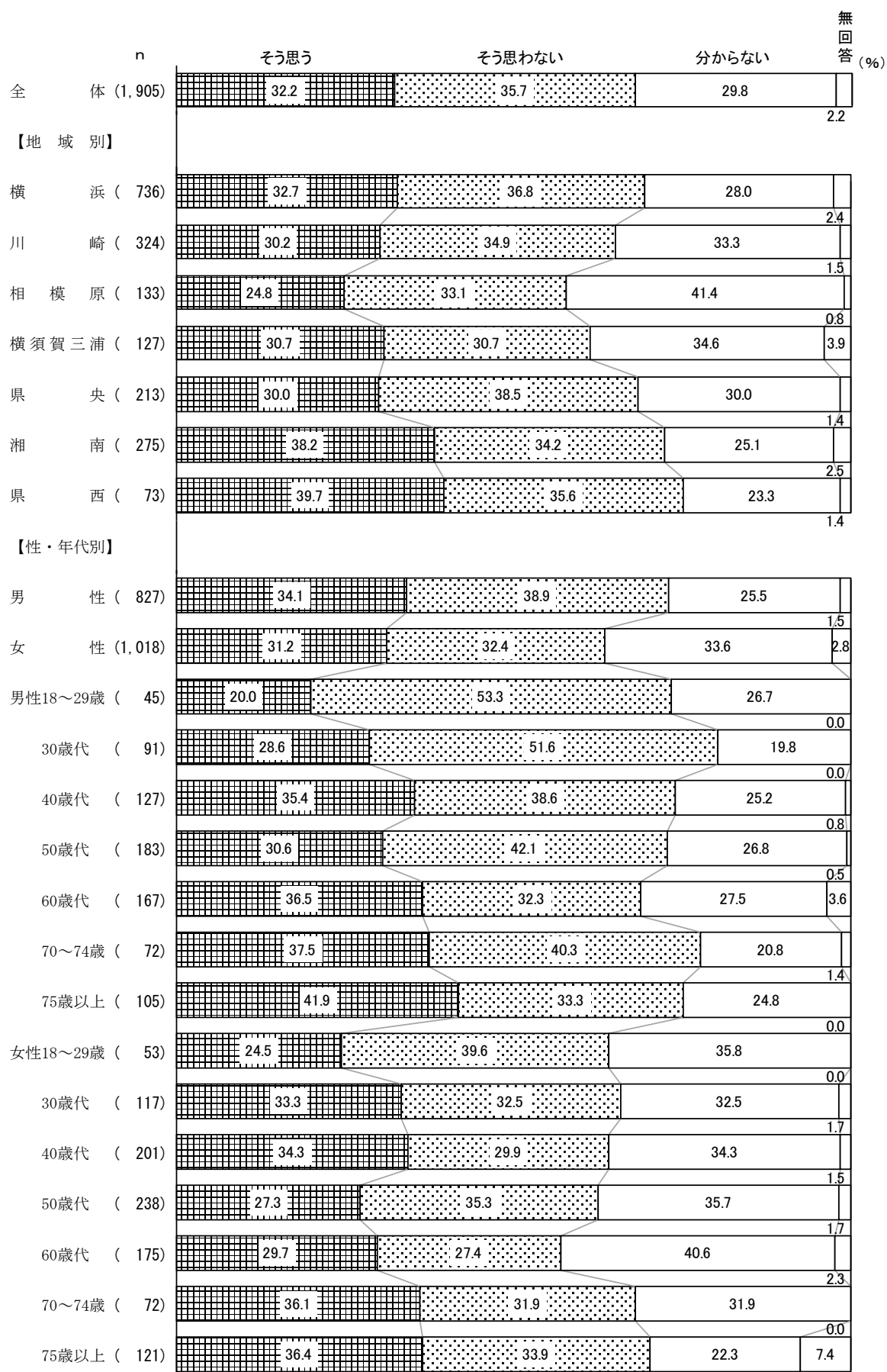
【全体の状況】

地域活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「そう思う」が32.2%であった。一方、「そう思わない」が35.7%であった。(図表6-2-1)

図表6-2-1 地域活動への参加意欲



図表6-2-2 地域活動への参加意欲—地域別、性・年代別

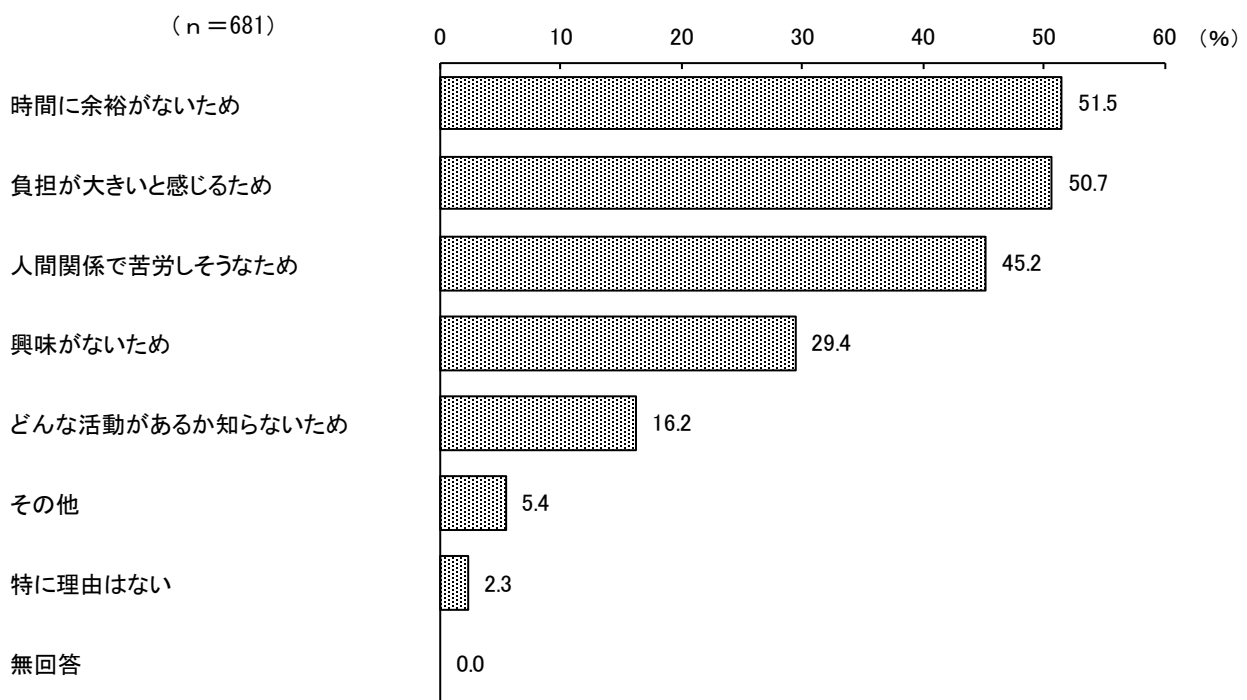


3 地域活動に参加したいと思わない理由【問17-1】

【全体の状況】

地域活動への参加意欲（問 17）で、「そう思わない」と回答した 681 人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「時間に余裕がないため」が 51.5%で最も多く、次いで「負担が大きいつ感じるため」が 50.7%であった。（図表 6-3-1）

図表6-3-1 地域活動に参加したいと思わない理由（複数回答）



図表6-3-2 地域活動に参加したいと思わない理由（複数回答）－地域別、性・年代別

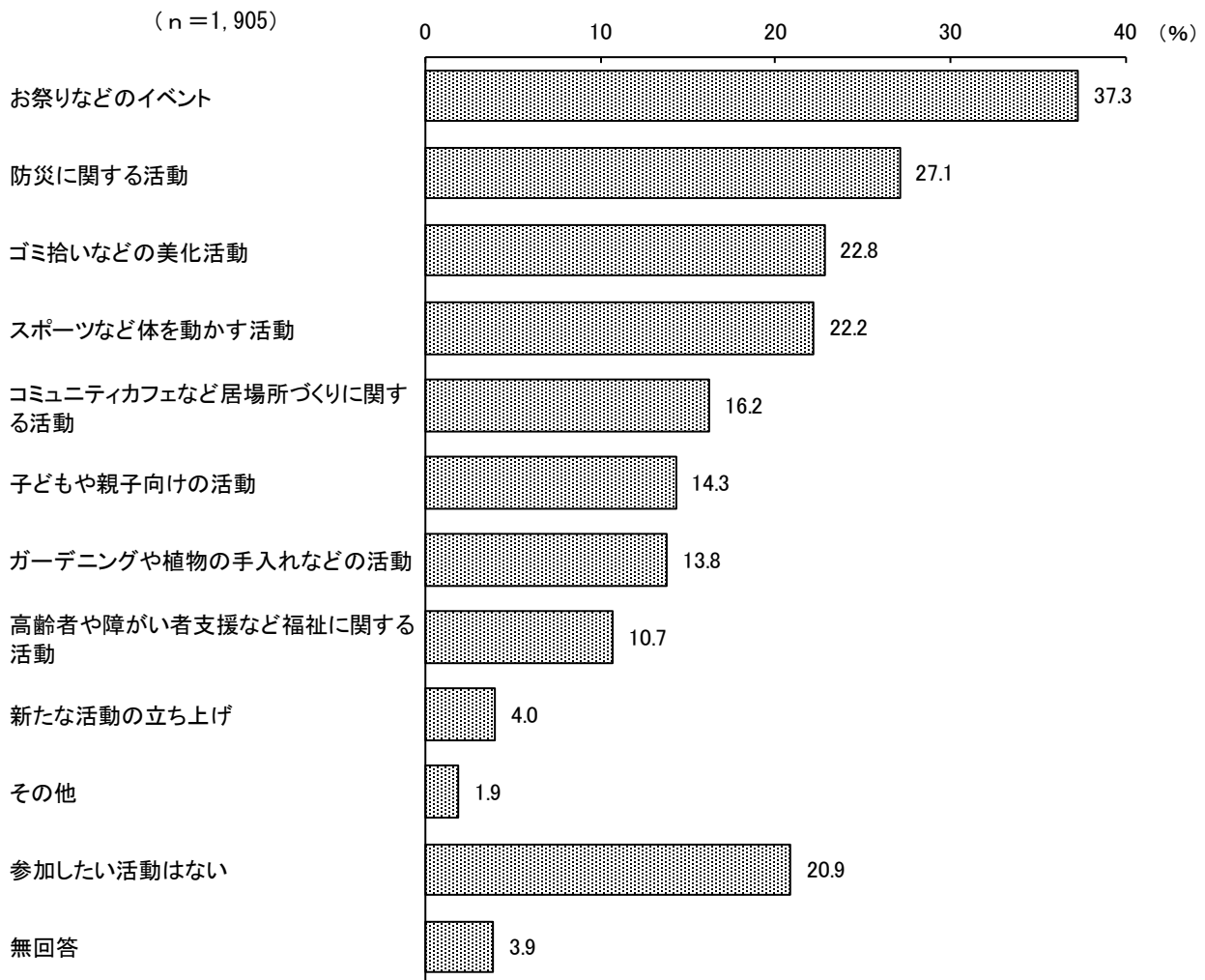
		(%)							
	n	時間に余裕がないため	負担が大きいため感じるため	人間関係で苦勞しそうなため	興味がないため	どんな活動があるか知らないため	その他	特に理由はない	無回答
全 体	681	51.5	50.7	45.2	29.4	16.2	5.4	2.3	-
【地 域 別】									
横 浜	271	51.3	47.6	42.8	28.0	16.2	5.5	1.8	-
川 崎	113	53.1	51.3	51.3	29.2	23.0	0.9	1.8	-
相 模 原	44	59.1	54.5	43.2	45.5	4.5	6.8	4.5	-
横 須 賀 三 浦	39	41.0	56.4	48.7	35.9	17.9	5.1	-	-
県 央	82	48.8	54.9	47.6	26.8	14.6	7.3	3.7	-
湘 南	94	53.2	53.2	40.4	30.9	11.7	7.4	3.2	-
県 西	26	50.0	50.0	53.8	15.4	26.9	7.7	-	-
【性・年代別】									
男 性	322	50.6	43.8	43.2	36.3	15.8	4.7	2.5	-
女 性	330	51.5	57.0	46.7	24.2	16.7	6.1	2.1	-
男性 18～29歳	24	58.3	50.0	41.7	62.5	25.0	4.2	-	-
30 歳 代	47	61.7	57.4	46.8	42.6	27.7	4.3	-	-
40 歳 代	49	65.3	38.8	53.1	28.6	16.3	4.1	-	-
50 歳 代	77	64.9	49.4	41.6	32.5	11.7	1.3	2.6	-
60 歳 代	54	35.2	33.3	46.3	40.7	7.4	3.7	1.9	-
70～74歳	29	34.5	58.6	48.3	31.0	17.2	6.9	3.4	-
75歳以上	35	17.1	20.0	20.0	25.7	14.3	14.3	8.6	-
女性 18～29歳	21	71.4	52.4	57.1	23.8	52.4	-	-	-
30 歳 代	38	71.1	68.4	55.3	28.9	31.6	5.3	-	-
40 歳 代	60	63.3	65.0	50.0	25.0	18.3	3.3	1.7	-
50 歳 代	84	48.8	50.0	46.4	29.8	10.7	4.8	1.2	-
60 歳 代	48	47.9	56.3	50.0	27.1	8.3	8.3	-	-
70～74歳	23	21.7	60.9	43.5	21.7	13.0	4.3	4.3	-
75歳以上	41	24.4	48.8	31.7	12.2	9.8	12.2	9.8	-

4 参加してみたい地域活動【問18】

【全体の状況】

どのような地域活動があれば参加してみたいかを複数回答で尋ねたところ、「お祭りなどのイベント」が37.3%で最も多く、次いで「防災に関する活動」が27.1%であった。（図表6-4-1）

図表6-4-1 参加してみたい地域活動（複数回答）



図表6-4-2 参加してみたい地域活動（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	お祭りなどのイベント	防災に関する活動	ゴミ拾いなどの美化活動	スポーツなど体を動かす活動	コミュニティカフェなど居場所づくりに関する活動	子どもや親子向けの活動	ガーデニングや植物の手入れなどの活動	高齢者や障がい者支援など福祉に関する活動	新たな活動の立ち上げ	その他	参加したい活動はない	無回答
全体	1,905	37.3	27.1	22.8	22.2	16.2	14.3	13.8	10.7	4.0	1.9	20.9	3.9
【地域別】													
横浜	736	35.2	25.8	18.9	21.9	17.1	14.9	12.4	9.1	3.8	1.6	20.8	3.5
川崎	324	41.7	30.2	22.5	25.3	15.1	15.4	18.8	10.5	4.6	2.5	17.9	3.1
相模原	133	39.8	24.1	21.8	24.1	15.0	15.0	8.3	9.0	4.5	2.3	18.8	2.3
横須賀三浦	127	31.5	26.0	22.8	19.7	20.5	11.8	14.2	10.2	2.4	2.4	26.0	7.1
県央	213	38.0	28.6	29.1	20.2	14.6	10.8	10.3	15.5	4.2	0.9	22.1	4.7
湘南	275	37.8	28.4	29.8	22.9	15.3	15.6	16.4	12.4	3.3	2.5	22.5	4.0
県西	73	42.5	27.4	24.7	17.8	16.4	12.3	19.2	12.3	8.2	1.4	19.2	2.7
【性・年代別】													
男性	827	39.8	27.9	24.4	24.9	15.1	11.7	12.0	8.3	5.7	2.1	22.5	3.1
女性	1,018	35.6	26.9	21.9	20.6	16.9	16.3	15.4	12.8	2.8	1.8	19.3	4.3
男性18～29歳	45	44.4	11.1	8.9	31.1	13.3	11.1	11.1	2.2	6.7	2.2	35.6	-
30歳代	91	46.2	18.7	16.5	33.0	17.6	27.5	6.6	1.1	5.5	2.2	24.2	1.1
40歳代	127	52.0	30.7	24.4	32.3	15.0	26.0	15.0	4.7	8.7	0.8	17.3	2.4
50歳代	183	42.1	28.4	30.1	24.6	16.9	9.3	9.8	4.4	8.7	0.5	23.0	0.5
60歳代	167	34.1	38.3	27.5	23.4	16.2	4.8	13.2	13.2	4.8	1.8	21.6	3.0
70～74歳	72	31.9	23.6	23.6	18.1	13.9	4.2	16.7	20.8	1.4	4.2	20.8	1.4
75歳以上	105	32.4	27.6	23.8	18.1	10.5	2.9	14.3	9.5	2.9	2.9	22.9	10.5
女性18～29歳	53	58.5	11.3	15.1	9.4	22.6	13.2	13.2	9.4	3.8	1.9	22.6	-
30歳代	117	63.2	28.2	15.4	23.1	17.9	54.7	6.8	5.1	3.4	2.6	7.7	1.7
40歳代	201	47.8	32.3	21.9	19.4	16.4	30.3	11.9	8.0	4.0	1.5	16.4	1.5
50歳代	238	32.4	27.7	20.6	21.0	16.0	6.3	16.8	14.3	2.5	0.8	25.2	3.4
60歳代	175	20.6	26.9	22.9	22.3	16.6	5.1	18.9	19.4	2.9	2.3	22.9	6.3
70～74歳	72	20.8	26.4	30.6	13.9	27.8	4.2	23.6	19.4	1.4	2.8	18.1	4.2
75歳以上	121	21.5	25.6	26.4	26.4	11.6	2.5	18.2	15.7	1.7	2.5	16.5	8.3

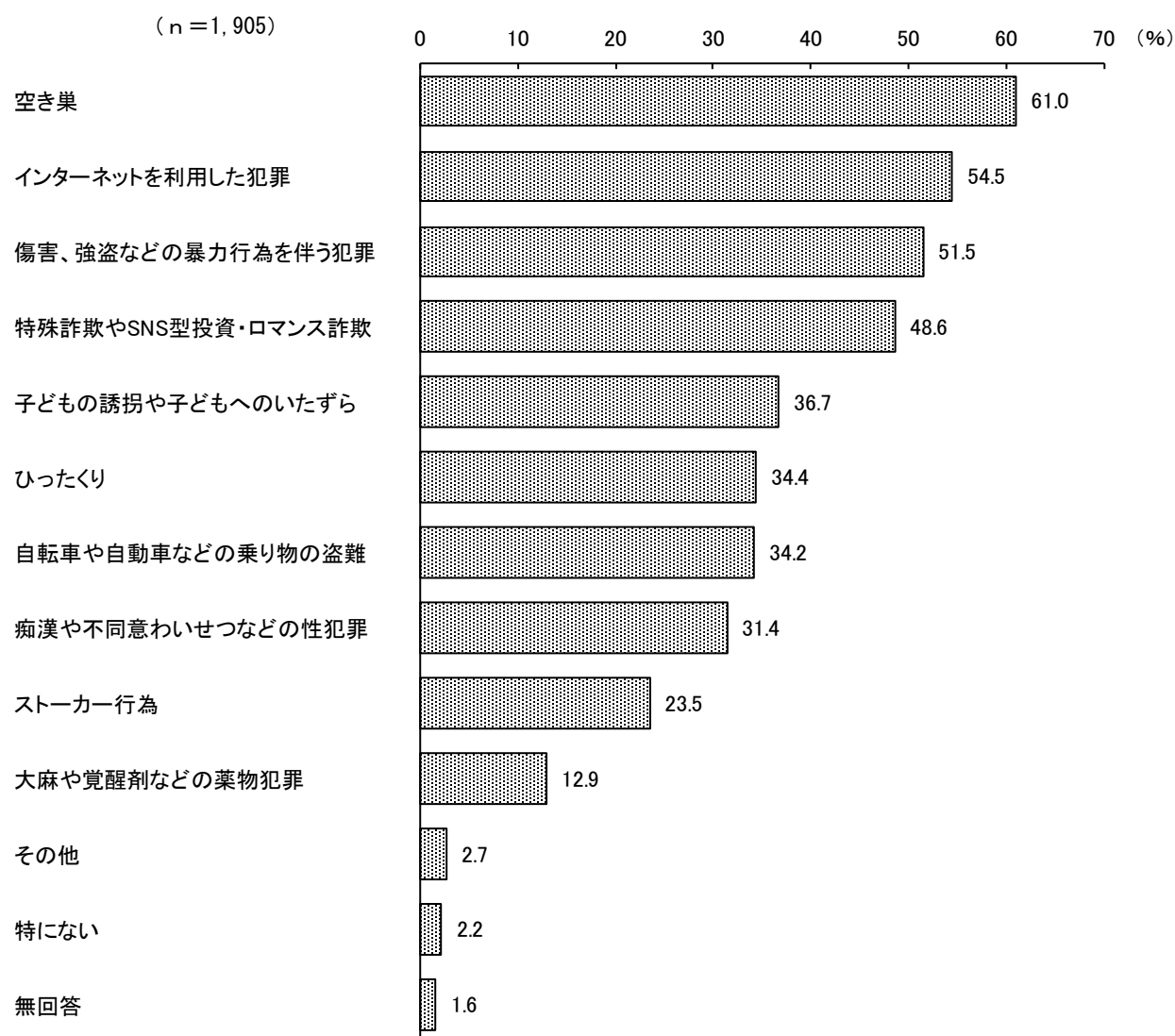
第7章 治安対策【問19～問21】

1 不安に感じる犯罪【問19】

【全体の状況】

不安に感じる身近な犯罪を複数回答で尋ねたところ、「空き巣」が61.0%で最も多く、次いで「インターネットを利用した犯罪」が54.5%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 不安に感じる犯罪（複数回答）



図表7-1-2 不安に感じる犯罪（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

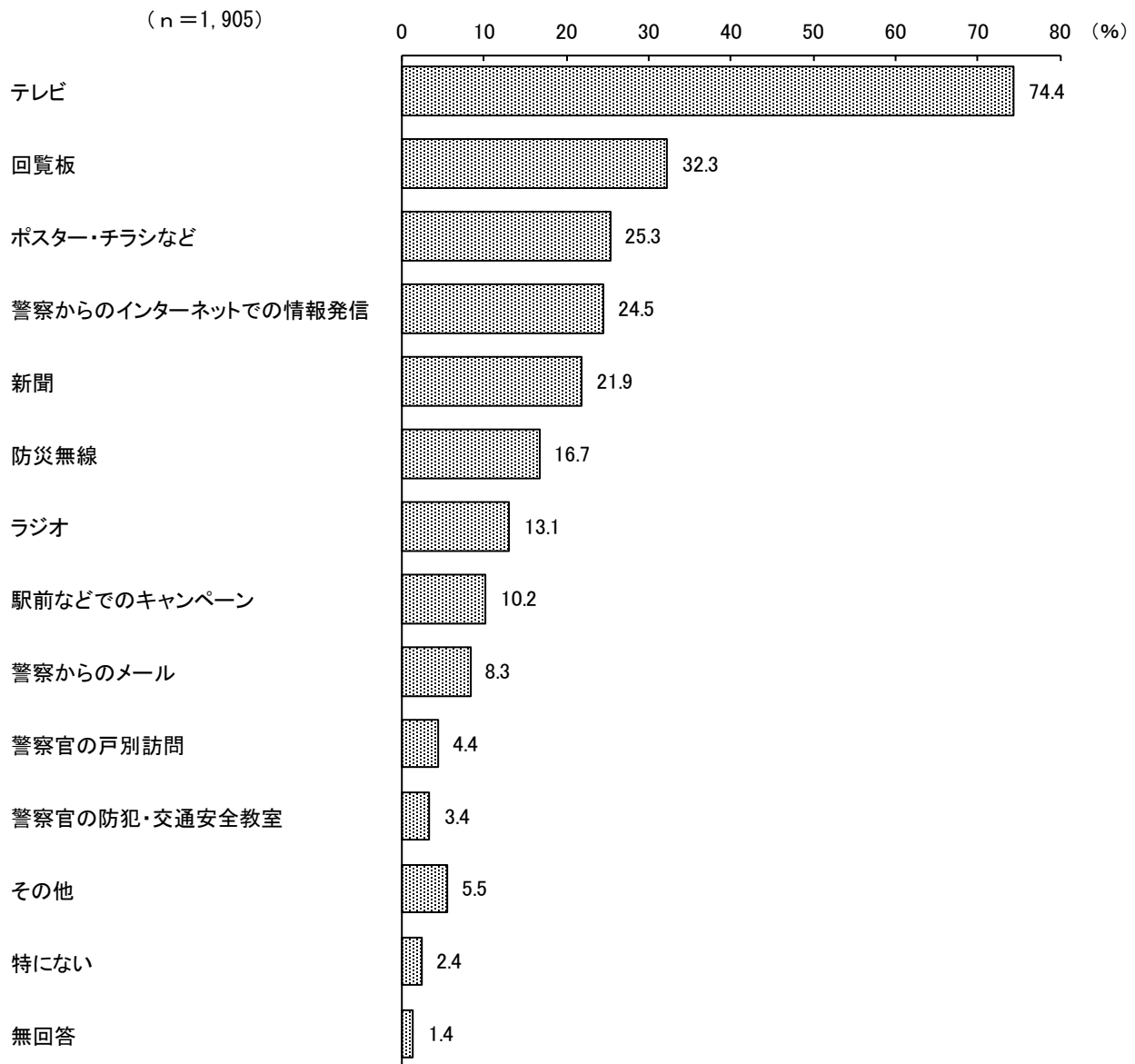
	n	空き巣	インターネットを利用した犯罪	傷害、強盗などの暴力行為を伴う犯罪	特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺	子どもの誘拐や子どもへのいたずら	ひったくり	自転車や自動車などの乗り物の盗難	痴漢や不同意わいせつなどの性犯罪	ストーカー行為	大麻や覚醒剤などの薬物犯罪	その他	特にない	無回答
全 体	1,905	61.0	54.5	51.5	48.6	36.7	34.4	34.2	31.4	23.5	12.9	2.7	2.2	1.6
【地 域 別】														
横 浜	736	59.9	55.2	51.2	48.0	38.3	35.7	30.2	31.8	23.9	12.0	2.7	2.0	1.8
川 崎	324	55.2	58.6	53.4	47.8	38.6	36.1	32.1	33.0	25.0	13.3	2.8	2.2	1.2
相 模 原	133	68.4	51.1	51.9	45.9	40.6	35.3	41.4	34.6	24.1	15.0	2.3	3.0	-
横 須 賀 三 浦	127	60.6	52.0	51.2	54.3	31.5	33.9	29.1	25.2	21.3	16.5	1.6	4.7	2.4
県 央	213	59.6	49.8	55.4	47.4	32.4	38.0	44.6	35.7	24.4	12.2	3.3	2.3	1.4
湘 南	275	66.2	53.8	48.0	49.5	33.8	27.3	37.8	27.3	21.1	12.7	1.5	1.5	1.8
県 西	73	69.9	57.5	50.7	58.9	37.0	28.8	39.7	31.5	19.2	13.7	6.8	-	-
【性・年代別】														
男 性	827	57.7	50.7	50.9	49.5	27.8	25.5	37.8	20.2	17.8	12.9	3.3	3.5	1.3
女 性	1,018	64.0	57.7	52.3	48.8	43.6	41.3	31.0	40.7	27.9	13.1	2.1	1.2	1.7
男性18～29歳	45	44.4	46.7	46.7	33.3	17.8	22.2	40.0	20.0	13.3	28.9	2.2	11.1	-
30歳代	91	52.7	41.8	38.5	29.7	41.8	18.7	39.6	18.7	22.0	18.7	8.8	4.4	-
40歳代	127	52.0	55.1	51.2	39.4	51.2	27.6	40.9	31.5	23.6	14.2	5.5	2.4	1.6
50歳代	183	66.1	54.6	55.2	54.6	26.2	23.0	44.3	24.6	19.7	10.9	2.2	1.6	-
60歳代	167	60.5	54.5	52.7	55.1	19.2	24.6	33.5	18.6	15.0	10.2	1.2	4.8	3.0
70～74歳	72	58.3	55.6	48.6	62.5	11.1	26.4	19.4	5.6	9.7	4.2	4.2	-	-
75歳以上	105	51.4	41.0	50.5	57.1	20.0	28.6	38.1	13.3	15.2	12.4	1.0	4.8	1.0
女性18～29歳	53	50.9	62.3	43.4	30.2	41.5	22.6	22.6	62.3	62.3	9.4	1.9	-	-
30歳代	117	58.1	65.0	56.4	41.0	66.7	33.3	39.3	54.7	40.2	17.9	1.7	2.6	0.9
40歳代	201	64.2	65.7	53.7	46.8	65.7	40.8	37.8	56.2	33.3	17.4	4.0	0.5	0.5
50歳代	238	70.2	63.9	51.7	47.5	34.9	42.4	37.8	42.4	23.9	17.2	2.1	0.8	1.7
60歳代	175	64.0	57.1	58.3	52.6	34.3	44.0	29.1	29.7	25.7	8.6	1.7	1.1	1.1
70～74歳	72	72.2	48.6	51.4	63.9	33.3	55.6	19.4	27.8	16.7	4.2	1.4	1.4	1.4
75歳以上	121	61.2	32.2	46.3	59.5	25.6	44.6	16.5	17.4	11.6	8.3	0.8	0.8	3.3

2 防犯や交通安全の情報について得やすい方法【問20】

【全体の状況】

防犯や交通安全の情報について、得やすい方法を複数回答で尋ねたところ、「テレビ」が74.4%で最も多く、次いで「回覧板」が32.3%であった。(図表7-2-1)

図表7-2-1 防犯や交通安全の情報について得やすい方法（複数回答）



図表7-2-2 防犯や交通安全の情報について得やすい方法（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

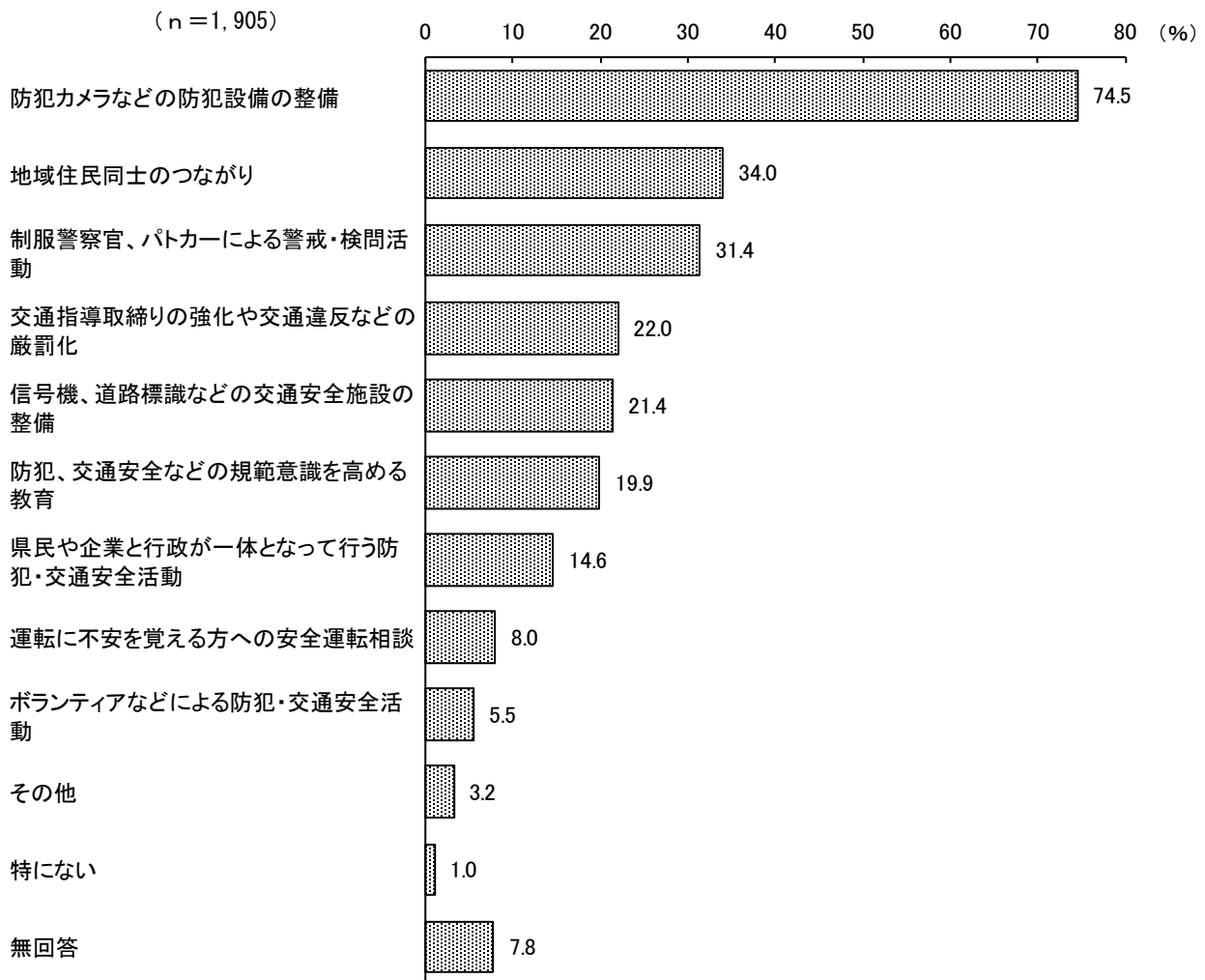
	n	テレビ	回覧板	ポスター・チラシなど	警察からのインターネットでの情報発信	新聞	防災無線	ラジオ	駅前などでのキャンペーン	警察からのメール	警察官の戸別訪問	警察官の防犯・交通安全教室	その他	特にない	無回答
全体	1,905	74.4	32.3	25.3	24.5	21.9	16.7	13.1	10.2	8.3	4.4	3.4	5.5	2.4	1.4
【地域別】															
横浜市	736	73.4	31.7	25.8	28.5	21.9	4.6	11.7	11.1	9.8	4.1	2.7	6.7	2.9	1.2
川崎市	324	73.8	20.1	25.6	31.5	20.7	13.0	11.4	13.0	6.2	3.4	4.6	5.9	1.9	0.9
相模原	133	70.7	30.1	21.8	15.8	14.3	21.8	12.0	9.0	8.3	5.3	3.0	5.3	2.3	0.8
横須賀三浦	127	73.2	37.8	22.0	22.8	20.5	31.5	15.7	9.4	11.8	4.7	1.6	6.3	3.1	2.4
県央	213	82.6	33.3	29.1	20.7	25.8	31.5	13.6	10.3	7.0	4.7	3.3	2.8	0.9	0.9
湘南	275	73.1	41.5	25.1	16.7	22.5	31.3	14.9	6.9	7.3	4.7	4.4	4.0	2.2	1.5
県西	73	78.1	47.9	19.2	15.1	28.8	28.8	24.7	5.5	4.1	5.5	2.7	5.5	4.1	1.4
【性・年代別】															
男性	827	70.6	29.7	21.4	24.5	22.5	16.0	16.2	9.8	5.9	5.2	2.7	5.6	3.5	1.2
女性	1,018	77.7	34.6	28.5	24.7	21.5	18.0	10.7	10.7	10.2	3.6	3.7	5.4	1.2	1.3
男性18～29歳	45	55.6	4.4	17.8	28.9	8.9	8.9	4.4	13.3	4.4	-	-	13.3	13.3	-
30歳代	91	53.8	11.0	12.1	26.4	3.3	12.1	5.5	15.4	6.6	-	1.1	9.9	9.9	-
40歳代	127	59.8	22.0	34.6	38.6	10.2	15.7	16.5	15.0	11.0	3.1	2.4	4.7	1.6	0.8
50歳代	183	67.2	27.3	20.2	33.9	13.7	16.4	23.0	9.3	6.6	5.5	1.6	6.6	2.2	0.5
60歳代	167	74.3	32.9	18.6	21.6	25.7	16.8	17.4	10.8	4.2	4.2	1.8	4.2	2.4	2.4
70～74歳	72	86.1	36.1	16.7	13.9	37.5	23.6	19.4	6.9	5.6	5.6	4.2	6.9	2.8	-
75歳以上	105	91.4	53.3	24.8	6.7	52.4	14.3	15.2	-	1.9	11.4	5.7	1.0	1.0	1.0
女性18～29歳	53	66.0	3.8	28.3	34.0	-	5.7	5.7	11.3	3.8	-	1.9	9.4	5.7	-
30歳代	117	66.7	28.2	35.0	32.5	3.4	14.5	7.7	12.8	11.1	-	9.4	11.1	0.9	0.9
40歳代	201	66.7	28.9	24.4	35.3	8.5	15.4	10.9	16.9	16.9	3.5	4.0	9.5	1.0	0.5
50歳代	238	78.2	23.5	24.8	25.2	17.6	24.4	8.8	7.1	10.5	2.5	1.3	4.2	1.7	1.3
60歳代	175	85.1	39.4	28.6	24.0	24.6	17.1	9.1	11.4	7.4	4.0	4.0	1.7	0.6	1.7
70～74歳	72	90.3	63.9	37.5	12.5	38.9	22.2	20.8	4.2	5.6	11.1	4.2	2.8	-	-
75歳以上	121	92.6	58.7	31.4	6.6	59.5	16.5	14.9	10.7	6.6	6.6	3.3	0.8	-	0.8

3 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの【問21】

【全体の状況】

犯罪や交通事故がなく、より安心してくらすために重要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「防犯カメラなどの防犯設備の整備」が74.5%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が34.0%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの（複数回答）



図表7-3-2 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	防犯カメラなどの防犯設備の整備	地域住民同士のつながり	制服警察官、パトカーによる警戒・検問活動	交通指導取締りの強化や交通違反などの厳罰化	信号機、道路標識などの交通安全施設の整備	防犯、交通安全などの規範意識を高める教育	県民や企業と行政が一体となって行う防犯・交通安全活動	運転に不安を覚える方への安全運転相談	ボランティアなどによる防犯・交通安全活動	その他	特にない	無回答
全体	1,905	74.5	34.0	31.4	22.0	21.4	19.9	14.6	8.0	5.5	3.2	1.0	7.8
【地域別】													
横浜	736	76.5	35.2	31.4	22.6	21.3	20.8	15.6	7.3	5.6	2.6	0.7	5.8
川崎	324	72.8	30.9	29.6	23.8	22.2	21.9	13.9	5.6	6.2	4.3	0.3	9.3
相模原	133	72.9	30.1	38.3	24.8	20.3	17.3	12.8	9.0	4.5	3.0	1.5	6.0
横須賀三浦	127	73.2	33.1	32.3	19.7	19.7	15.0	15.7	12.6	3.9	2.4	1.6	10.2
県央	213	74.2	28.6	38.0	18.8	23.0	19.2	16.4	6.6	6.1	3.8	1.4	7.0
湘南	275	72.7	39.3	26.5	19.6	20.7	21.8	10.5	11.3	5.8	2.9	1.8	10.2
県西	73	76.7	41.1	27.4	26.0	23.3	13.7	16.4	9.6	4.1	5.5	-	9.6
【性・年代別】													
男性	827	75.3	32.0	32.5	22.0	21.9	18.6	14.5	7.9	6.0	4.1	1.3	6.5
女性	1,018	74.3	36.0	30.9	22.1	21.3	21.1	14.2	8.3	5.2	2.6	0.7	8.3
男性18～29歳	45	77.8	24.4	24.4	26.7	37.8	11.1	17.8	20.0	4.4	4.4	-	-
30歳代	91	75.8	17.6	42.9	29.7	27.5	16.5	12.1	9.9	7.7	5.5	2.2	1.1
40歳代	127	78.0	20.5	38.6	17.3	22.0	31.5	11.8	13.4	11.0	6.3	-	4.7
50歳代	183	80.3	37.7	37.7	18.0	25.1	18.6	17.5	4.9	2.7	3.3	0.5	1.6
60歳代	167	75.4	33.5	26.9	24.0	14.4	18.6	16.8	9.6	3.6	5.4	2.4	10.8
70～74歳	72	81.9	43.1	27.8	25.0	18.1	12.5	11.1	-	5.6	1.4	1.4	8.3
75歳以上	105	64.8	42.9	23.8	23.8	20.0	13.3	12.4	3.8	8.6	2.9	1.9	10.5
女性18～29歳	53	64.2	18.9	45.3	34.0	32.1	17.0	17.0	18.9	5.7	5.7	-	1.9
30歳代	117	75.2	28.2	41.9	30.8	18.8	23.9	19.7	9.4	7.7	-	-	6.8
40歳代	201	69.2	35.3	34.3	22.4	25.4	25.9	13.9	10.4	6.5	2.0	1.0	7.0
50歳代	238	74.4	30.3	30.7	18.5	17.2	25.2	13.9	10.1	4.6	5.0	0.8	8.4
60歳代	175	79.4	34.9	28.6	17.7	24.6	21.1	8.6	5.1	2.9	3.4	1.1	10.3
70～74歳	72	77.8	48.6	19.4	20.8	18.1	15.3	22.2	4.2	4.2	1.4	-	9.7
75歳以上	121	82.6	54.5	26.4	23.1	18.2	10.7	11.6	4.1	5.8	-	-	6.6

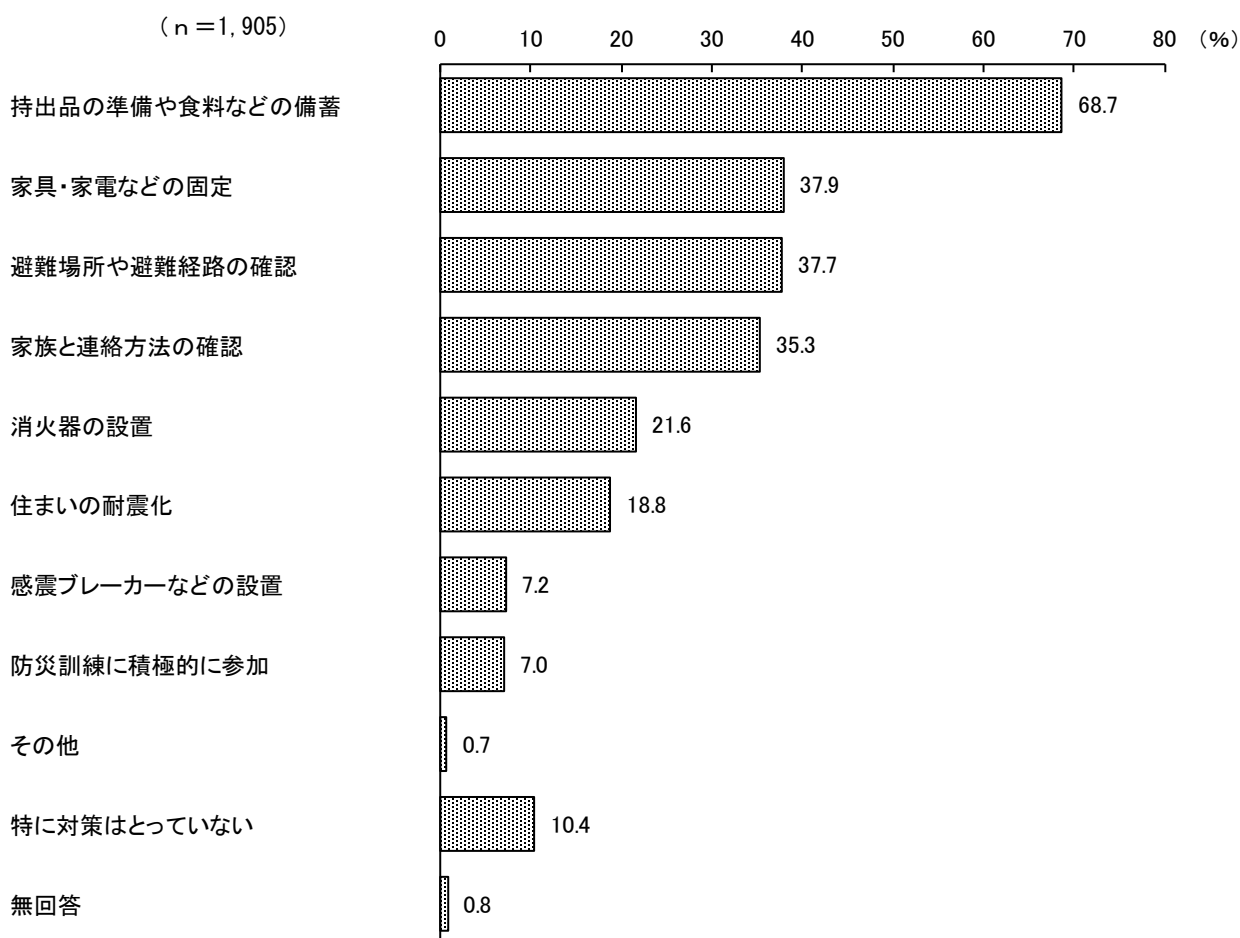
第8章 地震対策の取組み【問22】

1 大きな地震に備えた対策【問22】

【全体の状況】

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることも補足した上で、家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「持出品の準備や食料などの備蓄」が68.7%で最も多く、次いで「家具・家電などの固定」が37.9%であった。（図表8-1-1）

図表8-1-1 大きな地震に備えた対策（複数回答）



図表8-1-2 大きな地震に備えた対策（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	持出品の準備や食料などの備蓄	家具・家電などの固定	避難場所や避難経路の確認	家族と連絡方法の確認	消火器の設置	住まいの耐震化	感震ブレイカーなどの設置	防災訓練に積極的に参加	その他	特に対策はとっていない	無回答
全 体	1,905	68.7	37.9	37.7	35.3	21.6	18.8	7.2	7.0	0.7	10.4	0.8
【地 域 別】												
横 浜	736	68.2	36.7	35.3	34.1	21.9	18.6	9.1	5.8	0.8	10.1	1.0
川 崎	324	67.9	36.7	38.0	35.8	21.0	21.9	5.2	7.1	0.3	13.6	0.3
相 模 原	133	68.4	36.8	41.4	32.3	14.3	18.0	3.8	7.5	-	11.3	0.8
横 須 賀 三 浦	127	63.0	34.6	44.9	40.2	25.2	15.7	7.9	8.7	0.8	6.3	-
県 央	213	69.5	45.1	41.3	37.1	23.9	16.4	6.1	10.3	0.9	8.9	-
湘 南	275	72.0	38.2	37.8	35.6	21.5	18.9	5.1	5.5	1.1	10.2	1.5
県 西	73	76.7	41.1	34.2	35.6	23.3	19.2	15.1	13.7	-	11.0	-
【性・年代別】												
男 性	827	63.4	37.1	34.3	34.2	20.9	17.4	7.5	7.7	0.6	13.9	0.7
女 性	1,018	73.2	38.7	40.7	36.3	21.8	19.9	7.0	6.7	0.8	7.8	0.7
男性18～29歳	45	55.6	31.1	33.3	28.9	6.7	15.6	-	-	-	22.2	2.2
30歳代	91	70.3	19.8	27.5	33.0	13.2	15.4	3.3	-	1.1	15.4	-
40歳代	127	63.8	29.9	37.8	33.9	12.6	18.1	5.5	5.5	1.6	17.3	-
50歳代	183	59.0	36.6	33.3	35.5	19.1	18.0	5.5	8.2	0.5	17.5	0.5
60歳代	167	62.3	39.5	32.9	34.1	24.0	17.4	11.4	9.0	-	11.4	1.2
70～74歳	72	70.8	50.0	38.9	36.1	30.6	22.2	9.7	12.5	-	5.6	1.4
75歳以上	105	63.8	50.5	32.4	32.4	29.5	14.3	10.5	11.4	-	8.6	1.0
女性18～29歳	53	71.7	34.0	35.8	34.0	5.7	18.9	1.9	1.9	-	15.1	-
30歳代	117	80.3	35.0	43.6	28.2	9.4	26.5	1.7	6.8	0.9	6.8	-
40歳代	201	74.1	34.3	47.8	42.3	12.4	20.9	5.0	5.0	0.5	6.0	1.0
50歳代	238	73.9	37.4	38.7	36.1	21.0	16.4	5.5	6.7	1.3	5.5	0.4
60歳代	175	71.4	44.0	35.4	38.3	26.3	20.0	6.9	5.1	0.6	10.9	-
70～74歳	72	75.0	44.4	38.9	31.9	33.3	20.8	18.1	8.3	1.4	9.7	-
75歳以上	121	66.9	43.8	43.0	38.0	40.5	19.0	13.2	10.7	0.8	6.6	2.5

第9章 自転車ヘルメットの着用【問23～問23-1】

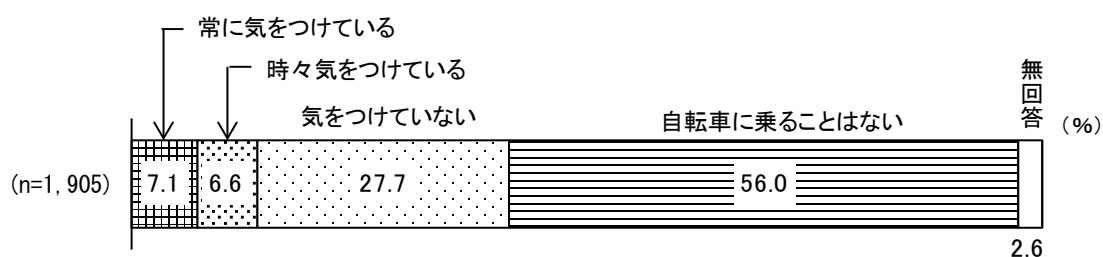
1 自転車ヘルメットの着用に関する意識【問23】

【全体の状況】

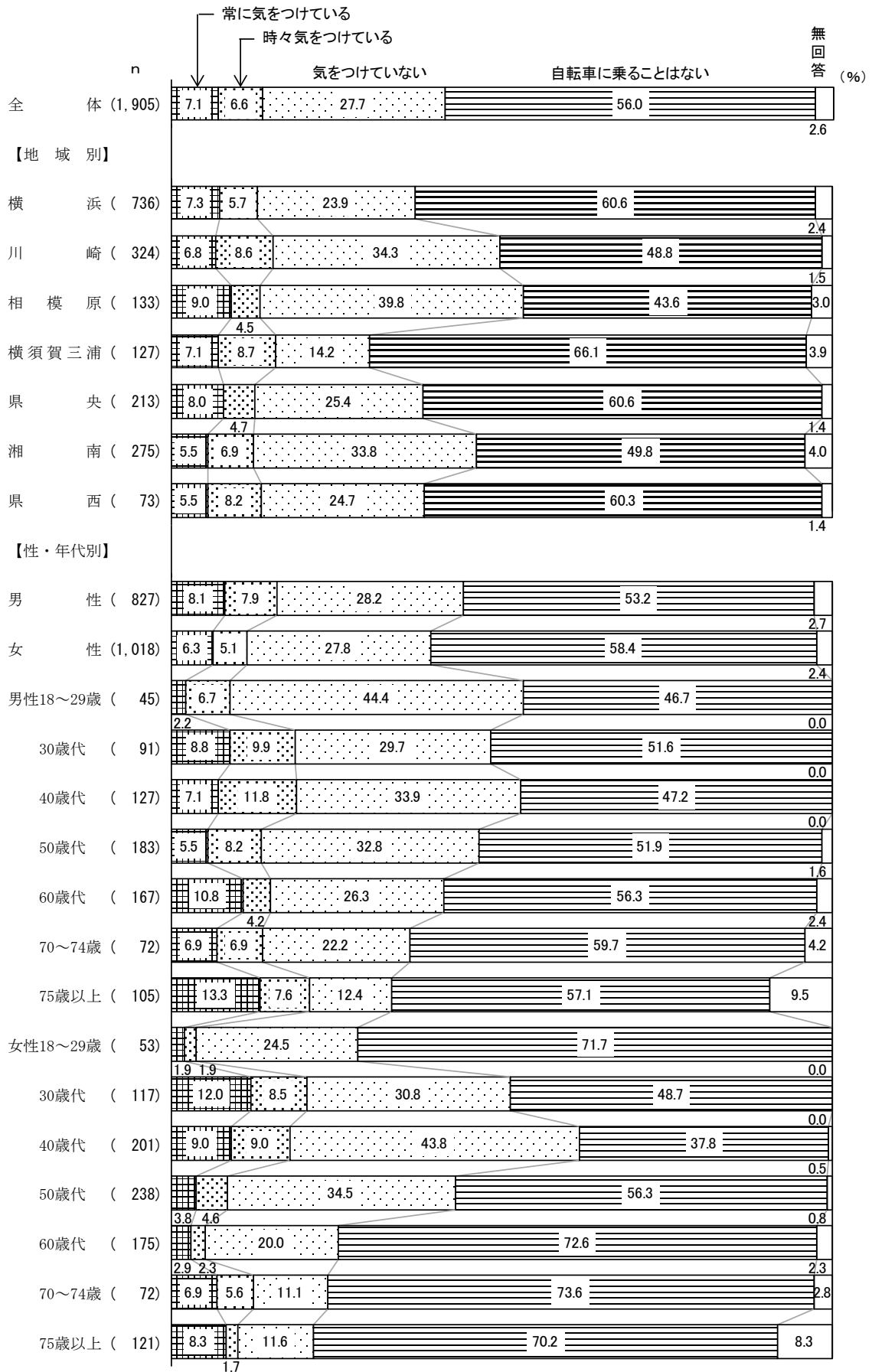
自転車に乗るときは、ヘルメットを着用するよう気をつけているか尋ねたところ、「常に気をつけている」が7.1%、「時々気をつけている」が6.6%であった。

一方、「気をつけていない」が27.7%であった。(図表9-1-1)

図表9-1-1 自転車ヘルメットの着用に関する意識



図表9-1-2 自転車ヘルメットの着用に関する意識—地域別、性・年代別

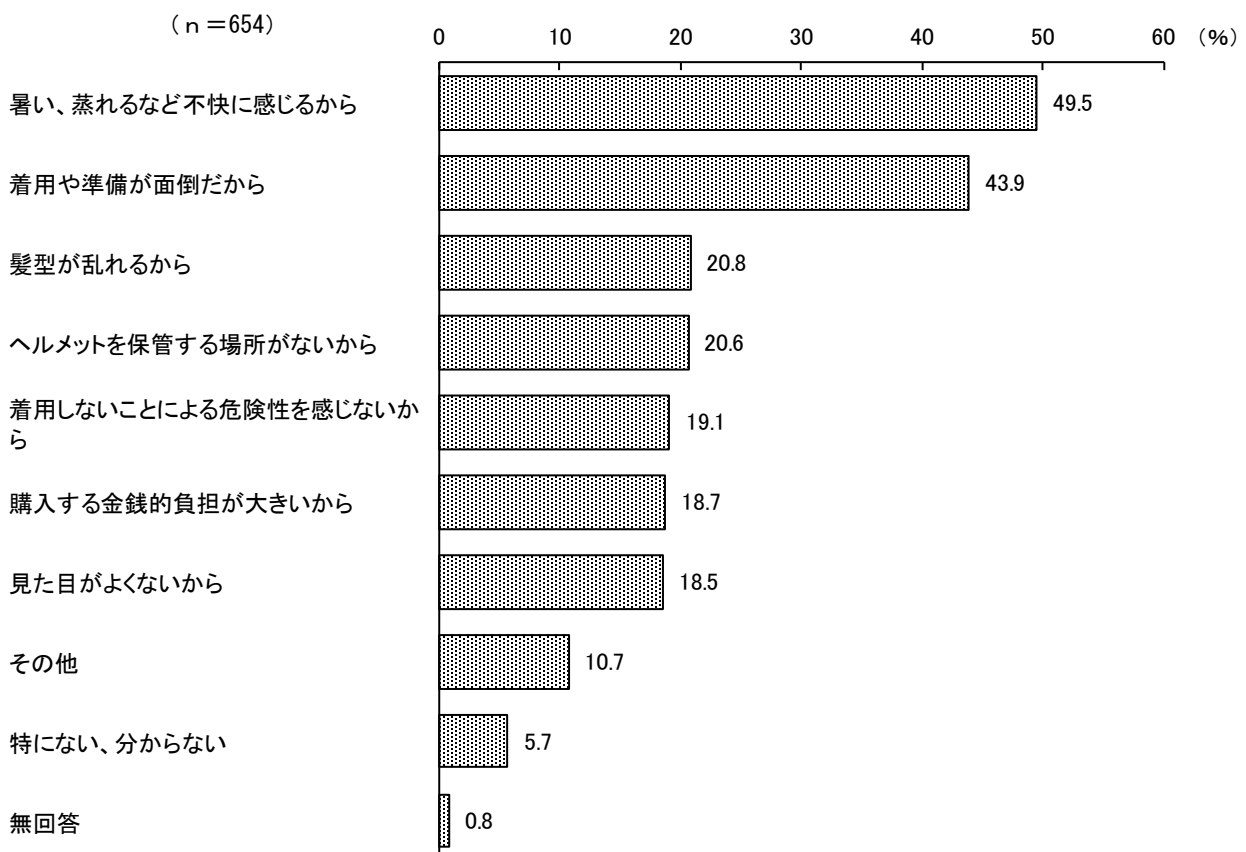


2 ヘルメットを着用するよう常に気をつけていない理由【問23-1】

【全体の状況】

自転車ヘルメットの着用に関する意識（問23）で、「時々気をつけている」または「気をつけていない」と回答した654人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「暑い、蒸れるなど不快に感じるから」が49.5%で最も多く、次いで「着用や準備が面倒だから」が43.9%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 ヘルメットを着用するよう常に気をつけていない理由（複数回答）



図表9-2-2 ヘルメットを着用するよう常に気をつけていない理由（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	暑い、蒸れるなど不快に感じるから	着用や準備が面倒だから	髪型が乱れるから	ヘルメットを保管する場所がないから	着用しないことによる危険性を感じないから	購入する金銭的負担が大きいから	見た目がよくないから	その他	特にない、分からない	無回答
全 体	654	49.5	43.9	20.8	20.6	19.1	18.7	18.5	10.7	5.7	0.8
【地 域 別】											
横 浜	218	49.1	45.0	20.6	21.1	16.5	17.9	20.6	10.1	6.0	0.9
川 崎	139	48.9	49.6	23.0	22.3	18.7	19.4	16.5	8.6	5.8	0.7
相 模 原	59	59.3	40.7	25.4	22.0	28.8	11.9	22.0	10.2	3.4	-
横須賀三浦	29	37.9	34.5	6.9	31.0	20.7	10.3	6.9	10.3	6.9	3.4
県 央	64	43.8	46.9	20.3	18.8	20.3	18.8	20.3	14.1	4.7	-
湘 南	112	50.9	42.9	18.8	17.0	17.0	25.9	14.3	8.0	8.0	-
県 西	24	50.0	16.7	29.2	12.5	29.2	20.8	29.2	29.2	-	-
【性・年代別】											
男 性	298	46.0	47.3	17.1	20.1	26.8	14.8	14.4	9.7	6.4	0.3
女 性	335	52.5	41.2	23.9	20.6	12.5	22.4	21.5	10.7	5.1	0.9
男性18～29歳	23	69.6	60.9	30.4	34.8	26.1	26.1	21.7	8.7	4.3	-
30歳代	36	52.8	52.8	25.0	33.3	27.8	16.7	22.2	5.6	5.6	2.8
40歳代	58	51.7	46.6	20.7	17.2	19.0	13.8	19.0	8.6	6.9	-
50歳代	75	36.0	48.0	13.3	21.3	25.3	14.7	6.7	6.7	5.3	-
60歳代	51	43.1	54.9	11.8	13.7	35.3	9.8	15.7	9.8	3.9	-
70～74歳	21	33.3	28.6	-	9.5	38.1	19.0	9.5	19.0	9.5	-
75歳以上	21	47.6	42.9	14.3	9.5	28.6	9.5	9.5	14.3	9.5	-
女性18～29歳	14	42.9	50.0	42.9	28.6	21.4	42.9	28.6	7.1	7.1	-
30歳代	46	58.7	54.3	37.0	17.4	10.9	21.7	30.4	-	8.7	-
40歳代	106	50.9	39.6	29.2	23.6	9.4	22.6	27.4	14.2	3.8	-
50歳代	93	48.4	34.4	19.4	19.4	12.9	19.4	14.0	16.1	6.5	1.1
60歳代	39	64.1	46.2	17.9	20.5	17.9	25.6	23.1	7.7	-	-
70～74歳	12	33.3	41.7	-	16.7	16.7	16.7	8.3	-	16.7	-
75歳以上	16	62.5	31.3	6.3	6.3	6.3	18.8	12.5	6.3	-	12.5

第10章 スポーツ【問24～問27】

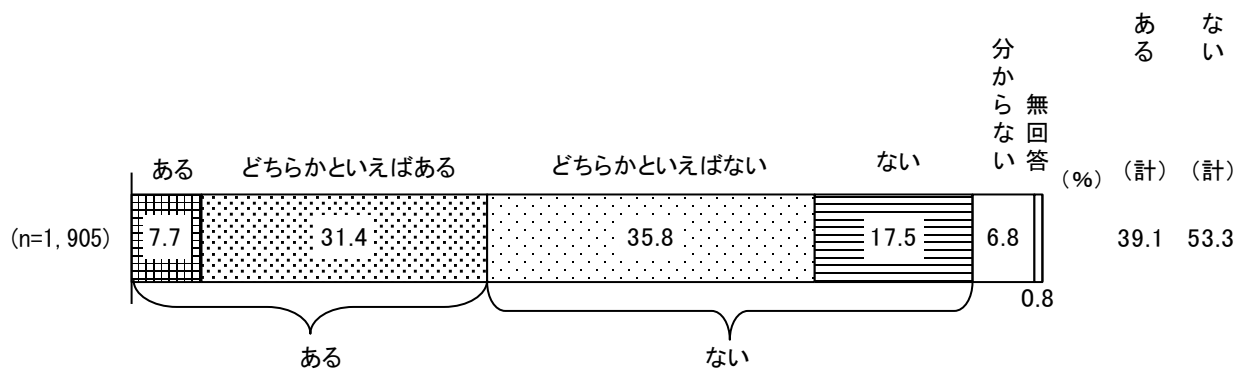
1 体力への自信の有無【問24】

【全体の状況】

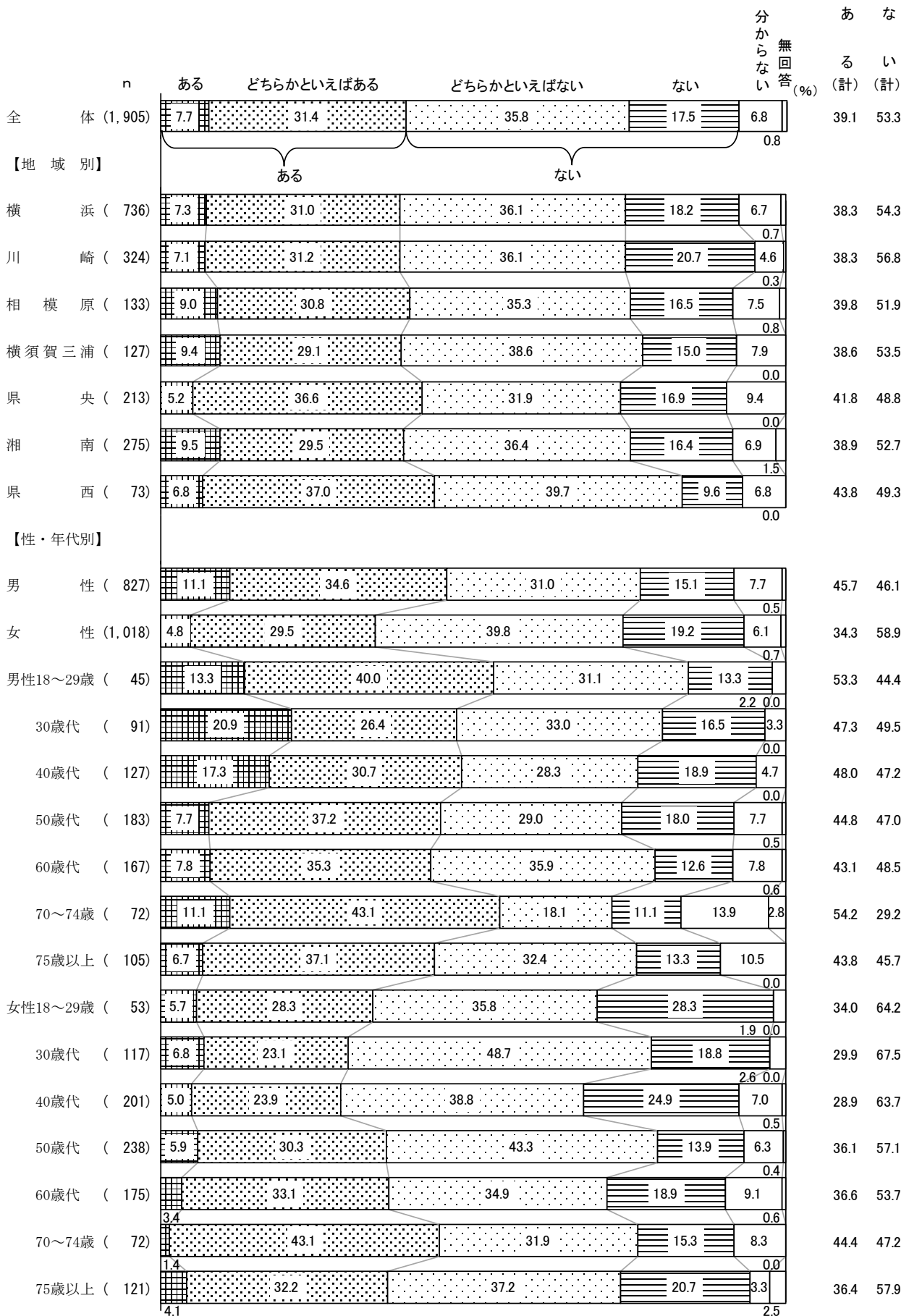
体力に自信があるか尋ねたところ、「ある」(7.7%)と「どちらかといえばある」(31.4%)を合わせた《ある》は39.1%であった。

一方、「ない」(17.5%)と「どちらかといえばない」(35.8%)を合わせた《ない》は53.3%であった。(図表10-1-1)

図表10-1-1 体力への自信の有無



図表10-1-2 体力への自信の有無—地域別、性・年代別

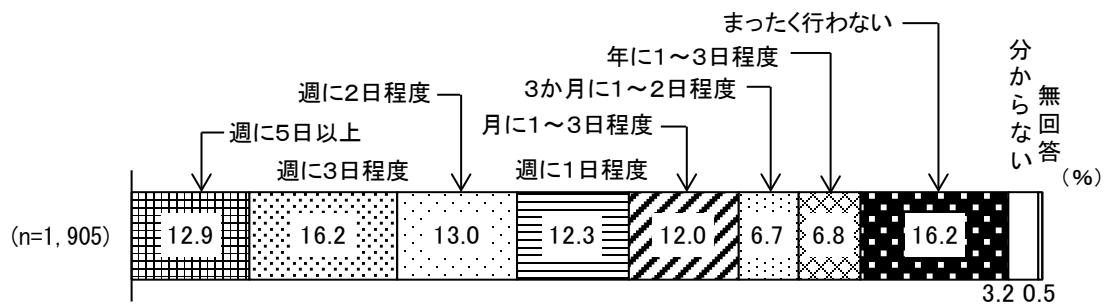


2 1年間のスポーツ実施日数【問25】

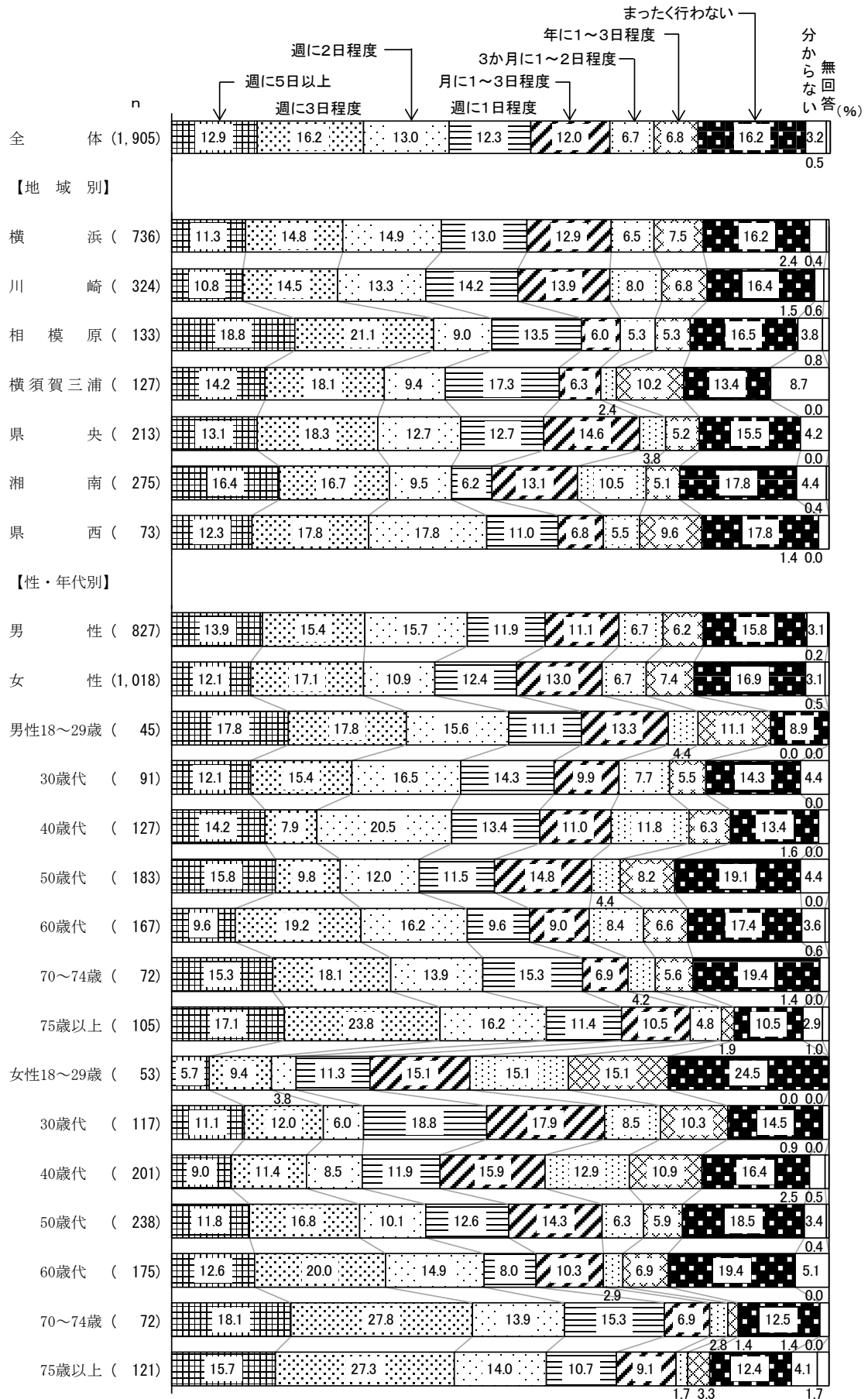
【全体の状況】

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度」と「まったく行わない」がともに16.2%で最も多く、次いで「週に2日程度」が13.0%であった。(図表10-2-1)

図表10-2-1 1年間のスポーツ実施日数



図表10-2-2 1年間のスポーツ実施日数—地域別、性・年代別

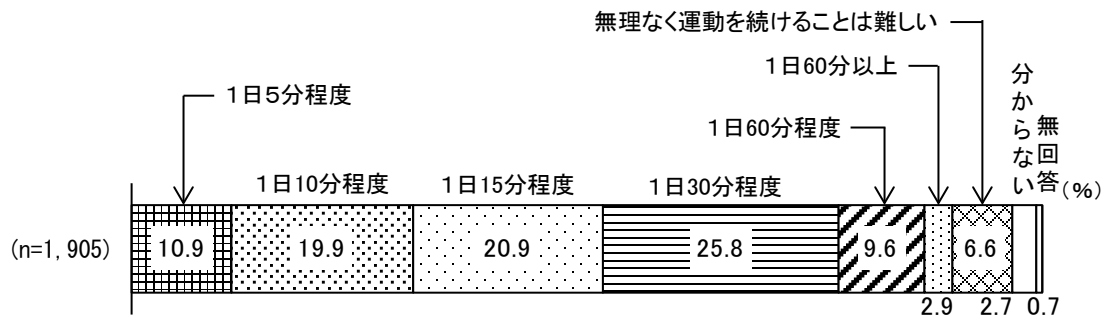


3 習慣として続けられる運動の時間【問26】

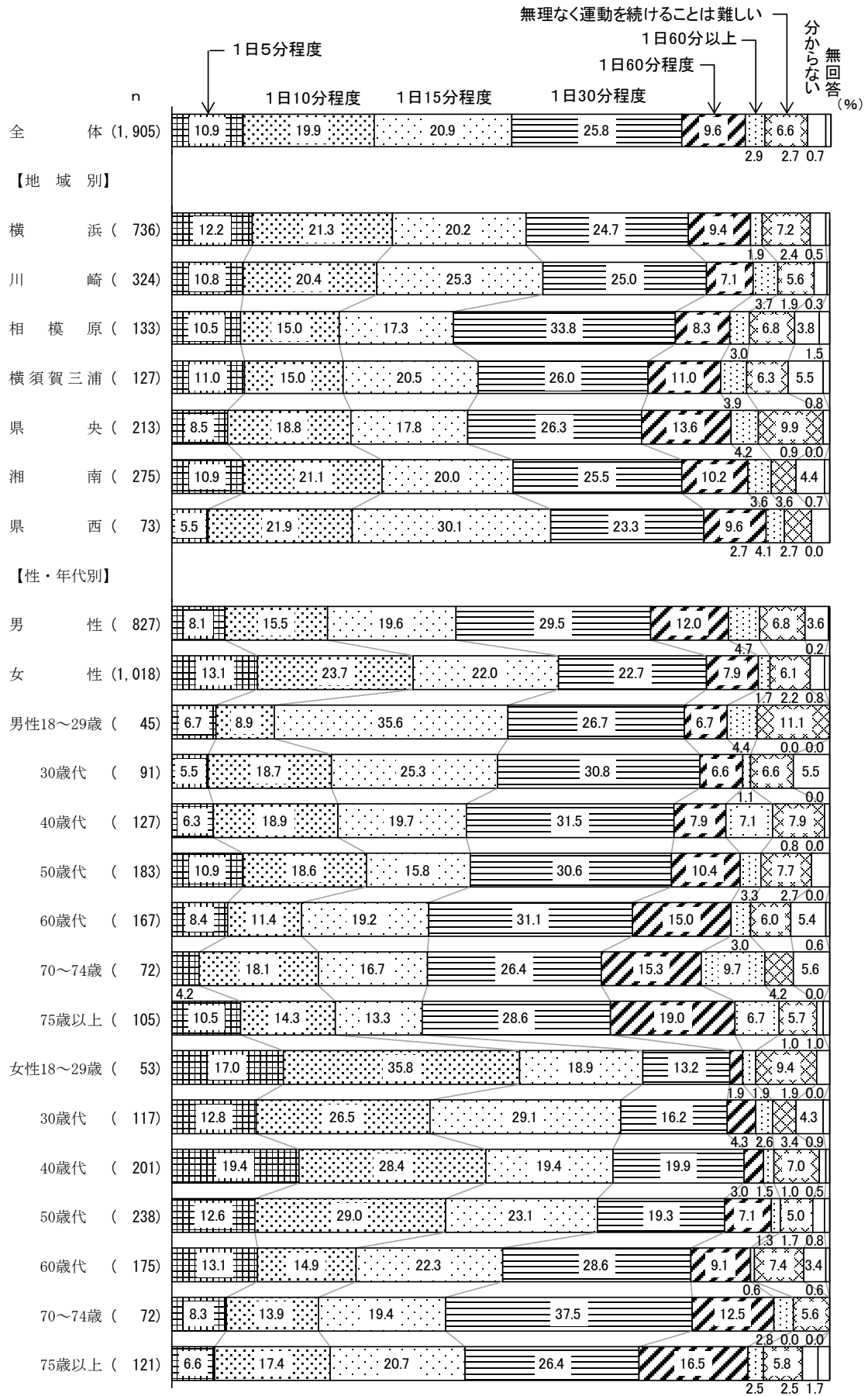
【全体の状況】

日常の中で無理なく習慣として続けられる運動の時間はどのくらいだと思うか尋ねたところ、「1日30分程度」が25.8%で最も多く、次いで「1日15分程度」が20.9%であった。(図表10-3-1)

図表10-3-1 習慣として続けられる運動の時間



図表10-3-2 習慣として続けられる運動の時間—地域別、性・年代別



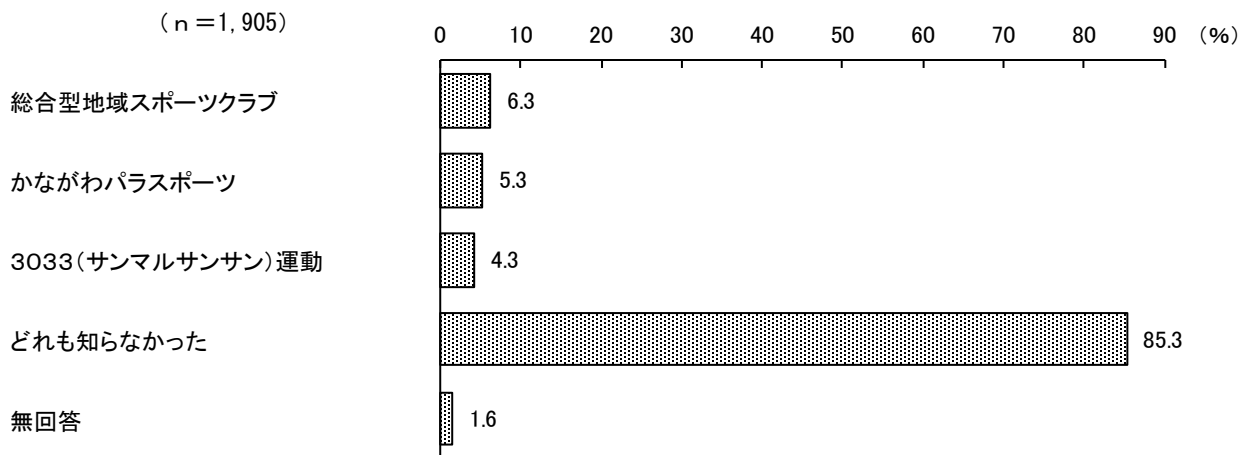
4 スポーツ推進に係る取組みの認知度【問27】

【全体の状況】

スポーツ推進に係る取組みについて、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「総合型地域スポーツクラブ」が6.3%で最も多く、次いで「かながわパラスポーツ」が5.3%であった。

一方、「どれも知らなかった」が85.3%であった。(図表10-4-1)

図表10-4-1 スポーツ推進に係る取組みの認知度（複数回答）



図表10-4-2 スポーツ推進に係る取組みの認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	総合型地域スポーツクラブ	かながわパラスポーツ	動 3033 (サンマルサンサン) 運	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,905	6.3	5.3	4.3	85.3	1.6
【地 域 別】						
横 浜	736	5.7	5.2	2.7	87.5	1.5
川 崎	324	7.4	2.2	2.8	87.7	1.5
相 模 原	133	5.3	5.3	6.0	86.5	0.8
横 須 賀 三 浦	127	6.3	3.9	3.9	83.5	3.1
県 央	213	6.6	7.5	8.0	79.3	1.4
湘 南	275	6.5	6.9	6.5	83.3	0.7
県 西	73	8.2	9.6	5.5	82.2	1.4
【性・年代別】						
男 性	827	5.8	3.6	4.0	88.4	0.7
女 性	1,018	6.9	6.4	4.6	83.3	1.8
男性 18～29歳	45	4.4	6.7	-	91.1	-
30 歳 代	91	9.9	1.1	1.1	87.9	-
40 歳 代	127	2.4	3.9	1.6	92.1	-
50 歳 代	183	6.6	3.3	2.7	91.3	-
60 歳 代	167	6.0	5.4	6.6	85.0	1.2
70～74歳	72	8.3	1.4	4.2	87.5	-
75歳以上	105	3.8	4.8	7.6	85.7	2.9
女性 18～29歳	53	3.8	1.9	5.7	88.7	-
30 歳 代	117	4.3	7.7	7.7	83.8	0.9
40 歳 代	201	5.0	8.0	4.0	85.6	0.5
50 歳 代	238	5.0	5.9	2.5	87.4	0.8
60 歳 代	175	8.0	6.3	4.6	82.9	1.1
70～74歳	72	6.9	5.6	-	86.1	1.4
75歳以上	121	14.9	6.6	7.4	71.9	5.8

第11章 ともに生きる社会かながわ【問28～問34】

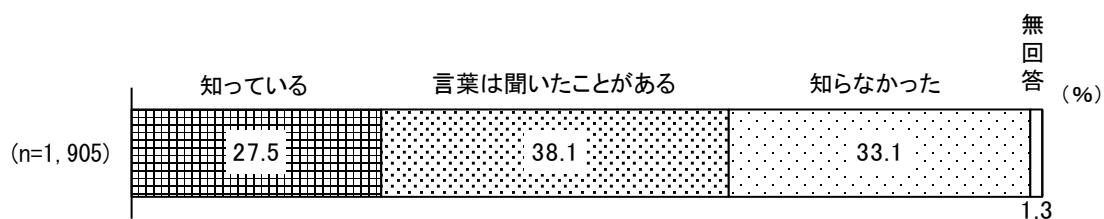
1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度【問28】

【全体の状況】

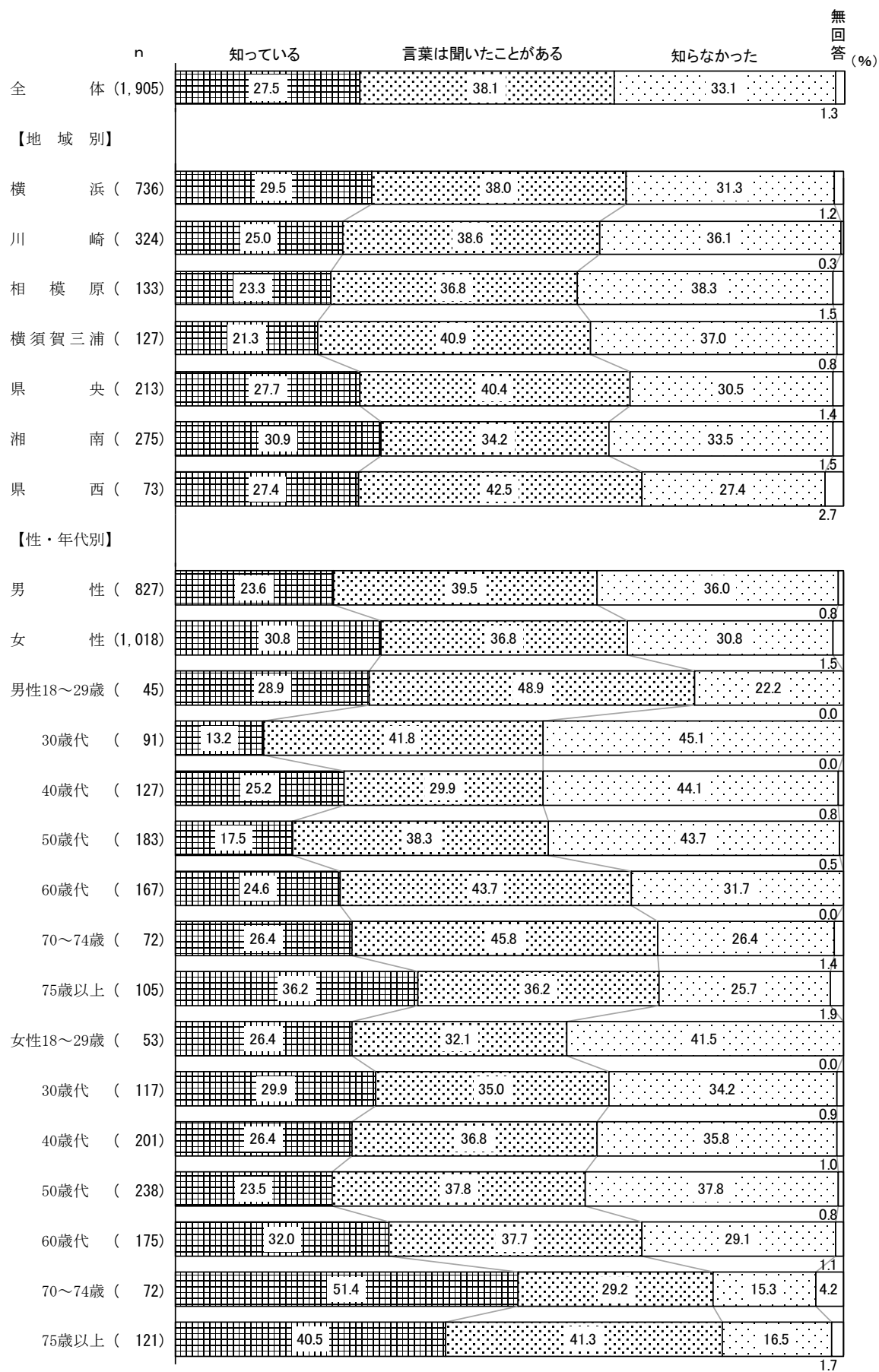
共生社会（ともに生きる社会）という考え方を知っているか尋ねたところ、「知っている」が27.5%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が38.1%であった。

一方、「知らなかった」が33.1%であった。（図表11-1-1）

図表11-1-1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度



図表11-1-2 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度—地域別、性・年代別



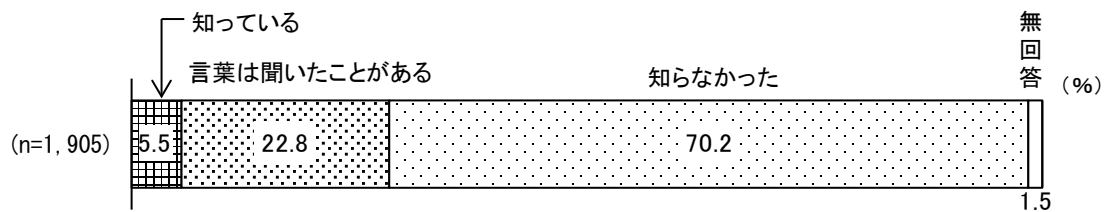
2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度【問29】

【全体の状況】

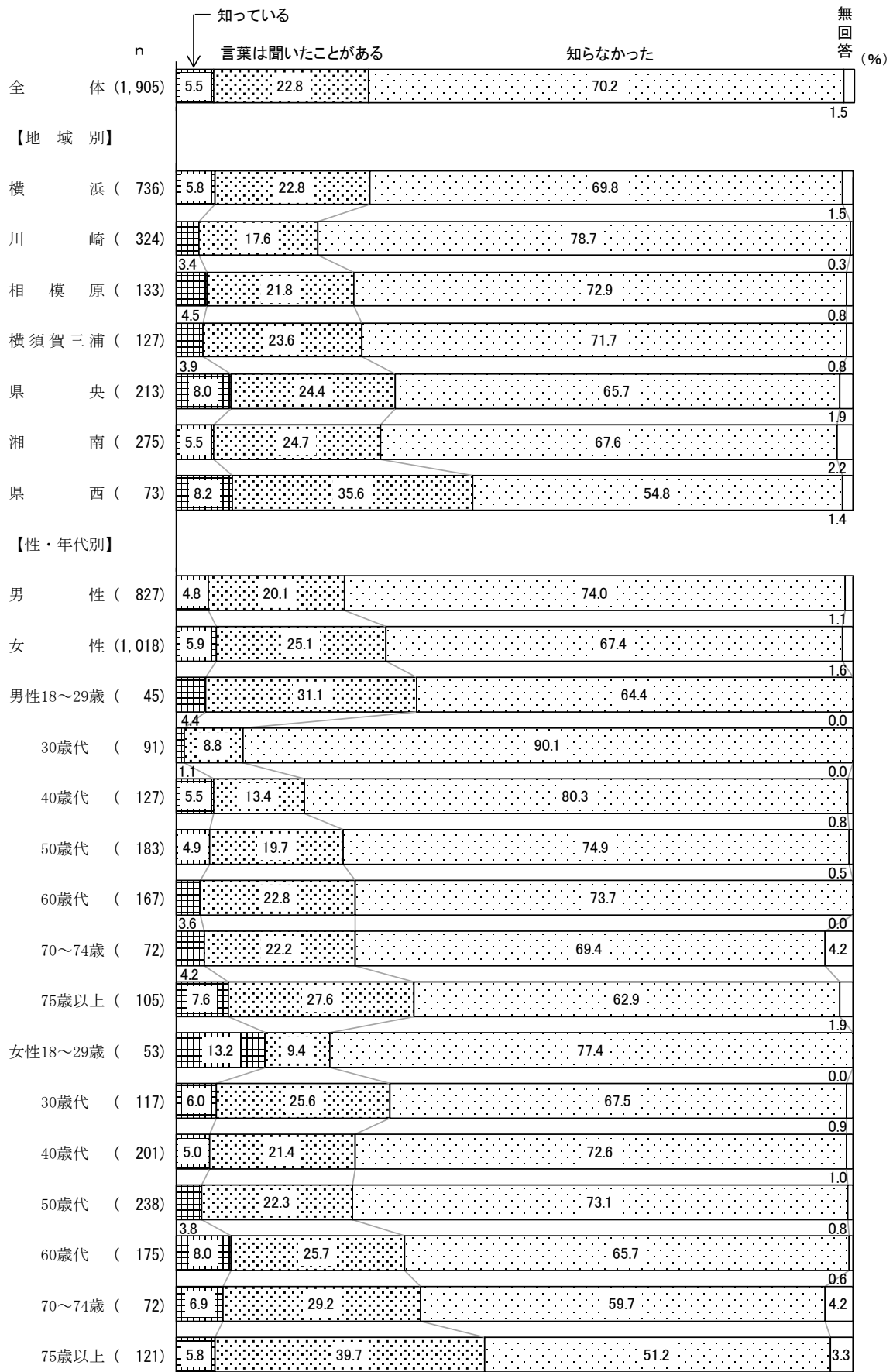
「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が5.5%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が22.8%であった。

一方、「知らなかった」が70.2%であった。(図表11-2-1)

図表11-2-1 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度



図表11-2-2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度—地域別、性・年代別



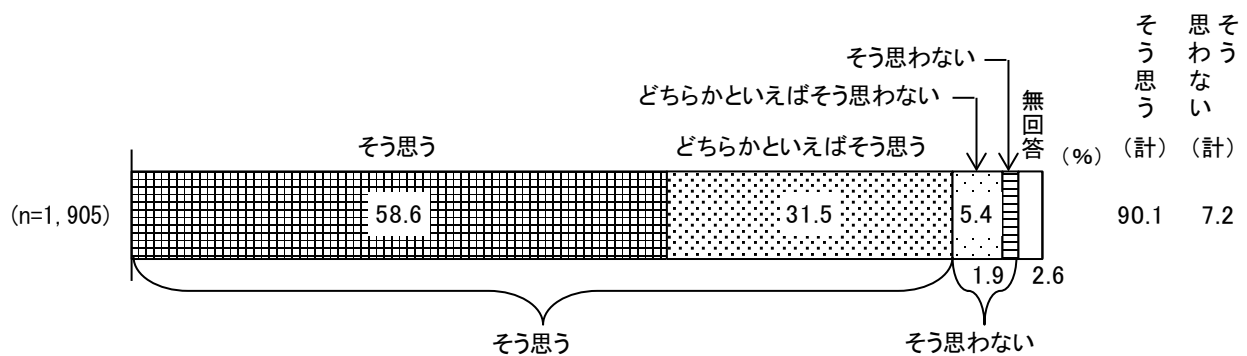
3 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方【問30】

【全体の状況】

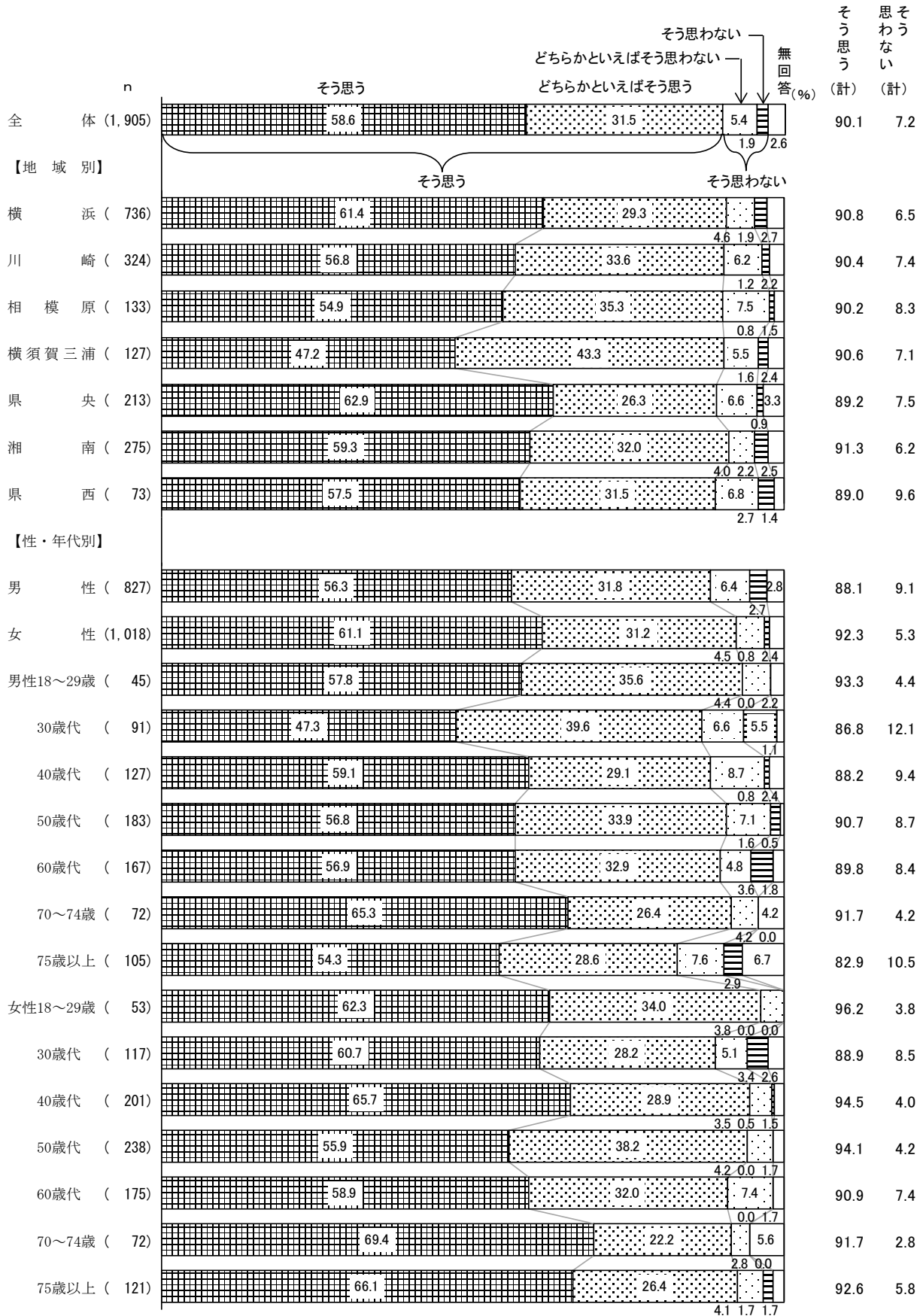
障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方についてどう思うか尋ねたところ、「そう思う」(58.6%)と「どちらかといえばそう思う」(31.5%)を合わせた《そう思う》は90.1%であった。

一方、「そう思わない」(1.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(5.4%)を合わせた《そう思わない》は7.2%であった。(図表 11-3-1)

図表11-3-1 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方



図表11-3-2 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方
—地域別、性・年代別



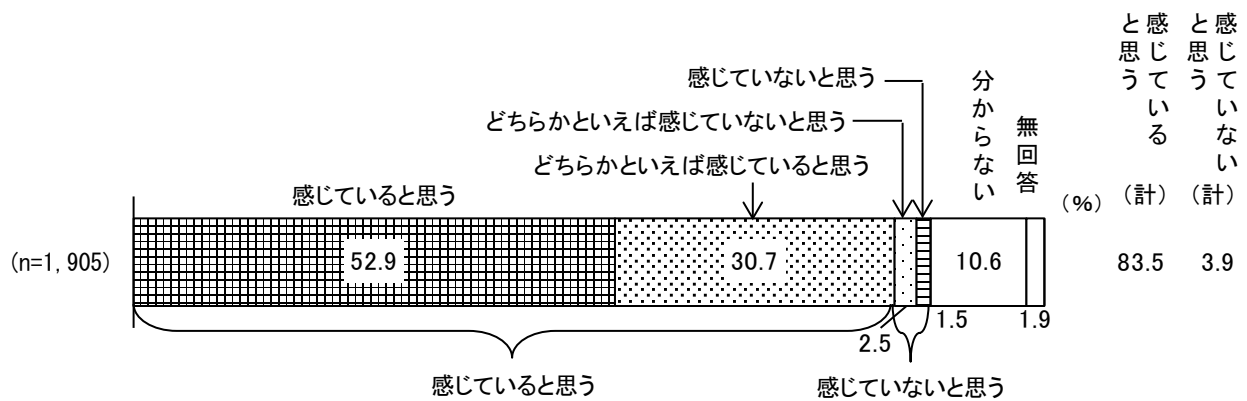
4 障がいのある人は日ごろの生活の中で困りごとや不自由さを感じていると思うか【問31】

【全体の状況】

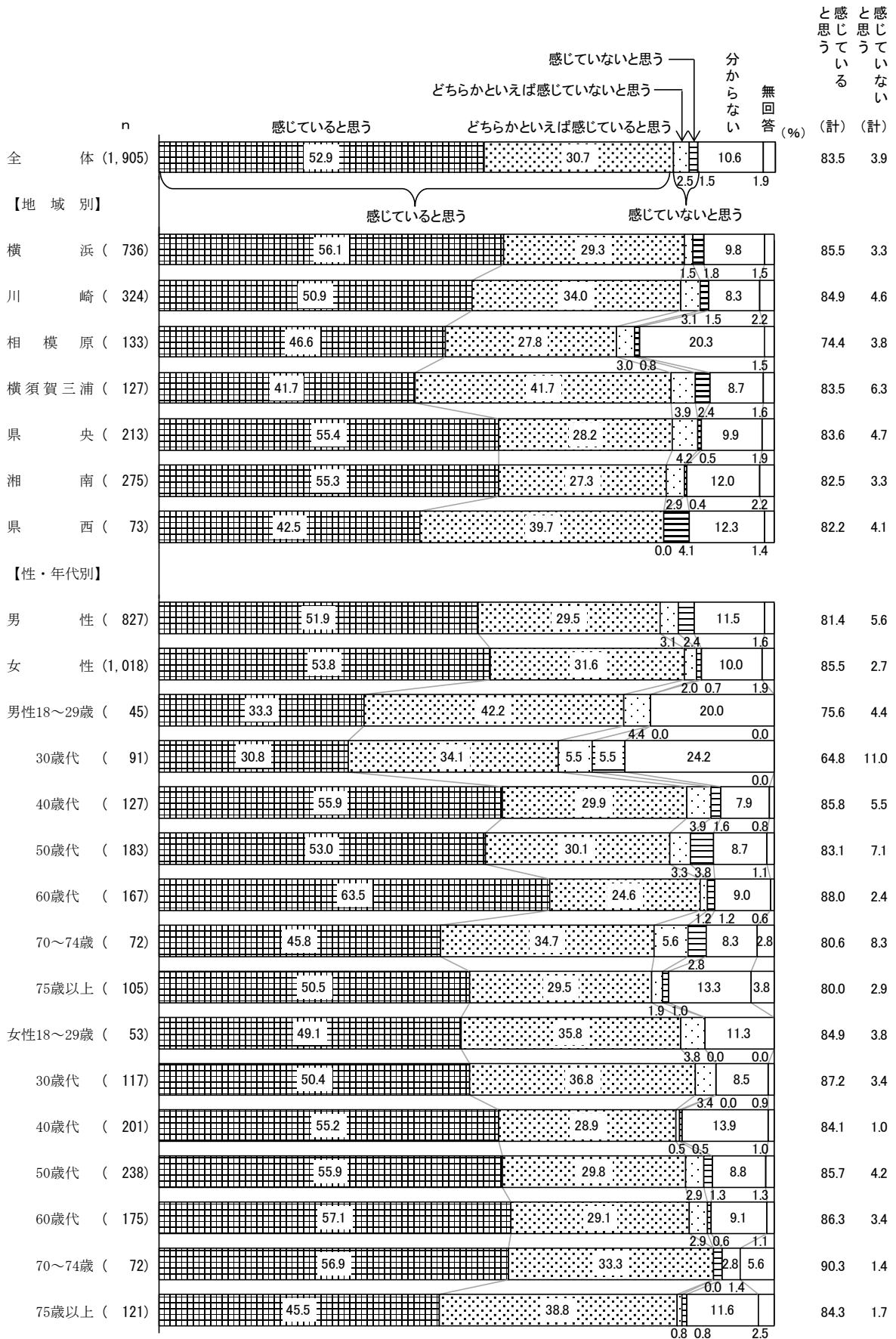
障がいのある人は、日ごろの生活の中で、困りごとや不自由さを感じていると思うか尋ねたところ、「感じていると思う」(52.9%)と「どちらかといえば感じていると思う」(30.7%)を合わせた《感じていると思う》は83.5%であった。

一方、「感じていないと思う」(1.5%)と「どちらかといえば感じていないと思う」(2.5%)を合わせた《感じていないと思う》は3.9%であった。(図表 11-4-1)

図表11-4-1 障がいのある人は日ごろの生活の中で困りごとや不自由さを感じていると思うか



図表11-4-2 障がいのある人は日ごろの生活の中で困りごとや不自由さを感じていると思うか
—地域別、性・年代別



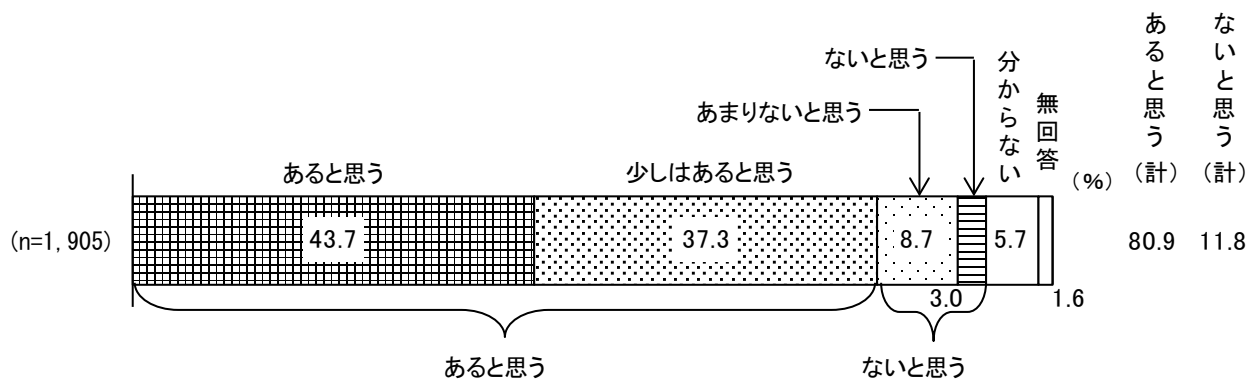
5 障がい者への差別・偏見の有無【問32】

【全体の状況】

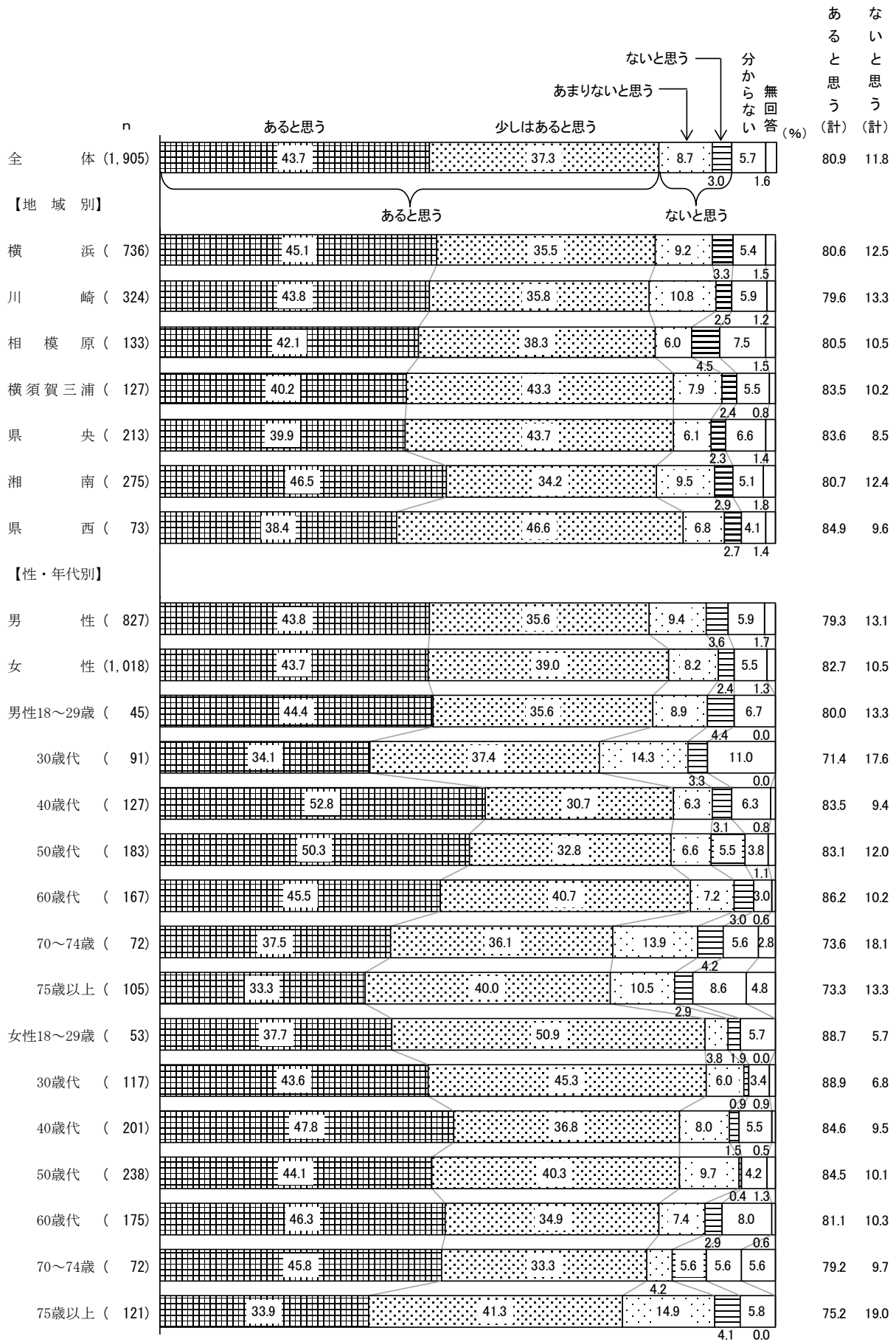
障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(43.7%)と「少しはあると思う」(37.3%)を合わせた《あると思う》は80.9%であった。

一方、「ないと思う」(3.0%)と「あまりないと思う」(8.7%)を合わせた《ないと思う》は11.8%であった。(図表11-5-1)

図表11-5-1 障がい者への差別・偏見の有無



図表11-5-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別



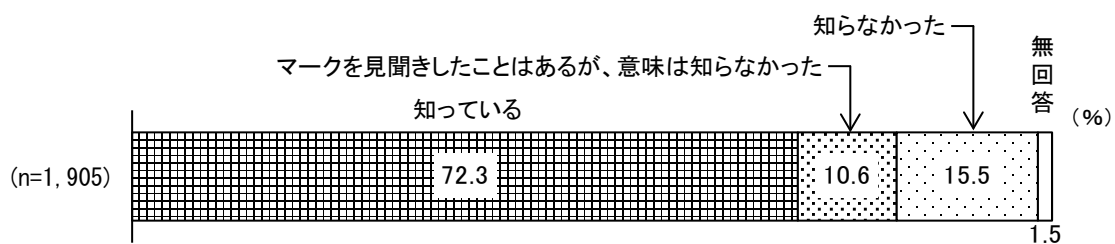
6 「ヘルプマーク」の認知度【問33】

【全体の状況】

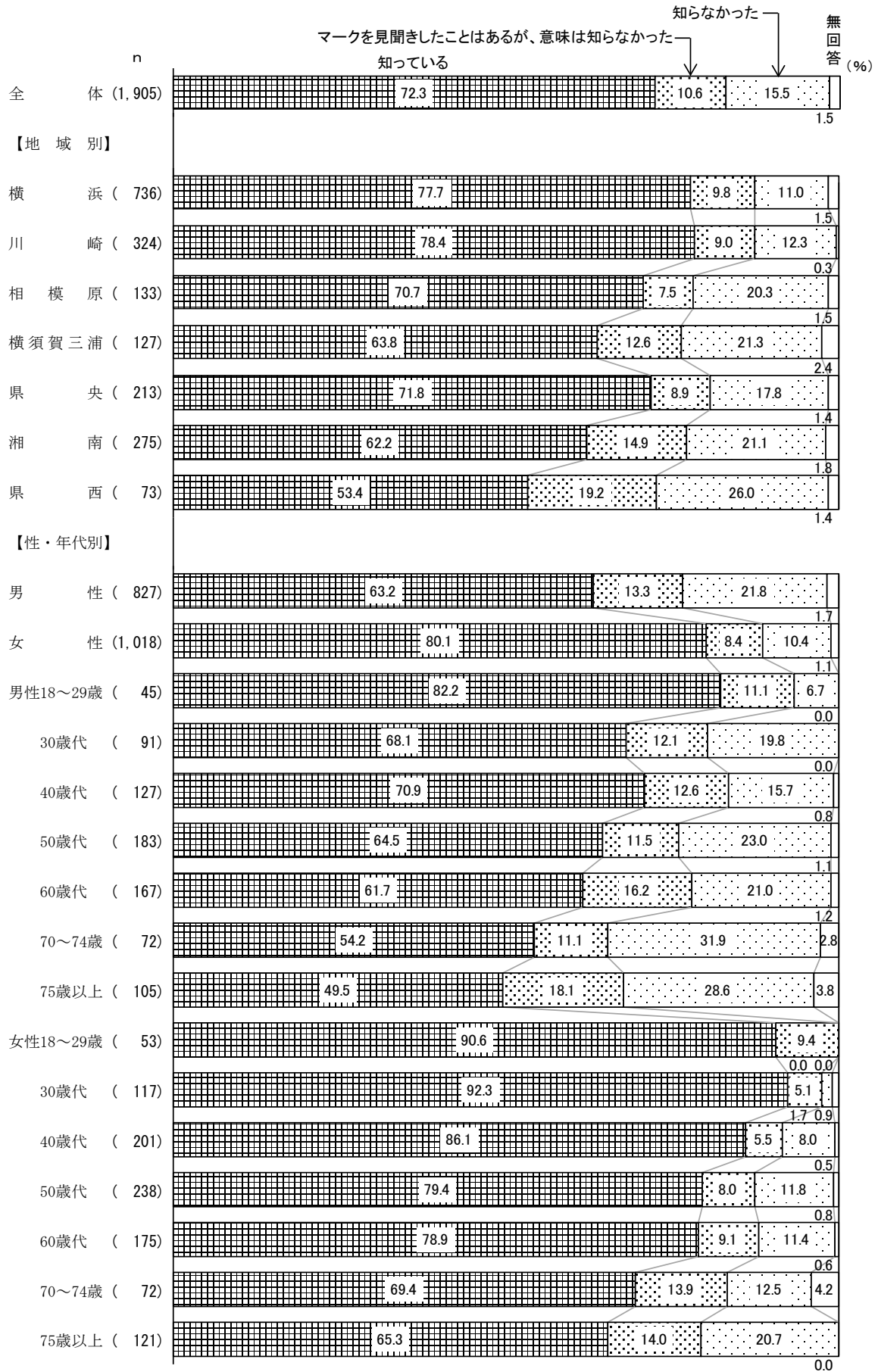
「ヘルプマーク」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が72.3%であった。また、「マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった」が10.6%であった。

一方、「知らなかった」が15.5%であった。(図表 11-6-1)

図表11-6-1 「ヘルプマーク」の認知度



図表11-6-2 「ヘルプマーク」の認知度—地域別、性・年代別

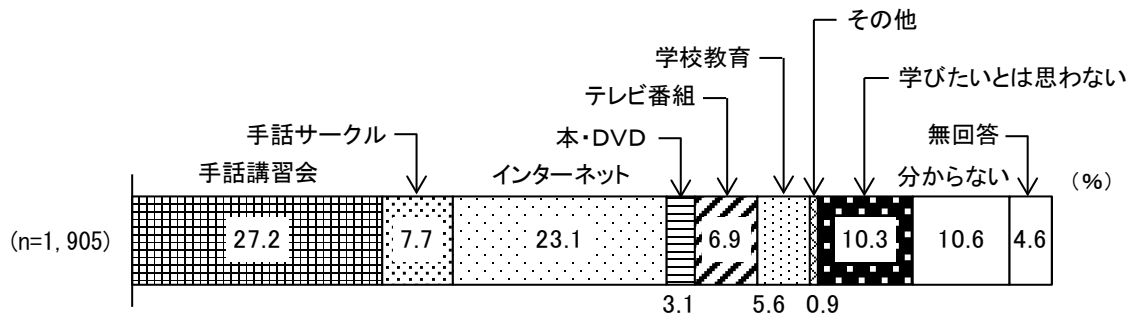


7 希望する手話の学習方法【問34】

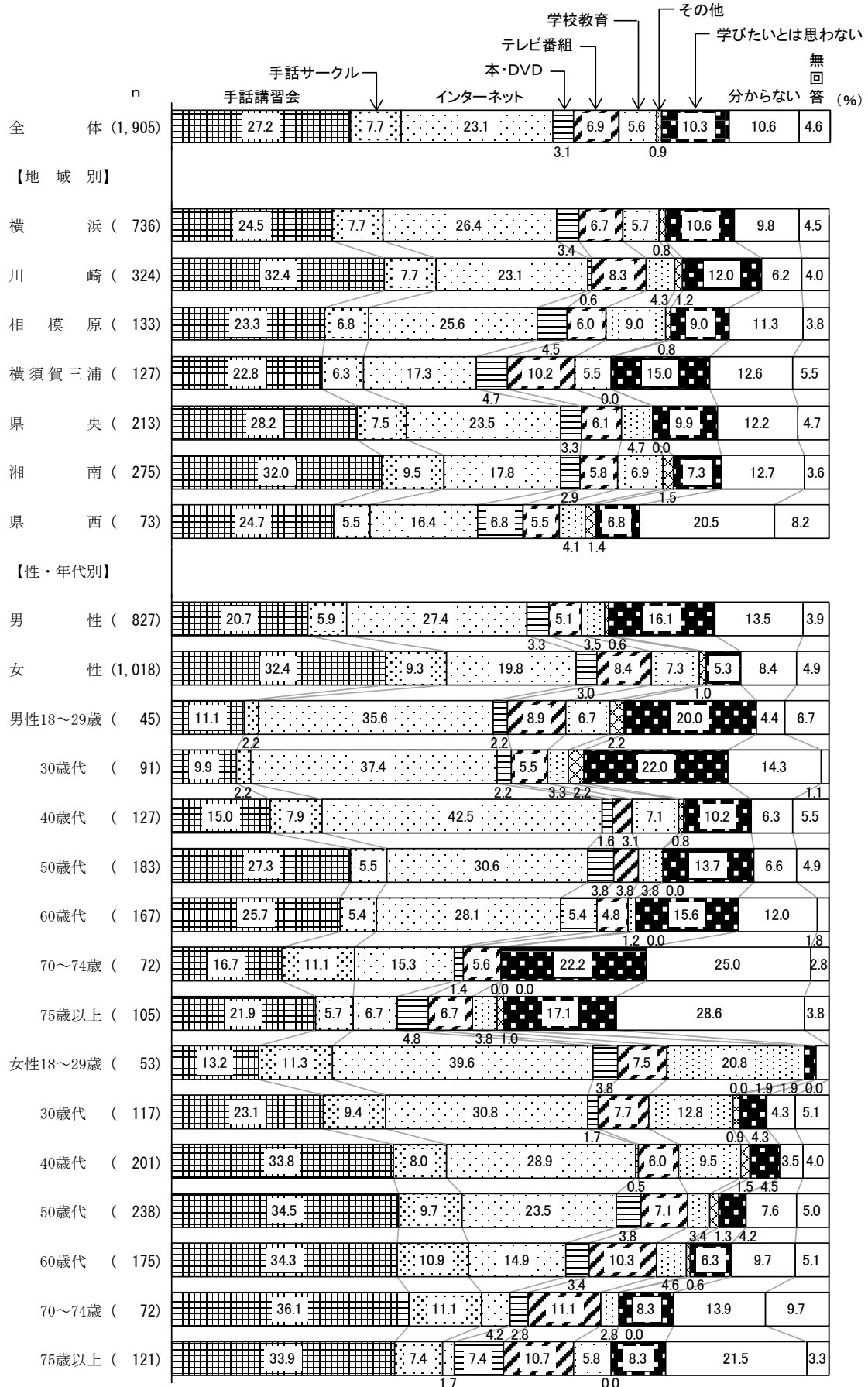
【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が27.2%で最も多く、次いで「インターネット」が23.1%であった。（図表 11-7-1）

図表11-7-1 希望する手話の学習方法



図表11-7-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別



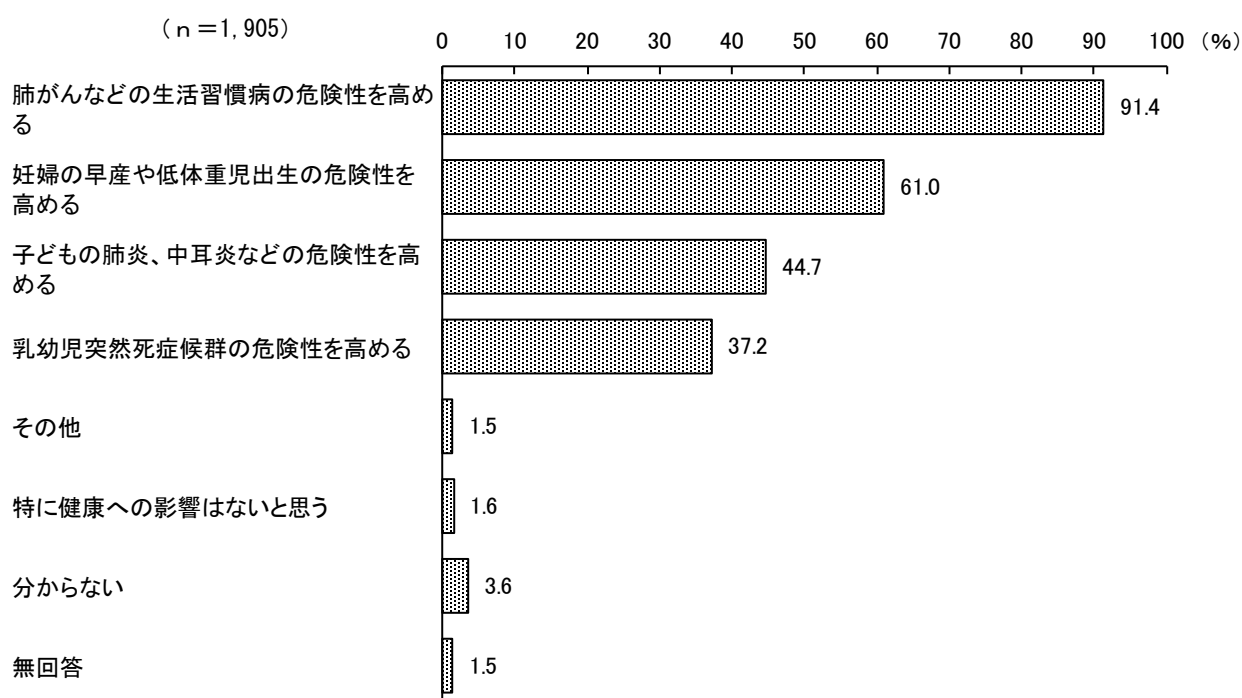
第12章 受動喫煙【問35～問37】

1 受動喫煙による健康への影響【問35】

【全体の状況】

受動喫煙により、どのような健康への影響があると思うか複数回答で尋ねたところ、「肺がんなどの生活習慣病の危険性を高める」が91.4%で最も多く、次いで「妊婦の早産や低体重児出生の危険性を高める」が61.0%であった。(図表12-1-1)

図表12-1-1 受動喫煙による健康への影響（複数回答）



図表12-1-2 受動喫煙による健康への影響（複数回答）－地域別、性・年代別

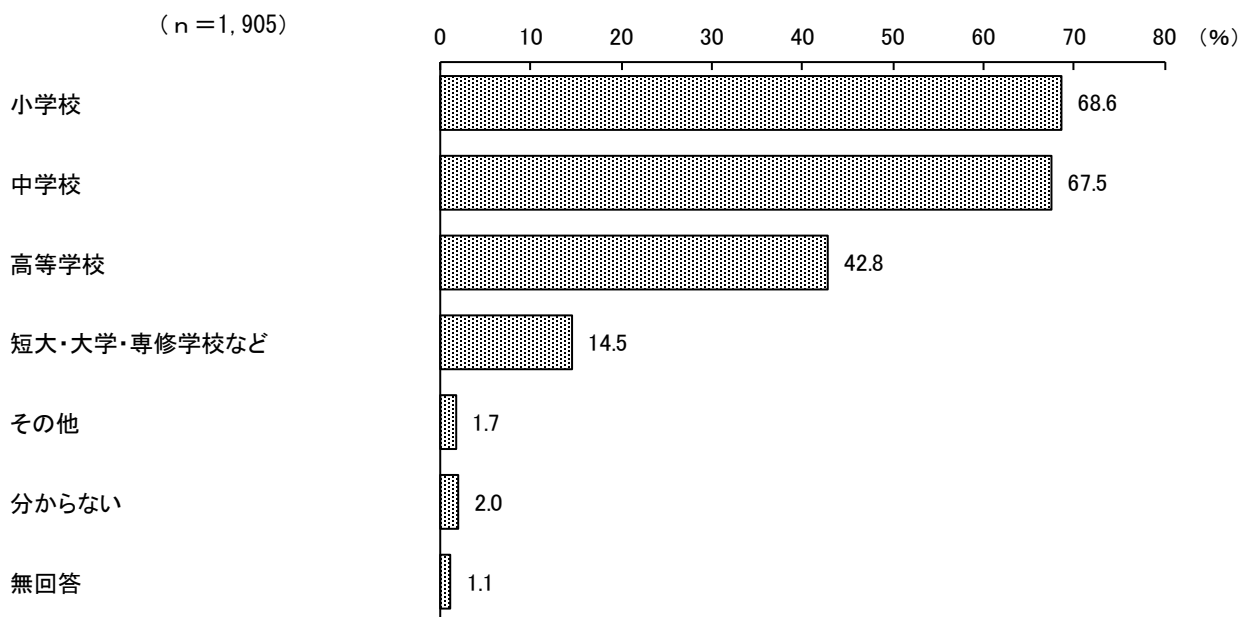
		(%)							
	n	肺がんなどの生活習慣病の危険性を高める	妊婦の早産や低体重児出生の危険性を高める	子どもの肺炎、中耳炎などの危険性を高める	乳幼児突然死症候群の危険性を高める	その他	特に健康への影響はないと思う	分からない	無回答
全体	1,905	91.4	61.0	44.7	37.2	1.5	1.6	3.6	1.5
【地域別】									
横浜	736	92.4	61.4	48.9	40.8	1.6	1.8	3.3	0.7
川崎	324	93.8	64.5	42.3	37.7	1.2	1.2	3.4	0.3
相模原	133	87.2	59.4	40.6	30.8	0.8	1.5	8.3	-
横須賀三浦	127	92.1	62.2	44.1	35.4	0.8	0.8	3.1	1.6
県央	213	94.8	58.7	45.5	33.8	1.4	0.9	3.8	-
湘南	275	90.9	62.2	41.8	35.6	1.8	2.2	2.9	0.4
県西	73	93.2	61.6	39.7	39.7	2.7	1.4	2.7	-
【性・年代別】									
男性	827	88.9	50.2	45.0	30.8	1.8	2.8	5.8	0.5
女性	1,018	95.2	70.4	44.8	42.6	1.3	0.4	2.0	0.5
男性18～29歳	45	93.3	48.9	57.8	37.8	-	4.4	-	-
30歳代	91	93.4	62.6	56.0	44.0	1.1	1.1	2.2	-
40歳代	127	91.3	59.8	58.3	39.4	2.4	2.4	5.5	-
50歳代	183	83.6	44.3	33.3	23.5	1.6	3.8	8.7	0.5
60歳代	167	88.0	54.5	44.3	31.7	-	2.4	7.2	-
70～74歳	72	93.1	36.1	37.5	20.8	5.6	4.2	2.8	-
75歳以上	105	89.5	41.9	41.9	23.8	1.0	2.9	4.8	1.9
女性18～29歳	53	100.0	81.1	50.9	41.5	-	-	-	-
30歳代	117	95.7	82.9	62.4	60.7	1.7	-	0.9	-
40歳代	201	96.0	76.1	52.2	55.7	1.5	-	3.0	-
50歳代	238	95.0	64.7	35.3	38.7	1.3	0.4	2.1	0.4
60歳代	175	93.7	70.9	44.6	34.3	2.3	1.1	1.7	0.6
70～74歳	72	94.4	66.7	40.3	33.3	-	-	1.4	-
75歳以上	121	92.6	59.5	33.9	31.4	0.8	0.8	3.3	2.5

2 たばこの健康被害や受動喫煙防止に関して教わる時期【問36】

【全体の状況】

たばこの健康被害や受動喫煙防止に関して、学校などで教わる時期はいつがよいと思うか複数回答で尋ねたところ、「小学校」が68.6%で最も多く、次いで「中学校」が67.5%であった。(図表12-2-1)

図表12-2-1 たばこの健康被害や受動喫煙防止に関して教わる時期（複数回答）



図表12-2-2 たばこの健康被害や受動喫煙防止に関して教わる時期（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

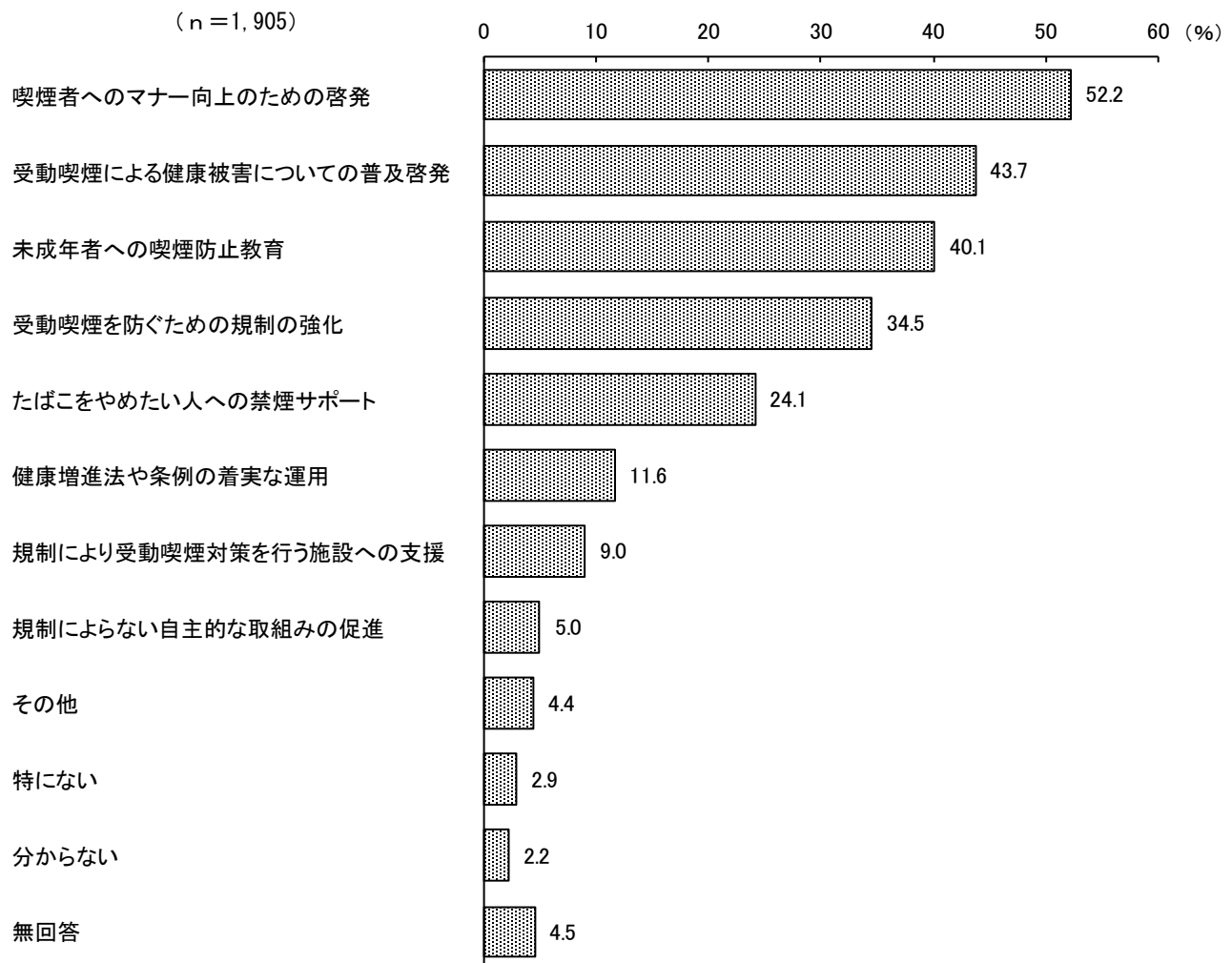
	n	小学校	中学校	高等学校	短大・大学・専修学校など	その他	分からない	無回答
全 体	1,905	68.6	67.5	42.8	14.5	1.7	2.0	1.1
【地 域 別】								
横 浜	736	71.1	69.4	45.2	15.4	2.0	1.9	0.1
川 崎	324	70.7	72.5	48.1	17.0	1.2	1.9	-
相 模 原	133	67.7	66.9	46.6	12.0	-	3.8	-
横 須 賀 三 浦	127	59.1	70.1	42.5	15.7	3.1	3.9	0.8
県 央	213	72.3	64.8	41.3	14.1	1.4	1.9	-
湘 南	275	67.3	63.3	36.7	13.1	1.1	1.5	-
県 西	73	65.8	63.0	28.8	6.8	4.1	1.4	-
【性・年代別】								
男 性	827	67.1	69.3	44.6	12.6	1.9	2.7	-
女 性	1,018	71.0	67.5	42.1	16.2	1.5	1.6	0.2
男性18～29歳	45	62.2	77.8	64.4	31.1	4.4	2.2	-
30歳代	91	74.7	75.8	52.7	17.6	2.2	1.1	-
40歳代	127	78.0	72.4	44.9	15.0	3.9	0.8	-
50歳代	183	68.3	65.6	37.2	8.2	1.6	2.7	-
60歳代	167	68.9	69.5	47.3	10.2	-	2.4	-
70～74歳	72	58.3	66.7	36.1	9.7	-	2.8	-
75歳以上	105	54.3	67.6	45.7	10.5	1.9	4.8	-
女性18～29歳	53	66.0	66.0	54.7	37.7	3.8	-	-
30歳代	117	81.2	71.8	55.6	24.8	-	0.9	-
40歳代	201	74.6	73.1	49.3	16.4	2.0	0.5	-
50歳代	238	71.8	61.3	42.4	16.8	2.1	2.1	-
60歳代	175	70.3	63.4	32.0	12.0	0.6	2.9	0.6
70～74歳	72	69.4	66.7	33.3	11.1	1.4	1.4	-
75歳以上	121	61.2	69.4	36.4	9.1	1.7	1.7	0.8

3 受動喫煙を防ぐために、県に期待すること【問37】

【全体の状況】

受動喫煙を防ぐために、県にどのようなことを期待するか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「喫煙者へのマナー向上のための啓発」が52.2%で最も多く、次いで「受動喫煙による健康被害についての普及啓発」が43.7%であった。（図表12-3-1）

図表12-3-1 受動喫煙を防ぐために、県に期待すること（複数回答）



図表12-3-2 受動喫煙を防ぐために、県に期待すること（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	発 喫 煙 者 へ の マ ナー 向 上 の た め の 啓	受 動 喫 煙 に よ る 健 康 被 害 に つ い て の 普 及 啓 発	未 成 年 者 へ の 喫 煙 防 止 教 育	受 動 喫 煙 を 防 ぐ た め の 規 制 の 強 化	た ば こ を や め た い 人 へ の 禁 煙 サ ポ ー ト	健 康 増 進 法 や 条 例 の 着 実 な 運 用	規 制 に よ り 受 動 喫 煙 対 策 を 行 う 施 設 へ の 支 援	促 進 規 制 に よ ら な い 自 主 的 な 取 組 み の	そ の 他	特 に な い	分 か ら な い	無 回 答
全 体	1,905	52.2	43.7	40.1	34.5	24.1	11.6	9.0	5.0	4.4	2.9	2.2	4.5
【地 域 別】													
横 浜	736	50.0	43.5	39.3	36.8	25.1	13.3	9.6	5.4	5.4	2.7	1.8	2.9
川 崎	324	56.5	41.7	43.5	37.0	21.0	15.4	10.2	4.3	4.0	2.2	2.5	3.7
相 模 原	133	45.9	39.8	41.4	33.1	27.1	7.5	12.0	3.8	3.0	3.0	3.0	4.5
横 須 賀 三 浦	127	51.2	50.4	36.2	31.5	22.0	10.2	9.4	4.7	4.7	3.9	3.9	3.9
県 央	213	60.1	47.9	42.3	36.6	22.1	9.4	6.6	4.7	4.7	1.4	3.3	2.3
湘 南	275	53.8	45.1	40.7	29.1	25.8	9.1	8.4	5.8	2.9	4.4	1.5	5.1
県 西	73	54.8	42.5	39.7	28.8	32.9	6.8	4.1	6.8	2.7	5.5	1.4	5.5
【性・年代別】													
男 性	827	51.0	40.7	34.1	35.3	21.0	14.3	10.6	5.4	5.9	4.8	2.7	3.0
女 性	1,018	54.4	46.6	45.5	34.3	27.2	9.7	7.9	4.7	3.2	1.2	2.0	4.0
男性18～29歳	45	35.6	37.8	26.7	26.7	17.8	24.4	13.3	2.2	24.4	4.4	2.2	-
30歳代	91	47.3	28.6	37.4	40.7	26.4	22.0	14.3	2.2	7.7	6.6	1.1	3.3
40歳代	127	42.5	26.8	31.5	44.9	17.3	19.7	15.7	9.4	12.6	5.5	-	3.1
50歳代	183	52.5	36.6	30.1	38.3	27.9	14.2	10.4	6.0	2.7	5.5	1.6	1.1
60歳代	167	59.9	45.5	34.7	35.3	19.8	9.6	7.8	6.0	3.6	2.4	4.8	1.8
70～74歳	72	52.8	51.4	34.7	30.6	9.7	12.5	9.7	4.2	4.2	5.6	2.8	5.6
75歳以上	105	53.3	61.0	44.8	24.8	19.0	6.7	4.8	4.8	1.0	5.7	4.8	3.8
女性18～29歳	53	54.7	22.6	34.0	64.2	35.8	15.1	15.1	9.4	7.5	1.9	1.9	-
30歳代	117	41.9	40.2	47.9	52.1	30.8	23.9	10.3	1.7	4.3	0.9	0.9	2.6
40歳代	201	54.7	35.8	47.3	33.8	31.8	10.4	9.0	5.0	4.5	0.5	0.5	5.5
50歳代	238	65.1	42.0	34.9	31.5	27.7	6.7	9.7	3.8	4.2	0.8	3.8	2.1
60歳代	175	55.4	53.1	42.3	30.9	25.1	7.4	4.6	4.6	1.1	3.4	1.1	5.1
70～74歳	72	54.2	68.1	55.6	23.6	23.6	5.6	2.8	2.8	1.4	1.4	4.2	2.8
75歳以上	121	49.6	66.1	63.6	23.1	19.0	5.0	5.0	8.3	0.8	-	1.7	5.0

第13章 肝炎対策【問38～問39-1】

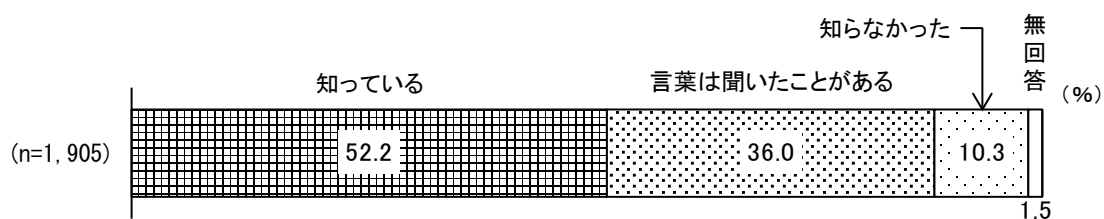
1 ウイルス性肝炎の認知度【問38】

【全体の状況】

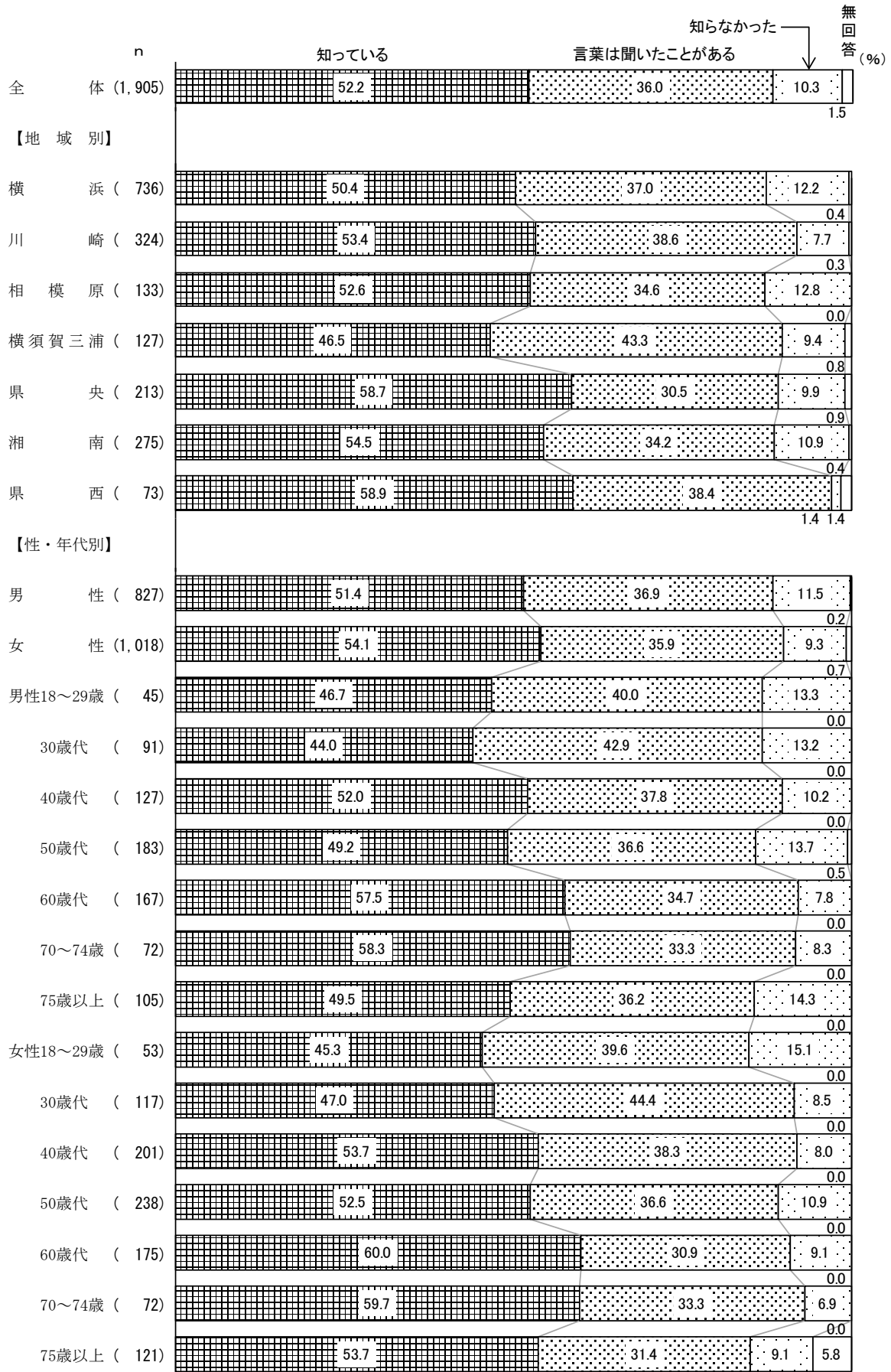
ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「知っている」が52.2%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が36.0%であった。

一方、「知らなかった」は、10.3%であった。(図表 13-1-1)

図表13-1-1 ウイルス性肝炎の認知度



図表13-1-2 ウイルス性肝炎の認知度—地域別、性・年代別



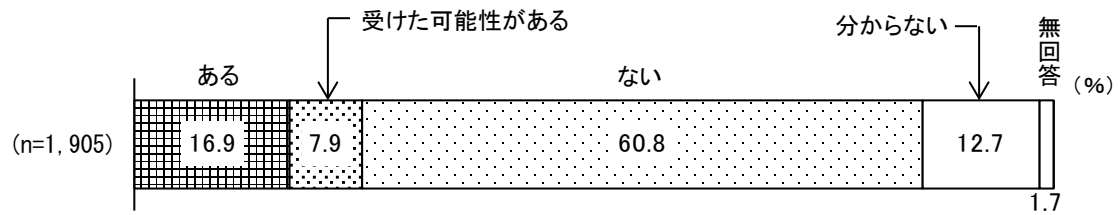
2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況【問39】

【全体の状況】

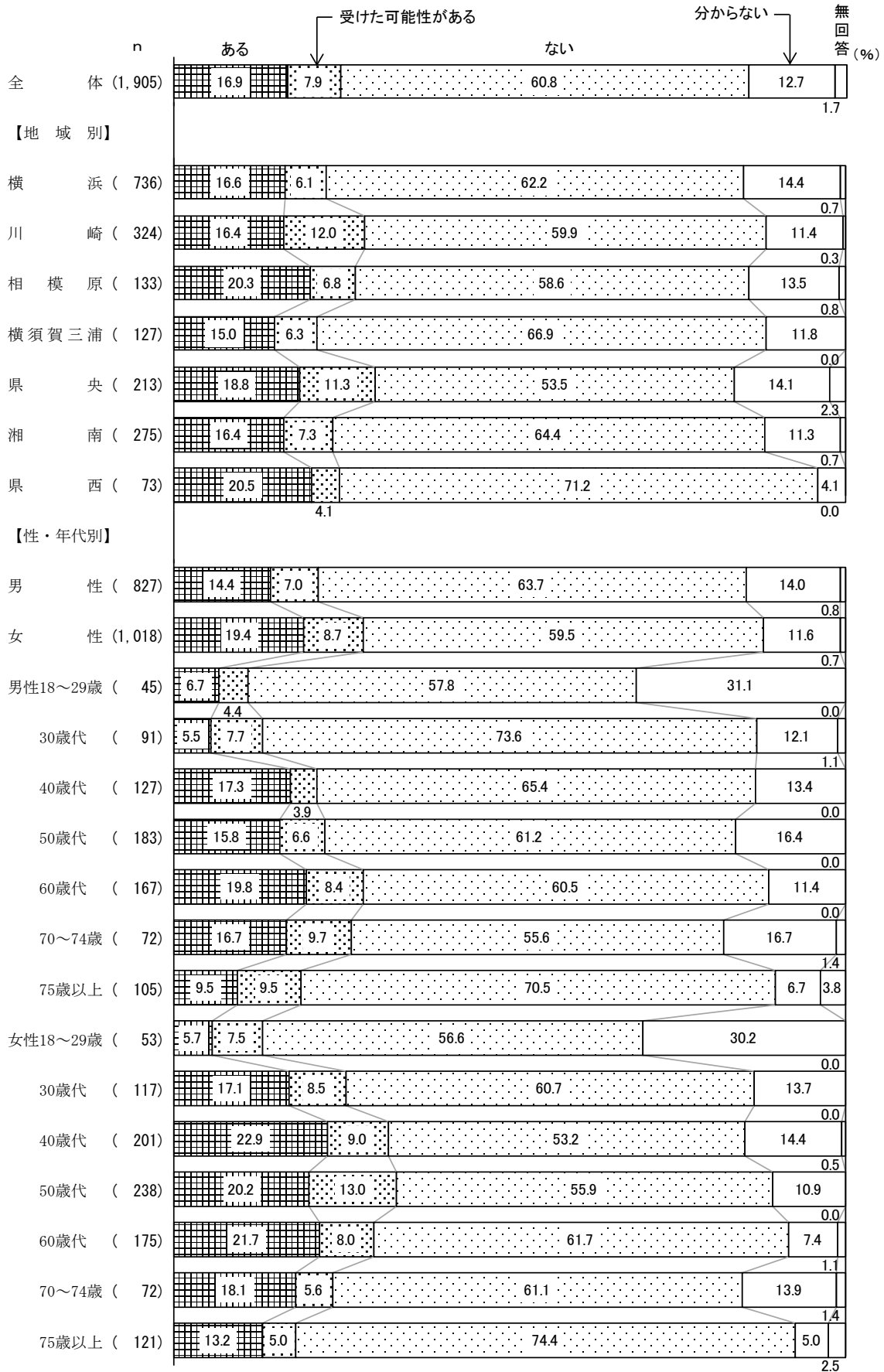
これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が16.9%であった。

一方、「ない」が60.8%であった。(図表13-2-1)

図表13-2-1 「肝炎ウイルス検査」の受検状況



図表13-2-2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況—地域別、性・年代別



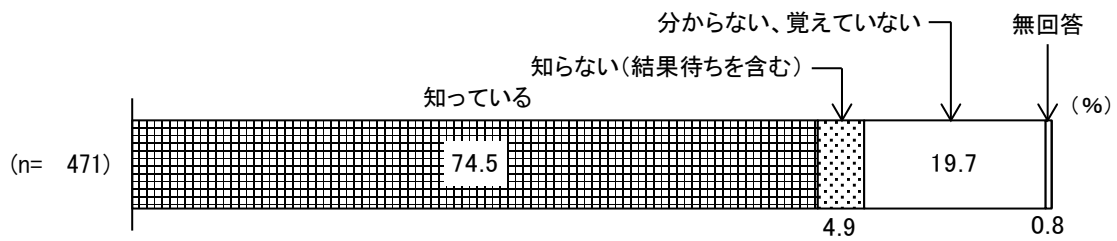
3 検査結果の把握状況【問39-1】

【全体の状況】

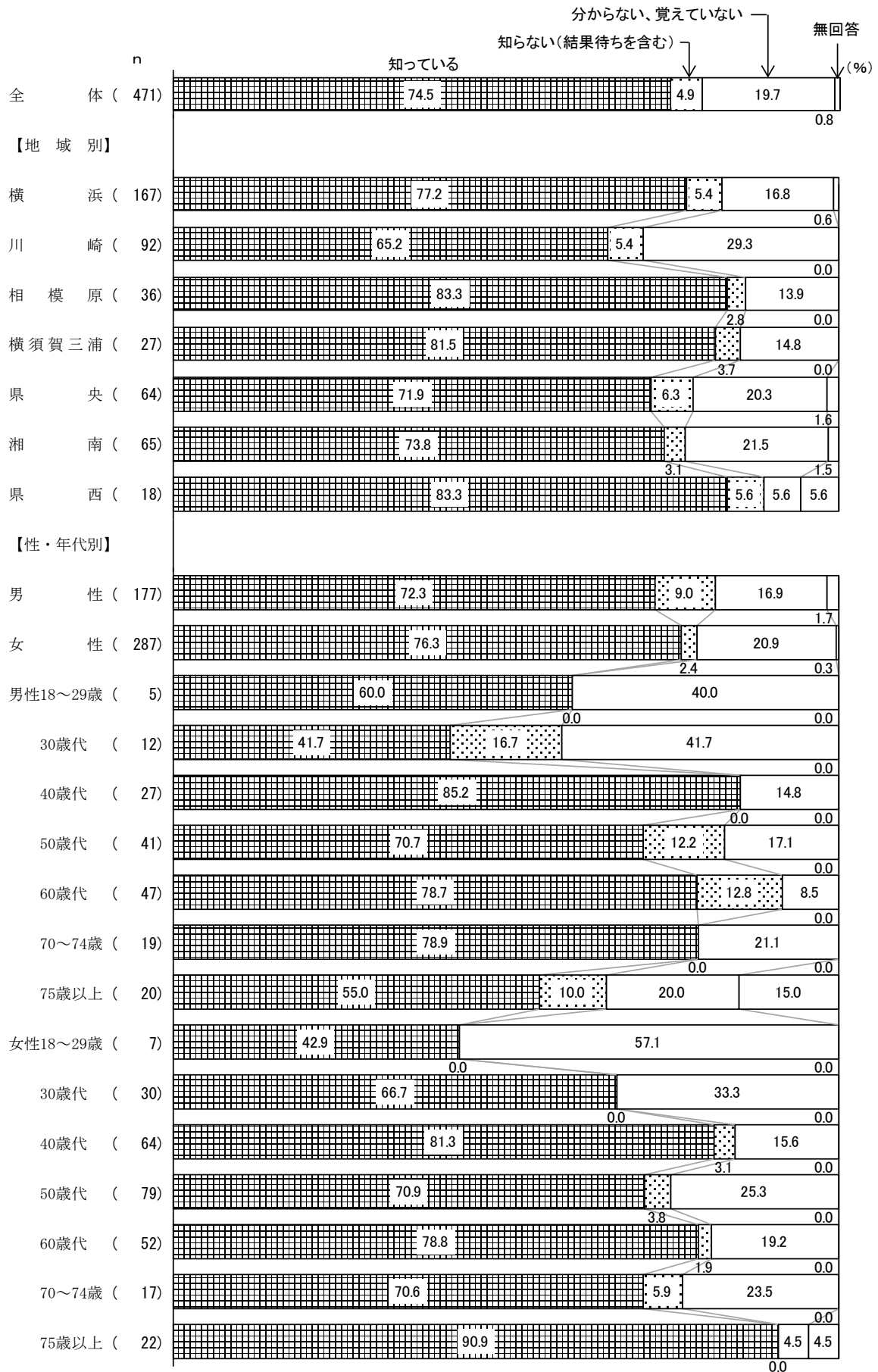
「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問39）で、「ある」または「受けた可能性がある」と回答した471人に、検査の結果を知っているか尋ねたところ、「知っている」が74.5%であった。

一方、「知らない（結果待ちを含む）」は、4.9%であった。（図表13-3-1）

図表13-3-1 検査結果の把握状況



図表13-3-2 検査結果の把握状況—地域別、性・年代別



第IV部 調査票と単純集計結果

調査期間 令和7年9月5日～9月30日
標本設計数 4,000 有効回収数(率) 1,905 (47.6%)
※「n」は、質問に対する回答者の総数を表す。
「-」は、回答者が皆無であることを示す。
※ 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

令和7年度(2025年)神奈川県『県民ニーズ調査』(第1回課題調査) 調査票

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。



神奈川県 PR
キャラクター
かながわ
キンタロウ

【テーマ】

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 食の安全・安心 | 8 地震対策の取組み |
| 2 食・食育 | 9 自転車ヘルメットの着用 |
| 3 かながわの農林水産業 | 10 スポーツ |
| 4 かながわの水源地域 | 11 ともに生きる社会かながわ |
| 5 地域社会との関わり | 12 受動喫煙 |
| 6 地域活動 | 13 肝炎対策 |
| 7 治安対策 | |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入いただいた調査票は、同封の**返送用封筒**に入れ、
9月30日(火)までにご投函ください。
(切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です)



※インターネットからもご回答いただけます！
(左記二次元コードから回答画面へ)

インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

【お問い合わせ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ お問い合わせフォーム



二次元コードから送信

※9月30日まで受付

○ 電話 (045)210-3672

※ 受付時間 月～金 8:30～17:15

(12:00～13:00を除く／土日祝日は閉庁)

1 食の安全・安心

問1 食品を購入する際に、確認している表示内容がありますか。(○はいくつでも) (n=1,905) (%)

1 期限表示(消費期限や賞味期限)	92.4	6 保存方法	41.1
2 原産地や原産国	74.1	7 遺伝子組換え食品に関する事項	22.7
3 アレルギー表示	11.4	8 その他	3.4
4 原材料名	38.6	9 確認している表示内容はない	1.8
5 食品添加物(保存料や着色料など)	35.5		(無回答 1.6)

問2 食中毒を予防する上で重要なことについて、知っていたことを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,905) (%)

1 食品を購入したら寄り道せずに帰宅する	51.9
2 食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する	94.9
3 調理や食事前によく手を洗う	85.8
4 生肉や生魚を扱った調理器具は、使用後に消毒する	65.8
5 調理した食品はすぐに食べるようにし、残った食品は速やかに適切な温度で保存する	80.9
6 生肉は、食中毒を起こす細菌がついていることがあるので、よく加熱する	82.5
7 どれも知らなかった	0.3
	(無回答 1.7)

問3 調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど、食品を安全に食べるために必要な知識を持っていると思いますか。(○は1つ) (n=1,905) (%)

1 持っていると思う	44.3	4 持っていないと思う	0.6
2 ある程度持っていると思う	47.8	5 分からない	0.7
3 あまり持っていないと思う	4.8		(無回答 1.8)

2 食・食育

問4 「食育」※に関心がありますか。 (○は1つ) (n=1,905) (%)

1 関心がある	29.7	4 関心がない	4.6
2 どちらかといえば関心がある	42.4	5 分からない	5.7
3 どちらかといえば関心がない	15.8		(無回答 1.8)

※ 食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

問5 歯と口の健康を保つために、かかりつけ歯科医を決めていますか。 (○は1つ) (n=1,905) (%)

1 決めている	75.9	3 分からない	1.2
2 決めていない	21.4		(無回答 1.6)

【複数人でお住まいの方のみお答えください】

問6 朝食・夕食を同居の方と一緒に食べていますか。 (○はそれぞれ1つずつ) (n=1,504) (%)

【朝食】

1 ほとんど毎日	45.4	3 週に2～3日	11.6	5 ほとんど食べない	27.7
2 週に4～5日	5.5	4 週に1日程度	7.9		(無回答 1.9)

【夕食】

1 ほとんど毎日	62.8	3 週に2～3日	13.0	5 ほとんど食べない	6.7
2 週に4～5日	10.4	4 週に1日程度	3.9		(無回答 3.2)

【一人暮らしの方のみお答えください】

問7 昼食・夕食を仲間や友人など、複数で一緒に食べていますか。 (○はそれぞれ1つずつ) (n=306) (%)

【昼食】

1 ほとんど毎日	4.2	3 週に2～3日	8.5	5 ほとんど食べない	59.5
2 週に4～5日	7.8	4 週に1日程度	15.4		(無回答 4.6)

【夕食】

1 ほとんど毎日	5.9	3 週に2～3日	5.9	5 ほとんど食べない	68.6
2 週に4～5日	0.7	4 週に1日程度	14.7		(無回答 4.2)

3 かながわの農林水産業

問8 県の農業に特にどのような役割を期待しますか。 (○は1つ) (n=1,905) (%)

1 食料の安定供給	25.0	6 美しい風景や文化の継承	2.8
2 安全・安心な食料の供給	35.1	7 働く場の提供	0.9
3 価格の安い食料の供給	11.7	8 その他	0.7
4 災害時の避難場所など安全な空間の提供	2.4	9 分からない	2.3
5 自然や土とふれあう場・学習の場の提供	1.9		(無回答 17.2)

問9 県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」※の取組みを重要だと思いますか。

(○は1つ) (n=1,905) (%)

1 重要だと思う	57.2	4 重要だと思わない	2.2
2 どちらかといえば重要だと思う	32.3	5 分からない	5.0
3 どちらかといえば重要だと思わない	1.9		(無回答 1.4)

※ **地産地消**とは、地域の需要に即した生産を行い、その産物を地域で消費するための取組みのことをいいます。

問10 「かながわブランド」※という言葉の意味について知っていますか。

(○は1つ)

(n=1,905) (%)

1 知っている	25.0	3 知らなかった	30.7
2 言葉は聞いたことがある	42.9		(無回答 1.3)

※ **かながわブランド**とは、県と生産者団体で構成する「かながわブランド振興協議会」が登録する、組織的な生産・出荷基準によって品質を確保するなどの要件を満たした農林水産物やその加工品のことをいいます。

問11 環境に配慮した農林水産物や食品※を選ぶよう心掛けていますか。 (○は1つ) (n=1,905) (%)

1 心掛けている	13.2	4 心掛けていない	16.6
2 どちらかといえば心掛けている	43.8	5 分からない	6.8
3 どちらかといえば心掛けていない	18.5		(無回答 1.2)

※ **環境に配慮した農林水産物や食品**とは、近隣の地域で生産されたものや、有機JASマークなど環境への配慮に関する表示のあるもの、過剰包装ではないものなどのことをいいます。

4 かながわの水源地域

問 12 県にあるダム湖（ダム）のうち、知っているものを選んでください。（〇はいくつでも）
 (n=1,905) (%)

1 相模湖（相模ダム）	83.0	4 丹沢湖（三保ダム）	61.2
2 奥相模湖（道志ダム）	22.2	5 宮ヶ瀬湖（宮ヶ瀬ダム）	71.8
3 津久井湖（城山ダム）	60.2	6 どれも知らなかった	5.7
（無回答 1.2）			

問 13 水源地域※で参加したい活動はありますか。（〇はいくつでも） (n=1,905) (%)

1 カヌーなどのスポーツ体験	21.4	6 工芸品などの工作体験	21.3
2 野菜や果物の収穫体験	32.6	7 地域のお祭りなどの運営体験	7.1
3 くんせい作りなどの自然を生かした食品 作り体験	20.9	8 その他	1.6
4 まき割りや森林での間ばつなどの林業体験	12.7	9 特にない	34.8
5 山登りなどの自然体験	23.4	10 分からない	3.1
（無回答 1.7）			

※ **水源地域**とは、水道水源としてのダム湖（相模湖、奥相模湖、津久井湖、丹沢湖及び宮ヶ瀬湖）が位置する地域である相模原市（城山地区、津久井地区、相模湖地区及び藤野地区）、山北町、愛川町、清川村のことをいいます。

問 14 「やまなみ五湖」※に関する観光やグルメなどの情報収集をする場合、どの手段を利用したいと思いますか。（〇はいくつでも） (n=1,905) (%)

1 パンフレット	28.0	6 Instagram	22.7
2 ポスター・チラシ	21.4	7 その他	1.5
3 ホームページ	56.6	8 特にない	11.2
4 YouTube などの動画媒体	26.5	9 分からない	5.8
5 X（旧 Twitter）	11.9	（無回答 1.4）	

※ **やまなみ五湖**とは、県の北西部にある、相模湖、奥相模湖、津久井湖、丹沢湖及び宮ヶ瀬湖の5つのダム湖の総称のことをいいます。

5 地域社会との関わり

問 15 長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしていますか。
(○は1つ) (n=1,905) (%)

1 そう思う	65.2	2 そう思わない	32.3	(無回答 2.5)
--------	------	----------	------	-----------

6 地域活動

問 16 地域活動(※1)の情報をどこで入手していますか。(○はいくつでも) (n=1,905) (%)

1 回覧板	52.3	6 その他	1.2
2 地域の掲示板	34.6	7 どこからも入手していない	11.8
3 自治体の刊行物やホームページなど	37.6	8 分からない、覚えていない	0.9
4 家族や友人、知人からのクチコミ	27.4		
5 個人や団体のチラシやホームページ、ブログ、SNS(※2)など	17.4	(無回答 1.4)	

※1 ここでのいう**地域活動**とは、住民などの地域の人が自ら、地域の問題の解決や、生活をより良くするために、様々な活動や取組みのことをいいます。

※2 **SNS**とは、ソーシャルメディアの一つで、例えばX(旧Twitter)、Facebook、Instagramなどのことをいいます。

問 17 地域活動に参加したいと思いませんか。(○は1つ) (n=1,905) (%)

1 そう思う	32.2	3 分からない	29.8
2 そう思わない	35.7	(無回答 2.2)	

→【問17で2を選んだ方へ】

問 17-1 その理由は何ですか。(○はいくつでも) (n=681) (%)

1 負担が大きいと感ずるため	50.7	5 興味がないため	29.4
2 人間関係で苦勞しそうなため	45.2	6 その他	5.4
3 時間に余裕がないため	51.5	7 特に理由はない	2.3
4 どんな活動があるか知らないため	16.2	(無回答 -)	

問 18 どのような地域活動があれば参加してみたいですか。(○はいくつでも) (n=1,905) (%)

1 お祭りなどのイベント	37.3	7 子どもや親子向けの活動	14.3
2 ゴミ拾いなどの美化活動	22.8	8 コミュニティカフェなど居場所づくりに関する活動	16.2
3 ガーデニングや植物の手入れなどの活動	13.8	9 新たな活動の立ち上げ	4.0
4 防災に関する活動	27.1	10 その他	1.9
5 スポーツなど体を動かす活動	22.2	11 参加したい活動はない	20.9
6 高齢者や障がい者支援など福祉に関する活動	10.7	(無回答 3.9)	

7 治安対策

問 19 不安を感じる身近な犯罪は何ですか。 (○はいくつでも) (n=1,905) (%)

1 ひったくり	34.4	7 傷害、強盗などの暴力行為を伴う犯罪	51.5
2 特殊詐欺(※1)や SNS 型投資・ロマンス詐欺(※2)	48.6	8 自転車や自動車などの乗り物の盗難	34.2
3 空き巣	61.0	9 インターネットを利用した犯罪(※3)	54.5
4 子どもの誘拐や子どもへのいたずら	36.7	10 大麻や覚醒剤などの薬物犯罪	12.9
5 痴漢や不同意わいせつなどの性犯罪	31.4	11 その他	2.7
6 ストーカー行為	23.5	12 特になし	2.2
		(無回答 1.6)	

※1 特殊詐欺とは、被害者に電話をかけるなどして対面することなく信頼させ、指定した預貯金口座への振込みなどにより、不特定多数の者から現金などをだまし取る犯罪のことをいいます。

※2 SNS 型投資・ロマンス詐欺とは、SNS などを通じて対面することなく、交信を重ねるなどして関係を深めて信用させ、指定した預貯金口座への振込みなどにより金銭などをだまし取る犯罪のことをいいます。

※3 インターネットを利用した犯罪とは、コンピューターへの不正アクセス、詐欺、ネットポルノ、児童買春などのことをいいます。

問 20 防犯や交通安全の情報について、得やすいのはどのような方法ですか。 (○はいくつでも) (n=1,905) (%)

1 テレビ	74.4	8 警察からのインターネットでの情報発信※	24.5
2 ラジオ	13.1	9 警察からのメール	8.3
3 新聞	21.9	10 警察官の防犯・交通安全教室	3.4
4 ポスター・チラシなど	25.3	11 警察官の戸別訪問	4.4
5 回覧板	32.3	12 その他	5.5
6 防災無線	16.7	13 特になし	2.4
7 駅前などでのキャンペーン	10.2	(無回答 1.4)	

※ 警察からのインターネットでの情報発信とは、警察のホームページ、X (旧 Twitter)、「Yahoo! 防災速報」、神奈川県警察公式の YouTube チャンネルやモバイルアプリ「かながわポリス」などのことをいいます。

問 21 犯罪や交通事故がなく、より安心してくらすために重要だと思うものは何ですか。 (○は3つまで) (n=1,905) (%)

1 防犯カメラなどの防犯設備の整備	74.5	7 交通指導取締りの強化や交通違反などの厳罰化	22.0
2 地域住民同士のつながり	34.0	8 制服警察官、パトカーによる警戒・検問活動	31.4
3 県民や企業と行政が一体となって行う防犯・交通安全活動	14.6	9 運転に不安を覚える方への安全運転相談	8.0
4 防犯、交通安全などの規範意識を高める教育	19.9	10 その他	3.2
5 ボランティアなどによる防犯・交通安全活動	5.5	11 特になし	1.0
6 信号機、道路標識などの交通安全施設の整備	21.4	(無回答 7.8)	

8 地震対策の取組み

問 22 家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっていますか。 (○はいくつでも)
(n=1,905) (%)

1 持出品の準備や食料などの備蓄	68.7	6 防災訓練に積極的に参加	7.0
2 住まいの耐震化	18.8	7 感震ブレーカー※などの設置	7.2
3 家具・家電などの固定	37.9	8 消火器の設置	21.6
4 避難場所や避難経路の確認	37.7	9 その他	0.7
5 家族と連絡方法の確認	35.3	10 特に対策はとっていない	10.4
(無回答 0.8)			

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題となっています。

※ 感震ブレーカーとは、揺れを感知して電気を止める器具のことをいいます。

9 自転車ヘルメットの着用

問 23 自転車に乗るときは、ヘルメットを着用するよう気をつけていますか。 (○は1つ)
(n=1,905) (%)

1 常に気をつけている	7.1	4 自転車に乗ることはない	56.0
2 時々気をつけている	6.6		
3 気をつけていない	27.7		(無回答 2.6)

【問 23 で2、3を選んだ方へ】

問 23-1 ヘルメットを着用するよう常に気をつけていない理由は何ですか。 (○はいくつでも)
(n=654) (%)

1 髪型が乱れるから	20.8	6 購入する金銭的負担が大きいから	18.7
2 見た目がよくないから	18.5	7 着用しないことによる危険性を感じないから	19.1
3 暑い、蒸れるなど不快に感じるから	49.5	8 その他	10.7
4 着用や準備が面倒だから	43.9	9 特にない、分からない	5.7
5 ヘルメットを保管する場所がないから	20.6		(無回答 0.8)

10 スポーツ

問 24 体力に自信はありますか。 (○は1つ) (n=1,905) (%)

1 ある	7.7	3 どちらかといえない	35.8	5 分からない	6.8
2 どちらかといえばある	31.4	4 ない	17.5	(無回答)	0.8

問 25 この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツ※をした日数はどのくらいになりますか。

(○は1つ) (n=1,905) (%)

1 週に5日以上	12.9	6 3か月に1～2日程度	6.7
2 週に3日程度	16.2	7 年に1～3日程度	6.8
3 週に2日程度	13.0	8 まったく行わない	16.2
4 週に1日程度	12.3	9 分からない	3.2
5 月に1～3日程度	12.0	(無回答)	0.5

※ 1回10分程度の運動やスポーツを合計して30分でも構いません。また、レクリエーションとして行う身体活動やウォーキングなどの軽度の運動も含まれます。

問 26 日常の中で無理なく習慣として続けられる運動の時間※はどのくらいだと思いますか。

(○は1つ) (n=1,905) (%)

1 1日5分程度	10.9	5 1日60分程度	9.6
2 1日10分程度	19.9	6 1日60分以上	2.9
3 1日15分程度	20.9	7 無理なく運動を続けることは難しい	6.6
4 1日30分程度	25.8	8 分からない	2.7
		(無回答)	0.7

※ レクリエーション活動やウォーキング、家でできる体操や筋力トレーニングも含まれますが、日常生活を行う上での歩く時間は除きます。また、朝に5分、夜に5分など、継続していない場合でも、合計の運動時間でお考えください。

問 27 スポーツ推進に係る取組みについて、知っているものを選んでください。 (○はいくつでも)

(n=1,905) (%)

1 3033 (サンマルサンサン) 運動 (※1)	4.3	3 かながわパラスポーツ (※3)	5.3
2 総合型地域スポーツクラブ (※2)	6.3	4 どれも知らなかった	85.3
		(無回答)	1.6

※1 **3033 (サンマルサンサン) 運動**とは、運動やスポーツを1日30分、週3回、3か月間継続して行い、くらしの一部として習慣化する取組みのことをいいます。

※2 **総合型地域スポーツクラブ**とは、地域住民によって自主的・主体的に運営され、子どもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)スポーツクラブのことをいいます。

※3 **かながわパラスポーツ**とは、すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えることをいいます。

11 ともに生きる社会かながわ

問 28 共生社会（ともに生きる社会）※という考え方を知っていますか。（○は1つ）（n=1,905）（%）

1 知っている	27.5	2 言葉は聞いたことがある	38.1	3 知らなかった	33.1
（無回答 1.3）					

※ 共生社会（ともに生きる社会）とは、障がいの状態や程度にかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いに尊重し、支え合ってくらすことを目指す社会のことをいいます。

問 29 「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っていますか。（○は1つ）（n=1,905）（%）

1 知っている	5.5	2 言葉は聞いたことがある	22.8	3 知らなかった	70.2
（無回答 1.5）					

県では、ともに生きる社会かながわの実現をめざし、2016年10月に「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めました。

ともに生きる社会かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます



問 30 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方について、どう思いますか。（○は1つ）（n=1,905）（%）

1 そう思う	58.6	3 どちらかといえばそう思わない	5.4
2 どちらかといえばそう思う	31.5	4 そう思わない	1.9
（無回答 2.6）			

問 31 障がいのある人は、日ごろの生活の中で、施設や設備、制度などがなかったり、障がいへの理解が足りなかったりすることで、困りごとや不自由さ※を感じていると思いますか。(○は1つ)
(n=1,905) (%)

1 感じていると思う	52.9	4 感じていないと思う	1.5
2 どちらかといえば感じていると思う	30.7	5 分からない	10.6
3 どちらかといえば感じていないと思う	2.5	(無回答)	1.9

※ ここでいう困りごとや不自由さとは、例えば、障がいを理由に、「診療を断られる」、「契約を断られる」、「避難場所などで我慢している」、「ヘルパーが足りず、自宅で生活できない」ことなどをいいます。

問 32 障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。(○は1つ)
(n=1,905) (%)

1 あると思う	43.7	3 あまりないと思う	8.7	5 分からない	5.7
2 少しはあると思う	37.3	4 ないと思う	3.0	(無回答)	1.6

問 33 「ヘルプマーク」を知っていますか。(○は1つ) (n=1,905) (%)

1 知っている	72.3	2 マークを見聞きしたことはあるが、 意味は知らなかった	10.6	3 知らなかった	15.5
(無回答 1.5)					



ヘルプマークとは、外見から分からなくても援助や配慮を必要とする方が援助を得やすくなるよう、東京都が考案したマークのことをいいます。県でもその目的に賛同し、普及・啓発を進めています。マークの実際の背景色は赤色です。

詳細は、下記HPをご覧ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yv4/cnt/f536306>

問 34 手話やろう者についての理解を深めるために、手話を学ぶとしたら、最も学びたい方法はどれですか。(○は1つ) (n=1,905) (%)

1 手話講習会	27.2	6 学校教育	5.6
2 手話サークル	7.7	7 その他	0.9
3 インターネット	23.1	8 学びたいとは思わない	10.3
4 本・DVD	3.1	9 分からない	10.6
5 テレビ番組	6.9	(無回答)	4.6

12 受動喫煙

問 35 受動喫煙（※1）により、どのような健康への影響があると思いますか。（○はいくつでも）
 (n=1,905) (%)

1 肺がんなどの生活習慣病の危険性を高める	91.4	
2 子どもの肺炎、中耳炎などの危険性を高める	44.7	
3 乳幼児突然死症候群（※2）の危険性を高める	37.2	
4 妊婦の早産や低体重児（※3）出生の危険性を高める	61.0	
5 その他	1.5	
6 特に健康への影響はないと思う	1.6	
7 分からない	3.6	（無回答 1.5）

※1 受動喫煙とは、自分の意思とは関係なく、周りの人のたばこの煙にさらされることをいいます。

※2 乳幼児突然死症候群とは、何のきざしや病歴もないまま乳幼児が死に至る、原因の分からない病気のことをいいます。

※3 低体重児とは、出生体重 2500g 未満の新生児のことをいいます。

問 36 たばこの健康被害や受動喫煙防止に関して、学校などで教わる時期はいつがよいと思いますか。（○はいくつでも） (n=1,905) (%)

1 小学校	68.6	4 短大・大学・専修学校など	14.5
2 中学校	67.5	5 その他	1.7
3 高等学校	42.8	6 分からない	2.0

（無回答 1.1）

問 37 受動喫煙を防ぐために、県にどのようなことを期待しますか。（○は3つまで） (n=1,905) (%)

1 受動喫煙による健康被害についての普及啓発	43.7	7 受動喫煙を防ぐための規制の強化	34.5
2 喫煙者へのマナー向上のための啓発	52.2	8 規制によらない自主的な取り組みの促進	5.0
3 たばこをやめたい人への禁煙サポート	24.1	9 その他	4.4
4 未成年者への喫煙防止教育	40.1	10 特にない	2.9
5 健康増進法や条例※の着実な運用	11.6	11 分からない	2.2
6 規制により受動喫煙対策を行う施設への支援	9.0		

（無回答 4.5）

※ ここでいう条例とは、神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例のことをいいます。

13 肝炎対策

問 38 「ウイルス性肝炎」※という病気を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,905) (%)

1 知っている	52.2	2 言葉は聞いたことがある	36.0	3 知らなかった	10.3
(無回答 1.5)					

※ **ウイルス性肝炎**とは、肝炎ウイルスにより肝臓の細胞が破壊され炎症が起きる病気のことをいいます。日本では特にB型、C型肝炎にかかる人が多くなっており、肝硬変や肝がんなどの命に関わる病気に進行することもあります。

問 39 これまでに「肝炎ウイルス検査」※を受けたことがありますか。 (○は1つ) (n=1,905) (%)

1 ある	16.9	3 ない	60.8	(無回答 1.7)
2 受けた可能性がある	7.9	4 分からない	12.7	

※ **肝炎ウイルス検査**は、本人が自覚的に受ける場合のほか、大きな外科手術（全身麻酔での手術で1993年以降に経験）、妊娠・出産（1993年以降に経験）及び献血（1990年以降に経験）をしたときに無自覚に受けた可能性があります。

【問 39 で 1、2 を選んだ方へ】

問 39-1 検査の結果を知っていますか。 (○は1つ) (n=471) (%)

1 知っている	74.5	3 分からない、覚えていない	19.7
2 知らない（結果待ちを含む）	4.9	(無回答 0.8)	

…**

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。（個人を特定するものではありません。）

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,905) (%)

1 横浜（横浜市）	38.6
2 川崎（川崎市）	17.0
3 相模原（相模原市）	7.0
4 横須賀三浦（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町）	6.7
5 県央（厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村）	11.2
6 湘南（平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町）	14.4
7 県西（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）	3.8
(無回答 1.3)	

F 2 差し支えなければ、あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,905) (%)

1 男性	43.4	2 女性	53.4	(無回答 3.1)
------	------	------	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2025年9月1日現在) (n=1,905) (%)

1	18～19歳	-	5	35～39歳	6.6	9	55～59歳	11.7	13	75～79歳	7.9
2	20～24歳	1.8	6	40～44歳	7.9	10	60～64歳	10.2	14	80歳以上	4.1
3	25～29歳	3.4	7	45～49歳	9.9	11	65～69歳	8.3			
4	30～34歳	4.8	8	50～54歳	11.0	12	70～74歳	7.6		(無回答	4.8)

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。) (n=1,905) (%)

1	小学校入学前	6.8	5	短大、専門学校等在学中	0.8	9	その他	2.7
2	小学校在学中	10.4	6	大学、大学院等在学中	8.3	10	子どもはいない	30.6
3	中学校在学中	7.1	7	学校教育終了 [未婚]	22.3			
4	高校在学中	6.5	8	学校教育終了 [既婚]	22.5			(無回答 5.5)

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。 (n=1,905) (%)

1	一人暮らし (単身世帯)	16.1	4	祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.6
2	夫婦のみ (1世代世帯)	27.8	5	その他の世帯	4.1
3	親と子の世帯 (2世代世帯)	43.4			(無回答 5.0)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,905) (%)

(n=1,191) (%)

1	自営業主	5.0	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア	農林水産業	0.4
2	家族従業者 (家業手伝い)	1.2		イ	商工サービス業 (各種商店、飲食店、工事店などの経営)	4.4
3	勤め (フルタイム)	40.9	エ～ケから 1つ選んで ください。	ウ	自由業 (開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	4.5
4	勤め (パートタイム)	15.2		エ	経営・管理職 (会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	7.1
5	内職	0.2		オ	専門・技術職 (研究員、技術者、勤務医、看護師など)	23.9
6	主婦・主夫 (勤めていない)	13.2		カ	事務職 (事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	24.5
7	学生	0.9		キ	教育職 (教諭、保育士など)	4.9
8	無職	14.4		ク	技能・労務職 (工場の生産工程従事者、運転士など)	9.2
9	その他	2.4		ケ	販売・サービス職 (商店、サービス業などの従業員)	18.3
	(無回答)	6.7)				(無回答 2.8)

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、9月30日（火）までにご投函ください。（切手は不要です。）

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 食の安全・安心 | 8 地震対策の取組み |
| 2 食・食育 | 9 自転車ヘルメットの着用 |
| 3 かながわの農林水産業 | 10 スポーツ |
| 4 かながわの水源地域 | 11 とともに生きる社会かながわ |
| 5 地域社会との関わり | 12 受動喫煙 |
| 6 地域活動 | 13 肝炎対策 |
| 7 治安対策 | |

下記にその内容をご記載ください。

310人（16.3%）から自由意見が寄せられました。

第2回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) かながわの文化芸術
- (2) 伝統的工芸品
- (3) 2027年国際園芸博覧会
- (4) 脱炭素・環境
- (5) 生物多様性
- (6) 「未病改善」の取組み
- (7) かながわ救急相談センター（#7119）
- (8) 循環器病対策
- (9) 依存症に対する意識
- (10) かながわの人権
- (11) 配偶者等からの暴力
- (12) 犯罪被害者等への支援
- (13) 生活に不安や課題がある人への支援
- (14) インクルーシブ教育
- (15) かながわの広報

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 4,000標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和7年10月24日（金）～11月18日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社CCNグループ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	4,000標本
有効回収数	1,698標本 〔 郵送回答 : 901件 〕 〔 インターネット回答 : 797件 〕
有効回収率	42.5%

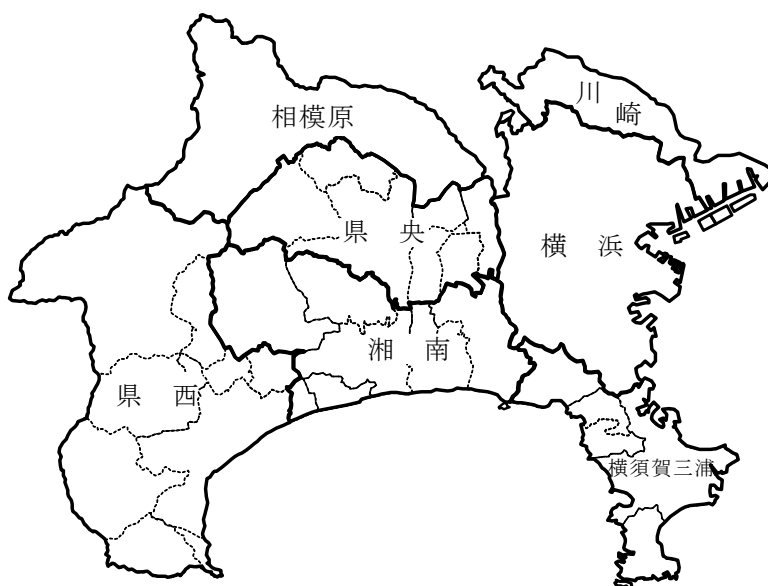
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,620	677	41.8%
川崎	川崎市	660	241	36.5%
相模原	相模原市	300	121	40.3%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	300	111	37.0%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	380	176	46.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	580	272	46.9%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	160	74	46.3%
無 回 答			26	
全 体		4,000	1,698	42.5%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和6年1月1日現在の推計値）により、4,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,156,795人 81地点 1,620標本	-	-	3,156,795人 81地点 1,620標本
川 崎	1,283,024人 33地点 660標本	-	-	1,283,024人 33地点 660標本
相模原	607,446人 15地点 300標本	-	-	607,446人 15地点 300標本
横須賀三浦	-	557,093人 14地点 280標本	25,917人 1地点 20標本	583,010人 15地点 300標本
県 央	-	689,893人 18地点 360標本	36,552人 1地点 20標本	726,445人 19地点 380標本
湘 南	-	1,017,415人 26地点 520標本	91,084人 3地点 60標本	1,108,499人 29地点 580標本
県 西	-	193,400人 5地点 100標本	90,880人 3地点 60標本	284,280人 8地点 160標本
人口計	5,047,265人	2,457,801人	244,433人	7,749,499人
地点数計	129地点	63地点	8地点	200地点
標本数計	2,580標本	1,260標本	160標本	4,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和6年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している。）また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,698	± 2.06	± 2.75	± 3.15	± 3.36	± 3.43
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,698 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.36 以内（真の値は、56.64%～63.36%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1,698) (%)

横浜	39.9
川崎	14.2
相模原	7.1
横須賀三浦	6.5
県央	10.4
湘南	16.0
県西	4.4

(無回答 1.5)

(2) 性別 (n=1,698) (%)

男性	41.4
女性	55.1

(無回答 3.5)

(3) 年齢 (n=1,698) (%)

18～29歳	5.2
30～39歳	9.9
40～49歳	18.0
50～59歳	23.9
60～69歳	20.0
70～74歳	7.1
75歳以上	14.3

(無回答 1.8)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1,698) (%)

小学校入学前	7.8
小学校在学中	10.1
中学校在学中	6.7
高校在学中	7.9
短大、専門学校等在学中	0.8
大学、大学院等在学中	7.5
学校教育終了[未婚]	23.3
学校教育終了[既婚]	24.4
その他	2.4
子どもはいない	30.7

(無回答 2.4)

(5) 家族形態 (n=1,698) (%)

一人暮らし (単身世帯)	14.6
夫婦のみ (1世代世帯)	27.5
親と子の世帯 (2世代世帯)	47.4
祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.5
その他の世帯	4.8

(無回答 2.1)

(6) 職業区分 (n=1,698) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	5.4
	家族従業者	1.0
勤め・内職	勤め (フルタイム)	40.2
	勤め (パートタイム)	16.2
	内職	0.2
主婦・主夫 (勤めていない)	14.5	
学生	0.8	
無職	16.0	
その他	1.8	

(無回答 4.0)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=1,068) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.4
	商工サービス業	4.9
	自由業	4.4
勤め・内職	経営・管理職	8.3
	専門・技術職	18.8
	事務職	24.3
	教育職	6.1
	技能・労務職	9.8
	販売・サービス職	20.5

(無回答 2.5)

第 2 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率（％）の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率（％）の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。
 （例：問5で「ぜひ購入したいと思う」と「機会があれば購入したいと思う」を合わせたものを《購入したいと思う》と表現している。）
 また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

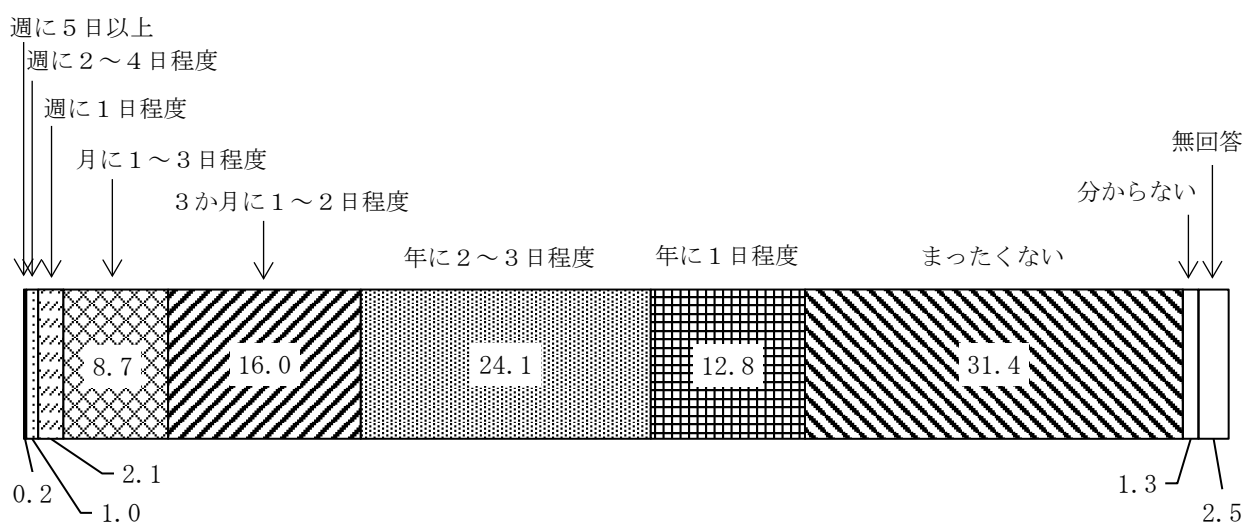
1 かながわの文化芸術（問1～問3）

県では、真にゆとりとうるおいを実感できる心豊かな県民生活と、個性豊かで活力に満ちた地域づくりを実現するため、県民の方に文化芸術に触れる様々な機会を提供し、あらゆる人の文化芸術活動が充実するよう取り組んでいます。今回、1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数などについて調査しました。

▼1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（問1）

この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加した日数を尋ねたところ、「まったくない」が31.4%で最も多く、次いで「年に2～3日程度」が24.1%であった。[図表1]

図表1 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（n=1,698）（％）



2 伝統的工芸品（問4～問5）

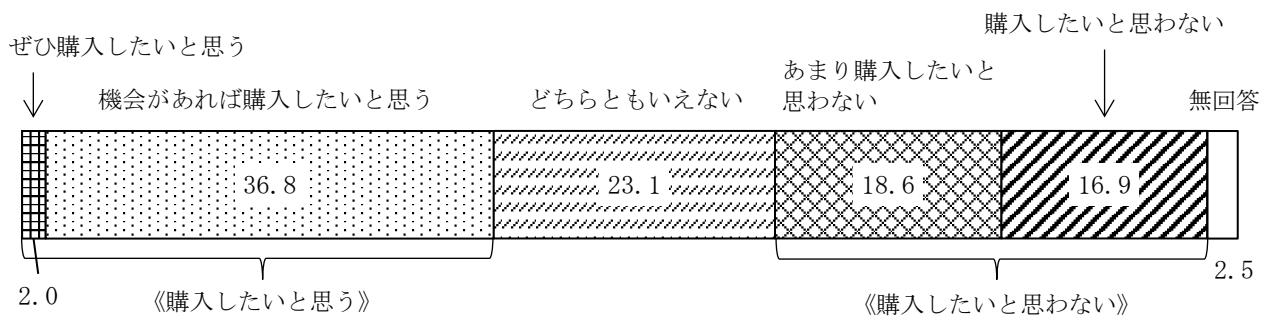
県では、長年本県で受け継がれてきた鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品の将来にわたる持続的な発展に向け、支援に取り組んでいます。今回、令和8年度に伝統的工芸品に関する国内最大級のイベントである KOUGEI EXPO in KANAGAWA を開催するにあたり、伝統的工芸品への購買意欲などについて調査しました。

▼伝統的工芸品への購買意欲（問5）

鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品を、今後、購入したいと思うか尋ねたところ、「ぜひ購入したいと思う」（2.0%）と「機会があれば購入したいと思う」（36.8%）を合わせた《購入したいと思う》は38.8%であった。

一方、「購入したいと思わない」（16.9%）と「あまり購入したいと思わない」（18.6%）を合わせた《購入したいと思わない》は35.5%であった。[図表2]

図表2 伝統的工芸品への購買意欲（n=1,698）（%）



3 2027年国際園芸博覧会（問6～問7）

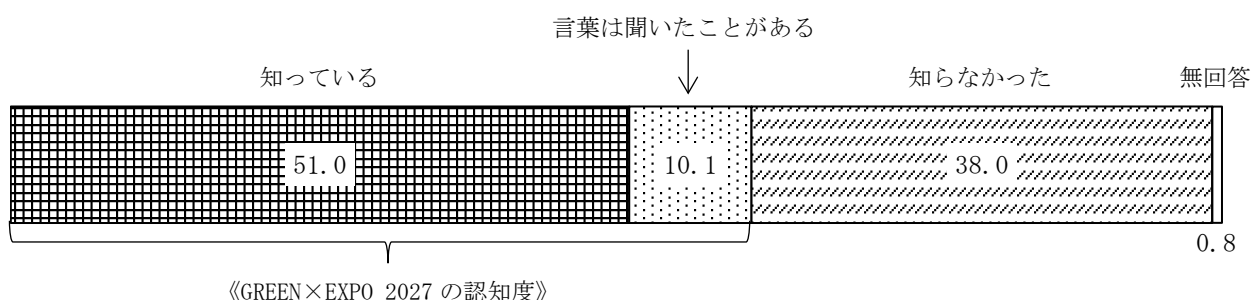
県では、一都三県初の万博である GREEN×EXPO 2027 の開催に向け、機運醸成に取り組んでいます。今回、GREEN×EXPO 2027 の認知度などについて調査しました。

▼GREEN×EXPO 2027の認知度（問6）

「2027年国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027）」が開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」（51.0%）と「言葉は聞いたことがある」（10.1%）を合わせた《GREEN×EXPO 2027の認知度》は61.1%であった。

一方、「知らなかった」が38.0%であった。[図表3]

図表3 GREEN×EXPO 2027の認知度（n=1,698）（%）



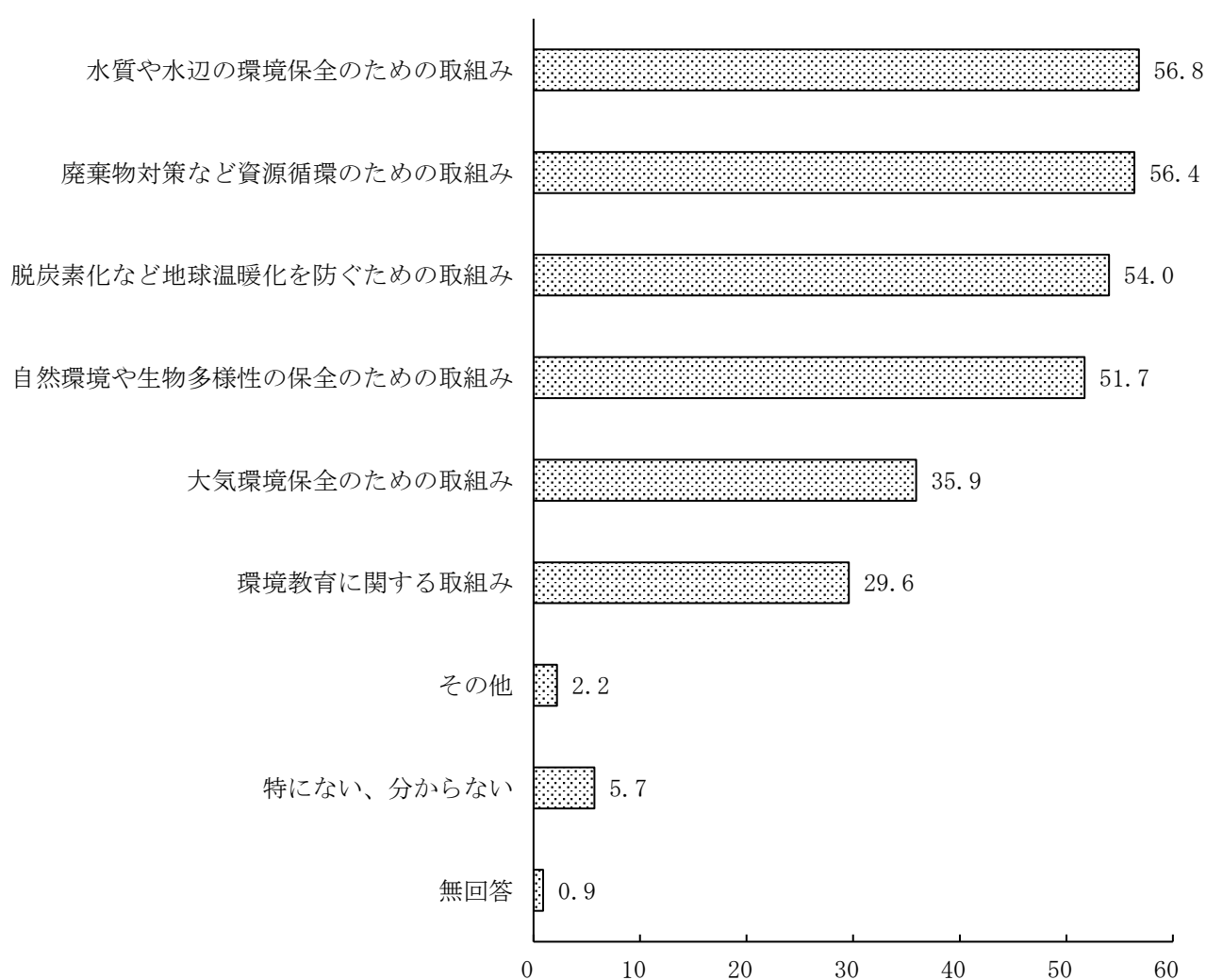
4 脱炭素・環境（問8～問11）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問8）

今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいかを複数回答で尋ねたところ、「水質や水辺の環境保全のための取組み」が56.8%で最も多く、次いで「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が56.4%であった。〔図表4〕

図表4 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,698）（%）



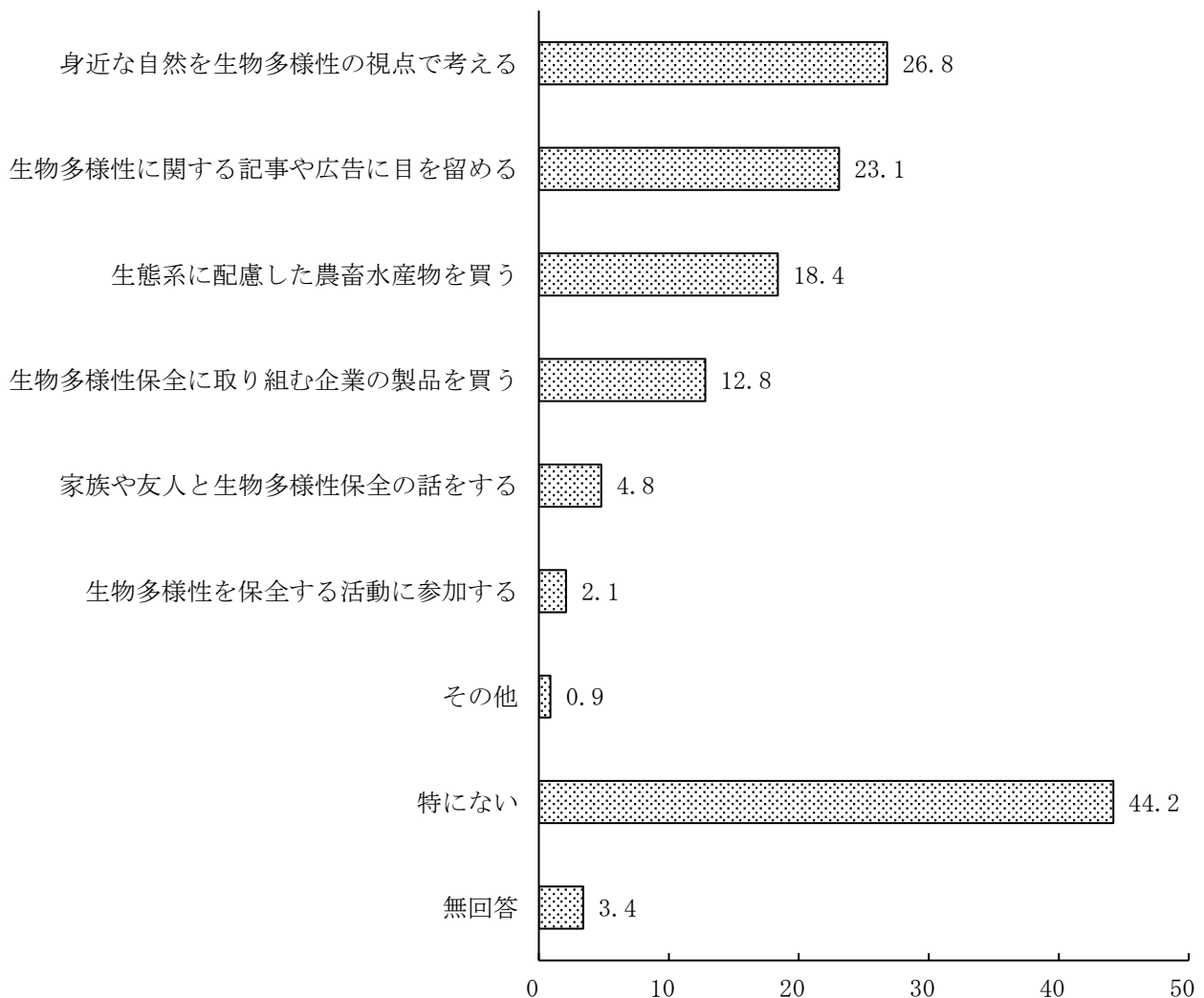
5 生物多様性（問 12～問 14）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 13）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 26.8%で最も多く、次いで「生物多様性に関する記事や広告に目を留める」が 23.1%であった。[図表 5]

図表 5 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
（複数回答）（n=1,698）（%）



6 「未病改善」の取組み（問 15～問 18）

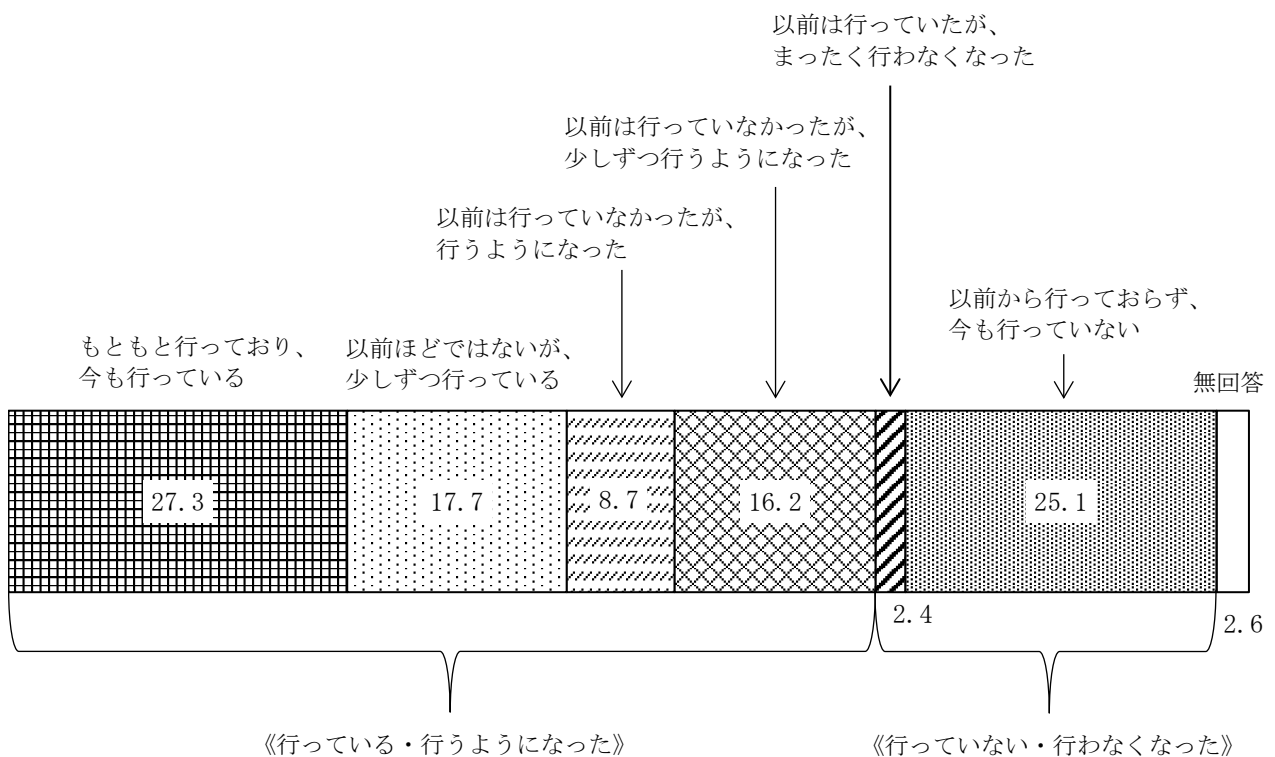
県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、過去1年間の「未病改善」の取組状況などについて調査しました。

▼過去1年間の「未病改善」の取組状況（問 16）

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」（27.3%）、「以前ほどではないが、少しずつ行っている」（17.7%）、「以前は行っていなかったが、行うようになった」（8.7%）、「以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった」（16.2%）、を合わせた《行っている・行うようになった》は69.8%であった。

一方、「以前から行っておらず、今も行っていない」（25.1%）と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」（2.4%）を合わせた《行っていない・行わなくなった》は27.6%であった。〔図表6〕

図表6 過去1年間の「未病改善」の取組状況（n=1,698）（%）



7 かながわ救急相談センター（#7119）（問 19）

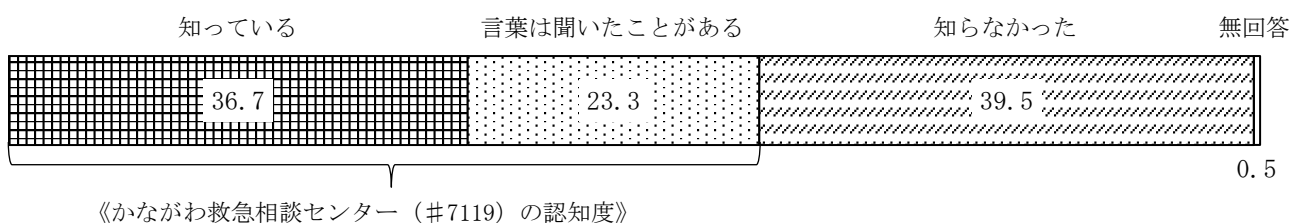
県では、急な病気やケガをしたときに、救急車を呼んだ方がいいのかなどで迷った際に、電話でアドバイスを受けることができる、かながわ救急相談センター（#7119）を運営し、救急車の適正利用や医療機関の適正受診を推進しています。今回、かながわ救急相談センター（#7119）の認知度について調査しました。

▼かながわ救急相談センター（#7119）の認知度（問 19）

かながわ救急相談センター（#7119）を知っているか尋ねたところ、「知っている」（36.7%）と「言葉は聞いたことがある」（23.3%）を合わせた《かながわ救急相談センター（#7119）の認知度》は60.0%であった。

一方、「知らなかった」が39.5%であった。〔図表 7〕

図表 7 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度（n=1,698）（%）



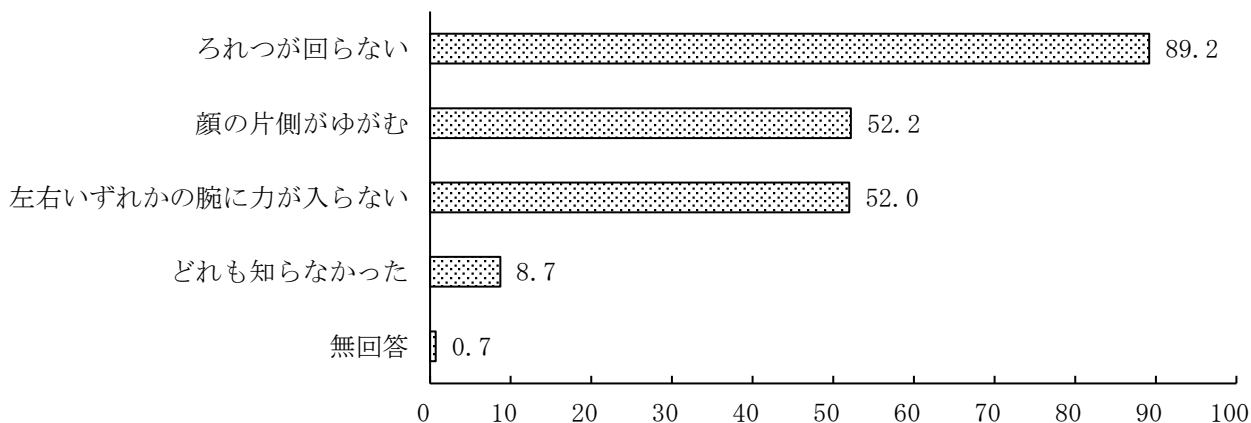
8 循環器病対策（問 20～問 22）

県では、循環器病（脳卒中や心疾患など）の未病改善や正しい知識の普及啓発、保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実などに取り組んでいます。今回、脳卒中の主な初期症状の認知度などについて調査しました。

▼脳卒中の主な初期症状の認知度（問 20）

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が89.2%で最も多く、次いで「顔の片側がゆがむ」が52.2%であった。〔図表 8〕

図表 8 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）（n=1,698）（%）



9 依存症に対する意識（問 23～問 24）

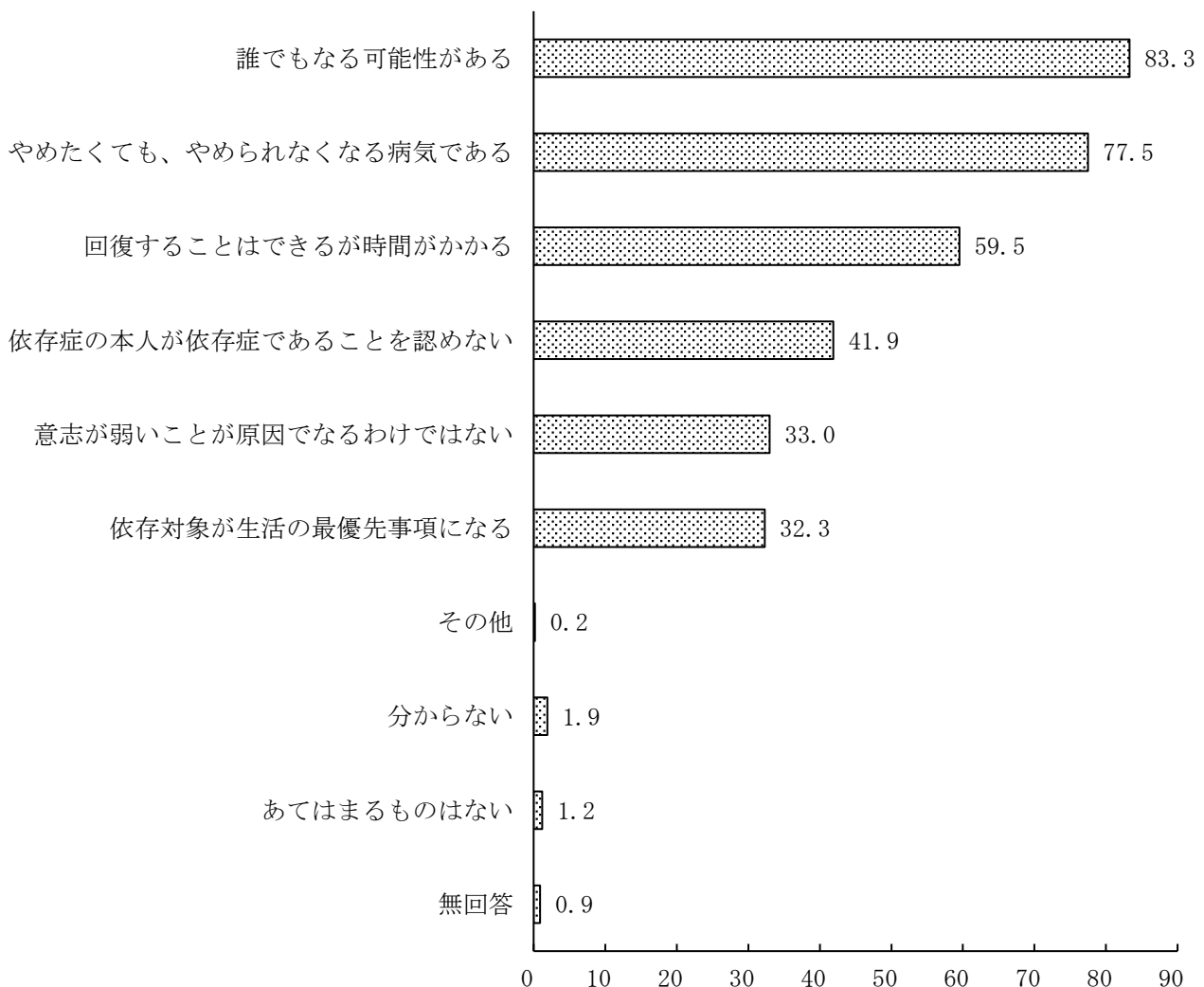
県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する普及啓発、相談支援体制や治療、回復支援体制の強化、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症について、あてはまると思うことなどについて調査しました。

▼依存症について、あてはまると思うこと（問 23）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 83.3%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 77.5%であった。

[図表 9]

図表 9 依存症について、あてはまると思うこと（複数回答）（n=1,698）（%）



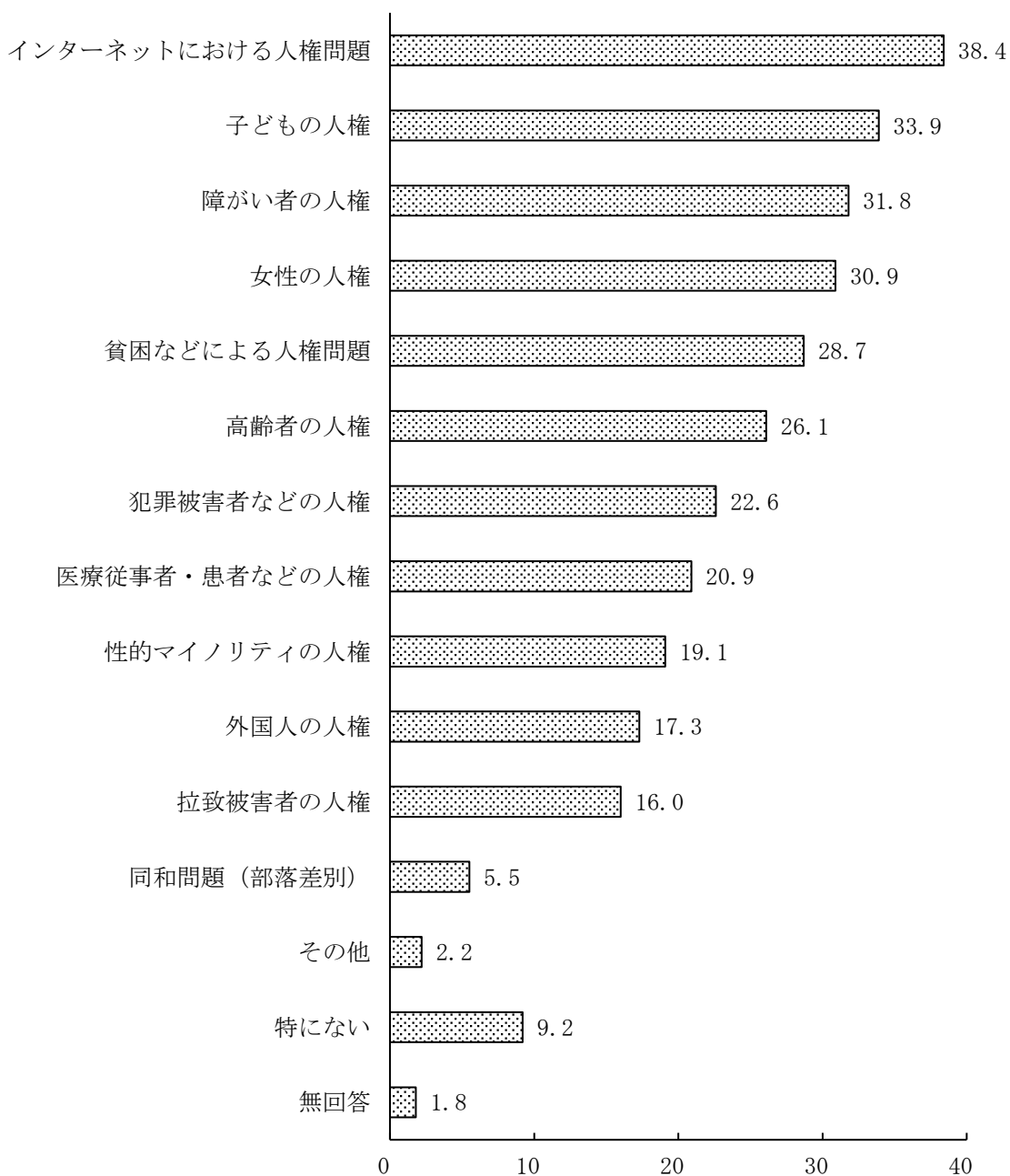
10 かながわの人権（問 25～問 27）

県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（問 26）

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が38.4%で最も多く、次いで「子どもの人権」が33.9%であった。〔図表 10〕

図表 10 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,698）（%）



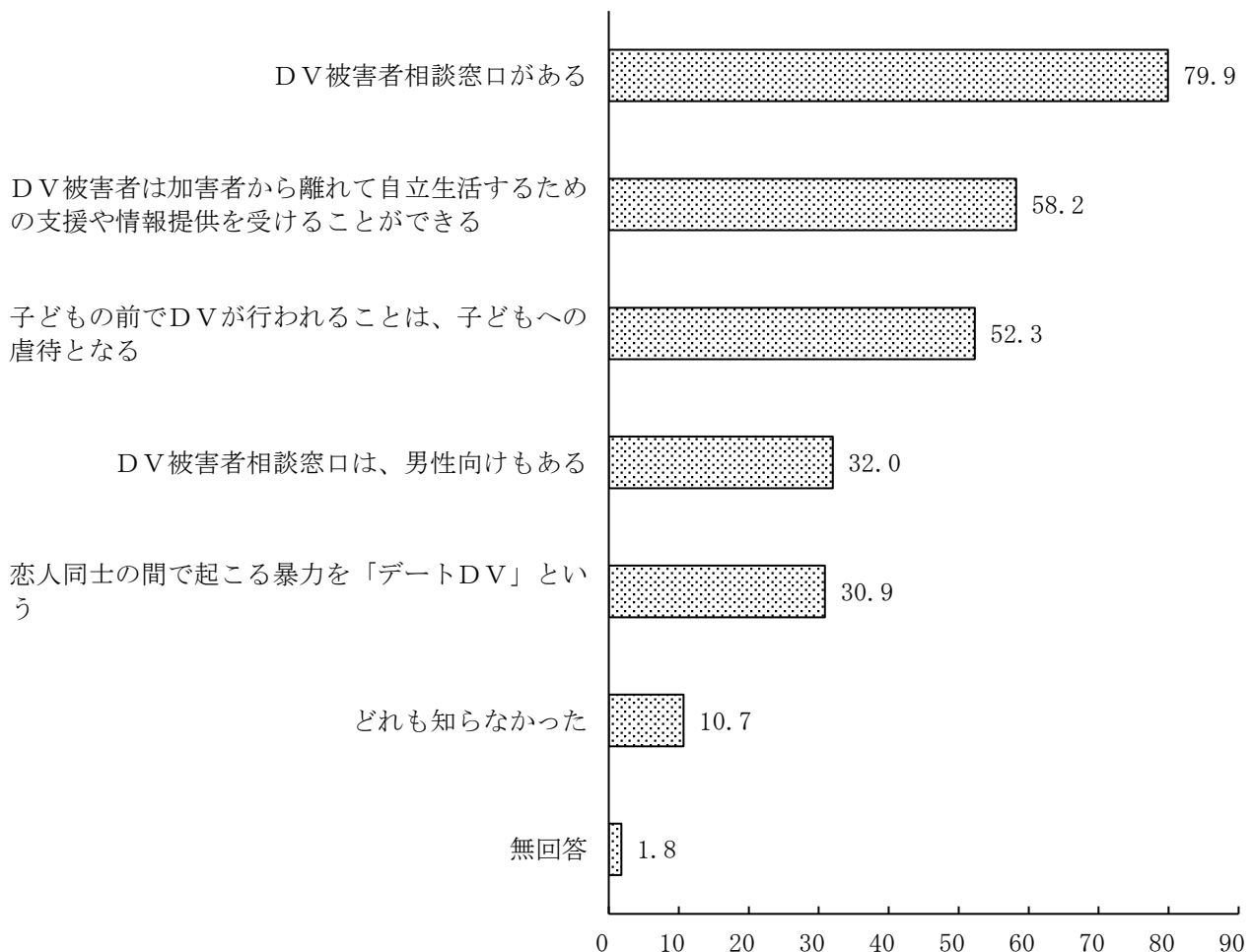
11 配偶者等からの暴力（問 28）

県では、「かながわ困難な問題を抱える女性等支援計画」に基づき、DV・ストーカー被害者への支援の充実に加え、DV防止の取組みの強化を図っています。今回、配偶者等からの暴力（DV）について知っていたことについて調査しました。

▼配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（問 28）

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が79.9%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が58.2%であった。[図表 11]

図表 11 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）（n=1,698）（%）



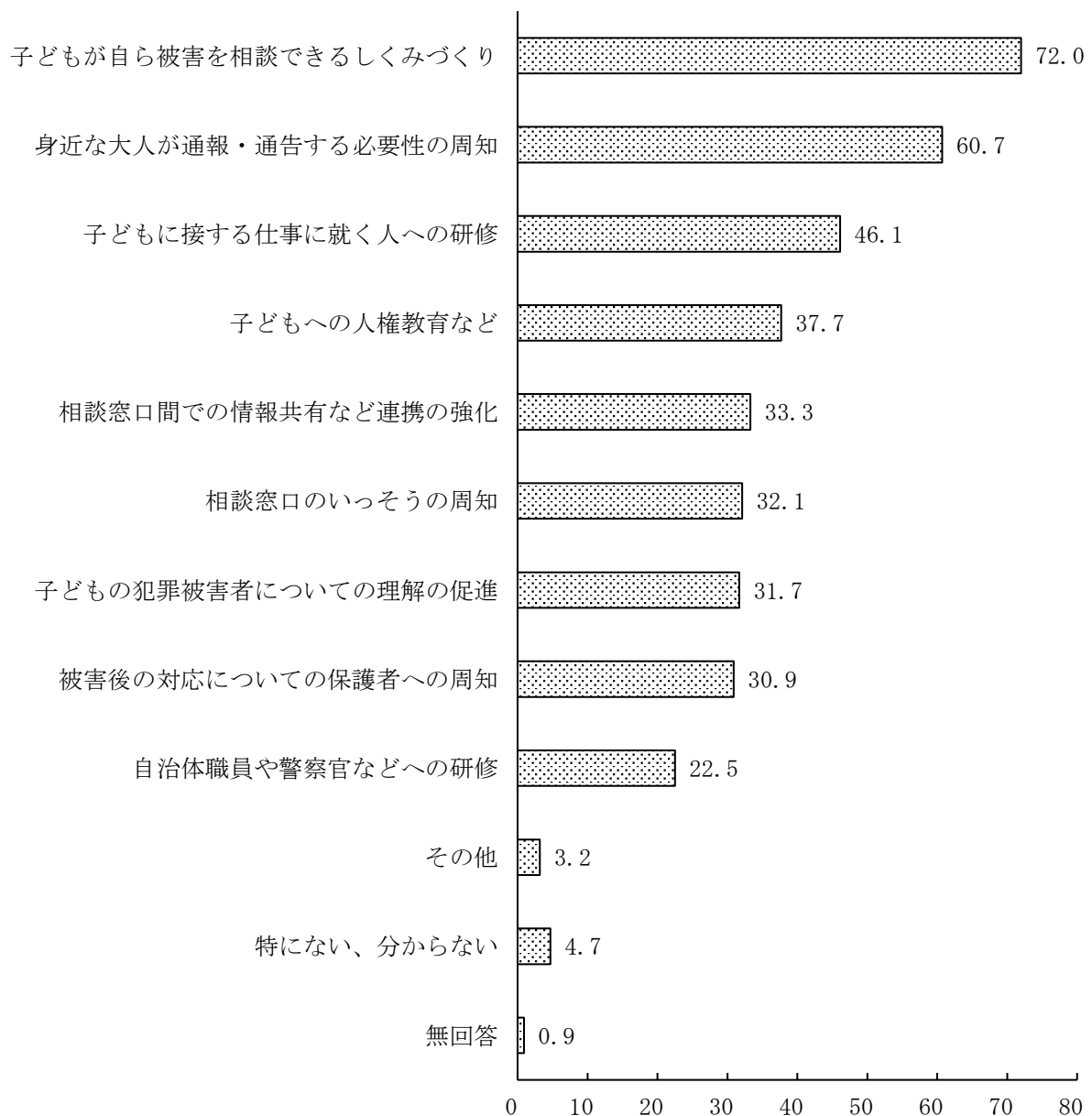
12 犯罪被害者等への支援（問 29～問 31）

県では、犯罪被害者等を温かく支える地域社会を目指して、支援・施策の充実に取り組んでいます。今回、犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みなどについて調査しました。

▼犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み（問 31）

犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みについて複数回答で尋ねたところ、「子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり」が72.0%で最も多く、次いで「身近な大人が通報・通告する必要性の周知」が60.7%であった。〔図表 12〕

図表 12 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み
（複数回答）（n=1,698）（%）



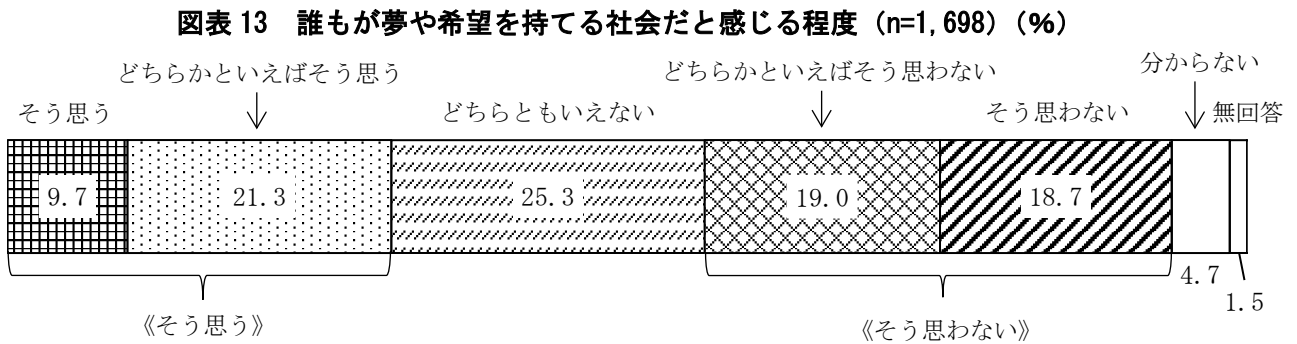
13 生活に不安や課題がある人への支援（問 32～問 34）

県では、多様な担い手と連携し、生きづらさ・くらしにくさを抱えながら、声を上げない・上げられない方に積極的にアプローチし、早期に相談や地域の支援につなげる取組みなどを推進し、誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくりに取り組んでいます。今回、誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度などについて調査しました。

▼誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（問 32）

私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」（9.7%）と「どちらかといえばそう思う」（21.3%）を合わせた《そう思う》は30.9%であった。

一方、「そう思わない」（18.7%）と「どちらかといえばそう思わない」（19.0%）を合わせた《そう思わない》は37.7%であった。[図表 13]



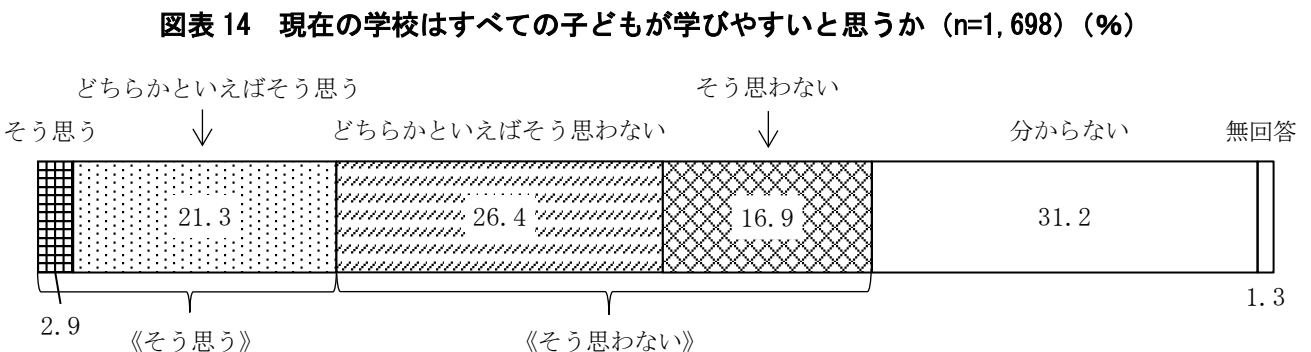
14 インクルーシブ教育（問 35～問 37）

県では、共生社会の実現に向け、すべての子どもが同じ場でともに学びともに育つことを目指して、インクルーシブ教育を推進し、すべての子どもにとって学びやすい学校づくりに取り組んでいます。今回、現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うかなどについて調査しました。

▼現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか（問 36）

現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」（2.9%）と「どちらかといえばそう思う」（21.3%）を合わせた《そう思う》は24.3%であった。

一方、「そう思わない」（16.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（26.4%）を合わせた《そう思わない》は43.3%であった。[図表 14]



15 かながわの広報（問 38～問 40）

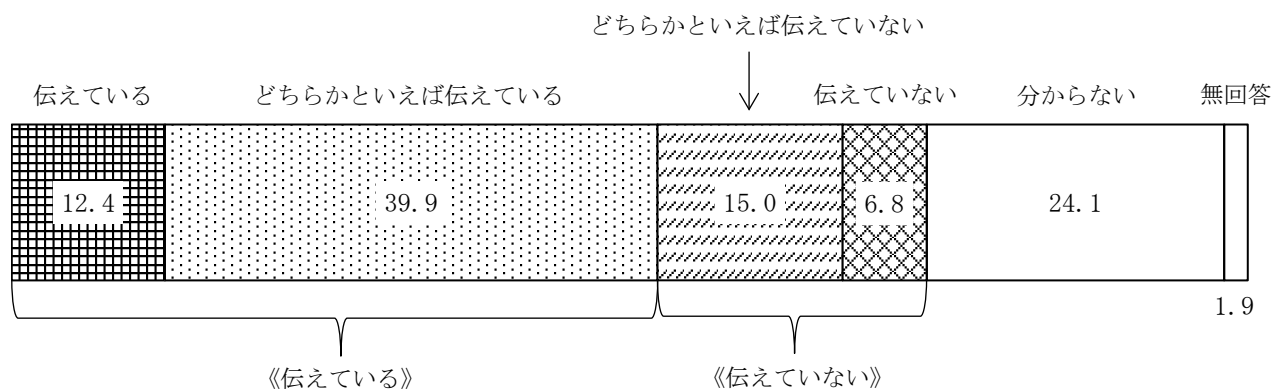
県では、「県のたより」などの広報紙や県広報テレビ・ラジオ番組、ホームページ、ソーシャルメディアなどを通じて、様々な県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

▼県の広報の達成度（問 38）

県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（12.4%）と「どちらかといえば伝えている」（39.9%）を合わせた《伝えている》は52.3%であった。

一方、「伝えていない」（6.8%）と「どちらかといえば伝えていない」（15.0%）を合わせた《伝えていない》は21.7%であった。[図表 15]

図表 15 県の広報の達成度（n=1,698）（%）



第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 かながわの文化芸術【問1～問3】

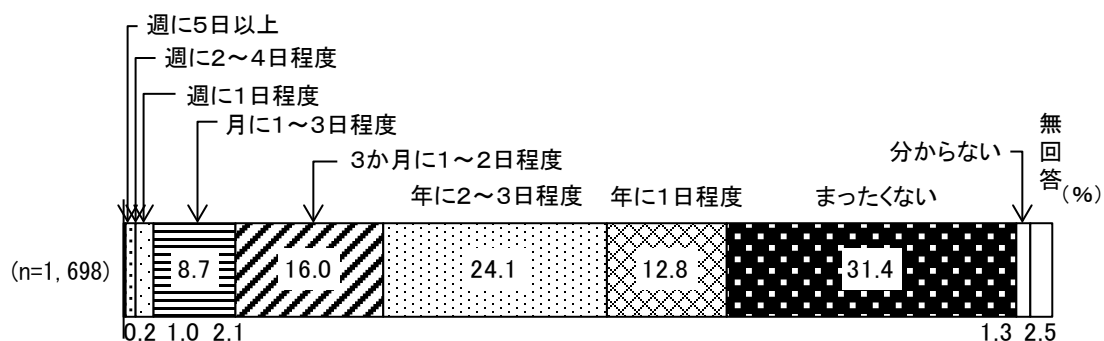
1 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数【問1】

【全体の状況】

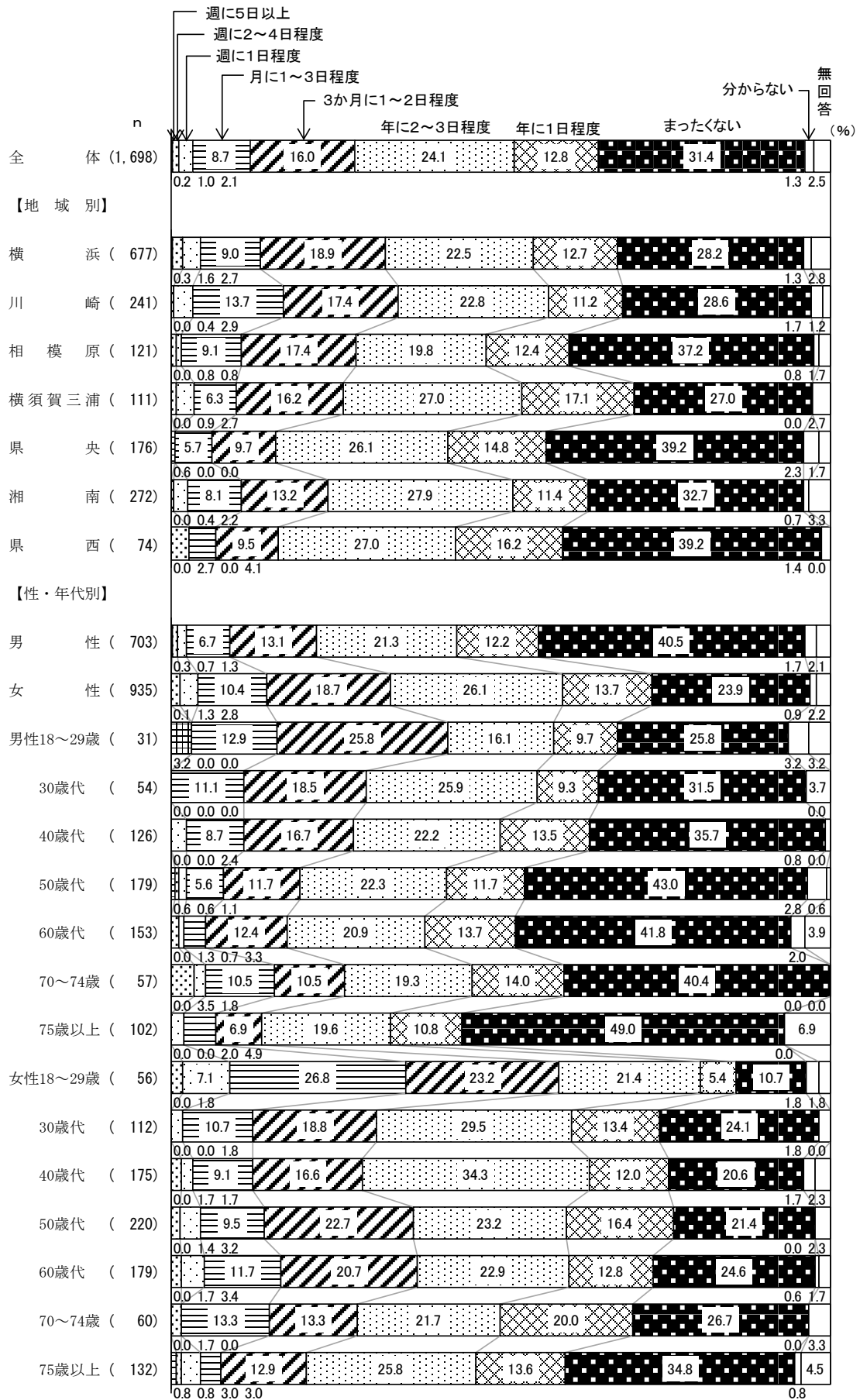
この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加した日数はどのくらいになるか尋ねたところ、「まったくない」が31.4%で最も多く、次いで「年に2～3日程度」が24.1%であった。

(図表1-1-1)

図表1-1-1 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数



図表1-1-2 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数—地域別、性・年代別

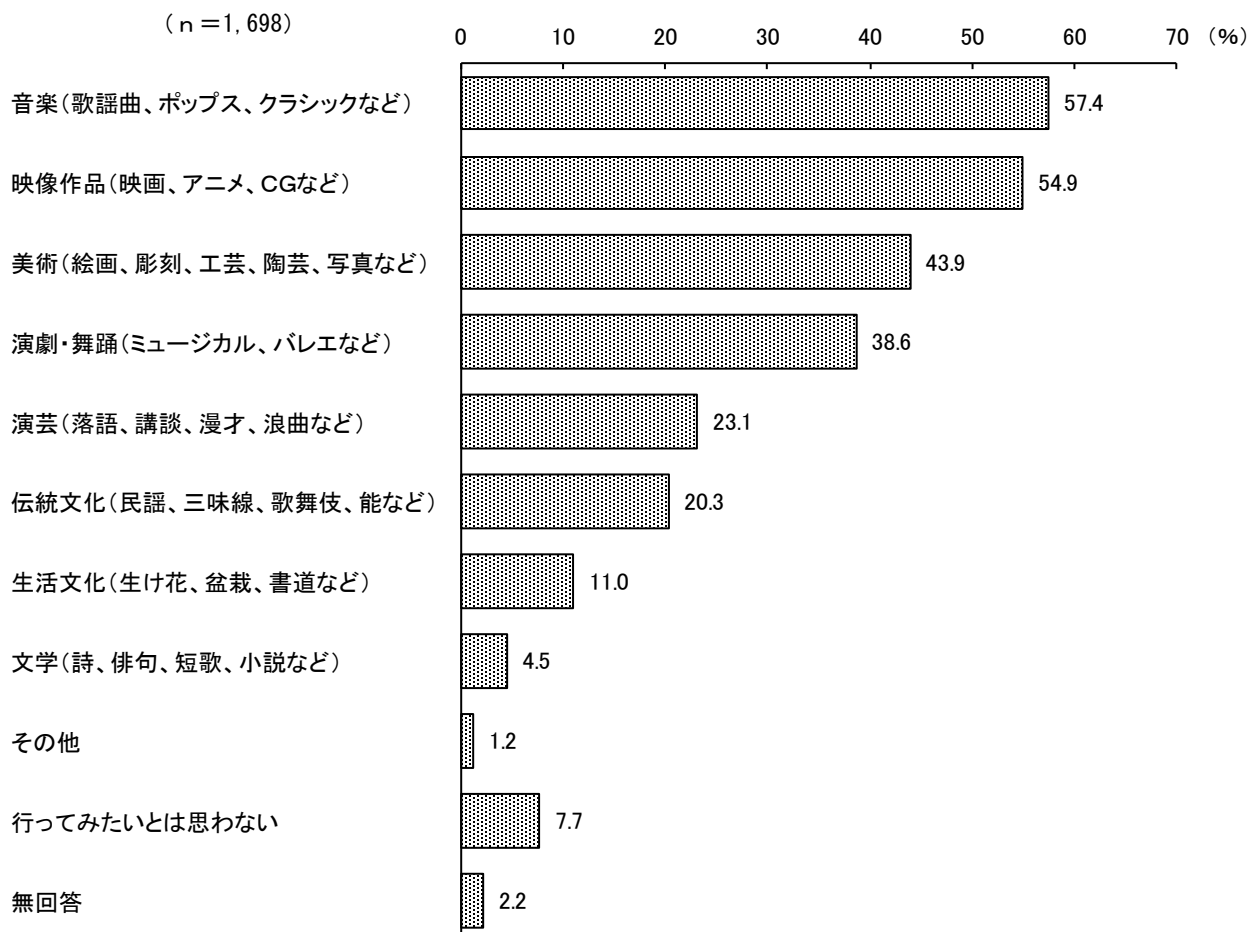


2 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル【問2】

【全体の状況】

ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンルについて複数回答で尋ねたところ、「音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）」が57.4%で最も多く、次いで「映像作品（映画、アニメ、CGなど）」が54.9%であった。（図表1-2-1）

図表1-2-1 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル（複数回答）



図表1-2-2 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	映像作品（映画、アニメ、CGなど）	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	生活文化（生け花、盆栽、書道など）	文学（詩、俳句、短歌、小説など）	その他	行ってみたいとは思わない	無回答
全体	1,698	57.4	54.9	43.9	38.6	23.1	20.3	11.0	4.5	1.2	7.7	2.2
【地域別】												
横浜	677	58.3	56.1	46.5	39.7	25.7	22.0	10.5	4.1	1.0	6.8	2.5
川崎	241	57.7	60.6	50.6	40.7	21.6	18.3	11.2	5.8	1.7	7.9	1.2
相模原	121	52.9	61.2	40.5	42.1	19.8	19.0	12.4	5.0	1.7	5.0	1.7
横須賀三浦	111	56.8	56.8	48.6	42.3	19.8	21.6	11.7	8.1	2.7	5.4	2.7
県央	176	57.4	47.2	33.5	31.8	17.0	16.5	12.5	3.4	1.1	10.8	1.7
湘南	272	58.1	50.7	40.1	37.9	23.5	21.7	9.9	4.0	1.1	8.8	2.2
県西	74	59.5	54.1	37.8	29.7	27.0	17.6	12.2	2.7	-	8.1	-
【性・年代別】												
男性	703	51.6	54.3	36.8	20.6	25.2	13.2	5.8	3.6	1.0	11.5	2.0
女性	935	61.9	55.9	49.8	52.3	21.4	25.5	14.8	5.3	1.5	4.4	2.1
男性18～29歳	31	51.6	64.5	41.9	25.8	25.8	12.9	9.7	12.9	-	-	3.2
30歳代	54	55.6	74.1	35.2	27.8	18.5	13.0	3.7	3.7	1.9	5.6	-
40歳代	126	58.7	61.9	37.3	27.0	24.6	13.5	7.1	2.4	-	12.7	-
50歳代	179	52.0	61.5	27.4	29.6	22.9	12.3	7.3	1.7	1.1	10.6	0.6
60歳代	153	52.3	49.7	41.8	16.3	24.8	13.7	3.9	1.3	0.7	13.1	3.9
70～74歳	57	56.1	42.1	50.9	5.3	29.8	15.8	3.5	7.0	1.8	8.8	-
75歳以上	102	37.3	33.3	37.3	6.9	31.4	12.7	5.9	6.9	2.0	16.7	5.9
女性18～29歳	56	55.4	73.2	41.1	60.7	23.2	16.1	5.4	7.1	-	1.8	1.8
30歳代	112	62.5	70.5	42.9	65.2	19.6	21.4	13.4	3.6	0.9	5.4	0.9
40歳代	175	70.3	67.4	44.6	54.3	17.1	25.7	10.9	4.0	1.7	4.0	2.3
50歳代	220	68.2	57.3	52.7	55.9	24.1	26.8	12.7	5.0	1.4	4.1	2.3
60歳代	179	62.0	49.7	50.8	53.6	21.8	23.5	20.7	4.5	2.2	2.8	2.2
70～74歳	60	58.3	36.7	65.0	36.7	26.7	33.3	11.7	5.0	-	5.0	1.7
75歳以上	132	44.7	35.6	53.0	34.1	20.5	29.5	21.2	9.8	2.3	7.6	3.0

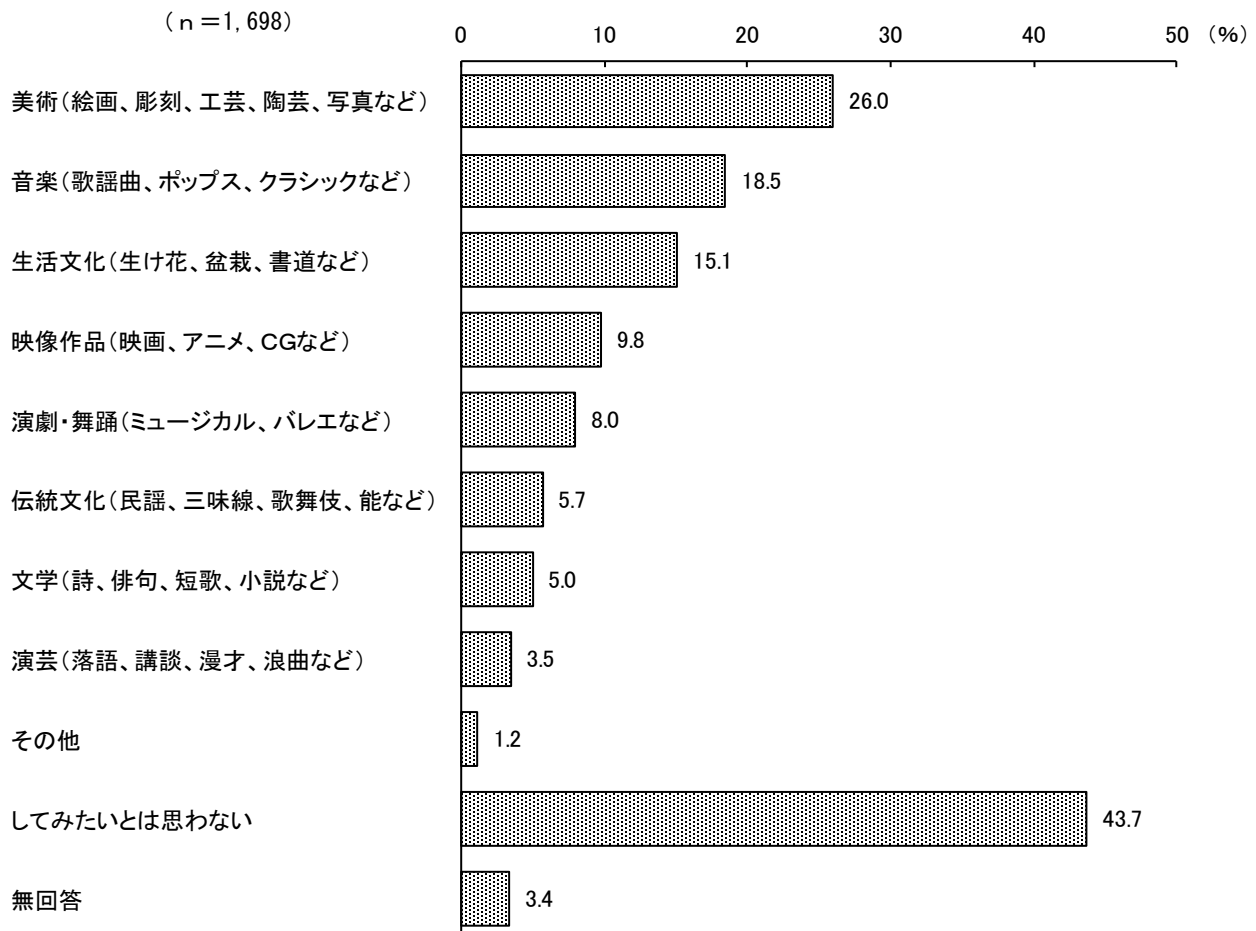
3 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル【問3】

【全体の状況】

文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンルについて複数回答で尋ねたところ、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）」が26.0%で最も多く、次いで「音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）」が18.5%であった。

一方、「してみたいとは思わない」が43.7%であった。（図表1-3-1）

図表1-3-1 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル（複数回答）



図表1-3-2 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	生活文化（生け花、盆栽、書道など）	映像作品（映画、アニメ、CGなど）	演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	文学（詩、俳句、短歌、小説など）	演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	その他	してみたいとは思わない	無回答
全体	1,698	26.0	18.5	15.1	9.8	8.0	5.7	5.0	3.5	1.2	43.7	3.4
【地域別】												
横浜	677	26.3	19.1	14.5	9.5	8.4	5.5	3.8	3.0	1.0	43.1	4.1
川崎	241	29.5	18.3	17.4	10.8	8.7	5.8	7.5	4.6	1.2	41.1	1.2
相模原	121	25.6	19.8	19.0	13.2	8.3	7.4	4.1	1.7	1.7	40.5	2.5
横須賀三浦	111	25.2	20.7	17.1	6.3	8.1	9.9	9.0	8.1	1.8	45.0	2.7
県央	176	21.6	17.6	11.4	11.4	5.7	4.0	4.5	2.8	1.1	47.2	4.5
湘南	272	24.6	17.6	15.4	9.2	8.5	4.8	4.4	3.3	1.5	45.6	2.2
県西	74	29.7	16.2	13.5	9.5	5.4	4.1	6.8	2.7	1.4	41.9	5.4
【性・年代別】												
男性	703	23.6	18.6	7.8	12.8	3.7	4.3	4.3	4.8	1.1	48.9	2.7
女性	935	28.0	18.9	20.7	7.9	11.6	6.3	5.8	2.6	1.2	39.3	3.7
男性18～29歳	31	25.8	32.3	22.6	29.0	3.2	6.5	9.7	6.5	-	29.0	3.2
30歳代	54	22.2	22.2	7.4	22.2	5.6	1.9	7.4	5.6	3.7	44.4	-
40歳代	126	25.4	23.0	7.1	15.1	8.7	3.2	3.2	4.8	0.8	51.6	-
50歳代	179	20.1	16.2	8.9	14.5	3.9	5.0	2.2	6.7	0.6	55.3	1.1
60歳代	153	22.9	15.7	5.2	10.5	1.3	4.6	3.3	1.3	1.3	51.6	3.3
70～74歳	57	29.8	21.1	7.0	5.3	1.8	7.0	10.5	3.5	-	40.4	5.3
75歳以上	102	25.5	14.7	6.9	4.9	1.0	2.9	3.9	6.9	2.0	43.1	7.8
女性18～29歳	56	28.6	26.8	21.4	16.1	16.1	7.1	8.9	1.8	-	35.7	1.8
30歳代	112	31.3	25.0	17.0	18.8	22.3	7.1	4.5	2.7	0.9	33.0	0.9
40歳代	175	32.0	15.4	19.4	9.1	9.1	8.0	4.0	3.4	0.6	43.4	3.4
50歳代	220	36.8	24.5	22.3	7.3	15.5	7.7	5.0	3.2	0.9	33.2	2.3
60歳代	179	23.5	15.1	23.5	4.5	8.9	4.5	5.0	1.7	2.2	41.3	2.2
70～74歳	60	18.3	10.0	20.0	3.3	5.0	5.0	6.7	1.7	-	46.7	8.3
75歳以上	132	15.9	15.2	19.7	1.5	3.8	3.8	9.8	2.3	2.3	43.9	9.8

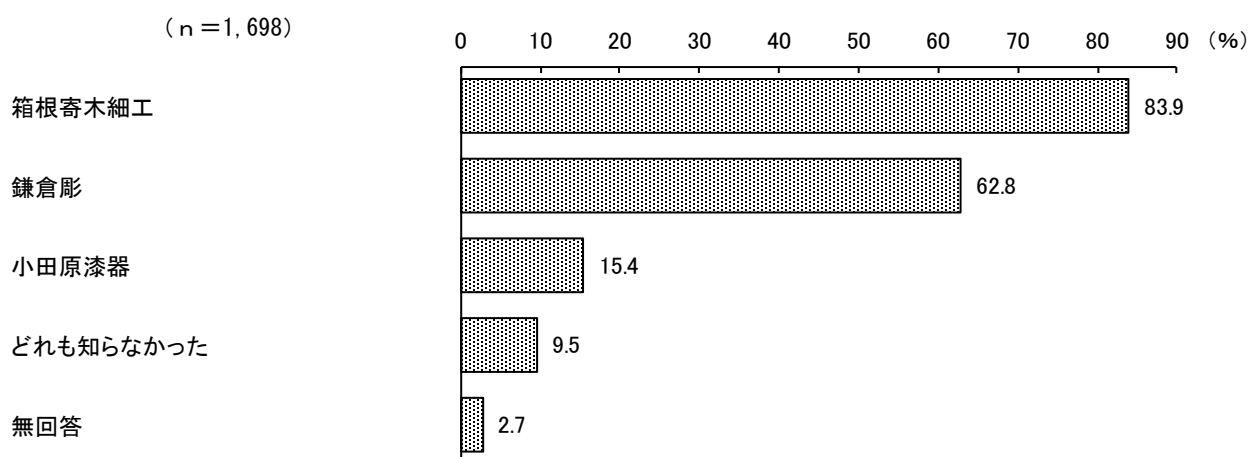
第2章 伝統的工芸品【問4～問5-1】

1 県の伝統的工芸品の認知度【問4】

【全体の状況】

県の伝統的工芸品のうち、知っているものについて複数回答で尋ねたところ、「箱根寄木細工」が83.9%で最も多く、次いで「鎌倉彫」が62.8%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 県の伝統的工芸品の認知度（複数回答）



図表2-1-2 県の伝統的工芸品の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	箱根寄木細工	鎌倉彫	小田原漆器	どれも知らなかった	無回答
全体	1,698	83.9	62.8	15.4	9.5	2.7
【地域別】						
横浜	677	82.4	65.4	12.0	10.5	3.2
川崎	241	80.5	50.6	13.3	14.9	1.7
相模原	121	75.2	53.7	19.0	13.2	1.7
横須賀三浦	111	83.8	84.7	14.4	3.6	1.8
県央	176	88.6	60.2	11.9	6.8	2.3
湘南	272	89.0	66.9	19.9	6.6	2.2
県西	74	94.6	51.4	37.8	2.7	2.7
【性・年代別】						
男性	703	81.1	57.5	15.4	12.4	2.1
女性	935	85.9	66.5	15.2	7.6	2.8
男性18～29歳	31	67.7	32.3	22.6	22.6	3.2
30歳代	54	63.0	20.4	3.7	35.2	-
40歳代	126	74.6	38.9	15.9	19.8	-
50歳代	179	83.8	57.5	20.1	10.6	0.6
60歳代	153	85.0	65.4	12.4	7.8	3.9
70～74歳	57	94.7	80.7	19.3	-	1.8
75歳以上	102	84.3	82.4	12.7	4.9	5.9
女性18～29歳	56	73.2	23.2	10.7	17.9	1.8
30歳代	112	77.7	24.1	16.1	20.5	-
40歳代	175	81.7	52.6	14.3	11.4	2.9
50歳代	220	88.2	70.9	13.6	5.5	3.6
60歳代	179	91.6	89.4	16.2	1.7	2.2
70～74歳	60	90.0	85.0	16.7	3.3	3.3
75歳以上	132	90.2	92.4	17.4	0.8	4.5

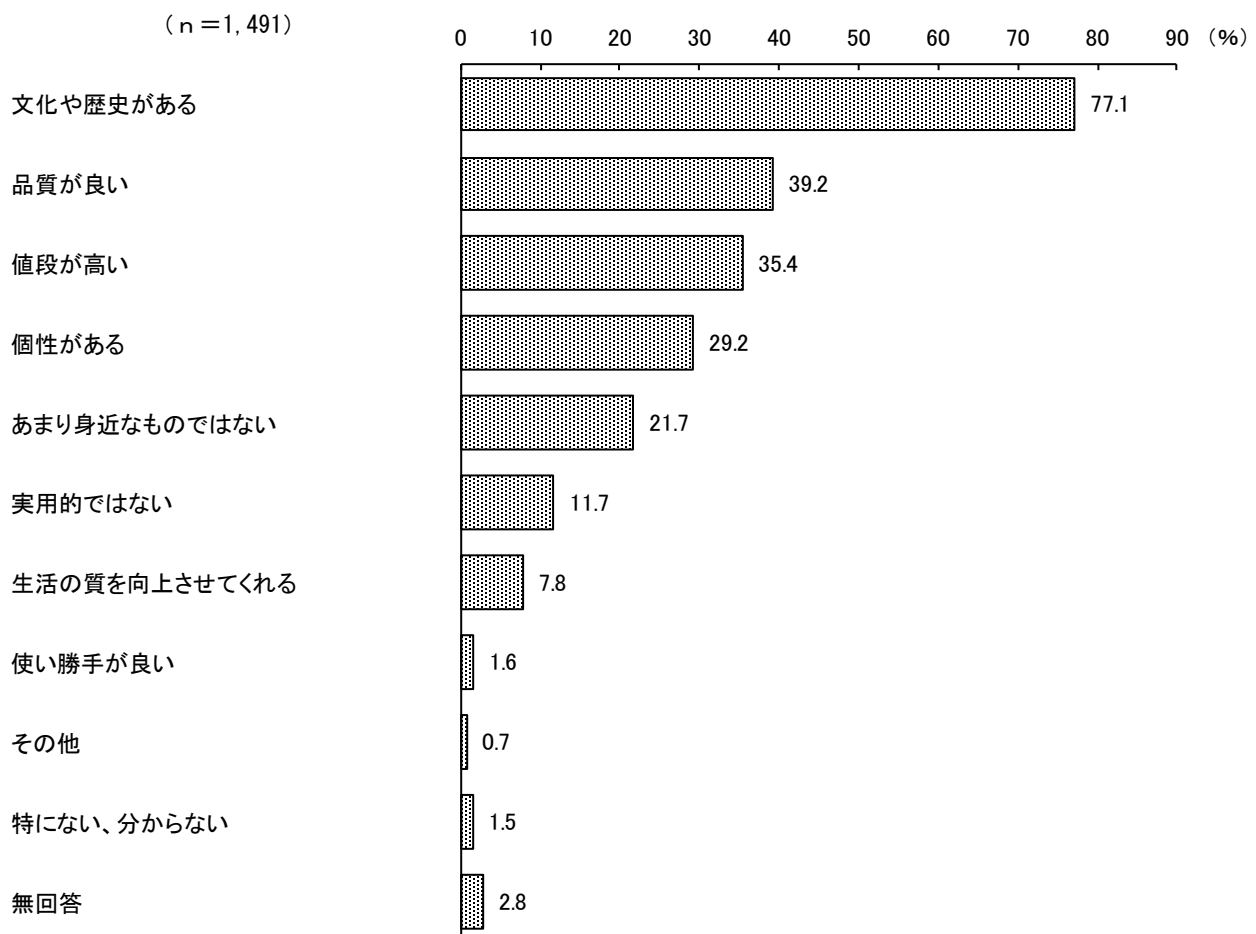
2 伝統的工芸品のイメージ【問4-1】

【全体の状況】

県の伝統的工芸品の認知度（問4）で、「鎌倉彫」、「箱根寄木細工」、「小田原漆器」のいずれかを知っていると回答した1,491人に、伝統的工芸品にどのようなイメージがあるか複数回答で尋ねたところ、「文化や歴史がある」が77.1%で最も多く、次いで「品質が良い」が39.2%であった。

（図表2-2-1）

図表2-2-1 伝統的工芸品のイメージ（複数回答）



図表2-2-2 伝統的工芸品のイメージ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	文化や歴史がある	品質が良い	値段が高い	個性がある	あまり身近なものではない	実用的ではない	生活の質を向上させてくれる	使い勝手が良い	その他	特にない、分からない	無回答
全体	1,491	77.1	39.2	35.4	29.2	21.7	11.7	7.8	1.6	0.7	1.5	2.8
【地域別】												
横浜	584	80.7	41.3	36.8	28.4	21.4	11.8	8.0	0.9	0.3	1.2	3.6
川崎	201	76.1	36.8	32.8	29.9	23.9	11.4	7.0	1.5	1.5	1.0	3.0
相模原	103	73.8	35.0	24.3	32.0	28.2	10.7	5.8	-	1.0	1.0	3.9
横須賀三浦	105	72.4	34.3	38.1	29.5	24.8	17.1	8.6	-	1.0	1.9	1.0
県央	160	75.6	37.5	35.0	26.9	18.8	10.6	7.5	2.5	-	4.4	1.3
湘南	248	74.2	41.1	33.5	28.6	20.6	10.5	8.5	4.4	1.2	1.2	2.8
県西	70	74.3	42.9	50.0	34.3	14.3	12.9	7.1	1.4	1.4	-	-
【性・年代別】												
男性	601	71.0	33.6	28.3	31.8	25.5	11.3	5.2	1.3	0.7	2.5	2.2
女性	838	81.5	43.4	40.6	27.0	19.5	12.1	9.5	1.9	0.8	0.8	3.1
男性18～29歳	23	65.2	34.8	21.7	52.2	39.1	13.0	8.7	-	-	4.3	-
30歳代	35	60.0	34.3	31.4	25.7	40.0	11.4	5.7	-	2.9	5.7	2.9
40歳代	101	72.3	32.7	30.7	36.6	29.7	13.9	2.0	3.0	2.0	3.0	-
50歳代	159	74.8	34.0	25.2	25.8	25.2	10.7	3.8	0.6	-	2.5	2.5
60歳代	135	69.6	30.4	31.9	38.5	25.2	11.1	4.4	-	0.7	1.5	1.5
70～74歳	56	69.6	39.3	30.4	19.6	19.6	5.4	5.4	3.6	-	3.6	3.6
75歳以上	91	72.5	35.2	25.3	31.9	16.5	12.1	11.0	2.2	-	1.1	4.4
女性18～29歳	45	77.8	31.1	28.9	28.9	17.8	8.9	2.2	2.2	-	4.4	2.2
30歳代	89	76.4	42.7	39.3	21.3	27.0	10.1	6.7	3.4	-	1.1	1.1
40歳代	150	82.7	42.7	40.0	25.3	22.7	14.0	9.3	0.7	2.0	1.3	3.3
50歳代	200	84.0	44.0	40.0	28.5	22.0	17.0	9.5	1.5	1.0	-	1.5
60歳代	172	85.5	45.3	43.0	27.9	15.7	8.7	9.9	1.2	0.6	0.6	3.5
70～74歳	56	67.9	42.9	39.3	30.4	17.9	12.5	5.4	3.6	-	-	7.1
75歳以上	125	81.6	46.4	44.0	27.2	12.0	8.8	16.0	3.2	0.8	0.8	4.8

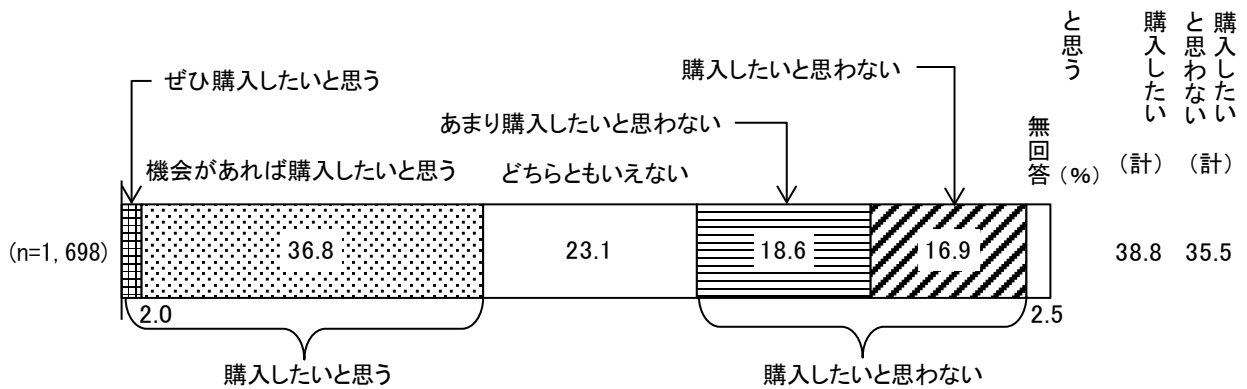
3 伝統的工芸品への購買意欲【問5】

【全体の状況】

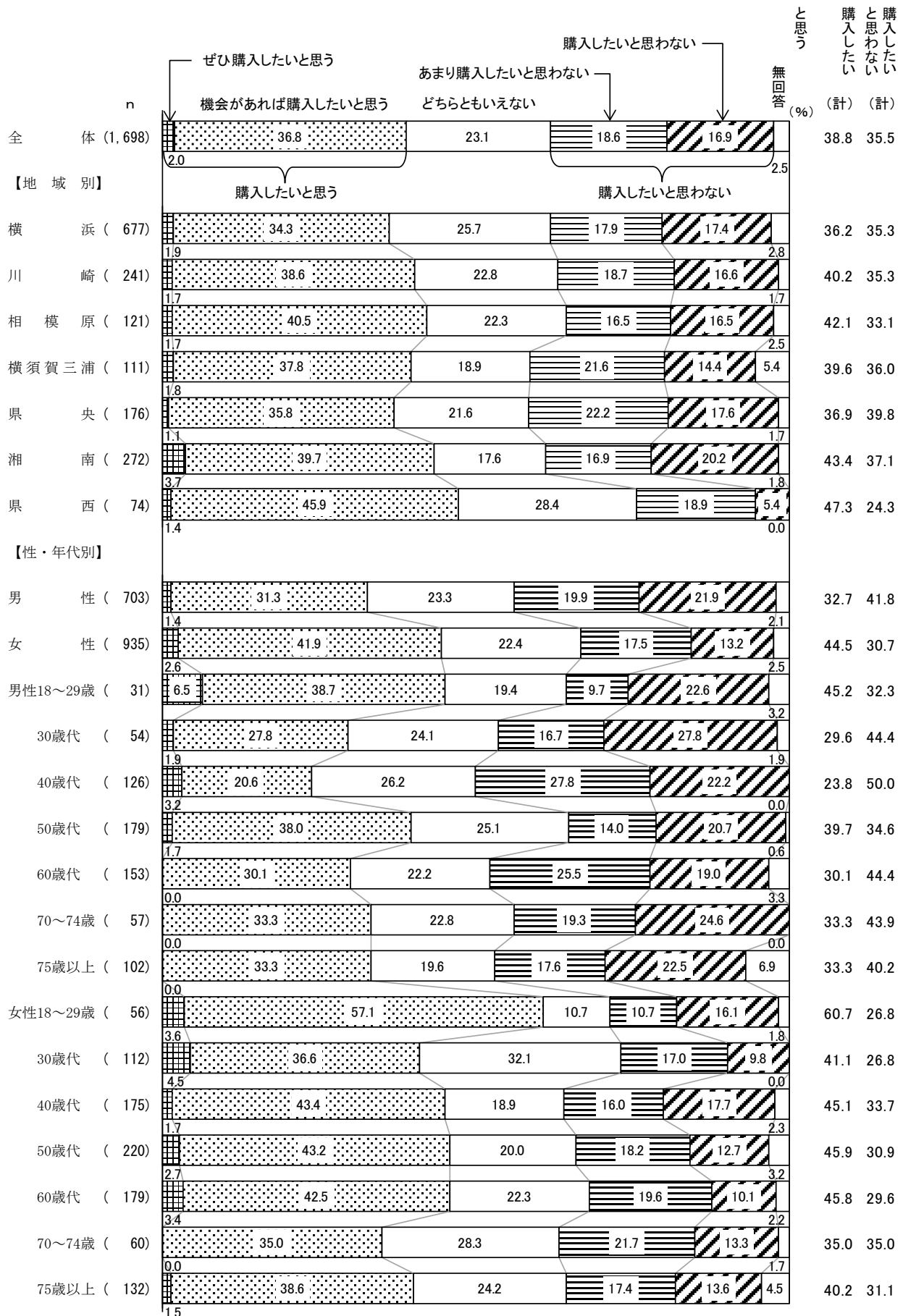
今後、伝統的工芸品を購入したいと思うか尋ねたところ、「ぜひ購入したいと思う」(2.0%)と「機会があれば購入したいと思う」(36.8%)を合わせた《購入したいと思う》は38.8%であった。

一方、「購入したいと思わない」(16.9%)と「あまり購入したいと思わない」(18.6%)を合わせた《購入したいと思わない》は35.5%であった。(図表2-3-1)

図表2-3-1 伝統的工芸品への購買意欲



図表2-3-2 伝統的工芸品への購買意欲—地域別、性・年代別



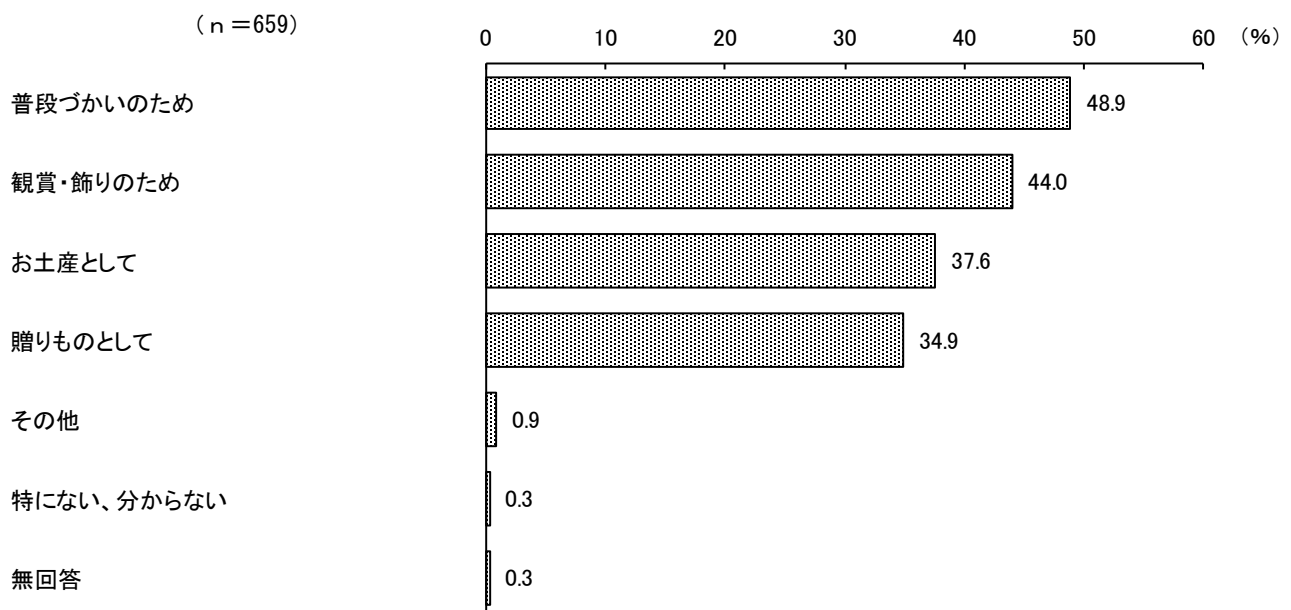
4 伝統的工芸品を購入する目的【問5-1】

【全体の状況】

伝統的工芸品への購買意欲（問5）で、「ぜひ購入したいと思う」または「機会があれば購入したいと思う」と回答した659人に、購入するとしたら何のためか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「普段づかいのため」が48.9%で最も多く、次いで「観賞・飾りのため」が44.0%であった。

（図表2-4-1）

図表2-4-1 伝統的工芸品を購入する目的（複数回答）



図表2-4-2 伝統的工芸品を購入する目的（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	普段づかいのため	観賞・飾りのため	お土産として	贈りものとして	その他	特にない、分からない	無回答
全 体	659	48.9	44.0	37.6	34.9	0.9	0.3	0.3
【地 域 別】								
横 浜	245	45.7	47.3	43.3	33.5	0.8	-	-
川 崎	97	49.5	42.3	40.2	30.9	1.0	1.0	-
相 模 原	51	45.1	47.1	37.3	27.5	-	-	-
横 須 賀 三 浦	44	52.3	36.4	29.5	40.9	-	2.3	2.3
県 央	65	46.2	43.1	33.8	40.0	-	-	-
湘 南	118	55.9	39.0	32.2	39.0	1.7	-	0.8
県 西	35	54.3	51.4	28.6	34.3	2.9	-	-
【性・年代別】								
男 性	230	41.3	52.6	36.1	32.6	0.4	-	0.4
女 性	416	53.4	39.7	38.2	35.8	1.2	0.5	0.2
男性18～29歳	14	28.6	50.0	57.1	64.3	-	-	-
30歳代	16	31.3	81.3	37.5	43.8	-	-	-
40歳代	30	50.0	50.0	36.7	30.0	3.3	-	3.3
50歳代	71	33.8	47.9	42.3	32.4	-	-	-
60歳代	46	47.8	56.5	37.0	30.4	-	-	-
70～74歳	19	47.4	42.1	21.1	31.6	-	-	-
75歳以上	34	47.1	52.9	20.6	20.6	-	-	-
女性18～29歳	34	32.4	50.0	47.1	35.3	-	-	2.9
30歳代	46	56.5	39.1	45.7	34.8	2.2	-	-
40歳代	79	40.5	46.8	50.6	38.0	-	-	-
50歳代	101	53.5	42.6	40.6	35.6	1.0	1.0	-
60歳代	82	69.5	31.7	30.5	31.7	-	1.2	-
70～74歳	21	52.4	23.8	33.3	38.1	14.3	-	-
75歳以上	53	58.5	35.8	17.0	39.6	-	-	-

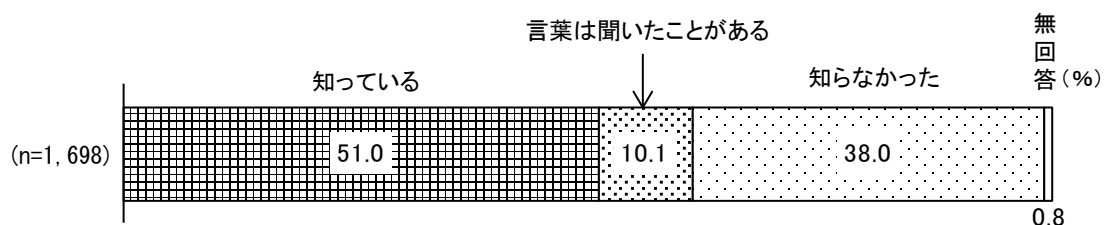
第3章 2027年国際園芸博覧会【問6～問7】

1 GREEN×EXPO 2027の認知度【問6】

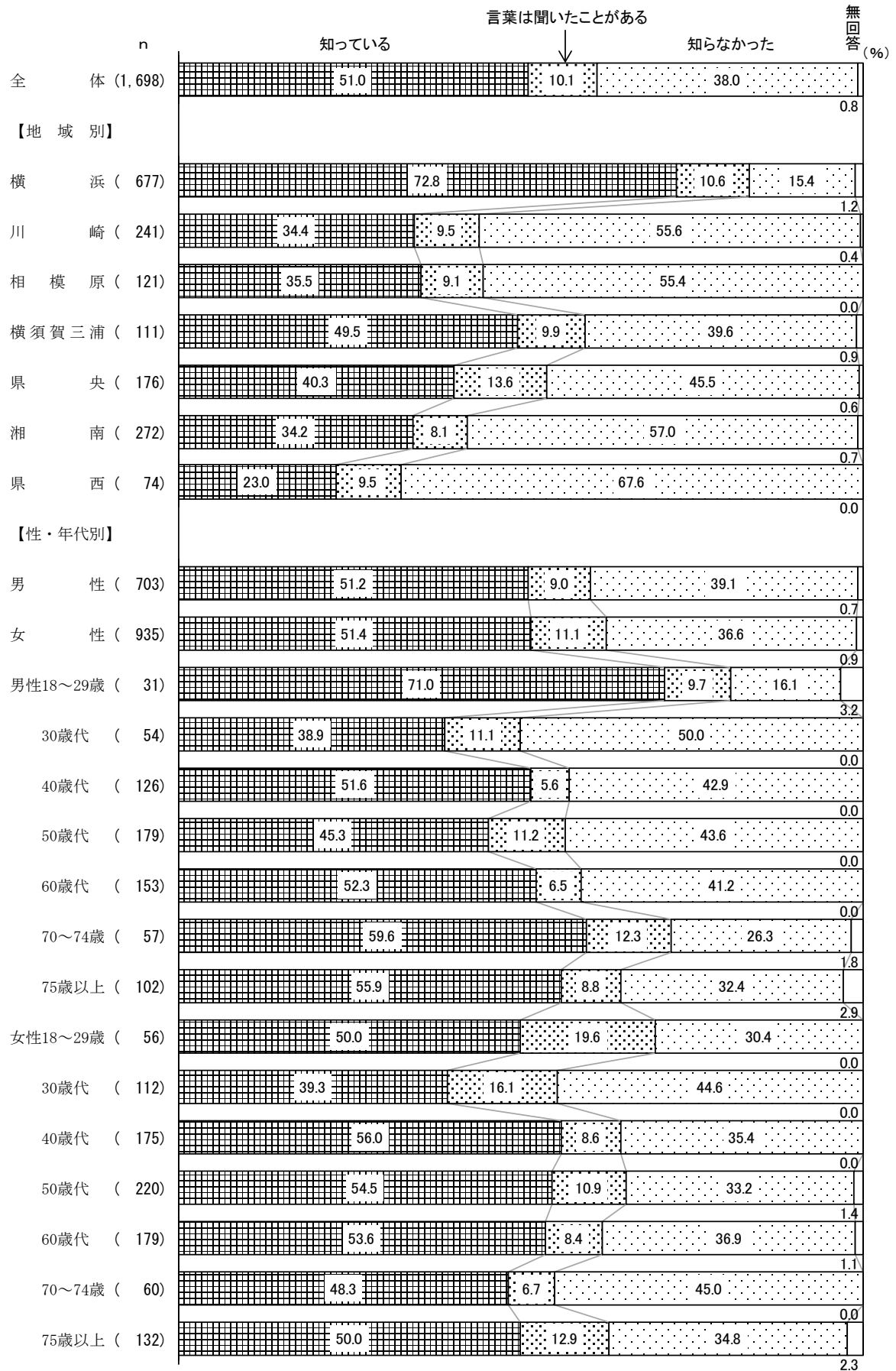
【全体の状況】

「2027年国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027）」が開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が51.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が10.1%であった。一方、「知らなかった」が38.0%であった。（図表3-1-1）

図表3-1-1 GREEN×EXPO 2027の認知度



図表3-1-2 GREEN×EXPO 2027の認知度—地域別、性・年代別



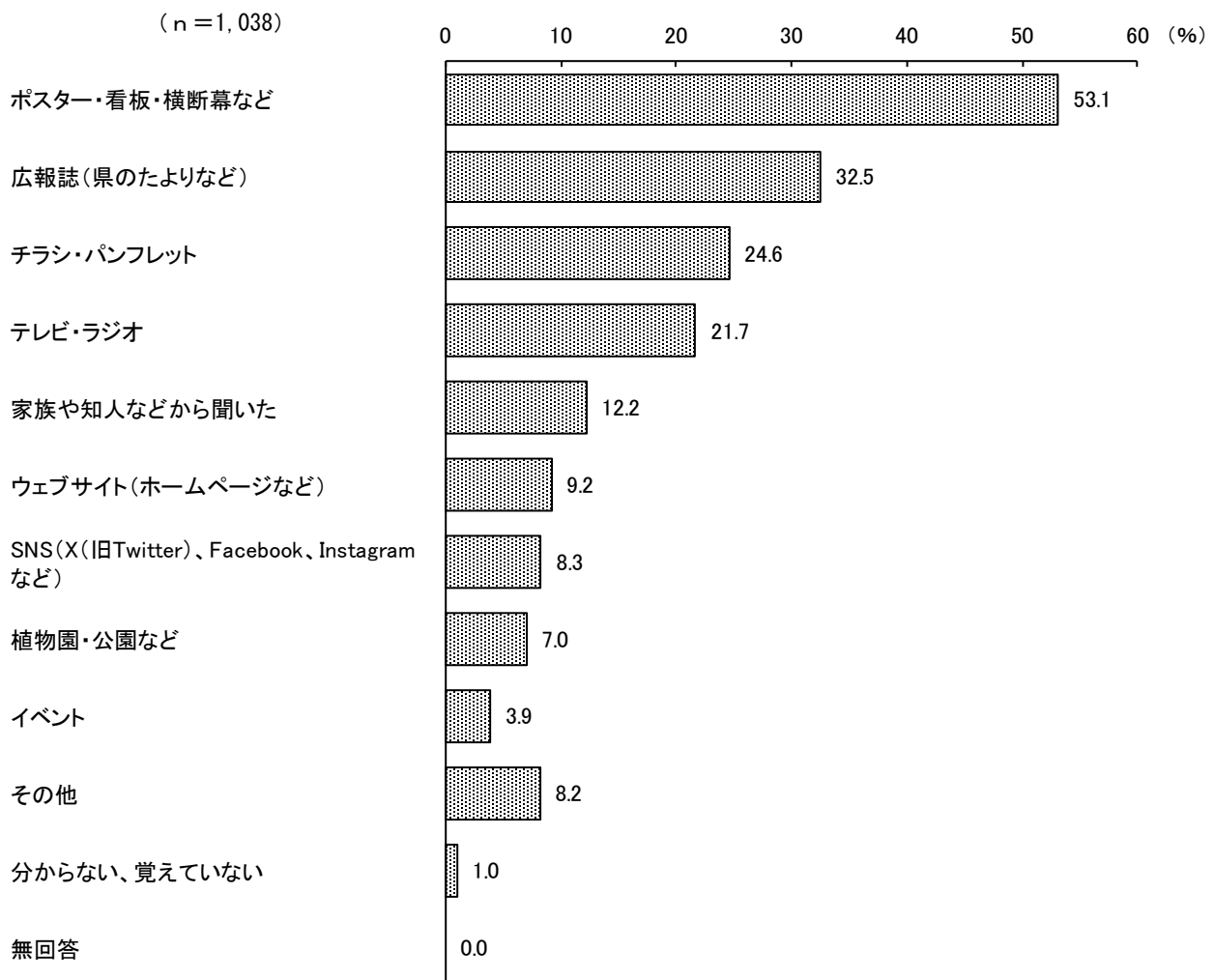
2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ【問6-1】

【全体の状況】

GREEN×EXPO 2027の認知度（問6）で、「知っている」または「言葉は聞いたことがある」と回答した1,038人に、GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけについて複数回答で尋ねたところ、「ポスター・看板・横断幕など」が53.1%で最も多く、次いで「広報誌（県のたよりなど）」が32.5%であった。

（図表3-2-1）

図表3-2-1 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ（複数回答）



図表3-2-2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

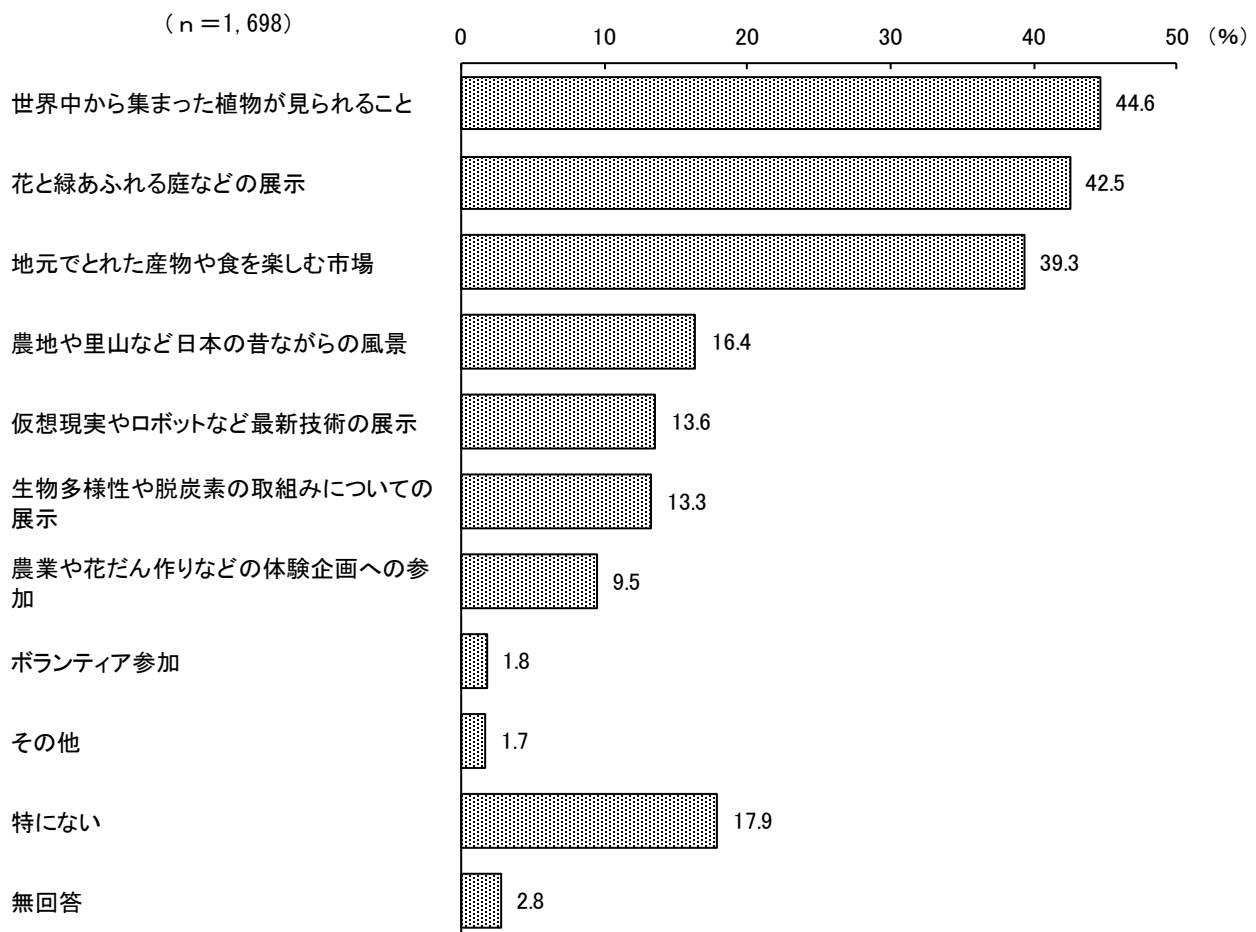
	n	ポスター・看板・横断幕など	広報誌（県のとよりなど）	チラシ・パンフレット	テレビ・ラジオ	家族や知人などから聞いた	ウェブサイト（ホームページなど）	Instagramなど	SNS（X（旧Twitter）、Facebook、Twitter、Instagramなど）	植物園・公園など	イベント	その他	分からない、覚えていない	無回答
全体	1,038	53.1	32.5	24.6	21.7	12.2	9.2	8.3	7.0	3.9	8.2	1.0	-	
【地域別】														
横浜	565	68.5	40.7	31.9	16.8	10.1	8.8	5.7	9.0	4.2	6.9	0.7	-	
川崎	106	36.8	16.0	17.0	26.4	15.1	10.4	13.2	4.7	5.7	10.4	0.9	-	
相模原	54	24.1	20.4	13.0	35.2	18.5	14.8	11.1	3.7	1.9	5.6	3.7	-	
横須賀三浦	66	42.4	19.7	12.1	22.7	10.6	9.1	9.1	4.5	3.0	9.1	1.5	-	
県央	95	37.9	22.1	16.8	24.2	13.7	11.6	10.5	2.1	1.1	12.6	1.1	-	
湘南	115	30.4	26.1	16.5	28.7	15.7	6.1	13.9	7.0	4.3	9.6	-	-	
県西	24	20.8	37.5	16.7	45.8	12.5	4.2	4.2	-	-	8.3	4.2	-	
【性・年代別】														
男性	423	53.0	31.2	27.0	24.1	10.6	12.5	7.6	5.2	4.3	8.3	1.7	-	
女性	585	53.8	33.2	23.1	20.0	12.8	7.0	8.9	8.2	3.6	8.0	0.5	-	
男性18～29歳	25	64.0	4.0	12.0	8.0	32.0	4.0	8.0	4.0	4.0	8.0	-	-	
30歳代	27	70.4	7.4	29.6	-	14.8	25.9	25.9	14.8	7.4	-	3.7	-	
40歳代	72	59.7	16.7	34.7	18.1	9.7	13.9	8.3	8.3	9.7	6.9	2.8	-	
50歳代	101	44.6	26.7	21.8	22.8	13.9	13.9	7.9	5.0	3.0	8.9	2.0	-	
60歳代	90	55.6	34.4	33.3	31.1	8.9	13.3	7.8	3.3	1.1	10.0	-	-	
70～74歳	41	46.3	48.8	26.8	46.3	4.9	9.8	4.9	2.4	4.9	9.8	2.4	-	
75歳以上	66	48.5	59.1	22.7	24.2	3.0	7.6	-	3.0	3.0	9.1	1.5	-	
女性18～29歳	39	61.5	7.7	12.8	10.3	17.9	2.6	15.4	10.3	-	2.6	2.6	-	
30歳代	62	61.3	12.9	17.7	6.5	8.1	8.1	16.1	12.9	8.1	8.1	-	-	
40歳代	113	58.4	20.4	27.4	15.0	15.0	7.1	12.4	9.7	4.4	10.6	0.9	-	
50歳代	144	56.3	30.6	18.8	20.1	11.8	9.7	10.4	8.3	4.2	10.4	0.7	-	
60歳代	111	55.9	43.2	28.8	16.2	16.2	6.3	4.5	6.3	2.7	6.3	-	-	
70～74歳	33	42.4	51.5	30.3	33.3	3.0	6.1	3.0	6.1	3.0	6.1	-	-	
75歳以上	83	36.1	61.4	22.9	41.0	12.0	4.8	1.2	4.8	1.2	6.0	-	-	

3 GREEN×EXPO 2027に期待すること【問7】

【全体の状況】

GREEN×EXPO 2027に期待することを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「世界中から集まった植物が見られること」が44.6%で最も多く、次いで「花と緑あふれる庭などの展示」が42.5%であった。（図表3-3-1）

図表3-3-1 GREEN×EXPO 2027に期待すること（複数回答）



図表3-3-2 GREEN×EXPO 2027に期待すること（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	世界中から集まった植物が見られること	花と緑あふれる庭などの展示	地元でとれた産物や食を楽しむ市場	農地や里山など日本の昔ながらの風景	仮想現実やロボットなど最新技術の展示	生物多様性や脱炭素の取組みについての展示	農業や花だん作りなどの体験企画への参加	ボランティア参加	その他	特にない	無回答
全体	1,698	44.6	42.5	39.3	16.4	13.6	13.3	9.5	1.8	1.7	17.9	2.8
【地域別】												
横浜	677	47.7	46.2	38.7	17.4	12.7	13.4	9.5	2.5	2.2	15.2	3.7
川崎	241	40.7	39.0	41.5	17.8	13.7	12.9	12.4	2.1	1.2	19.5	1.2
相模原	121	44.6	38.8	41.3	11.6	13.2	10.7	5.0	1.7	0.8	26.4	1.7
横須賀三浦	111	36.9	36.0	34.2	12.6	10.8	17.1	11.7	-	1.8	21.6	3.6
県央	176	39.2	44.9	41.5	19.9	13.6	11.9	9.7	0.6	0.6	19.9	0.6
湘南	272	52.2	39.0	40.1	12.1	12.5	14.7	8.5	1.1	1.5	16.9	3.3
県西	74	27.0	37.8	35.1	23.0	31.1	9.5	9.5	4.1	4.1	14.9	5.4
【性・年代別】												
男性	703	37.3	31.9	32.7	20.1	16.8	14.4	8.0	1.0	1.6	24.3	1.8
女性	935	50.8	49.9	44.6	13.7	11.2	12.6	10.7	2.6	1.9	12.6	3.5
男性18～29歳	31	35.5	19.4	32.3	12.9	22.6	19.4	9.7	-	-	22.6	-
30歳代	54	37.0	29.6	29.6	11.1	38.9	16.7	9.3	3.7	1.9	24.1	-
40歳代	126	42.1	27.8	36.5	11.1	20.6	15.1	10.3	3.2	4.0	23.0	-
50歳代	179	29.6	26.8	33.5	19.6	15.6	14.5	7.3	-	2.2	26.8	3.9
60歳代	153	32.7	34.0	33.3	20.9	15.0	15.7	9.2	0.7	0.7	25.5	-
70～74歳	57	45.6	38.6	31.6	22.8	3.5	3.5	3.5	-	-	29.8	5.3
75歳以上	102	47.1	43.1	28.4	36.3	10.8	14.7	5.9	-	-	17.6	2.9
女性18～29歳	56	42.9	41.1	41.1	23.2	16.1	8.9	19.6	7.1	1.8	17.9	1.8
30歳代	112	46.4	42.0	42.9	8.9	20.5	8.9	9.8	-	0.9	21.4	0.9
40歳代	175	51.4	43.4	52.0	12.0	10.3	11.4	14.9	2.3	3.4	14.9	2.9
50歳代	220	47.3	55.5	52.3	14.1	11.4	10.5	8.6	3.2	2.3	10.9	2.3
60歳代	179	52.0	54.2	44.1	14.0	7.8	13.4	8.9	3.9	1.1	8.9	5.0
70～74歳	60	48.3	50.0	35.0	18.3	11.7	18.3	10.0	1.7	3.3	11.7	1.7
75歳以上	132	62.9	53.8	29.5	12.9	6.8	18.2	8.3	0.8	0.8	8.3	8.3

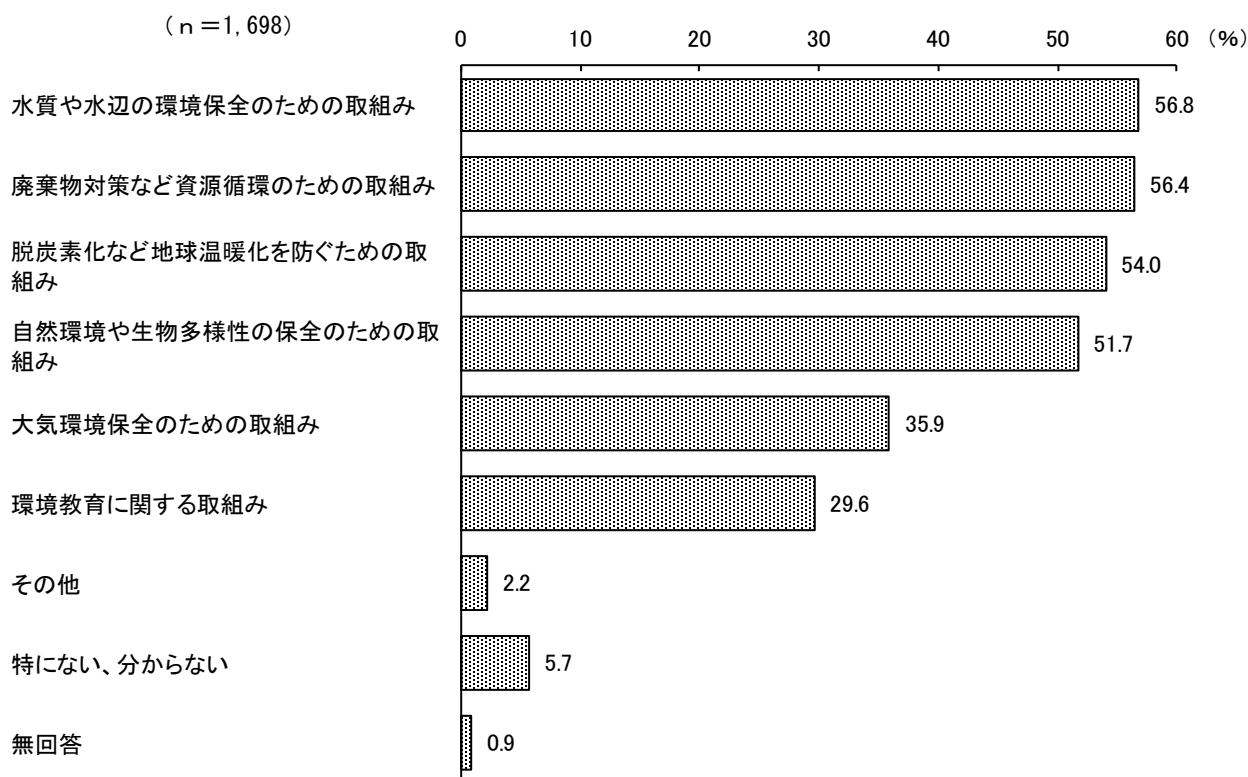
第4章 脱炭素・環境【問8～問11】

1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み【問8】

【全体の状況】

今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいか複数回答で尋ねたところ、「水質や水辺の環境保全のための取組み」が56.8%で最も多く、次いで「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が56.4%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）



図表4-1-2 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

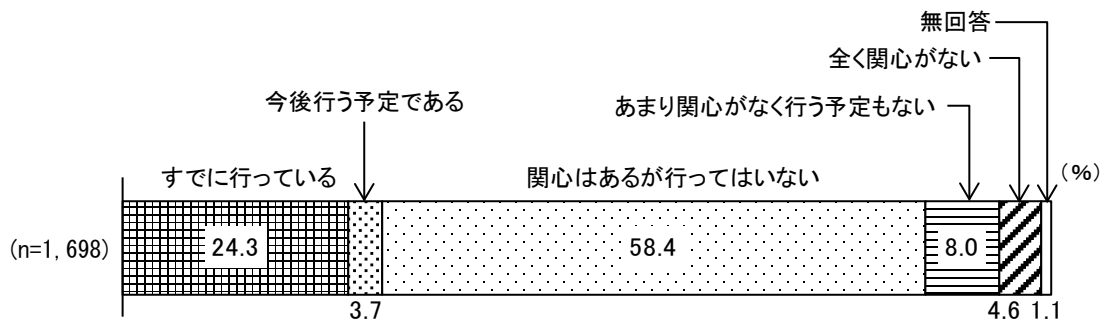
	n	水質や水辺の環境保全のための取組み	廃棄物対策など資源循環のための取組み	脱炭素化など地球温暖化を防ぐための取組み	自然環境や生物多様性の保全のための取組み	大気環境保全のための取組み	環境教育に関する取組み	その他	特にない、分からない	無回答
全体	1,698	56.8	56.4	54.0	51.7	35.9	29.6	2.2	5.7	0.9
【地域別】										
横浜	677	56.3	58.3	54.8	49.8	35.2	29.5	2.2	5.2	1.0
川崎	241	54.4	50.6	51.5	51.5	36.5	29.0	2.5	6.2	0.4
相模原	121	60.3	53.7	47.1	48.8	34.7	28.1	1.7	9.1	-
横須賀三浦	111	55.0	65.8	56.8	54.1	40.5	33.3	2.7	3.6	1.8
県央	176	59.1	55.1	50.0	51.1	38.1	23.9	1.1	6.3	1.1
湘南	272	57.0	53.7	54.0	54.4	32.4	32.7	3.3	5.5	1.5
県西	74	63.5	56.8	64.9	55.4	40.5	32.4	-	6.8	-
【性・年代別】										
男性	703	60.3	54.1	43.7	50.8	31.9	23.9	3.0	7.1	0.6
女性	935	54.9	58.2	61.1	52.5	38.2	34.1	1.5	4.6	1.2
男性18～29歳	31	51.6	54.8	35.5	48.4	45.2	32.3	6.5	6.5	-
30歳代	54	55.6	40.7	20.4	46.3	22.2	33.3	3.7	13.0	-
40歳代	126	64.3	51.6	37.3	52.4	29.4	26.2	4.0	10.3	-
50歳代	179	64.8	53.6	40.2	51.4	36.3	25.1	4.5	5.0	-
60歳代	153	60.8	52.3	54.2	52.3	28.8	19.0	1.3	7.2	-
70～74歳	57	57.9	66.7	45.6	59.6	26.3	24.6	-	5.3	1.8
75歳以上	102	52.9	60.8	54.9	43.1	36.3	18.6	2.0	4.9	2.9
女性18～29歳	56	51.8	51.8	46.4	48.2	23.2	33.9	-	10.7	-
30歳代	112	47.3	50.0	44.6	48.2	28.6	30.4	0.9	6.3	-
40歳代	175	60.6	61.1	58.9	51.4	37.7	42.9	1.7	5.1	-
50歳代	220	55.0	58.2	64.5	58.2	41.4	31.8	1.4	3.2	1.8
60歳代	179	53.6	56.4	67.0	54.2	41.9	32.4	2.2	2.2	1.7
70～74歳	60	56.7	51.7	68.3	55.0	38.3	40.0	1.7	5.0	-
75歳以上	132	55.3	68.9	66.7	46.2	42.4	28.8	1.5	5.3	3.0

2 脱炭素を意識した取組み【問9】

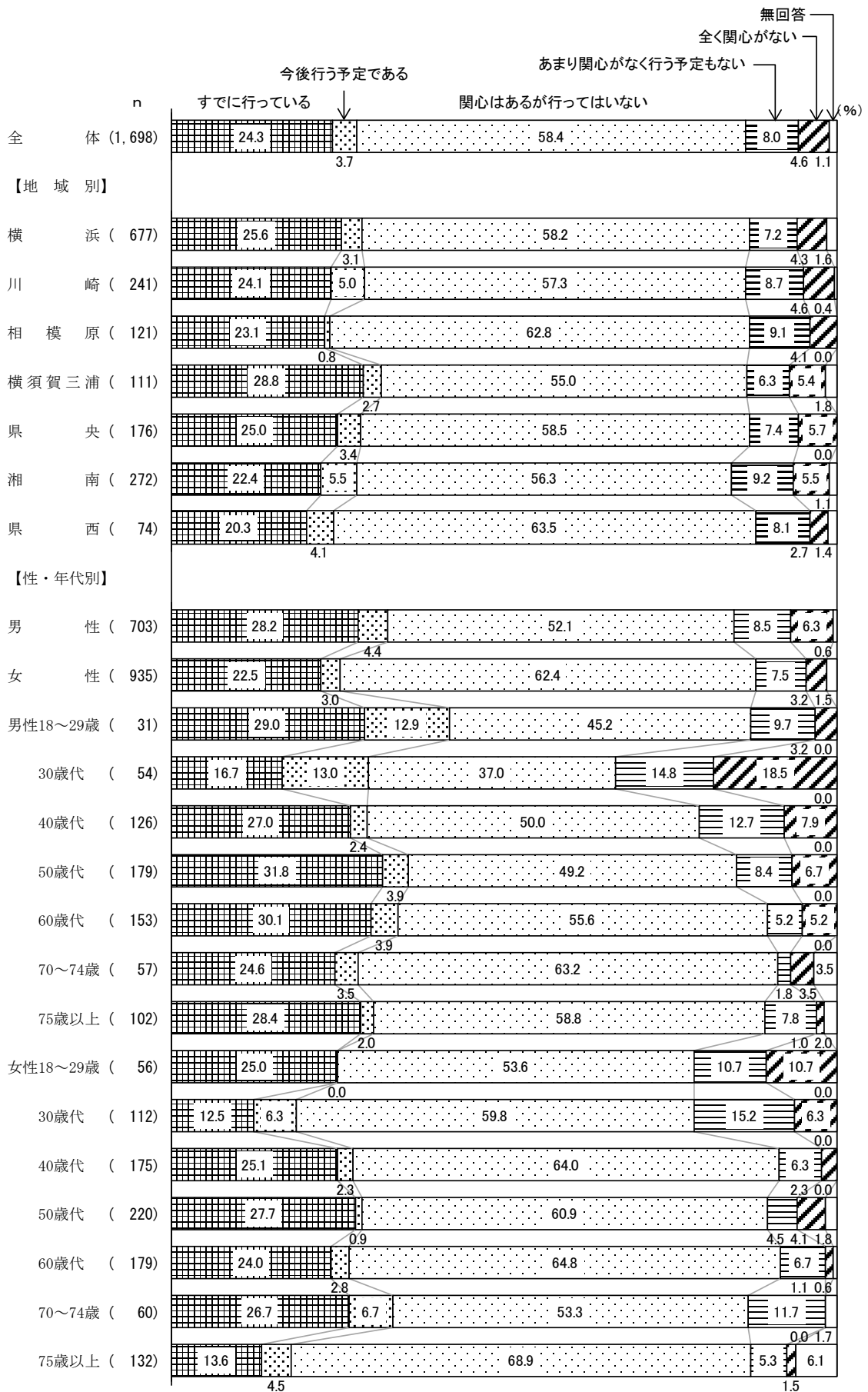
【全体の状況】

省エネや再エネの導入など、脱炭素を意識した取組みを行っているか尋ねたところ、「関心はあるが行ってはいない」が58.4%で最も多く、次いで「すでに行っている」が24.3%であった。(図表4-2-1)

図表4-2-1 脱炭素を意識した取組み



図表4-2-2 脱炭素を意識した取組み—地域別、性・年代別

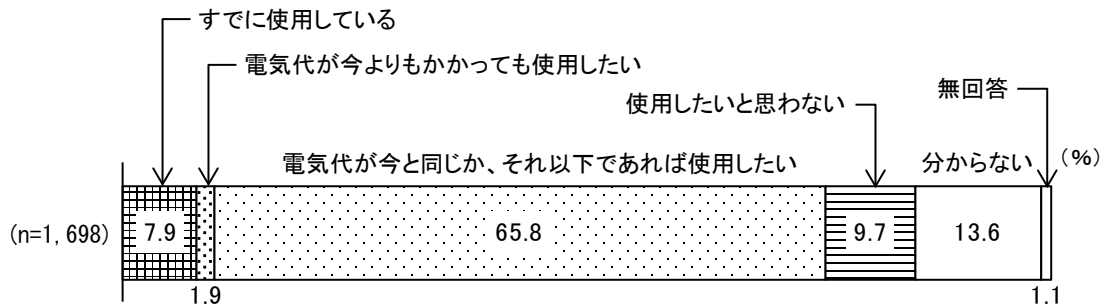


3 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向【問10】

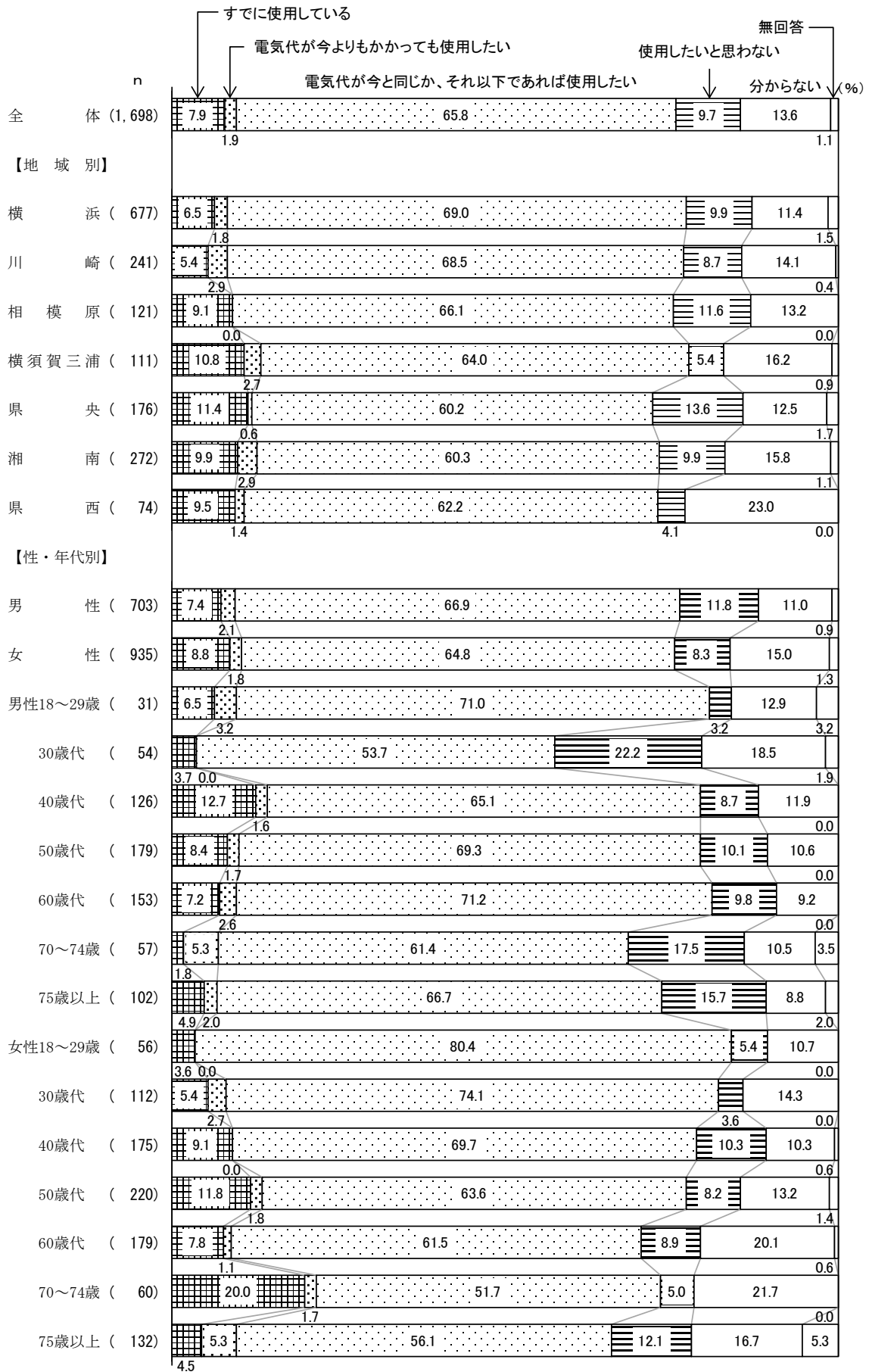
【全体の状況】

家で使用する電力について、再エネ由来の電力を使用したいと思うか尋ねたところ、「電気代が今と同じか、それ以下であれば使用したい」が65.8%で最も多く、次いで「使用したいと思わない」が9.7%であった。（図表4-3-1）

図表4-3-1 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向



図表4-3-2 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向—地域別、性・年代別



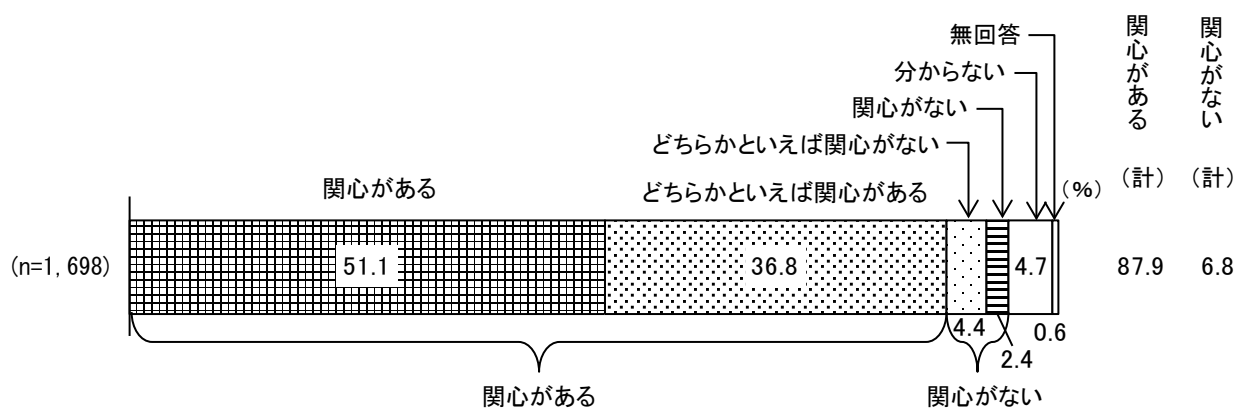
4 「気候変動への適応」への関心【問11】

【全体の状況】

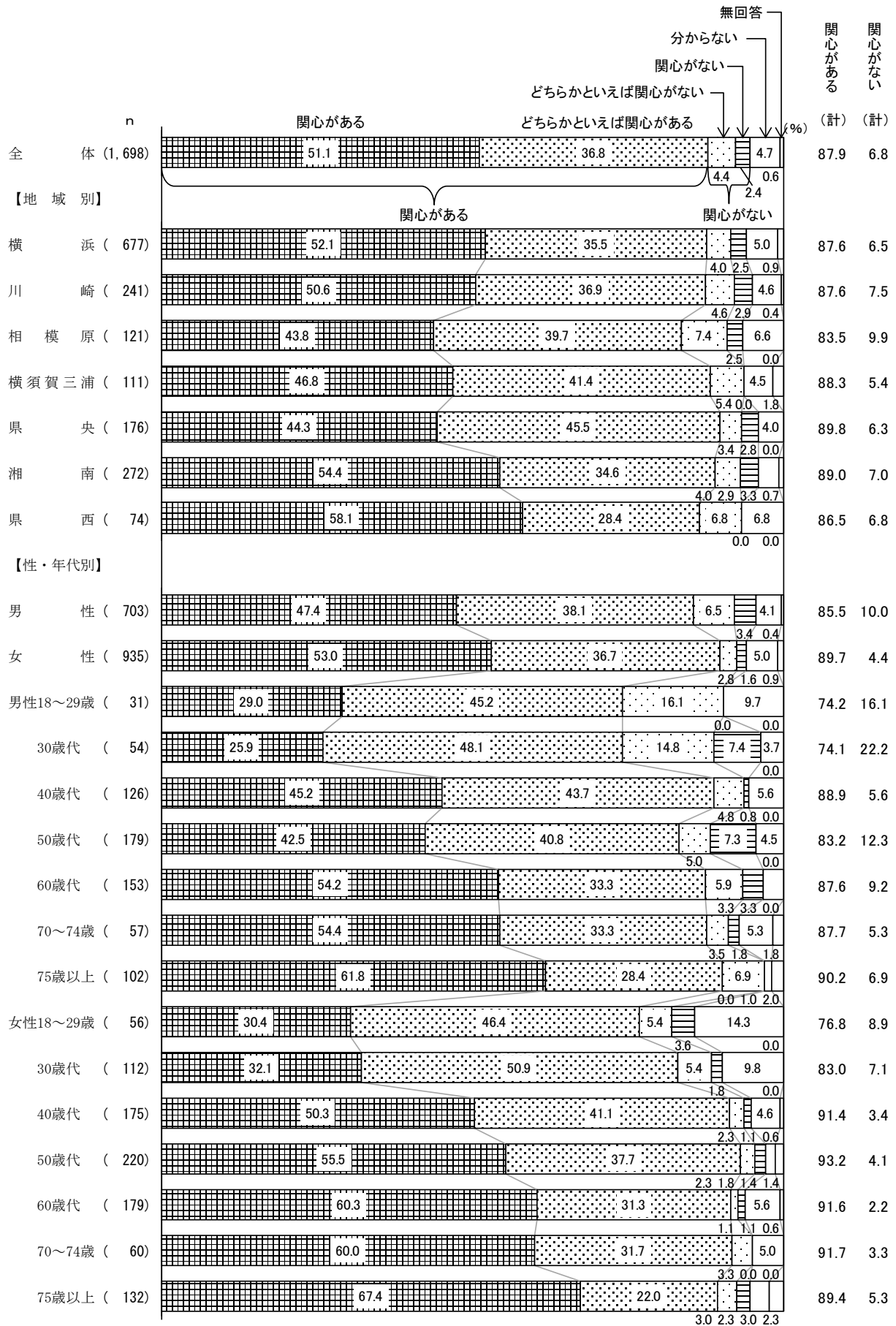
「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(51.1%)と「どちらかといえば関心がある」(36.8%)を合わせた《関心がある》は87.9%であった。

一方、「関心がない」(2.4%)と「どちらかといえば関心がない」(4.4%)を合わせた《関心がない》は6.8%であった。(図表4-4-1)

図表4-4-1 「気候変動への適応」への関心



図表4-4-2 「気候変動への適応」への関心—地域別、性・年代別



第5章 生物多様性【問12～問14】

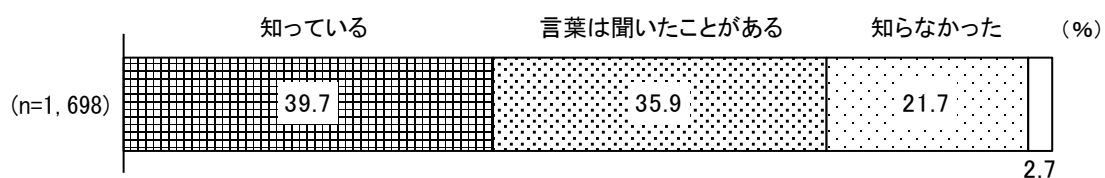
1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度【問12】

【全体の状況】

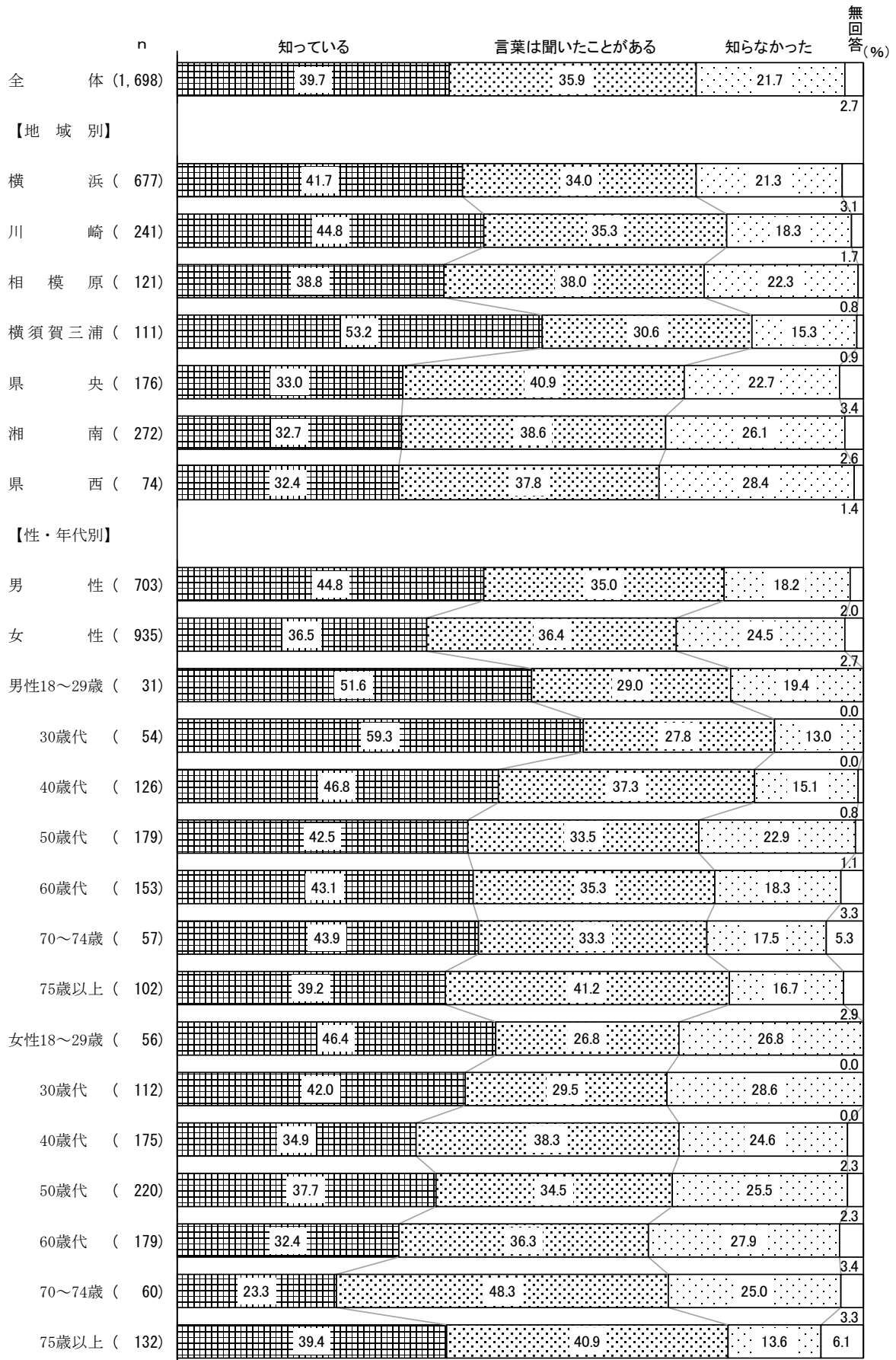
「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が39.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が35.9%であった。

一方、「知らなかった」が21.7%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度



図表5-1-2 「生物多様性」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別



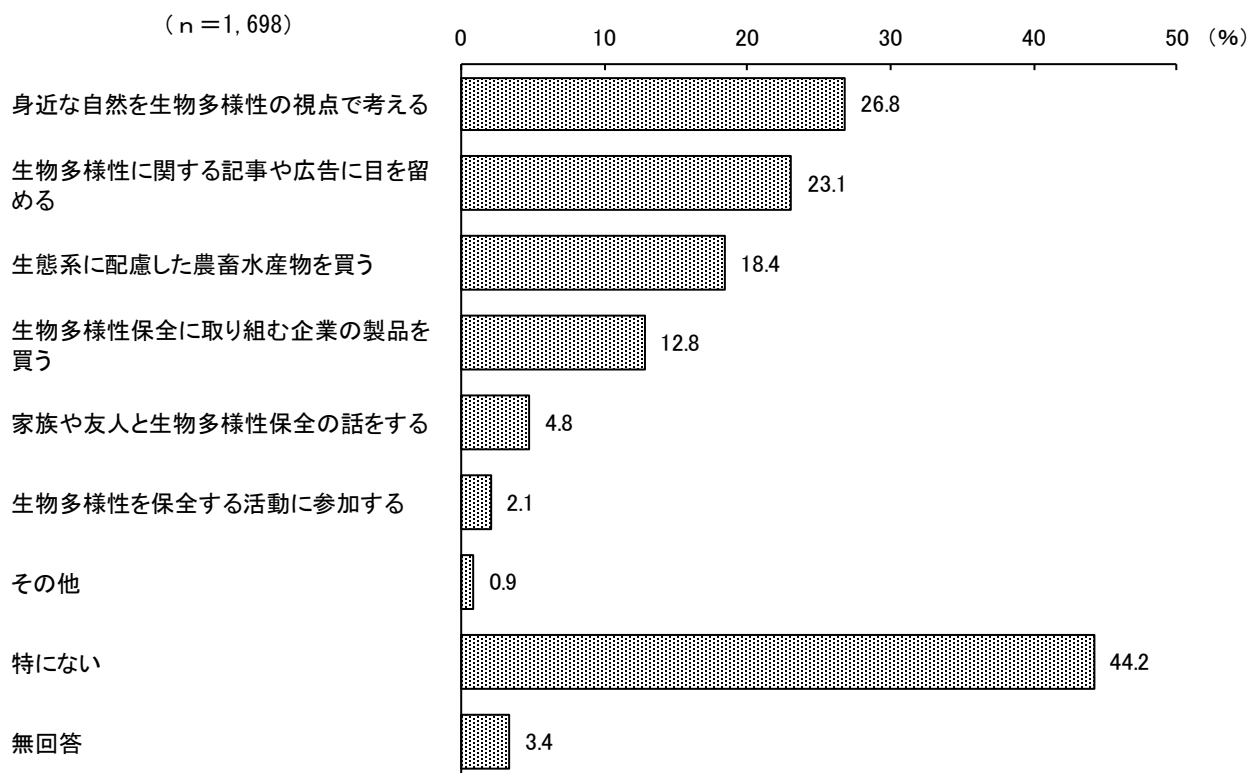
2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること【問13】

【全体の状況】

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が26.8%で最も多く、次いで「生物多様性に関する記事や広告に目を留める」が23.1%であった。

一方、「特にない」が44.2%であった。(図表 5-2-1)

図表5-2-1 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答)



図表5-2-2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答) - 地域別、性・年代別

(%)										
	n	身近な自然を生物多様性の視点で考える	生物多様性に関する記事や広告に目を留める	生態系に配慮した農畜水産物を買う	生物多様性保全に取り組む企業の製品を買う	家族や友人と生物多様性保全の話をする	生物多様性を保全する活動に参加する	その他	特にない	無回答
全体	1,698	26.8	23.1	18.4	12.8	4.8	2.1	0.9	44.2	3.4
【地域別】										
横浜	677	25.1	24.4	17.4	12.1	4.7	1.9	0.9	46.1	3.8
川崎	241	27.8	20.3	18.3	12.4	5.8	2.5	1.2	44.8	1.7
相模原	121	23.1	23.1	19.0	12.4	4.1	1.7	1.7	47.1	0.8
横須賀三浦	111	36.9	24.3	18.0	13.5	9.0	1.8	0.9	35.1	3.6
県央	176	22.7	18.8	19.9	10.2	4.0	1.1	0.6	44.3	5.1
湘南	272	30.5	25.4	19.1	14.3	4.0	3.3	1.1	41.2	2.6
県西	74	25.7	18.9	18.9	17.6	4.1	2.7	-	51.4	2.7
【性・年代別】										
男性	703	31.6	22.5	15.1	10.0	4.0	2.7	1.1	45.8	1.7
女性	935	24.0	23.7	20.7	14.9	5.5	1.8	0.9	43.5	4.0
男性18~29歳	31	25.8	16.1	3.2	3.2	6.5	3.2	-	58.1	-
30歳代	54	33.3	13.0	13.0	7.4	5.6	-	3.7	44.4	-
40歳代	126	27.8	14.3	13.5	8.7	3.2	5.6	2.4	54.8	0.8
50歳代	179	27.4	24.0	13.4	11.2	6.7	2.2	0.6	50.8	0.6
60歳代	153	35.9	23.5	17.0	10.5	2.6	2.6	-	41.2	3.3
70~74歳	57	38.6	29.8	10.5	10.5	1.8	-	-	36.8	3.5
75歳以上	102	33.3	31.4	24.5	11.8	2.0	2.9	2.0	35.3	2.9
女性18~29歳	56	19.6	23.2	8.9	7.1	5.4	-	-	58.9	-
30歳代	112	24.1	20.5	13.4	8.0	7.1	0.9	-	58.0	-
40歳代	175	22.9	20.6	21.1	10.9	8.6	4.6	1.1	48.6	2.3
50歳代	220	23.6	22.3	20.5	16.4	6.4	2.3	0.5	43.2	2.7
60歳代	179	24.0	27.9	25.1	20.1	1.1	-	1.1	36.3	5.0
70~74歳	60	23.3	20.0	16.7	8.3	5.0	1.7	1.7	41.7	6.7
75歳以上	132	27.3	29.5	28.0	22.7	4.5	0.8	1.5	29.5	10.6

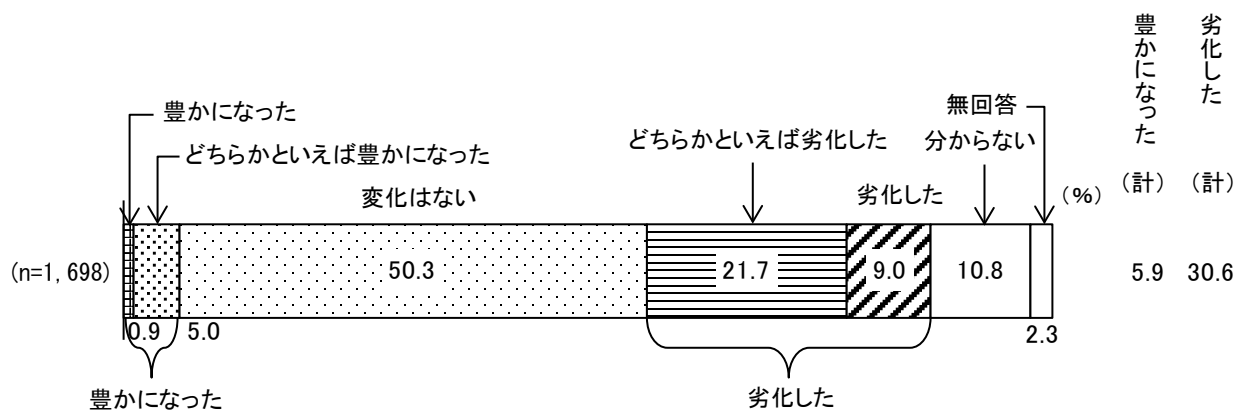
3 周辺地域の自然環境の変化【問14】

【全体の状況】

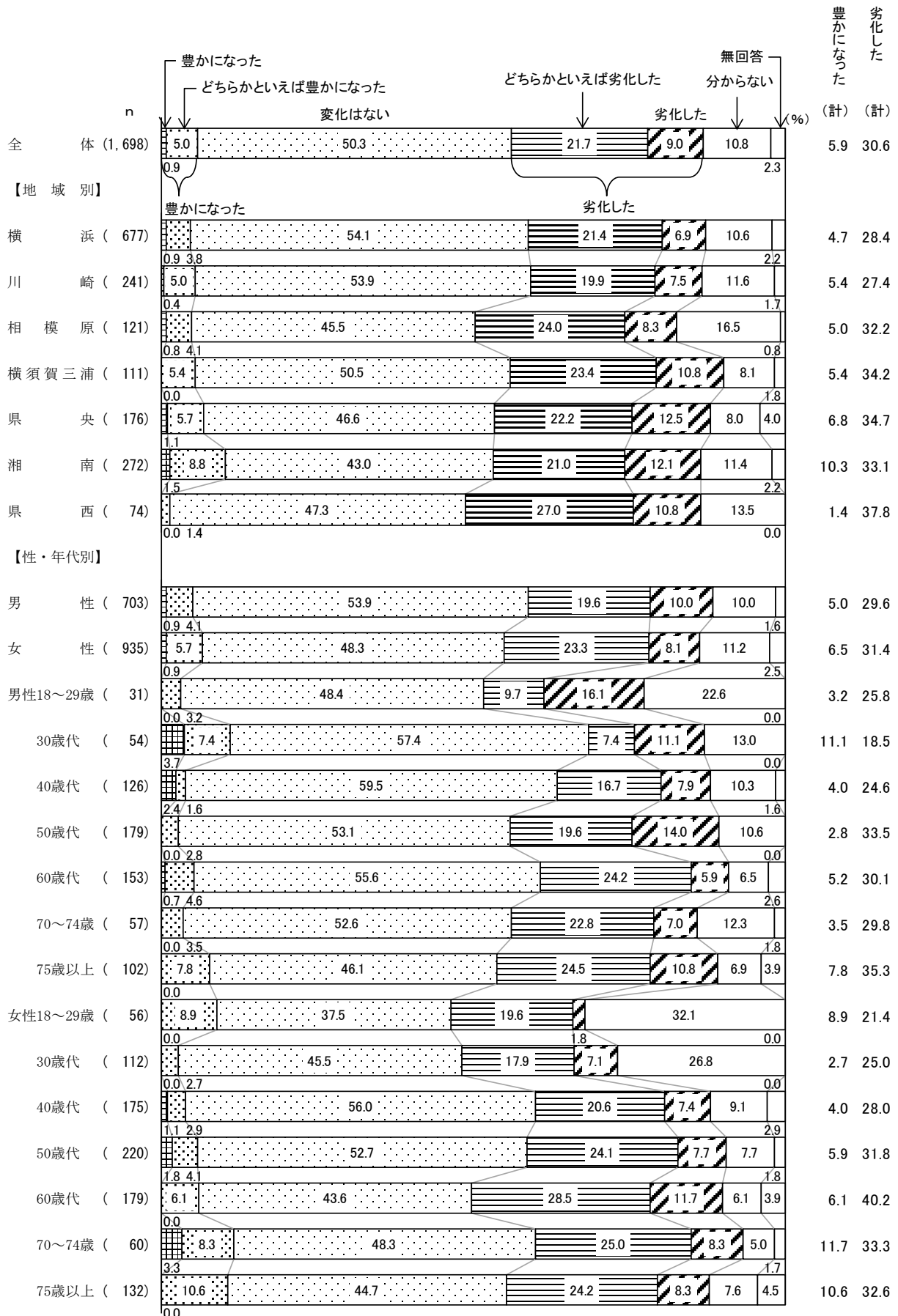
周辺地域の自然環境の変化について尋ねたところ、「豊かになった」(0.9%)と「どちらかといえば豊かになった」(5.0%)を合わせた《豊かになった》は5.9%であった。

一方、「劣化した」(9.0%)と「どちらかといえば劣化した」(21.7%)を合わせた《劣化した》は30.6%であった。(図表5-3-1)

図表5-3-1 周辺地域の自然環境の変化



図表5-3-2 周辺地域の自然環境の変化—地域別、性・年代別



第6章 「未病改善」の取組み【問15～問18】

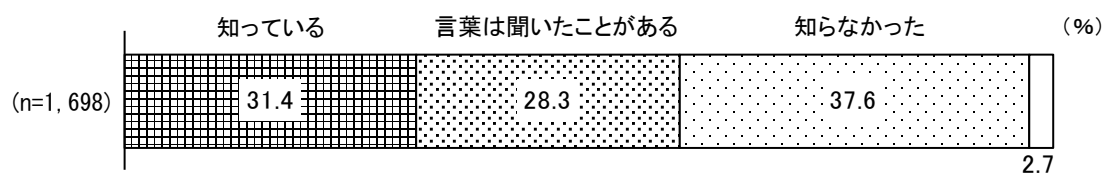
1 「未病（ME-BYO）」の認知度【問15】

【全体の状況】

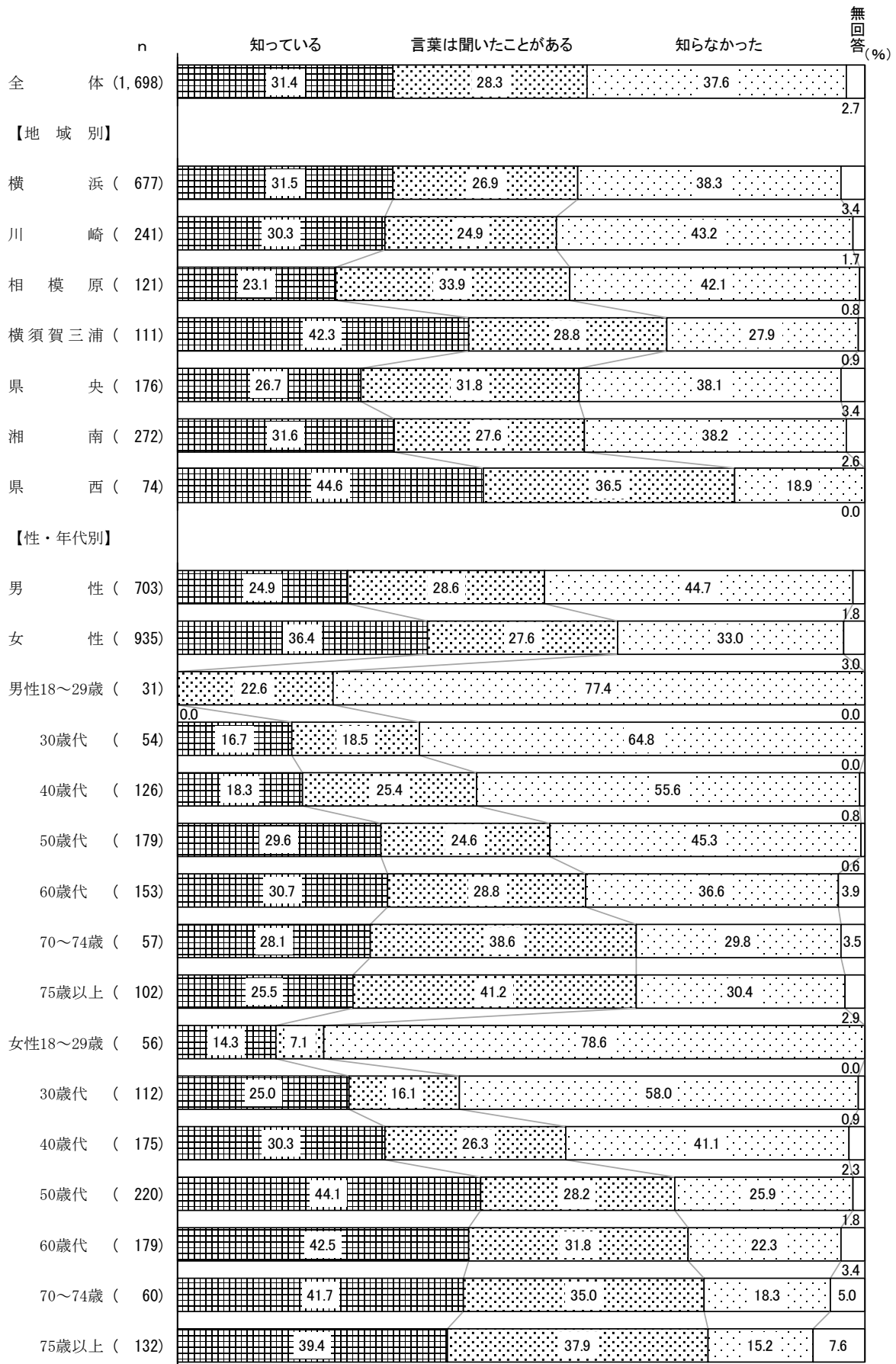
「未病（ME-BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が31.4%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が28.3%であった。

一方、「知らなかった」が37.6%であった。（図表6-1-1）

図表6-1-1 「未病（ME-BYO）」の認知度



図表6-1-2 「未病（ME-BYO）」の認知度—地域別、性・年代別

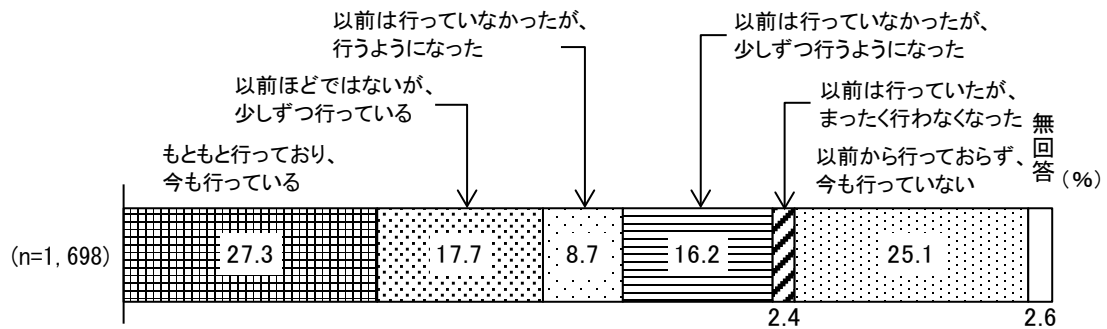


2 過去1年間の「未病改善」の取組状況【問16】

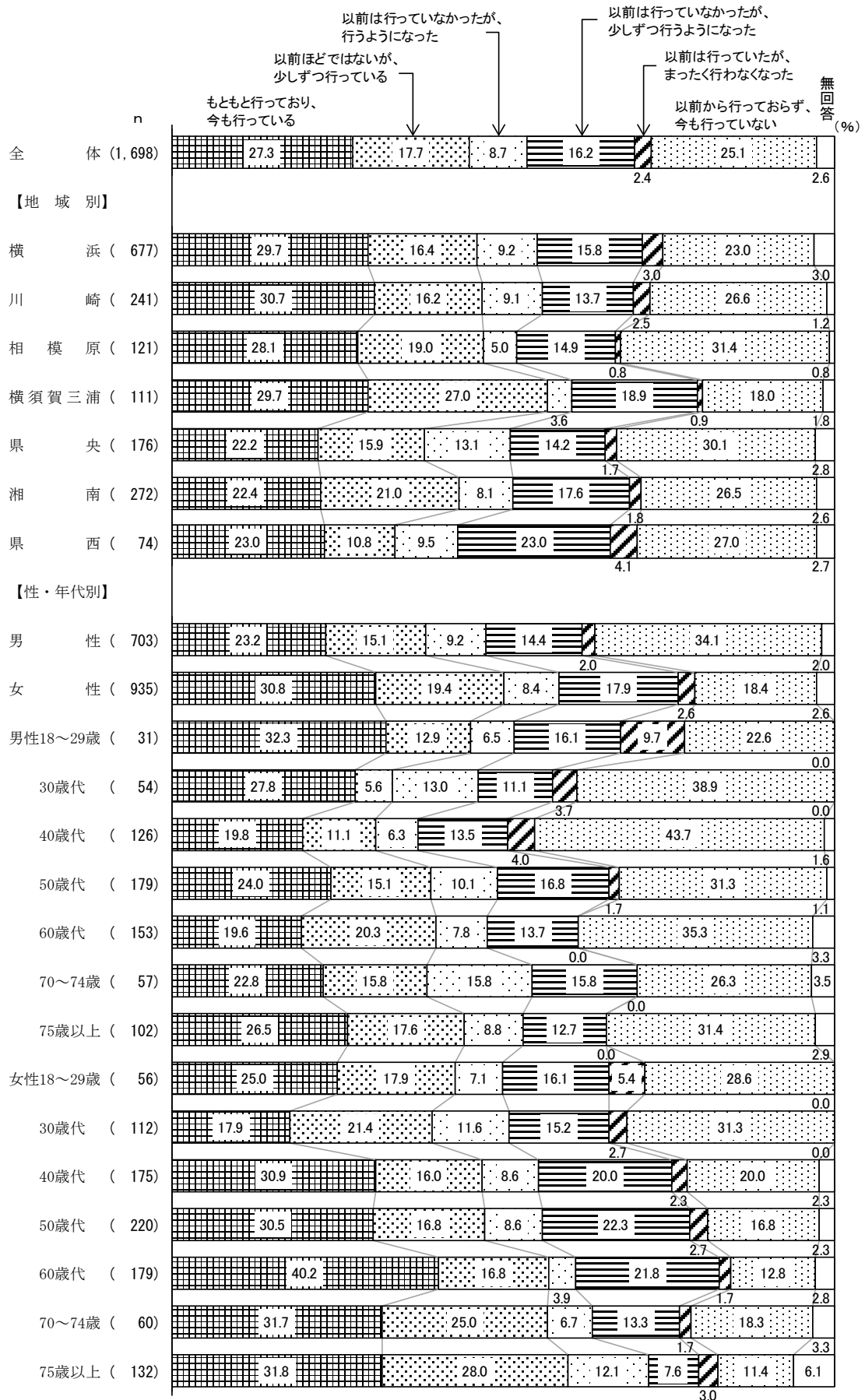
【全体の状況】

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」が27.3%で最も多く、次いで「以前から行っておらず、今も行っていない」が25.1%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 過去1年間の「未病改善」の取組状況



図表6-2-2 過去1年間の「未病改善」の取組状況—地域別、性・年代別

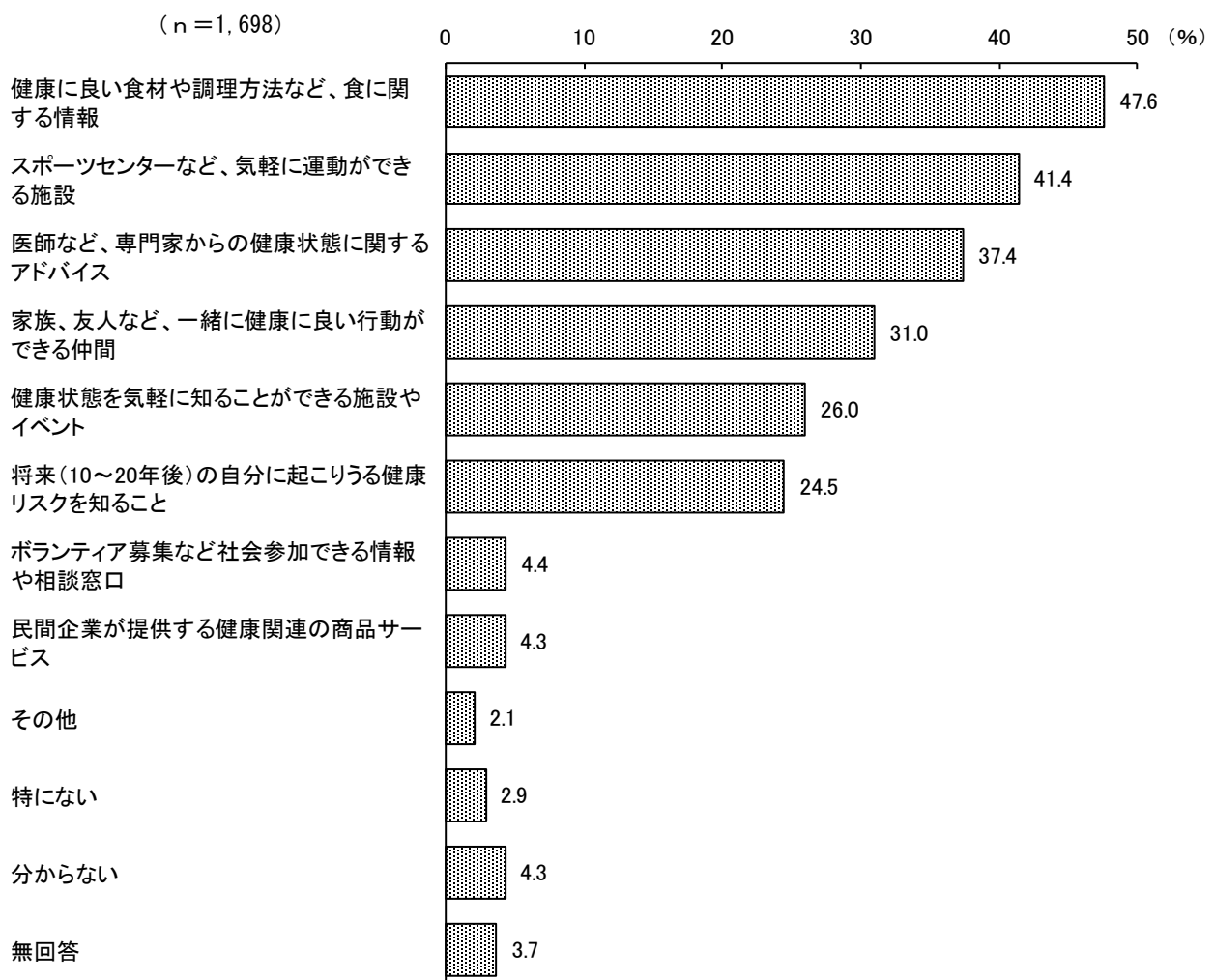


3 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの【問17】

【全体の状況】

「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報」が47.6%で最も多く、次いで「スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設」が41.4%であった。（図表6-3-1）

図表6-3-1 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）



図表6-3-2 「未病改善」の取組みに必要だと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	健康に関する情報 食に良い食材や調理方法など、	スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス	家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	健康状態を気軽に知ることができる施設やイベント	将来（10～20年後）の自分について 起こりうる健康リスクを知ること	ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	民間企業が提供する健康関連の商品サービス	その他	特になし	分からない	無回答
全体	1,698	47.6	41.4	37.4	31.0	26.0	24.5	4.4	4.3	2.1	2.9	4.3	3.7
【地域別】													
横浜	677	49.5	43.4	36.8	31.9	24.4	23.2	4.3	4.0	2.4	3.4	4.1	4.3
川崎	241	45.6	45.6	33.6	33.6	25.3	25.3	5.8	3.3	2.1	2.9	5.0	2.1
相模原	121	43.0	39.7	33.1	28.1	25.6	25.6	3.3	7.4	4.1	3.3	5.0	1.7
横須賀三浦	111	42.3	41.4	38.7	34.2	22.5	25.2	5.4	3.6	3.6	2.7	2.7	2.7
県央	176	46.0	32.4	44.9	26.1	31.3	27.3	4.0	5.1	1.1	3.4	4.5	4.5
湘南	272	49.6	38.6	38.2	28.7	26.5	26.1	3.7	3.7	1.5	2.2	5.1	4.0
県西	74	48.6	45.9	36.5	36.5	32.4	20.3	6.8	6.8	-	1.4	2.7	1.4
【性・年代別】													
男性	703	42.2	40.5	41.0	27.3	22.2	21.2	3.6	5.0	2.7	5.4	6.5	2.4
女性	935	51.6	42.6	34.7	34.1	28.4	26.8	5.2	3.9	1.7	1.3	2.6	4.4
男性18～29歳	31	48.4	48.4	19.4	48.4	22.6	29.0	3.2	3.2	3.2	-	9.7	-
30歳代	54	40.7	46.3	29.6	31.5	20.4	25.9	1.9	7.4	13.0	5.6	3.7	1.9
40歳代	126	34.9	44.4	37.3	35.7	15.9	27.8	3.2	7.9	3.2	2.4	11.1	1.6
50歳代	179	39.1	39.7	39.1	26.8	20.7	26.8	5.0	5.6	1.1	5.6	7.3	0.6
60歳代	153	40.5	37.9	45.1	21.6	26.8	16.3	3.9	2.6	2.0	7.8	6.5	3.9
70～74歳	57	45.6	36.8	52.6	17.5	24.6	17.5	1.8	3.5	1.8	7.0	1.8	3.5
75歳以上	102	56.9	38.2	49.0	23.5	25.5	7.8	2.9	3.9	1.0	4.9	2.9	4.9
女性18～29歳	56	48.2	50.0	23.2	50.0	19.6	26.8	5.4	7.1	-	1.8	1.8	-
30歳代	112	47.3	43.8	31.3	29.5	26.8	28.6	6.3	5.4	1.8	-	6.3	2.7
40歳代	175	48.0	45.7	31.4	35.4	28.0	33.7	5.7	2.9	2.3	0.6	2.3	5.1
50歳代	220	50.5	45.0	31.4	35.0	33.2	26.8	6.4	3.2	1.8	2.3	3.6	2.3
60歳代	179	54.7	45.3	39.1	29.6	29.1	24.0	6.1	4.5	2.2	-	1.1	6.1
70～74歳	60	50.0	30.0	28.3	35.0	26.7	28.3	3.3	-	3.3	6.7	1.7	3.3
75歳以上	132	59.1	32.6	48.5	33.3	26.5	19.7	1.5	4.5	-	0.8	0.8	8.3

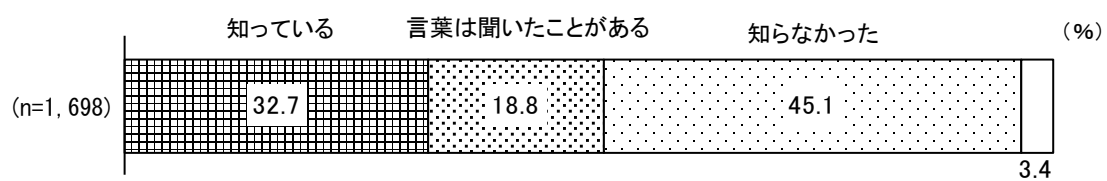
4 「フレイル」の認知度【問18】

【全体の状況】

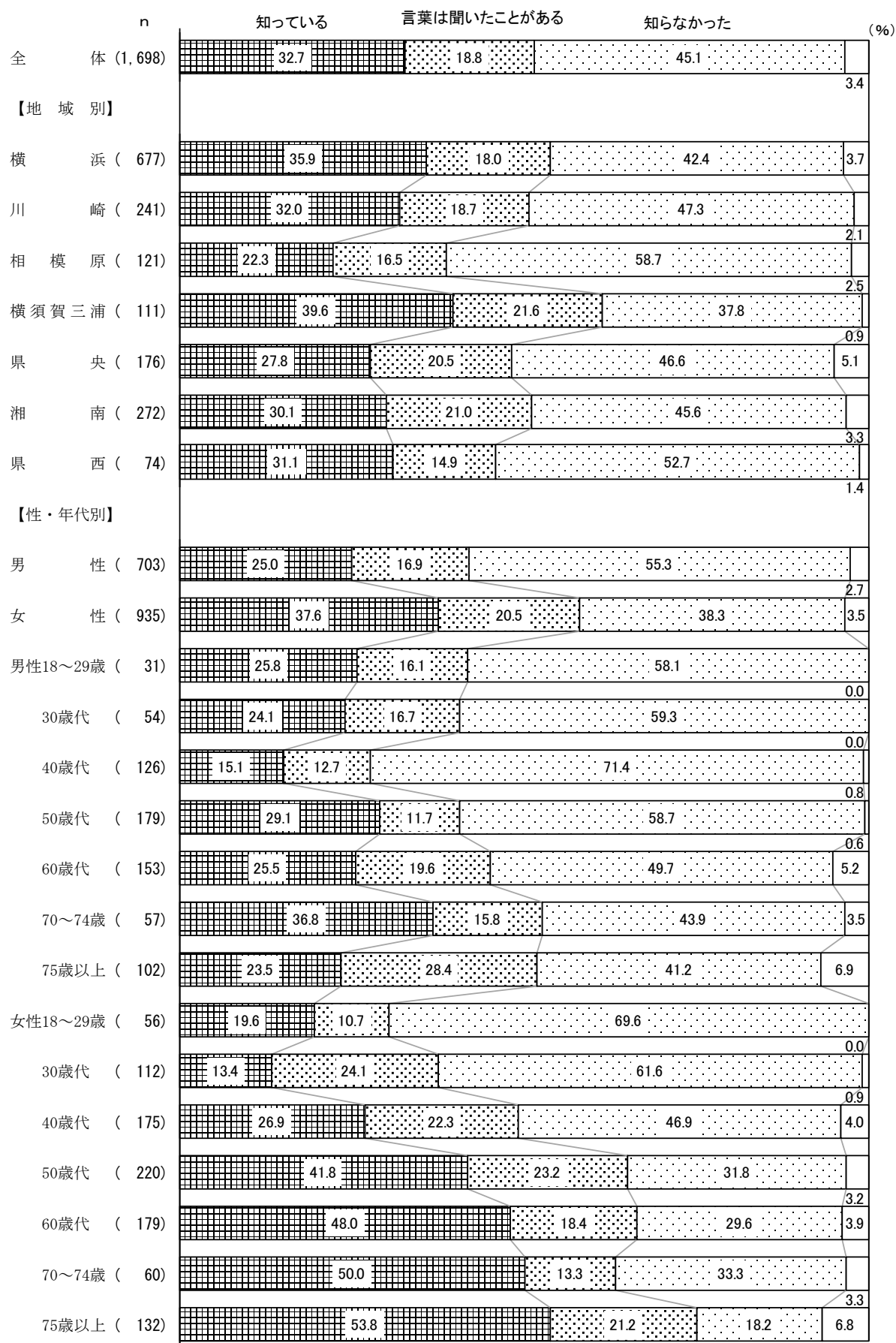
「フレイル」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が32.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が18.8%であった。

一方、「知らなかった」が45.1%であった。(図表6-4-1)

図表6-4-1 「フレイル」の認知度



図表6-4-2 「フレイル」の認知度—地域別、性・年代別



第7章 かながわ救急相談センター（#7119）【問19】

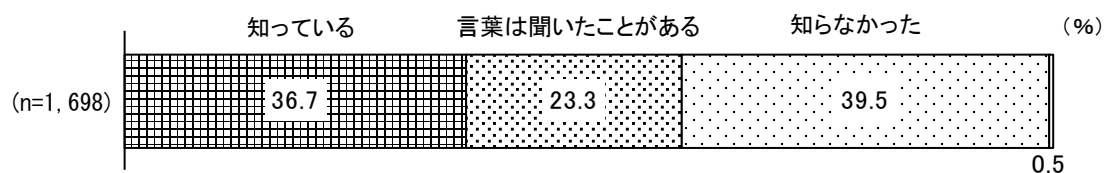
1 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度【問19】

【全体の状況】

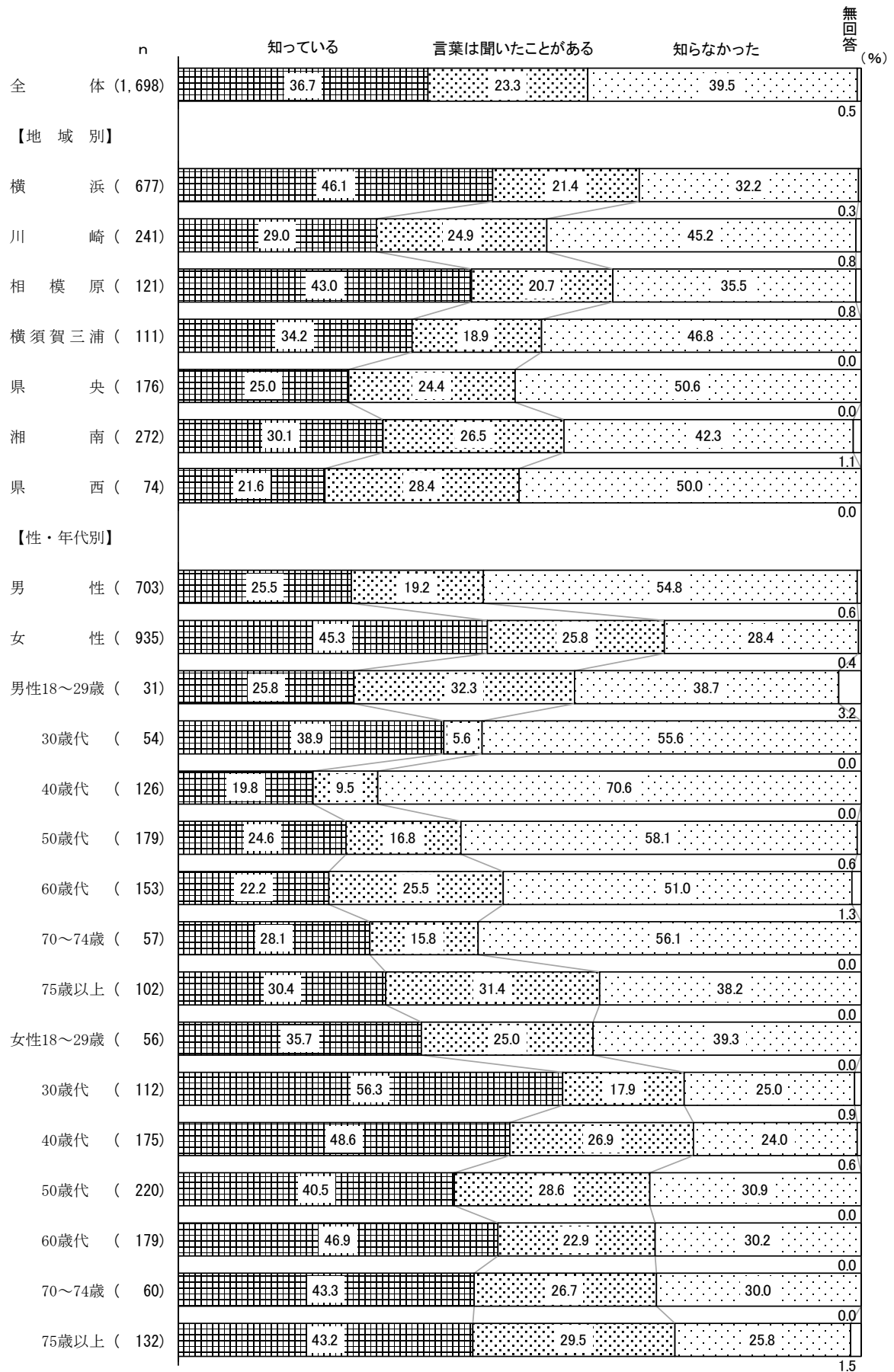
かながわ救急相談センター（#7119）を知っているか尋ねたところ、「知っている」が36.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が23.3%であった。

一方、「知らなかった」が39.5%であった。（図表7-1-1）

図表7-1-1 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度



図表7-1-2 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度—地域別、性・年代別



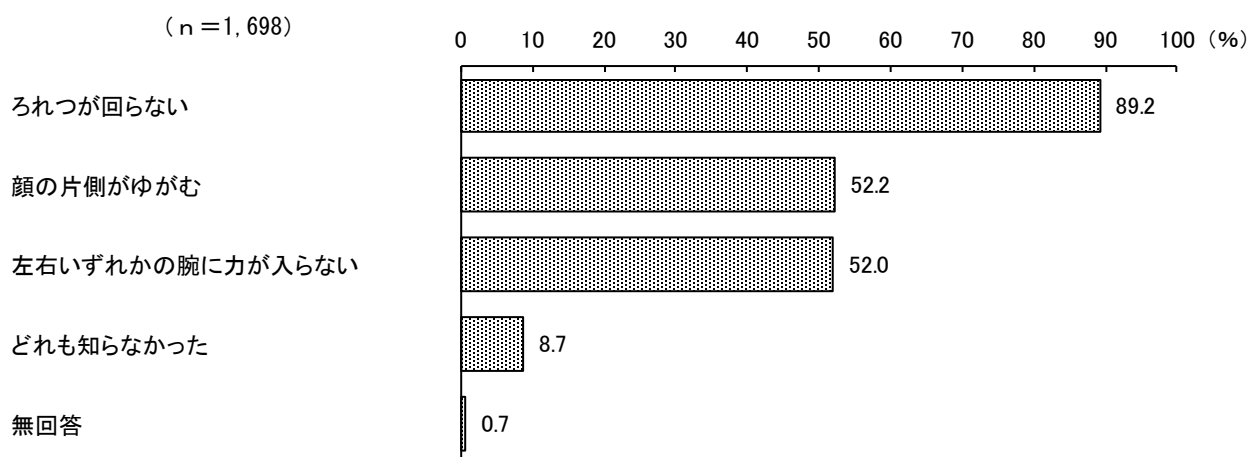
第8章 循環器病対策【問20～問22】

1 脳卒中の主な初期症状の認知度【問20】

【全体の状況】

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が89.2%で最も多く、次いで「顔の片側がゆがむ」が52.2%であった。(図表8-1-1)

図表8-1-1 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）



図表8-1-2 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	ろれつが回らない	顔の片側がゆがむ	左右いずれかの腕に力が入らない	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,698	89.2	52.2	52.0	8.7	0.7
【地 域 別】						
横 浜	677	88.8	55.1	53.3	9.2	0.3
川 崎	241	87.6	51.5	51.5	10.4	0.8
相 模 原	121	92.6	50.4	48.8	5.8	0.8
横 須 賀 三 浦	111	91.0	53.2	55.0	9.0	-
県 央	176	88.1	48.3	51.7	9.7	1.7
湘 南	272	90.1	49.6	50.7	7.4	1.1
県 西	74	89.2	45.9	47.3	8.1	-
【性・年代別】						
男 性	703	86.1	47.5	47.4	11.4	0.9
女 性	935	91.3	56.0	55.2	7.0	0.5
男性 18～29歳	31	64.5	32.3	32.3	29.0	3.2
30 歳 代	54	83.3	33.3	35.2	16.7	-
40 歳 代	126	82.5	39.7	42.1	15.1	0.8
50 歳 代	179	89.4	46.9	46.4	8.4	0.6
60 歳 代	153	89.5	56.2	52.9	7.2	1.3
70～74歳	57	89.5	57.9	63.2	7.0	1.8
75歳以上	102	85.3	51.0	49.0	12.7	-
女性 18～29歳	56	71.4	32.1	26.8	26.8	-
30 歳 代	112	81.3	42.0	41.1	14.3	0.9
40 歳 代	175	92.0	48.0	49.1	6.3	1.1
50 歳 代	220	95.0	57.7	54.1	3.2	0.5
60 歳 代	179	96.1	65.9	63.1	3.4	-
70～74歳	60	93.3	55.0	63.3	5.0	-
75歳以上	132	93.9	72.7	74.2	5.3	0.8

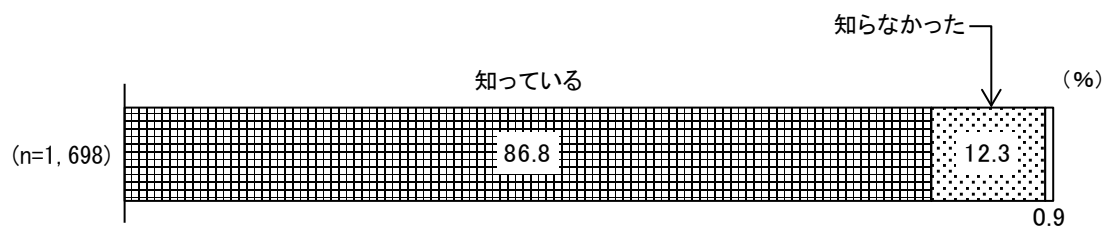
2 脳卒中への適切な対応の認知度【問21】

【全体の状況】

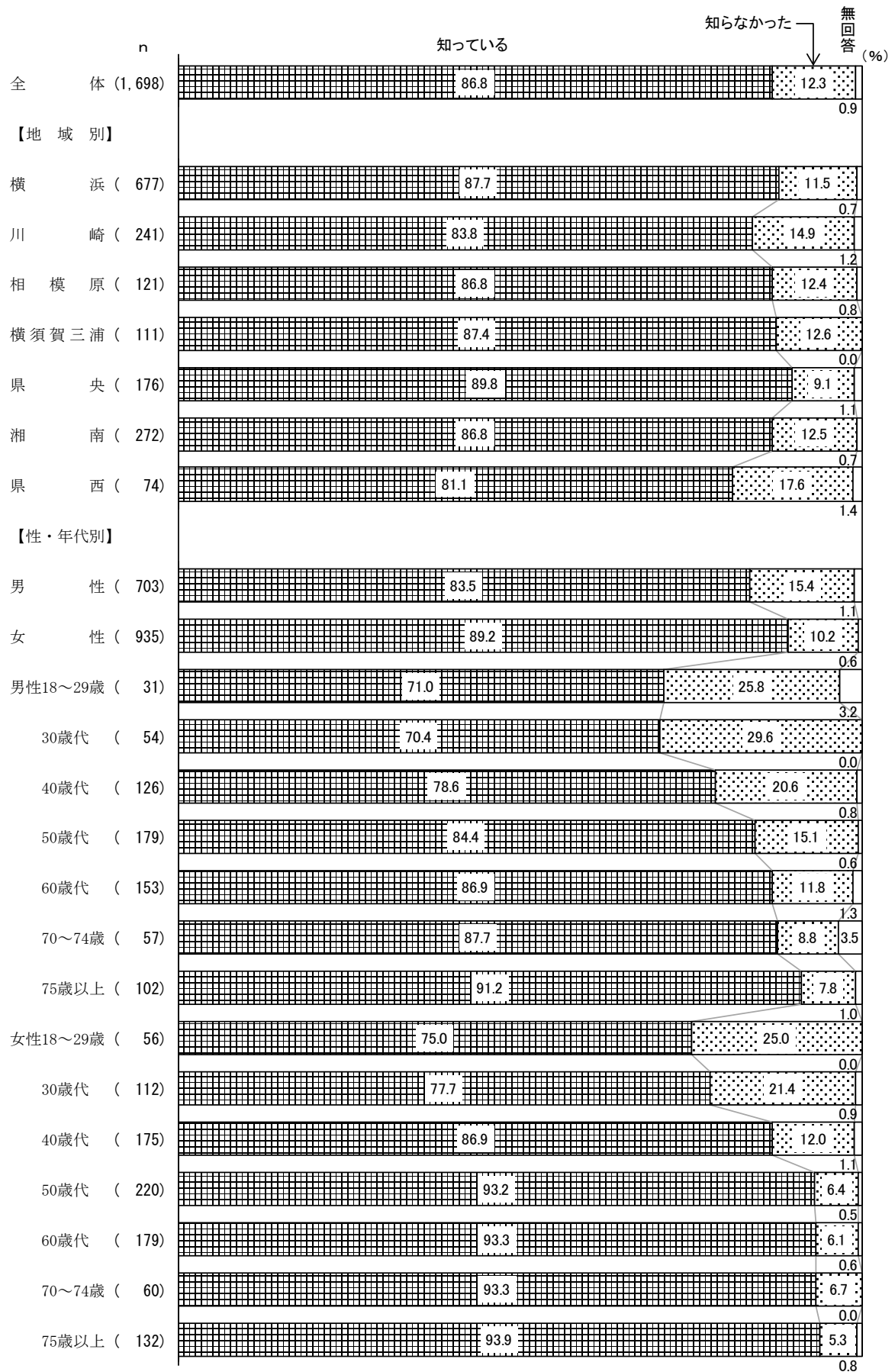
脳卒中は、発症後すぐに救急車を呼ぶなど、医療機関で適切な治療を行えば、後遺症を含めたその後の状態が改善される可能性が高まることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が86.8%であった。

一方、「知らなかった」が12.3%であった。(図表8-2-1)

図表8-2-1 脳卒中への適切な対応の認知度



図表8-2-2 脳卒中への適切な対応の認知度—地域別、性・年代別



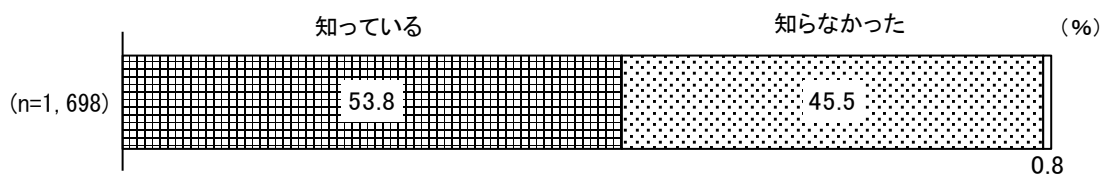
3 心臓病の再発防止対策の認知度【問22】

【全体の状況】

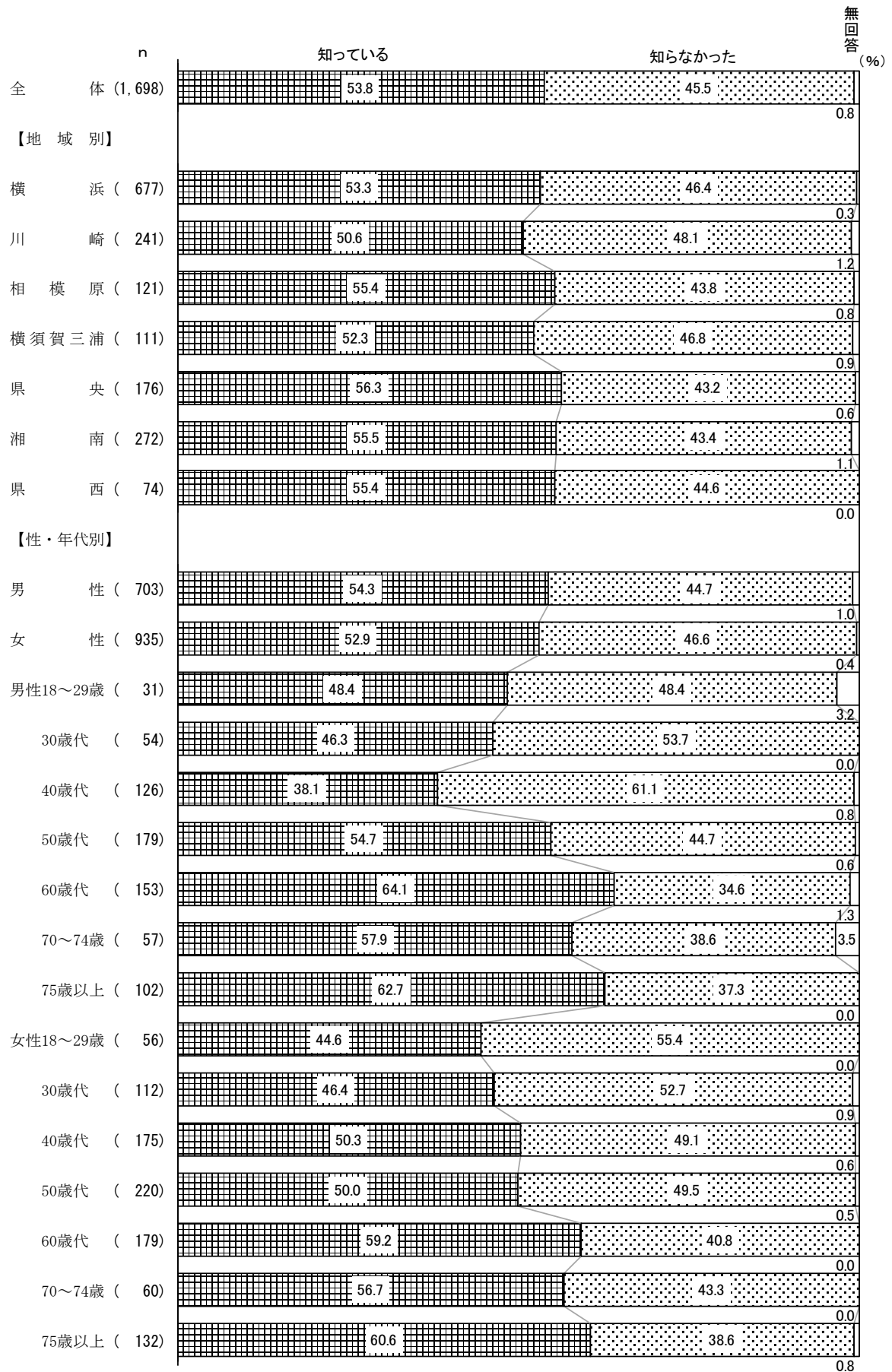
心臓病の再発を防ぐためには、治療後の適度な運動療法を中心としたリハビリテーションが重要であることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が53.8%であった。

一方、「知らなかった」が45.5%であった。(図表8-3-1)

図表8-3-1 心臓病の再発防止対策の認知度



図表8-3-2 心臓病の再発防止対策の認知度—地域別、性・年代別



第9章 依存症に対する意識【問23～問24-1】

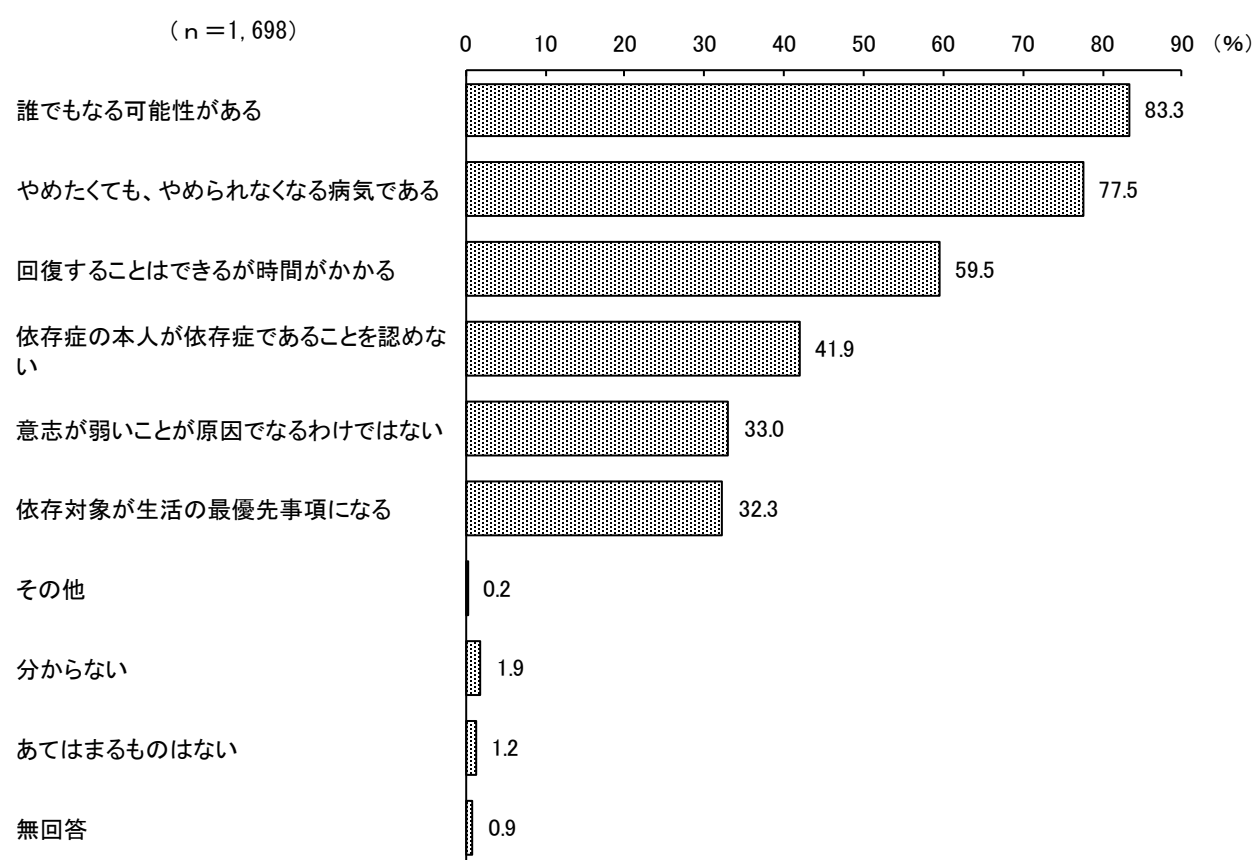
1 依存症について、あてはまると思うこと【問23】

【全体の状況】

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が83.3%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が77.5%であった。

(図表 9-1-1)

図表9-1-1 依存症について、あてはまると思うこと（複数回答）



図表9-1-2 依存症について、あてはまると思うこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

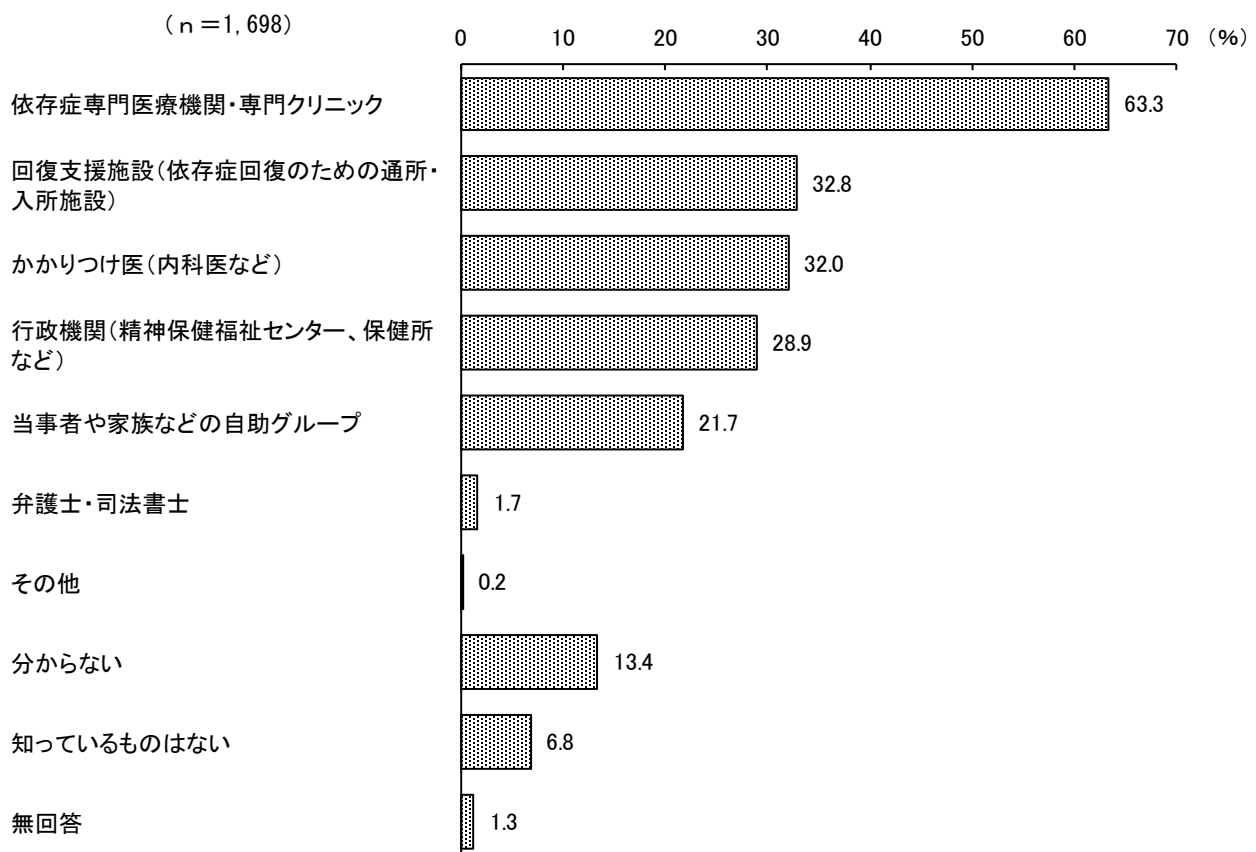
	n	誰でもなる可能性がある	やめたくても、やめられなくなる 病気である	回復することはできるが時間がかかる	依存症の本人が依存症であることを認めない	意志が弱いことが原因でなるわけではない	依存対象が生活の最優先事項になる	その他	分からない	あてはまるものはない	無回答
全 体	1,698	83.3	77.5	59.5	41.9	33.0	32.3	0.2	1.9	1.2	0.9
【地 域 別】											
横 浜	677	81.5	77.8	57.9	43.3	32.8	33.5	0.1	1.9	1.5	0.7
川 崎	241	85.1	80.9	57.3	37.3	31.5	34.0	0.8	0.4	1.7	0.8
相 模 原	121	85.1	81.0	62.8	46.3	38.0	38.0	-	4.1	-	0.8
横須賀三浦	111	89.2	75.7	61.3	37.8	35.1	38.7	-	0.9	1.8	0.9
県 央	176	85.8	75.0	60.8	40.9	27.8	22.7	-	1.1	0.6	1.1
湘 南	272	82.0	74.6	58.8	40.8	33.8	30.1	0.4	3.3	1.1	0.7
県 西	74	83.8	77.0	66.2	50.0	39.2	33.8	-	1.4	-	1.4
【性・年代別】											
男 性	703	84.1	72.7	53.3	39.3	30.4	28.6	0.3	2.1	1.8	0.7
女 性	935	83.1	80.9	63.7	43.7	35.1	35.8	0.2	1.6	0.6	1.0
男性18～29歳	31	93.5	74.2	61.3	38.7	48.4	38.7	-	-	-	3.2
30歳代	54	92.6	72.2	53.7	44.4	40.7	46.3	1.9	-	-	-
40歳代	126	88.9	77.0	60.3	40.5	41.3	38.9	-	2.4	2.4	-
50歳代	179	84.4	69.3	52.0	40.2	33.0	26.3	0.6	3.9	1.1	0.6
60歳代	153	83.0	73.9	51.6	38.6	24.8	26.8	-	2.0	0.7	1.3
70～74歳	57	82.5	66.7	54.4	42.1	15.8	14.0	-	1.8	3.5	1.8
75歳以上	102	72.5	75.5	47.1	33.3	18.6	18.6	-	1.0	4.9	-
女性18～29歳	56	91.1	67.9	66.1	37.5	39.3	39.3	-	-	1.8	-
30歳代	112	85.7	77.7	49.1	33.0	31.3	33.9	0.9	3.6	-	0.9
40歳代	175	88.0	80.6	60.0	46.3	40.6	41.7	0.6	1.1	-	0.6
50歳代	220	90.0	84.5	66.8	50.9	39.5	40.0	-	1.4	-	-
60歳代	179	81.6	83.2	67.0	44.7	33.0	38.5	-	1.7	1.1	-
70～74歳	60	66.7	80.0	60.0	38.3	28.3	21.7	-	1.7	1.7	5.0
75歳以上	132	69.7	80.3	72.0	40.9	27.3	23.5	-	1.5	1.5	3.0

2 依存症に関する相談場所として知っているもの【問24】

【全体の状況】

依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「依存症専門医療機関・専門クリニック」が63.3%で最も多く、次いで「回復支援施設（依存症回復のための通所・入所施設）」が32.8%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）



図表9-2-2 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

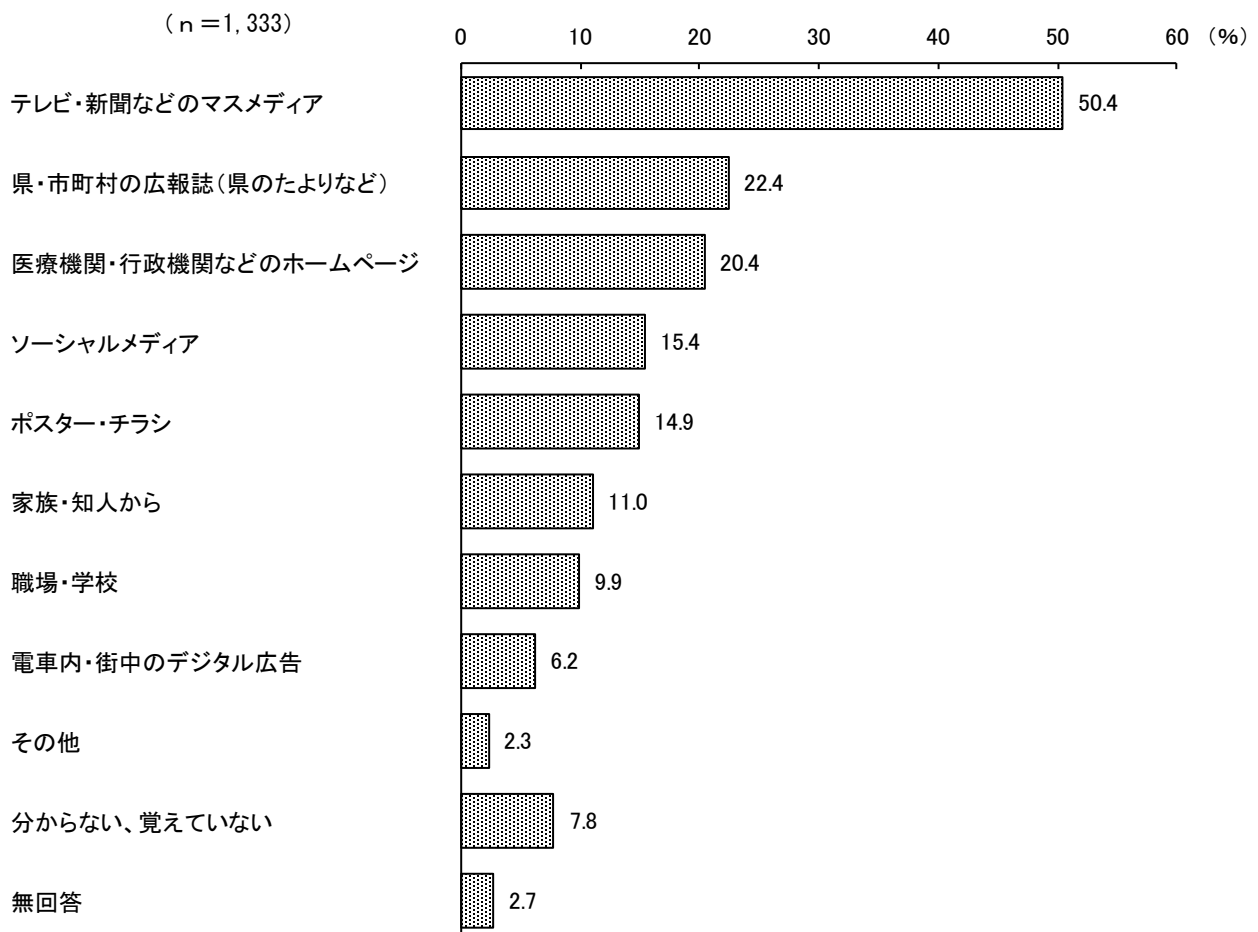
	n	依存症専門医療機関・専門クリニック	回復支援施設（依存症回復のため通所・入所施設）	かかりつけ医（内科医など）	行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	当事者や家族などの自助グループ	弁護士・司法書士	その他	分からない	知っているものはない	無回答
全 体	1,698	63.3	32.8	32.0	28.9	21.7	1.7	0.2	13.4	6.8	1.3
【地 域 別】											
横 浜	677	64.4	33.8	31.2	28.4	23.2	1.8	-	13.3	8.0	1.3
川 崎	241	60.2	31.1	32.8	20.7	23.7	1.2	0.4	12.0	7.9	1.2
相 模 原	121	72.7	36.4	37.2	39.7	16.5	1.7	0.8	9.9	4.1	0.8
横 須 賀 三 浦	111	78.4	31.5	31.5	29.7	23.4	-	0.9	9.9	3.6	0.9
県 央	176	60.8	35.8	27.3	33.5	19.3	2.8	-	15.3	6.3	1.7
湘 南	272	56.3	27.6	33.1	30.1	19.1	1.1	0.4	16.5	6.6	1.5
県 西	74	63.5	36.5	33.8	28.4	25.7	5.4	-	13.5	5.4	-
【性・年代別】											
男 性	703	55.5	23.9	30.0	25.5	14.7	2.1	0.1	16.6	10.8	1.4
女 性	935	69.3	39.1	33.4	31.9	27.2	1.5	0.3	11.1	3.9	1.2
男性18～29歳	31	67.7	19.4	35.5	29.0	19.4	3.2	-	6.5	3.2	6.5
30歳代	54	53.7	20.4	37.0	20.4	27.8	3.7	1.9	14.8	7.4	1.9
40歳代	126	66.7	31.0	28.6	19.8	17.5	2.4	-	17.5	5.6	-
50歳代	179	54.7	24.0	28.5	25.1	15.6	2.2	-	15.6	15.1	0.6
60歳代	153	57.5	26.8	26.8	30.7	11.1	1.3	-	17.0	11.1	1.3
70～74歳	57	47.4	19.3	26.3	19.3	10.5	-	-	17.5	12.3	3.5
75歳以上	102	42.2	16.7	36.3	30.4	8.8	2.9	-	20.6	11.8	2.0
女性18～29歳	56	62.5	23.2	53.6	26.8	28.6	3.6	-	12.5	3.6	-
30歳代	112	73.2	28.6	49.1	32.1	26.8	-	-	5.4	3.6	1.8
40歳代	175	70.3	34.9	32.6	31.4	30.9	1.7	-	10.3	5.7	0.6
50歳代	220	73.6	47.3	25.0	29.1	32.7	2.7	-	10.0	4.5	0.5
60歳代	179	68.7	41.9	29.1	36.3	23.5	1.1	1.1	12.3	3.4	0.6
70～74歳	60	61.7	36.7	35.0	38.3	23.3	1.7	-	11.7	1.7	3.3
75歳以上	132	64.4	43.9	31.8	30.3	19.7	-	0.8	16.7	2.3	3.0

3 相談できる場所を知ったきっかけ【問24-1】

【全体の状況】

依存症について相談できる場所（問24）で、知っているという回答した1,333人に、相談できる場所を知ったきっかけを複数回答で尋ねたところ、「テレビ・新聞などのマスメディア」が50.4%で最も多く、次いで「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が22.4%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）



図表9-3-2 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	テレビ・新聞などのマスメディア	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	医療機関・行政機関などのホームページ	ソーシャルメディア	ポスター・チラシ	家族・知人から	職場・学校	電車内・街中のデジタル広告	その他	分からない、覚えていない	無回答
全体	1,333	50.4	22.4	20.4	15.4	14.9	11.0	9.9	6.2	2.3	7.8	2.7
【地域別】												
横浜	524	49.2	21.8	19.1	13.2	16.6	9.2	9.9	7.3	2.5	8.4	3.1
川崎	190	49.5	13.7	19.5	23.7	11.1	11.1	9.5	3.7	1.6	8.9	3.2
相模原	103	55.3	21.4	19.4	23.3	16.5	5.8	11.7	11.7	2.9	7.8	2.9
横須賀三浦	95	43.2	18.9	20.0	10.5	12.6	16.8	9.5	5.3	6.3	9.5	2.1
県央	135	54.8	25.9	22.2	13.3	12.6	16.3	10.4	3.0	1.5	4.4	3.7
湘南	205	48.3	30.7	24.9	15.6	16.1	13.2	8.8	5.4	1.5	7.8	2.0
県西	60	60.0	23.3	20.0	11.7	15.0	11.7	13.3	5.0	1.7	5.0	-
【性・年代別】												
男性	500	48.0	22.2	23.2	15.0	16.0	10.2	9.4	6.0	1.0	10.2	1.8
女性	784	51.5	22.2	19.0	15.9	14.3	11.4	10.3	6.1	3.1	6.4	3.3
男性18～29歳	26	19.2	-	3.8	26.9	15.4	19.2	26.9	19.2	-	23.1	7.7
30歳代	41	34.1	7.3	22.0	29.3	14.6	4.9	9.8	17.1	4.9	14.6	-
40歳代	97	50.5	12.4	17.5	16.5	16.5	5.2	11.3	7.2	-	13.4	2.1
50歳代	123	52.8	16.3	20.3	16.3	15.4	12.2	12.2	4.1	-	8.1	0.8
60歳代	108	58.3	28.7	24.1	13.0	19.4	9.3	6.5	3.7	0.9	8.3	0.9
70～74歳	38	47.4	34.2	23.7	5.3	13.2	7.9	2.6	5.3	2.6	10.5	5.3
75歳以上	67	38.8	47.8	43.3	6.0	13.4	16.4	3.0	-	1.5	4.5	1.5
女性18～29歳	47	27.7	4.3	19.1	31.9	17.0	6.4	21.3	8.5	6.4	4.3	8.5
30歳代	100	37.0	10.0	11.0	27.0	18.0	7.0	9.0	8.0	2.0	15.0	4.0
40歳代	146	47.9	15.1	19.2	19.9	11.6	11.6	13.7	5.5	2.7	11.0	3.4
50歳代	187	60.4	19.3	14.4	16.6	13.9	10.7	9.6	7.0	2.7	4.3	3.2
60歳代	150	53.3	22.7	21.3	12.7	10.0	10.7	10.0	5.3	5.3	4.0	1.3
70～74歳	50	48.0	46.0	28.0	2.0	20.0	20.0	10.0	6.0	2.0	2.0	4.0
75歳以上	103	64.1	45.6	27.2	2.9	17.5	14.6	3.9	3.9	1.0	1.9	2.9

第10章 かながわの人権【問25～問27】

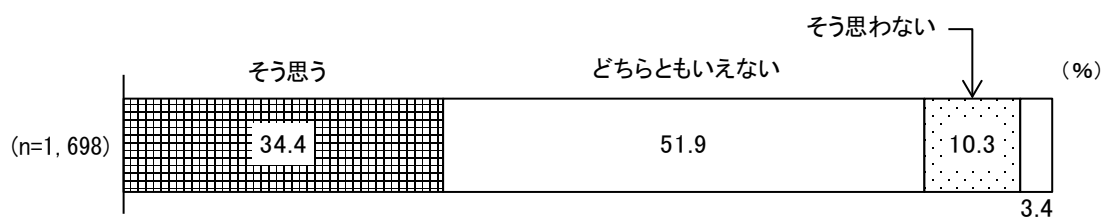
1 基本的人権が尊重されている社会か【問25】

【全体の状況】

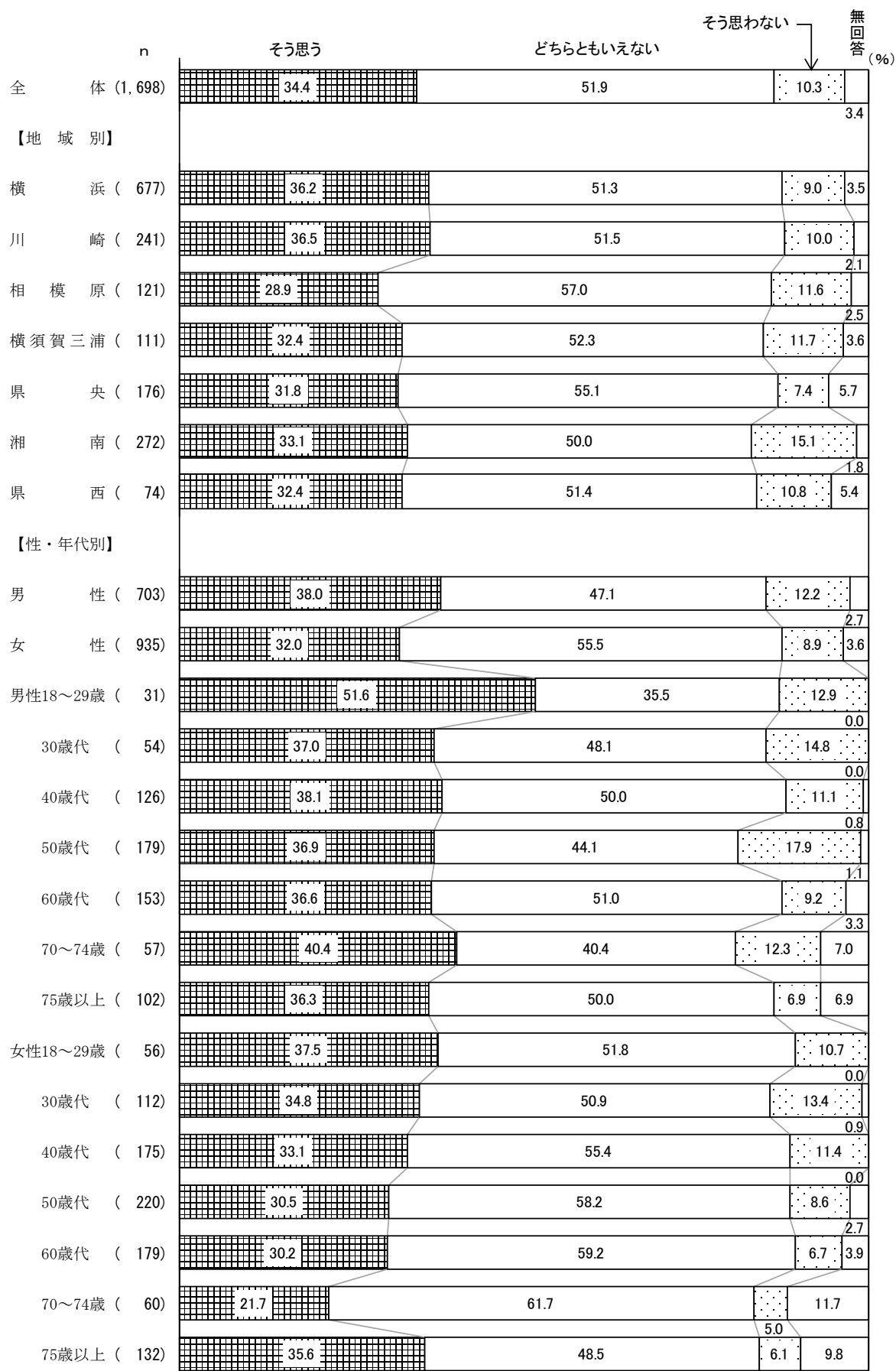
今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うか尋ねたところ、「そう思う」が34.4%であった。

一方、「そう思わない」が10.3%であった。(図表10-1-1)

図表10-1-1 基本的人権が尊重されている社会か



図表10-1-2 基本的人権が尊重されている社会か—地域別、性・年代別



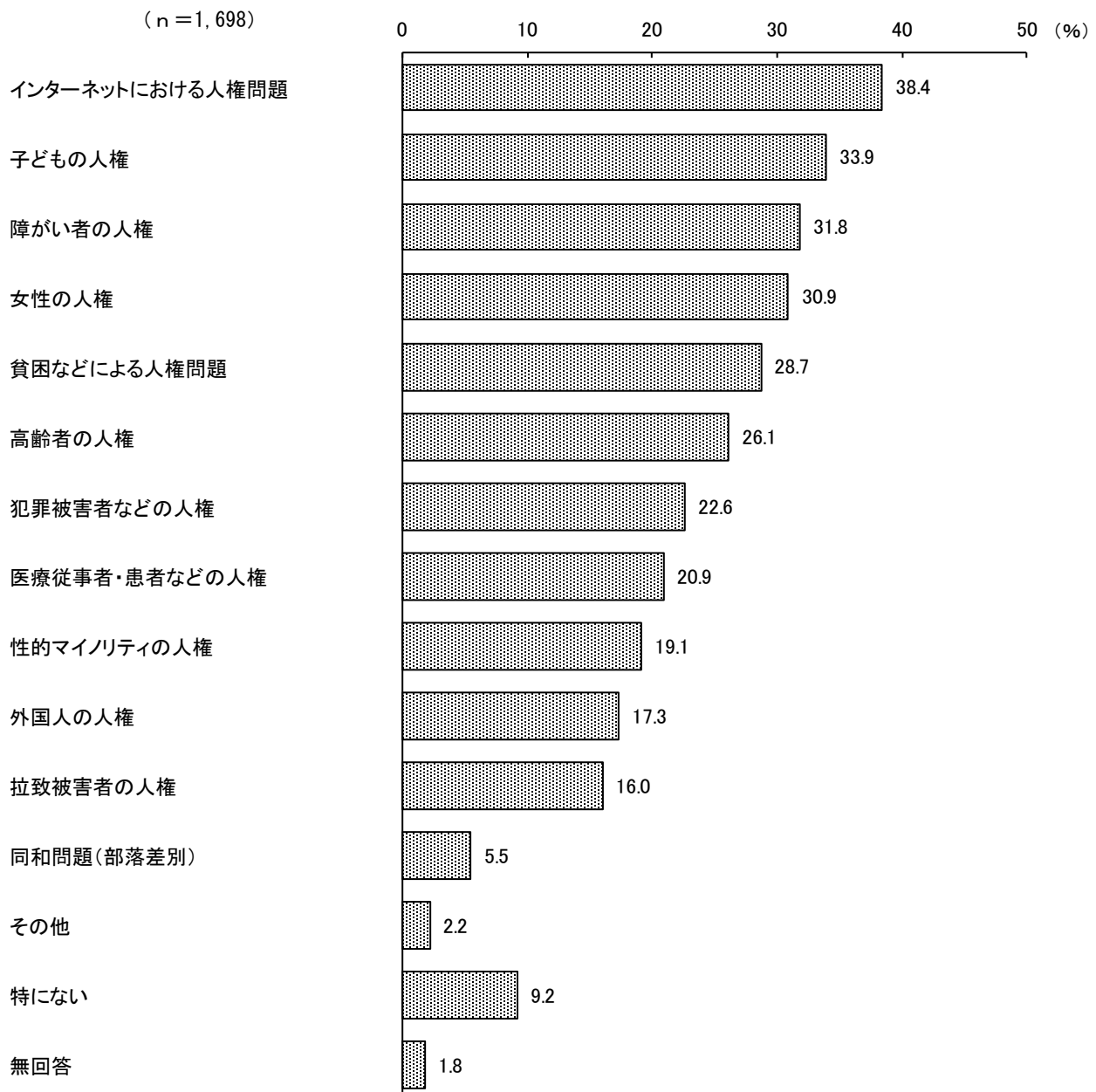
2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題【問26】

【全体の状況】

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が38.4%で最も多く、次いで「子どもの人権」が33.9%であった。

(図表10-2-1)

図表10-2-1 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）



図表10-2-2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

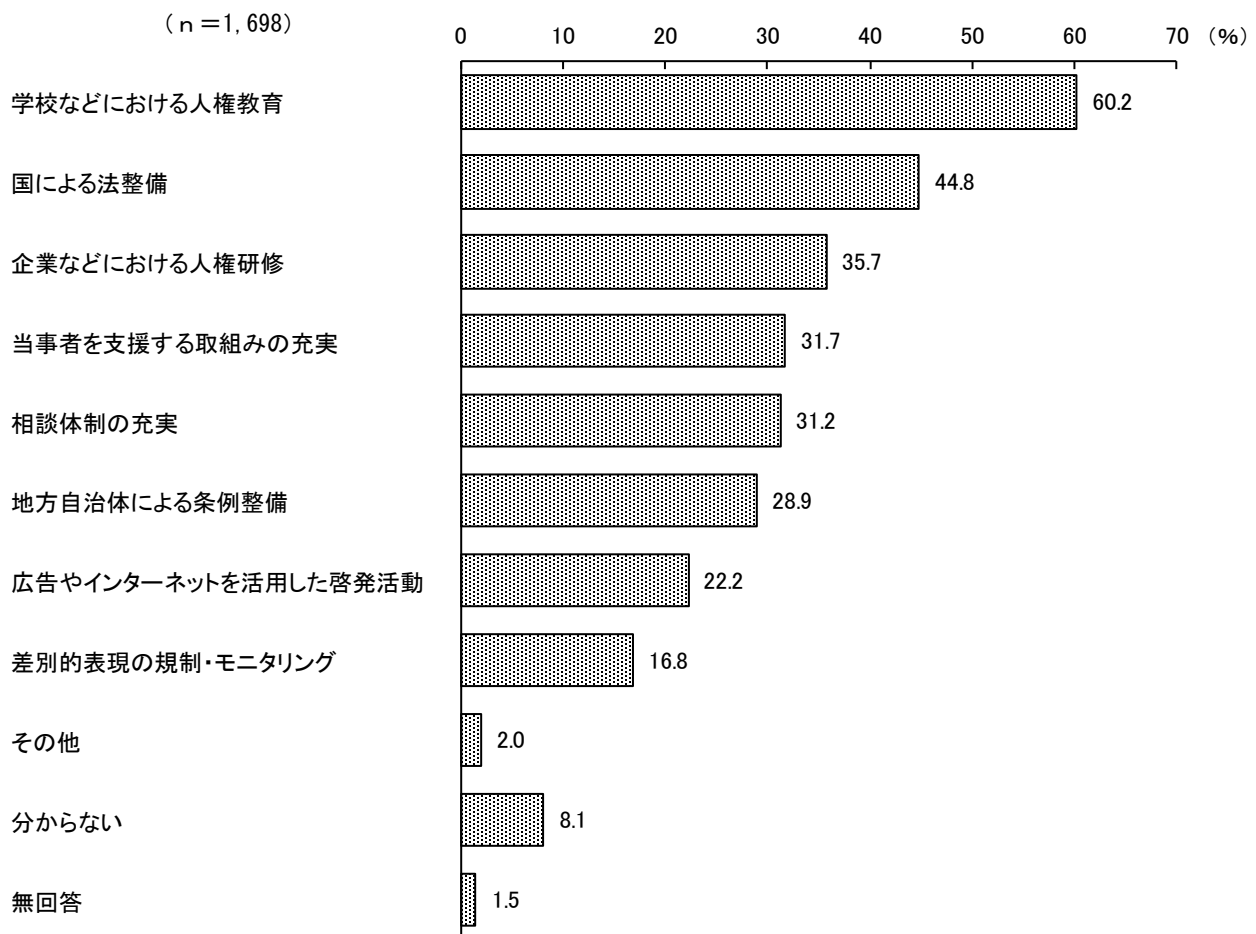
	n	インターネットにおける人権問題	子どもの人権	障がい者の人権	女性の人権	貧困などによる人権問題	高齢者の人権	犯罪被害者などの人権	医療従事者・患者などの人権	性的マイノリティの人権	外国人の人権	拉致被害者の人権	同和問題（部落差別）	その他	特にない	無回答
全 体	1,698	38.4	33.9	31.8	30.9	28.7	26.1	22.6	20.9	19.1	17.3	16.0	5.5	2.2	9.2	1.8
【地 域 別】																
横 浜	677	39.4	32.3	31.0	29.0	27.3	24.5	23.5	21.9	19.2	17.9	17.4	5.3	2.4	10.6	1.6
川 崎	241	38.2	34.0	29.5	30.7	26.6	21.6	26.6	21.6	21.2	18.3	15.8	6.2	2.9	8.7	1.7
相 模 原	121	34.7	39.7	32.2	38.0	30.6	26.4	22.3	20.7	23.1	16.5	12.4	5.8	1.7	6.6	0.8
横 須 賀 三 浦	111	45.9	35.1	37.8	29.7	34.2	23.4	23.4	23.4	20.7	17.1	9.0	3.6	1.8	9.9	2.7
県 央	176	35.2	31.3	35.2	35.2	26.1	27.8	23.9	17.6	17.0	18.8	17.0	6.3	1.7	5.7	2.8
湘 南	272	38.6	39.0	32.4	30.1	30.5	29.4	17.6	19.1	15.4	14.7	16.9	4.0	1.8	7.4	1.1
県 西	74	36.5	21.6	28.4	27.0	31.1	35.1	16.2	23.0	24.3	14.9	14.9	10.8	2.7	18.9	2.7
【性・年代別】																
男 性	703	38.4	28.6	31.3	21.5	27.6	24.3	22.9	17.4	15.6	19.6	14.7	5.7	3.0	11.7	1.7
女 性	935	38.8	38.2	32.1	37.8	28.9	26.6	22.6	24.1	22.2	15.7	16.8	5.3	1.6	7.8	1.7
男性18～29歳	31	29.0	25.8	22.6	25.8	35.5	9.7	16.1	29.0	25.8	48.4	12.9	-	6.5	6.5	3.2
30歳代	54	24.1	25.9	24.1	18.5	18.5	11.1	22.2	20.4	14.8	22.2	5.6	3.7	11.1	11.1	1.9
40歳代	126	38.1	28.6	26.2	25.4	22.2	16.7	22.2	13.5	21.4	20.6	8.7	7.9	4.0	16.7	0.8
50歳代	179	43.0	25.1	30.2	19.0	29.6	17.3	28.5	16.2	17.9	19.6	11.7	5.0	3.4	12.8	-
60歳代	153	43.8	37.3	37.3	26.1	36.6	32.7	22.9	22.9	15.7	18.3	20.3	6.5	-	7.8	1.3
70～74歳	57	45.6	22.8	40.4	21.1	28.1	26.3	21.1	7.0	3.5	17.5	22.8	12.3	1.8	8.8	5.3
75歳以上	102	29.4	27.5	31.4	14.7	19.6	44.1	17.6	16.7	8.8	11.8	19.6	2.0	1.0	12.7	3.9
女性18～29歳	56	39.3	32.1	21.4	53.6	23.2	14.3	19.6	19.6	30.4	25.0	5.4	-	-	7.1	-
30歳代	112	31.3	44.6	12.5	44.6	18.8	10.7	20.5	19.6	22.3	18.8	8.0	5.4	4.5	6.3	0.9
40歳代	175	46.9	42.3	25.1	41.1	22.9	14.9	22.9	25.1	24.6	12.6	11.4	4.0	2.9	10.3	0.6
50歳代	220	39.5	38.2	35.0	35.0	30.0	23.6	18.2	24.5	26.8	22.7	18.6	7.3	0.9	6.4	0.9
60歳代	179	38.0	40.8	44.7	39.1	39.1	44.7	29.6	25.7	21.2	14.0	21.2	8.4	1.1	7.3	0.6
70～74歳	60	43.3	31.7	31.7	28.3	33.3	33.3	20.0	16.7	15.0	11.7	21.7	5.0	1.7	6.7	5.0
75歳以上	132	31.8	29.5	40.2	28.0	30.3	37.9	24.2	28.8	12.9	6.1	25.0	2.3	-	9.8	6.1

3 人権課題を解消するために力を入れるべき取り組み【問27】

【全体の状況】

人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答で尋ねたところ、「学校などにおける人権教育」が60.2%で最も多く、次いで「国による法整備」が44.8%であった。（図表10-3-1）

図表10-3-1 人権課題を解消するために力を入れるべき取り組み（複数回答）



図表10-3-2 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	学校などにおける人権教育	国による法整備	企業などにおける人権研修	当事者を支援する取組みの充実	相談体制の充実	地方自治体による条例整備	啓発やインターネットを活用した	差別的表現の規制・モニタリング	その他	分からない	無回答
全体	1,698	60.2	44.8	35.7	31.7	31.2	28.9	22.2	16.8	2.0	8.1	1.5
【地域別】												
横浜	677	59.8	44.2	34.3	33.5	33.4	27.6	24.8	15.8	2.2	8.9	1.0
川崎	241	61.0	45.6	34.0	30.7	26.1	28.6	20.3	24.1	2.1	7.1	1.7
相模原	121	63.6	50.4	40.5	38.0	33.9	39.7	19.8	15.7	2.5	6.6	-
横須賀三浦	111	63.1	46.8	42.3	34.2	30.6	30.6	19.8	20.7	2.7	5.4	1.8
県央	176	59.7	44.9	42.0	26.7	26.7	21.6	26.7	14.2	1.1	8.0	2.3
湘南	272	61.0	44.1	33.1	28.7	32.7	31.3	19.5	14.3	1.5	8.5	1.8
県西	74	52.7	36.5	33.8	29.7	28.4	27.0	13.5	14.9	2.7	13.5	1.4
【性・年代別】												
男性	703	56.2	45.8	33.4	26.9	24.0	29.7	20.9	16.5	3.0	9.8	1.1
女性	935	64.1	44.3	38.1	35.7	35.8	28.0	24.0	17.3	1.4	7.0	1.4
男性18～29歳	31	61.3	51.6	35.5	12.9	25.8	29.0	19.4	22.6	-	3.2	-
30歳代	54	38.9	46.3	24.1	24.1	29.6	33.3	20.4	14.8	7.4	9.3	-
40歳代	126	61.9	46.0	30.2	23.8	23.0	27.0	27.0	15.9	2.4	13.5	0.8
50歳代	179	54.2	46.9	33.5	26.8	20.7	29.1	16.2	12.3	2.2	12.3	0.6
60歳代	153	58.8	46.4	40.5	34.0	24.2	34.0	21.6	18.3	3.3	5.9	1.3
70～74歳	57	57.9	40.4	26.3	29.8	24.6	26.3	21.1	17.5	3.5	8.8	3.5
75歳以上	102	54.9	43.1	34.3	23.5	27.5	27.5	21.6	20.6	2.9	9.8	2.0
女性18～29歳	56	57.1	50.0	44.6	28.6	35.7	26.8	16.1	17.9	1.8	7.1	-
30歳代	112	64.3	50.0	33.9	22.3	20.5	28.6	27.7	17.9	1.8	10.7	0.9
40歳代	175	69.7	49.1	35.4	36.0	32.0	32.0	30.9	16.0	1.7	5.1	-
50歳代	220	68.2	42.7	42.3	36.8	35.5	29.1	23.6	20.0	1.8	7.3	-
60歳代	179	63.1	41.3	40.8	41.3	44.7	26.3	20.7	14.5	1.1	4.5	2.2
70～74歳	60	53.3	43.3	25.0	36.7	31.7	26.7	13.3	11.7	1.7	5.0	6.7
75歳以上	132	59.1	37.1	37.9	39.4	43.9	23.5	24.2	20.5	-	9.8	3.0

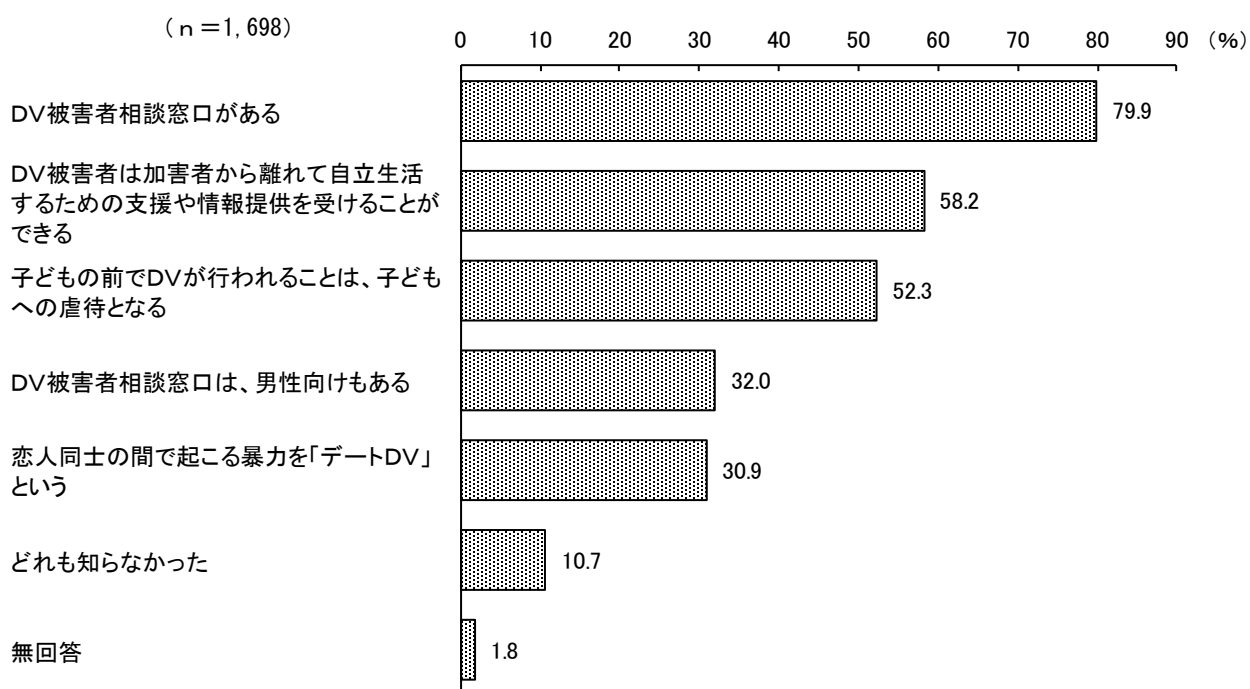
第11章 配偶者等からの暴力【問28】

1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと【問28】

【全体の状況】

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が79.9%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が58.2%であった。（図表11-1-1）

図表11-1-1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）



図表11-1-2 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	DV被害者相談窓口がある	立生を受けることができる	DV被害者は加害者から離れて自己生活するために支援や情報提供	子どもへの虐待が行われることは、子どもへの虐待となる	DV被害者相談窓口は、男性向けもある	「デートDV」という恋人同士の間で起こる暴力を	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,698	79.9	58.2	52.3	32.0	30.9	10.7	1.8	
【地 域 別】									
横 浜	677	80.9	59.5	54.8	34.4	31.0	10.6	0.7	
川 崎	241	79.3	56.0	51.9	32.4	35.3	12.4	2.5	
相 模 原	121	83.5	63.6	59.5	31.4	29.8	9.9	—	
横 須 賀 三 浦	111	82.9	60.4	52.3	36.0	26.1	9.0	1.8	
県 央	176	75.6	58.5	40.3	30.1	26.7	14.8	3.4	
湘 南	272	78.7	54.0	51.1	28.7	32.0	8.1	1.8	
県 西	74	75.7	59.5	54.1	28.4	37.8	13.5	4.1	
【性・年代別】									
男 性	703	73.0	44.5	41.5	29.0	22.9	16.5	1.8	
女 性	935	85.2	68.9	61.2	35.2	37.2	6.5	1.2	
男性18～29歳	31	80.6	25.8	48.4	41.9	45.2	9.7	6.5	
30歳代	54	66.7	25.9	46.3	33.3	25.9	20.4	—	
40歳代	126	76.2	38.1	40.5	34.9	26.2	16.7	1.6	
50歳代	179	74.9	48.0	40.2	33.5	26.3	14.5	—	
60歳代	153	72.5	47.1	47.7	26.8	21.6	16.3	2.6	
70～74歳	57	71.9	57.9	36.8	15.8	17.5	15.8	3.5	
75歳以上	102	68.6	51.0	34.3	18.6	9.8	19.6	2.9	
女性18～29歳	56	76.8	44.6	64.3	30.4	50.0	10.7	—	
30歳代	112	86.6	58.0	60.7	40.2	46.4	8.9	0.9	
40歳代	175	91.4	71.4	64.0	44.6	42.3	5.7	—	
50歳代	220	91.8	75.9	68.2	43.2	44.5	3.2	—	
60歳代	179	80.4	74.9	63.7	32.4	34.6	7.8	1.7	
70～74歳	60	76.7	70.0	46.7	21.7	15.0	8.3	5.0	
75歳以上	132	78.8	64.4	48.5	17.4	18.9	6.8	3.0	

第12章 犯罪被害者等への支援【問29～問31】

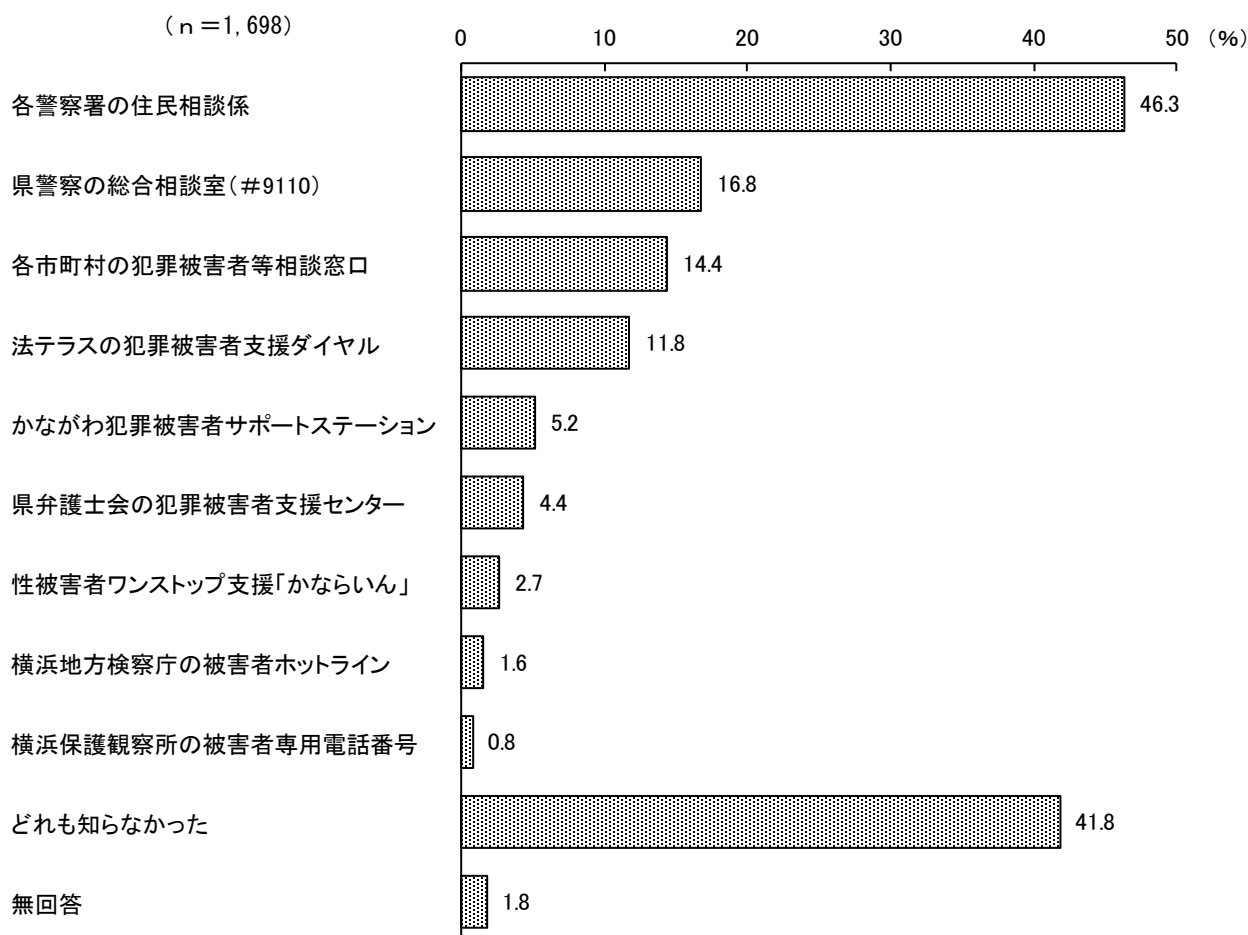
1 犯罪被害者等の相談窓口として知っているもの【問29】

【全体の状況】

犯罪被害者等の相談窓口のうち、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「各警察署の住民相談係」が46.3%で最も多く、次いで「県警察の総合相談室（#9110）」が16.8%であった。

一方、「どれも知らなかった」が41.8%であった。（図表12-1-1）

図表12-1-1 犯罪被害者等の相談窓口として知っているもの（複数回答）



図表12-1-2 犯罪被害者等の相談窓口として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	各警察署の住民相談係	9110 県警察の総合相談室（#）	各市町村の犯罪被害者等相談窓口	法テラスの犯罪被害者支援ダイヤル	かながわ犯罪被害者サポートセッション	県弁護士会の犯罪被害者支援センター	性被害者ワンストップ支援「かならいん」	横浜地方検察庁の被害者ホットライン	横浜保護観察所の被害者専用電話番号	どれも知らなかった	無回答
全体	1,698	46.3	16.8	14.4	11.8	5.2	4.4	2.7	1.6	0.8	41.8	1.8
【地域別】												
横浜	677	45.8	16.5	12.4	12.7	4.6	4.9	3.4	2.1	0.9	42.4	1.8
川崎	241	43.2	15.8	10.4	11.2	3.7	5.4	0.8	1.7	0.4	44.8	1.7
相模原	121	52.1	17.4	20.7	12.4	4.1	5.0	2.5	0.8	1.7	36.4	-
横須賀三浦	111	47.7	15.3	17.1	12.6	6.3	6.3	1.8	0.9	-	40.5	1.8
県央	176	47.7	17.6	19.3	12.5	6.3	2.8	1.7	1.7	1.1	40.3	2.8
湘南	272	46.3	18.0	13.2	8.1	7.0	1.1	4.0	0.7	0.7	42.3	1.1
県西	74	44.6	18.9	20.3	17.6	6.8	9.5	1.4	2.7	1.4	44.6	1.4
【性・年代別】												
男性	703	45.2	18.1	12.8	11.4	5.3	5.7	2.3	1.7	0.7	43.5	1.4
女性	935	47.2	15.8	15.1	12.2	5.3	3.4	3.1	1.5	1.0	41.1	1.6
男性18～29歳	31	29.0	19.4	12.9	19.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	41.9	3.2
30歳代	54	42.6	11.1	11.1	11.1	1.9	3.7	-	1.9	1.9	50.0	-
40歳代	126	47.6	15.9	14.3	11.9	7.9	2.4	2.4	0.8	-	41.3	-
50歳代	179	43.6	18.4	9.5	11.2	5.6	6.1	2.8	2.8	1.1	46.9	0.6
60歳代	153	49.7	22.2	15.7	13.7	5.9	5.9	3.3	1.3	0.7	39.9	2.6
70～74歳	57	43.9	14.0	10.5	5.3	3.5	7.0	-	1.8	-	45.6	3.5
75歳以上	102	46.1	19.6	14.7	8.8	3.9	9.8	2.0	1.0	-	41.2	2.0
女性18～29歳	56	53.6	10.7	12.5	16.1	1.8	-	1.8	-	-	33.9	-
30歳代	112	50.0	12.5	15.2	12.5	4.5	2.7	3.6	1.8	-	40.2	0.9
40歳代	175	45.7	13.7	16.6	12.6	5.1	-	6.9	-	0.6	47.4	0.6
50歳代	220	42.3	14.5	14.5	11.8	4.5	3.6	3.2	1.4	1.4	45.0	0.9
60歳代	179	44.1	13.4	14.0	16.2	5.6	5.0	1.1	1.1	0.6	43.6	1.1
70～74歳	60	50.0	23.3	18.3	8.3	5.0	3.3	-	3.3	1.7	36.7	1.7
75歳以上	132	55.3	25.8	15.2	6.8	9.1	7.6	2.3	3.8	2.3	28.0	6.1

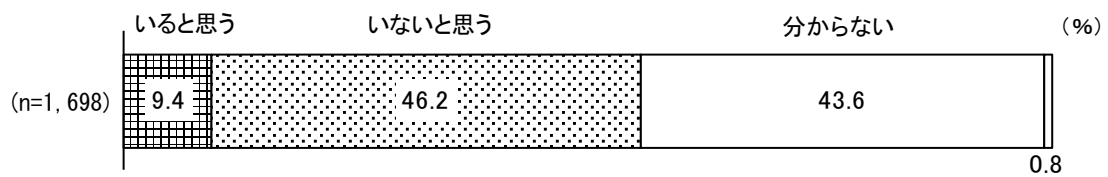
2 身近に現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか【問30】

【全体の状況】

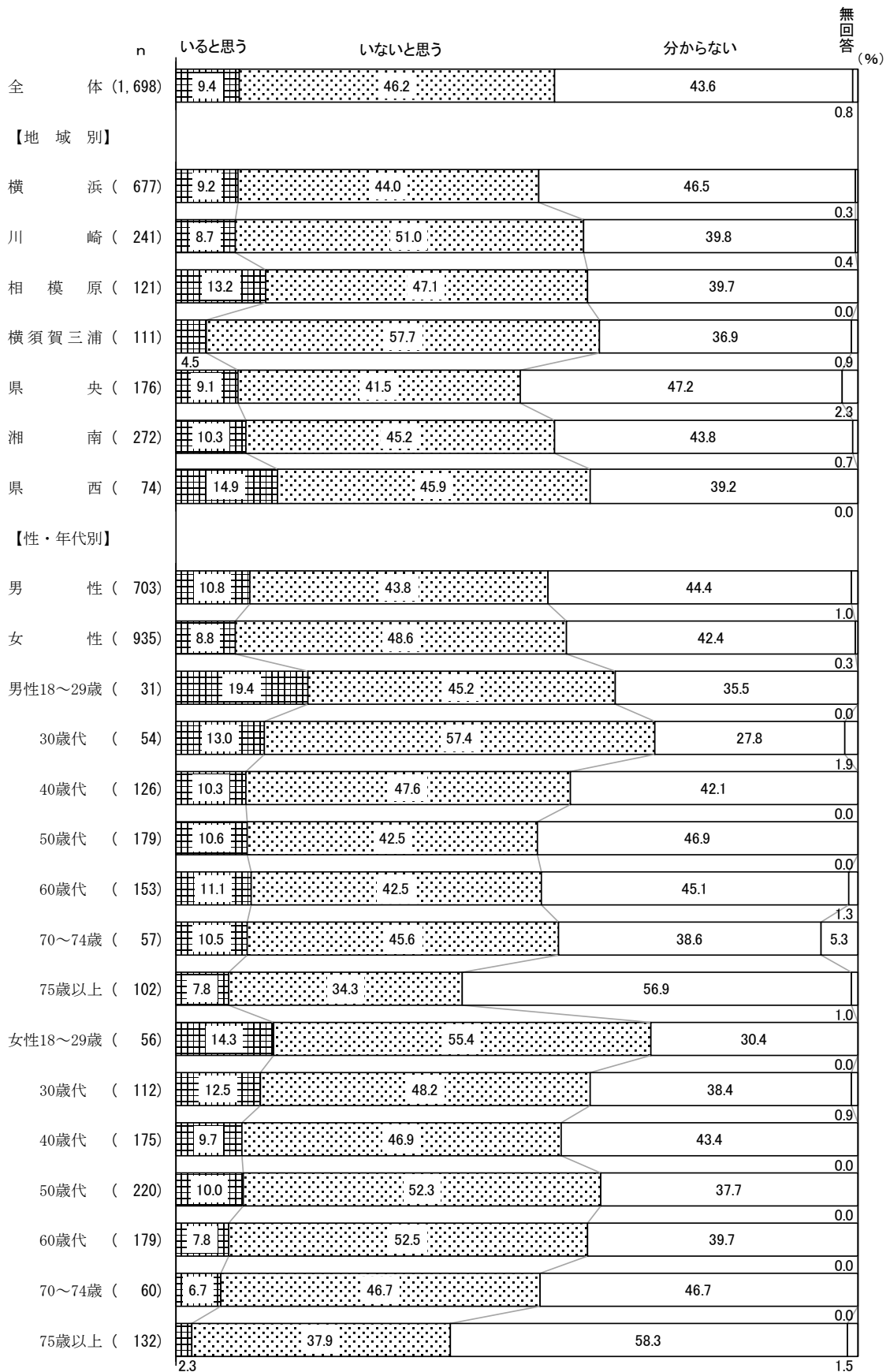
近所や職場、親戚などの身近に、現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか尋ねたところ、「いると思う」が9.4%であった。

一方、「いないと思う」が46.2%であった。(図表12-2-1)

図表12-2-1 身近に現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか



図表12-2-2 身近に現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか
—地域別、性・年代別

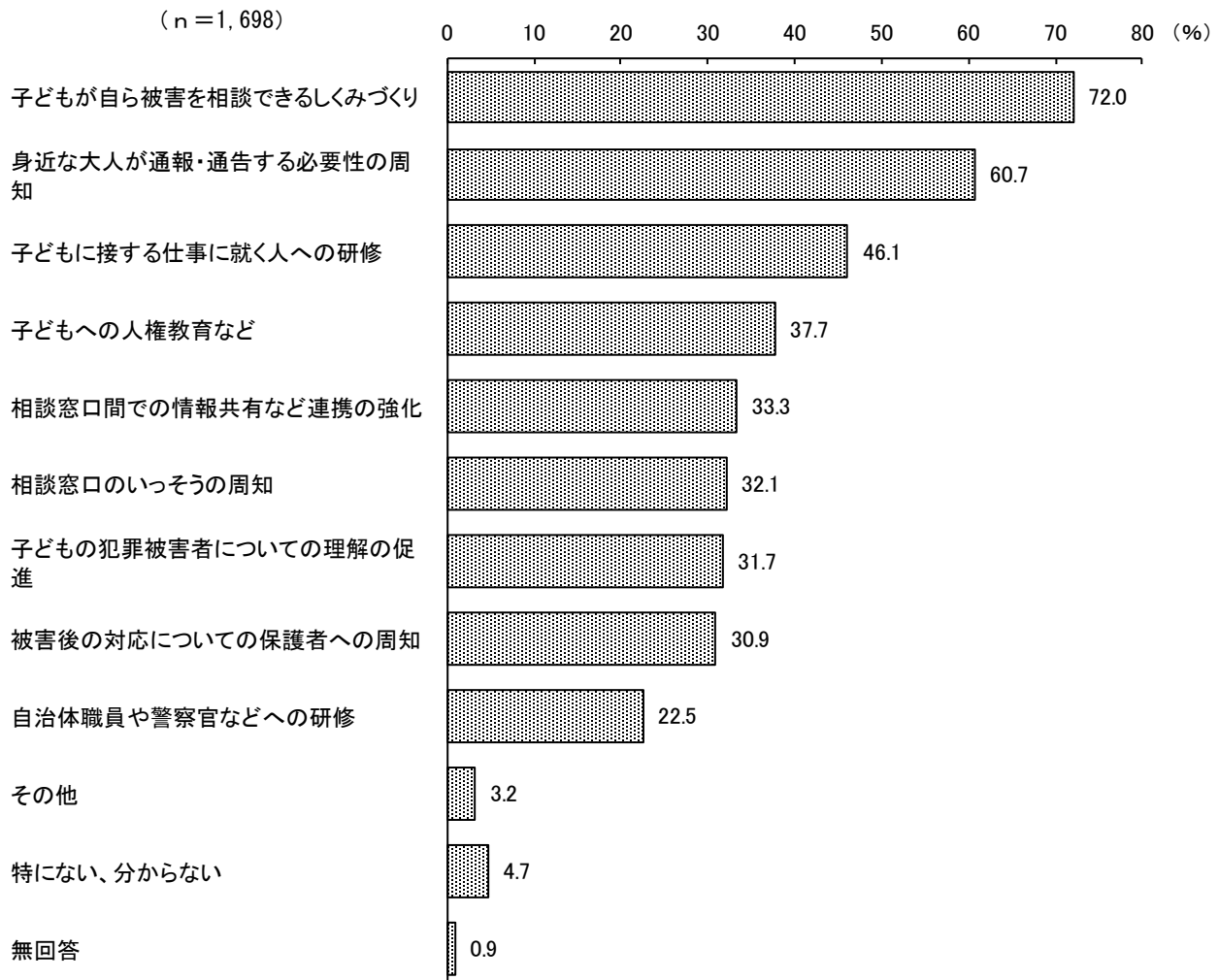


3 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み【問31】

【全体の状況】

犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みについて複数回答で尋ねたところ、「子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり」が72.0%で最も多く、次いで「身近な大人が通報・通告する必要性の周知」が60.7%であった。(図表12-3-1)

図表12-3-1 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み（複数回答）



図表12-3-2 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み（複数回答）

－地域別、性・年代別

		(%)											
	n	子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり	身近な大人が通報・通告する必要の周知	子どもに接する仕事に就く人への研修	子どもへの人権教育など	相談窓口間の情報共有など連携の強化	相談窓口のいっそうの周知	子どもの犯罪被害者についての理解の促進	被害後の対応についての保護者への周知	自治体職員や警察官などへの研修	その他	特にない、分からない	無回答
全体	1,698	72.0	60.7	46.1	37.7	33.3	32.1	31.7	30.9	22.5	3.2	4.7	0.9
【地域別】													
横浜	677	71.2	58.5	47.9	37.7	32.6	31.9	31.8	30.1	23.9	3.1	5.0	0.9
川崎	241	72.6	61.8	49.4	35.3	33.6	31.1	34.0	30.3	21.2	4.1	4.1	0.8
相模原	121	77.7	70.2	47.9	38.8	32.2	25.6	29.8	36.4	23.1	4.1	4.1	-
横須賀三浦	111	72.1	65.8	43.2	39.6	35.1	36.0	31.5	33.3	22.5	3.6	4.5	0.9
県央	176	71.0	61.9	43.8	41.5	31.3	32.4	34.1	32.4	19.9	2.3	2.3	1.7
湘南	272	70.2	58.1	41.2	37.1	34.9	34.6	28.7	29.8	21.0	3.7	5.5	0.4
県西	74	75.7	59.5	41.9	39.2	33.8	36.5	36.5	29.7	25.7	1.4	9.5	-
【性・年代別】													
男性	703	64.2	55.2	40.3	32.6	29.7	27.3	26.7	26.3	22.2	4.0	8.0	0.7
女性	935	77.5	64.8	50.3	41.9	35.9	35.5	36.0	34.2	22.8	2.8	2.5	0.9
男性18～29歳	31	64.5	51.6	41.9	29.0	32.3	29.0	35.5	25.8	41.9	6.5	-	-
30歳代	54	66.7	51.9	25.9	25.9	27.8	16.7	37.0	33.3	18.5	7.4	9.3	-
40歳代	126	64.3	58.7	47.6	36.5	29.4	27.8	30.2	31.0	19.8	5.6	8.7	-
50歳代	179	62.6	55.3	41.9	31.3	26.8	21.8	30.2	24.6	20.1	2.2	8.9	-
60歳代	153	69.3	54.9	37.9	41.8	35.3	32.7	22.2	25.5	24.8	3.9	4.6	1.3
70～74歳	57	59.6	59.6	40.4	22.8	28.1	26.3	19.3	17.5	26.3	7.0	8.8	3.5
75歳以上	102	60.8	52.0	39.2	26.5	28.4	34.3	19.6	26.5	18.6	1.0	10.8	1.0
女性18～29歳	56	66.1	66.1	48.2	32.1	26.8	33.9	33.9	26.8	23.2	1.8	3.6	-
30歳代	112	79.5	63.4	52.7	50.9	30.4	27.7	45.5	35.7	20.5	4.5	1.8	0.9
40歳代	175	75.4	67.4	57.1	45.7	35.4	33.7	44.6	38.3	24.6	6.3	1.7	-
50歳代	220	78.6	70.0	47.3	44.5	39.5	33.6	36.8	34.1	24.5	3.2	1.8	0.5
60歳代	179	82.1	64.2	51.4	39.7	39.1	40.2	31.3	31.8	25.1	1.1	2.2	0.6
70～74歳	60	73.3	60.0	38.3	33.3	33.3	43.3	16.7	33.3	11.7	-	5.0	1.7
75歳以上	132	77.3	56.8	49.2	36.4	35.6	37.9	31.1	34.1	20.5	-	3.8	3.0

第13章 生活に不安や課題がある人への支援【問32～問34】

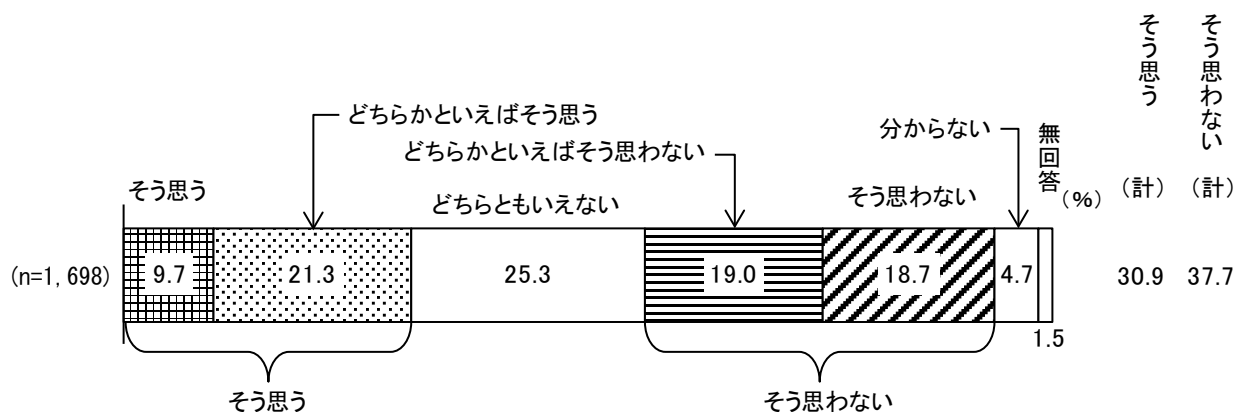
1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度【問32】

【全体の状況】

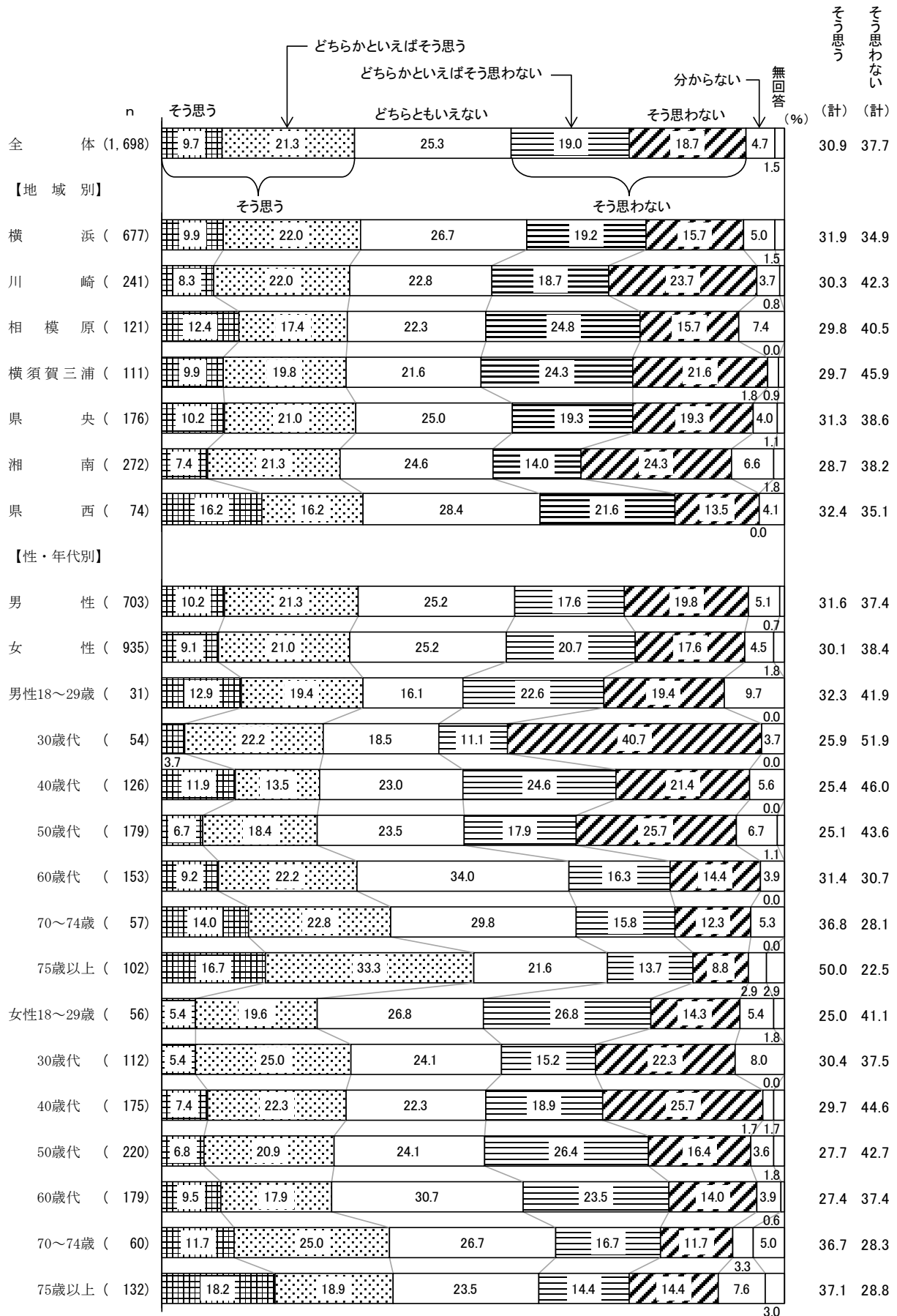
私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」(9.7%)と「どちらかといえばそう思う」(21.3%)を合わせた《そう思う》は30.9%であった。

一方、「そう思わない」(18.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(19.0%)を合わせた《そう思わない》は37.7%であった。(図表13-1-1)

図表13-1-1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度



図表13-1-2 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度—地域別、性・年代別



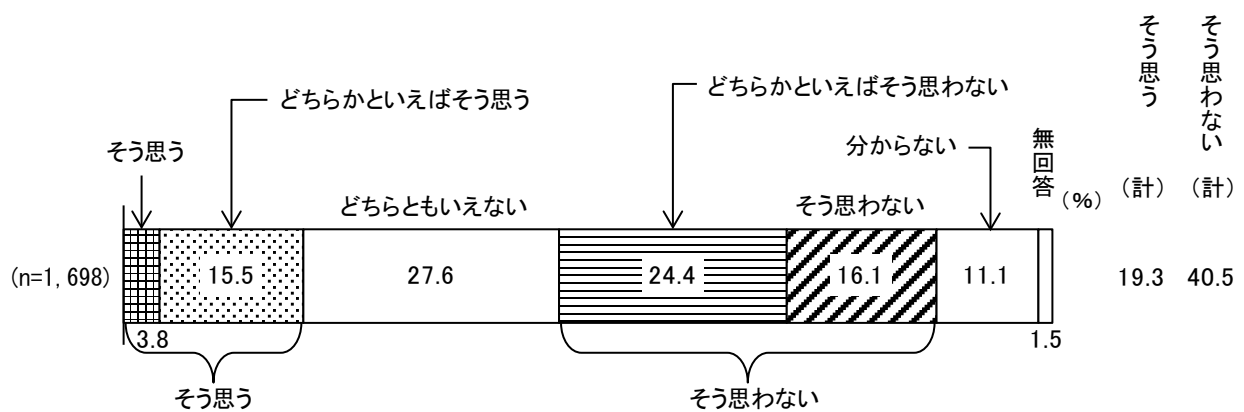
2 ひとり親家庭への支援状況【問33】

【全体の状況】

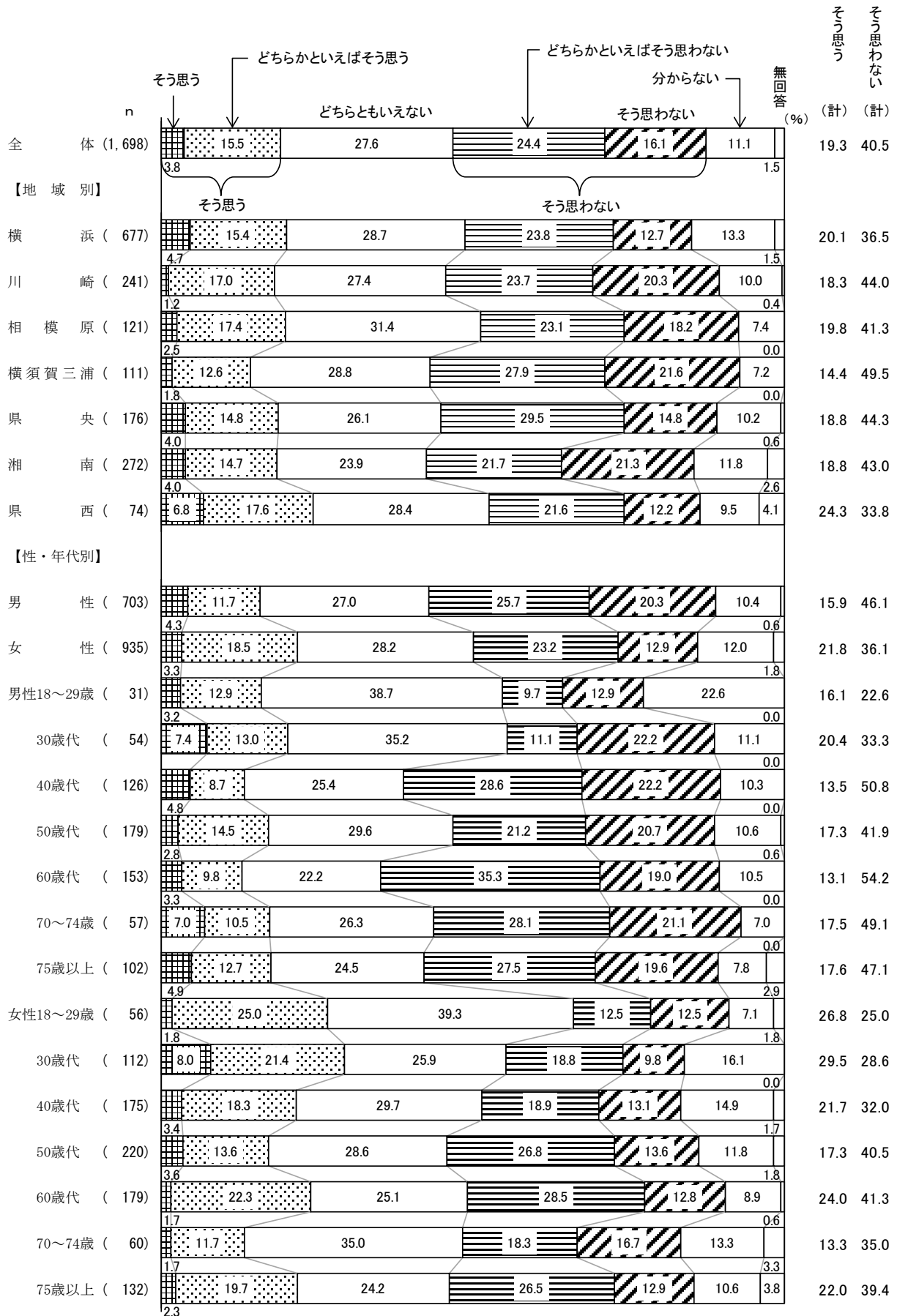
ひとり親家庭を、社会全体で支援できていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(3.8%)と「どちらかといえばそう思う」(15.5%)を合わせた《そう思う》は19.3%であった。

一方、「そう思わない」(16.1%)と「どちらかといえばそう思わない」(24.4%)を合わせた《そう思わない》は40.5%であった。(図表13-2-1)

図表13-2-1 ひとり親家庭への支援状況



図表13-2-2 ひとり親家庭への支援状況—地域別、性・年代別



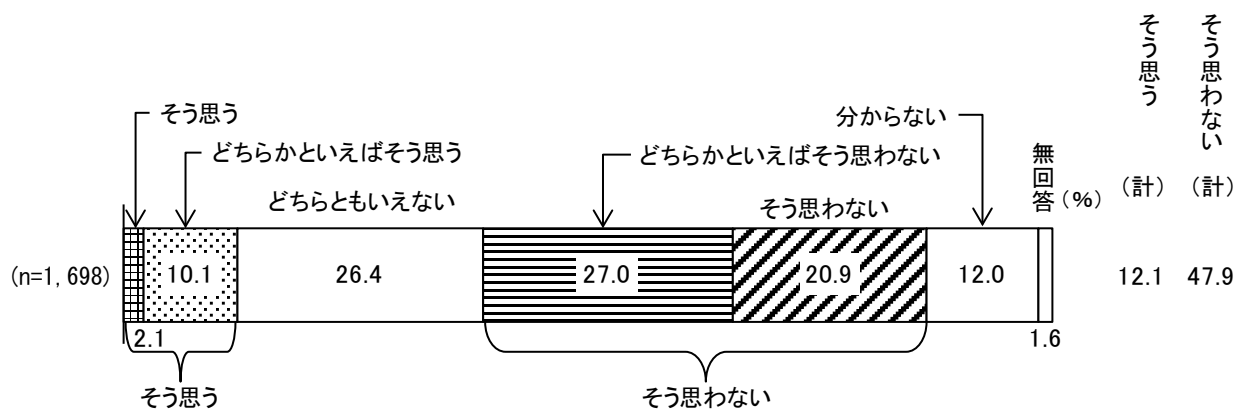
3 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況【問34】

【全体の状況】

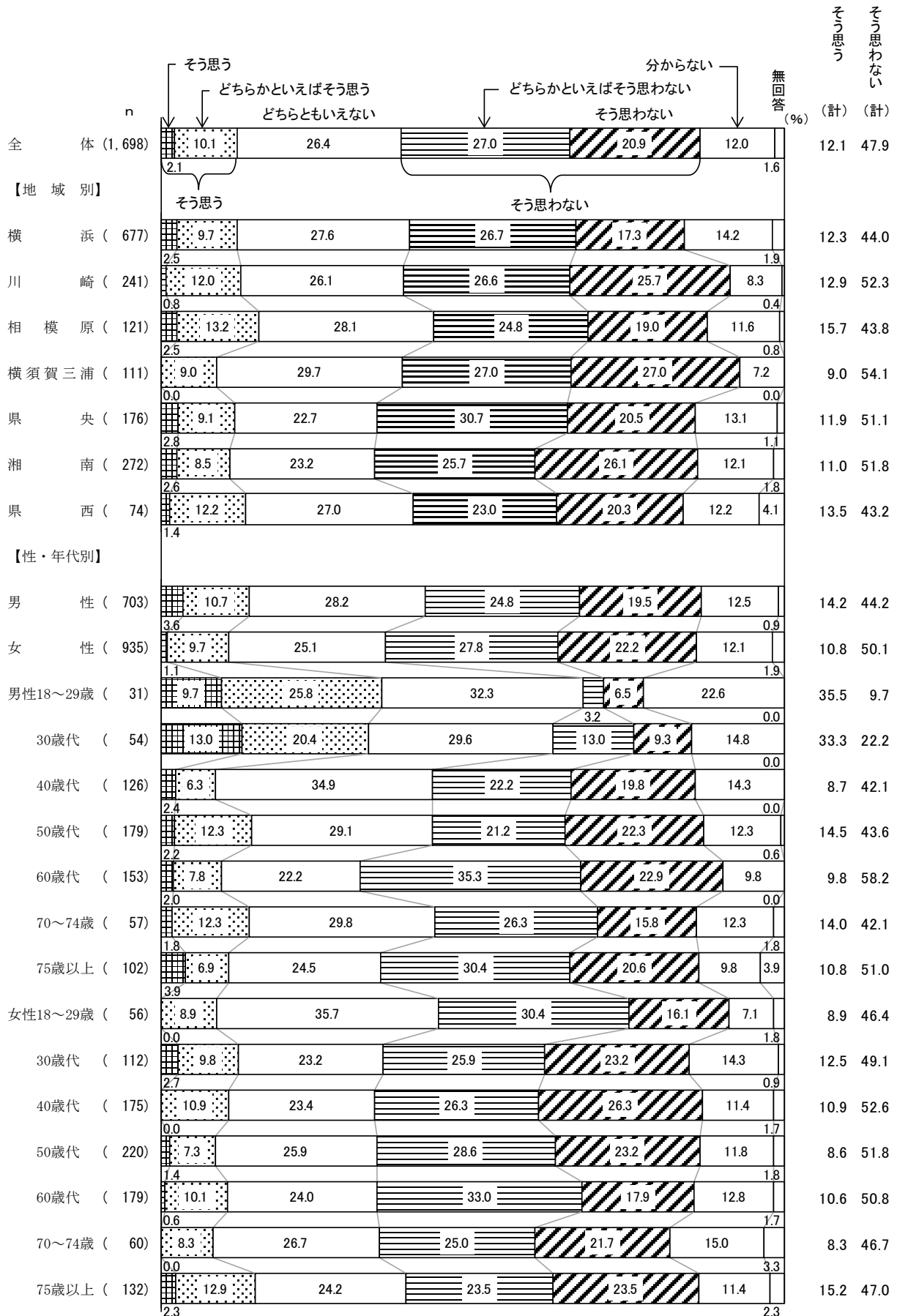
日々の生活に悩みや課題を抱える女性を、社会全体で支援できていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(2.1%)と「どちらかといえばそう思う」(10.1%)を合わせた《そう思う》は12.1%であった。

一方、「そう思わない」(20.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(27.0%)を合わせた《そう思わない》は47.9%であった。(図表13-3-1)

図表13-3-1 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況



図表13-3-2 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況—地域別、性・年代別



第14章 インクルーシブ教育【問35～問37】

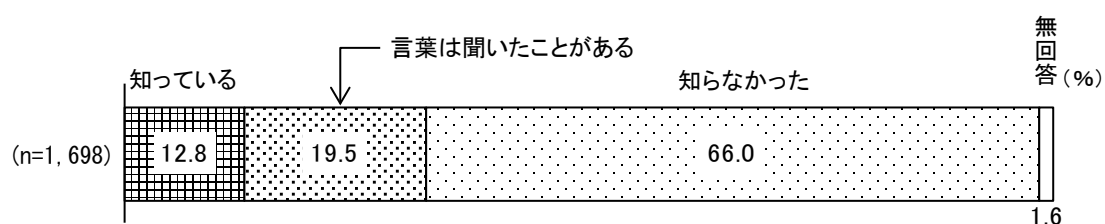
1 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度【問35】

【全体の状況】

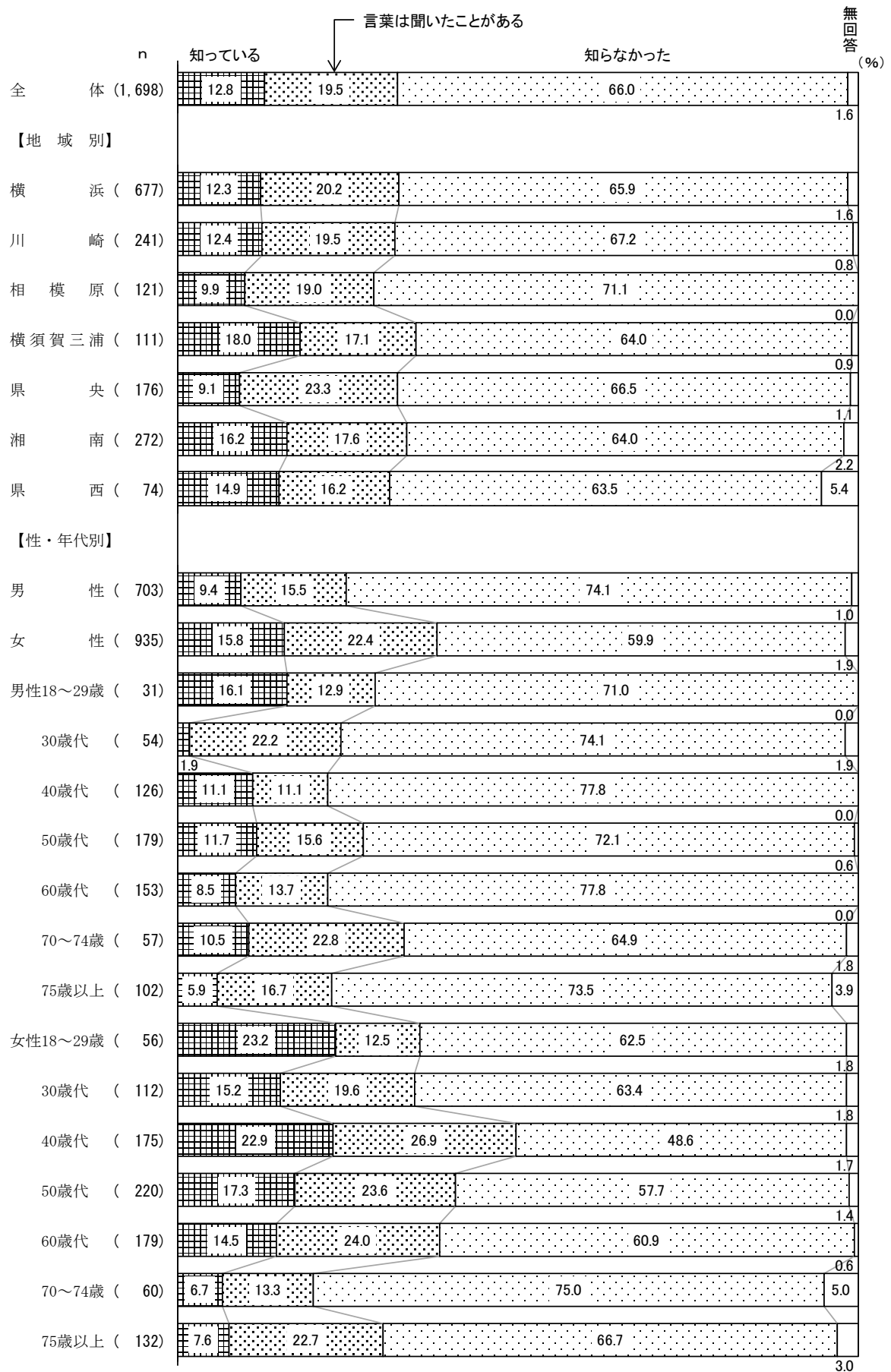
県のめざす「インクルーシブ教育」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が12.8%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が19.5%であった。

一方、「知らなかった」が66.0%であった。(図表14-1-1)

図表14-1-1 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度



図表14-1-2 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度—地域別、性・年代別



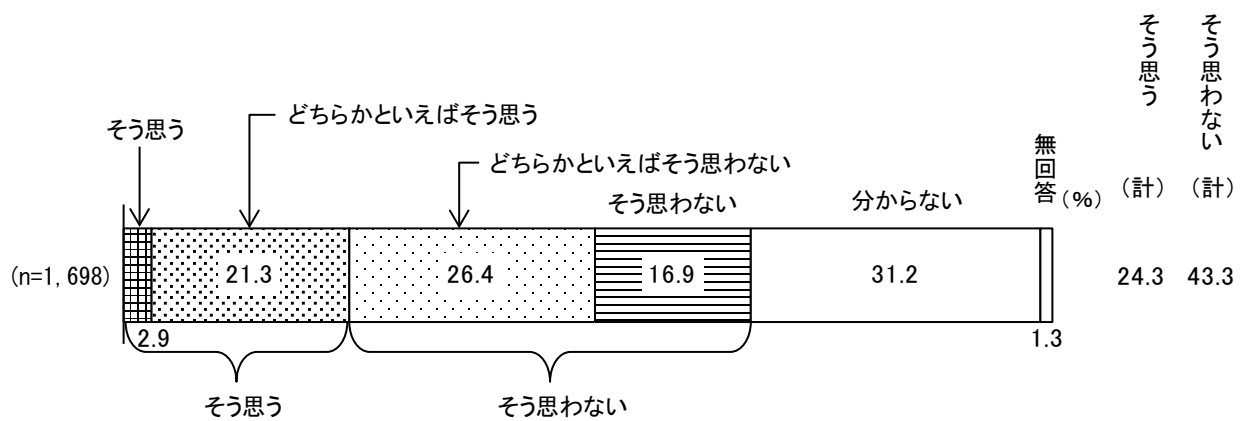
2 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか【問36】

【全体の状況】

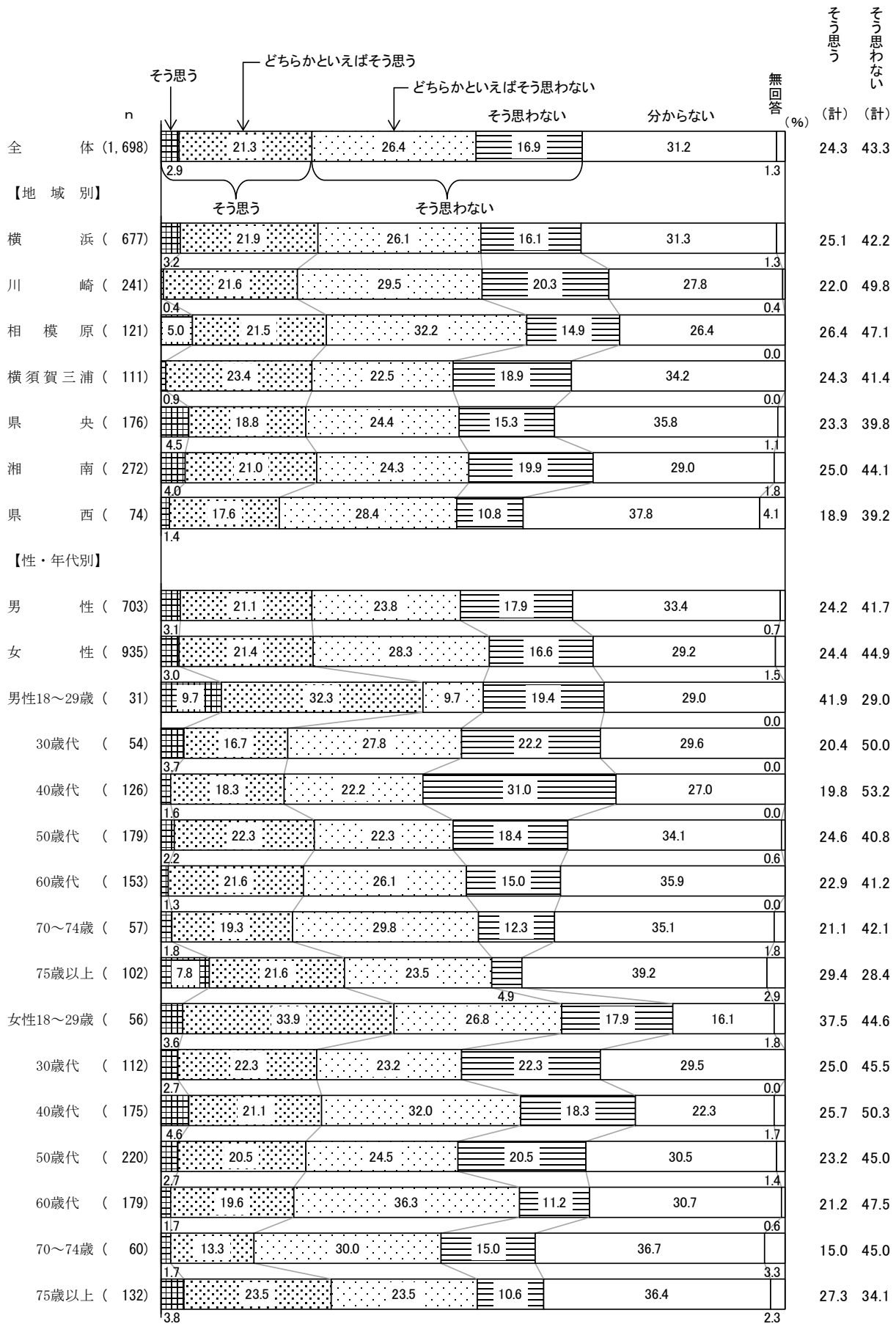
現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」(2.9%)と「どちらかといえばそう思う」(21.3%)を合わせた《そう思う》は24.3%であった。

一方、「そう思わない」(16.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(26.4%)を合わせた《そう思わない》は43.3%であった。(図表14-2-1)

図表14-2-1 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか



図表14-2-2 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うかー地域別、性・年代別



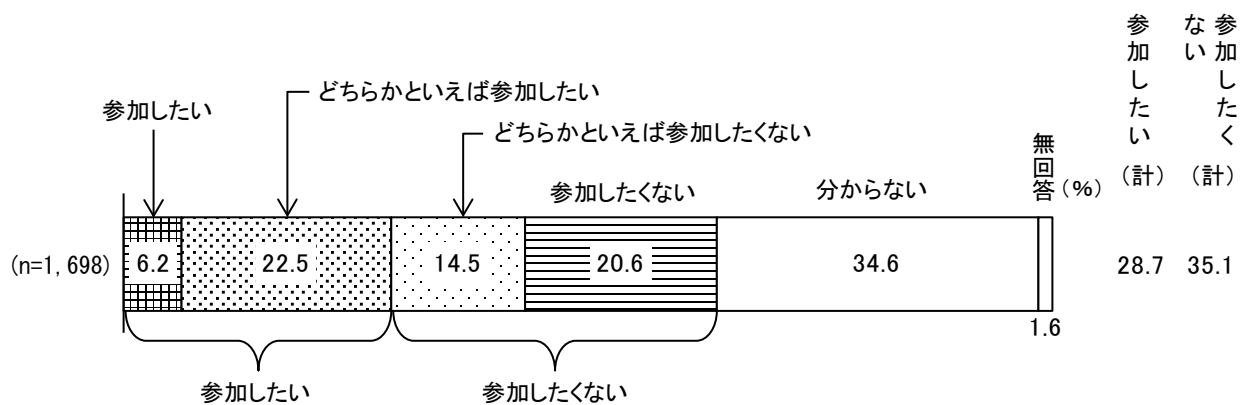
3 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向【問37】

【全体の状況】

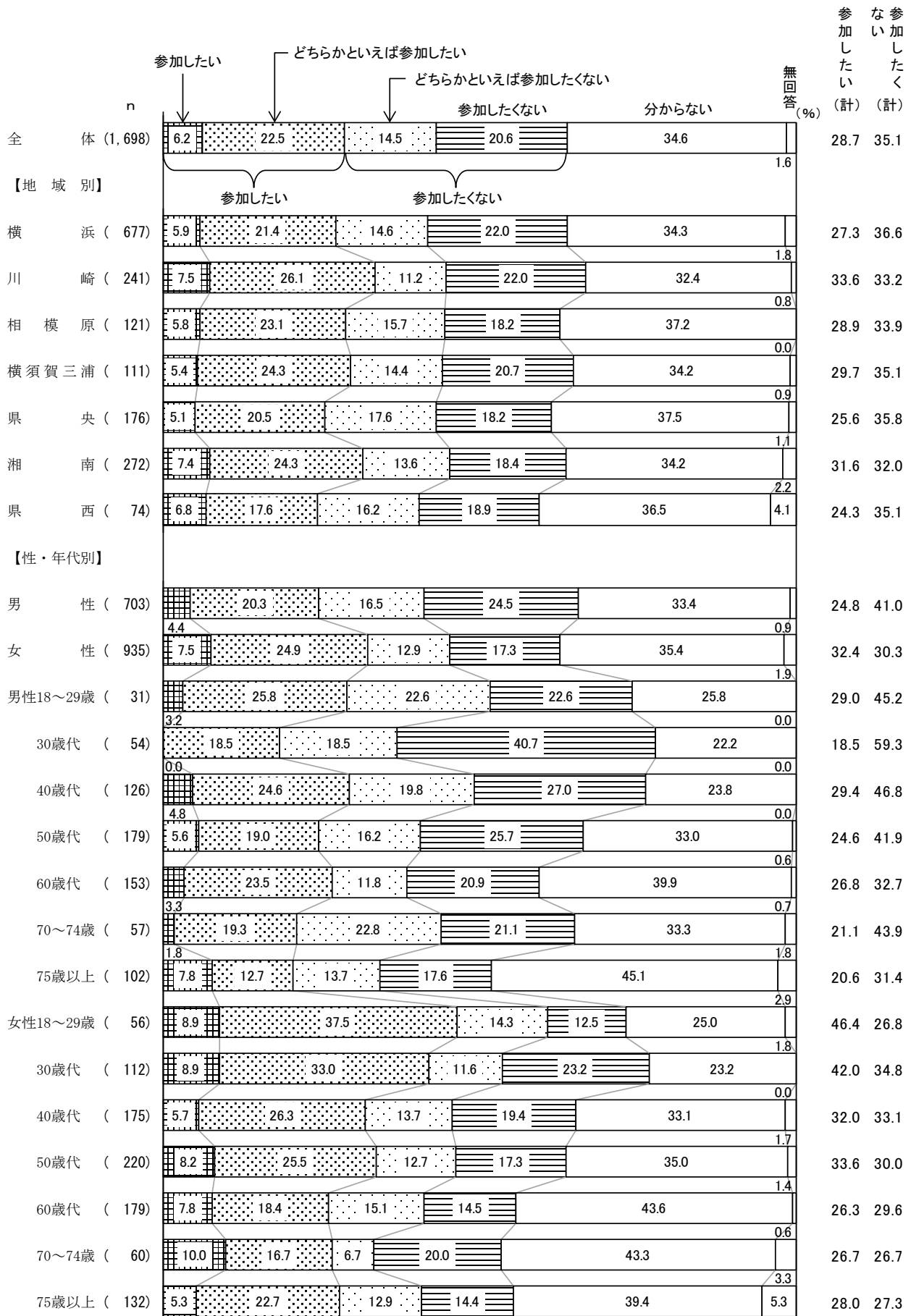
すべての子どもが学べる学校づくりに、ボランティアなどで参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したい」(6.2%)と「どちらかといえば参加したい」(22.5%)を合わせた《参加したい》は28.7%であった。

一方、「参加したくない」(20.6%)と「どちらかといえば参加したくない」(14.5%)を合わせた《参加したくない》は35.1%であった。(図表14-3-1)

図表14-3-1 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向



図表14-3-2 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向—地域別、性・年代別



第15章 かながわの広報【問38～問40】

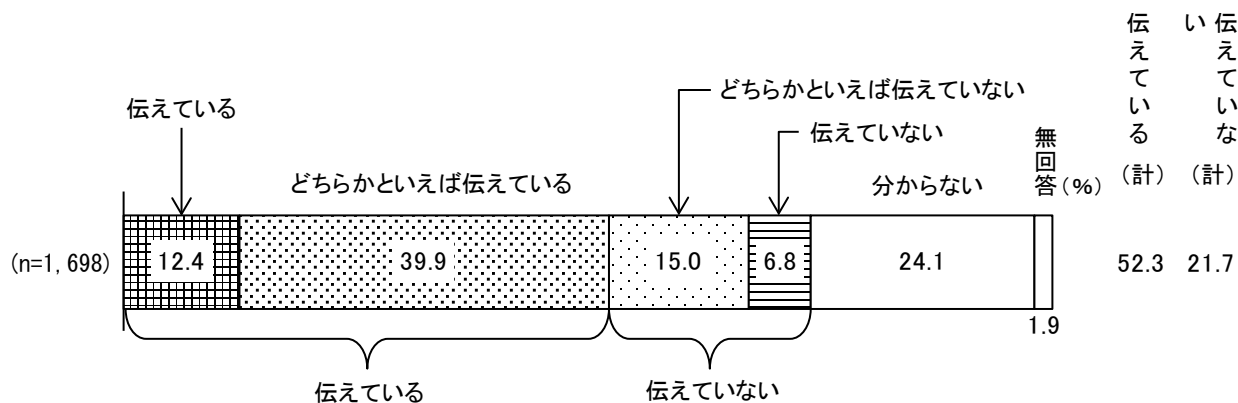
1 県の広報の達成度【問38】

【全体の状況】

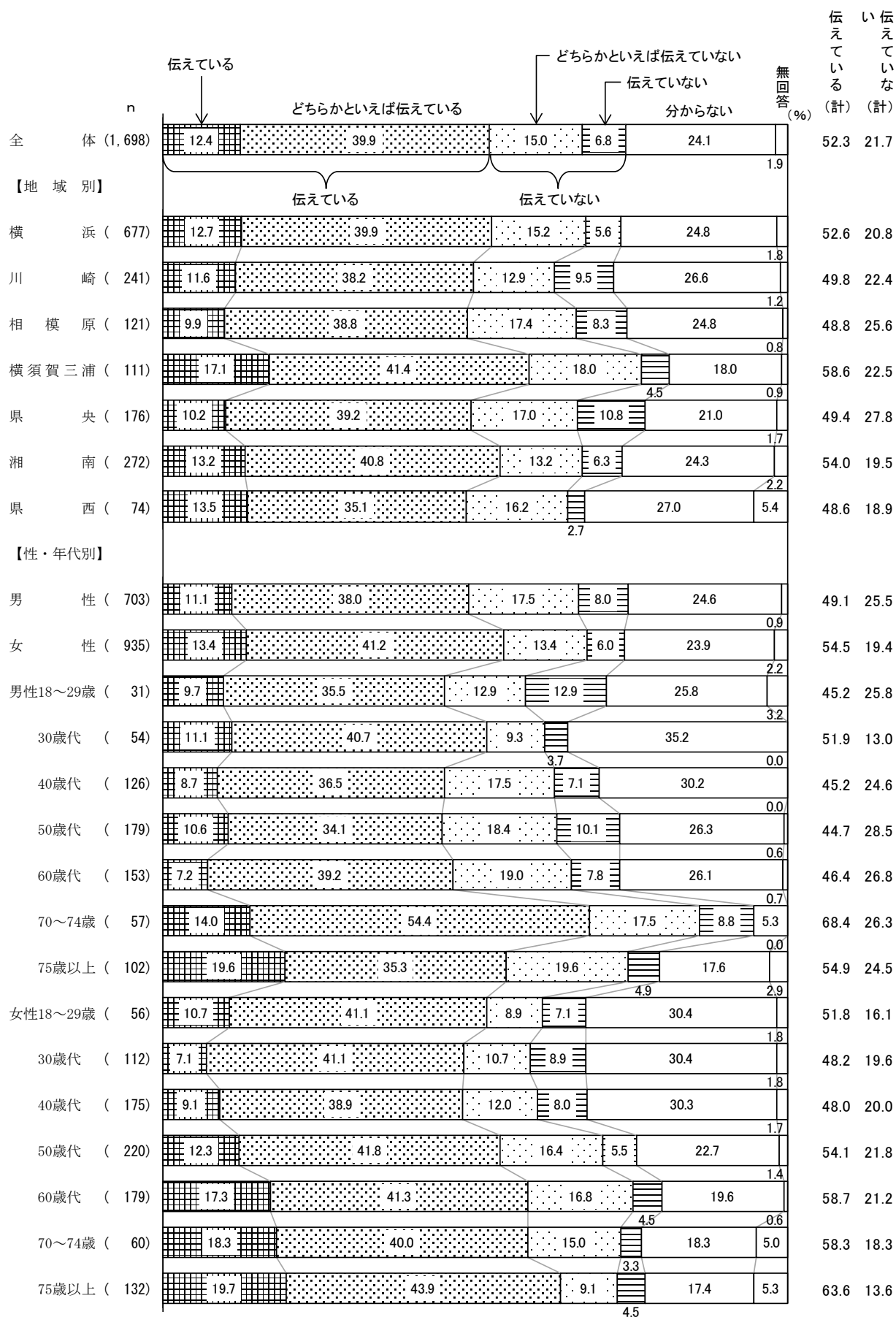
県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」(12.4%)と「どちらかといえば伝えている」(39.9%)を合わせた《伝えている》は52.3%であった。

一方、「伝えていない」(6.8%)と「どちらかといえば伝えていない」(15.0%)を合わせた《伝えていない》は21.7%であった。(図表15-1-1)

図表15-1-1 県の広報の達成度



図表15-1-2 県の広報の達成度—地域別、性・年代別



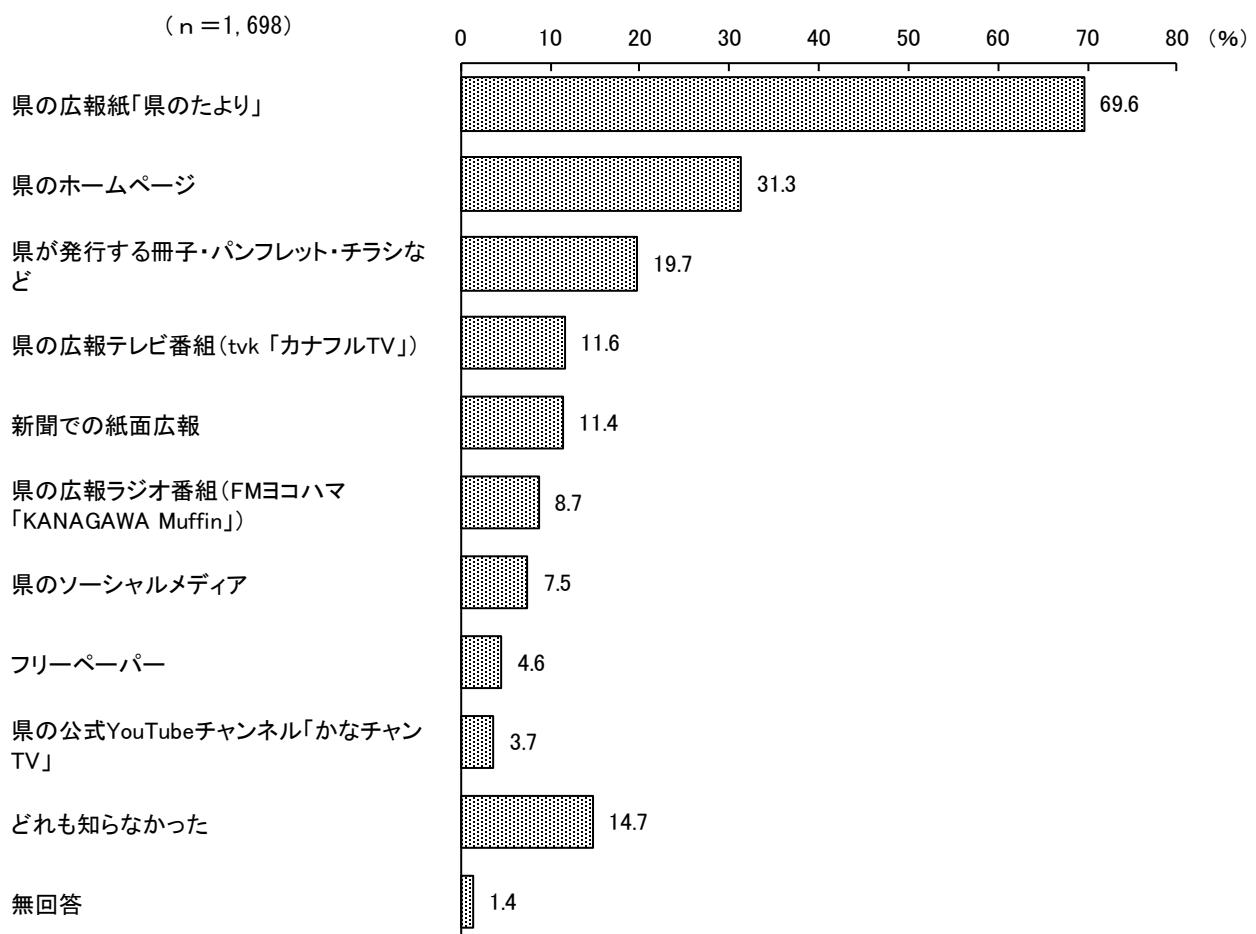
2 県の広報媒体の認知度【問39】

【全体の状況】

県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が69.6%で最も多く、次いで「県のホームページ」が31.3%であった。

(図表 15-2-1)

図表15-2-1 県の広報媒体の認知度（複数回答）



図表15-2-2 県の広報媒体の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

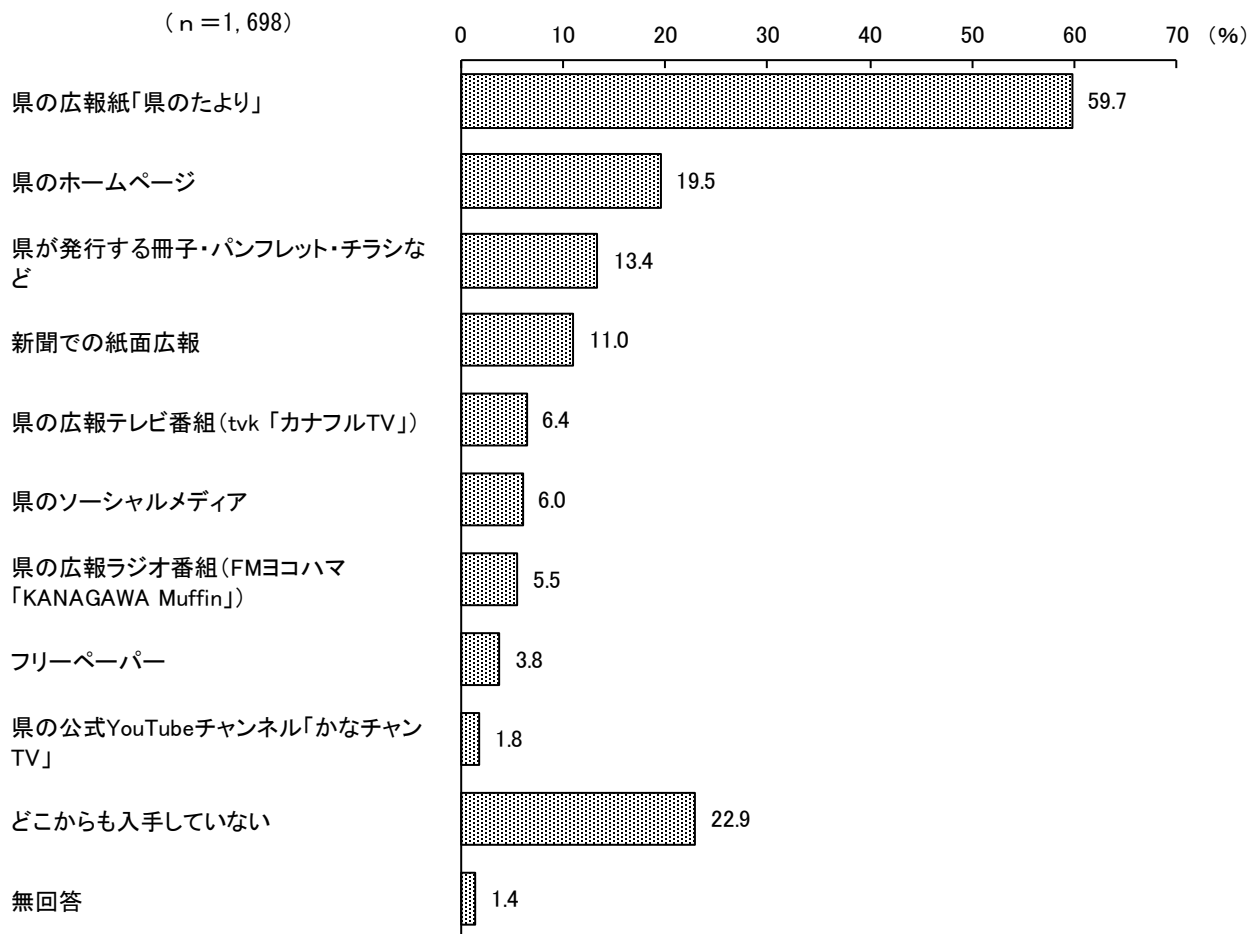
	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	県の広報テレビ番組（「tvk」）	新聞での紙面広報	「Muf fin」	県の広報ラジオ番組（「FMヨコハマ」）	県のソーシャルメディア	フリーペーパー	県の公式YouTubeチャンネル	どれも知らなかった	無回答
全体	1,698	69.6	31.3	19.7	11.6	11.4	8.7	7.5	4.6	3.7	14.7	1.4	
【地域別】													
横浜	677	75.8	30.3	20.1	10.0	10.6	6.5	7.4	4.6	3.7	13.4	1.2	
川崎	241	64.3	32.8	21.2	6.2	6.6	3.7	7.1	4.6	2.1	18.3	0.4	
相模原	121	53.7	38.8	22.3	14.9	14.9	14.9	13.2	6.6	4.1	14.0	0.8	
横須賀三浦	111	78.4	30.6	17.1	13.5	10.8	10.8	7.2	4.5	1.8	10.8	-	
県央	176	61.9	31.3	18.8	9.7	11.4	10.2	8.0	4.5	4.5	17.6	1.1	
湘南	272	64.3	32.7	16.2	18.0	14.3	12.5	6.6	4.8	4.0	16.9	1.8	
県西	74	75.7	25.7	25.7	17.6	12.2	16.2	4.1	2.7	6.8	9.5	5.4	
【性・年代別】													
男性	703	63.7	31.7	18.9	11.9	11.8	9.5	6.3	2.8	4.0	20.2	0.9	
女性	935	73.9	31.4	20.3	10.9	10.6	8.3	8.8	6.2	3.5	10.9	1.5	
男性18～29歳	31	25.8	32.3	22.6	9.7	16.1	25.8	12.9	9.7	3.2	25.8	-	
30歳代	54	37.0	33.3	16.7	7.4	3.7	7.4	9.3	1.9	1.9	40.7	-	
40歳代	126	51.6	24.6	16.7	8.7	8.7	6.3	8.7	4.0	2.4	33.3	1.6	
50歳代	179	68.7	39.1	15.1	11.7	10.1	12.8	6.1	2.8	7.3	15.6	-	
60歳代	153	65.4	32.0	20.9	14.4	9.8	9.8	7.2	3.3	3.3	17.0	-	
70～74歳	57	78.9	42.1	22.8	12.3	19.3	5.3	1.8	-	1.8	8.8	1.8	
75歳以上	102	85.3	20.6	23.5	15.7	20.6	5.9	1.0	1.0	3.9	9.8	2.9	
女性18～29歳	56	19.6	28.6	19.6	7.1	7.1	12.5	16.1	7.1	-	33.9	1.8	
30歳代	112	42.0	33.0	20.5	8.0	5.4	6.3	16.1	8.9	2.7	24.1	-	
40歳代	175	61.7	38.9	16.6	6.3	3.4	10.3	13.7	11.4	2.9	16.6	2.3	
50歳代	220	85.9	38.6	20.0	12.3	8.6	6.8	10.0	6.4	4.1	5.5	1.4	
60歳代	179	89.9	38.0	22.3	12.3	14.0	12.3	4.5	5.0	4.5	2.8	-	
70～74歳	60	86.7	8.3	16.7	11.7	15.0	5.0	1.7	-	3.3	8.3	3.3	
75歳以上	132	93.2	11.4	25.0	16.7	22.7	4.5	-	0.8	4.5	3.8	2.3	

3 県政情報の入手先【問40】

【全体の状況】

県政情報をどこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が59.7%で最も多く、次いで「県のホームページ」が19.5%であった。(図表 15-3-1)

図表15-3-1 県政情報の入手先（複数回答）



図表15-3-2 県政情報の入手先（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	新聞での紙面広報	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	県のソーシャルメディア	MAKANA GAWA Muffin）	県の広報ラジオ番組（FMヨコハ）	フリーペーパー	県の公式YouTubeチャンネル「かなちゃんTV」	どこからも入手していない	無回答
全体	1,698	59.7	19.5	13.4	11.0	6.4	6.0	5.5	3.8	1.8	22.9	1.4	
【地域別】													
横浜	677	67.2	18.5	13.7	9.6	5.6	6.6	4.1	4.0	1.5	20.8	1.2	
川崎	241	57.7	22.0	14.5	5.8	2.9	5.0	1.2	4.1	0.8	22.8	0.4	
相模原	121	43.0	24.0	12.4	13.2	10.7	9.9	12.4	5.0	4.1	26.4	-	
横須賀三浦	111	71.2	18.0	12.6	13.5	8.1	5.4	9.0	3.6	-	16.2	-	
県央	176	50.6	20.5	11.9	13.6	5.1	5.1	6.8	2.8	2.8	29.0	1.7	
湘南	272	48.5	19.9	12.5	15.1	9.6	6.6	5.9	3.7	1.8	28.7	2.2	
県西	74	64.9	12.2	13.5	8.1	8.1	-	10.8	4.1	5.4	14.9	5.4	
【性・年代別】													
男性	703	54.1	21.8	12.9	12.1	7.1	4.7	7.4	2.3	2.1	28.9	0.9	
女性	935	63.5	17.6	13.6	9.8	5.7	7.2	4.2	5.1	1.7	18.8	1.6	
男性18～29歳	31	19.4	19.4	12.9	9.7	6.5	6.5	19.4	-	-	35.5	-	
30歳代	54	20.4	16.7	11.1	1.9	5.6	7.4	1.9	-	-	53.7	-	
40歳代	126	43.7	20.6	11.9	4.8	4.8	7.9	4.8	2.4	3.2	42.1	0.8	
50歳代	179	55.9	21.2	9.5	9.5	6.1	3.9	7.8	4.5	2.2	31.3	-	
60歳代	153	54.9	24.2	13.1	14.4	9.8	5.2	9.8	2.6	1.3	22.9	-	
70～74歳	57	75.4	29.8	15.8	21.1	5.3	1.8	7.0	1.8	1.8	12.3	1.8	
75歳以上	102	79.4	19.6	19.6	23.5	9.8	1.0	5.9	-	3.9	10.8	3.9	
女性18～29歳	56	14.3	19.6	8.9	3.6	3.6	16.1	1.8	3.6	-	46.4	1.8	
30歳代	112	33.0	18.8	15.2	1.8	-	10.7	1.8	6.3	0.9	38.4	0.9	
40歳代	175	46.3	21.7	9.7	4.6	1.1	10.3	2.9	8.6	-	28.6	1.7	
50歳代	220	69.5	22.7	10.5	6.8	5.5	8.6	3.6	6.8	3.2	14.5	1.4	
60歳代	179	83.2	19.6	16.2	13.4	6.7	3.9	8.9	3.9	1.7	7.3	-	
70～74歳	60	80.0	3.3	13.3	16.7	11.7	1.7	3.3	-	1.7	11.7	5.0	
75歳以上	132	89.4	6.1	21.2	23.5	13.6	0.8	3.8	1.5	3.0	3.8	2.3	

第IV部 調査票と単純集計結果

調査票と単純集計結果

調査期間 令和7年10月24日～11月18日
標本設計数 4,000 有効回収数(率) 1,698 (42.5%)
※「n」は、質問に対する回答者の総数を表す。
「-」は、回答者が皆無であることを示す。
※ 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

令和7年度(2025年)神奈川県『県民ニーズ調査』(第2回課題調査) 調査票

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。



【テーマ】

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 かながわの文化芸術 | 8 循環器病対策 |
| 2 伝統的工芸品 | 9 依存症に対する意識 |
| 3 2027年国際園芸博覧会 | 10 かながわの人権 |
| 4 脱炭素・環境 | 11 配偶者等からの暴力 |
| 5 生物多様性 | 12 犯罪被害者等への支援 |
| 6 「未病改善」の取組み | 13 生活に不安や課題がある人への支援 |
| 7 かながわ救急相談センター
(#7119) | 14 インクルーシブ教育 |
| | 15 かながわの広報 |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入いただいた調査票は、同封の**返送用封筒**に入れ、
11月18日(火)までにご投函ください。
(切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です)



※インターネットからもご回答いただけます！
(左記二次元コードから回答画面へ)

インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

【お問い合わせ先】 神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ お問い合わせフォーム



二次元コードから送信

※11月18日まで受付

○ 電話 (045)210-3672

※ 受付時間 月～金 8:30～17:15
(12:00～13:00を除く／土日祝日は閉庁)

1 かながわの文化芸術

問1 この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加※した日数はどのくらいになりますか。
(○は1つ) (n=1,698) (%)

1 週に5日以上	0.2	6 年に2～3日程度	24.1
2 週に2～4日程度	1.0	7 年に1日程度	12.8
3 週に1日程度	2.1	8 まったくない	31.4
4 月に1～3日程度	8.7	9 分からない	1.3
5 3か月に1～2日程度	16.0		(無回答 2.5)

※ ここでいう鑑賞とは、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財、アートや音楽のフェスティバルなどの文化芸術イベントを楽しみ、味わうことをいい、活動に参加とはそれ以外のことをいいます。

問2 ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンルは、次のうちどれですか。
(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 伝統文化(民謡、三味線、歌舞伎、能など)	20.3	6 文学(詩、俳句、短歌、小説など)	4.5
2 演芸(落語、講談、漫才、浪曲など)	23.1	7 美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など)	43.9
3 生活文化(生け花、盆栽、書道など)	11.0	8 映像作品(映画、アニメ、CGなど)	54.9
4 音楽(歌謡曲、ポップス、クラシックなど)	57.4	9 その他	1.2
5 演劇・舞踊(ミュージカル、バレエなど)	38.6	10 行ってみたいとは思わない	7.7
			(無回答 2.2)

問3 文化芸術活動に参加※してみたいと思うジャンルは、次のうちどれですか。
(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 伝統文化(民謡、三味線、歌舞伎、能など)	5.7	6 文学(詩、俳句、短歌、小説など)	5.0
2 演芸(落語、講談、漫才、浪曲など)	3.5	7 美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など)	26.0
3 生活文化(生け花、盆栽、書道など)	15.1	8 映像作品(映画、アニメ、CGなど)	9.8
4 音楽(歌謡曲、ポップス、クラシックなど)	18.5	9 その他	1.2
5 演劇・舞踊(ミュージカル、バレエなど)	8.0	10 してみたいとは思わない	43.7
			(無回答 3.4)

※ ここでいう参加とは、自身で創作、発表することに限り、鑑賞や読書を含みません。

2 伝統的工芸品

問4 県の伝統的工芸品のうち、知っているものを選んでください。(〇は3つまで) (n=1,698) (%)

1 鎌倉彫	62.8	3 小田原漆器	15.4
2 箱根寄木細工	83.9	4 どれも知らなかった	9.5
(無回答 2.7)			

【問4で1～3を選んだ方へ】

問4-1 鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品に、どのようなイメージがありますか。(〇は3つまで) (n=1,491) (%)

1 文化や歴史がある	77.1	6 値段が高い	35.4
2 品質が良い	39.2	7 実用的ではない	11.7
3 個性がある	29.2	8 あまり身近なものではない	21.7
4 使い勝手が良い	1.6	9 その他	0.7
5 生活の質を向上させてくれる	7.8	10 特にない、分からない	1.5
(無回答 2.8)			

【全員の方がお答えください】

問5 鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品を、今後、購入したいと思いますか。(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1 ぜひ購入したいと思う	2.0	4 あまり購入したいと思わない	18.6
2 機会があれば購入したいと思う	36.8	5 購入したいと思わない	16.9
3 どちらともいえない	23.1	(無回答 2.5)	

【問5で1、2を選んだ方へ】

問5-1 購入するとしたら、何のためですか。(〇は3つまで) (n=659) (%)

1 普段づかいのため	48.9	4 お土産として	37.6
2 観賞・飾りのため	44.0	5 その他	0.9
3 贈りものとして	34.9	6 特にない、分からない	0.3
(無回答 0.3)			

3 2027年国際園芸博覧会

問6 2027年3月から9月に横浜市で「国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027※）」が開催されることを知っていますか。（○は1つ）（n=1,698）（%）

1 知っている	51.0	3 知らなかった	38.0
2 言葉は聞いたことがある	10.1		（無回答 0.8）

※ GREEN×EXPO 2027 とは、横浜市で開催される、1都3県初の万国博覧会のことをいいます。日本での最上位クラスの国際園芸博覧会の開催は1990年「大阪花の万博」以来37年ぶり2回目となります。

→【問6で1、2を選んだ方へ】

問6-1 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）（n=1,038）（%）

1 チラシ・パンフレット	24.6	7 イベント	3.9
2 ポスター・看板・横断幕など	53.1	8 植物園・公園など	7.0
3 SNS（X（旧Twitter）、Facebook、Instagramなど）	8.3	9 家族や知人などから聞いた	12.2
4 ウェブサイト（ホームページなど）	9.2	10 その他	8.2
5 広報誌（県のたよりなど）	32.5	11 分からない、覚えていない	1.0
6 テレビ・ラジオ	21.7		（無回答 -）

【全員の方がお答えください】

問7 GREEN×EXPO 2027に何を期待しますか。（○は3つまで）（n=1,698）（%）

1 世界中から集まった植物が見られること	44.6		
2 農地や里山など日本の昔ながらの風景	16.4		
3 農業や花だん作りなどの体験企画への参加	9.5		
4 地元でとれた産物や食を楽しむ市場	39.3		
5 花と緑あふれる庭などの展示	42.5		
6 生物多様性や脱炭素の取組みについての展示	13.3		
7 仮想現実※やロボットなど最新技術の展示	13.6		
8 ボランティア参加	1.8		
9 その他	1.7		
10 特にない	17.9		（無回答 2.8）

※ 仮想現実とは、コンピューターの中に作られた仮想的な世界を、あたかも現実のように体験できる技術のことをいいます。

4 脱炭素・環境

問8 今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいですか。

(〇はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 脱炭素化※など地球温暖化を防ぐための取組み	54.0	6 環境教育に関する取組み	29.6
2 自然環境や生物多様性の保全のための取組み	51.7	7 その他	2.2
3 廃棄物対策など資源循環のための取組み	56.4	8 特にない、分からない	5.7
4 大気環境保全のための取組み	35.9		
5 水質や水辺の環境保全のための取組み	56.8		(無回答 0.9)

※ 脱炭素化とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を実質的にゼロにすることをいいます。

問9 省エネや再エネ※の導入など、脱炭素を意識した取組みを行っていますか。

(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1 すでに行っている	24.3	4 あまり関心がなく行う予定もない	8.0
2 今後行う予定である	3.7	5 全く関心がない	4.6
3 関心はあるが行ってはいない	58.4		(無回答 1.1)

※ 再エネとは、「再生可能エネルギー」の略称で、太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなどから作られ、資源を枯渇させずに繰り返し使うことができ、発電や熱利用をするときに地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど出さないエネルギーのことをいいます。

問10 家で使用する電力について、再エネ由来の電力を使用※したいと思いませんか。

(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1 すでに使用している	7.9	4 使用したいと思わない	9.7
2 電気代が今よりもかかっても使用したい	1.9	5 分からない	13.6
3 電気代が今と同じか、それ以下であれば使用したい	65.8		(無回答 1.1)

※ 再エネ由来の電力の使用とは、自宅やマンションの屋根などに太陽光発電設備を設置し、その電力を使っている、または電力会社が用意している再生可能エネルギープランを契約していることをいいます。

問11 「気候変動への適応」※に関心がありますか。

(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1 関心がある	51.1	4 関心がない	2.4
2 どちらかといえば関心がある	36.8	5 分からない	4.7
3 どちらかといえば関心がない	4.4		(無回答 0.6)

※ 気候変動への適応とは、地球温暖化を主要因とした気温上昇や大雨の増加などによる健康被害や自然災害などの影響を防いだり減らしたりすること(例:災害への備え、熱中症予防など)をいいます。地球温暖化が進むと、これらの影響は更に大きくなる恐れがあります。

5 生物多様性

問 12 「生物多様性」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 知っている	39.7	3 知らなかった	21.7
2 言葉は聞いたことがある	35.9		(無回答 2.7)

※ **生物多様性**とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持っていることをいいます。

問 13 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 生態系に配慮した農畜水産物(※1)を買う	18.4		
2 生物多様性保全に取り組む企業(※2)の製品を買う	12.8		
3 身近な自然を生物多様性の視点で考える	26.8		
4 生物多様性に関する記事や広告に目を留める	23.1		
5 生物多様性を保全する活動に参加する	2.1		
6 家族や友人と生物多様性保全の話をする	4.8		
7 その他	0.9		
8 特にない	44.2		(無回答 3.4)

※1 **生態系に配慮した農畜水産物**とは、環境保全型農業や有機畜産により生産された農畜産物、持続可能な漁業による水産物のことをいいます。例えば、有機JAS認証やエコファーマーマーク、海のエコラベルがついた製品が挙げられます。

※2 **生物多様性保全に取り組む企業**とは、製品製造時に環境負荷軽減に配慮したり、清掃や植林などの保全活動を継続して実施したりしている企業のことをいいます。

問 14 お住いの周辺地域の自然環境は、おおよそ3年前と比べてどのような変化があったと感じますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 豊かになった	0.9	4 どちらかといえば劣化した	21.7
2 どちらかといえば豊かになった	5.0	5 劣化した	9.0
3 変化はない	50.3	6 分からない	10.8
			(無回答 2.3)

6 「未病改善」の取組み

問 15 「未病（ME-BYO）」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 知っている	31.4	3 知らなかった	37.6
2 言葉は聞いたことがある	28.3		(無回答 2.7)

※ 未病とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉え、すべての変化の過程を表す概念のことをいいます。

問 16 過去1年間で「未病改善」※の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思いますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 もともと行っており、今も行っている	27.3	
2 以前ほどではないが、少しずつ行っている	17.7	
3 以前は行っていなかったが、行うようになった	8.7	
4 以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった	16.2	
5 以前は行っていたが、まったく行わなくなった	2.4	
6 以前から行っておらず、今も行っていない	25.1	(無回答 2.6)

※ 未病改善とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけていくことをいいます。県では「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。

問 17 「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものは何ですか。 (○は3つまで) (n=1,698) (%)

1 医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス	37.4	
2 健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報	47.6	
3 ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	4.4	
4 スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	41.4	
5 家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	31.0	
6 健康状態を気軽に知ることができる施設やイベント	26.0	
7 民間企業が提供する健康関連の商品サービス	4.3	
8 将来（10～20年後）の自分に起こりうる健康リスクを知ること	24.5	
9 その他	2.1	
10 特になし	2.9	
11 分からない	4.3	(無回答 3.7)

問 18 「フレイル」※という言葉を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 知っている	32.7	3 知らなかった	45.1
2 言葉は聞いたことがある	18.8		(無回答 3.4)

※ フレイルとは、高齢になって心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態のことをいい、多くの人々が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態になると考えられています。

7 かながわ救急相談センター（#7119）

問 19 かながわ救急相談センター（#7119）※を知っていますか。 （○は1つ）（n=1,698）（%）

1 知っている	36.7	3 知らなかった	39.5
2 言葉は聞いたことがある	23.3		（無回答 0.5）

※ かながわ救急相談センター（#7119）とは、急な病気やケガをして、「救急車を呼んだ方がいいのか」、「今すぐ病院に行った方が良いのか」などで迷ったときに、電話でアドバイスを受けることができる電話相談窓口のことをいいます。

8 循環器病対策

問 20 脳卒中の主な初期症状について、知っているものを選んでください。

（○はいくつでも）（n=1,698）（%）

1 顔の片側がゆがむ	52.2	3 ろれつが回らない	89.2
2 左右いずれかの腕に力が入らない	52.0	4 どれも知らなかった	8.7
			（無回答 0.7）

問 21 脳卒中は、発症後すぐに救急車を呼ぶなど、医療機関で適切な治療を行えば、後遺症を含めたその後の状態が改善される可能性が高まることを知っていますか。 （○は1つ）（n=1,698）（%）

1 知っている	86.8	2 知らなかった	12.3	（無回答 0.9）
---------	------	----------	------	-----------

問 22 心臓病は、ひとたび発症すると再発率が高いという特徴があります。再発を防ぐためには、治療後の適度な運動療法を中心としたリハビリテーションが重要であることを知っていますか。

（○は1つ）（n=1,698）（%）

1 知っている	53.8	2 知らなかった	45.5	（無回答 0.8）
---------	------	----------	------	-----------

9 依存症に対する意識

問 23 依存症※について、あてはまると思うことを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 誰でもなる可能性がある	83.3	7 その他	0.2
2 意志が弱いことが原因でなるわけではない	33.0	8 分からない	1.9
3 やめたくても、やめられなくなる病気である	77.5	9 あてはまるものはない	1.2
4 回復することはできるが時間がかかる	59.5		
5 依存症の本人が依存症であることを認めない	41.9	(無回答	0.9)
6 依存対象が生活の最優先事項になる	32.3		

※ 依存症とは、アルコールや薬物など、特定の物質を摂取することや、ギャンブルやゲーム、インターネットなど、特定の行動にのめり込み、心やからだ、社会生活に問題が出ることをいいます。

問 24 依存症について、相談できる場所として知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 依存症専門医療機関・専門クリニック	63.3		
2 かかりつけ医（内科医など）	32.0		
3 行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	28.9		
4 回復支援施設（依存症回復のための通所・入所施設）	32.8		
5 当事者や家族などの自助グループ	21.7		
6 弁護士・司法書士	1.7		
7 その他	0.2		
8 分からない	13.4		
9 知っているものはない	6.8	(無回答	1.3)

【問 24 で 1～7 を選んだ方へ】

問 24-1 相談できる場所を知ったきっかけを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,333) (%)

1 ポスター・チラシ	14.9	7 家族・知人から	11.0
2 県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	22.4	8 職場・学校	9.9
3 医療機関・行政機関などのホームページ	20.4	9 その他	2.3
4 テレビ・新聞などのマスメディア	50.4	10 分からない、覚えていない	7.8
5 ソーシャルメディア（※1）	15.4		
6 電車内・街中のデジタル広告（※2）	6.2	(無回答	2.7)

※1 ソーシャルメディアとは、例えばX（旧 Twitter）、Facebook、Instagram などがあります。

※2 デジタル広告とは、電車のドア上や網棚上の液晶ディスプレイ、街中のデジタルサイネージなどを使った広告のことをいいます。

10 かながわの人権

問 25 今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 そう思う	34.4	3 そう思わない	10.3
2 どちらともいえない	51.9	(無回答)	3.4

問 26 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題は何ですか。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 子どもの人権	33.9	8 貧困(※2)などによる人権問題	28.7
2 女性の人権	30.9	9 犯罪被害者などの人権	22.6
3 障がい者の人権	31.8	10 拉致被害者の人権	16.0
4 高齢者の人権	26.1	11 性的マイノリティの人権	19.1
5 医療従事者・患者などの人権	20.9	12 インターネットにおける人権問題	38.4
6 同和問題(部落差別)(※1)	5.5	13 その他	2.2
7 外国人の人権	17.3	14 特にない	9.2
		(無回答)	1.8

※1 同和問題(部落差別)とは、一部の人が、特定の地域出身であることや、そこに住んでいることを理由に日常生活の上で様々な差別を受けるといった、わが国固有の人権課題のことをいいます。

※2 貧困とは、平均収入の半分以下の世帯であり、年齢に関係なく住む家がない状態に陥っている状態や、適切な支援につながらず、生活に困窮している状態のことをいいます。

問 27 人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 学校などにおける人権教育	60.2	6 差別的表現の規制・モニタリング	16.8
2 企業などにおける人権研修	35.7	7 国による法整備	44.8
3 広告やインターネットを活用した啓発活動	22.2	8 地方自治体による条例整備	28.9
4 相談体制の充実	31.2	9 その他	2.0
5 当事者を支援する取組みの充実	31.7	10 分からない	8.1
		(無回答)	1.5

11 配偶者等からの暴力

問 28 配偶者等からの暴力(DV)について、知っていたことを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 DV被害者相談窓口がある	79.9
2 DV被害者相談窓口は、男性向けもある	32.0
3 DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる	58.2
4 子どもの前でDVが行われることは、子どもへの虐待となる	52.3
5 恋人同士の間で起こる暴力を「デートDV」という	30.9
6 どれも知らなかった	10.7
	(無回答) 1.8

12 犯罪被害者等への支援

問 29 犯罪被害者等の相談窓口のうち、知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1	各警察署の住民相談係	46.3	
2	県警察の総合相談室 (#9110)	16.8	
3	かながわ犯罪被害者サポートステーション	5.2	
4	性被害者ワンストップ支援「かならいん」	2.7	
5	各市町村の犯罪被害者等相談窓口	14.4	
6	法テラスの犯罪被害者支援ダイヤル	11.8	
7	県弁護士会の犯罪被害者支援センター	4.4	
8	横浜地方検察庁の被害者ホットライン	1.6	
9	横浜保護観察所の被害者専用電話番号	0.8	
10	どれも知らなかった	41.8	(無回答 1.8)

問 30 近所や職場、親戚などの身近に、現在、犯罪被害にあっている 17 歳以下の子どもはいると思いますか。

(○は1つ) (n=1,698) (%)

1	いると思う	9.4	3	分からない	43.6
2	いないと思う	46.2			(無回答 0.8)

子どもが被害者となりうる犯罪には殺人、暴行、恐喝、詐欺、窃盗、痴漢、交通事故など様々な種類がありますが、これらの他にも、家庭や学校の中だけの問題とされがちな虐待、いじめも含まれます。また、子どもに性的画像（児童ポルノ）を撮影するよう要求したり、拡散したりすることも犯罪です。

問 31 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みは何ですか。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1	子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり	72.0	
2	子どもへの人権教育など	37.7	
3	被害後の対応についての保護者への周知	30.9	
4	子どもに接する仕事に就く人への研修	46.1	
5	身近な大人が通報・通告する必要性の周知	60.7	
6	自治体職員や警察官などへの研修	22.5	
7	子どもの犯罪被害者についての理解の促進	31.7	
8	相談窓口のいっそうの周知	32.1	
9	相談窓口間での情報共有など連携の強化	33.3	
10	その他	3.2	
11	特にない、分からない	4.7	(無回答 0.9)

13 生活に不安や課題がある人への支援

問 32 私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	そう思う	9.7	4	どちらかといえばそう思わない	19.0
2	どちらかといえばそう思う	21.3	5	そう思わない	18.7
3	どちらともいえない	25.3	6	分からない	4.7
(無回答 1.5)					

問 33 ひとり親家庭を、社会全体で支援できていると思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	そう思う	3.8	4	どちらかといえばそう思わない	24.4
2	どちらかといえばそう思う	15.5	5	そう思わない	16.1
3	どちらともいえない	27.6	6	分からない	11.1
(無回答 1.5)					

問 34 日々の生活に悩みや課題を抱える女性を、社会全体で支援できていると思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	そう思う	2.1	4	どちらかといえばそう思わない	27.0
2	どちらかといえばそう思う	10.1	5	そう思わない	20.9
3	どちらともいえない	26.4	6	分からない	12.0
(無回答 1.6)					

14 インクルーシブ教育

問 35 県のめざす「インクルーシブ教育」※を知っていますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	知っている	12.8	3	知らなかった	66.0
2	言葉は聞いたことがある	19.5	(無回答 1.6)		

※ インクルーシブ教育とは、共生社会の実現に向け、すべての子どもが、(障がい、国籍、性別などにかかわらず、) 同じ場でともに学びともに育つことをめざす取組みのことをいいます。

問 36 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	そう思う	2.9	4	そう思わない	16.9
2	どちらかといえばそう思う	21.3	5	分からない	31.2
3	どちらかといえばそう思わない	26.4	(無回答 1.3)		

問 37 すべての子どもが学べる学校づくりに、ボランティアなどで参加したいと思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	参加したい	6.2	4	参加したくない	20.6
2	どちらかといえば参加したい	22.5	5	分からない	34.6
3	どちらかといえば参加したくない	14.5	(無回答 1.6)		

15 かながわの広報

問 38 県は、災害や感染症対策などの取組み、イベントの実施など県政情報を伝えていると思いますか。
(○は1つ) (n=1,698) (%)

1 伝えている	12.4	4 伝えていない	6.8
2 どちらかといえば伝えている	39.9	5 分からない	24.1
3 どちらかといえば伝えていない	15.0		(無回答 1.9)

問 39 県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを選んでください。
(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	69.6	
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	3.7	
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	11.6	
4 県の広報ラジオ番組 (FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	8.7	
5 県のホームページ	31.3	
6 県のソーシャルメディア※	7.5	
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	19.7	
8 新聞での紙面広報	11.4	
9 フリーペーパー	4.6	
10 どれも知らなかった	14.7	(無回答 1.4)

※ ソーシャルメディアとは、例えば X (旧 Twitter)、Facebook、Instagram などがあります。

問 40 県政情報をどこから入手していますか。
(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	59.7	
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	1.8	
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	6.4	
4 県の広報ラジオ番組 (FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	5.5	
5 県のホームページ	19.5	
6 県のソーシャルメディア	6.0	
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	13.4	
8 新聞での紙面広報	11.0	
9 フリーペーパー	3.8	
10 どこからも入手していない	22.9	(無回答 1.4)

…**

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,698) (%)

1	横浜 (横浜市)	39.9
2	川崎 (川崎市)	14.2
3	相模原 (相模原市)	7.1
4	横須賀三浦 (横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	6.5
5	県央 (厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	10.4
6	湘南 (平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	16.0
7	県西 (小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	4.4
		(無回答 1.5)

F 2 差し支えなければ、あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,698) (%)

1	男性	41.4	2	女性	55.1	(無回答 3.5)
---	----	------	---	----	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2025年11月1日現在) (n=1,698) (%)

1	18~19歳	0.2	5	35~39歳	5.1	9	55~59歳	10.7	13	75~79歳	9.8
2	20~24歳	2.4	6	40~44歳	7.7	10	60~64歳	10.9	14	80歳以上	4.5
3	25~29歳	2.7	7	45~49歳	10.2	11	65~69歳	9.1			
4	30~34歳	4.8	8	50~54歳	13.2	12	70~74歳	7.1	(無回答 1.8)		

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。) (n=1,698) (%)

1	小学校入学前	7.8	5	短大、専門学校等在学中	0.8	9	その他	2.4
2	小学校在学中	10.1	6	大学、大学院等在学中	7.5	10	子どもはいない	30.7
3	中学校在学中	6.7	7	学校教育終了 [未婚]	23.3			
4	高校在学中	7.9	8	学校教育終了 [既婚]	24.4	(無回答 2.4)		

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。 (n=1,698) (%)

1	一人暮らし (単身世帯)	14.6	4	祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.5
2	夫婦のみ (1世代世帯)	27.5	5	その他の世帯	4.8
3	親と子の世帯 (2世代世帯)	47.4			(無回答 2.1)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,698) (%)

(n=1,068) (%)

1 自営業主 5.4	→	ア 農林水産業 0.4
2 家族従業者 (家業手伝い) 1.0		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営) 4.9
ア～ウから 1つ選んで ください。		ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など) 4.4
3 勤め (フルタイム) 40.2	→	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上) 8.3
4 勤め (パートタイム) 16.2		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など) 18.8
5 内職 0.2	エ～ケから 1つ選んで ください。	カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など) 24.3
6 主婦・主夫(勤めていない) 14.5		キ 教育職(教諭、保育士など) 6.1
7 学生 0.8		ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など) 9.8
8 無職 16.0		ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員) 20.5
9 その他 1.8		(無回答 2.5)
(無回答 4.0)		

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、11月18日(火)までにご投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 かながわの文化芸術 | 8 循環器病対策 |
| 2 伝統的工芸品 | 9 依存症に対する意識 |
| 3 2027年国際園芸博覧会 | 10 かながわの人権 |
| 4 脱炭素・環境 | 11 配偶者等からの暴力 |
| 5 生物多様性 | 12 犯罪被害者等への支援 |
| 6 「未病改善」の取組み | 13 生活に不安や課題がある人への支援 |
| 7 かながわ救急相談センター
(#7119) | 14 インクルーシブ教育 |
| | 15 かながわの広報 |

下記にその内容をご記載ください。

223人(13.1%)から自由意見が寄せられました。

